2023年

# 独立行政法人国立病院機構
# 長崎医療センター

# 年　　報

## （診療業績集）

NATIONAL
NAGASAKI
MEDICAL CENTER

# 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
# シンボルマーク




高度専門医療を目指す独立行政法人国立病院機構長崎医療センターの
シンボルマークは、
**国際的な視野での医療拠点（ブルー）**
と
**離島など地域に足場を置く心暖かい医療（ピンク）**
という二つの翼で長崎の地(N)より飛び立つ水鳥をイメージする。
『高度医療』『臨床研究』『教育・研修』『国際医療協力』の四本柱より、
広く世界へ情報発信する図を表している。大いなる歴史と、
世界に目を向けた医療ネットワークの発信拠点である姿を
美しく、親しみやすく、そして雄大にデザインした。




第 19 回 国 病 久 原 会 総 会

# 長崎医療センター診療年報2023

# 巻頭言

長崎医療センター診療年報（診療業績集）2023年が完成しましたので、お届けいたします。2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられ、多くの方はコロナ禍前の日常生活を取り戻されました。しかしながら、病院においては、ご高齢の方や抵抗力の低下した方を中心に、新型コロナウイルス感染で入院加療を必要する方に対して、引き続き必要な医療を提供し続けています。

さて、4月から医師の働き方改革が本格始動します。長崎医療センターでも、医師の診療が時間内に終わらせることができるように、医師から他の職種への仕事の移行などのタスクシフトや、主治医制からチーム制に移行させるなど様々な工夫をおこなっています。

医師の長時間労働への対策のひとつとして、病状説明や治療方針の説明を夜間や休日でなく平日の時間内におこなうこと、これまで全て医師が対応してきた業務も医師の指示のもと高い専門知識を持った看護師が一部の医療行為をおこなうこと、そして複数主治医制の導入により特定の医師を希望されても対応できないことなど、一般市民の方々への理解と協力を求める動画が厚生労働省で作成され繰り返し放映されるようになりました。

このように医療の実際が変化しても、引き続き、患者さんに提供する医療の質と安全は確保しなければなりません。大切なことはチーム医療の展開であり、病院職員同士の連携とお互いが助け合うマインドが大切と考えています。幸いなことに、長崎医療センターでは、働き方改革導入前から、そのようなマインドを兼ね備えた職員が多く働いています。働き方改革の真の狙いは、ルールにより労働時間や労働環境をしばることではなく、今の時代に合った働き方へと変えてゆくことと理解しています。

最後に、八橋は、この3月末に院長職を辞して、長崎県病院企業団へ異動することになりました。企業団では長崎県の医療の在り方について、より広く、より深く、考えてゆきたいと思っています。そして長崎県の医療を論じる時に核となる病院は、これまでも、これからも「長崎医療センター」です。

今後とも長崎医療センターを宜しくお願いいたします。

2024年（令和6年）3月

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター

院長　八　橋　　弘

# 基本理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供を目指します

## 長崎医療センターの使命

**長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る**

1．安全で質の高い医療を提供する

2．救急医療の最後の砦となる

3．地域の医療機関、行政と密接に連携する

4．すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する

5．臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する

# 患者さんの権利

〇だれもが平等に安心して最善の医療を受ける権利があります

〇病気や検査および治療について十分な説明と情報を得る権利があります

〇治療法など自ら自由に選択できる権利があります

〇個人の尊厳が保て、診療における個人情報の秘密が守られ、プライバシーが保護される権利があります

〇病院内で起こった出来事で苦情を申し立てる権利があります

〇患者さん自身の診療録の開示を求める権利があります

以上のことをお約束するため、患者さんのご協力をお願い致します

# 患者さんへのお約束

〇全ての職員は、初めてお会いする時に自己紹介を致します

〇全ての職員は、注射を行う時、薬をお渡しする時、お名前や注射・薬などを声を出して確認いたします

〇患者さんには、検査や手術を行う前に、ご自分のお名前を声に出して言って頂きます
当院では、医療を安全に安心して受けて頂けるよう、患者さんへもご協力頂いております

# 医の倫理綱領

医学及び医療は、病める人の治療はもとより人びとの健康の維持もしくは増進を図るもので、医療人は責任の重大性を認識し、人類愛を基にすべての人に平等に奉仕するものである。

1．医療従事者は生涯学習の精神を保ち、つねに医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす

2．医療従事者はこの職業と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛ける

3．医療従事者は医療を受ける人びとの人格を尊重し、優しい心で接するとともに、医療内容についてよく説明し、信頼を得るように努める

4．医療従事者はお互いに尊厳し、他の医療関係者と協力して医療に尽くす

5．医療従事者は医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くすとともに、法規範の遵守及び法秩序の形成に努める

# 目　　次

## 病　院　概　要


病 院 沿 革 …… 1
学会の施設認定の状況 …… 10
病院功労賞　受賞チーム …… 11
学術奨励賞　表彰 …… 13


## 診 療 ・ 臨 床 統 計


腎 臓 内 科 …… 15
血 液 内 科 …… 20
内分泌・代謝内科 …… 29
リウマチ科 …… 32
総合診療科・総合内科 …… 36
精　神　科 …… 45
呼吸器内科 …… 47
消化管内科 …… 53
肝 臓 内 科 …… 57
循環器内科 …… 70
感染症内科 …… 77
小　児　科 …… 79
外　　科 …… 85
呼吸器外科 …… 99
整 形 外 科 …… 104
リハビリテーション科 …… 110
脳神経外科 …… 115
皮膚科・アレルギー科 …… 127
泌尿器科・腎臓外科 …… 130
産 婦 人 科 …… 135
眼　　科 …… 145
耳鼻咽喉科 …… 148
放 射 線 科 …… 155
麻　酔　科 …… 169
脳神経内科 …… 171
形 成 外 科 …… 174

心臓血管外科 …… 181
臨床研究センター …… 185
海外研修生リスト …… 211
看　護　部 …… 212
　診　療　病　棟 …… 241
　手術センター …… 255
　治療検査センター …… 256
　外　　来 …… 257
　医療相談支援センター …… 258
診療看護師（JNP） …… 259
薬　剤　部 …… 268
病理診断科 …… 283
臨床検査部臨床検査科 …… 292
栄養管理室 …… 306
緩和ケアチーム …… 313
褥瘡対策委員会 …… 318
ＮＳＴ（栄養サポートチーム） …… 323
臨床工学室 …… 328
医療安全管理室 …… 331
ＢＬＳ研修 …… 336
感染対策チーム …… 338
クリティカルパス …… 343
管理情報センター …… 345
診療情報管理室 …… 347
県央がんセンター …… 351
治験管理室 …… 355
教育センター …… 359
高度救命救急センター …… 371
長崎県ドクターヘリ …… 376
防災センター・ベッドセンター・車庫 …… 381
NHO共同研究、その他研究等（治験含む）【2022年度】 …… 385
COVID-19 …… 398
医療情報統計部門 …… 400
　医事統計 …… 400
　eXChart 疾病統計 …… 405
　腫瘍集計報告 …… 426

# 病院概要

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

# 病院沿革

## 昭和









❶ 昭和17年７月１日　佐世保海軍病院大村病舎として創設

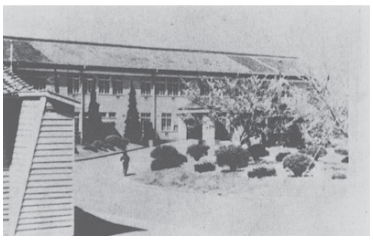
● 昭和17年10月１日　大村海軍病院として運営開始

❷ 昭和20年12月１日　厚生省へ移管され国立大村病院として発足




● 昭和22年10月１日　高等看護学院を付設

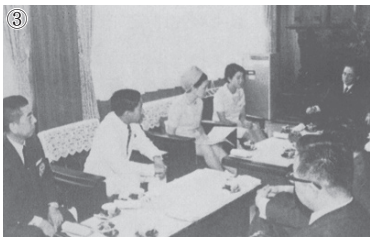
● 昭和25年７月１日　国立長崎病院を統合



● 昭和32年　小児医療センター未熟児室創設

● 昭和35年８月　循環器センター開設

● 昭和40年７月　がん診療施設開設




❸ 昭和45年　皇太子殿下、妃殿下御来院：小児センター入院中の病児ご慰問を兼ね、本院開催「長崎県離島医療医療事情に関するご懇談会」へご出席



● 昭和46年４月１日　医師の臨床研修病院へ指定、救急医療センター開設

● 昭和47年４月　血液透析センター開設

● 昭和48年４月　僻地親元病院、臨床検査センターの指定、精神医療センター開設、医学的リハビリテーションセンター施設

❹ 昭和50年４月２日　国立長崎中央病院と名称変更




❺ 昭和51年４月　難病肝疾患基幹施設設置

❻ 昭和53年３月15日　救命救急センター設置（国立病院で初めて）



● 昭和53年４月５日　臨床研究部設置

● 昭和55年４月　母子医療センター設置




❼ 昭和56年10月　WHO 肝炎協力センター指定

● 昭和56年11月30日　地方腎移植センター設置及び腎移植施設に指定（平成７年改編される）

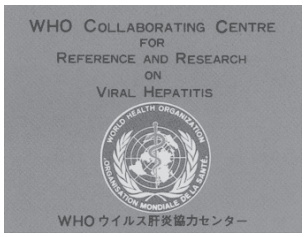
● 昭和58年10月１日　地域医療研修センター設置




● 昭和61年　高度総合診療施設（九州ブロックセンター）に認定

## 平成

⑦




● 平成２年５月　肝臓電子カルテ開発

● 平成２年10月　総合診療センター

● 平成６年３月　エイズ拠点病院

● 平成７年６月　指定 HLA 検査センター

● 平成７年８月　赤ちゃんにやさしい病院（ユニセフと WHO）に認定

● 平成７年12月６日　腎移植施設登録

● 平成８年12月　基幹災害医療センター

● 平成10年６月　臓器提供施設

● 平成10年９月　脳死臓器移植指定病院

⑧ 平成11年３月１日　日本初の脳死腎移植

● 平成11年３月19日　高度専門医療施設（準ナショナルセンター）（肝疾患）の指定

● 平成11年３月　基幹医療施設（成育）の指定

⑨ 平成13年４月１日　国立病院長崎医療センターと名称変更

● 平成14年３月　電算化オーダリング開始

● 平成14年10月　臨床研究センター開設

● 平成15年４月　地域医療支援病院

⑩ 平成16年４月１日　独立行政法人国立病院機構長崎医療センターと名称変更

● 平成16年４月　長崎大学大学院医歯薬総合研究科連携講座（肝臓病講座）開設

● 平成16年10月12日　南京大学医学院附属病院鼓楼医院との学術交流調印式

● 平成17年１月　がん疾患診療拠点病院に指定

⑪ 平成17年４月25日　日本医療機能評価機構認定

● 平成17年５月12日～17日　南京大学医学院附属鼓楼病院との第二回日中学術交流会開催

● 平成18年７月１日　DPC運用開始

⑫ 平成18年11月３日　南京大学医学院附属鼓楼病院との第三回日中学術交流会開催

● 平成18年11月６日　北華大學との学術交流調印式

⑬ 平成18年12月１日　ドクターヘリ運用開始

● 平成19年４月　教育センター開設

⑭ 平成19年４月　カザフ国立循環器病学・内科学科学研究センター（カザフスタン）との学術交流締結

● 平成19年７月　総合周産期母子医療センターに指定

● 平成19年８月　肝疾患診療連携拠点病院に指定

⑮ 平成19年９月29日　附属看護学校60周年記念式典

⑧



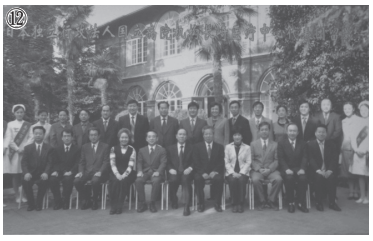
⑨


⑩



⑪


日本医療機能評価機構

⑫


⑬


⑭


⑮


● 平成20年２月28日　国立病院機構長崎医療センターホームページ
リニューアル

● 平成20年３月20日　日本輸血細胞治療学会Ｉ＆Ａ認定
（国立病院機構の病院としても、九州の病院としても第１号認定）


⑯

⑯ 平成20年４月１日　米倉正大院長、国立病院機構九州ブロック担当理事を拝命

● 平成20年４月１日　小児循環器学会修練施設認定


⑰

⑰ 平成20年７月１日　ロシア連邦卒後教育医学アカデミー学長らの表敬訪問

● 平成20年７月10日　医療相談支援センター開設
（地域医療連携室（前方支援）とMSW（後方支援）が合体）

● 平成21年３月20日　長崎県 DMAT 始動


⑱

⑱ 平成21年４月18日　長崎医療センター敷地内に活水女子大学看護学部開学

● 平成21年４月28日　長崎県ドクターヘリ出動1000件突破

● 平成21年６月12日～13日　第11回日本医療マネージメント学術総会を主催


⑲

⑲ 平成21年７月16日　皇太子殿下の長崎医療センターご訪問
第45回献血運動推進全国大会が佐世保で行われ、そのお帰りの際に長崎医療センターにお立ち寄りになられました

● 平成21年９月14日　新電子カルテシステムへの更新

● 平成21年10月14日　長崎・アルマティー（カザフスタン）心臓病診断・治療プロジェクト調印

● 平成21年11月９日　NPO 法人卒後臨床研修評価機構の『医師臨床研修に関する機能評価』を受審（平成22年１月１日認定）

● 平成22年２月24日～26日　病院機能評価（Ver.6）受審（同、５月７日認定）

● 平成22年４月１日　医療の質の公開（外来棟に診療科別診療業績を掲示）

● 平成22年９月２日　改正臓器移植法後の臓器提供（九州１例目）と腎臓移植

⑳ 平成22年11月26日～27日　第64回国立病院総合医学会開催



⑳

● 平成22年12月13日　脳死臓器提供

● 平成23年２月１日　長崎県ドクターヘリ出動2000件達成

㉑ 平成23年３月８日　長崎医療センター附属看護学校第62回生卒業式

㉒ 閉校記念碑除幕式




㉓ 平成23年３月11日　東日本大震災

㉔ 平成23年３月13日　長崎医療センター附属
看護学校閉校記念式典

● 平成23年４月１日　長崎医療センター附属看護学校閉校

● 平成23年11月12日　第18回日本航空医療学会開催

● 平成23年12月６日　南京大学医学院附属鼓楼医院との
第８回日中学術交流会開催
















● 平成24年１月29日　長崎県国民保護共同実働訓練～空港テロを想定～

● 平成24年４月１日　江﨑宏典院長新体制

● 平成24年４月９日　予約入院支援センター開設

● 平成24年６月３日　ドクターヘリ出動3000回を超える

● 平成24年９月22日　カザフスタン医科大学との
学術交流協定調印

㉕ 平成24年10月５日　臨床研究センター
10周年記念式典

㉖ 平成24年10月20日　第15回久原会総会開催

● 平成24年12月15日　南京大学医学院附属
鼓楼医院120周年記念式典







㉗ 平成25年２月16日　カザフスタン国立内科循環器病
～19日　研究所からの訪問団



㉘ 平成25年３月25日　長崎医療センター研修医同窓会
“あかしや医師の会”設立

㉘




㉙ 平成25年４月12日　長崎新聞掲載記事より
経済連携協定（EPA）に基づいた
看護師候補者への教育支援
看護師国家試験外国人候補者合格

㉙




● 平成25年７月６日　第１回長崎医療センター
がんフォーラム開催

● 平成25年10月14日　南京大学医学院付属鼓楼医院訪問団
～18日　第９回学術交流会開催

㉚



平成26年1月11日(土)
第1回「あかしや医師の会」総会

㉚ 平成26年１月11日　第１回あかしや医師の会総会開催

㉛ 平成26年１月27日　カザフスタン国立医科大学副学長来院

● 平成26年２月　南京大学付属鼓楼醫院からの研修生２名
の研修終了

㉛



㉜ 平成26年８月26日　ドクターヘリヘリポート駐機場等落成式

㉜




㉜



● 平成26年10月１日　県央がんセンター開設

㉝



第16回　国病久原会　平成26年10月18日

㉝ 平成26年10月18日　第16回久原会開催

● 平成26年10月30日　カザフスタン国立医科大学との共同
若手医師教育プログラム締結

㉞ 平成27年３月５日　病院機能評価（３rdG：Ver1.0）
～６日　受審（認定）

㉞







● 平成27年３月27日　人材育成センター落成式

㉟ 平成27年４月20日　カザフスタン共和国厚生社会開発省発令
カザフ国立医科大学金メダル受賞
（４人同時受賞は初）

㉟



● 平成27年６月17日　ドクターヘリ
安全運航5000回記念式典

● 平成27年７月11日　第３回がんフォーラム開催

㊱ 平成27年８月８日　広島被爆エノキ植樹式

● 平成27年11月14日　第10回健康フェスタ開催

㊲ 平成27年11月28日　あかしや医師の会　第２回総会開催

● 平成28年３月　国立病院機構JNP（Japanese Nurse practitioner：診療看護師）研修終了

● 平成28年４月　長崎県内初のDPCⅡ群病院としてスタート

● 平成28年４月14日　熊本地震への対応

㊳ 平成28年６月４日　第１回長崎医療センターしょうぶフォーラム開催

● 平成28年８月６日　第４回がんフォーラム開催

● 平成28年10月15日　第17回国病久原会開催

● 平成28年11月16日～17日　医科特定共同指導受審

● 平成28年11月26日　第11回健康フェスタ開催

㊴ 平成29年２月４日　第１回九州診療看護師（NP）研究会学術集会・総会を開催

● 平成29年３月１日より

EMTAC（Emergency Medical Team on Ambulance Car）；長崎医療センター救命救急センター医師が、同敷地内にある県央地区広域市町村圏組合消防本部大村署久原分署高規格救急車に同乗し現場へ出動するシステムが運用開始

● 平成30年３月10日　九州沖縄スライドコンファランスを主催

於、長崎医療センターあかしやホール

㊵ 平成30年４月　高度救命救急センター指定

㊶ 平成30年３月25日　第１回パープルデイながさき2018

於、長崎県庁エントランスホール

● 平成30年７月　長崎県ドクターヘリ新機種導入

● 平成30年11月３日　平成30年度全国医師会勤務医部会連絡協議会　於、長崎市

『ながさき宣言』

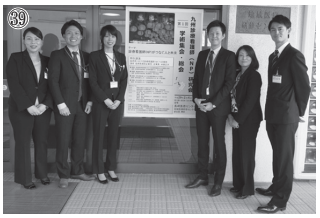
● 平成31年４月30日　平成天皇陛下生前退位


㊱


㊲



㊳


㊴


㊵


㊶

# 令和

- 令和元年５月１日　新天皇陛下御即位
- ㊷ 令和元年６月14日　学校法人九州文化学園長崎国際大学と『教育・研究における連携・協力協定』を締結




- ㊸ 令和元年６月22日　第４回長崎医療センターしょうぶフォーラム開催




- ㊹ 令和元年６月27日　活水女子大学と『看護連携ユニフィケーション事業基本協定』を締結




- ㊺ 令和元年10月26日　第６回がんフォーラム開催




- ㊻ 令和２年１月22日　日本医療機能評価機構による
  ～23日　病院機能評価の訪問審査を受審
  ５月８日　３rdG：Ver.2.0 認定（証）




- ㊼ 令和２年１月25日　長崎医療センター研修医同窓会『あかしや医師の会』第４回総会開催




- 令和２年２月26日　特定行為研修指定研修機関指定（証）；指定研修機関番号2042002
- 3月14日　壱岐市で新型コロナ発生（長崎県第１例目）診療支援に
- 令和２年７月８日　熊本豪雨災害へ
  ～10日　長崎医療センターDMAT派遣
- ㊽ 令和２年９月９日　離島医療連携ヘリ事業開始（RIMCAS：Remote Island Medical Co-operaition Air Service）




- 令和２年12月28日　ドクターヘリ１万回出動
- ㊾ 令和３年２月28日　新型コロナワクチン接種開始
- ㊿ 10月１日　第二種感染症指定医療機関に長崎県より指定






㊶ 令和４年３月　第７回がんフォーラム開催（WEB）

㊷ ４月　八橋弘院長就任

９月　西九州新幹線開業

㊸ 12月　救急外来隔離診療棟（Ｉ棟）開設

㊹ 令和５年３月13日　第１回サイバー攻撃時対応訓練

㊺ ５月13から14日　G7長崎保健大臣会合

11月11日　第19回国病久原会総会

㊻ 12月19日　ダビンチ手術第１例目

令和６年２月10日　第９回がんフォーラム


㊶


㊷


㊸


㊹



㊺


㊻

# 学会の施設認定状況

日本アフェレシス学会
日本インターベンショナルラジオロジー学会
日本プライマリケア連合学会
日本リウマチ学会
日本医学放射線科学会
日本肝臓学会
日本肝胆膵外科学会
日本眼科学会
日本救急医学会
日本急性血液浄化学会
日本形成外科学会
日本血液学会
日本外科学会
日本血管外科学会
日本航空医療学会
日本高血圧学会
日本胸部外科学会
日本呼吸器学会
日本呼吸器外科学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本呼吸療法医学会
日本産婦人科学会
日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）
日本周産期・新生児医学会（新生児）
日本小児科学会
日本小児循環器学会
日本消化器外科学会
日本消化器内視鏡学会
日本消化器病学会
日本食道学会
日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会
日本循環器学会
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本静脈経腸栄養学会
日本神経学会
日本心臓外科学会
日本腎臓学会
日本膵臓学会
日本整形外科学会
日本精神神経学会
日本大腸肛門学会
日本消化管学会
日本胆道学会
日本超音波医学会
日本手外科学会
日本てんかん学会
日本透析医学会
日本糖尿病学会
内科専門研修プログラム　基幹施設
総合診療専門医プログラム　基幹施設
新・家庭医療専門研修プログラム　基幹施設
日本内分泌学会
日本内分泌外科学会
日本乳癌学会
日本熱傷学会
日本脳神経外科学会
日本脳卒中学会
日本皮膚科学会
日本泌尿器科学会
日本病理学会
日本不整脈心電図学会
日本放射線腫瘍学会
日本麻酔科学会
日本輸血細胞治療学会
日本臨床細胞学会
日本臨床腫瘍学会
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構
日本がん治療認定医機構
認定輸血検査技師制度協議会
日本ステントグラフト実施基準管理委員会
日本医療機能評価機構
日本乳がん検診制度管理中央機構
日本輸血・細胞治療学会ＩＤ＆Ａ
日本臓器移植ネットワーク
臨床輸血看護師制度
JCOG参加施設認定証　乳がんグループ
JCOG参加施設認定証　リンパ腫グループ
日本専門医機構
日本心血管インターベンション治療学会
日本医療薬学会　がん専門薬剤師研修認定施設（基幹施設）
日本医療薬学会　地域ケア専門薬剤師研修認定施設（基幹施設）
日本臨床腫瘍薬学会　がん診療病院連携研修施設
日本病院薬剤師会　がん薬物療法認定薬剤師研修施設
日本医療薬学会　医療薬学専門薬剤師研修施設（基幹施設）
日本医療薬学会　薬物療法専門薬剤師研修施設（基幹施設）

# 病院功労賞　受賞チーム

**令和５年度**

| | グループ名 | 代表受賞者 | 受賞理由 |
|---|---|---|---|
| 1 | 医療安全管理部チーム | 井手　時枝<br>（医療安全管理者）<br>松内　みゆき<br>（専門職） | 医療安全管理部チームが、病院内で発生する医療安全案件の顕性化を防ぐことにより患者や職員に安心感を齎したこと、また患者家族対応にも親身に根気よく対応されたこと、に対して敬意をもって表彰する。 |
| 2 | めぐみの部屋チーム<br>（教育センター） | 斉藤　昌子<br>（副看護師長）<br>松本　温子<br>（看護師） | 多忙な医療現場で感染対策のためコミュニケーションの取り辛い職場環境なども相まって、悩みを抱えながら勤務している職員は多くなっている。関係の質を向上する目的で開設されためぐみの部屋は、部署内では飲み込んでしまう心情を吐露し、気持ちを軽くしてくれる個人相談の窓口として月１件以上の相談を受け、相談者の気持ちに寄り添った対応をこころがけることで職員のメンタルヘルス維持に貢献していただいていると感謝の意をもって表彰する。 |

**令和４年度**

| | グループ名 | 代表受賞者 | 受賞理由 |
|---|---|---|---|
| 1 | ひまわりロードプロジェクトチーム | 髙尾　珠江<br>（副看護部長） | コロナ禍において、新人職員スタッフへの心のケアが重視される中、看護部長室が中心となってひまわりロードプロジェクトを立ち上げるとともに、病棟や各部門においても師長や先輩看護師らが中心となって新人看護師の心のケアをおこなった結果、今年度新人看護師65名中、11月末までの離職者ゼロという実績を残されたことに対して敬意を持って表彰する。 |
| 2 | 入院基本料等加算取得検討チーム | 田中　圭<br>（医療相談支援係長）<br>尾﨑　真人<br>（診療情報管理係長）<br>濱脇　正好<br>（診療報酬管理運営部長） | ポストコロナを見据えた上での安定した病院経営を目指す上で、新入院患者数の確保とともに診療報酬上の加算をできるだけ積み上げるという病院の方針に沿って、コロナ禍での新入院患者の確保、転院の促進、在院日数の短縮に加えて、新たな加算取得に向けての施設基準整備とともに、連携加算や救急加算などの加算取得に向けて尽力された結果、入院単価８千点以上を維持することができ、医業収支100％以上の達成月を増やすことが可能となったことに対して、敬意を持って表彰する。 |
| 3 | 計画停電プロジェクトチーム | 寺下　真吾<br>（臨床工学士長）<br>岩﨑　吉洋<br>（企画課長） | 20年間実施しなかった計画停電を想定内のトラブルで最小限に抑えたことは奇跡的で、周到な準備を丁寧に行った結果で、今年度のMVPに相当します。 |

**令和３年度**

| | グループ名 | 代表受賞者 | 受賞理由 |
|---|---|---|---|
| 1 | ワクチンプロジェクトチーム | 小森　敦正<br>（難治性疾患研究部長） | 新型コロナウイルス感染流行期に、感染予防と重症化予防目的に、多数の病院職員に対して迅速かつ安全に新型コロナウイルスワクチン投与を遂行したワクチンプロジェクトチームの活動は、研修医も含む多職種連携活動の模範となるものであり、職員への安心、病院における感染対策としても、その貢献度は大なることから職員表彰に該当するものとして推薦する。 |
| 2 | 総合情報センター | 山﨑　一美<br>（情報管理室長） | 電子カルテ更新に際し、現状調査、各職場からの要望への対応、部門システムベンダーとの調整等通常業務を越える莫大な作業を計画的に行い、スムーズな更新を実現した。 |

**令和２年度**

| | グループ名 | 代表受賞者 | 受賞理由 |
|---|---|---|---|
| 1 | DMATチーム | 中道　親昭<br>（高度救命救急センター長） | 2020年４月－５月のコスタアトランチカ号新型コロナウイルス感染対策と2020年７月の熊本南部豪雨災害において活発なDMAT活動をおこない、感染拡大を制御するとともに人命救助に貢献し、内外に長崎医療センター DMATの存在を知らしめた貢献度は極めて高く、院内表彰に値する活動と思われ、今年の職員表彰者として推薦いたします。 |
| 2 | 臨床研究部・臨床検査科 | 染矢　賢俊<br>（検査技師長） | 小鶴技師は、新型コロナ感染拡大に伴う院内PCR検査体制の確立のため、検査科スタッフへのテクニカルトレーニング、環境指導などに尽力していただいた。<br>また、検査科スタッフはクラスター発生時の対応を可能とするためのトレーニングを重ね検査体制の確立に寄与した。 |

**令和元年度**

| | グループ名 | 代表受賞者 | 受賞理由 |
|---|---|---|---|
| 1 | 感染対策チーム | 三原　智<br>（感染制御室長） | １年間の院内感染の問題に対して、ICTチームが中心となり、病院全体での感染対策に尽力をつくした。 |

# 院内学術奨励賞　表彰

**令和 5 年度**

| | 受賞者 | タイトル |
|---|---|---|
| 1 | 津野﨑　絹代<br>（JNP） | Comparison of dwell time and complications between peripheral venous catheters and midline catheters in infants weighing ≥ 1500 g at birth.<br><br>Pediatrics International. 2023；65(1)：e15611. |
| 2 | 福岡　操<br>（産婦人科） | Achievement of Target Glycemic Goal with Simple Basal Insulin Regimen in Women with Gestational Diabetes：A Prospective Cohort Study.<br><br>Journal of Diabetes Research. 2023；2023：9574563. |
| 3 | 立花　玲華<br>（手術室看護師） | 全身麻酔下開腹肝胆膵手術におけるディスポーザブルリトラクター使用時の皮膚障害の予防<br><br>第 4 回SGHがん看護研究助成 |

**令和 4 年度**

| | 受賞者 | タイトル |
|---|---|---|
| 1 | 吉永　龍史<br>（リハビリテーション科理学療法士） | Factors related to self-care behaviors among hospitalized patients with heart failure in Japan, based on the European Heart Failure Self-Care Behaviour Scale.<br><br>Journal of Physical Therapy Science. 2022 Jun；34(6)：416-421. |
| 2 | 内田　大貴<br>（脳神経外科医師） | Asymmetric epileptic spasms after corpus callosotomy in children with West syndrome may be a good indicator for unilateral epileptic focus and subsequent resective surgery.<br><br>Epilepsia Open. 2022 Sep；7(3)：474-487. |
| 3 | 百枝　裕太郎<br>（看護部（3A病棟）） | 救急外来を独歩受診した急性期脳梗塞患者に対するトリアージナース導入の効果<br><br>脳卒中　J-STAGE 早期公開 2022.10.21. doi：10.3995/jstroke.11048 |

**令和 3 年度**

| | 受賞者 | タイトル |
|---|---|---|
| 1 | 山之内　孝彰<br>（現：長崎県島原病院外科） | Pretreatment Absolute Lymphocyte Count and Neutrophil-to-lymphocyte Ratio Are Prognostic Factors for Stage III Breast Cancer.<br><br>Anticancer research. 2021 Jul；41(7)：3625-3634. |
| 2 | 本田　涼子<br>（小児科医師） | Developmental outcome after corpus callosotomy for infants and young children with drug-resistant epilepsy.<br><br>Epilepsy and Behavior. 2021 Apr；117：107799. |
| 3 | 副島　航介<br>（研修医） | 側副血行路起始部（A1）と前交通動脈に未破裂脳動脈瘤を伴う無症候性aplastic or twig-like middle cerebral artery－動脈硬化性頭蓋内血管多発狭窄を合併した 1 例.<br><br>BRAIN and NERVE. 2021.4；73(4)：379-388 |

**令和２年度**

| | 受賞者 | タイトル |
|---|---|---|
| 1 | 本田　和也<br>（JNP） | 脳卒中診療における日本版nurse practitionerの役割と将来的展望.<br><br>脳卒中学会機関誌『脳卒中』. J-STAGE早期公開 2020.8.31. |
| 2 | 三好　康広<br>（産婦人科レジデント） | Determinants of excessive weight loss in breastfed full-term newborns at a baby-friendly hospital：a retrospective cohort study.<br><br>International breastfeeding journal. 2020 Mar 24；15(1)：19. |
| 3 | 戸次　鎮宗<br>（肝臓内科医師） | Serum kynurenine levels are a novel biomarker to predict the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma.<br><br>PLoS One. 2020 Oct 21；15(10)：e0241002. |
| 4 | 山下　洋<br>（産婦人科医長） | Fetal sex and maternal insulin resistance during mid-pregnancy：a retrospective cohort study.<br><br>BMC pregnancy and childbirth. 2020 Sep 24；20(1)：560. |
| 5 | 原　健太朗<br>（手術センター認定<br>看護師） | Prevention of Well-leg Compartment Syndrome Following Lengthy Operations in the Lithotomy Position.<br><br>Surgery Open Science 3 (2021)：16-21. |

**令和元年度**

| | 受賞者 | タイトル |
|---|---|---|
| 1 | 道辻　徹<br>（総合診療科<br>レジデント）<br>（現長崎大学病院<br>第一内科） | Swollen joints and peripheral arthritis are signs of malignancy in polymyalgia rheumatica.<br><br>Mod Rheumatol. 2018 Dec 18：1-4 |
| 2 | 安日　一郎<br>（産婦人科部長） | High-intensity breastfeeding improves insulin sensitivity during early post-partum period in obese women with gestational diabetes.<br><br>Diabetes Metab Res Rev. 2019 May；35(4)：e3127. |
| 3 | 日宇　健<br>（脳神経外科医長） | Efficacy of the Drip and Ship Method in 24-h Helicopter Transportation and Teleradiology for Isolated Islands.<br><br>Neurol Med Chir (Tokyo). 2019 Nov 21. doi：10.2176/nmc.oa.2019-0111. [Epub ahead of print] |

# 診療・臨床統計

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 腎臓内科

責任者　岡　哲

## 診療科の特色

腎臓内科で取り扱う疾患は、慢性腎臓病（CKD)、慢性腎炎症候群やネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急性腎不全などの腎疾患をはじめとして、二次性高血圧、電解質異常、透析患者の導入・管理、腎移植など様々な疾患にも対応しています。特にCKDは透析予備軍であり、原因疾患特定のために腎生検の検討や、腎機能障害進行抑制のための高血圧症や糖尿病、脂質異常症の管理などの集学的治療を行う必要があります。そのために地域の先生方との密接な病診連携を心がけるようにしています。腎機能障害が進行した場合には、患者背景も考慮しながら腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の選択を行い、スムーズな移行とその後の管理、合併症への対応など行っています。さらに泌尿器科と連携し、腎移植手術、内シャント造設や腹膜透析カテーテル留置など腎不全外科手術にも積極的に関与しており、腎移植後の内科的管理や移植腎生検も行っています。心疾患など他科で透析患者の併存疾患の治療が必要な場合は、入院中の透析治療の管理を担当します。また薬物療法のみでは治療が困難な難治性疾患（神経疾患や炎症性腸疾患、膠原病、血液疾患など）に対して、アフェレーシス治療（血漿交換や血漿吸着など）にも取り組んでいます。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 4,459人 | 12.2人 | 297人 | 338人 | 9 人 | 14.0日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 110件 | 85.7% | 582件 | 437.6% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 180人(53.9%) | 47人(14.1%) | 13人(3.9%) | 7 人(2.1%) | 3 人(0.9%) | 20人(6.0%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 17人(5.1%) | 17人(5.1%) | 1 人(0.3%) | | 1 人(0.3%) | 18人(5.4%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 人(0.6%) | 4 人(1.2%) | 1 人(0.3%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | 2 人(0.6%) | 1 人(0.3%) |

| 合計 |
|---|
| 334人 |

### 入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 末期腎不全 | N185 | 133 | 3 |
| 透析シャント機能低下・狭窄・閉塞 | T82 | 60 | 0 |
| IgA腎症 | N028 | 22 | 0 |
| 慢性糸球体腎炎 | N039 | 11 | 0 |
| COVID-19 | U071 | 11 | 1 |
| ネフローゼ症候群 | N049 | 8 | 0 |
| 誤嚥性肺炎 | J690 | 8 | 0 |
| 腎移植ドナー | Z524 | 6 | 0 |
| 細菌性肺炎 | J159 | 5 | 0 |
| 敗血症 | A419 | 4 | 3 |

### 主要検査件数

| 検査 | 症例数 |
|---|---|
| 固有腎生検 | 39 |
| 移植腎生検 | 35 |
| 内シャント経皮的血管拡張術・シャント造影 | 57 |

### 特殊検査ならびに治療成績

| 特殊治療法 | 合併症とその内容 | 症例数 | 延べ施行回数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|---|
| 1）血液透析・血液濾過（透析）・限外濾過（ECUM） | | 367 | 3799 | 13 |
| 2）腹膜透析 | | 14 | － | 1 |
| 3）血液透析と腹膜透析の併用 | | 3 | － | － |
| 4）顆粒球除去療法（GCAP） | | 7 | 77 | － |
| 5）単純血漿交換療法 | | 9 | 27 | － |
| 6）血漿吸着療法 | | 0 | 0 | － |
| 7）二重膜濾過血漿交換療法 | | 1 | 5 | － |
| 8）腹水濾過濃縮再循環静注法(CART) | | 7 | 23 | － |
| 9）LDLアフェレーシス | | 0 | 0 | － |

## 研修・教育

### カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 腎臓内科カンファランス | 1回/週 |
| 透析センター多職種合同カンファランス | 1回/週 |
| 泌尿器科・腎臓内科合同カンファランス | 1回/週 |
| 5階A病棟多職種合同カンファランス | 1回/週 |
| 院内腎病理カンファランス | 1回/週 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**治験等参加研究一覧**

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし））、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当院施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | サムスカ一般使用成績調査（SIADHにおける低ナトリウム血症） | 無 | 大塚製薬株式会社 | 岡　哲 | 5例 |
| 2 | ⑦製造販売後調査（文書同意あり） | バフセオ錠150mg/300mg特定使用成績調査（長期使用に関する調査） | 有 | 田辺三菱製薬株式会社 | 岡　哲 | 3例 |
| 3 | ⑦製造販売後調査（文書同意あり） | エナロイ 特定使用成績調査（長期） | 有 | 鳥居薬品株式会社 | 岡　哲 | 5例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 1 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 5 | 7 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際 | 国内 | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**論　文　発　表**

**B：和文**

**B-a2：和文症例報告**

1）嘔吐・下痢および全身紅斑を認めた認知機能低下非透析（急性腎障害）患者の１例.
山下由恵、岡哲、錦戸雅春、竹居セラ、木下博之、西野友哉.
臨牀透析 2023；39(3)：339-345. 2023.3.10.

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）COVID-19感染を契機に腹膜透析（PD）関連腹膜炎を発症した一例.
山下由恵、池見悠太、岡哲、牟田久美子、西野友哉.
一般演題 1 . 第49回長崎県人工透析研究会. 佐世保, 2023.2.19.

2）血液透析後の帰宅困難者への血圧低下予防への取り組み－BV-UFC機能の使用時と未使用時の比較検討－.
本多詩穂、田中みゆき、伊東ますみ、福本明美、岡哲、寺下真吾.
一般演題 4 . 第49回長崎県人工透析研究会. 佐世保, 2023.2.19.

3）Leifsonia aquaticaを原因菌とする腹膜透析（PD）関連腹膜炎の一例.
池見悠太、山下由恵、岡哲、牟田久美子、西野友哉.
PD ／腹膜炎 1 . 第68回日本透析医学会学術集会. 神戸, 2023.6.16.

4）血漿交換療法を含む集学的治療が奏効したCOVID-19ワクチン関連脳炎の 1 例.
堤春菜、岡哲、荒木慎平、山下由恵、忽那史也、牟田久美子、西野友哉.
血漿交換・吸着. 第53回日本腎臓学会西部学術大会. 岡山, 2023.10.8.

5）急性バルプロ酸中毒に対して血液透析及び血漿交換を施行した 1 例.
古賀万貴、山下由恵、荒木慎平、岡哲、牟田久美子、西野友哉.
優秀演題口演〔医師部門〕. 第55回九州人工透析研究会. 別府, 2023.11.26.

6）血液透析が奏効した急性ラコサミド中毒による致死的不整脈の 1 例.
松尾大輔、荒木慎平、山下由恵、岡哲、牟田久美子、西野友哉.
血液浄化 1 . 第55回九州人工透析研究会. 別府, 2023.11.26.

**C, G：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜講演＞**

1）当院における紹介患者の現状とSGLT2阻害薬の使用感.
岡哲.
県央地区 Renal/Heart Failure Conference ～腎臓内科が診る心不全診療について～ . 諫早, 2023.5.16.

2）合併症予防のためのCKDの病態管理 ～フォシーガ錠の使用経験を含めて～ .
岡哲.
心腎連関を地域で考える会. 大村, 2023.6.6.

3）腎移植を見据えたCKD-MBD管理.
岡哲.
カルシミメティクスの可能性を考える会 in 大村. 大村, 2023.6.13.

4）CKDトータルケアの重要性.
山下由恵.
大村CKD学術講演会. 大村. 2023.7.4.

5）大村市の新規透析患者の減少にむけて何ができるか ～ CKDの早期診断・早期治療の重要性～ .
岡哲.
大村CKD学術講演会. 大村, 2023.7.4.

6）CKD合併高血圧に対する治療戦略.
岡哲.
ARNI Web Seminar ～心腎における高血圧治療 up-to-date ～ . 大村, 2023.10.23.

7）見逃されがちな腎性貧血の治療意義 〜 CKD診療ガイドライン2023改訂のポイントを含めて〜 .
岡哲.
CRA症候群治療戦略セミナー 〜腎性貧血治療 Up to Date 〜 . 大村, 2023.10.24.

**G：その他**

**＜講演＞**

1）腎臓について知ろう！腎臓を守ろう！
岡哲.
世界腎臓デー 2023. 大村, 2023.3.18.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 血液内科

責任者　今泉 芳孝・吉田 真一郎

## 診療科の特色

血液内科では血液疾患全般の診療を行っています。白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍や再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病といった血液難病がその主なものです。適応となる症例には自家末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植（長崎大学病院に紹介）、キメラ抗原受容体T細胞療法（長崎大学病院、九州大学病院などに紹介）を実施しています。造血器悪性腫瘍の治療ではJALSG（日本成人白血病治療共同研究グループ）、JCOG（日本臨床腫瘍研究グループリンパ腫グループ）などの全国的多施設共同臨床研究に参加し、全国の施設と共同して標準治療の確立と治療成績の向上に努めています。国立病院機構ネットワーク共同研究血液グループでも、血液疾患の治療成績向上のため臨床研究を行っています。化学療法センター病棟（９A病棟）には10室の無菌室があり、厳重な無菌管理を必要とする移植療法や急性白血病に対する寛解導入、抗がん剤大量療法などを安全に実施可能です。また長崎県のHIV診療拠点病院としてHIV感染者の外来、入院診療、カウンセリングを感染症内科と協力して行っています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 10,378人 | 28.4人 | 525人 | 578人 | 25人 | 18.8日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 117件 | 76.6% | 330件 | 214.3% | 2 件 | 0.1% |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 208人(36.8%) | 145人(25.7%) | 21人(3.7%) | 4 人(0.7%) | 12人(2.1%) | 61人(10.8%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 35人(6.2%) | 47人(8.3%) | 4 人(0.7%) | 5 人(0.9%) | 1 人(0.2%) | 2 人(0.4%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 8 人(1.4%) | | 11人(1.9%) | 1 人(0.2%) |

| 合計 |
|---|
| 565人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計**

| 疾患名 | ICD-10コード | 患者数（うち新規入院） |
|---|---|---|
| 1）非ホジキンリンパ腫 | C82-C85 | 274（41） |
| 2）急性骨髄性白血病 | C92.0、C92.4、C92.5 | 60（9） |
| 3）成人T細胞白血病・リンパ腫 | C91.5 | 54（5） |
| 4）多発性骨髄腫 | C90 | 33（10） |
| 5）骨髄異形成症候群<br>（慢性骨髄単球性白血病を含む） | D46、C92.7 | 23（2） |
| 6）COVID-19 | U07 | 13（10） |
| 7）特発性血小板減少性紫斑病 | D69.3 | 12（6） |
| 8）急性リンパ性白血病 | C91 | 10（4） |
| 9）再生不良性貧血 | D60、D61 | 7（4） |
| 10）慢性骨髄性白血病 | C92.1 | 2（2） |

**特殊検査**

| 特殊検査法 | 延べ施行回数 |
|---|---|
| 骨髄穿刺 | 355 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 血液カンファレンス | 3 /週 |
| 移植症例TVカンファレンス | 必要時 |
| スメアカンファレンス | 1 /週 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**治験等参加研究一覧**

| No. | 項目<br>①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ①治験 | 一次治療のステロイドで十分な効果が得られなかったか治療後に再発したITP患者を対象としてエルトロンボパグに追加するianalumab（VAY736）をプラセボと比較して評価する第Ⅲ相、ランダム化、二重盲検試験 | 有 | ノバルティスファーマ(株) | 今泉芳孝 | 0例 |
| 2 | ②医師主導治験 | 成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立：薬事承認を目的とした第Ⅱ相医師主導治験 | 有 | 末廣陽子（NHO九州がんセンター） | 吉田真一郎 | 0例 |

| No. | 項目<br>①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | Tucidinostat（HBI-8000）の開発第Ⅱb相試験に参加した再発・難治末梢性T細胞リンパ腫患者における病型と治療効果との関連についての多施設共同後方視研究 | 有 | 伊豆津宏二（国立がん研究センター中央病院） | 吉田真一郎 | 1例 |
| 4 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者に対するポラツズマブベドチン＋R-CHP療法の有効性と安全性を検討する多機関共同前向き観察研究－W-JHS NHL03（POLASTAR）－ | 有 | Japan 西日本血液臨床研究グループ（W-JHS） | 吉田真一郎 | 2例 |
| 5 | ⑥公費臨床試験 | 高齢者急性骨髄性白血病（AML）の層別化により化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用いる第Ⅱ相臨床試験（JALSG GML219） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 4例 |
| 6 | ⑥公費臨床試験 | 初発BCR-ABL1陽性急性リンパ性白血病（Ph＋ALL）を対象としたダサチニブ、ポナチニブ併用化学療法および造血幹細胞移植の臨床第Ⅱ相試験（JALSG PhALL219） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 0例 |
| 7 | ⑥公費臨床試験 | 再発または難治性のFLT3遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病患者を対象とするMEC（ミトキサントロン/エトポシド/シタラビン）とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、前向き介入試験（JALSG-RR-FLT3-AML220） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 0例 |
| 8 | ⑥公費臨床試験 | t（8；21）およびinv（16）陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を 指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性に関する 臨床第Ⅱ相試験（JALSG-CBF-AML220） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 1例 |
| 9 | ⑥公費臨床試験 | 本邦の初発APLに対するTRA＋ATO 療法の多施設共同第Ⅱ相試験（JALSG APL220 Study） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 2例 |
| 10 | ⑥公費臨床試験 | 高齢者急性骨髄性白血病における遺伝子異常と予後の関連に関する研究（JALSG GML219-Molecular） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 4例 |
| 11 | ⑥公費臨床試験 | 小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-B19） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 0例 |
| 12 | ⑥公費臨床試験 | 小児・AYA・成人に発症したT前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-T19） | 有 | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 0例 |

| No. | 項目<br>①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | ⑥公費臨床試験 | 未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 ver1.0（JCOG1411） | 有 | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 3例 |
| 14 | ⑥公費臨床試験 | 高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ＋メルファラン＋プレドニゾロン＋ボルテゾミブ（D-MPB）導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ+ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1911） | 有 | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 3例 |
| 15 | ⑥公費臨床試験 | 多発性骨髄腫に対するダラツムマブ併用化学療法における効果予測因子および抵抗性機序に関する探索的研究（JCOG1911A1） | 有 | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 2例 |
| 16 | ⑥公費臨床試験 | 未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ＋ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG2008） | 有 | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 0例 |
| 17 | ⑥公費臨床試験 | 中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第Ⅲ相試験 | 有 | JCOGリンパ腫グループ | 今泉芳孝 | 0例 |
| 18 | ⑥公費臨床試験 | JCOGバイオバンクプロジェクト | 有 | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 7例 |
| 19 | ⑥公費臨床試験 | 再生不良性貧血におけるウサギATG+シクロスポリン＋エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討（W-JHS AA02） | 有 | 西日本血液臨床研究グループ（W-JHS） | 吉田真一郎 | 1例 |
| 20 | ⑥公費臨床試験 | 移植非適応初発多発性骨髄腫患者に対するレナリドミド－デキサメタゾン（Rd）療法に効果不十分の症例に対しボルテゾミブを追加するレスポンスガイドセラピーの有用性と安全性（W-JHS MM01） | 有 | 西日本血液臨床研究グループ（W-JHS） | 吉田真一郎 | 1例 |
| 21 | ⑥公費臨床試験 | 日本における初発ホジキンリンパ腫に対するA AVD療法の成績（W-JHS HL01） | 有 | 西日本血液臨床研究グループ（W-JHS） | 吉田真一郎 | 0例 |
| 22 | ⑥公費臨床試験 | アグレッシブATLの予後に影響する因子について検討する多施設共同前向き観察研究 | 有 | 福田隆浩（国立がん研究センター中央病院） | 吉田真一郎 | 9例 |
| 23 | ⑦製造販売後調査（文書同意あり） | エザルミア錠　一般使用成績調査 | 有 | 第一三共株式会社 | 吉田真一郎 | 9例 |

### NHOネットワーク共同研一覧

| No. | 区分（NHO/EBM） | 研究課題名（採択番号） | 研究代表者名 | 研究代表者施設名 | 研究責任者名 | 同意書の有無 | 当院実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | NHO | B細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャー RNA-seqを用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究（NHOH-RNAseq-BALL） | 安田貴彦 | 名古屋医療センター | 吉田真一郎 | 有 | 0例 |
| 2 | NHO | レジストリーデータを利用したAYA世代DLBCLの 臨床的・生物学的特性を明らかにする観察研究 (NHOH-DLBCL-AYA) | 鈴木康裕 | 名古屋医療センター | 吉田真一郎 | 無 | 5例 |

### 競争的研究費一覧

| No. | 項目（財源別）<br>①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金 | 研究課題名 | 研究者名 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 当院登録症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑨日本医療研究開発機構研究費 | 成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立：薬事承認を目的とした第Ⅱ相医師主導治験 | 今泉芳孝 | 革新的がん医療実用化研究事業 | 分担 | 継続 | 0例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（ 2 ） | 0（ 0 ） | 0（ 0 ） | 0（ 2 ） |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（ 3 ） | 6（ 5 ） | 2（ 0 ） | 6（ 0 ） |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 医師会関連 | 研究会 | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 1 | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | 6 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

# 研究業績

## 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Oral HDAC inhibitor tucidinostat in patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma: phase IIb results.
Rai S, Kim WS, Ando K, Choi I, Izutsu K, Tsukamoto N, Yokoyama M, Tsukasaki K, Kuroda J, Ando J, Hidaka M, Koh Y, Shibayama H, Uchida T, Yang DH, Ishitsuka K, Ishizawa K, Kim JS, Lee HG, Minami H, Eom HS, Kurosawa M, Lee JH, Lee JS, Lee WS, Nagai H, Shindo T, Yoon DH, Yoshida S, Gillings M, Onogi H, Tobinai K.
Haematologica 2023；108(3)：811-821.

2）RAISING revealed a heterogenous pattern of HTLV-1 clonality after HLA-haploidentical peripheral blood stem cell transplantation for ATL.
Itonaga H, Kato T, Sawayama Y, Katsuoka S, Furumoto T, Matsumoto N, Sasaki D, Yamada Y, Hashimoto M, Fujioka M, Sakamoto H, Hasegawa H, Imaizumi Y, Nagai K, Yanagihara K, Miyazaki Y.
Leuk Lymphoma 2023；online.

**B-c2：和文著書［分担］**

1）T細胞リンパ腫の臨床的予後予測指標.
加藤丈晴、吉田真一郎.
日本臨床 2023；81(3)：169-173.

2）T細胞リンパ腫に対するモノクローナル抗体薬・抗体薬剤複合体.
安東恒史、今泉芳孝.
日本臨床 2023；81(3)：449-454.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会, 国際会議**

**A-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）Comparison of Post-transplant Cytomegalovirus Reactivation in ATL Patients under Letermovir Prophylaxis and Pre-emptive Therapy Strategy
Furumoto T, Itonaga H, Yamada Y, Sakaki C, Fujioka M, Sakamoto H, Chiwata M, Toriyama E, Kamijo R, Nakashima J, Kato T, Horai M, Sato S, Sawayama Y, Taguchi J, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Miyazaki Y
Oral Presentation 8 ICBMT2023. 釜山, 2023.9.1.

2）Valemetostat for Relapsed or Refractory Peripheral T-Cell Lymphomas: Primary Results from a Phase 1 Trial.
Jacobsen E, Maruyama D, Porcu P, Tobinai K, Allen PB, Ishitsuka K, Tsukasaki K, Kusumoto S, Foss F, Yamauchi N, Morishima S, Imaizumi Y, Izutsu K, Feldman T, Kawamata T, Kakurai Y, Yamauchi H, Biserna N, Inoue S, Tsutsumi S, Horwitz SM.
Session: 624 65th ASH Annual Meeting and Exposition. San Diego, 2023.12.9.

**＜ポスター＞**

1）RUNX1 Expression is Regulated by Super-enhancer and is a Therapeutic Target in ATL.
Kobayashi Y, Ando K, Imaizumi Y, Kitanosono H, Sakamoto H, Taguchi M, Mishima H, Kinoshita A, Bakytbek S, Baba M, Kato T, Horai M, Itonaga H, Sato S, Yoshiura K, Miyazaki Y.
poster session The 13th JSH International Symposium 2023 in Tsukuba. 筑波, 2023.7.21.

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）Oral HDAC inhibitor tucidinostat in patients with relapsed or refractory PTCL:  Phase 2b study final results with long-term follow-up.
Tsukamoto N, Kim WS, Rai S, Ando K, Choi I, Izutsu K, Maruyama D, Tsukasaki K, Kuroda J, Ando J, Hidaka M, Koh Y, Kato H, Uchida T, Yang DH, Ishitsuka K, Ishizawa K, Kim JS, Lee HG, Minami H, Eom HS, Kurosawa M, Lee JH, Lee WS, Nagai H, Shindo T, Yoon DH, Yoshida S, Gillings M, Tobinai K.
第63回リンパ網内系学会学術集会. 大宮, 2023.6.23.

2）ATL発症診断と治療.
今泉芳孝.
シンポジウム 7 . 第70回日本臨床検査医学会学術集会. 長崎, 2023.11.18.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）DA-EPOCH-R療法の経過中に侵襲性肺アスペルギルス症を合併した悪性リンパ腫の剖検例.
桐野祐子、小林裕児、榊智佳、今泉芳孝、吉田真一郎、坂本光、井手口周平、佐藤俊輔、三浦史郎.
リンパ系(2)・感染症. 第13回日本血液学会九州地方会. 福岡, 2023.3.11.

2）高齢者成人T細胞白血病リンパ腫に対するモガムリズマブ併用CHOP-14療法：多施設共同第 2 相試験.
楠本茂、崔日承、吉満誠、下川元継、宇都宮與、末廣陽子、日高智徳、野坂生郷、佐々木秀法、頼晋也、田村志宜、大渡五月、高起良、日髙道弘、加藤丈晴、城達郎、森内幸美、緒方正男、大塚英一、鈴島仁、伊藤薫樹、吉田真一郎、伊藤旭、中村大輔、徳永雅仁、関根雅明、坂本祐真、稲垣宏、石田高司、石塚賢治.
一般口演 2 -am1-10. 第85回日本血液学会学術集会. 東京, 2023.10.14.

3）失神発作で発症したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫
宇佐俊哉、西村紗央里、榊智佳、小林裕児、今泉芳孝、吉田真一郎.
血液 2 . 第343回日本内科学会九州地方会. 長崎, 2023.11.26.

**＜ポスター＞**

1）ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬にて長期に寛解を維持している血管免疫芽球T細胞性リンパ腫.
小林裕児、今泉芳孝、桐野祐子、榊智佳、伊藤正博、大島孝一、吉田真一郎.
ポスター 6 . 第63回リンパ網内系学会学術集会. 大宮, 2023.6.24.

2）高齢者ATLに対する初回Mogamulizumab併用化学療法の後方視的検討.
橋本美紀、加藤丈晴、坂本光、蓬莱真喜子、糸永英弘、佐藤信也、馬場真紀、安東恒史、今泉芳孝、宮﨑泰司.
ポスター 7 . 第63回リンパ網内系学会学術集会. 大宮, 2023.6.24.

3）直接経口抗凝固薬開始後に発症し血栓症を合併した自己免疫性後天性凝固第V因子欠乏症.
榊智佳、今泉芳孝、桐野祐子、坂本光、小林裕児、家子正裕、橋口照人、朝倉英策、吉田真一郎.
ポスター 2 -am1-5. 第85回日本血液学会学術集会. 東京, 2023.10.14.

4）治療抵抗性ATLに対してレナリドミド投与後に長期寛解を維持している症例.
西村紗央里、今泉芳孝、牧山純也、加藤丈晴、榊智佳、小林裕児、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
ポスター 2 -am1-4. 第85回日本血液学会学術集会. 東京, 2023.10.14.

5）重篤な貧血を伴い発症した血管免疫芽球性T細胞リンパ腫.
小谷龍太郎、小林裕児、今泉芳孝、桐野祐子、榊智佳、佐藤俊輔、三浦史郎、吉田真一郎.
ポスター 2-pm2-4. 第85回日本血液学会学術集会. 東京, 2023.10.14.

6）モガムリズマブ併用化学療法後に長期寛解を維持しているCD30・CCR4陽性ATL.
西村紗央里、今泉芳孝、榊智佳、小林裕児、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
ポスター発表. 第 9 回日本HTLV-1学会学術集会. 京都, 2023.11.11.

7）レナリドミドによる腫瘍フレア反応と治療奏功を認めた再発成人T細胞白血病リンパ腫.
古本嵩文、加藤丈晴、坂本光、蓬莱真喜子、田口正剛、糸永英弘、佐藤信也、馬場真紀、安東恒史、今泉芳孝、宮﨑泰司.
ポスター発表. 第 9 回日本HTLV-1学会学術集会. 京都, 2023.11.11.

8）HTLV-1クロナリティのRAISING法による追跡調査.
松本成良、佐々木大介、山内俊輔、斎藤益満、加藤丈晴、今泉芳孝、長谷川寛雄、宮﨑泰司、柳原克紀.
ポスター発表. 第 9 回日本HTLV-1学会学術集会. 京都, 2023.11.11.

**B-c：研究会発表**

**＜口演＞**

1）子宮頚部に病変を認めた症例.
西村紗央里.
症例提示・ディスカッション. 第20回長崎臨床造血器腫瘍研究会. WEB, 2023.10.28.

2）Isa+d療法を導入したfrailな再発難治性多発性骨髄腫の一例.
小林裕児.
パネルディスカッション. 第 4 回サークリサ多発性骨髄腫カンファレンス in 長崎. WEB, 2023.11.8.

3）症例提示.
榊智佳.
Case Discussion ATL Conference in Nagasaki 2023. WEB, 2023.11.21.

**＜パネリスト＞**

1）小林裕児.
座談会. PTCL治療を考える会. WEB, 2023.9.6.

2）ポテリジオの有害事象とその対策について.
小林裕児.
パネルディスカッション. ATL診療を考える会 in 長崎. WEB, 2023.10.20.

3）吉田真一郎.
Case Discussion ATL Conference in Nagasaki 2023. WEB, 2023.11.21.

**C, F：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜シンポジウム＞**

1）長崎医療センターでのコロナ患者受入体制.
吉田真一郎.
シンポジウム. 令和 5 年度長崎県医師会勤務医部会総会. 長崎, 2023.9.2.

**＜講演＞**

1）ATLの治療戦略2023.
今泉芳孝.
Keynote Lecture ATL Conference in Nagasaki 2023. WEB, 2023.11.21.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

1）吉田真一郎.
一般講演. 長崎PCNSLセミナー . WEB, 2023.3.7.

2）今泉芳孝
講演Ⅱ. ATL Web Forum. WEB, 2023.3.10.

3）今泉芳孝
特別講演①. 第13回長崎IMiDs研究会. WEB, 2023.6.12.

4）今泉芳孝
ポスター 6 . 第63回リンパ網内系学会学術集会. 大宮, 2023.6.24.

5）小林裕児
講演Ⅰ. 第6回 Hematology Educational Seminar for young investigators. WEB, 2023.7.26.

6）今泉芳孝
パネルディスカッション. ATL診療を考える会 in 長崎. WEB, 2023.10.20.

7）吉田真一郎
講演 1 . Hematology Web Seminar 2023 in NAGASAKI. WEB, 2023.11.15.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 内分泌・代謝内科

責任者　安井 順一

## 診療科の特色

内分泌・代謝内科は、糖尿病を中心とした代謝性疾患と、下垂体・甲状腺・副腎疾患を中心とした内分泌疾患を主に診療している。糖尿病では種々の合併症を来たすため、その発症予防・進展阻止が重要である。入院が必要な患者には、治療・合併症検査・教育並びに支援（糖尿病認定看護師による療養指導や管理栄養士による栄養指導を含む）を行っている。2021年以降、新型コロナウイルス感染症診療による入院制限に伴い、クリニカルパスの運用を中止しているが、現在再開時期を検討している。その第一歩として、2023年10月より糖尿病教室を再開した。

また、産婦人科と定期的に合同カンファレンスを行い、妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠・甲状腺疾患を含む内分泌疾患を合併した妊婦（必要に応じて妊娠前から介入）の情報を共有し、妊娠前•妊娠中のリスク管理を行っている。妊娠糖尿病の既往があり、産後に糖尿病と診断された場合も早期に介入している。

内分泌疾患に関しては、二次性高血圧症の原因として頻度の高い原発性アルドステロン症に対し、３日間のクリニカルパスを使用し、円滑に検査を行えるようにしている。甲状腺腫瘍に関しては、適応があれば甲状腺穿刺吸引細胞診を行い、外科や耳鼻咽喉科と連携し、診療を行っている。

糖尿病性ケトアシドーシスや甲状腺クリーゼ・副腎クリーゼなど緊急入院が必要な疾患に関しては、救命科を中心に複数の診療科と連携し、診療を行っている。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 1,742人 | 4.8人 | 134人 | 142人 | 2 人 | 12.6日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 153件 | 74.0% | 301件 | 140.0% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 79人(53.4%) | 26人(17.6%) | 7 人(4.7%) | 4 人(2.7%) | | 4 人(2.7%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 人(5.4%) | 12人(8.1%) | 2 人(1.4%) | | 1 人(0.7%) | |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 人(0.7%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | 4 人(2.7%) | |

| 合計 |
|---|
| 148人 |

**入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 2型糖尿病 | E11 | 94 | 0 |
| 1型糖尿病 | E10 | 9 | 0 |
| 副腎不全 | E27 | 8 | 0 |
| その他の糖尿病 | E13 | 5 | 0 |
| 下垂体疾患 | E23 | 3 | 0 |
| 甲状腺眼症 | E05 | 3 | 0 |
| 代謝失調（糖尿病性ケトアシドーシスなど） | E14 | 3 | 0 |

**主要検査件数**

| 検査 | 症例数 |
|---|---|
| 甲状腺穿刺吸引細胞診 | 66 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 内分泌代謝内科カンファレンス | 毎週金曜日 |
| 産婦人科合同カンファレンス | 第4火曜日 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**様式1－1　治験等症例数一覧**

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）） | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑧ | 1型糖尿病におけるイプラグリフロジン補助療法による腎機能変化の検討（IPRA-CKD） | | 国立大学法人長崎大学 | 安井　順一 | 7例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 1 | 3 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 1 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 5 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）遷延した高ビリルビン（Bil）血症と亜急性の肝障害を呈し、肝生検を施行した甲状腺クリーゼの一例.
柿田実紀、鶴川晃二郎、中村公隆、添田李子、三浦史郎、伊藤正博、本吉康英、安井順一.
第23回日本内分泌学会九州地方会. 長崎市, 2023.9.2.

**B-c：研究会発表**

**＜口演発表＞**

1）治療自己中断による糖尿病性ケトアシドーシスを契機に認知機能低下が判明した１型糖尿病の一例.
中村公隆.
第87回大村糖尿病研究会. 大村市, 2023.1.26.

2）こんな働き方改革いかがでしょうか？.
明島淳也.
第89回大村地区糖尿病講演会. 大村市, 2023.7.28.

**＜パネルディスカッション＞**

1）安井順一.
GIP/GLP-1 Clinical Meeting. 長崎市, 2023.4.24.

2）明島淳也.
DiaMond Seminar in 長崎. 長崎市, 2023.9.14.

**D, F：学術講演他**

**D：学会・研究会開催**

1）安井順一.
第26回長崎県NST研究会. 長崎市, 2023.10.7.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜特別講演＞**

1）安井順一.
長崎県糖尿病治療を考える会. 大村市, 2023.3.9.

2）安井順一.
糖尿病治療セミナー in 県央. 大村市, 2023.7.13.

3）安井順一.
第26回長崎県NST研究会. 長崎市, 2023.10.7.

4）安井順一.
第90回大村地区糖尿病講演会. 大村市, 2023.10.27.

5）安井順一.
糖尿病と循環器疾患を考える会. 大村市, 2023.12.8.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# リウマチ科

責任者　岩永 希

## 診療科の特色

当科の担当疾患は、関節リウマチから全身性エリテマトーデスなどの膠原病、不明熱まで多岐にわたる。

関節リウマチに関しては、血液検査に関節エコーやMRIなどの画像検査を組み合わせ、早期診断、早期治療開始を行っている。メトトレキサートなどの標準的治療で効果不十分な症例に対しては生物学的製剤を積極的に導入している。重症例や合併症による入院診療例も多い。

また膠原病患者の多くは、初診時にはほとんど診断がついておらず、総合診療科を中心に他科から紹介となることが多い。入院症例は総合診療科と一緒に診療にあたっている。県内から紹介となる重症膠原病患者は増加傾向にある。多臓器障害を認めることも多く、複数科と協力して集学的治療を行っている。また関節リウマチ、SLEに対する生物学的製剤および低分子化合物を用いた分子標的療法に関してはグローバルスタディを含め臨床治験に参加している。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 2,460人 | 6.7人 | 68人 | 93人 | 1人 | 30.6日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 62件 | 68.8% | 238件 | 255.9% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 42人(47.7%) | 25人(28.4%) | 2人(2.3%) | 2人(2.3%) | | 7人(8.0%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2人(2.3%) | 5人(5.7%) | 1人(1.1%) | | | |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 1人(1.1%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | | 1人(1.1%) |

| 合計 |
|---|
| 88人 |

入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| RS3PE症候群 | M0600 | 6 | 0 |
| 成人スティル病 | M0610 | 4 | 0 |
| 関節リウマチ | M0690 | 11 | 0 |
| 多発性筋炎 | M332 | 5 | 0 |
| 皮膚筋炎 | M331 | 11 | 1 |
| IgG4関連疾患 | M359 | 3 | 0 |
| シェーグレン症候群 | M350 | 2 | 0 |
| リウマチ性多発筋痛症 | M353 | 3 | 0 |
| 顕微鏡的多発血管炎 | M317 | 3 | 0 |
| 大動脈炎症候群 | M314 | 2 | 0 |
| 巨細胞性動脈炎 | M316 | 3 | 0 |
| 全身性強皮症 | M340 | 6 | 0 |
| 細菌性肺炎 | J159 | 4 | 0 |
| COVID-19 | U071 | 3 | 0 |
| うっ血性心不全 | I500 | 2 | 0 |
| 全身性エリテマトーデス | M329 | 3 | 0 |
| 多発性乾癬性関節炎 | L405 | 2 | 0 |
| 非代償性肝硬変 | K746 | 2 | 0 |
| その他 | | 35 | 1 |

## 研修・教育

カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 膠原病カンファランス | 週１回 |

## 学会・論文など

1）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1（1） | 2（0） | 0 | 0 |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（1） | 1（1） | 5（4） | 2（0） |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

4）学会座長　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Clinical analysis of gender and pre-existing diabetes mellitus in patients with polymyalgia rheumatica：A retrospective study in a Japanese population.
Horai Y, Otsuka M, Kawahara C, Iwanaga N, Yamasaki Y, Watanobe T, Yasui J, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Mori H, Izumi Y, Kawakami A.
Modern Rheumatology33(1)：182-186. 2023 Jan 3.

**B：和文**

**B-a2：和文症例報告**

1）アダリムマブで加療中に水疱性類天疱瘡を発症した関節リウマチの一例.
塩塚高史、岩永希、赤城翠、冨野千愛、岡田覚丈、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
九州リウマチ43(1)：44-50. 2023 Mar 31.

2）COVID-19感染後に反回神経麻痺を呈したサルコイドーシスの一例.
日高悠介、岩永希、赤城翠、小野晋太郎、岡田覚丈、徳田昌紘、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
九州リウマチ43(2)：101-106. 2023 Sep 30.

### 学会・研究会・講演

**A：国際学会，国際会議**

**A-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）Introduction of Belimumab Within Five Years of the Onset of Systemic Lupus Erythematosus（SLE）Contributes to the Better Therapeutic Response；A Multi-center Retrospective Cohort Study.
Kanako Kojima, Ichinose K, Shimizu T, Umeda M, Suzuki T, Nakashima Y, Okada A, Horai Y, Fujikawa K, Aramaki T, Miyashita T, Furuyama M, Matsuoka N, Kawakami A.
米国リウマチ学会 2023. サンディエゴ, 2023.11.10-15

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）全身性エリテマトーデスの罹病期間におけるベリムマブの有効性の検討.
小島加奈子、一瀬邦弘、清水俊匡、梅田雅孝、鈴木貴久、中島好一、岡田覚丈、寶來吉朗、藤川敬太、荒牧俊幸、宮下賜一郎、古山雅子、松岡直樹、川上純.
S1-2-6. 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.11.

2）嚥下障害に対してIVIgが奏功した抗NXP-2抗体陽性皮膚筋炎の一例.
岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、赤城　翠、忽那史也、松本浩平、伏谷志保、川上純.
O5-3. 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.11.

3）COVID-19ワクチン接種後、COVID-19罹患後に発症した成人スティル病の 2 例.
赤城翠、岩永希、川原知瑛子、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
C7-5. 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.12.

4）COVID-19ワクチン感染後に急性増悪し反回神経麻痺を呈したサルコイドーシスの一例.
日高悠介、岩永希、赤城翠、小野晋太郎、岡田覚丈、徳田昌紘、三浦史郎、和泉泰衛、伊東正博、川上純.
O8-2. 第65 回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.12.

5）トシリズマブ効果不十分例に対するサリル マブ切り替え療法の有効性の検討〜トシリズマブ増量との比較も含めて〜.
岩本直樹、内田智久、鈴木貴久、岡田覚丈、古賀智裕、川尻真也、藤川敬太、荒牧俊幸、玉井慎美、折口智樹、溝上明成、植木幸孝、江口勝美、川上純.
W57. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 福岡, 2023.4.25.

6）ニボルマブ投与中に免疫関連有害事象（irAE）による大腸炎、腎障害、ぶどう膜炎を来し、インフリキシマブが著効した腎癌の 1 例.
野口大気、最勝寺佑介、梅木悠希、岩永　希、大仁田亨、中島悠史郎、三浦史郎、和泉泰衛.
アレルギー・膠原病 2 . 第341回内科学会九州地方会. 北九州, 2023.5.27.

7）全身性エリテマトーデスに対する生物学的製剤スイッチ剤としてのアニフロルマブの有効性の検討.
梅田雅孝、小島加奈子、西畑伸哉、道辻徹、清水俊匡、古賀智裕、岩本直樹、古山雅子、坪井雅彦、松岡直樹、岡田覚丈、荒牧俊幸、川上純.
S-2-1-3. 第66回九州リウマチ学会. 北九州, 2023.9.16.

8）膵頭部癌を合併した結節性多発動脈炎の一例.
馬場あかね、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、長岡進矢、伊東正博、川上純.
O5-4. 第66回九州リウマチ学会. 北九州, 2023.9.16.

9）リウマチ性多発筋痛症の罹患率・有病率.
古川宏、野木真一、岡笑美、樋口貴士、東孝典、杉山隆夫、平野史倫、岡本亨、藤森美鈴、寶來吉朗、岡田覚丈、井畑淳、片山雅夫、吉澤滋、松井利浩、右田清志、當間重人.
O21-3. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

10）リウマチ性多発筋痛症の疫学.
古川宏、野木真一、岡笑美、樋口貴士、東孝典、杉山隆夫、平野史倫、岡本亨、藤森美鈴、寶來吉朗、岡田覚丈、井畑淳、片山雅夫、吉澤滋、松井利浩、右田清志、當間重人.
第38回日本臨床リウマチ学会. 北九州, 2023.11.18.

**＜ポスター発表＞**

1）Trisomy8を伴う骨髄異形成症候群に腸管ベーチェット病類似消化管病変と肺胞蛋白症を合併した一例.
藤原ももか、岩永希、赤城翠、榊智佳、井手口周平、岡田覚丈、和泉泰衛、岡本辰哉、三浦史郎、伊東正博、川上純.
FRS-P4-2. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 福岡, 2023.4.26.

**B-c：研究会発表**

**＜口演発表＞**

1）体動困難で救急搬送された好酸球増多症の一例.
小谷龍太郎、岩永希、岡田覚丈.
リウマチ膠原病セミナー 2023. 長崎, 2023.7.22.

2）トシリズマブ投与中に口腔底膿瘍をきたした成人スティル病の 2 例.
岩永希、岡田覚丈.
西九州自己免疫疾患研究会. 長崎, 2023.2.18.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 総合診療科・総合内科

責任者　和泉 泰衛

## 診療科の特色

＜診療＞当科では、「フットワークが軽く何でも相談に乗り、常に全体に注意を払いながら、継続性を重視する診療を、現場のニーズに合わせて日常的に行なっている臨床医」をジェネラリストと定義しており、そのような臨床医として日々の診療を実践している。総合外来、時間外外来、救急外来、病棟において、その患者の背景、症状、疾患の種類に関わらず、幅広い診療を行うことを心がけ、実践している。

＜教育＞臨床教育における当科が果たす役割は大きい。医学生、初期研修医、専攻医、診療看護師、特定行為研修者に対する教育を行っている。医学生、初期研修医、診療看護師、特定行為研修者に対しては臨床の基本を教えている。専門医研修としてはジェネラリストになるための教育に力を入れている。当科は日本プライマリ・ケア連合学会が認定する家庭医療後期研修プログラム、新専門医制度での内科・総合診療科の専門研修を担当しており、地域の医療機関と協力して、各専門医を育成している。

＜研究＞初期・後期研修医、診療看護師の学会発表、論文作成に力を入れている。また、今後問題となってくる高齢者医療を中心にプライマリ・ケア、地域医療、医学教育領域のリサーチも行っている。AIを使った臨床研究やワクチン・抗生剤の新規治験などにも積極的に参加している。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 16,576人 | 45.4人 | 1,797人 | 1,017人 | 65人 | 11.8日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 792件 | 92.1% | 1,215件 | 90.7% | 8 件 | 12.3% |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 713人(68.2%) | 160人(15.3%) | 28人(2.7%) | 19人(1.8%) | 2 人(0.2%) | 30人(2.9%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16人(1.5%) | 22人(2.1%) | 18人(1.7%) | 3 人(0.3%) | | 13人(1.2%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 人(0.1%) | | 2 人(0.2%) | 2 人(0.2%) | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 2 人(0.2%) | 1 人(0.1%) | 5 人(0.5%) | 8 人(0.8%) |

| 合計 |
|---|
| 1,045人 |

**入院患者数・死亡数**

| 主な疾患名 | 患者数 | 死亡者数 |
|---|---|---|
| ***★特殊目的コード　ICD-10 U～***<br>（COVID-19・COVID-19の疑い） | 145 | 11 |
| ***★呼吸器系疾患 ICD-10 J～***<br>（肺炎・インフルエンザ・気管支喘息・膿胸・胸膜炎・肺気腫・扁桃炎・肺結核等） | 195 | 18 |
| ***★消化器系疾患 ICD-10 K～***<br>（虚血性腸炎・憩室炎・虫垂炎・イレウス・胆管炎・穿孔性腹膜炎・消化管潰瘍等） | 98 | 3 |
| ***★腎疾患 ICD-10 N～***<br>（急性腎盂腎炎・尿路感染症・前立腺炎・急性腎不全・水腎症など） | 76 | 1 |
| ***★ウイルス感染症および寄生虫症 ICD-10 A～B～***<br>（感染性腸炎・ウイルス感染・敗血症・菌血症・帯状疱疹等） | 76 | 5 |
| ***★損傷、中毒及びその他の外因の影響 ICD-10 T～***<br>（熱中症・薬物中毒・低体温・アナフィラキシーショック・CO中毒等） | 54 | |
| ***★筋骨格系および結合組織疾患 ICD-10 M～***<br>（関節リウマチ・リウマチ性多発筋痛・線維筋痛症・ベーチェット病・偽痛風・血管炎・化膿性関節炎等） | 49 | 4 |
| ***★循環器系疾患（循環器・脳血管疾患）ICD-10 I～***<br>（心不全・感染性心内膜炎・起立性低血圧・脳梗塞・不整脈・深部静脈血栓症等） | 74 | 9 |
| ***★神経系疾患 ICD-10 G～R～***<br>（失神・一過性意識障害・睡眠時無呼吸・薬物熱等） | 44 | 4 |
| ***★内分泌・代謝疾患 ICD-10 E～***<br>（電解質異常・脱水症・甲状腺機能異常・糖尿病・脱水症等） | 71 | 3 |
| ***★耳及び乳様突起の疾患 ICD-10 H～***<br>（良性発作性頭位めまい症・メニエール病・前庭神経炎等） | 33 | |
| ***★皮膚及び皮下組織の疾患 ICD-10 L～***<br>（蜂巣炎・薬疹・スティーブンス・ジョンソン症候群等） | 21 | |
| ***★血液・造血器・免疫機構の障害 ICD-10 D～***<br>（貧血・組織球性壊死性リンパ節炎・骨髄異形成症候群等） | 13 | 1 |
| ***★新生物（悪性）ICD-10 C～***<br>（悪性リンパ腫・転移性骨腫瘍・胃癌・直腸癌・肺癌・癌性腹膜炎等） | 29 | 4 |
| ***★整形外科疾患 ICD-10 S～***<br>（脊椎などの骨折・外傷等） | 18 | 1 |
| ***★精神及び行動の障害 ICD-10 F～***<br>（拒食症・過換気症候群・うつ病・解離性障害・慢性疲労症候群等） | 10 | |
| ***★その他*** | 11 | 1 |
| 総　　計 | 1017 | 65 |

## 研修・教育

初期研修医、後期研修医、医学部学生に対する教育を日常実践している。初期研修医には１年目２か月、２年目２か月の計４ヶ月のローテーションが義務付けられており常時数名の初期研修医が診療に参加している。医学部学生については毎年４－５名の高次臨床研修を担当し、教育を行っている。後期研修医に対しては新専門医制度に則った教育研修を行っている。

**カンファレンス**

| 名称 | 参加職種 | 参加人数（平均） | 実施回数 |
|---|---|---|---|
| 入院患者カンファランス | 医師 | 20名 | 3 /週 |
| 勉強会 | 医師 | 20名 | 1 /週 |
| レジデントアワー | 医師 | 15名 | 1 /週 |
| コアレクチャー | 医師 | 10名 | 1 /週 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**治験等参加研究一覧**

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし））、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ①治験 | 過去２年間に尿路感染症の既往がある60歳以上の成人を対象にExPEC9Vを接種したときの侵襲性腸管外病原性大腸菌感染症の予防における有効性，安全性及び免疫原性を評価するランダム化，二重盲検，プラセボ対照，多施設共同，第Ⅲ相試験 | 有 | ヤンセンファーマ株式会社 | 和泉泰衛 | 62例 |

**NHOネットワーク共同研究一覧**

| No. | 区分（NHO/EBM） | 研究課題名（採択番号） | 研究代表者名 | 研究代表者施設名 | 研究責任者名 | 同意書の有無 | 当院実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | NHO | グラム染色画像深層学習による薬剤耐性菌診断モデルの開発と検証R5-NHO（感染症)-03 | 森　英毅 | 長崎医療センター | 森　英毅 | 有 | 例 |
| 2 | NHO | 網羅的遺伝子診断技術を用いた感染性胃腸炎病原体解析R5-NHO（感染)-02 | 菅田　健 | 三重病院 | 森　英毅 | 有 | 例 |

**競争的研究費一覧**

| No. | ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金 | 研究課題名 | 研究者名 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 当院登録症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑩その他財団等からの研究費 | 舌表面画像の深層学習解析による急性虫垂炎の新規診断法の開発と検証 | 森　英毅 | キャノン財団 | 主任 | 継続 | 178例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 9（ 1 ） | 3（ 1 ） | 0（ 0 ） | 8（ 0 ） |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（ 0 ） | 17 | 7 | 12 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | セミナー | シンポジウム | 研修会 | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 1 | 1 | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 2 | 1 | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Importance of Considering Hospital-Level Variables in Multi-Institutional Studies.
Horinouchi N, Yamaguchi F, Mori H, Ishikane M, Yoshioka T.
Clin Infect Dis 2023；6(8)：1523-1524. 2023.Apr.13

2）Essential components of a definition for early antibiotic treatment failure: A scoping review.
Iwata H, Kaneko M, Aoki T, Endo K, Nagai Y, Kanto K, Yao M, Hamada S.
Plos One 2023；18(6)：e0283417. 2023.Jun 23

3）Epley manoeuvre's efficacy for benign paroxysmal positional vertigo (BPPV) in primary-care and subspecialty settings：a systematic review and meta-analysis.
Saishoji Y, Yamamoto N, Fujiwara T, Mori H, Taito S.
BMJ Prim Care 2023；24(1)：262. 2023.12

4）Causes of outward movement of umbilical venous catheters and the external validity of a study.
Fusagawa S, Saishoji Y, Watanabe J.
J Pediatr 2023；PMID：38128719 DOI：10.1016/j.jpeds.2023.113883. 2023.Dec.19.

5）Effect of Handing a Written Document to Share Concerns and Values with Physicians When Making Decisions about Starting Drug Treatment among Patients：A Pre-post Quasi-Experimental Study with Propensity Score Matching.
Bito S, Iioka T, Yamada Y, Hiraoka E, Miyagami T, Nago N, Mori T, Sato M, Okada T, Hayashi T, Asai A.
Journal of Biotechnology and Biomedicine 2023；ISSN：2642-9128. 2023. June. 05

**A-a2：英文症例報告**

1）Clinical analysis of gender and pre-existing diabetes mellitus in patients with polymyalgia rheumatica: A retrospective study in a Japanese population.
Horai Y, Otsuka M, Kawahara C, Iwanaga N, Yamasaki Y, Watanobe T, Yasui J, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Mori H, Izumi Y, Kawakami A.
Mod Rheumatol 2023；33(1)：182-186. 2023.Jan 3.

2）Cerebellar Ataxia Caused by Central Nervous System Tuberculosis Wih Pulmonary Tuberculosisi: A Case Report.
Saishoji Y, Mori H, Izumi Y.
Cureus 2023；15(1) e33493. doi：10.7759/cureus.33493. 2023.1.17.

3）Sternoclavicular Septic Arthritis Caused by Parvimounas micra and Fusobacterium nucleatum Infection with Intla-articular Corticosteroid Administration.
aishoji Y, Mori K, Izumi Y.
Inter Med 2023；doi：10.2169/internalmedicine. 1563-23. 2023.3.17.

4）Diffuse Aspiration Bronchiolitis With Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder.
Mine K, Mori H.
Cureus 2023；5(5)：e38429. DOI 10.7759/cureus.38429. 2023.5.2.

5）Clinical effects of tranexamic acid on bleeding tendency due to fibrinolytic activation of AL amyloidosis.
Matsumoto G, Mori H, Mori T, Sakaki C.
BMJ Case Rep 2023；16(9)：e254483. 2023.9.26.

**B：和文**

**B-a2：和文症例報告**

1）非外傷性腹直筋血腫を続発した、重症日本紅斑熱の１例.
増田真吾、中谷優、大塚悠介、森英毅、五所大和、安田淳、山川大介、山口翔太.
感染症学雑誌 2023；97巻1号：p26-31. 2023.1.

2）アダリムマブで加療中に水疱性類天疱瘡を発症した関節リウマチの一例.
塩塚高史、岩永希、赤城翠、冨野千愛、岡田覚丈、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
九州リウマチ 2023；43巻1号：44-50. 2023.3

3）COVID-19感染後に反回神経麻痺を呈したサルコイドーシスの一例.
日高悠介、岩永希、赤城翠、小野晋太郎、岡田覚丈、徳田昌紘、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上 純.
九州リウマチ 2023；43(2)：101-106. 2023.9

**B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）**

1）あなたにとってのACPとは？.
和泉泰衛.
FMおおむら 2023. 2023.8.17.

2）人生100年時代の予防医療　第１回：わたしには関係ない？.
森隆浩.
SENSAI 2023；Vol414. p3. 2023.Jun.

3）人生100年時代の予防医療　第２回：検診での腫瘍マーカー測定について考えてみます。.
和泉泰衛.
SENSAI 2023；Vol415. p4. 2023.Jul.

4）人生100年時代の予防医療　第3回：血圧測定していますか？.
永井友基.
SENSAI 2023；Vol416. p6. 2023.Aug/Sep.

5）人生100年時代の予防医療　第4回：日本脳炎ワクチンについて考える.
鳥巣裕一.
SENSAI 2023；Vol417. p6. 2023.Oct.

6）人生100年時代の予防医療　第5回：帯状疱疹予防の選択肢：シングリックスのご紹介.
森英毅.
SENSAI 2023;Vol418.p9. 2023.Nov.

7）人生100年時代の予防医療　第6回：高尿酸血症侮れない尿酸！.
最勝寺祐介.
SENSAI 2023；Vol419. p9. 2023.Dec.

8）症例から学ぶ栄養素欠乏.
松本学、森隆浩.
南山堂　治療 2023. 2023.11.

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等**

**＜ワークショップ＞**

1）ポートフォリオ（詳細事例報告書）作成に関するいろは.
鳥巣裕一、渡口侑樹、梶田一旭、横山大輔、渡部なつき.
日本プライマリケア連合学会 第17回九州支部総会・学術大会. 熊本市, 2023.2.11.

2）プライマリ・ケアとチーム ～事例を通してチームビルディングを学ぶ～ .
鳥巣裕一、﨑山隼人、酒井達也、田浦尚宏、遠山由貴.
日本プライマリケア連合学会 第17回九州支部総会・学術大会. 熊本市, 2023.2.11.

**＜口演発表＞**

1）NHO　5類移行後の感染対策アンケート結果報告.
和泉泰衛.
独立行政法人国立病院機構　新型コロナウイルス感染症に関するシンポジウム～5類移行後の新型コロナウイルス感染症の現状と対策～ . Web, 2023.9.11.

2）Organophosphorus Poisoning: A Case Series Study on Long-Term Management and Prognosis.
日高悠介、森英毅、和泉泰衛.
シンポジウム 9 . 若手医師フォーラム. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.20.

3）目指せ！急性期医療とコロナ診療の両立～改めて感じた連携の大切さ～ .
和泉泰衛.
シンポジウム15/「保健所とプライマリ・ケアとの協働」とは？ . 第82回日本公衆衛生学会. つくば市, 2023.10.31.

**＜シンポジウム＞**

1）根拠に基づく予防医療と健康増進.
森英毅、香田将英、日下伸明、北村和也、向原圭、宮崎景.
第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 名古屋市, 2023.5.

**B-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）アダリムマブで加療中に水疱性類天疱瘡を発症した関節リウマチの一例.
塩塚高史、岩永希、赤城翠、冨野千愛、岡田覚丈、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
第65回九州リウマチ. 福岡市, 2023.3.11.

2）Trisomy8を伴う骨髄異形成症候群に腸管ベーチェット病類似消化管病変と肺胞蛋白症を合併した一例.
藤原もも佳、岩永希、赤城翠、榊智佳、井手口周平、岡田覚丈、和泉泰衛、岡本辰哉、三浦史郎、伊藤正博、川上純.
第65回九州リウマチ. 福岡市, 2023.3.11.

3）急性虫垂炎における舌診の診断性能（観察研究）.
森英毅、山崎一美、最勝寺佑介、鳥巣裕一、森隆浩、永井友基、和泉泰衛.
第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 名古屋市, 2023.5.

4）全国市町村における自宅死亡割合と在宅診療の関連性.
最勝寺佑介、馬場園明.
第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 名古屋市, 2023.5.

5）ニボルマブ投与中に免疫関連有害事象（irAE）による大腸、腎障害、ぶどう膜炎を来しインフリキシマブが著効した腎癌の１例.
野口大気、最勝寺佑介、梅木悠希、和泉泰衛、岩永希、大仁田享、中島悠史郎、三浦史郎.
アレルギー・膠原病２. 第341回内科学会九州地方会. 北九州市, 2023.5.27.

6）膵頭部癌を合併した結節性多発動脈炎の一例.
馬場あかね、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、長岡進矢、伊東正博、川上純.
第66回九州リウマチ学会. 福岡市. 2023.9.16.

7）急性感音難聴を初発症状とした多発性骨髄腫の一例.
樋口悠真、最勝寺佑介、西浦壮志、橋本康史、森彩加、榊智佳、和泉泰衛、田中藤信、吉田真一郎.
口演63/総合内科・総合診療. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

8）Visionを探せ！長崎医療センター 特定行為研修フォローアップ研修の報告.
斉藤昌子、高松三穂子、和泉泰衛、永井友基.
口演69/人材育成4-4. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

9）RRS導入に関するNHO140病院のアンケート結果.
五十畑知、和泉泰衛.
シンポジウム40/NHO病院におけるRapid Response System. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

**＜ポスター発表＞**

1）診療看護師実地研修－総合診療科研修を行う意義－.
江口貴彦、伊藤健大、森英毅.
日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第10学術集会・講演会. 長崎市, 2023.3.25.

2）急性発症の胸骨痛に対して乳癌術後約16年の胸骨転移・再発と診断した症例.
野口栞、森英毅、最勝寺佑介、鳥巣裕一、森隆浩、永井友基、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人、和泉泰衛.
日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第10学術集会・講演会. 長崎市, 2023.3.25.

3）当院における有機リン中毒患者の実態調査.
日高悠介、森英毅.
日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第10学術集会・講演会. 長崎市. 2023.3.25.

4）ホエイプロテインによる食物依存性運動誘発性アナフィラキシーを来した１例.
鋸崎翔平、森隆浩、吉原聖智、最勝寺佑介、和泉泰衛.
日本内科学会 ことはじめ. 第120回内科学会総会. 東京都. 2023.4.15.

5）専攻医に優しい九州へ「KOPe：九州地区での定例オンラインポートフォリオ勉強会」の活動報告（第７報）.

鳥巣裕一、金弘子、桑原宏輔、横山大輔、崎山隼人、渡口侑樹、中桶了太、のき田一旭、本村和久、松本朋樹、山入端浩之、渡部なつき.
第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 名古屋市, 2023.5.

6）国立病院機構主催の特定行為指導者講習会～ Web講習会での受講者交流のための工夫～
和泉泰衛、澤田真樹.
医療者教育. 第55回日本医学教育学会. 長崎市, 2023.7.28.

7）偶発性低体温症による蘇生後の人工呼吸器管理・リハビリにおいて、特定行為看護師による治療連携により良好な転帰を得た一例.
田中恵理、玉屋さつき、日高悠介、森隆浩、和泉泰衛、山下由起子.
人材育成4-8. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.20.

8）初期研修医のEBM実践自信度向上プロジェクト.
森隆浩、最勝寺佑介、鳥巣裕一、永井友基、森英毅、和泉泰衛.
人材育成1-8. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.20.

9）感染対策向上加算 1 にかかる机上訓練シナリオの作成報告.
萬木綾乃、荒井善夫、本田耕平、和泉泰衛、長谷川好規、高橋毅、長崎洋司、谷口清州、小野宏.
感染管理7-7. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

10）診療看護師（NP）が患者・家族の意思決定支援に関わることで良好な経過を辿った一例.
溝上佳史、鳥巣裕一、中原未智、伊藤健大、森英毅、和泉泰衛.
チーム医療. 第 9 回日本NP学会学術集会. 札幌市, 2023.10.21.

**B-c：研究会発表**

**＜口演発表＞**

1）陰性感情をメタ認知することで診療を継続することができた 1 例.
吉岡瑞姫.
Cグループ. 第 8 回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎市, 2023.3.25.

2）思春期における医師の役割は？.
大野渚.
Aグループ. 第 8 回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎市, 2023.3.25.

3）全身転移を伴う乳房外パジェット病でお看取りとなった57歳男性と医療者自身のケア.
草野晋平.
Aグループ. 第 8 回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎市, 2023.3.25.

4）急性発症の胸骨痛に対して乳癌術後約 16 年の胸骨転移・再発と診断した症例
野口栞.
Bグループ. 第 8 回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎市, 2023.3.25.

5）当院における有機リン中毒患者の実態調査
日高悠希.
Bグループ. 第 8 回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎市, 2023.3.25.

6）大腿切断術後患者の義足リハビリテーションでICFを活用し目標を達成した症例.
阿部千鶴.
Dグループ. 第 8 回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎市, 2023.3.25.

7）家庭医の家庭医療.
大野渚.
第 9 回長崎県ポートフォリオ研修会. 大村市, 2023.9.16.

8）多発足趾壊死に伴う体動困難、仙骨部褥瘡患者にケア移行を用いて退院支援をした一例.
鋸崎翔太.
第 9 回長崎県ポートフォリオ研修会. 大村市, 2023.9.16.

9）ハイリスク慢性疾患患者のケア.
梅木悠希.
第 9 回長崎県ポートフォリオ研修会. 大村市, 2023.9.16.

10）多職種カンファランスを通じてケアの質を改善し自宅退院につなげた一例.
樋口悠真.
第 9 回長崎県ポートフォリオ研修会. 大村市, 2023.9.16.

11）オピオイド流量の投与ミスへの再発予防策を検討した事例.
安田淳.
第 9 回長崎県ポートフォリオ研修会. 大村市, 2023.9.16.

12）原因不明の筋疾患で人工呼吸器管理となった高齢患者のケアを多職種で実践した一例.
野口栞.
第 9 回長崎県ポートフォリオ研修会. 大村市, 2023.9.16.

**F , G：学術講演他**

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜ポスター発表＞**

1）和泉泰衛.
演題⑦〜⑫. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第10学術集会・講演会. 長崎市, 2023.3.25.

2）和泉泰衛.
医療者教育. 第55回日本医学教育学会. 長崎市, 2023.7.28.

**＜口演発表＞**

1）和泉泰衛.
口演63 総合内科・総合診療. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

**G：その他**

**＜口演発表＞**

1）＜最近のコロナ入院患者の対応と診療について＞.
和泉泰衛.
大村地域研修会「 5 類は目前、どうするコロナ〜地域医療を考えよう〜」. 大村市研修会. 大村市, 2023.3.22.

2） 3 年間のコロナ診療を振り返る.
和泉泰衛.
大村市ケアセミナー . 大村市, 2023.5.18.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 精神科

責任者　蓬莱 彰士

## 診療科の特色

### 1－1. 診療科の紹介

＜外来部門＞ 2 階外来月曜日から金曜日まで初めての方は受付時間 8 ：30から10：30まで。初診・再診とも原則として前日までの予約制

＜病棟部門＞ 9 B病棟（精神・リエゾンセンター）病床数33内訳は隔離室 2 床、重症個室 1 床、有料個室 2 床、一般精神科病床28床

### 1－2. 診療内容

精神障害全般の診断・治療を行っています。

### 1－3. 診療スタッフの紹介（医長）、専門医・指導医

| | 氏名 | 資格 | 所属学会 | 専門分野 |
|---|---|---|---|---|
| 医　長 | 蓬莱　彰士 | 精神保健指定医<br>日本精神神経学会<br>指導医・専門医 | 日本精神神経学会日本総合病院精神医学会日本サイコオンコロジー学会 | コンサルテーション・リエゾン精神医学サイコオンコロジー |
| 医　師 | 倉田　青弥 | 精神保健指定医<br>日本精神神経学会<br>専門医 | 日本精神神経学会 | 精神科全般の診断と治療 |
| 医　師 | 志方　有莉 | 日本精神神経学会<br>専門医 | 日本精神神経学会 | 精神科全般の診断と治療 |
| 心理士 | 越本　莉香 | 臨床心理士 | | 心理検査 |

### 1－4. 特色、特殊治療、先端医療の紹介

◆リエゾン（合併症治療）センターでは他の身体科との連携により、精神障害者の身体疾患および身体疾患に伴う精神障害の診断・治療（メディカル精神医学：MedicalPsychiatry）を実施しています。また身体各科の一般病棟に入院中の患者に生じた、精神科的問題に対して積極的に診察・治療（コンサルテーション・リエゾン精神医学：Consultation-LiaisonPsychiatry）を行います。

◆統合失調症、気分障害（うつ病）、不安（パニック）障害、器質性精神障害に対する新しい薬物療法を実施。

◆修正型無痙攣性通電治療（m-ECT）導入し、重症うつ病や統合失調症への治療導入を行っています。

◆他院から当院への精神科身体合併症の入院依頼は以下の流れになります。

①当科への入院適応は精神疾患に合併した急性期の身体疾患の治療に入院の必要性がある場合です（身体疾患の症状が軽度もしくは慢性期で、精神症状の治療が主な目的である場合は入院適応とはなりません）。

②入院治療の依頼はまず当該身体科医師にご相談ください。当該身体科医師により入院治療が妥当な身体症状か判断いたします。m-ECT導入目的の転入院の相談については精神科担当医に連絡してください。

③当該身体科医師への相談の後は、その日の精神科新患担当医にご連絡ください。精神症状に関する情報を伝えていただき、精神科病床への入院が妥当かベッドの空床状況などを踏まえてご相談いたします。

④当院での身体治療が終了した時点で紹介元の医療機関への転院となります。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 5,179人 | 14.2人 | 119人 | 234人 | 2 人 | 29.3日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 98件 | 80.3% | 218件 | 171.7% | 1 件 | 0.5% |

### 診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 62人(27.4%) | 77人(34.1%) | 2 人(0.9%) | 7 人(3.1%) | 4 人(1.8%) | 15人(6.6%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 12人(5.3%) | 4 人(1.8%) | 8 人(3.5%) | 2 人(0.9%) | 3 人(1.3%) | 10人(4.4%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 人(2.2%) | 1 人(0.4%) | 1 人(0.4%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 1 人(0.4%) | 2 人(0.9%) | 8 人(3.5%) | 2 人(0.9%) |

| 合計 |
|---|
| 226人 |

### 特殊検査ならびに治療成績

| 特殊治療法 | 合併症とその内容 | 症例数 | 延べ施行回数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|---|
| 1）m-ECT | | 0 | 0 | 0 |

## 研修・教育

### カンファレンス

| 名称 | 参加職種 | 参加人数（平均） | 実施回数 |
|---|---|---|---|
| 病棟カンファレンス | 医師・看護師 | 10名 | 1 /日 |
| 新患カンファレンス | 医師 | 3名 | 1 /週 |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 呼吸器内科

責任者　近藤 晃

## 診療科の特色

呼吸器内科ではスタッフ医師５名、修練医１名で呼吸器疾患全般の診療を行っています。呼吸器疾患の退院患者総数は年間860名で、主な疾患の内訳は肺癌432名、肺炎108名、間質性肺炎92名です。

呼吸器疾患の中で患者数が多く高い専門性が要求される肺癌に力を入れており、長崎県央地区を中心に多くの肺癌患者さんが受診され治療を受けています。従来からの抗癌剤や分子標的治療薬の他、免疫チェックポイント阻害薬による治療も多く行っています。肺癌の治療方針は呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科が参加する呼吸器合同カンファレンスで検討し治療成績の向上を目指しています。

また、呼吸器内科では肺炎等の呼吸器感染症患者の診療も多く行っています。救命救急科や総合診療科と協力し、迅速に診断し適切な治療を提供できるよう取り組んでいます。その他、間質性肺炎、気管支喘息、COPDなどの呼吸器疾患の診療も行っています。

呼吸器内科で行っている検査としては画像診断や呼吸機能検査の他、呼吸器内視鏡検査があります。従来の気管支内視鏡検査の他、ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法（EBUS-GS）や超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）、極細径気管支内視鏡を用いて診断率の向上に取り組んでいます。また、気管支鏡下レーザー治療や気管支充填術、気道異物除去術等の内視鏡治療も行っています。

長崎医療センターは多くの学会の認定施設となっており、呼吸器内科関連としては、日本内科学会教育病院、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本がん治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会認、日本感染症学会の認定施設になっています。呼吸器専門医、臨床腫瘍専門医、感染症専門医を目指す医師が専門医を取得するのに十分な環境が整っており、多くの研修医、修練医が研修に取り組んでいます。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 1,350人 | 3.7人 | 129人 | 159人 | | 9.4日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 35件 | 78.7% | 127件 | 270.2% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 63人(41.2%) | 23人(15.0%) | 10人(6.5%) | 15人(9.8%) | | 8 人(5.2%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 18人(11.8%) | 9 人(5.9%) | 4 人(2.6%) | | | 2 人(1.3%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 1 人(0.7%) | | | |

| 合計 |
|---|
| 153人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 肺癌 | C34.0-9 | 432 | 15 |
| 縦隔腫瘍その他の悪性腫瘍 | C37, C38.1-3, C48, C80, C79, C45, C85, C83, C22, C61, C78 | 59 | 1 |
| 肺炎 | J13, J14, J15, J18, J69, U07, J17 | 108 | 10 |
| 肺炎以外の感染症（TB含む） | A00-A99, B00-B99, J86, J85, J47, N39, J20, K83 | 56 | 5 |
| 呼吸不全（COPD含む） | J42-44, J80 | 16 | 1 |
| 気管支喘息 | J45-46 | 11 | 2 |
| 間質性肺炎 | J84, J99, J70, J82, J67 | 92 | 4 |
| 気胸 | J93.0-J93.9, S27, J94 | 32 | 1 |
| サルコイドーシス | D860, D869 | 6 | 1 |
| その他 | | 48 | 4 |

**主要検査件数**

| 検査 | 症例数 |
|---|---|
| 気管支内視鏡検査（総数） | 358 |
| 気管支葉音波内視鏡（EBUS） | 105 |
| 異物除去・気管支充填術・ステント留置 | 3 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 呼吸器カンファレンス | 1回/週 |
| 新患紹介 | 1回/週 |
| 呼吸器合同カンファレンス | 1回/週 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**競争的研究費一覧**

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし））、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の有効性と安全性に関する解析 | 有 | 長崎大学大学院<br>医歯薬学総合研究科<br>呼吸器内科学 | 原　敦子 | 2例 |
| 2 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | イジュド・イミフィンジ切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌を対象とした特定使用成績調査 | 無 | アストラゼネカ<br>株式会社 | 池田喬哉 | 1例 |
| 3 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 市中肺炎に対するラスクフロキサシンスイッチ療法の有効性および安全性を評価する多施設共同単群非盲検試験 | 有 | 長崎大学大学院<br>医歯薬学総合研究科<br>呼吸器内科学 | 近藤　晃 | 12例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 2（ 8 ） | 0（ 0 ） | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 3 | 7 | 8 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Large-scale clinico-genomic profile of non-small cell lung cancer with KRAS G12C: Results from LC-SCRUM-Asia study.
Tanaka Y, Shingo Matsumoto, Yoshitaka Zenke, Kiyotaka Yoh, Takaya Ikeda, Yuji Shibata, Terufumi Kato, Kazumi Nishino, Atsushi Nakamura, Naoki Furuya, Shingo Miyamoto, Shoichi Kuyama, Shogo Nomura, Takashi Ikeno, Hibiki Udagawa, Eri Sugiyama, Kaname Nosaki, Hiroki Izumi, Tetsuya Sakai, Naozumi Hashimoto, Koichi Goto.
Lung Cancer 2023；176：103-111. 2023 Feb.

2）Pharmacokinetic and dose-finding study of osimertinib in patients with impaired renal function and low body weight.
Fujiwara Y, Reiko Makihara, Tetsunari Hase, Naozumi Hashimoto, Tomoyuki Naito, Yukari Tsubata, Takae Okuno, Toshiaki Takahashi, Haruki Kobayashi, Yuki Shinno, Yoshitaka Zenke, Takaya Ikeda, Yukio Hosomi, Kageaki Watanabe, Satoru Kitazono, Naomi Sakiyama, Yoshinori Makino, Noboru Yamamoto.
Cancer Sci. 2023；114(5)：2087-2097. 2023 May.

3）Phase II study of IRInotecan treatment after COmbined chemo-immunotherapy for extensive-stage small cell lung cancer: Protocol of IRICO study.
Tomono H, Hirokazu Taniguchi, Minoru Fukuda, Takaya Ikeda, Seiji Nagashima, Kazumasa Akagi, Sawana Ono, Yasuhiro Umeyama, Midori Shimada, Hiroshi Gyotoku, Shinnosuke Takemoto, Yasushi Hisamatsu, Ryotaro Morinaga, Ryuta Tagawa, Ryosuke Ogata, Yosuke Dotsu 7, Hiroaki Senju, Hiroshi Soda, Katsumi Nakatomi, Fumiko Hayashi, Nanae Sugasaki, Akitoshi Kinoshita, Hiroshi Mukae.
Thorac Cancer 2023；14(28)：2890-2894. 2023 Oct.

4）Clinicogenomic Features and Targetable Mutations in NSCLCs Harboring BRAF Non-V600E Mutations：A Multi-Institutional Genomic Screening Study (LC-SCRUM-Asia).
Sakai T, Shingo Matsumoto, Yasuto Ueda, Yuji Shibata, Takaya Ikeda, Atsushi Nakamura, Masahiro Kodani, Kadoaki Ohashi, Naoki Furuya, Hiroki Izumi, Kaname Nosaki, Shigeki Umemura, Yoshitaka Zenke, Hibiki Udagawa, Eri Sugiyama, Kiyotaka Yoh, Koichi Goto.
J Thorac Oncol. 2023；18(11)：1538-1549. 2023 Nov.

**A-a2：英文症例報告**

1）Pulmonary Nodular Lymphoid Hyperplasia Evaluated with Bronchoalveolar Lavage Fluid Findings：A Case Report and Review of the Literature on Japanese Patients.
Moriyama S, Kido T, Sakamoto N, Fuchigami M, Tokito T, Okuno D, Miyamura T, Nakashima S, Hara A, Ishimoto H, Imaizumi Y, Tsuruda K, Yanagihara K, Fukuoka J, Mukae H.
Intern Med 2023；62(1)：95-102. 2023.1.1.

2）Pulmonary and Intestinal Involvement in a Patient with Myeloperoxidase-specific Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-positive Hermansky-Pudlak Syndrome.
Tokito T, Sakamoto N, Ishimoto H, Okuno D, Miyamura T, Hara A, Kido T, Yamamoto K, Yamaguchi H, Obase Y, Akazawa Y, Okamura K, Suzuki T, Ishimatsu Y, Mukae H.
Intern Med 2023；62(1)：103-106. 2023.1.1.

3）Pulmonary Langerhans Cell Histiocytosis That Progressed from a Single-system to a Multisystem Form despite Smoking Cessation.
Ishimoto H, Sakamoto N, Ozasa M, Katoh T, Itonaga H, Wataya M, Takao D, Hara A, Kido T, Yamaguchi H, Yamamoto K, Obase Y, Ishimatsu Y, Miyazaki Y, Mukae H.
Intern Med 2023；62(6)：877-880. 2023.3.15.

4）Long-term survival after chemotherapy and salvage lobectomy for multiple station N2 stage IIIA non-small cell lung cancer：A case report.
Akagi K, Fukushima K, Miyashita R, Kondo A, Kaneko Y, Ehara N, Yoshida S, Taniguchi H, Yamaguchi H, Mukae H, Sano I, Taniguchi H, Shigematsu K.
Acta Med. Nagasaki 2023；67：31-36. 2023 Mar.

5）Diffuse Aspiration Bronchiolitis With Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder.
Mine K, Mori H.
Cureus 2023；15(5)：e38429. 2023.5.2

6）Lung Involvement in Adult T-Cell Lymphoma Diagnosed Using Bronchoscopic Cryobiopsy：A Case Report and Review of the Literature.
Tanaka Y, Tanaka Y, Kido T, Sakamoto N, Hara A, Kato T, Miyashita R, Ozasa M, Tokito T, Okuno D, Takeda K, Yura H, Takemoto S, Takazono T, Ishimoto H, Obase Y, Ishimatsu Y, Miyazaki Y, Mukae H.
Medicina 2023；59(11)：2015. 2023.11.16.

7）Pulmonary Langerhans cell histiocytosis diagnosed using transbronchial lung cryobiopsy A case report.
Mine K, Sakamoto N, Ozasa M, Tsutsui S, Miyashita R, Tokito T, Okuno D, Yura H, Kido T, Ishimoto H, Takemoto S, Takazono T, Obase Y, Ishimatsu Y, Fukuoka J, Mukae H.
Respir Med Case Rep 2023；46：101928. 2023 Oct 12.

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）当院で複合がん免疫療法を施行した非小細胞肺癌13症例の検討.
森麻耶子、池田喬哉、佐藤雄二、井手口周平、原敦子、近藤晃.
分子標的治療・免疫療法 3 . 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会. 第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

2）アスペルギルス有瘻性膿胸に対して開窓術後ガイドワイヤーを用いてEWS充填術を施行した 1 例.
佐藤雄二、井手口周平、森麻耶子、池田喬哉、原敦子、近藤晃、下山孝一郎、田川努、迎寛.
内視鏡的診断・治療 1 . 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会. 第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

3）悪性胸膜中皮腫へのニボルマブ投与により乾癬型薬疹を発症した一例.
峯慧輔、池田喬哉、平野優大、瀬戸口大地、原敦子、近藤晃、行徳宏、迎寛.
第 4 回日本石綿・中皮腫学会学術集会. 長崎, 2023.9.2.

4）胸腺癌による二次性血栓性微小血管障害症で急性腎障害に至った症例に対し維持透析下に化学療法を行った 1 例.
平野優大、池田喬哉、山下由恵、峯慧輔、瀬戸口大地、原敦子、近藤晃、添田李子、伊東正博、迎寛.
第91回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス学会/肉芽種性疾患学会九州支部　秋季学術講演会. 宮崎, 2023.10.28.

5）当院での進展型小細胞肺癌に対する免疫療法.
山下慶、池田喬哉、平野優大、峯慧輔、瀬戸口大地、原敦子、近藤晃、迎寛.
肺腫瘍 6 . 第91回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス学会/肉芽種性疾患学会九州支部　秋季学術講演会. 宮崎,2023.10.28.

6）Exophiala dermatitidisによる慢性気道感染症の 2 例.
瀬戸口大地、岩永直樹、伊藤裕也、吉田将孝、武田和明、井手昇太郎、高園貴弘、泉川公一、栁原克紀、迎寛.
真菌症. 第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 富山, 2023.11.9.

7）水疱性類天疱瘡を背景にラスクフロキサシンにより惹起されたと考えられた好酸球性肺炎の 1 例
平野優大、池田喬哉、石川博士、峯慧輔、瀬戸口大地、原敦子、近藤晃、三浦史郎、伊東正博、迎寛.
第343回日本内科学会九州地方会. 長崎, 2023.11.26.

**＜パネルディスカッション＞**

1）当院における肺癌マルチ遺伝子検査の現状.
石飛俊介、池田喬哉、城竜人、佐藤雄二、森麻耶子、井手口周平、原敦子、三浦史郎、藤瀬悠太、下山孝一郎、田川努、近藤晃、迎寛.
検査・診断第63回日本肺癌学会九州支部学術集会. 第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

**＜ポスター＞**

1）Immunotherapy for elderly or poor PS patients with extensive-disease small cell lung cancer.
Kensuke TakeuchiTakaya Ikeda, Yudai Hirano, Keisuke Mine, Daichi Setoguchi, Atsuko Hara, Akira Kondo.
若手医師フォーラム. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

2）当院における高齢またはPS不良の進展型小細胞肺癌に対する免疫療法.
峯慧輔、池田喬哉、平野優大、瀬戸口大地、原敦子、近藤晃.
第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.3.

**B-c：研究会発表**

**＜パネルディスカッション＞**

1）悩ましいED-SCLC治療の検討.
池田喬哉.
進展型小細胞肺がん治療戦略セミナー . 長崎, 2023.2.16.

**＜口演発表＞**

1）院内irAEマネジメントに向けた取り組み.
池田喬哉.
県央irAEマネジメントWEBセミナー . 長崎, 2023.2.24.

2）小細胞肺がんに対する免疫療法.
池田喬哉.
長崎県央肺がんカンファランス. 長崎, 2023.3.29.

3）肺癌の免疫療法の実際.
池田喬哉.
第41回がんと薬物療法研修会. 長崎, 2023.8.1.

4）肺癌の周術期治療における院内連携.
池田喬哉.
周術期治療up to date in 長崎. 長崎, 2023.10.12.

5）肺癌治療におけるチーム医療とirAE対策.
池田喬哉.
ICI適正使用セミナー in NAGASAKI. 長崎, 2023.11.27.

6）口演当院におけるirAEマネジメントにむけた取り組み.
池田喬哉.
沖縄中部・中頭地区irAEマネジメントセミナー . 沖縄, 2023.11.10.

**＜司会＞**

近藤晃.
県央irAEマネジメントWEBセミナー . 大村, 2023.2.24.

**C, F, G：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜司会＞**

1）当院における医療連携について.
近藤晃.
COPDミーティング大村. 大村, 2023.6.15.

2）地域で考える睡眠無呼吸症候群
近藤晃.
大村市SAS講演会（Web）. 大村, 2023.11.30.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

1）池田喬哉.
分子標的治療・免疫療法 1 . 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会. 第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.10.28.

**G：その他**

**＜口演＞**

1）肺がんの薬物治療.
池田喬哉.
市民公開講座「ここまで進歩した肺がんの治療」. 長崎, 2023.2.11.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 消化管内科

責任者　西山 仁

## 診療科の特色

消化管腫瘍（癌・ポリープ・その他）、消化管救急疾患（出血性消化管疾患・イレウスなど）、炎症性腸疾患（クローン病・潰瘍性大腸炎など）の診断・治療を重点的に行っている。

特に、内視鏡を用いた診断・治療、抗癌剤療法は最も力を注いでいる。

内視鏡診療はNBI拡大内視鏡、超音波内視鏡等最新の診断機器を揃え最先端の診断を行い、治療に関しては炭酸ガス送気の導入でより安全で苦痛のない治療が可能となっている。早期癌に対しては従来の粘膜切除術の他、大きな病変に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という高度な内視鏡一括切除術を行っている。当院では保険収載前から先進医療としてこれらを施行しており全国的にも豊富な症例数と良好な治療成績を有し、各地よりご紹介頂いている。最近は胃粘膜下腫瘍に対して外科と共同で腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除（Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery；LECS）も積極的に導入している。

進行癌に対する化学療法は従来の抗癌剤に加え分子標的薬を用いた標準的治療を主体に行なっている。また消化管癌分野において免疫チェックポイント阻害剤も症例に応じ使用可能である。化学療法の適応がなくなった患者さんは、地域の開業医の先生と綿密な連携の上でよりよい緩和医療が行えるよう努力している。

消化管救急疾患診療としては消化管出血に対して緊急内視鏡による止血術、イレウスに対しては経鼻内視鏡を使用した経鼻又は経肛門イレウスチューブ挿入などを行っている。

炎症性腸疾患に対しては従来の治療に加え、白血球除去療法、タクロリムス、生物学的製剤などを積極的に導入し良好な治療成績が得られている。生物学的製剤もかつては抗TNF-α抗体製剤であるインフリキシマブやアダリムマブのみであったが近年保険適応となったウステキヌマブ、ベドリズマブも積極的に使用している。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 7,830人 | 21.5人 | 971人 | 1,060人 | 25人 | 7.7日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 320件 | 88.6% | 930件 | 252.0% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 471人(44.6%) | 222人(21.0%) | 35人(3.3%) | 44人(4.2%) | 6 人(0.6%) | 87人(8.2%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 62人(5.9%) | 91人(8.6%) | 8 人(0.8%) | 4 人(0.4%) | 6 人(0.6%) | 5 人(0.5%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | 13人(1.2%) | 2 人(0.2%) |

| 合計 |
|---|
| 1,056人 |

**入院主要疾患別臨床統計（のべ数）**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 食道癌 | C15.0-9 | 154 | 4 |
| 胃癌 | C16.0-9 | 156 | 6 |
| 大腸癌・直腸癌 | C18.0-9 | 223 | 6 |
| 大腸ポリープ・大腸腺腫 | K63.5,D12.0-9 | 126 | 0 |
| 潰瘍性大腸炎 | K51.0-9 | 82 | 0 |
| クローン病 | K50.0-9 | 135 | 0 |
| 胃・十二指腸潰瘍 | K25.0-9,K26.0-9 | 18 | 1 |
| イレウス（腸閉塞） | K56.0-7 | 50 | 2 |

**主要検査件数**

| 検　査 | 症例数 |
|---|---|
| 上部消化管内視鏡検査 | 2468件 |
| 上部消化管超音波内視鏡検査 | 265件 |
| 下部消化管内視鏡検査 | 1257件 |
| 下部消化管超音波内視鏡検査 | 45件 |
| 小腸内視鏡検査（含・カプセル内視鏡） | 上部：３件、下部：１件、カプセル：11件 |

**治療成績（入院のべ数）**

| 特殊治療法 | 症例数 |
|---|---|
| 上部消化管腫瘍内視鏡的切除術 | 81件（胃ESD；43件, 食道ESD；22件） |
| 下部消化管腫瘍内視鏡的切除術 | 208件（大腸ESD；51件） |
| イレウス管挿入・stent挿入 | イレウス管59件（経鼻；50件、経肛門；９件）<br>Stent35件（食道；２件、大腸；33件） |
| 内視鏡的消化管出血止血術 | 86件（上部；58件、下部；28件） |
| 内視鏡的消化管拡張術 | 40件（上部；40件、下部；0件） |
| 食道癌化学療法 | 80件 |
| 胃癌化学療法 | 32件 |
| 大腸癌化学療法 | 36件 |
| 白血球除去療法 | 5件 |
| 抗TNF-α抗体投与療法 | 182件 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名　　称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 消化管回診（8：45） | 一時中断中 |
| 消化管臨床カンファランス（16：00） | １回/週（月） |
| 消化器（管・肝臓）内科カンファランス（8：45） | １回/週（水） |
| 消化器内科・外科合同カンファランス（16：00） | １回/週（火） |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（ 0 ） | 0（ 0 ） | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 1 | 4 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 研究会 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 2 | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 1 | 4 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）十二指腸NETに対するhybrid ESD 7年後にリンパ節転移再発の判断となり外科的治療を行った1例.
綿屋摩湖人、西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、三根祥一郎、小出明妃.
専修医発表. 第122回日本消化器病学会/第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 沖縄, 2023.11.24.

**B-c：研究会発表**

**＜症例提示＞**

1）大腸の症例.
若松彩、西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、三根祥一郎、濱崎俊輔、杉尾小百合.
大村胃疾患検討会. 大村, 2023.1.21.

2）大腸の症例.
若松彩、西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、三根祥一郎、綿屋摩湖人.
長崎胃疾患検討会. 長崎, 2023.4.19.

3）十二指腸の症例.
綿屋摩湖人、西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、三根祥一郎、小出明妃.
大村胃疾患検討会. 大村, 2023.9.15.

**C，F：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜講演＞**

1）潰瘍性大腸炎の治療.
中島悠史郎.
大村胃疾患検討会. 大村, 2023.1.21.

2）食道癌・最近の治療.
今村祥子.
大村胃疾患検討会. 大村, 2023.6.16.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜ワークショップ＞**

1）西山仁.
ハンズオンセミナー～下部～. 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.8.

**＜その他＞**

1）西山仁.
長崎胃疾患検討会. 長崎, 2023.4.19.

2）西山仁.
一般演題・大腸. 第121回日本消化器病学会/第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.12.

3）西山仁.
県央胃癌学術講演会. 大村, 2023.7.7.

4）西山仁.
県央地区消化器免疫セミナー. 大村, 2023.10.20.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 肝臓内科

責任者　長岡 進矢

## 診療科の特色

当院は2007年 8 月長崎県の肝疾患診療連携拠点病院に選定され、長崎県における肝疾患ネットワークにおける中心的な役割を担っております。当科では毎年1,000人を超す肝胆膵疾患患者が入院しております。

医療スタッフにより下記に示すような医療を行っております。

1．データに基づいた肝臓病に関する高度な診断と治療
2．長期生存を目指した肝癌治療
3．抗ウイルス薬を用いたウイルス肝炎の治療
4．治験への積極的関与
5．臨床研究センターとの連携による新たな診断法や治療法開発の模索
6．肝臓病教室を通しての患者・市民への知識の啓発
7．胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療、外科との連携、化学療法

1．データに基づいた肝臓病に関する高度な診断と治療

当科では1990年以降に入院した肝臓病患者の 2 万人を超えるデータベースをもとに肝疾患の診断と治療法を決定しています。例えば、肝癌の診断においては個々の患者の発癌リスクを判断しハイリスクグループを囲い込むことによる肝癌の早期診断を行い、ハイリスクグループに対しては、肝癌抑止を目標とした内服の抗ウイルス療法などを行っています。自己免疫性肝疾患や原発性胆汁性胆管炎、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）など診断困難な症例に対しては、肝生検を行い診断することにより治療を行っています。

2．長期生存を目指した肝癌治療

肝癌の治療は、内科医、外科医、放射線科医、病理医らの合同カンファレンスを行い個々の症例の治療方針を決定しています。外科切除、経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）、経カテーテル的肝動脈化学塞栓療法（TACE）が従来の主要な治療でしたが､定位放射線治療も積極的に行うようになっています｡進行肝癌に対してはソラフェニブ、レンバチニブなど分子標的阻害剤による治療に加え、免疫チェックポイント阻害剤であるアテゾリズマブ＋ベバシズマブ、デュルバルマブ＋トレメリムマブの治療も行っております。ウイルス性肝炎の治療が劇的に改善したことで背景肝の炎症が制御可能となり、肝予備能が保たれるようになったことにより、肝癌の予後が更に改善し、また肝癌発生率も減少しています。

3．抗ウイルス薬を用いたウイルス肝炎の治療

C型慢性肝炎では、1990年代よりインターフェロンが治療の中心となっていましたが、2014年より1bウイルスに対してインターフェロンを使用しない経口抗ウイルス剤DAAが保険適応になり、2015年からは100％に近い奏功率で副作用が非常に少ない配合剤（核酸型NS5B阻害剤＋NS5A阻害剤）が、保険適応になりました。2017年にはウイルスの遺伝子型や透析の有無などを考慮する必要のない第 3 世代とも言われるDAA製剤が承認され、最短 8 週間でウイルス駆除が可能となりました。その結果、C型慢性肝炎は治る病気になりました。

B型慢性肝炎に対しては核酸アナログ製剤の登場によってB型慢性肝炎の病状進展抑制が可能となりました。更に発癌リスクを減らすためにHBs抗原量を低下させることが、有効であることが報告されています。2014年HBs抗原量をより低下させる作用があるとされる新たな核酸アナログ製剤（テノホビル）が保険適応になりました。さらに副作用を抑えたテノホビルのプロドラッグも2017年に保険適応となりました。これらを用いて積極的にB型肝炎治療を行っています。

4．治験への積極的関与

治験は医薬品などの承認申請のために実施する臨床試験ですが、新たな薬剤の承認には必須のものです。当院では臨床研究コーディネーター（CRC）を配備し、積極的に治験への関与を行っています。当科におきましても治験に大きく関わっており、患者さんは効果が期待される治療法を早めに試みております。

5．臨床研究センターとの連携による新たな診断法や治療法の模索

臨床研究センターと連携して、肝炎ウイルスの遺伝子解析やサイトカイン測定、各種薬物濃度測定など、治療方針に関わる因子を解析し、個々の患者さんに応じた情報を提供し診療に役立てています。また、新たな診断法や検査法、治療法をいち早く試みることが可能です。肝線維化マーカーであるM2BPGiがC型慢性肝炎の発癌予測に有用であることを2014年当院より報告しました。現在は保険収載もされています。腸内細菌の様々な病気での関与が話題となっていますが、肝疾患においても、関連が指摘されております。腸内細菌叢への影響により肝細胞癌の予後を改善が期待できる薬剤について現在検討中です。

6．肝臓病教室を通しての患者・市民への知識の啓発

看護部、薬剤部、栄養管理室と連携し、患者さんへ向けて肝臓病教室を開催しています。2004年４月より、肝疾患に関する事柄をわかりやすく伝えることをモットーとしています。しかし、2020年からはコロナ禍での肝臓病教室開催は困難となり、休止としております。

7．胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療、外科との連携、化学療法

最近では高齢化に伴い膵癌、胆管癌などの悪性腫瘍、また胆嚢結石、総胆管結石による胆嚢炎、胆管炎の患者さんが増えています。閉塞性黄疸、胆管炎、胆管結石などに対する、内視鏡的ドレナージや乳頭切開術、結石除去などの胆道内視鏡治療は増加の一途を辿っております。膵腫瘍などの診断を行うために超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）など高度な診断体制を構築しております。これにより早期の膵癌診断が可能となっています。胆膵疾患は特に外科との連携を要します。膵癌に対する化学療法も有効なレジメンが増えています。合同カンファランスで診断、治療方針を決定し、癌の場合には術前化学療法・術後化学療法を含め積極的に治療介入を行っています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 9,292人 | 25.5人 | 666人 | 839人 | 33人 | 12.3日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 366件 | 88.3% | 662件 | 154.3% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 345人(41.5%) | 199人(23.9%) | 22人(2.6%) | 15人(1.8%) | 14人(1.7%) | 62人(7.5%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 42人(5.0%) | 84人(10.1%) | 15人(1.8%) | 4 人(0.5%) | 4 人(0.5%) | 8 人(1.0%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 3 人(0.4%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | 4 人(0.5%) | 9 人(1.1%) | 2 人(0.2%) |

| 合計 |
|---|
| 832人 |

**入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 1）肝細胞癌 | C220 | 161 | 3 |
| 2）肝硬変 | B181,B182,K703,<br>K746 | 160 | 7 |
| 3）慢性肝炎 | B181,B182,K739 | 35 | 0 |
| 4）急性肝炎 | B159,B169,B171,<br>B172,K720 | 6 | 0 |
| 5）自己免疫性肝炎 | K732 | 11 | 0 |
| 6）原発性胆汁性胆管炎 | K743 | 5 | 0 |
| 7）胆管癌 | C221,C240 | 55 | 1 |
| 8）膵癌 | C250,C251,C252,<br>C253,C257,C259 | 120 | 10 |
| 9）胆嚢癌 | C23,C240 | 16 | 2 |
| 10）総胆管結石 | K805 | 127 | 0 |

**主要検査件数**

| 検査 | 症例数 |
|---|---|
| 1）経皮的肝生検 | 36 |
| 2）肝腫瘍生検 | 43 |
| 3）経内視鏡的胆管膵管造影（ERCP） | 476 |
| 4）管腔内超音波検査法（IDUS） | 92 |
| 5）超音波内視鏡（EUS） | 114 |
| 6）超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA） | 42 |

**特殊検査ならびに治療成績**

| 特殊治療法 | 合併症とその内容 | 症例数 | 延べ施行回数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|---|
| 1）経皮的ラジオ波焼灼術 | なし | 27 | 27 | 0 |
| 2）肝動脈塞栓療法 | なし | 55 | 55 | 0 |
| 3）定位放射線治療 | 嘔気 | 14 | 14 | 3 |
| 4）レンバチニブ | 血圧上昇 | 1 | 1 | 0 |
| 5）アテゾリズマブ＋ベバシズマブ | 血圧上昇 | 7 | 7 | 0 |
| 6）デュルバルマブ＋トレメリムマブ | なし | 7 | 7 | 0 |
| 7）インターフェロンフリー療法 | なし | 0 | 0 | 0 |
| 8）内視鏡的食道静脈瘤結紮術 | なし | 12 | 12 | 3 |
| 9）内視鏡的乳頭切開術 | なし | 147 | 147 | 0 |
| 10）チューブステント留置 | 膵炎 | 299 | 299 | 0 |
| 11）メタリックステント留置 | 膵炎 | 29 | 29 | 0 |
| 12）内視鏡的結石除去術 | 膵炎 | 146 | 146 | 0 |
| 13）内視鏡的逆行性胆嚢ドレナージ（ERGBD） | なし | 4 | 4 | 0 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 肝疾患センター診療カンファランス | 週２回 |
| 肝疾患病理検討会 | 週１回 |
| 内科・外科・放射線科合同カンファランス | 週１回 |
| 肝疾患リサーチミーティング | 週１回 |

## 学会・論文など

**１）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0(5) | 0 | 7(2) | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**２）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 6(3) | 20(2) | 9(0) | 9(2) |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**３）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 学術講演 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 7 | | | |

**４）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 4 | 3 | 6 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**論　文　発　表**

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

１）Atherosclerotic cardiovascular disease risk profile of patients with chronic hepatitis B treated with tenofovir alafenamide or tenofovir disoproxil fumarate for 96 weeks.
Fung SK, Pan CQ, Wong GL, Seto WK, Ahn SH, Chen CY, Hann HL, Jablkowski MS, Kim YJ, Yurdaydin C, Peng CY, Nguyen T, Yatsuhashi H, Flaherty JF, Yee LJ, Abramov F, Wang H, Abdurakhmanov D, Lim YS, Buti M.
Aliment Pharmacol Ther. 2023；2024 Jan；59(2)：217-229. doi: 10.1111/apt.17764. Epub.

２）HIV RNA and HCV RNA Levels, and Mortality: The Japan Cohort Study of HIV Patients Infected through Blood Products.
Kawado M, Mieno M, Hashimoto S, Amano K, Ogane M, Oka S, Okamoto G, Gatanaga H, Higasa S, Yatsuhashi H, Shirasaka T.
The Open AIDS Journal 2023；17：e187461362306230.

3）Posttreatment liver function, but not baseline liver function stratifies patient survival after direct-acting antiviral treatment in decompensated cirrhosis with hepatitis C virus.
Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Ido A, Kuroda H, Miki D, Kurosaki M, Hiasa Y, Sakamori R, Kawada N, Yamashita T, Suda G, Yatsuhashi H, Yoshiji H, Kato N, Takami T, Nakao K, Matsuura K, Asahina Y, Itoh Y, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Ueno Y, Akuta N, Miyazaki M, Nozaki Y, Kabayama M, Sobue S, Moriuchi A, Miyaki T, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T.
J Gastroenterol. 2023；Dec；58(12)：1211-1221. doi：10.1007/s00535-023-02039-x.

4）New chemiluminescent enzyme immunoassay for quantitative measurement of Mac-2 binding protein glycosylation isomer in chronic liver disease.
Uojima H, Nakabayashi K, Yamasaki K, Sugiyama M, Ishii N, Shirabe K, Kyoutou T, Ueda K, Takahama Y, Tamaki N, Kurosaki M, Hidaka H, Kusano C, Amano K, Kawaguchi T, Taketomi A, Joshita S, Umemura T, Murakawa M, Asahina Y, Suzuki T, Matsuura K, Nishimura T, Iijima H, Sakamoto K, Ito K, Nishina S, Hino K, Toyoda H, Yatsuhashi H, Kage M, Mizokami M.
J Gastroenterol. 2023；58(12)：1252-1260. Epub 2023 Oct 8. doi：10.1007/s00535-023-02043-1.

**A-b1：英文総説**

1）Cancer progression by the okadaic acid class of tumor promoters and endogenous protein inhibitors of PP2A, SET and CIP2A
Fujiki H, Sueoka E, Watanabe T, Komori A, Suganuma M.
J Cancer Res Clin Oncol. 2023；149(11)：9425-9433. Epub 2023 Apr 25.

**B：和文**

**B-a1：和文原著**

1）ケアマネジャーを対象としたC型慢性肝炎に関する全国アンケート調査.
田中留奈、磯田広史、八橋 弘、四柳宏、高橋宏和.
肝臓 2023；64(7)：301-310.

2）HBs抗原測定試薬「アテリカ用B型肝炎ウイルス表面抗原キットケミルミQHBs抗原」の性能評価.
藤野達也、佐藤知子、小鶴秀子、濱田るみこ、八橋弘.
医学と薬学 2023；80(4)：415-422.

3）HCV感染者における抗ウイルス治療後の抗体価の推移および，ルミパルス(R)HCV・ルミパルスプレスト(R)HCVの性能比較.
八橋弘、小鶴秀子、林由佳.
医学と薬学 2023；80(1)：115-124.

**B-a2：和文症例報告**

1）造影超音波検査が有用であった肝原発DLBCLの 1 例.
手嶋翔一朗、西浦哲哉、小林真未、藤田寿之、牧野謙二、長岡進矢、三浦史郎、伊東正博.
医学検査 2023；72(2)：272-280.

**B-b：和文総説**

1）原発性胆汁性胆管炎　診療の進歩とアンメットニーズ.
小森敦正.
肝臓 2023；64(10)：466-475.

2）【ウイルス性肝炎学2023-最新の病態・診断・治療情報-】A型肝炎　A型急性肝炎の臨床的特徴.
八橋弘、山﨑一美.
日本臨牀 2023；81（増刊7）ウイルス性肝炎学2023:460-464.

3）【特別寄稿】肝臓の手（手掌紅斑）.
八橋弘.
医療の広場 2023；63(11)：18-22.

**B-c2：和文著書［分担］**

1）急性肝炎.
八橋弘.
今日の治療指針 2023年版[ポケット判]: 私はこう治療している, 医学書院, 2023pp526-527.　2023

2）【Session1；B型肝炎】HBs抗原の消失とHBs抗原量の減衰－自然経過と治療介入－.
八橋弘、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正.
第33回犬山シンポジウム～ B型肝炎、C型肝炎、脂肪性肝炎、肝癌, 犬山シンポジウム記録刊行会編, 株式会社アーツユニット. 2023；pp31-35.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会, 国際会議**

**A-b1　シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜Symposium＞**

1）Clinical Challenges in HCV Management in Japan.
Komori A.
Joint Symposium (East Asia)；HCV Elimination, Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Conference 2023 (APASL STC 2023). Busan Korea, 2023.9.21.

2）A Twist to a Cure of HCV Infection: Occult HCV Infection.
Komori A.
Symposium 3-1; Occult Hepatitis Virus Infection and Post-Cure Virologic Failure, Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Conference 2023 (APASL STC 2023). Busan Korea, 2023.9.23.

**A-b2：一般演題**

**＜Poster＞**

1）May symptom combinations at initial diagnosis of primary biliary cholangitis implicate distinct natural history?.
Komori A, Kugiyama Y, Hirohara J, Toshiaki Nakano T, Tanaka A.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

2）Prognostic value of serum ALP levels during additional treatment in Japanese patients with primary biliary cholangitis treated with ursodeoxycholic acid and bezafibrate.
Takeuchi A, Matsumoto K, Komori A, Abe M, Namisaki T, Kawata K, Ninomiya M, Fujii H, Takahashi A, KANG Jong-Hon, Takamura M, Arakawa M, Joshita S, Sato K, Nomura T, Kakisaka K, Kaneko A, Kikuchi K, Masaki T, Umemura T, Honda A, Ohira H, Kawada N, Yoshiji H, Mochida S, Tanaka A.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

3）Self-stigma in chronic hepatitis B: content and psychometric validation of a new patient-reported outcome instrument.
Robert G. Gish, Mondher Toumi, Jack Wallace, Chari Cohen, Su Wang, Chris Marshall, Helen Kitchen, Jake Macey, Hannah Pegram, Carrie Houts, Rikki Mangrum, Ashley F. Slagle, Jeffrey Lazarus, Patrick Kennedy, Florian van Bömmel, Maurizia Brunetto, Qin Ning, Hiroshi Yatsuhashi, Markus Cornberg, Qing Xie, Dee Lee, Angelina Villasis Keever, Urbano Sbarigia, Yasushi Takahashi, John Jerzorwski, Willem Talloen, Michael Biermer, Eric Chan.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

4）Post-treatment liver function, but not baseline liver function, predicts survival in hepatitis C virus patients with decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral treatment.
Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Ido A, Kuroda H, Miki D, Kurosaki M, Hiasa Y, Sakamori R, Kawada N, Yamashita T, Suda G, Yatsuhashi H, Yoshiji H, Kato N, Takami T, Nakao K, Matsuura K, Asahina Y, Itoh Y, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Ueno Y, Akuta N, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

5）Serum myostatin decreased after direct acting antivirals for cirrhotic patients.
Suehiro T, Matsumoto K, Kugiyama Y, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

6）Usefulness of serum CCL20 as a post sustained viral response biomarker for HCV-associated liver fibrosis.
Komori A, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yatsuhashi H.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

7）Long-term Prognosis of Stereotactic Body Radiotherapy Versus Radiofrequency Ablation in Patients with Small Hepatocellular Carcinoma Evaluated by Hepatic Reserve, Single-center Study.
Motoyoshi Y, Koide A, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Onsite Poster Session；Group2；TACE, HAIC, Imaging, Radiation, APASL Oncology 2023. Sendai, 2023.10.27.

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜パネルディスカッション＞**

1）C型肝硬変に対するDAA治療後の予後におけるミオカイン測定の意義.
末廣智之、小森敦正、八橋弘.
パネルディスカッション13；C型非代償性肝硬変のDAA治療：現状と課題. 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.6.

2）原因不明型急性肝炎の特徴と転帰.
山﨑一美、勝島慎二、八橋弘.
パネルディスカッション１；急性肝不全・ACLF診療の未来予想図（現状と課題）, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.

**＜ワークショップ＞**

1）原発性胆汁性胆管炎のゲノムワイド関連解析による病態の解明.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、小森敦正、中村稔.
ワークショップ１；九州の基礎・臨床研究：腫瘍免疫・自己免疫・ゲノム. 第121回日本消化器病学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.12.

2）地域における C 型肝炎撲滅への取り組み.
山﨑一美、田中敏己、八橋弘.
ワークショップ 2 ；肝炎ウイルス診療の実際と今後の展望. 第121回日本消化器病学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.12.

**＜シンポジウム＞**

1）薬剤耐性が生じたB型慢性肝炎に対するテノホビル・アラフェナミド単剤投与への切替におけるウイルス学的効果ならびに安全性についての検討.
田中聡司、八橋弘、阪森亮太郎.
シンポジウム 3 ；B型肝炎診療の未来予想図（現状と課題）, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.

2）HBV持続感染患者を対象としたbepirovirsenの国際共同後期第 II 相試験（B-Clear study）における全体及び日本人部分集団解析.
田中靖人、八橋弘、伊藤博志.
シンポジウム 3 ；B型肝炎診療の未来予想図（現状と課題）, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.

3）C型肝炎の新規発癌予測モデルの検討.
山﨑一美、溝上雅史、八橋弘.
シンポジウム 4 ；ウイルス肝炎制御時代の肝癌サーベイランス, 第59回日本肝癌研究会. 大阪, 2023.7.28.

4）院内 VTE 予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝、黒木保、山田成美、於久幸治、有吉毅子男、森けいすけ、案田岳夫、錦戸雅春、菅幸恵、森隆浩、山崎一美、尾崎真人、荒木伸也、三角紳博、吉田真一郎、八橋 弘.
シンポジウム39；医療安全 傾向と対策. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）リアルワールドデータを用いた切除不応進行肝細胞癌への 1st-line アテゾリズマブ＋ベバシズマブとレンバチニブの比較.
新関敬、徳永尭之、和田幸之、柴田道彦、佐々木龍、釈迦堂敏、伊藤心二、八橋弘、馬渡誠一、杉本理恵、桑代卓也、前城達次、岩尾正雄、原田大、中尾一彦、平井郁仁、吉住明晴、井戸章雄、下瀬茂男、田中靖人.
プレナリーセッション 1 . 第27回日本肝がん分子標的治療研究会. 大阪, 2022.1.13.

2）超高齢者における肝細胞癌薬物治療～多施設共同研究～ .
杉本理恵、新関敬、馬渡誠一、本吉康英、柴田道彦、桑代卓也、佐々木龍、山下勉、田中靖人、新垣伸吾、和田幸之、伊藤心二、岩尾正雄、岩本英希、鳥村拓司.
一般演題 2 ；アテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法等. 第27回日本肝がん分子標的治療研究会. 大阪, 2023.1.14.

3）Ramcirumab＋DEB-TACE シーケンシャル治療の一例.
本吉康英、杉尾小百合、中谷 優、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題10；症例報告 3 . 第27回日本肝がん分子標的治療研究会. 大阪, 2023.1.14.

4）肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療の治療効果と肝予備能に与える影響.
本吉康英、濱﨑俊輔、若松彩、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題（口演）；肝癌 2 . 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.6.

5）当院における重症急性膵炎の診療成績と治療介入の検討.
佐伯哲、濱﨑俊輔、若松彩、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題（ミニオーラル）；膵炎. 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.7.

6）血清オートタキシンと HCV 関連肝発癌リスクについての検討.
山﨑一美、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、若松彩、松本耕輔、長岡進矢、小森敦正、八橋弘.
一般演題（口演）；C型肝炎. 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.7.

7）アテゾリスマブ＋ベバシズマブ併用療法中に肝予備能低下をきたすもベバシズマブ休薬で肝予備能回復・治療継続可能であった進行肝細胞癌の一例.
釘山有希、本吉康英、松本耕輔、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題；肝 2 . 第121回日本消化器病学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.13.

8）非アルコール性脂肪性肝炎を背景とする肝発癌に関連した血清代謝産物の探索.
小森敦正、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、八橋弘.
口演 2 ；NASH 1 （臨床）. 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.15.

9）副腎皮質ステロイド使用状況からみた肝炎型原発性胆汁性胆管炎における患者背景と治療効果の検討.
釘山有希、小森敦正.
ミニオーラル 3 ；AIH・PBC. 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.15.

10）C型肝炎の新規発癌予測モデルの検討.
山﨑一美、大橋順、魚嶋晴紀、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、若松彩、松本耕輔、本吉康英、長岡進矢、小森敦正、溝上雅史、八橋弘.
一般演題；肝炎(3). 第31回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会. 横浜, 2023.9.15.

11）膵頭部癌を合併した結節性多発動脈炎の一例.
馬場あかね、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、長岡進矢、伊東正博、川上純.
一般演題 5 ；強皮症・血管炎. 第66回九州リウマチ学会. 北九州, 2023.9.16.

12）高シトルリン血症を背景に発症した肝細胞癌一切除例.
小川紗智、北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、長岡進矢、黒木保.
研修医発表；肝・胆・膵 1 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

13）肝肉芽腫を伴った腸管スピロヘータ症の1例.
川添綾子、小出明妃、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進也、山崎一美、小森敦正、八橋弘、今村祥子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎.
研修医発表；肝・胆・膵 3 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

14）十二指腸NETに対するhybrid ESD 7 年後にリンパ節転移再発の診断となり、外科的治療を行った一例.
綿屋摩湖人、後藤高介、三根祥一郎、今村祥子、中島悠史郎、末廣智之、三浦史郎、黒木保、西山仁.
専攻医発表；食道・胃・十二指腸 3 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

15）多発肺・骨転移を伴う原発性肝平滑筋肉腫に化学療法を施行した 1 例.
小出明妃、釘山有希、添田李子、三原裕美、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
若手セッション16；肝腫瘍・その他②. 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.7.

16）全国調査における原発性胆汁性胆管炎の臨床背景とステロイド治療の現状.
釘山有希、小森敦正、廣原淳子、小出明妃、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、八橋 弘.
一般演題10；AIH・PBC. 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.8.

17）肝予備能の観点からみる小型肝癌に対するSBRTとRFAの長期予後の比較検討.
本吉康英、小出明妃、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進也、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題25；局所治療. 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.8.

**＜区分がありません＞**

1）急性虫垂炎における舌診の診断性能（観察研究）.
森英毅、山崎一美、最勝寺佑介、鳥巣裕一、森 隆浩、永井友基、和泉泰衛.
第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 愛知, 2023.5.12-14.

**＜ポスター＞**

1）肝腫瘍に対する局所療法時の造影超音波の工夫・low-MI THI について.
本吉康英、杉尾小百合、中谷 優、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯 哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋 弘.
ポスター 9 ；アブレーションの臨床 3 . 第1回日本アブレーション研究会. 東京, 2023.2.4.

2）アテゾリスマブ＋ベバシズマブ併用療法中に肝予備能低下をきたすもベバシズマブ休薬で肝予備能回復・治療継続可能であった進行肝細胞癌の一例.
釘山有希、本吉康英、松本耕輔、末廣智之、佐伯 哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋 弘.
ポスターセッション11；アテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法 4 . 第28回日本肝がん分子標的治療研究会. 札幌, 2023.6.24.

3）CRC業務の適正化に関する取り組み～次世代も継続可能なCRC業務とするために～ .
木村梨沙、白川敦規、川﨑美幸、大久保房庫、久保三紀子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表）;CRC•CRA業務の工夫. 第23回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山. 岡山, 2023.9.16-17.

4）小児対象新型コロナワクチン観察研究のスケジュール管理について.
瓦田秀美、川﨑美幸、白川敦規、冨田英里、金沢愛弓、隅 明子、松井亜紀、藤岡優子、玉城葉子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表）;CRC•CRA業務の工夫. 第23回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山. 岡山, 2023.09.16-17.

5）治験検体の取り扱いに関する業務のタスクシフトについて.
冨田英里、白川敦規、久保三紀子、瓦田秀美、金沢愛弓、隅 明子、大神由美、松井亜紀、玉城葉子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表）；実施体制の整備. 第23回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山. 岡山, 2023.9.16-17.

6）小児を対象とした新型コロナワクチン接種の観察研究；CRC業務未経験の事務スタッフの経験から.
松井亜紀、白川敦規、大久保房庫、木村梨沙、冨田英里、瓦田秀美、金沢愛弓、隅 明子、藤岡優子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表）;CRC•CRA業務の工夫. 第23回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山. 岡山, 2023.9.16-17.

7）脂肪性肝疾患における超音波信号の減衰量を用いた Attenuation measurement method（iATT）の有用性について.
片山絢郁、西浦哲哉、手嶋翔一朗、小林真未、阿比留正剛、長岡進矢.
ポスター 27；生理検査 1 － 2 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

8）小児を対象とした新型コロナワクチン観察研究；事務スタッフとしての経験.
松井亜紀、川崎美幸、白川敦規、大久保房庫、久保三紀子、木村梨沙、冨田英里、瓦田秀美、金沢愛弓、隅 明子、藤岡優子、玉城葉子、大神由美、小森敦正.
ポスター 175；臨床研究・治験 2 － 3 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**＜ワークショップ＞**

1）核酸アナログ投与前後の血清ミオスタチン測定の意義.
末廣智之、小森敦正、八橋弘.
ワークショップ13；肝疾患におけるサルコペニア診断と栄養・運動介入の課題. 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.

2）Bモードベースの造影超音波（Low-MI THI）とFusion imagingを組み合わせた肝局所治療支援.
本吉康英、杉尾小百合、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
ワークショップ 7 ；肝腫瘍画像診断の新たな展開. 第59回日本肝癌研究会. 大阪, 2023.7.28.

3）原発性胆汁性胆管炎のトランスクリプトームデータを用いた治療標的遺伝子の探索.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、伊東正博、小森敦正、中村稔.
ワークショップ 2 ；肝胆膵免疫疾患の最新の知見. 第60回日本消化器免疫学会総会. 東京, 2023.10.6.

**B-c：研究会発表**

1）C型肝炎治療後のケモカイン変動解析.
末廣智之.
講演③. 第14回DAA研究会. 函館, 2023.9.9.

2）肝炎発症前から経過観察したB型急性肝炎の 2 例のHBsAg-HQと高感度HBcr抗原の血中動態.
山﨑一美、八橋弘.
第11回B型肝炎ウイルスマーカー研究会. 神戸, 2023.11.3.

**C，D，F：学術講演他**

**C-a：学術講演［国際］**

**＜講演＞**

1）Primary Bliary Cholangitis - Can We Improve Quality of Life ?.
Komori A.
Satellite Symposium 2 GSK：Addressing Clinical Gaps and Challenges in Hepatology -What Else Can We Do? The 32nd Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver（APASL 2023）. Taipei, 2023.2.17.

**C-b：学術講演［国内］**

**＜講演＞**

1）①B型肝炎、C型肝炎について　②「ウイルス肝炎の感染性についての理解度に関するアンケート調査」.
八橋弘.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和 4 年度）. 長崎（Web), 2023.2.17.

2）肝がん・肝硬変、NASH、PBC、AIHについて.
小森敦正.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和 4 年度）. 長崎（Web), 2023.02.17.

3）肝疾患と糖尿病について：NAFLD、MAFLDを巡る病診連携に向かって.
小森敦正.
レクチャー 2 . 大村地区糖尿病講演会. 大村, 2023.4.27.

4）DAA 治療 〜 SVR がもたらしたことと今後の展開〜 .
八橋弘.
ランチョンセミナー 1 . 第121回日本消化器病学会九州支部例会/第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.12.

5）人生100年時代の STOP 慢性肝臓病！
小森敦正.
講演 1 . 令和 5 年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」〜 STOP 慢性肝臓病！ STOP 肝細胞がん！ 診断と治療のアップデート. 大村（オンデマンド配信), 2023.11.16.

**＜特別講演＞**

1）肝疾患の拾い上げと病診連携 2023 〜 C型肝炎、NASH、自己免疫性肝障害〜 .
小森敦正.
南高医師会学術講演会. 雲仙（Web), 2023.3.16.

**＜インストラクター＞**

1）ファントムモデルを用いた胆膵臓器の標準的描出法の習得.
佐伯哲.
ハンズオンセミナー . 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.04.08.

2）腹部スクリーニングの基本.
本吉康英.
ハンズオンセミナー. 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.8.
3）腹部スクリーニングの基本.
末廣智之.
ハンズオンセミナー. 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.8.

**＜ディスカサント＞**
1）irAE対策について.
本吉康英.
パネルディスカッション. HCC Expert Forum in Nagasaki. Web, 2023.11.10.

**D：学会・研究会開催**
1）安井順一.
第26回長崎県NST研究会. 長崎市, 2023.10.7.

**E：研究会世話人**
**＜長崎県責任者＞**
1）小森敦正.
令和5年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」～STOP慢性肝臓病！ STOP肝細胞がん！診断と治療のアップデート. 大村（オンデマンド配信）, 2023.11.16.

**F-a：学会・研究会座長[国際学会]**
**＜Chair＞**
1）Komori A.
Early Morning Workshop 3；Fibrosis Regression after Antiviral Therapy in Patients with Chronic Viral Hepatitis, Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Conference 2023（APASL STC 2023）. Busan Korea, 2023.9.23.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**
**＜司会＞**
1）八橋 弘.
イブニングセミナー；Eliminationに近づいたC型肝炎治療とpost-SVRにおける諸問題, 第27回日本肝がん分子標的治療研究会. 大阪, 2022.01.13.
2）八橋 弘.
ワークショップ12；B型肝炎治療の新たな展開, 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.04.08.
3）小森敦正.
ワークショップ１；九州の基礎・臨床研究：腫瘍免疫・自己免疫・ゲノム, 第121回日本消化器病学会九州支部例会/第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 福岡, 2023.05.12.
4）八橋弘.
モーニングセミナー６；実臨床における高感度コア関連抗原のインパクト. 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.15-16.
5）小森敦正.
パネルディスカッション５；遺伝・代謝性肝疾患の未来予想図（現状と課題）, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.
6）八橋弘.
ポスターセッション４；レンバチニブ１. 第28回日本肝がん分子標的治療研究会. 札幌, 2023.6.24.

7）小森敦正.
若手セッション 4 ；自己免疫性肝疾患・胆管炎. 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.7.

**＜座長＞**

1）八橋弘.
受賞講演；肝癌薬物治療におけるEOB-MRIの役割, 第25回長崎肝癌研究会学術講演会. 長崎, 2023.2.9.

2）八橋弘.
特別講演；C型肝炎撲滅に向けて～最新治療と肝臓病の残された課題～ , Nagasaki Live Forum 2023. 長崎, 2023.6.9.

3）八橋弘.
特別講演；B型肝炎ウイルスとその再活性化－肝移植医療の現場から－. B型肝炎フォーラム in 長崎. 大村, 2023.7.7.

4）八橋 弘.
一般演題19；非B非C肝癌. 第59回日本肝癌研究会. 大阪, 2023.7.28.

5）小森敦正.
一般演題 1 ；NASH①. 第30回肝細胞研究会. 鹿児島, 2023.8.24.

6）末廣智之.
専攻医発表；肝・胆・膵 3 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会／第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

**＜ディスカサント＞**

1）小森敦正.
シンポジウム 9 ；若手医師フォーラム. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

**＜特別発言＞**

1）八橋弘.
特別企画；患者さん視点で消化器診療の一翼を担う「メディカルスタッフゆいまーる」～沖縄からの発信～ , 第122回日本消化器病学会九州支部例会／第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

**G：その他**

**＜開催＞**

1）八橋弘.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和 4 年度）. 長崎（Web）, 2023.02.17.

2）八橋弘.
厚生労働行政推進調査事業補助金（肝炎等克服政策事業）様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究（23HC2004）「肝炎患者のおかれた状況について考える公開シンポジウム」. 長野, 2023.8.26.

3）八橋弘.
厚生労働行政推進調査事業補助金（肝炎等克服政策事業）様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究（23HC2004）「肝炎患者のおかれた状況について考える公開シンポジウム」. 秋田, 2023.12.10.

**＜Task Force＞**

1）長岡進矢.
S-Ⅰ；社会が求める医師の基本的臨床能力とは.令和 5 年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会. 福岡, 2023.11.17.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 循環器内科

責任者　於久 幸治

## 診療科の特色

**循環器内科の特徴**

1）冠動脈疾患の治療成績向上と長期予後の改善（再発予防のためのパス）
2）心房細動を含む不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療
3）心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療
4）学会活動
5）研修医指導

現在循環器内科はスタッフ5名とレジデント1名からなり、そのうちスタッフの4名は日本循環器学会の循環器専門医でかつ当院は日本循環器学会認定循環器専門医研修施設です。2023年はPCI症例が191例とここ10年で200例に届きませんでしたが、下肢血管形成術（EVT）は39例で合計では200例を超えました。最近では糖尿病を合併した透析患者さんの重症下肢虚血が増加しているように思えます。他科やかかりつけ医の先生方とも連携し、さらに地域医療に貢献して行きたいと思います。

**不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療**

2023年は、全アブレーション数106例（cf.前年：78例)、内81例（76%）が心房細動例でした。2021年に導入したクライオアブレーションによる治療は、2023年は29例（cf.前年：19例）に施行しています。不整脈で悩まれている症例にとってカテーテルアブレーションは良い治療法であり、件数は当院においても増加の傾向にあります。一方で、限られた治療枠および時間内で手技を終えることの重要性も強く認識しています。引き続き、医療の安全な提供を行えるよう万全の注意を払うとともに、仕事の効率化を図っていきたいと考えています。

**PCI治療成績の向上、長期予後の改善**

当院は県下でも少ない日本心血管インターベンション治療学会研修施設で、県内でもっとも早くから認定されています。そのためPCIの治療成績向上のみならず、日本心血管インターベンション治療学会専門医が3人在籍し、患者さんの治療、若手医師の教育や指導を行っています。COVID-19も落ち着いてきたので2023年12月9日には4年半ぶりに長崎PCIライブデモンストレーションを行いました。県内外から多くの先生方にご参加いただき、4症例の複雑病変のPCIをディスカッションしながら、すべて成功に終わりました。今後も質の高いPCI治療を目指して、頑張りたいと思います。

**心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療**

高齢化に伴い日本全体で心不全患者が増加し、重症心不全患者さんには内服強化療法と心臓リハビリテーションを行っています。それでも心不全がコントロール出来なければ両室同期ペーシング治療や和温療法を行っています。積極的に和温療法を行っているのは県内でも当院のみです。

看護師や理学療法士を中心とした心不全療養指導士8名（今年度予定）が在籍し心不全患者の指導に頑張っています。

**学会活動**

2023年はCOVID-19の影響が小さくなり学会や研究会の多くがウエブから対面での開催になり、それに伴い下記の頁にありますように数多くの発表を行いました。今後も学会活動は積極的に続けていきます。

**研修医指導**

毎月1名から多い時には3名の研修医がローテーションで循環器内科を廻っています。研修医には可能な限り地方会等での学会発表を行うように指導し、一方毎週一回金曜日の午後に研修医回診を行っています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 5,931人 | 16.2人 | 700人 | 753人 | 12人 | 8.2日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 354件 | 86.8% | 868件 | 187.9% | | |

### 診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 343人(46.2%) | 163人(21.9%) | 18人(2.4%) | 17人(2.3%) | 5 人(0.7%) | 62人(8.3%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 26人(3.5%) | 43人(5.8% ) | 16人(2.2%) | 2 人(0.3%) | 2 人(0.3%) | 6 人(0.8%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 16人(2.2%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 11人(1.5%) | 3 人(0.4%) | 3 人(0.4%) | 7 人(0.9%) |

| 合計 |
|---|
| 743人 |

### 入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 1）心不全 | I5.0-9，I11.0 | 80 | 0 |
| 2）急性心筋梗塞 | I21.0-9 | 45 | 3 |
| 3）陳旧性心筋梗塞 | I25.2 | 80 | 0 |
| 4）狭心症 | I20.0-9，I25.6 | 244 | 1 |
| 5）拡張型心筋症 | I42.0 | 4 | 0 |
| 6）肥大型心筋症 | I42.1-2 | 1 | 0 |
| 7）弁膜症 | I05.0-9，I06.0-9，I35.0-9，I34.0 | 12 | 0 |
| 8）頻脈性不整脈 | I45.6，I47.0-9，I48，I49.0-91 | 140 | 2 |
| 9）洞不全症候群 | I49.5 | 11 | 0 |
| 10）完全房室ブロック | I44.2 | 10 | 0 |

### 主要検査件数

| 検査 | 症例数 |
|---|---|
| 1）心臓カテーテル検査 | 385 |
| 2）臨床電気生理学的検査 | 5 |
| 3）心エコー（病棟） | 約300 |
| 4）経食道心エコー | 115 |
| 5）CPX検査 | 4 |

**特殊検査ならびに治療成績**

| 特殊治療法 | 合併症とその内容 | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 1）経皮的冠動脈形成術 | | 191 | 0 |
| 2）経皮的僧帽弁裂開術 | | 0 | 0 |
| 3）経皮的血管形成術 | | 39 | 0 |
| 4）ペースメーカ植え込み術 | （交換術） | 37(13) | 0 |
| 5）カテーテルアブレーション | （心房細動） | 106(81) | 0 |
| 6）植え込み型除細動器 | （交換術） | 9(4) | 0 |
| 7）心臓再同期療法 | （交換術） | 3(0) | 0 |
| 8）植え込み型心電計 | | 1 | 0 |
| 9）下大静脈フィルター | | 5 | 0 |

＊ペースメーカ植え込み症例の内、リードレスペースメーカは17症例です。

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 読影カンファレンス | 4 /週 |
| 心カテカンファレンス | 4 /週 |
| 心外科合同カンファレンス | 1 /週 |
| 循環器内科研修医回診 | 1 /週 |
| 循環器セミナー | 1 /週 |
| 循環器内科抄読会 | 1 /週 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 7 | 2 | 17 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 大村東彼杵薬剤師会 | 南高来医師会 | 諫早医師会 | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 2 | 1 | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 2 | 10 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

# 研究業績

## 論　文　発　表

**B：和文**

**B-a2：和文症例報告**

1）【動静脈奇形症例集［1］－手足－】心不全症状を来たしたParkes Weber症候群に対して塞栓－硬化療法を用いて疼痛と心機能の改善が見られた1例.
野口美帆、吉野健太郎、福井季代子、藤岡正樹、松尾崇史、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科　2023；66(11)：1259-1264.

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜Oral＞**

1）Tips for performing DCA for LMT bifurcation lesions with stenotic lesions from the ostium to the middle site of LAD.
Matsuo T, Oku K, Ishimatsu T, Fukae A, Fukuda Y, Tsurukawa K, Mori Aya.
Oral Presentation 89; CHIP-3, 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2023）. 福岡, 2023.8.5.

2）Usefulness of One puncture retrograde approach（OPRA technique）for CTO of SFA of lower limb.
Tsurukawa K, Fukuda Y, Matsuo T, Mori A, Fukae A, Ishimatsu T, Oku K.
Oral Presentation 71；Peripheral Artery Disease（PAD)-7. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2023）. 福岡, 2023.8.5.

**＜ポスター＞**

1）右冠動脈留を合併したACS症例－治療に難渋した冠動脈拡張症を有するSTEMI症例の検討－.
深江貴芸.
Digital Poster Session；ACS①. 近畿心血管治療ジョイントライブ（KCJL）2023. 大阪, 2023.4.14.

2）Debulking DCB後の残存プラーク面積と再狭窄の関係.
於久幸治、鶴川晃二郎、福田侑甫、松尾崇史、深江貴芸、森彩、石松卓.
メディカル一般ポスター 22；Rotablator /OAS/DCA-4. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2023）. 福岡, 2023.8.4.

3）当院でのFFRが0.8以上であった症例についての検討.
福田侑甫、鶴川晃二郎、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治.
メディカル一般ポスター 46；Flow Wire/Pressure Wire/FFR CT-1. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2023）. 福岡, 2023.8.5.

4）当院でのLMTへステントレスPCIの経験　非保護LMTへのステントレスPCI患者の臨床的特徴および長期成績の検討.
深江貴芸、鶴川晃二郎、福田侑甫、松尾崇史、石松卓、於久幸治.
メディカル一般ポスター42; LMT, 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会(CVIT2023). 福岡, 2023.8.5.

5）当院における冠動脈新規狭窄病変に対するDCB（≧3mm）の長期治療成績.
松尾崇史、於久幸治、石松卓、福田侑甫、深江貴芸、鶴川晃二郎、森彩.
メディカル一般ポスター 49；DCB-2. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2023）. 福岡, 2023.08.05.

＜口演＞

1）22q11.2欠損症候群に続発する低カルシウム血症の影響と思われた心筋症の１例.
塩塚高史、福田侑甫、鶴川晃二郎、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治、佐藤俊輔、伊東正博.
研修医セッション３. 第134回日本循環器学会九州地方会. 熊本, 2023.6.24.

2）急性下壁心筋梗塞に合併した心室中隔穿孔の1 例.
梶原優介、福田侑甫、鶴川晃二郎、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、田口寛子、嶋田隆志、有吉毅子男、於久幸治.
研修医セッション１. 第135回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2023.12.2.

**C, F, G：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

＜講演＞

1）腎保護から心不全を合併した糖尿病性腎症を治療する.
於久幸治.
東彼杵郡医師会火曜会 生涯教育講座. 東彼杵, 2023.2.14.

2）心房細動検出の重要性とアブレーション.
石松 卓.
講演Ⅰ. 脈の日を考える Webセミナー. Web, 2023.3.9.

3）ELDERCARE-AFから考える超高齢者心房細動に対する抗凝固剤のあり方.
於久幸治.
講演Ⅱ. 脈の日を考える Webセミナー. Web, 2023.3.9.

4）どうする？心不全患者の血圧管理.
深江貴芸.
講演１. 慢性心不全講演会 in 大村. 大村（Web), 2023.3.15.

5）２型糖尿病合併症の虚血性心疾患の予防・治療について　特にGLP-1受容体作動薬.
於久幸治.
レクチャー②. 諫早医師会学術講演会. 諫早, 2023.4.14.

6）離島・へき地における高齢心房細動患者の診断と抗血栓療法について.
於久幸治.
特別講演. 医療課題を考える会 in 長崎. Web, 2023.4.19.

7）循環器内科医がであう糖尿病.
福田侑甫.
レクチャー 1. 大村地区糖尿病講演会. 大村, 2023.4.27.

8）心房細動と血圧管理.
深江貴芸.
講演１. 第７回大村市循環器疾患Webセミナー. 大村（Web), 2023.7.13.

9）CCS経過観察における虚血評価の実際.
於久幸治.
ランチョンセミナー 15, 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2023). 福岡, 2023.8.4.

10）県央地域連携パスとAMI二次予防（脂質管理）について.
於久幸治.
講演１. 長崎県 急性心筋梗塞の地域医療連携の会. 長崎（Web), 2023.09.11.

11）心不全合併糖尿病患者の治療.
於久幸治.
九州縦断経口GLP-1 セミナー. Web, 2023.10.12.

12）臨床試験から見たレクビオの使用経験.
　於久幸治.
　長崎分科会. LEQVIO Web Symposium. 佐賀（Web）, 2023.10.19.
13）演題名記載なし
　松尾崇史.
　講演①. ARNI Web Seminar ～心腎における高血圧治療 up-to-date ～ . Web, 2023.10.23.
14）臨床試験から見たレクビオの使用経験.
　於久幸治.
　長崎県央分科会. LEQVIO Web Symposium. Web, 2023.11.7.
15）２型糖尿病合併症の虚血性心疾患の予防・治療について～特に経口GLP-1受容体作動薬～ .
　於久幸治.
　循環器医のためのGLP-1RA臨床セミナー . 長崎, 2023.11.21.

**＜パネリスト＞**

１）心不全について.
　塩塚高史.
　パネルディスカッション. 循環器疾患 Joint Conference 講演会. 大村, 2023.5.24.

**＜ディスカサント＞**

１）急性心筋梗塞における連携パスを軸とした地域医療連携.
　於久幸治.
　ディスカッション. 長崎県 急性心筋梗塞の地域医療連携の会. 長崎（Web）, 2023.9.11.

**＜ワークショップ＞**

１）急性下壁心筋梗塞に心室中隔穿孔を合併した症例.
　梶原優介.
　症例検討, 第7回長崎循環器卒後セミナー . 長崎（Web）, 2023.6.17.
２）Ⅰ. 症例検討.
　深江貴芸.
　長崎EVT講演会. Web, 2023.6.21.

**F-a：学会・研究会座長［国際学会］**

**＜Commentator＞**

　Oku K.
　Oral Presentation 8; Rotablator/OAS/DCA-1, 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2023）. 福岡, 2023.8.4.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

１）於久幸治.
　特別講演. 尿酸カンファレンス in 県央－ABCG2の役割と重要性を含めて－. 大村（Web）, 2023.1.26.
２）於久幸治.
　講演１. 講演２. 慢性心不全講演会 in 大村. 大村（Web）, 2023.3.15.
３）於久幸治.
　講演Ⅰ. 講演Ⅱ. VTE Web Seminar. Web, 2023.3.23.

4）於久幸治.
特別講演. イグザレルト錠 WEB Conference ～深部静脈血栓症の治療と再発予防～ . Web, 2023.4.21.
5）於久幸治.
第10回循環器と糖尿病フォーラム. Web, 2023.6.12.
6）於久幸治.
講演 2 . 第 7 回大村市循環器疾患Webセミナー . 大村（Web), 2023.7.13.
7）於久幸治.
講演②. ARNI Web Seminar ～心腎における高血圧治療up-to-date ～ . Web, 2023.10.23.
8）安井順一.
講演 1 . 糖尿病と循環器疾患を考えるWebセミナー . 大村（Web), 2023.12.8.
9）於久幸治.
講演 2 . 糖尿病と循環器疾患を考えるWebセミナー . 大村（Web), 2023.12.8.

**＜ファシリテーター＞**

1）心不全について.
於久幸治.
パネルディスカッション. 循環器疾患Joint Conference講演会. 大村, 2023.5.24.

**＜司会＞**

1）於久幸治.
症例検討. 第 7 回長崎循環器卒後セミナー . 長崎（Web), 2023.6.17.

**＜総合座長＞**

1）於久幸治.
講演Ⅰ . 講演Ⅱ . CRA症候群治療戦略セミナー . Web, 2023.10.24.

**G：その他**

1）於久幸治.
循環器医からのご意見番, 長崎 ETV 講演会. Web, 2023.06.21.

**＜審査員＞**

1）於久幸治.
Case Report Award 1 . 第134回日本循環器学会九州地方会. 熊本, 2023.6.24.
2）於久幸治.
研修医セッション 1 . 第135回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2023.12.2.

**＜オペレーター＞**

1）於久幸治.
第22回長崎PCIライブデモンストレーション. 大村, 2023.12.09.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 感染症内科

責任者　近藤 晃

## 診療科の特色

当院は、旧大村海軍病院長 泰山弘道 著「長崎原爆の記録」に記されているように、戦後まもなくペニシリン治療を導入したことで、日本国内における感染症治療の先駆けとなった病院です。平成26年４月１日付で、感染症内科は院内の診療科の一つとして標榜されました。感染症内科はICDの内科医師で構成され、ICT/ASTチームとして薬剤師、臨床検査技師、看護師も参加し、毎週、コンサルテーション症例、許可制抗菌薬や届出制の抗菌薬長期投与症例、血液培養陽性症例のカンファレンスを行っています。また、各診療科で診断・治療に難渋する感染症症例のコンサルテーションを受けています。依頼された症例を主治医と協同して併診し、エビデンスに基づいた診療を行うよう心がけています。新型コロナウイルス感染症に関しては、主にクラスター対応や隔離対応・治療方針に関してのコンサルテーションを中心に対応を行なっております。また、MDRAを始めとする薬剤耐性菌などの院内感染対策に主導的に取り組んでいます。その他、地域の医療機関や施設などへの訪問や相互評価を行ない、感染症の知識共有や啓蒙啓発活動も担っています。

今後一層の当感染症診療の強化、院内感染対策、抗菌薬適正使用の推進、さらに研修医・レジデント・コメディカルへの教育も積極的に行うよう努力していき、感染症専門医の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

【活動】

1．入院患者を対象とした感染症診療のコンサルテーション
　依頼に応じてラウンドし、週１回カンファレンスで治療方針の検討を行っている。
2．ICT活動として、血液培養陽性症例に対して、適切な治療計画がなされているかカンファレンスで検討。
3．AST活動として、抗菌薬の適正使用への向けての評価・助言・介入の活動。
4．近隣の医療機関などとの感染対策向上への医療連携。
5．治験、研究への取り組み 呼吸器内科と共同し、感染症治療薬の治験や臨床研究への取り組み。

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名　　称 | 年 | 開催頻度 |
|---|---|---|
| 感染症内科カンファレンス | 48回 | １回／週 |

**AST活動**

| 項　　目 | 数 |
|---|---|
| コンサルテーション | 91例 |
| 血培陽性者 | 618例 |
| 抗MRSA薬、広域抗菌薬届出制薬剤 | 418件 |
| 抗MRSA許可制薬剤 | 20件 |

**〈届出・許可抗菌薬長期使用者 検討数〉**

- 届け出薬：80件
- 許可薬：20件
- カルバペネム系抗菌薬：123件
- TAZ/PIPC　5日以上使用：418件

**〈血培陽性者検討数〉**　618件

| 診療科 | 件数 | 診療科 | 件数 |
|---|---|---|---|
| 総合診療科 | 162 | 精神科 | 16 |
| 肝臓内科 | 95 | 呼吸器内科 | 10 |
| 外科 | 61 | 消化管内科 | 8 |
| 血液内科 | 45 | 代謝内科 | 4 |
| 循環器内科 | 13 | 整形外科 | 9 |
| 心臓血管外科 | 2 | 形成外科 | 7 |
| 呼吸器外科 | 2 | 産婦人科 | 7 |
| 耳鼻咽喉科 | 11 | 脳神経外科 | 27 |
| 腎臓内科 | 14 | 神経内科 | 18 |
| 泌尿器科 | 34 | リウマチ科 | 10 |
| 皮膚科 | 2 | 救急科 | 2 |
| | | 内科当直 | 59 |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 小児科

責任者　本村 秀樹・青木 幹弘

## 診療科の特色

**★診療科の１年の動き**

昨年10月にNICUの改修を行いました。NICU病床は９のままですが、１床あたりの面積が広くなりました。ご両親の面会もしやすくなり、赤ちゃんによりやさしい医療を届けたいと思います。小児病棟でも個室を改修して、壁がきれいになり、明るくなりました。

また、キティーちゃんが病棟に遊びにきてくれました。おなじみのキャラクターに子どもたち、保護者の方々、私たちは元気をいただきました。

入院数について、NICUは2022年131人、2023年126人でした。一般小児科は2022年896人、2023年1,112人でした。救急外来の受診者数は2020年1,288人（入院239人）、2021年1,512人（入院252人）、2022年1,445人（入院254人）2023年1,858人（入院365人）と2023年は増加しています。

新生児から中学生までの子どもたちに24時間医療を提供しています。診療の特徴としては長崎県総合周産期母子医療センターに指定されているNICUと長崎県てんかんセンターに指定されているてんかん診療があります。てんかんについてはビデオモニタリングシステム、SPECTなど術前評価を行い、手術を行っています。小児循環器領域では心臓カテーテル検査を行うとともに、重症心疾患が疑われる場合は胎児から産婦人科の先生と出生後の経過を予測し、分娩施設の選択を行っています。

教育については小児科専攻医研修基幹施設ならびに小児科専攻医研修支援施設に認定されています。また、日本周産期・新生児医学会研修基幹施設、日本小児循環器学会研修施設、日本小児神経学会研修基幹施設にも認定されており、若手医師の育成・指導にも力を入れています。小児科専門医育成については当院のプログラムで過去５人の小児科専門医を育成しています。また、総合診療科の家庭医療後期研修プログラム、産婦人科医育成プログラムの小児領域の研修も受け入れています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 11,044人 | 30.3人 | 1,220人 | 1,220人 | 7 人 | 9.1日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 617件 | 95.2% | 1,185件 | 124.0% | 1 件 | 0.1% |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 587人(48.3%) | 186人(15.3%) | 18人(1.5%) | 22人(1.8%) | 9 人(0.7%) | 49人(4.0%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 61人(5.0%) | 44人(3.6%) | 35人(2.9%) | 8 人(0.7%) | 1 人(0.1%) | 25人(2.1%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 人(0.2%) | 1 人(0.1%) | 5 人(0.4%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 3 人(0.2%) | 5 人(0.4%) | 34人(2.8%) | 120人(9.9%) |

| 合計 |
|---|
| 1,215人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 1）喘息・喘息性気管支炎 | J450,J451,J458,J459,J46 | 17 | 0 |
| 2）気管支炎 | J209 | 163 | 0 |
| 3）肺炎 | J189 | 91 | 0 |
| 4）RSウイルス感染症 | B348,J205,J210,J121 | 99 | 1 |
| 5）川崎病 | M303 | 26 | 0 |
| 6）てんかん | G40,G40-G409 | 201 | 0 |
| 7）心室中隔/心房中隔欠損症 | Q210, Q211 | 6 | 0 |
| 8）アナフィラキシー | T780,T781 | 19 | 0 |
| 9）超低出生体重児 | P070 | 12 | 1 |
| 10）極低体重出生児 | P071a | 11 | 0 |

**主要検査件数**

| 検査 | 症例数 |
|---|---|
| 1）脳波ビデオモニタリング | 216 |
| 2）低身長精査 | 8 |
| 3）心臓カテーテル検査 | 8 |

**特殊検査ならびに治療成績**

| 特殊治療法 | 症例数 |
|---|---|
| 人工換気（NICU） | 27 |
| サーファクタント補充療法 | 23 |
| PDAに関する薬物療法 | 12 |
| インダシン | 6 |
| イブリーフ | 3 |
| 低体温療法 | 1 |
| NO吸入療法 | 2 |
| 腸重積整復 | 7 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 一般小児病棟カンファレンス | 毎週月曜　16時から |
| NICUカンファレンス | 毎週金曜　15時から |
| 抄読会 | 毎週木曜　8 時15分から |
| NICU・一般合同カンファレンス | 第 3 木曜日　8 時30分から |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 2（ 1 ） | 2 | 1 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 5 | 4 | 5 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 2 | 0 | 3 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 2 | 2 | 5 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Two-year efficacy of lacosamide as adjunctive therapy for generalized tonic-clonic seizures in patients with juvenile myoclonic epilepsy.
Yu Kobayashi, Ryoko Honda, Kei Yamada, Moemi Hojo, Masaki Miura, Eijun Seki, Tomonori Ono, Jun Tohyama.
Brain Dev 2023；45：451-455.

2）Four conserved amino acids on human papillomavirus E6 predict clinical high-risk types.
Hamaguchi Y（Co-first authorship), Niiya A（Co-first authorship), Mishima H, Miura S, Komatsu N, Nagata K, Hasegawa Y, Miura K, Yoshiura K.
Journal of medical virology 2023；95(8)：e29049.

3）Comparison of dwell time and complications between peripheral venous catheters and midline catheters in infants weighing≥500 g at birth.
Tsunozaki K, Suenaga H, Aoki M, Hamaguchi Y.
Pediatrics international 2023；65(1)：e15611.

**B：和文**

**B-a2：和文症例報告**

1）髄液multiplex PCRから診断された新生児ヒトパレコウイルス感染症の 4 例.
Otuka K, 山根友里子、石川太郎、島崎敦、種岡飛翔、西口亮、武田敬子、石橋洋子、桑原義典、本田涼子、安忠輝、末永英世、青木幹弘、本村秀樹.
長崎医学学会雑誌 2023；98(1)19-24.

**B-b：和文総説**

1）薬剤抵抗性てんかんに対する新しいアプローチ.
本田涼子.
脳と発達 2024；56：18-23.

**B-c2：和文著書［分担］**

1）CDKL5関連症候群.
本田涼子.
てんかん症候群　診断と治療の手引き，メディカルレビュー社 2023；pp243-246.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会，国際会議**

**A-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜ワークショップ＞**

1）本田涼子.
第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.21.

**B：国内学会**

**B-a：特別講演, 教育講演**

**＜教育講演＞**

1）てんかん外科手術を考える時に必要な発作徴候.
本田涼子.
実践教育セミナー 2 . 第65回日本小児神経学会学術集会. 岡山, 2023.5.24.

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）West症候群に対する外科的治療の考え方.
本田涼子、安忠輝、小野智憲、戸田啓介、馬場啓至.
シンポジウム24. 第65回日本小児神経学会学術集会. 岡山, 2023.5.27.
2）てんかん外科治療を検討するための検査と診断のポイント.
本田涼子、安忠輝、小野智憲、戸田啓介、馬場啓至.
シンポジウム 5 . 第65回日本小児神経学会学術集会. 岡山, 2023.5.25.
3）誰も取り残さないてんかん移行期医療.
本田涼子、安忠輝、西口奈菜子、池田憲呼、内田大貴、佐藤和明、小野智憲.
シンポジウム 2 . 第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.20

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）MRIの経時的評価で診断に至った急性骨髄炎.
百岳龍平石川太郎、島崎敦、種岡飛翔、石橋洋子、本田涼子、安忠輝、本村秀樹.
日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2023.4.23.
2）外耳道に自然排膿した深頸部膿瘍.
舩原知香、山元みいる、春日亀千寿、畑地耕次、本田涼子、安忠輝、本村秀樹、田中藤信.
日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2023.7.30.

3）乳児期に呼吸障害をきたした舌根部嚢胞の一例.
鳴尾聡一郎、本村秀樹、佐藤美悠、石橋信弘、山田洸夢、石橋洋子、沖田奈菜、森彩加、吉田晴郎.
外科・在宅. 日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2023.12.24.
4）嚥下障害、呼吸苦からコイン型電池の食道停滞と診断された 6 歳女児例.
髙橋克仁、本村秀樹、佐藤美悠、鳴尾聡一郎、石川太郎、石橋信弘、山田洸夢、池田憲呼、西口奈菜子、石橋洋子、本田涼子、安忠輝.
外科・在宅. 日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2023.12.24.

**＜座長＞**

1）本田涼子.
電気生理（脳波、筋電図、脳磁図など）. 第65回日本小児神経学会学術集会. 岡山, 2023.5.25.
2）濵口陽.
新生児日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2023.7.30.
3）石橋洋子.
循環器・アレルギー日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2023.7.30.
5）本田涼子.
English Session 1 . 第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.19.

**＜ポスター＞**

1）低出生体重児と小児呼吸器疾患との関連についての検討〜 21世紀出生児縦断調査〜
西口亮、難波文彦
第67回日本新生児成育医学会. 横浜, 2023.11.4.

**B-c：研究会発表**

**＜講演＞**

1）てんかんのこどもをみるときのコツ.
本田涼子.
小児神経疾患セミナー in山口. 山口（ハイブリッド）, 2023.2.16.
2）むずかしくないてんかん診療
本田涼子.
第8回小児神経学サテライトセミナー . 鹿児島（ハイブリッド）, 2023.9,3.
3）発達と併存疾患を考慮したてんかん治療戦略.
本田涼子.
第5回てんかんと臨床脳波セミナー . 沖縄（ハイブリッド）, 2023.11.24.
4）小児てんかん患者さんの外科治療への橋渡し.
本田涼子.
てんかん診療Webセミナー . Web, 2023.12.16.

**＜口演＞**

1）脳梁前半部離断術後に一過性の失語症状を呈した一症例.
本田涼子、小野智憲、島崎敦、安忠輝、内田大貴、戸田啓介、馬場啓至.
第30回九州山口てんかん外科研究会. Web, 2023.2.18.

＜座長＞

1）本田涼子.
　第 5 回てんかん診療を考える会. 長崎（ハイブリッド）, 2023.3.10.

2）本田涼子.
　Pediatric Epilepsy Expert Meeting. Web, 2023.4.27

3）本田涼子.
　西日本小児科てんかんカンファレンス. Web, 2023.7.27

4）本田涼子.
　長崎小児神経フォーラム. 長崎（ハイブリッド）, 2023.8.28

**D：学術講演他**

**D：学会・研究会開催**

＜司会＞

1）本田涼子.
　第34回小児脳機能研究会. 福岡, 2023.11.30.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 外科

責任者　黒木 保・南 恵樹・竹下 浩明・北里 周・米田 晃

## 診療科の特色

高い知識と技術の修得に努め、各科と綿密に連携をとり、患者に優しい治療を目指している。具体的には、1）安全・確実な手術　2）低侵襲治療の提供　3）先端医療の提供　4）診療成績の公表　5）かかりつけ医との密な連携　6）臨床研修指定病院としての初期／後期臨床研修の教育、外科医師教育　7）臨床研究の推進である。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 9,337人 | 25.6人 | 684人 | 734人 | 21人 | 13.2日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 188件 | 81.5% | 930件 | 350.9% | 2 件 | 0.1% |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 292人(40.8%) | 177人(24.7%) | 18人(2.5%) | 16人(2.2%) | 5 人(0.7%) | 55人(7.7%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 47人(6.6%) | 68人(9.5%) | 12人(1.7%) | 1 人(0.1%) | 2 人(0.3%) | 3 人(0.4%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 6 人(0.8%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 1 人(0.1%) | | 10人(1.4%) | 3 人(0.4%) |

| 合計 |
|---|
| 716人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 食道癌 | C15 | 15 | 0 |
| 胃癌 | C16 | 57 | 0 |
| 結腸癌 | C18 | 77 | 0 |
| 直腸癌 | C20 | 51 | 0 |
| 肝癌（転移性肝腫瘍含む） | C22 | 29 | 0 |
| 胆道癌 | C24 | 16 | 1 |
| 膵癌 | C25 | 14 | 0 |
| 胆のう結石、胆のう炎 | K80 | 84 | 0 |
| 乳癌 | C50 | 215 | 2 |
| 鼠経ヘルニア | K40 | 48 | 0 |

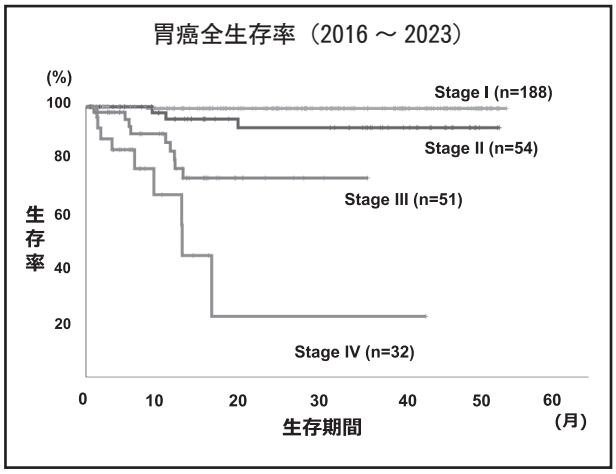
### 主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

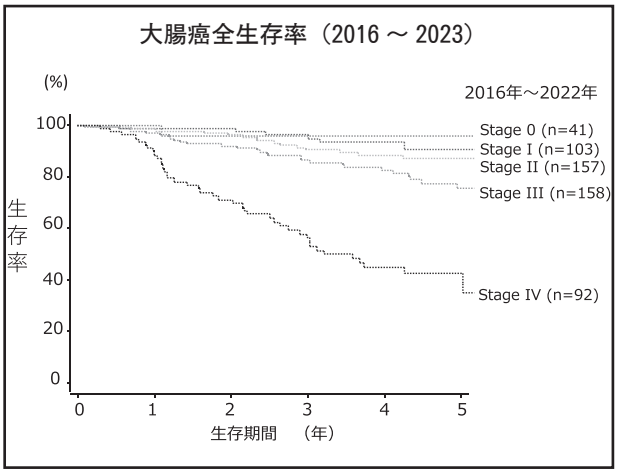
| 主要手術 | 症例数 |
|---|---|
| 食道がん手術 | 14 |
| 甲状腺手術 | 46 |
| 乳がん手術 | 109 |
| 幽門側胃切除術 | 28 |
| 胃全摘術 | 8 |
| 噴門側胃切除術 | 4 |
| 結腸切除術 | 61 |
| 直腸切除術 | 38 |
| 肝部分切除術 | 16 |
| 肝区域切除・肝葉切除術 | 29 |
| 胆嚢摘出術 | 112 |
| 膵頭十二指腸切除術 | 28 |
| 膵全摘術 | 3 |

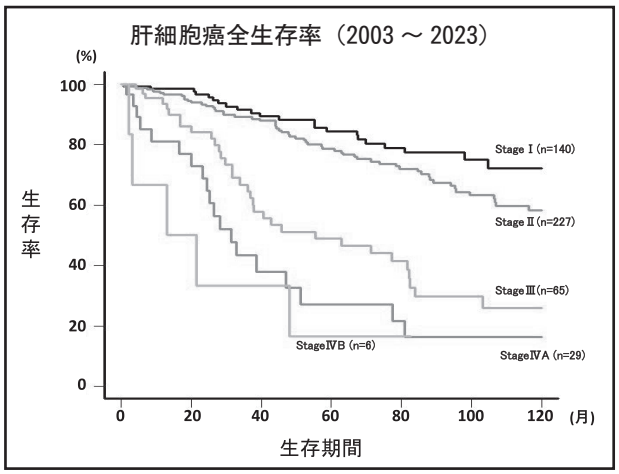
### 手術件数と麻酔

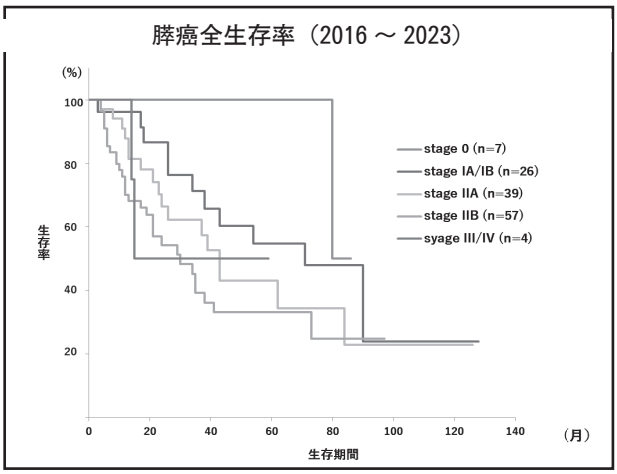
| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1,125 | 841 | 1 | 0 | 157 | 148 | 977 |

### その他診療科別の実績資料

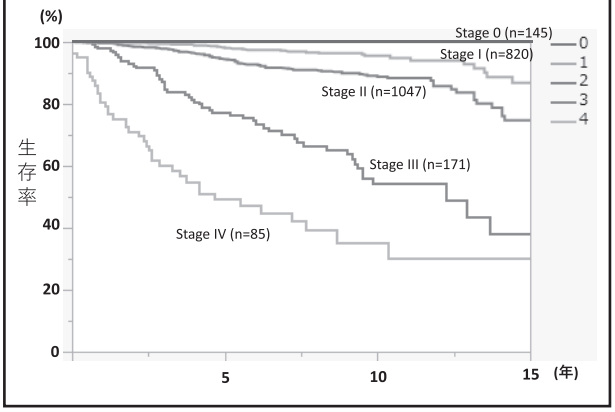


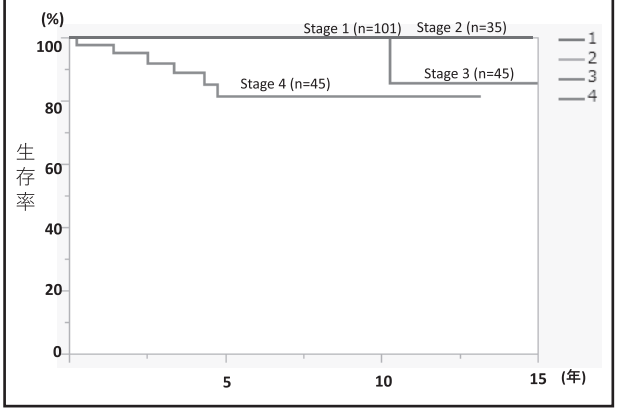



乳癌全生存率（2000 ～ 2022）




甲状腺癌全生存率（2000 ～ 2022）




## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 術前カンファランス | 1回/週 |
| 術後カンファランス | 1回/週 |
| 新患カンファランス | 1回/週 |
| 抄読会・勉強会 | 不定期 |
| カルテ廻診 | 1回/週 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 6（ 13 ） | 3（ 0 ） | 1（ 0 ） | 0 |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

**2）学会発表**　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（ 3 ） | 55（ 11 ） | 12（ 1 ） | 13（ 0 ） |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

**3）学術講演**　　（件数）

| 種類 | 国内 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | | | |

**4）学会座長**　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 7 | 6 | 3 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Additional superdrainage reduces anastomotic fistula and stenosis after gastric tube reconstruction with cervical anastomosis for esophageal cancer.
Fujioka M, Taniguchi K, Yoneda A, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
JTCVS Tech. 2023；19：142-146. doi：10.1016/j.xjtc.2023.03.005. eCollection 2023 Jun.

2）Relationship between perfusion index and central temperature before and after induction of anesthesia in laparoscopic gastrointestinal surgery：A prospective cohort study.
Hara K, Kaneko S, Ishioka T, Tobinaga S, Urabe S, Nakao A, Hamada K, Nagaoka K, Taniguchi M, Yamaguchi M, Takeshita H, Tanaka J, Kuroda H, Matsuura E, Ishimatsu Y, Honda S, Sawai T.
Medicine (Baltimore). 2023；102(9)：e33169.

3）Mid-term outcomes of laparoscopic vs open colectomy for pathological T4 and/or N2 colon cancer patients：Multicenter study using propensity score matched analysis.
Hashimoto S, Tominaga T, Nonaka T, Shiraishi T, To K, Takeshita H, Fukuoka H, Araki M, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Asian J Endosc Surg. 2023；16(3)：400-408. Epub 2023 Feb 17.

4）Usefulness of the endoscopic surgical skill qualification system for laparoscopic colectomy for transverse colon cancer：a Japanese multicenter analysis.
Ishimaru K, Tominaga T, Nonaka T, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, To K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Langenbecks Arch Surg. 2023；408(1)：271.

5）Endoscopic mucosal ischemic index for predicting anastomotic complications after esophagectomy：a prospective cohort study.
Kobayashi S, Kanetaka K, Yoneda A, Yamaguchi N, Kobayashi K, Nagata Y, Maruya Y, Yamaguchi S, Hidaka M, Eguchi S.
Langenbecks Arch Surg. 2023；408(1)：37.

6）EFFICACY AND SAFETY OF A DEXAMETHASONE-BASED MOUTHWASH TO PREVENT CHEMOTHERAPY-INDUCED STOMATITIS IN WOMEN WITH BREAST CANCER：A MULTICENTRE, OPEN-LABEL, RANDOMISED PHASE 2 STUDY.
Kuba S, Maeda S, Shibata K, Soutome S, Yamanouchi K, Matsumoto M, Tanaka A, Morita M, Hatachi T, Otsubo R, Yano H, Kawashita Y, Sato S, Taniguchi H, Kanetaka K, Umeda M, Nagayasu T, Eguchi S.
J Evid Based Dent Pract. 2023；23(3)：101896. Epub 2023 Jun 11.

7）Efficacy of left colic artery preservation with D3 lymph node dissection in laparoscopic surgery for advanced sigmoid and rectal cancer.
Maruta H, Tominaga T, Nonaka T, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, To K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Surg Today. 2023；doi：10.1007/s00595-023-02689-7. Online ahead of print.

8）Risk Factors of Complications from Central Bisectionectomy (H458) for Hepatocellular Carcinoma：A Multi-Institutional Single-Arm Analysis.
Nanashima A, Eguchi S, Hisaka T, Kawasaki Y, Yamashita YI, Ide T, Kuroki T, Yoshizumi T, Kitahara K, Endo Y, Utsunomiya T, Kajiwara M, Sakoda M, Okamoto K, Nagano H, Takami Y, Beppu T.
Cancers (Basel). 2023；15(6)：1740. doi：10.3390/cancers15061740.

9）Effect of adjuvant chemotherapy after curative resection of colorectal cancer peritoneal metastasis.
Noda K, Tominaga T, Nonaka T, Ishii M, Fukuoka H, Hisanaga M, Takeshita H, To K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Int J Colorectal Dis. 2023；38(1)：101.

10）Risk factors for reoperation within 30 days in laparoscopic colorectal cancer surgery：A Japanese multicenter study.
Oishi K, Tominaga T, Ono R, Noda K, Hashimoto S, Shiraishi T, Takamura Y, Nonaka T, Ishii M, Fukuoka H, Hisanaga M, Takeshita H, To K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Asian J Endosc Surg. 2023；doi：10.1111/ases.13257. Online ahead of print.

11）Multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic olanzapine for patients with metastatic breast cancer receiving T-DXd treatment：protocol for the ERICA study (WJOG14320B).
Sakai H, Tsurutani J, Ozaki Y, Ishiguro H, Nozawa K, Watanabe K, Maeda S, Yokoe T, Imamura C K, Matsumoto K, Iwasa T, Chiba Y, Takiguchi D, Takano
T. BMJ Open 2023；13(4)：e070304. doi：10.1136/bmjopen-2022-070304.

12）Efficacy of laparoscopic liver resection for small hepatocellular carcinoma located in the posterosuperior segments：A multi-institutional study using propensity score matching by the Kyushu Study Group of Liver Surgery.
Tokumitsu Y, Nagano H, Yamashita YI, Yoshizumi T, Hisaka T, Nanashima A, Kuroki T, Ide T, Endo Y, Utsunomiya T, Kitahara K, Kawasaki Y, Sakota M, Okamoto K, Takami Y, Kajiwara M, Takatsuki M, Beppu T, Eguchi S.
Hepatol Res. 2023；53(9)：878-889. Epub 2023 Jun 12.

13）Impact of S-1 adjuvant chemotherapy longer than 6 months on survival in patients with resected pancreatic cancer: a nationwide survey by the Japan Pancreas Society based on real-world data.
Tomimaru Y, Eguchi H, Inoue Y, Nagakawa Y, Ohba A, Takami H, Unno M, Yamamoto T, Kawakatsu S, Hayashi T, Higuchi R, Kitagawa H, Hattori S, Fujii T, Hirooka Y, Igarashi H, Kitano M, Kuroki T, Masamune A, Shimizu Y, Tani M, Tanno S, Tsuji Y, Yamaue H, Satoi S, Takeyama Y；Committee of Clinical Research, Japan Pancreas Society.
Cancer. 2023；129(5)：728-739. Epub 2022 Dec 12.

14）Correlations of age with clinicopathological features, perioperative outcomes and the prognosis in patients with colorectal cancer: a Japanese multicenter study.
Tominaga T, Nonaka T, Hashimoto S, Shiraishi T, Noda K, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Sawai T, Nagayasu T.
Surg Today. 2023；doi：10.1007/s00595-023-02724-7. Online ahead of print.

15）Incidence of and risk factors for postoperative ileus between right and left laparoscopic colectomy using propensity-score-matched analysis：A retrospective multicenter study.
Uchida F, Tominaga T, Nonaka T, To K, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Asian J Endosc Surg. 2023；16(4)：706-714. Epub 2023 Jul 6.

16）The Efficacy of Inflammatory and Immune Markers for Predicting the Prognosis of Patients with Stage IV Breast Cancer.
Yamanouchi K, Maeda S.
Acta Med Okayama. 2023；77(1)：37-43.

**A-a2：英文症例報告**

1）Minimally invasive surgical necrosectomy for infected walled-off necrosis using endoscopy with the flexible overtube technique : A case report.
Hamada T, Okamoto T, Kitasato A, Kuroki T.
Acta Medica Nagasakiensia. 2023；66(2)：93-97.

2）Adrenocortical carcinoma mimicking hepatocellular carcinoma：A case report.
Ikeda T, Kitasato A, Okamoto T, Soeda M, Miura S, Kuroki T.
Int J Surg Case Rep. 2023；105：108122. Epub 2023 Apr 4.

3）Laparoscopic subtotal cholecystectomy by linear stapler: A simple and feasible technique for difficult cases with severe cholecystitis. A case series.
Noda K, Kuroki T.
Int J Surg Open 2023；58(2023)：100671.

**和文**

**B-a1：和文原著**

1）橈側皮静脈カットダウン法による中心静脈ポート留置術　導入初期成績と課題.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
長崎医学会雑誌2023；98(1)：1-7.

**B-a2：和文症例報告**

1）早期に腹腔鏡手術を施行して腸切除を回避できた盲腸窩ヘルニアの１例.
古賀洋一、徳永隆幸、黒木保.
長崎医学会雑誌2023；98(3)：117-121.

2）原発性硬化性胆管炎の経過中に胆嚢癌を発症した１例.
吉原絹子、池田貴裕、岡本辰哉、北里周、三浦史郎、伊東正博、黒木保.
胆道2023；37(4)：820-824.

**B-b：和文総説**

1）【ラパコレを再考する－腹腔鏡下胆嚢摘出術をマスターするために】はじめての腹腔鏡下胆嚢摘出術にあたっての留意点　指導者の立場から.
黒木保、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、北里周.
手術 2023；77(10)：1463-1467.

## 学会・研究会・講演

**国際学会，国際会議**

**A-b2：一般演題**

**＜Oral＞**

1）Factors associated with treatment of breast cancer in the elderly: a cohort study.
Kuba S, Maeda S, Okada K, Oikawa M, Yamanouchi K, Minami S, Matsuo M, Tanaka A, Morita M, Sakimura C, Otusbo R, Matsumoto M, Nagayasu T, Eguchi S.
一般口演21；乳腺（診断、治療選択）. 第61回日本癌治療学会学術集会. 横浜, 2023.10.20.

**＜Poster＞**

1）A randomized controlled trial comparing primary tumor resection plus systemic therapywith systemic therapy alone in metastatic breast cancer (PRIM-BC): Japan ClinicalOncology Group study JCOG1017.
Shien T, Hara F, Aogi K, Yanagita Y, Tsuneizumi M, Yamamoto N, Matsumoto H, Suto A, Watanabe K, Harao M, Kanbayashi C, Ito M, Kadoya T, Anan K, Maeda S, Sasaki K, Ogawa G, Fukuda H, Iwata H.
Breast Cancer-Local/Regional/Adjuvant, 2023 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting. Chicago, USA, 2023.6.2-6.

2）Effectiveness and prognostic predictors of primary systemic therapy for de-novo Stage IV breast cancer - Supplementary analysis of JCOG1017 PRIM-BC.
Tadahiko Shien, Akihiko Shimomura, Makoto Ishitobi, Kiyo Tanaka, Takahiro Tsukioki, Takashi Yamanaka, Fumitaka Hara, Kenjiro Aogi, Yasuhiro Yanagita, Michiko Tsuneizumi, Naohito Yamamoto, Hiroshi Matsumoto, Akihiko Suto, Ken-ichi Watanabe, Michiko Harao, Chizuko Kanbayashi, Mitsuya Ito, Keisei Anan, Shigeto Maeda, Keita Sasaki, Gakuto Ogawa, Haruhiko Fukuda, Hiroji Iwata.
Poster Session 2；San Antonio Breast Cancer Symposium (SABCS). San Antonio USA, 2023.12.6.

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）肝細胞癌における肝中央二区域切除の術後合併症リスク因子解析と短期予後に関する多施設共同研究.
七島篤志、矢野公一、江口晋、久下亨、川﨑祥太、山下洋市、井手貴雄、黒木保、吉住朋晴、北原賢二、遠藤裕一、宇都宮徹、梶原正俊、迫田雅彦、岡本好司、永野浩昭、高見裕子、別府透.
シンポジウム 6 ；正確な局所解剖に基づいた肝細胞癌に対する合理的肝切除術とは, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

2）有症状肝嚢胞に対する大網皮弁付加腹腔鏡下肝嚢胞開窓術の治療成績.
北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
シンポジウム16；肝胆膵良性疾患における標準的術式とその理論的背景, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.

3）VANS手術法の普及に向けたコツとピットフォール.
前田茂人、杉山望、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
シンポジウム 6 ；甲状腺内視鏡手術の普及に向けて, 第35回日本内分泌外科学会総会. 長野, 2023.6.17.

4）内 VTE 予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝、黒木保、山田成美、於久幸治、有吉毅子男、森けいすけ、案田岳夫、錦戸雅春、菅幸恵、森隆浩、山崎一美、尾崎真人、荒木伸也、三角紳博、吉田真一郎、八橋弘.
シンポジウム39；医療安全 傾向と対策, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）肝細胞癌の術前診断で肝切除を行った副腎皮質癌の 1 例.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題；症例報告 3 . 第43回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2023.1.28.

2）肝細胞癌肝内再発・副腎転移に対し集学的治療により長期生存を得た例.
福井彩恵子、北里周、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題；症例報告 3 . 第43回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2023.1.28.

3）肝 S7・S8 病変に対する側臥位腹腔鏡下肝切除術.
北里周、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田 晃、竹下浩明、黒木 保.
主題 3 ；腹腔鏡下S7・S8切除の工夫. 第43回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2023.1.28.

4）OAMを施行したNOMIの 3 例.
岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
主題関連 3 ；腹部救急診療におけるOpen Abdominal Managementの活用. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.9.

5）傍ストーマヘルニアが原因で粘膜皮膚接合部離開を起こし急性汎発性腹膜炎となった一例.
三好敬之、竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題40；ストーマ. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.9.

6）Trysomy8陽性MDSに併発した穿孔性腸管Behcet病の 1 例.
藤瀬悠太、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、三原裕美、三浦史郎、黒木保.
一般演題43；大腸穿孔③. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.9.

7）内視鏡的治療後 7 年目に孤立性リンパ節転移再発をきたした 1 cm以下G1十二指腸NETの一例.
梶原優介、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；食道・胃. 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

8）胆嚢十二指腸瘻を伴う胆石性イレウスの 2 例.
小松桃子、北里周、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
研修医セッション；小腸. 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

9）膵壊死、脾壊死、胃壊死を伴った特発性脾仙塞の 1 例.
門田優太、岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田 晃、北里 周、竹下浩明、黒木 保.
研修医セッション；膵・脾. 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.03.10.

10）術前化学療法により病理学的完全奏功を得た膵尾部癌の 1 例.
鋸﨑翔太、岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；膵・脾. 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.03.10.

11）乳頭腺管癌の術後 8 年目に乳腺扁平上皮癌が発生した 1 例.
門松英、杉山望、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、
黒木保、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人.
研修医セッション；内分泌外科. 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

12）当院におけるバセドウ病合併甲状腺癌の検討.
角遼、杉山望、藤瀬雄太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之 、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、
佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人.
研修医セッション；内分泌外科. 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

13）腹部救急診療に診療看護師が与える効果.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
多職種連携特別企画 Be colorful 3；腹部救急診療におけるメディカルスタッフの底力②. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

14）外傷性小腸穿孔に対する腹腔鏡アプローチの検討.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題90；外傷⑬. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

15）リケッチア感染症による消化管穿孔が疑われた 1 例.
武内健祐、米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題101；十二指腸①. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

16）空腸憩室穿孔を起こした一例.
二宮辰光、三好敬之、竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題112；小腸⑦. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

17）ステントグラフト内挿術による下腸間膜動脈閉塞により腸管壊死をきたした一例.
巖水慧、三好敬之、竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題81；大血管③. 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

18）高齢者再発高リスク結腸癌（T4/N2）における術後オキサリプラチン併用補助化学療法の有用性.
富永哲郎、野中隆、小山正三朗、髙村祐磨、白石斗士雄、橋本慎太郎、山下真理子、久永真、角田順久、
竹下浩明、石井光寿、福岡秀敏、党和夫、田中賢治、澤井照光、永安武.
一般演題（口演)；大腸 1 . 第59回九州外科学会. 宮崎, 2023.3.11.

19）感染性 WON に対する鏡視補助下後腹膜アプローチの有用性－オーバーチューブ法の試み－.
池田貴裕、岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（ミニオーラル)；膵腫瘍. 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.6.

20）外科専属診療看護師（NP）導入成功の要点と外科医の「働きやすさ」改革への貢献.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、杉山望、竹下浩明、
前田茂人、黒木保.
特別企画 3 ；外科における「働き方改革」への対応とその問題点. 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

21）中心静脈ポートカテーテルが右内胸静脈に迷入した 1 例.
石井青、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
研修医の発表セッション（5)；救急・外傷・心血管. 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

22）胃，十二指腸潰瘍穿孔に対する保存的治療適応の検討.
三好敬之、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題064；【胃・十二指腸】その他　良性. 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

23）高侵襲肝胆膵手術における術後せん妄のリスク評価.
藤瀬悠太、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
主題関連演題14；【総論】術後合併症発生後のFailure to Rescue回避の取り組み. 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

24）90歳以上の大腸癌患者における腹腔鏡手術の有効性の検討.
山下真理子、富永哲郎、野中隆、角田順久、竹下浩明、福岡秀敏、黨和夫、田中賢治、國﨑真己、永安武.
一般演題081；【大腸】高齢者 8 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

25）進行直腸癌に対するリスク分類と適切な術前治療および側方リンパ節郭清の適応に関する検討.
竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題005；【大腸】術前治療 1 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

26）高齢者再発高リスク結腸癌における術後オキサリプラチン併用補助化学療法の有用性について.
山﨑翔斗、富永哲郎、野中隆、竹下浩明、福岡秀敏、黨和夫、田中賢治、久永真、荒木政人、角田順久.
一般演題038；【大腸】その他 7 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

27）腹腔鏡下左側結腸切除における左結腸動脈温存手術の短期・長期性成績に対する影響.
丸田浩志、富永哲郎、野中隆、荒木政人、竹下浩明、黨和夫、福岡秀敏、田中賢治.
一般演題036；【大腸】手術 1 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

28）大腸癌における年齢と臨床病理学的特徴および周術期成績，予後との関連－多施設共同研究.
森山正章、富永哲郎、野中隆、橋本慎太郎、白石斗士雄、久永真、福岡秀敏、竹下浩明、澤井照光、永安武.
一般演題008；【大腸】その他 5 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

29）腹腔鏡下横行結腸癌手術における内視鏡手術技術認定医制度の有用性.
石丸和英、富永哲郎、野中隆、黨和夫、久永真、竹下浩明、福岡秀敏、田中賢治、澤井照光、永安武.
一般演題036；【大腸】手術 1 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

30）右側結腸癌と左側結腸癌の切除後腸閉塞リスクを比較・検討した多施設共同後方視的研究.
内田史武、富永哲郎、野中隆、黨和夫、久永真、竹下浩明、福岡秀敏、田中賢治、澤井照光、永安武.
一般演題099；【大腸】術後合併症 1 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

31）当院における高齢者食道癌手術症例の検討.
米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題181；【食道】高齢者食道癌 2 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.13.

32）一次的回腸人工肛門造設後High-output syndromeのリスク因子:後ろ向き多施設共同研究.
石井光寿、富永哲郎、野中 隆、黨和夫、久永真、竹下浩明、福岡秀敏、田中賢治、澤井照光、永安武.
一般演題212；【大腸】ストーマ 2 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

33）外傷性小腸損傷に対する腹腔鏡補助下手術の取り組み.
池田貴裕、北里 周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
要望演題ビデオ 3 ；【総論】急性腹症・外傷に対する低侵襲手術. 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

34）大腸癌肝転移切除症例における化学療法による肝障害の検討.
福井彩恵子、北里周、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題オンライン16；その他 4 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

35）大腸癌同時性肝転移切除症例の手術成績-主に短期成績に関する検討.
北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題248；【肝臓】転移性肝癌 2 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

36）大腸・直腸癌DST吻合症例に対する縫合不全予防への取り組み.
久永真、富永哲郎、野中隆、竹下浩明、福岡秀敏、黨和夫、田中賢治、國崎真己、福田明子、荒木政人.
一般演題247；【大腸】縫合不全 2 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

37）大腸癌腹膜転移に対する治癒切除後の補助化学療法の有効性.
野田恵佑、富永哲郎、野中隆、石井光寿、久永真、竹下浩明、黨和夫、田中賢治、澤井照光、永安武.
一般演題222；【大腸】転移再発 5 . 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

38）当科における膵頭部癌に対するコンバージョン手術の現状.
池田貴裕、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（口演）49；コンバージョン手術. 第54回日本膵臓学会大会. 福岡, 2023.7.22.

39）開腹肝胆膵悪性腫瘍手術におけるリトラクター使用時の皮膚障害予防法の検討.
立花玲華、児島凪、原健太朗、北里周、黒木保.
口演１；周術期医療. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

40）One access + one port（1A1P）肺癌手術は低侵襲手術における到達点の1つである.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、竹下浩明、田川努.
一般演題（ビデオ）1；胸腔鏡手術. 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.2.

41）直腸癌に対してwatch & waitを行った症例の検討.
竹下浩明、織方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
要望演題1-10；直腸癌術前集学的治療の成績③. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 熊本, 2023.11.10.

42）当科における腹腔鏡下膵体尾側切除術後膵液瘻に対するマネジメント法.
福井彩恵子、釘山統太、緒方良介、笠伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題6；DP症例他. 第15回膵臓内視鏡外科研究会. 岡山, 2023.11.15.

43）静脈塞栓を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して二期的手術を施行した一例.
石飛俊介、杉山望、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、北里周、竹下浩明、
南恵樹、前田茂人、下山孝一郎、田川努、黒木保.
研修医セッション14；肺・縦隔／乳腺③. 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.16.

44）＜口演＞潰瘍様突出像（ULP）を伴った孤立性上腸間膜動脈解離（ISMAD）の一例 －当院ISMAD症例の検討を加えて－.
近藤孝憲、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、杉山望、竹下浩明、
南恵樹、黒木保.
研修医セッション30；血管／その他①. 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.17.

45）原発性小腸軸捻転症の再発に対して後腹膜固定法を行った１例.
奥平雅之、池田貴裕、福井彩恵子、織方良介、笠 伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、
黒木保.
研修医セッション37；血管／その他⑦. 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.18.

46）食道癌術後胃管気管支瘻に対し、内視鏡的手縫い縫合にて瘻孔を閉鎖した１例.
中野颯斗、米田晃、緒方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、北里周、杉山望、竹下浩明、
南恵樹、黒木保.
研修医セッション43；血管／食道. 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.18.

45）働き方改革及び多職種連携の時代に消化器診療に診療看護師 (NP) が参画する意義について.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、南恵樹、黒木保.
特別企画；患者さん視点で消化器診療の一翼を担う「メディカルスタッフゆいまーる」～沖縄からの発信～.
第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

46）十二指腸 NET に対する hybrid ESD 7 年後にリンパ節転移再発の診断となり、外科的治療を行った一例.
綿屋摩湖人、後藤高介、三根祥一郎、今村祥子、中島悠史郎、末廣智之、三浦史郎、黒木保、西山仁.
専攻医発表；食道・胃・十二指腸 3 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

47）胆嚢仮性動脈瘤を伴う出血性胆嚢炎の１例.
石井優子、北里周、吉野恭平、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、竹下浩明、杉山望、
南恵樹、黒木保.
研修医発表；肝・胆・膵 4 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

48）高シトルリン血症を背景に発症した肝細胞癌一切除例.
小川紗智、北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、
竹下浩明、南恵樹、長岡進矢、黒木保.
研修医発表；肝・胆・膵 1 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

49）当科における虫垂憩室症 6 例の検討.
吉野恭平、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題；小腸・大腸 1 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.25.

50）待機的に腹腔鏡手術で治療しえた Meckel 憩室出血の 1 例.
吉野恭平、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル30；小腸　その他 1 . 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.7.

51）外科専属診療看護師（NP）による内視鏡外科手術助手の有効性.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、池田貴裕、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（口演）127；メディカルスタッフ・CE. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

52）脳脊髄液シャントチューブ逸脱に対し腹腔鏡下に再留置術を行った症例.
笠伸大郎、米田晃、中原未智、織方良介、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル134；腹腔鏡 その他. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

53）ストマ静脈瘤による出血に対し、腹腔鏡下に下腸間膜静脈経由のシャント静脈を行った 1 例.
織方良介、竹下浩明、吉野恭平、笠伸大郎、池田貴裕、北里周、米田晃、黒木保.
ミニオーラル134；腹腔鏡 その他. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

54）胃穹窿部 GIST に対する低侵襲・機能温存を目指した胃内手術の取組み.
池田貴裕、米田晃、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル88；胃・十二指腸悪性　胃GIST. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

55）当科における胆嚢高度炎症例に対する胆嚢亜全摘術の検討.
福井彩恵子、池田貴裕、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（口演）97；胆嚢頚部　処理困難例. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

56）新たに開発した皮下内視鏡下手術（Video-assisted subcutaneous surgery ）による傍ストマヘルニア修復術.
谷口裕太郎、竹下浩明、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題（口演）190；研修医・専門医　ヘルニア. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.9.

57）全結腸型憩室症例に対する腹腔鏡下手術.
竹下浩明、織方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、北里周、黒木保.
ミニオーラル189；下部良性 憩室炎 2 . 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.9.

58）胸腔鏡下に切除した食道GISTの 1 例.
米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル172；食道良性 食道アカラシア・良性腫瘍. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.9.

**＜ポスター＞**

1）胎児型形質を有する胃癌の病理学的特徴～侵襲性と予後の検討～ .
添田李子、伊東正博、三原裕美、米田晃、上木望、中島正洋、三浦史郎.
ポスター（一般）72；胃- 1 . 第112回日本病理学会総会. 下関, 2023.4.15.

2）IPDA先行切離による膵頭十二指腸切除術の有用性.
岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（55）；膵臓-手術手技- 3 . 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

3）進行直腸癌に対する適切な術前リスク評価と術前治療および側方郭清の適応に関する検討.
竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
デジタルポスター（26）；大腸-集学的治療- 2 . 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

4）肝切除術後難治性胆汁瘻のリスク因子及びマネジメント戦略.
福井彩恵子、北里周、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（37）；肝臓-合併症- 1 . 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

5）橈側皮静脈カットダウン法による中心静脈ポート留置術の導入初期成績と課題.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（99）；末梢血管- 2 . 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

6）食道癌患者に対する術前十全大補湯投与の臨床的検討.
米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（78）；食道-周術期管理. 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

7）研修医と 2 人でできるOne access＋one port（1A1P）肺癌手術.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、竹下浩明、田川努.
デジタルポスター（172）；肺-呼吸器外科手術の工夫. 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.

8）下部進行直腸癌に対する側方郭清における術前治療の影響.
久永真、野中隆、富永哲郎、福岡秀敏、黨和夫、竹下浩明.
デジタルポスター（145）；直腸-側方郭清・全般. 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.

9）タキサン系薬剤を使用した乳がん化学療法患者における末梢神経障害発症の要因解析.
村上摩利、渕邊まりな、杉山望、前田茂人.
ポスター 85；薬物療法（化学療法）2 . 第31回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023.6.29.

10）外科的切除を施行した食道原発悪性黒色腫の 1 例.
米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、黒木保.
一般演題ポスター 14；症例報告：内分泌癌・悪性黒色腫. 第77回日本食道学会学術集会. 大阪, 2023.6.29.

11）Utility of video-assisted retroperitoneal approach for infected WON -A trial of the Overtube technique.
Ikeda T, Okamoto T, Kitasato A, Kuroki T.
Poster 20；Pancreas 4 . The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery（第35回日本肝胆膵外科学会学術集会）. Tokyo, 2023.6.30.

12）肺癌脳転移加療中に発症した乳癌肝転移に対しエチニルエストラジオールの有用性が示唆された一例.
杉山望、前田茂人.
ポスター 162；症例報告（薬物療法）7 . 第31回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023.06.30.

13）Laparoscopic hepatectomy in the lateral position for tumors located in segment 7 or 8.
Kitasato A, Fukui S, Ikeda T, Miyoshi T, Tatsuya Okamoto T, Yoneda A, Takeshita H, Kuroki T.
Poster 30；Liver 10. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery（第35回日本肝胆膵外科学会学術集会）. Tokyo, 2023.7.1.

14）化学療法中の乳癌患者における味覚異常の発現に関連する因子の検討.
淵邊まりな、村上摩利、杉山望、前田茂人.
ポスター 264；チーム医療/医療連携（その他）3 . 第31回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023.7.1.

15）HER2 low乳癌におけるERとの相関や予後についての解析.
前田茂人、杉山望、三浦史郎、伊東正博.
ポスター 288；バイオマーカー（予後因子）10. 第31回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023.7.1.

16）膵頭十二指腸切除後に肝内結石症を発症し経腸的アプローチで治療した 1 例.
池田貴裕、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション13；術後合併症. 第50回日膵切研究会. 東京, 2023.08.26.

17）術式別にみた離床状況の実態と課題.
荒木梨花、松崎のぞみ、川畑貴寛、米田晃、井口悦子、堀川新二.
ポスター 144；疾患別看護 3 - 3 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

18）当院における胎児型形質を有する胃癌46例の臨床病理学的検討.
添田李子、伊東正博、三原裕美、米田晃、三浦史郎.
ポスター 140；病理検査. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

19）膵頭十二指腸切除後に肝内結石症を発症し異なる外科的アプローチで治療した 2 例.
池田貴裕、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題（示説）5；胆嚢・膵臓・脾臓・門脈①. 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.16.

＜ワークショップ＞

1）ステント留置閉塞性大腸癌術後における予後予測因子としてのLymphocyte to monocyte ratioの有用性.
白石 斗士雄、富永哲郎、野中隆、竹下浩明、角田順久、福岡秀敏、黨和夫、田中賢治、澤井照光、永安武.
ワークショップ17；【下部】閉塞性大腸癌に対する治療戦略のアップデート. 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

2）全結腸型憩室症例に対する外科的治療の検討.
竹下浩明、織方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
ワークショップ 2 ；大腸憩室症の治療. 第48回日本大腸肛門病学会九州地方会. 鹿児島, 2023.7.29.

3）胆嚢癌疑診例に対する腹腔鏡下胆嚢全層切除術.
岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕.
ワークショップ１；胆嚢癌に対する腹腔鏡切除の適応と術式. 第59回日本胆道学会学術集会. 札幌, 2023.9.14.
4）肝切除術後難治性胆汁漏の治療戦略.
福井彩恵子、岡本辰哉、池田貴裕.
ワークショップ４；胆嚢癌に対する腹腔鏡切除の適応と術式. 第59回日本胆道学会学術集会. 札幌, 2023.9.15.

**B-c：研究会発表**

1）乳癌術後化学療法時にペグフィルグラスチム使用に伴う血小板減少をきたした１例.
萩原朋也、前田茂人、杉山 望.
第36回長崎乳腺研究会. 長崎（ハイブリッド）, 2023.2.18.
2）高齢者コホート研究からみる高齢者の乳癌治療選択について.
久芳さやか、前田茂人、岡田和也、及川将弘、山之内孝彰、南 恵樹、松尾光敏、田中彩、赤司桃子、森田道、崎村千香、稲益英子、杉山望、大坪竜太、松本恵、岸川博紀、永安武、江口晋.
第36回長崎乳腺研究会. 長崎（ハイブリッド）, 2023.2.18.
3）静脈塞栓を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して二期的手術を施行した一例.
石飛俊介、杉山望、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、三浦史郎、伊東正博、前田茂人.
乳腺内分泌. 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.
4）巨大膵MCNに対し腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した１例.
梶原優介、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、藤瀬悠太、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、三浦史郎、黒木保.
肝胆膵. 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.
5）潰瘍性突出像（ULP）拡大に対し血管内治療を行った孤立性上腸間膜動脈解離の一例.
近藤孝憲、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
消化器①. 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.
6）Kartagener症候群を伴う上行結腸癌に対して腹腔鏡下結腸右半切除術を施行した１例.
篠原葉瑠希、竹下浩明、三好敬之、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
消化器②. 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.
7）食道癌術後胃管気管支瘻に対し、内視鏡的手縫い縫合法にて瘻孔を閉鎖した１例.
中野颯斗、池田貴裕、米田 晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、北里 周、竹下浩明、西山 仁、黒木 保.
消化器①. 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.
8）当院における肝門部領域胆管癌に対する外科治療の現状.
釘山統太.
第38回長崎肝・胆道・膵外科研究会. 長崎, 2023.10.6.

**C, F：研究会発表**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜講演＞**

1）乳癌脳転移に対するエンハーツの治療効果.
前田茂人.
Closing Remarks, Breast Cancer web seminar in 長崎. Web, 2023.2.7.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

＜座長＞

1）黒木 保.
研修医セッション；膵・脾. 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

2）前田茂人.
一般演題（口演）；甲状腺・乳腺 2 . 第59回九州小児外科学会. 宮崎, 2023.3.10.
3）黒木保.
デジタルポスター（158）；胆道-悪性-予後因子. 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.
4）南 恵樹.
ポスター 323；特定の患者、病態別診療（局所進行乳癌）. 第31回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023.7.1.
5）黒木保.
要望演題ビデオ17；【肝胆膵】膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の適応と手術手技. 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.13.
6）黒木保.
一般演題（ポスター）14；症例. 第54回日本膵臓学会大会. 福岡, 2023.7.22.
7）黒木保.
ポスターセッション 8 ；外傷・慢性膵炎に対する外科治療. 第50回日膵切研究会. 東京, 2023.8.26.
8）黒木保.
デジタルポスター 49；胆管狭窄（ 3 ）. 第59回日本胆道学会学術集会. 札幌, 2023.9.14.
9）竹下浩明.
要望演題 2 -13；下部消化管緊急症例に対する低侵襲治療. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 熊本, 2023.11.11.
10）黒木保.
一般演題 4 ；教育／ LPD ／その他手術. 第15回膵臓内視鏡外科研究会. 岡山, 2023.11.15.
11）黒木保.
専攻医発表；肝・胆・膵 4 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会／第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.
12）竹下浩明.
専攻医発表; 小腸・大腸 4 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会／第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.
13）米田晃.
一般演題；食道・胃・十二指腸 2 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会／第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.25.
14）北里周.
一般演題；胆・膵 3 . 第122回日本消化器病学会九州支部例会／第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.25.
15）黒木保.
ミニオーラル112；肝臓 症例 1 . 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.
16）黒木保.
特別講演；大腸におけるロボット手術. 第6回県央消化器癌化学療法カンファランス. 大村, 2023.12.15.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 呼吸器外科

責任者　田川 努・朝重 耕一・下山 孝一郎

## 診療科の特色

①最新かつ最高レベルの呼吸器外科診療を提供する。
②早期肺癌は患者さんにやさしい胸腔鏡下手術を行う。
③進行肺癌の手術を安全かつ確実に行う。
④地域医療に貢献する
⑤修練医師の教育を行い、外科治療のすばらしさ、やりがいを伝える。
⑥基幹病院として学会発表、論文などで国内外に発信していく。
⑦臨床試験に積極的に参加する。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | (再掲) 死亡 | |
| 1,350人 | 3.7人 | 129人 | 159人 | | 9.4日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 35件 | 78.7% | 127件 | 270.2% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。(入院後に転科した場合)**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 63人(41.2%) | 23人(15.0%) | 10人(6.5%) | 15人(9.8%) | | 8 人(5.2%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 18人(11.8%) | 9 人(5.9%) | 4 人(2.6%) | | | 2 人(1.3%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 1 人(0.7%) | | | |

| 合計 |
|---|
| 153人 |

**入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 胸腔鏡手術数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|---|
| 1）肺癌 | C34 | 76 | 74(97.4%) | 0 |
| 2）転移性肺腫瘍 | C78 | 13 | 12(92.3%) | 0 |
| 3）気胸 | J939 | 30 | 30(100%) | 0 |
| 4）縦隔腫瘍 | D383 | 6 | 6(100%) | 0 |
| 5）膿胸 | J869 | 11 | 11(100%) | 0 |
| 6）肺良性 | D143 | 3 | 3(100%) | 0 |
| 7）肺感染症 | A31.0, B44 | 2 | 1(50%) | 0 |
| 8）その他 | | 9 | 3(33.3%) | 0 |

### 手術件数と麻酔

| 総手術数 | 全身麻酔 | 全身麻酔＋硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 150 | 148 | 0 | 0 | 2 | 3 | 147 |

### 手術成績

| | 件数 | 在院死亡 | 1ヶ月以内死亡 | 再手術 |
|---|---|---|---|---|
| 待機手術 | 147 | 0 | 0 | 0 |
| 緊急手術 | 3 | 0 | 0 | 1 |

## 研修・教育

### カンファレンス

| 名称 | 参加職種 | 参加人数（平均） | 実施回数 |
|---|---|---|---|
| 手術前カンファレンス | 呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科 | 11 | 1回/週 |
| 手術後カンファレンス | 呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科 | 11 | 1回/週 |
| 呼吸器カンファレンス | 呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科 | 11 | 1回/週 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

### NHOネットワーク共同研究

なし

### 厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化）

なし

### 日本学術振興会

なし

### 臨床研究

| No. | 分類NW共同研究（グループ名）多施設共同 | 研究課題名 | 本研究の主任研究者 | 当院分担研究者 | 同意文書あり/なし | 当院実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 長崎大学病院呼吸器外科 | TLG-DS-19009「呼吸器外科術後神経障害性疼痛患者にミロガバリンを追加併用した際の有効性と安全性の検討」 | 永安　武 | 田川　努 | あり | 5 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（ 1 ） | | | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 8（ 0 ） | 2（ 0 ） | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 学術講演 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 3 | 3 | 2 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文症例報告**

1）Double vision approach applied by two teams for retrosternal gastric conduit for gastric tube cancer.
Machino R, Kobayashi S, Tagawa T, Taniguchi K, Kanetaka K, Eguchi S,
Nagayasu T.
J Surg Case Rep. 2023；2023(2)：rjad068.

### 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

1）魅力ある地域がん診療連携拠点病院であるためには.
田川努、下山孝一郎、藤瀬悠太、町野隆介.
特別企画１；SDGs：すべての人に健康と福祉を 人口減少時代の呼吸器外科手術－近未来に向けて備えること.
第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

**B-b2：一般演題**

**【全国学会】**

1）研修医と２人でできるOne access + one port（1A1P）肺癌手術.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、竹下浩明、田川努.
デジタルポスター（172）；肺－呼吸器外科手術の工夫. 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.

2）術後エアリークは、水封、手術側下側臥位、しゃべらない、リハビリなしで止まる.
田川努、下山孝一郎、竹井大貴、肥田泰慈、藤瀬悠太、町野隆介.
一般演題（ポスター）48；周術期管理・術後合併症３. 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

3）オピオイドフリーの呼吸器外科術後疼痛管理.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、濱田梢、西垣明久、石岡泰知、卜部繁彦、日髙翔、中尾秋葉、長岡京子、山口美知子、田川努.
一般演題（ポスター）46；周術期管理・術後合併症 1 . 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

4）血管浸潤を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して多診療合同手術を施行した 1 例.
藤瀬悠太、下山孝一郎、杉山望、田川努.
一般演題（ポスター）33；稀な症例 1 . 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

5）市中病院における MIS（Minimum invasive surgery）における終着点とは？ .
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、町野隆介、田川努.
一般演題（ポスター）90；Uniport, Reduced port VATS2. 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.14.

6）One access＋one port（1A1P）肺癌手術は低侵襲手術における到達点の 1 つである.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、竹下浩明、田川努.
一般演題（ビデオ） 1 ；胸腔鏡手術. 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.2.

7）胸腺原発Large cell neuroendocrine carcinomaの 1 例.
下山孝一郎、肥田泰慈、藤瀬悠太、中村大祐、三原裕美、三浦史郎、田川努.
一般演題（ポスター）44；病理診断・細胞診 5 /縦隔腫瘍. 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.4.

**【地方会】**

8）アスペルギルス有瘻性膿胸に対して開窓術後ガイドワイヤーを用いてEWS充填術を施行した一例.
佐藤雄二、井手口周平、森麻耶子、池田喬哉、原敦子、近藤晃、下山孝一郎、田川努、迎寛.
一般演題 6 ；内視鏡的診断・治療 1 . 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

9）初療の違いで異なる経過を辿った特発性血気胸の 2 例.
江川航星、下山孝一郎、田川努.
一般演題；呼吸器その他. 第56回日本胸部外科学会九州地方会総会. 大分, 2023.7.27.

**C-b：学術講演＜国内学会＞**

1）肺がんの外科（手術）治療.
下山孝一郎.
テーマ：ここまで進歩した肺がんの治療. 第 8 回市民公開講座 がんフォーラム. 長崎（Web）, 2023.2.11.

**D：学会・研究会開催**

1）＜会長＞田川努.
第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.02.10-11.

**E：学会・研究会　世話人**

1）田川努.
県央地区外科研究会代表世話人

2）田川努.
長崎呼吸器疾患と移植再生フォーラム

3）田川努.
長崎呼吸器外科研究会

4）田川努.
長崎胸部腫瘍セミナー

**F-b：学会・研究会座長＜国内学会＞**

**【全国学会】**

1）田川努.
Poster セッション42；手術②. 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 横浜, 2023.6.30.

2）田川努.
一般演題（口演）44；嚢胞性肺疾患、気胸 2 . 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.14.

3）田川努.
一般演題（ポスター）32；胸腔鏡手術 2 . 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.3.

**【地方会】**

4）下山孝一郎.
一般演題 3 ；胸膜・縦隔疾患. 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

5）田川努.
ランチョンセミナー 3 ；伝えたい経験と手術手技の工夫. 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

6）田川努.
特別企画；私の得意技、伝えたい経験 3 . 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.11.

**【その他】**

7）＜司会＞田川努.
テーマ；ここまで進歩した肺がんの治療. 第8回市民公開講座 がんフォーラム. 長崎（Web), 2023.2.11.

8）田川努.
Session 1 . 周術期治療 up to date in 長崎. 大村, 2023.10.12.

**G；その他**

1）田川努.
審査委員；JATS Case Presentation Awards5：肺 2 . 第56回日本胸部外科学会九州地方会総会. 大分, 2023.7.27.

2）田川努.
長崎大学非常勤講師（腫瘍外科学）

3）田川努.
日本呼吸器外科学会　会誌編集委員会委員

4）田川努.
日本呼吸器外科学会　医療安全地域個別調査部会員

5）田川努.
日本肺癌学会　利益相反管理委員会委員

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 整形外科

責任者　宮本 俊之

## 診療科の特色

2022年４月より保険収載された大腿骨近位部骨折早期治療加算を取れる体制をいち早く構築し、高齢者の大腿骨近位部骨折の治療を複数の科と連携して、全症例の95％を来院48時間以内に実施（全国平均62％）できる体制を構築できました。また加算が取れなくても、ほぼ全ての骨折を同様に可及的速やかに治療を行っており、特に高齢者では早期の歩行が可能となる手術法を積極的に選択しています。またガンの骨転移に対する治療も積極的に行っており、Stage Ⅳの患者さんで転移した腫瘍がADLに影響を与えている場合には主科と相談しながら生命予後や本人家族の希望に応じて様々な治療を行い、QOLを良くするだけでなくQODまで考慮した治療を実施しています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 7,967人 | 21.8人 | 597人 | 596人 | 2 人 | 13.4日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 339件 | 90.5％ | 660件 | 123.4％ | 1 件 | 0.5％ |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 301人(50.7％) | 150人(25.3％) | 11人(1.9％) | 12人(2.0％) | 6 人(1.0％) | 28人(4.7％) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 14人(2.4％) | 13人(2.2％) | 19人(3.2％) | 2 人(0.3％) | 2 人(0.3％) | 4 人(0.7％) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 人(0.2％) | | 2 人(0.3％) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | 6 人(1.0％) | 23人(3.9％) |

| 合計 |
|---|
| 594人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 大腿骨頸部骨折 | S7200 | 86 | 1 |
| 大腿骨転子部骨折 | S7210 | 74 | 1 |
| 前腕の骨折 | S52 | 82 | 0 |
| 股関節症 | M16 | 40 | 0 |
| 下腿の骨折、足首を含む | S82 | 69 | 1 |
| 肩および上腕の骨折 | S42 | 27 | 0 |
| 膝関節症 | M17 | 25 | 0 |
| 肋骨、胸骨および胸椎骨折 | S22 | 20 | 0 |
| 足の骨折 | S92 | 18 | 0 |
| 人工関節周囲骨折 | M96 | 11 | 0 |

**主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績**

| 手術名 | Kコード | 患者数 |
|---|---|---|
| 骨折観血的手術（大腿） | K0461 | 83 |
| 人工骨頭挿入術（股） | K0811 | 56 |
| 骨折観血的手術（前腕） | K0462 | 47 |
| 人工関節置換術（股） | K0821 | 45 |
| 一時的創外固定骨折治療術 | K0463 | 40 |
| 骨折観血的手術（下腿） | K0462 | 36 |
| 人工関節置換術（膝） | K0821 | 21 |
| 骨折観血的手術（上腕） | K0461 | 15 |
| 創傷処理（筋肉、臓器に達しない） | K0004 | 12 |
| 骨内異物（挿入物を含む）除去術（前腕） | K0483 | 12 |

**手術件数と麻酔**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 607 | 574 | 9 | 2 | 22 | 307 | 300 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

# 研究業績

## 論　文　発　表

**B：和文**

**B-a1：和文原著**

1）大腿骨近位部骨折に対する待機治療の適応と予後.
山口圭太、宮本俊之.
MB Medical Rehabilitation 2023；(295)10-18.

2）非定型大腿骨骨折に対するAdvanced手術.
宮本俊之.
MB Orthopaedics 2023；36(7)：49-58.

**B-b：和文総説**

1）大腿骨近位部骨折の早期手術を可能とする取り組みと再骨折予防について.
宮本俊之.
日本医事新報 2023；(5198) 50-51.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会，国際会議**

**A-a：特別講演，教育講演，招待講演**

**＜教育講演＞**

1）Surgical stabilization of rib fracture Past, present and future
Miyamoto T
World Trauma Congress 2023. Tokyo, 2023.8.12.

**A-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）Nailing subtrochanteric femur fracture in lateral decubitus position.
Miyamoto T.
JSFR symposium49th Annual Meeting of the Korean Fracture SocietySeoul. Korea, 2023.4.28.

**B：国内学会**

**B-a：特別講演，教育講演**

**＜教育講演＞**

1）Hip Fractureを治療するなら早期加算を取れるシステムを作ろう！.
宮本俊之.
Hip fracture seminar 2023. 那覇, 2023.3.16.

2）大腿骨近位部骨折の機能回復を目指したアプローチ.
宮本俊之.
第96回日本整形外科学会学術集会. 横浜, 2023.5.11.

3）非定型大腿骨骨折、インプラント周囲骨折.
宮本俊之.
第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.6.30.

4）整形外傷医が行う病的骨折に対する治療戦略.
宮本俊之.
病的骨折の治療戦略. 第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.7.1.

5）大腿骨遠位たん骨折に対する逆行性髄内釘固定法.
宮本俊之.
ヌーンタイムレクチャー 11. 第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.7.1.

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）大学病院での外傷センター設立から関連病院でのシステム構築.
宮本俊之.
シンポジウム 2 . 第96回日本整形外科学会学術集会. 横浜, 2023.5.11.

2）当院における脆弱性大腿骨近位部骨折の手術タイミング.
宮本俊之、森圭介、中川皓一郎、大場陽介、山口圭太、向井順哉.
第145回西日本整形・災害外科学会学術集会. 福岡, 2023.6.3.

3）当院における踵骨関節内骨折に対する拡大Lアプローチによる治療戦略.
山口圭太、宮本俊之、森圭介、中川皓一郎、大場陽介、向井順哉.
踵骨骨折. 第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.7.1.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）超重症型ASを合併した大腿骨近位部骨折に対して治療を行った 1 例.
森圭介、宮本俊之、中川皓一郎、大場陽介、山口圭太、向井順哉.
第25回救急整形外傷シンポジウム. 那覇, 2023.3.17.

2）当院で経験したCOVID-19患者の手術経験.
大場陽介、宮本俊之、森圭介、中川皓一郎、山口圭太、向井順哉.
第25回救急整形外傷シンポジウム. 那覇, 2023.3.17.

3）鎖骨骨幹部多骨片骨折に対してreduction plate併用前方プレート固定の有用性.
大場陽介、宮本俊之、森圭介、中川皓一郎、山口圭太、向井順哉.
第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.6.30.

4）大腿骨転子部骨折に対する髄内釘固定.
向井順哉、宮本俊之、森圭介、中川皓一郎、大場陽介、山口圭太.
第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.6.30.

5）大腿骨近位部骨折の手術タイミングに関する調査.
宮本俊之、森圭介、中川皓一郎、大場陽介、山口圭太、向井順哉.
大腿骨近位部骨折 1 . 第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.7.1.

6）当院におけるインプラント周囲骨折の治療経験.
森圭介、宮本俊之、大場陽介、山口圭太、向井順哉、花谷拓哉.
第36回日本四肢再建・創外固定学会. 郡山, 2023.7.14.

7）膝蓋骨粉砕骨折に対する当院の工夫.
山口圭太、宮本俊之、森圭介、中川皓一郎、大場陽介、向井順哉.
第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.7.1.

8）長崎医療センターの大腿骨近位部骨折治療の現状.
森圭介、宮本俊之、大場陽介、山口圭太、向井順哉、花谷拓哉.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

9）働き方改革と早期手術とのジレンマに対する整形外科医師の挑戦.
山口圭太、宮本俊之、大場陽介、向井順哉、花谷拓哉.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

＜ポスター＞

1）ビスホスホネート製剤の長期投与に夜非定型大腿骨切迫骨折に対して手術を行った1例.
門田優太、宮本俊之、森圭介、大場陽介、山口圭太、向井順哉、花谷拓哉.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**C, F：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

＜教育講演＞

1）小児の四肢外傷.
宮本俊之.
第20回九州・山口地区小児整形外科教育研修会. Web, 2023.1.29

2）多職種連携に必要なマインド
宮本俊之
第10回長崎Acute Care Surgery Web Forum. Web, 2023.2.14

3）Foot and ankle fracture treatment update 2023.
宮本俊之.
第69回東海整形外科外傷研究会. 名古屋, 2023.3.25.

4）Elastic Stable Intramedullary Nailing for Pediatric Fracture.
宮本俊之.
第30回日本小児整形外科学会研修会. 横浜, 2023.8.26.

5）高齢者の恥骨骨折は危険な骨折？.
宮本俊之.
運動器の健康・日本協会主催オンラインシンポジウム2023. 東京, 2023.10.29.

6）高齢者特有の下肢骨折.
宮本俊之.
第26回日本整形外傷セミナー. 東京, 2023.11.5.

＜口演＞

1）当院での踵骨骨折の治療の実際.
山口圭太.
北海道外傷整形外科WEB研究会. Web, 2023.1.21.

2）小児上腕骨科上骨折の治療の実際.
山口圭太.
長崎外傷勉強会. Web, 2023.5.29.

3）上腕骨近位端骨折の治療の実際.
山口圭太.
長崎外傷勉強会. Web, 2023.9.25.

4）大腿骨転子部骨折の治療.
向井順哉.
長崎外傷勉強会. Web, 2023.7.31.

5）上腕骨遠位端骨折の治療.
宮本俊之.
長崎外傷勉強会. Web, 2023.10.30.

6）脛骨骨幹部骨折の治療.
向井順哉.
長崎外傷勉強会. Web, 2023.11.27.

＜シンポジウム＞

1）両側頭骨炎異端骨折で術後右橈骨背側骨片の転位を生じた症例.
向井順哉宮本俊之、森圭介、大場陽介、山口圭太、花谷拓哉.
第112回長崎整形外科懇話会. 長崎, 2023.11.18.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

＜座長＞

1）Up-to-date knowledge of orhtopaedic trauma survery
宮本俊之.
JOA/AAOS Combined symposium. 第96回日本整形外科学会学術集会. 横浜, 2023.5.13.

2）宮本俊之.
韓国・台湾フェロープレゼンテーション. 第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023.6.30.

3）NPを知っていますか？.
宮本俊之.
第36回日本四肢再建・創外固定学会. 郡山, 2023.7.15.

4）The history and future of the good doctor
宮本俊之.
Invited lecture 2. 第55回日本医学教育学会. 長崎, 2023.7.28.

5）宮本俊之.
大腿骨近位部1. 第146回西日本整形・災害外科学学術集会. 宜野湾, 2023.11.3

＜口演＞

1）高齢者大腿骨転子部骨折にCTは必要か.
向井順哉、宮本俊之、森圭介、大場陽介、山口圭太、花谷拓哉.
大腿骨近位. 第146回西日本整形・災害外科学学術集会. 宜野湾, 2023.11.3.

2）当科での大腿骨転移に対する治療戦略.
花谷拓哉、宮本俊之、森圭介、大場陽介、山口圭太、向井順哉.
骨腫瘍. 第146回西日本整形・災害外科学学術集会. 宜野湾, 2023.11.4.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# リハビリテーション科

責任者　宮本 俊之・藤﨑 暢

## 診療科の特色

リハビリテーション科は、リハビリテーション科医長１名（整形外科部長併任)、理学療法士12名、作業療法士４名、言語聴覚士２名、事務助手１名が在籍しています。施設基準は運動器リハ（Ⅰ)・脳血管疾患等リハ（Ⅰ)・廃用症候群リハ（Ⅰ)・心大血管疾患リハ（Ⅰ)・呼吸器リハ（Ⅰ)・がん患者リハを取得しています。

リハビリ依頼は、27の診療科よりあり、急性期の多岐多様な疾患に対応しています。代表的な疾患としては整形外科では骨接合術・人工関節置換術の症例、脳神経外科や脳神経内科では脳血管疾患の術後また発症直後の症例、外科では悪性腫瘍摘出術後の症例などに対して早期介入を行っています。その他、高度救命センターやNICUにも対応しています。

スタッフの中には、心臓リハビリテーション指導士３名、心不全療養指導士２名、３学会合同呼吸療法認定士６名、がんのリハビリテーション研修受講者が16名在籍しており、専門的なリハビリの提供を行っています。また土曜・祝日勤務も行い急性期病院としての役割を果たすべく早期介入、早期離床を図り効果的な機能回復に向けての継続的なリハビリテーションを実施しています。

また、糖尿病教室やNSTなど院内チーム医療への参加も積極的に行っております。

地域連携においては後方支援施設と行っていた大腿骨頚部骨折の地域連携パスや、その後開始した脳卒中連携パスに関しての地域連携パス会議は本年も再開には至りませんでした。

地域貢献においては、県央地区広域リハビリテーションセンターの協力施設として登録しており地域で行われるの講座の講師として参加をしています。また当院DMATにも１名参加し活動を行っています。

## 入院診療実績

**理学療法・作業療法実績**

| | 理学療法 | 作業療法 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 実施延べ件数 | 31,790 | 9,680 | 41,470 |
| 実施延べ単位数 | 42,160 | 12,113 | 54,273 |

※実施延べ件数・単位数は2023年に理学療法・作業療法を実施した件数・単位数
※2023年の新規介入依頼数は3,182件

**リハビリ処方主要10疾患　疾患別臨床統計**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 |
|---|---|---|
| １）廃用症候群 | M6259 | 297 |
| ２）脳梗塞 | I630 ～ I639 | 264 |
| ３）消化器の悪性腫瘍 | C151 ～ C259 | 195 |
| ４）大腿骨骨折 | S7200 ～ S7290 | 179 |
| ５）肺炎等 | J129 ～ J189 | 174 |
| ６）頭蓋内出血 | I600 ～ I619 | 154 |
| ７）関節疾患 | M0091 ～ M2457 | 139 |
| ８）誤嚥性肺炎 | J690 | 119 |
| ９）心不全 | I500 ～ I518 | 109 |
| 10）肺の悪性腫瘍 | C340 ～ C349 | 107 |

※2023年　主病名にてリハ処方件数を分類集計

**リハビリ処方患者の主な診療科と実患者数・比率**

| 診療科 | 患者人数 | 比率（%） |
|---|---|---|
| 総合診療科 | 524 | 16.47 |
| 整形外科 | 508 | 15.96 |
| 脳外科 | 331 | 10.40 |
| 脳神経内科 | 330 | 10.37 |
| 外科 | 242 | 7.61 |
| 呼吸器内科 | 211 | 6.63 |
| 血液内科 | 182 | 5.72 |
| 循環器内科 | 174 | 5.47 |

※上記診療科を含め、リハビリ介入依頼は27診療科よりあり

**言語聴覚療法実績**

| | 入院 | 外来 |
|---|---|---|
| 疾患別算定件数 | 3,753 | 85 |
| 疾患別算定単位数 | 4,562 | 193 |
| 摂食・嚥下療法件数 | 628 | 62 |

※2023年に言語療法、摂食・嚥下療法（嚥下評価のみも含む）を行った件数
※VE検査・VF検査は耳鼻咽喉科医師と共に施行

## 研修・教育

1．カンファレンス等

| | 参加職種 | 参加人数（平均） | 開催頻度 |
|---|---|---|---|
| 整形外科カンファレンス | 医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、地域連携室 | 10 | 2/週 |
| 地域連携診療パス会議（大腿骨頸部骨折） | 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、MSW等 | 40 | 非開催 |
| 7Aカンファレンス | 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士 | 5～8 | 1/月 |
| 緩和ケアカンファレンス | 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師、MSW | 10 | 1/週 |
| 救命病棟リハカンファレンス | 医師、看護師、理学療法士、作業療法士 | 5 | 1/週 |
| 循環器カンファレンス | 医師、理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW | 8 | 1/週 |
| 3B病棟カンファレンス | 医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、地域連携室 | 8 | 1/週 |
| 血液内科カンファレンス | 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士 | 8 | 1/週 |
| 呼吸器外科カンファレンス | 医師、看護師、理学療法士、MSW | 7 | 1/週 |
| 心臓外科カンファレンス | 医師、看護師、理学療法士、薬剤師、MSW | 8 | 1/週 |
| RSTカンファレンス | 医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床工学技士 | 8 | 1/週 |
| 摂食・嚥下カンファレンス | 医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士 | 8 | 1/2週 |

※新型コロナウイルス感染拡大以降、現在も非開催となっているカンファレンスおよび会議あり

**2．研修（国立病院機構等主催分）**

1）R5年度医療職（二）等職場長管理研修

6.19(AM) 6.27(PM)　　藤﨑暢、鶴丸広大、伏谷志保

2）R5年度リハビリテーション職特定派遣技能研修（Ⅶ）「コミュニケーション」

8.18　　田縁尚

3）R5年度臨床研究のデザインと進め方に関する研修

12.22　　吉永龍史

**3．講師・座長等（国立病院機構等主催分）**

1）R5年度リハビリテーション職特定派遣技能研修（Ⅰ）「摂食・嚥下」

7.7(PM)　　伏谷志保

2）R5年度リハビリテーション職特定技能派遣研修（Ⅱ）「心臓リハビリテーション」

12.21(PM)　　松下　佳矢

**4．リハビリテーション科勉強会**

| | | |
|---|---|---|
| 1）認知症について | 2.8 | 田縁尚 |
| 2）ポジショニングについて | 2.22 | 東隼 |
| 3）SDドレーンの取扱いについて | 5.17 | 森塚　JNP |
| 4）血液生化学検査について | 6.22 | 松下佳矢 |
| 5）呼吸の見方（視診と触診） | 7.27 | 米永敬子 |
| 6）心エコー所見の捉え方 | 8.30 | 吉永龍史 |
| 7）ヒューマンエラーを防ぐためのコミュニケーション | 9.28 | 松永和也 |
| 8）人工呼吸器について | 10.26-27 | 石川・川満　ME |
| 9）失語症評価 | 11.24 | 伏谷志保 |
| 10）吐物処理について（講義・実技） | 12.7,13 | 中川聖 |
| 11）広域リハビリテーション支援センターについて | 12.14 | 藤﨑暢 |

**5．理学・作業療法士等養成校臨床実習受け入れ**

2023年は受け入れ実績なし

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**様式２　競争的研究費一覧**

| No. | ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金 | 研究課題名 | 研究者名 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 当院登録症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ②科学研究費助成事業（科学研究費補助金） | 高度救命救急センターで人工呼吸管理となった患者における歩行自立の予測モデルの開発 | 吉永　龍史 | 日本学術振興会 | 主任 | 新規 | 144例 |

## 研究業績

### 学会・研究会・講演

**A：国際学会・国際会議**

**A-b2：一般演題**

**＜Oral＞**

1）Handgrip strength as a predictor of independent walking upon discharge in critically ill adults：
a prospective study in advanced emergency and critical care center.
Ryuji Yoshinaga, Narumi Yamada, Ryo Kozu.
Critical Care Medicine 1. The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology（APSR）2023. Singapore. 2023.11.17.

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）術前から術後回復期までリハビリテーションを実施した食道がん術後患者における運動耐容能変化の関連因子.
遠山柊介、名倉弘樹、吉永龍史、田中貴子、神津玲.
第 6 回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会. 福島市（Web）, 2023.10.14.

2）重症患者における集中治療室獲得性筋力低下（ICU-AW）の臨床的特徴.
吉永龍史、百枝裕太、山田成美.
口演51/理学療法 3 － 4 呼吸器・急性期. 第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

**B-c：研究会発表**

**＜口演＞**

1）糖尿病教育入院患者における筋力とインスリン分泌能の関連
東隼、林勝仁、吉永龍史、土井広貴、安井順一.
第50期佐賀・長崎合同県活動. Web, 2023.7.22

2）重症患者における高度救命救急センター退室時の握力は歩行自立を予測する：前向きコホート研究.
吉永龍史、山田成美、神津玲.
第10回国立病院理学療法士協議会九州部会学会. Web, 2023.12.13.

**C, D , E, F , ：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜講演＞**

1）急性期における呼吸理学療法戦略.
吉永龍史.
呼吸グループ班. 長崎大学夢塾勉強会. 長崎（Web）, 2023.10.11.

**D：学会・研究会開催**

＜座長＞

1）鶴丸広大.
作業療法の士の魅力再発見～他職種が目指したきっかけ～第16回国立病院機構九州グループ作業療法研修会.
佐賀, 2023.7.29

**E：研究会世話人**

**＜コメンテーター＞**

1）吉永龍史、原　薫、濱田真理、松川絵理、川口禎仁、道脇一輝、丸山真理子.
第 3 回長崎県心不全療養指導士地域勉強会. Web, 2023.12.7.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

1）吉永龍史、桑原薫、濱田真理、松川絵理、川口禎仁、道脇一輝.
第 1 回長崎県心不全療養指導士地域勉強会. Web, 2023.4.27.

2）吉永龍史、桑原薫、濱田真理、松川絵理、川口禎仁、道脇一輝、丸山真理子.
第 2 回長崎県心不全療養指導士地域勉強会. Web, 2023.8.24."

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 脳神経外科

責任者　案田 岳夫

## 診療科の特色

6名の脳神経外科学会専門医（うち日本脳卒中学会専門医2名、日本脳卒中の外科学会技術指導医1名、日本脳神経血管内治療学会専門医1名、脳血栓回収療法実施医2名、日本てんかん学会専門医2名、日本小児神経外科学会認定医2名、日本臨床神経生理学会専門医2名、日本がん治療学会認定暫定教育医1名など)、および2名の診療看護師が主に脳神経外科診療に携わっています。対象疾患は、脳卒中、未破裂脳動脈瘤、てんかん、頭部外傷、脳腫瘍、水頭症、機能的脳神経外科疾患（顔面けいれんなど）などで、年間手術症例は毎年400例を超えています。一次脳卒中センターに認定されている当院では、本土・離島に関わらず広く、また365日24時間絶え間なく患者さんを受け入れています。救急患者受け入れにおいては、救命救急医、脳神経内科医と連携し脳卒中ホットラインを運用しています。離島発症超急性期脳梗塞患者に対しては、画像伝送システムを駆使し全国に先駆けて“t-PA drip and ship”を開始しました。近年ではさらに血管内治療による血栓回収療法を組み合わせた“drip, ship and retrieve”を行っています。脳動脈瘤に対するカテーテル塞栓術の進歩も劇的で、全国的に従来の直達手術によるクリッピング術から、塞栓術へのシフトが進んでいますが、当院でもその傾向がみられています。てんかんセンターでもある当院では、てんかん患者に対し的確に診断を行い、特に難治症例に対する手術治療を行っています。全国から患者さんが来院し、小児科医、臨床心理士、およびMSWと連携し包括的な診療を提供しています。内視鏡下脳腫瘍摘出術も行っています。非侵襲的であることより、術後速やかにADL回復がはかれ、後療法へスムーズに移行できるようになりました。その他、公的、私的研究費を獲得し、臨床研究にも励んでおり多数の研究発表を行っています。患者さんに速やかに良質の医療を提供することをモットーとして我々は働いていますが、ワーク・ライフバランスも重要視しており、新たな勤務体制づくりに取り組んでいるところです。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | (再掲) 死亡 | |
| 12,136人 | 33.2人 | 557人 | 548人 | 31人 | 22.0日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 282件 | 94.6% | 538件 | 126.6% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。(入院後に転科した場合)**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 169人(31.6%) | 132人(24.7%) | 12人(2.2%) | 5人(0.9%) | 1人(0.2%) | 33人(6.2%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 13人(2.4%) | 18人(3.4%) | 18人(3.4%) | | 2人(0.4%) | 15人(2.8%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1人(0.2%) | | 29人(5.4%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 7人(1.3%) | 10人(1.9%) | 16人(3.0%) | 53人(9.9%) |

| 合計 |
|---|
| 534人 |

**入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 1）脳腫瘍 | C71 | 18 | 1 |
| 2）クモ膜下出血 | I60 | 64 | 7 |
| 3）未破裂脳動脈瘤 | I67.1 | 44 | 1 |
| 4）脳動静脈奇形 | G28.3 | 4 | 0 |
| 5）脳梗塞 | I63 | 13 | 1 |
| 6）脳出血 | I61 | 95 | 12 |
| 7）頭部外傷 | S09 | 78 | 9 |
| 8）慢性硬膜下血腫 | I62 | 65 | 0 |
| 9）水頭症 | G91 | 11 | 0 |
| 10）てんかん | G40 | 123 | 0 |

**主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績**

| 手術名 | Kコード | 患者数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 1）脳動脈瘤頸部クリッピング | 39.51 | 38 | 0 |
| 2）脳出血血腫除去術 | 1.39 | 30 | 2 |
| 3）脳腫瘍摘出術 | 1.59 | 13 | 0 |
| 4）頭部外傷開頭血腫除去術 | 1.24 | 19 | 3 |
| 5）慢性硬膜下血腫穿頭血腫ドレナージ術 | 1.31 | 75 | 1 |
| 6）難治てんかん手術 | 4 | 32 | 0 |
| 7）水頭症脳室腹腔シャント術 | 2.34 | 25 | 0 |
| 8）脳梗塞血管吻合術 | 38.31 | 8 | 0 |
| 9）動脈血栓内膜摘出術 | | 4 | 0 |
| 10）血管内手術（コイル塞栓など） | 38.81 | 100 | 3 |

**手術件数と麻酔**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 424 | 256 | 0 | 0 | 168 | 245 | 179 |

**手術成績**

| | 件数 | 在院死亡 | 1ヶ月以内死亡 | 再手術 | 手術部位感染症 |
|---|---|---|---|---|---|
| 待機手術 | 177 | 1 | 1 | 2 | 10 |
| 緊急手術 | 247 | 14 | 14 | 6 | 2 |

手術症例数

総手術症例数：424（A＋B)＋ 6 (C)＝430例

（A）　直達手術：324例

・脳血管障害：81例

脳動脈瘤：38例

| | 破裂29例 | 未破裂9例 |
|---|---|---|
| 中大脳動脈瘤 | 13例 | 6例 |
| 内頚動脈瘤 | 7例 | 0例 |
| 前交通動脈瘤 | 5例 | 3例 |
| 前大脳動脈瘤 | 3例 | 0例 |
| 後下小脳動脈瘤 | 1例 | 0例 |

脳内出血：30例

| | 開頭術20例 | 内視鏡手術 7 例 | 定位手術 3 例 |
|---|---|---|---|
| 被殻出血 | 9例 | 3例 | 3例 |
| 皮質下出血 | 8例 | 2例 | 0例 |
| 小脳出血 | 3例 | 2例 | 0例 |

内頚動脈内膜剥離術：4例

頭蓋内血管バイパス術：8例

STA-MCA吻合6例、OA-PICA吻合1例、RA graft1例

脳動静脈奇形：1例

- 脳腫瘍：13例

神経膠芽腫：3例

髄膜腫：4例

頭蓋咽頭腫：1例

転移性脳腫瘍：1例

悪性リンパ腫：3例

頭蓋骨腫瘍：1例

- 頭部外傷：94例

急性硬膜下血腫：18例

急性硬膜外血種：1例

慢性硬膜下血腫：75例

- てんかん：32例

側頭葉切除：6例

焦点切除：4例

脳梁離断：11例

前頭葉離断：1例

頭蓋内電極埋め込み：3例

迷走神経刺激装置埋め込み：6例

迷走神経刺激装置入れ替え：1例

- 水頭症：31例

VP shunt：17例

VA shunt：2例

LP shut：6例

シャント抜去/延長：6例

- 減圧開頭術：13例
- 頭蓋形成術：19例
- 脳室ドレナージ術：21例
- 感染：14例
- ICPセンサー留置術：1例
- その他：5例

(B)　血管内治療：100例

- 脳動脈瘤コイル塞栓術：33例

| | 破裂20例 | 未破裂13例 |
|---|---|---|
| 内頚動脈瘤 | 5例 | 6例 |
| 前交通動脈瘤 | 7例 | 3例 |
| 中大脳動脈瘤 | 0例 | 1例 |
| 椎骨動脈瘤 | 2例 | 0例 |
| 脳底動脈瘤 | 5例 | 2例 |
| 後交通動脈瘤 | 1例 | 1例 |

- 脳動脈瘤Pipeline留置：1例（内頚動脈瘤）
- 硬膜動静脈瘻：9例

・頸動脈ステント：9例
・血栓回収：42例
・TAE（腫瘍）：1例
・脳動静脈奇形：4例
・慢性硬膜下血腫：1例

（C）　放射線治療：6例
・定位放射線治療：3件
・定位放射線治療以外：3例

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**治験等参加研究一覧**

| No. | 項目<br>①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | ピヴラッツ点滴静注液150g特定使用成績調査(長期観察) | 無 | イドルシアファーマシューティカルズジャパン（株） | 案田岳夫 | 10例 |
| 2 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | 製品の性能調査及び薄型チタンプレート使用による整容的効果 | 無 | サンエー精工株式会社 | 案田岳夫 | 50例 |
| 3 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | オンデキサ静注用200mg一般使用成績調査 | 無 | アストラゼネカ株式会社 | 案田岳夫 | 8例 |
| 4 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 迷走神経刺激療法で治療されたてんかん患者における、包括的な転帰に関する登録研究. | 有 | リヴァノヴァ株式会社 | 小野智憲（PI） | 11例 |
| 5 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 小児及び成人レノックスガストー症候群患者を対象とした二部構成ZX008評価試験：パート1：発作に対する補助療法として2種類の固定要領のZx008. | 有 | サイネオス・ヘルス・クリニカル株式会社 | 小野智憲（分担） | 3例 |
| 6 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 部分てんかん患者に対するcenombamate追加療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験及び非盲検継続試験. | 有 | SK Biopharmaceuticals社 | 小野智憲（PI） | 6例 |
| 7 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | ドラベ症候群、およびレノックス・ガストー症候群患者を対象としたTAK-935（soticlestat）の第3相試験. | 有 | 武田薬品工業株式会社 | 小野智憲（分担） | 1例 |
| 8 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | Streotyped prolonged seizureを有する12歳以上の患者を対象として、staccato alprazolamの有効性及び安全性を評価する二重盲検、無作為化、プラセボ対照、多施設共同、並行群間比較試験. | 有 | ユーシービージャパン株式会社 | 小野智憲（PI） | 0例 |
| 9 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 部分発作を有する日本人てんかん患者を対象としたCenobamateの長期安全性を評価する第2相多施設共同非盲検継続投与試験 | 有 | 小野薬品工業株式会社 | 小野智憲（PI） | 2例 |

| No. | 項目<br>①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | 日本人小児および成人患者を対象にレノックス・ガストー症候群、ドラベ症候群または結節性硬化症と関連する発作に対する併用療法として、カンナビジオール経口液剤（GWP42003-P）の安全性および有効性を検討する非盲検試験、 | 有 | GW Pharmaceuticals | 小野智憲（分担） | 3例 |
| 11 | ④受託臨床研究（文書同意あり） | CDKL5欠損症患者を対象としたZX008の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、固定用量、多施設共同試験、及び非盲検継続投与試験、 | 有 | UCB/Zogenix International Limited | 小野智憲（分担） | 0例 |

**競争的研究費一覧**

| No. | 項目（財源別）<br>①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金 | 研究課題名<br>研究課題名 | 研究者名<br>研究者名 | 研究事業名<br>（依頼業者名） | 主任<br>分担 | 新規<br>継続 | 当院<br>登録症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） | 小児難治てんかん手術例における脳梁髄鞘化の発達プロファイリング | 小野智憲 | 基盤研究（C） | 主任 | | 例 |
| 2 | ③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） | 小児のてんかん原性の形成・進展に関与する脳内ネットワークの解明 | 小野智憲 | 基盤研究（C） | 分担 | | 例 |
| 3 | ⑩その他財団等からの研究費 | いわゆる「てんかん性脳症」における未熟アストロサイト機能の解明 | 小野智憲 | てんかん治療研究振興財団研究助成 | 主任 | | 例 |
| 4 | ⑩その他財団等からの研究費 | てんかん患者におけるペランパネル一時単剤療法の有効性・安全性に関する観察研究（PORTABLE Study） | 小野智憲 | 国際医療福祉大学医学部 | 分担 | | 例 |
| 5 | ③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） | 悪性神経膠腫に対する薬剤封入リポソームの送達治療と脳内薬物動態の三次元解析 | 吉田道春 | 若手研究 | 主任 | 新規 | 例 |
| 6 | ③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） | 悪性脳腫瘍に対するマイクロバブルと集束超音波によるmRNA医薬非侵襲的送達法の開発 | 吉田道春 | 基盤研究（C） | 分担 | 新規 | 例 |
| 7 | ③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） | 悪性神経膠腫に対するsiRNAを使用した核酸医薬導入への挑戦 | 吉田道春 | 基盤研究（C） | 分担 | 新規 | 例 |
| 8 | ⑩長崎医療センター院内臨床研究 | 脳梁離断術後に顕在化する非対称性てんかん性スパズム：脳波および発作の非対称化による二期的焦点切除術の適応判断は可能か？ | 内田大貴 | 長崎医療センター | 主任 | 新規 | 例 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 脳神経疾患症例検討会<br>（脳神経外科、脳神経内科、救命救急科、研修医） | 週１回 |
| 脳卒中モーニングカンファレンス<br>（脳神経外科、脳神経内科、研修医） | 平日毎日 |
| 院内てんかんカンファレンス | 月１回 |
| 長崎てんかんグループカンファレンス | 月１回 |
| リハビリカンファレンス<br>（脳神経外科、脳神経内科、看護師、リハビリスタッフ、栄養士、MSW） | 週１回 |

## 学会・論文など

**１）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 4(5) | 1 | 0 | 2 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**２）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 6(1) | 24(2) | 4 | 8 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**３）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際 | 国内 | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 5 | | |

**４）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 4 | 0 | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

１）An integrated genetic analysis of epileptogenic brain malformed lesions.
Fujita A, Kato M, Sugano H, Iimura Y, Suzuki H, Tohyama J, Fukuda M, Ito Y, Baba S, Okanishi T, Enoki H, Fujimoto A, Yamamoto A, Kawamura K, Kato S, Honda R, Shiraishi H, Egawa K, Shirai K, Yamamoto S, Hayakawa I, Kawawaki H, Saida K, Tsuchida N, Uchiyama Y, Hamanaka K, Miyatake S, Mizuguchi T, Nakashima M, Saitsu H, Miyake N, Kakita A, Matsumoto N.
Acta Neuropathol Commun.　Mar 2；11(1)：33, 2023.

２）Intravenous perampanel as an alternative to the oral formulations in Japanese patients with epilepsy.
Hanaya R, , Kubota Y, Mizobuchi M, Iida K,　Motooka H, Nakano N, Fujimoto A, Iwasaki M, Fukuda M, Kondo A, Uruno K, Yamamuro S, Yamaguchi K, Onishi K, Ngo LY, Inoue Y.
Epilepsia Open. 2023;2023 Dec；8(4)：1369-1382.

3）Temporal Lobe Surgery for Epilepsy in a Resource-Limited Vietnamese Cohort.
Tran VD, Nguyen BT, Van Dong H, Lieber BA, Bista J, Van Vu H, Bui TN, Chu HT, Nguyen PX, Nguyen TA, Trieu ST, Nhu SD.
World Neurosurg. 2023；2023 Oct；178：e559-e565.

4）Treatment of new-onset primary central nervous system lymphoma in elderly patients using RMPV chemotherapy：A single institution experience.
Yoshida M, Kato T, Hiu T, Imaizumi Y, Morimoto S, Niino D, Yamaguchi S, Baba S, Ujifuku K, Yoshida K, Matsuo A, Morofuji Y, Izumo Y, Okano S, Miyazaki Y, Matsuo T.
International Journal of Hematology 2023；118(3)：333-339.

5）5-aminolevulinic acid-guided endoscopic biopsy with violet light-emitting diode flashlight in malignant glioma: Technical note.
Yoshida M, Yamagushi S, Iwasaki K, Iwanaga M.
Surgical neurology international 2023；14；397.

6）Nurse Practitioner Placement in A Nursing Home in Japan.
Masahide Koda.
The journal of Nurse Practitioner 2023；20(1).

**A-a2：英文症例報告**

1）Two-year efficacy of lacosamide as adjunctive therapy for generalized tonic-clonic seizures in patients with juvenile myoclonic epilepsy.
Kobayashi Y, Kobayashi Y, Honda R, Yamada K, Hojo M, Miura M, Seki E, Tohyama J.
Brain Dev. 2023；2023 Sep；45(8)：451-455.

**A-b2：英文抄録**

1）Case report：Unruptured small middle cerebral artery aneurysm with perianeurysmal edema.
Goto Y, Morofuji Y, Shiozaki E, Uchida D, Kawahara I, Ono T, Haraguchi W, Tsutsumi K.
Front Surg. 2023；2023 Apr 11；10：1134231.

**A-c：英文著書**

1）Corpus callosotomy for epilepsy.
Ono T, Roberts DW.
Engel J Jr. and Moshe SL eds. Epilepsy: A Comprehensive Textbook. 3rd Edition. Volume Ⅲ, Section 9, Chapter 221.（Book Chapter）.

**B：和文**

**B-b：和文総説**

1）脳梁離断術.
小野智憲.
脳神経外科 2023；51；115-125, 2023.

**B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）**

1）限られた医療資源の中で、サスティナブルなケアシステムを構築する.
本田和也.
週刊医学界新聞（看護号）2023；3507.

2）看護の旅をとおして、看護のリーダーシップを振り返る.
本田和也.
看護展望 2023；49(1)・p80-83.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会・国際会議**

**A-a：特別講演, 教育講演, 招待講演**

**＜教育講演＞**

1）Corpus callosotomy.
Ono T.
Epilepsy Treatment Training Course in Indonesia, Web, 2023.7.21.

**A-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）Developmental rate is highly accelerated within the first year after resective epilepsy surgery in children.
Ono T, Honda R, Uchida D, Baba S, Toda K, Baba H.
the XVII Asian Epilepsy Surgery Congress, Ho Chi Minh City, Vietnum. 2023.11.10-11.

**A-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）Direct Evidence that Age-related Changes in MRI-diffusion Tensor Imaging in the Human Corpus Callosum Represent the Development of Neuronal Fiber Myelination.
Ono T, Honda R, Shimasaki A, Uchida D, Baba S, Toda K, Baba H.
The 65th Annual Meeting of the Japanese Society of Child Neurology（International session), Okayama, 2023.5.25-27.

2）Direct Evidence that Age-related Changes in MRI-diffusion Tensor Imaging in the Human Corpus Callosum Represent the Development of Neuronal Fiber Myelination.
Ono T, Honda R, Shimasaki A, Uchida D, Baba S, Toda K, Baba H.
The 56th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society（English session). Tokyo, 2023.10.19-21.

**＜ポスター＞**

1）Nurse practitioners lead the care innovation focused on the remote island residents and the aging society in Japan.
Kazuya Honda, Tomoya Moritsuka, Yukari Nishiyama, Hideki Motomura, Tomonori Ono, Takeo Anda.
International Council of Nurses Congress 2023. Canada, Montreal, 2023.6.30.

2）Direct Evidence that Age-related Changes in MRI-diffusion Tensor Imaging in the Human Corpus Callosum Represent the Development of Neuronal Fiber Myelination.
Ono T, Honda R, Shimasaki A, Uchida D, Baba S, Toda K, Baba H.
35th International Epilepsy Congress. Dublin, Ireland. 2023.9.2-6.

3）CHANGES IN OUTCOMES FROM BEFORE TO AFTER EMPLOYING NURSE PRACTITIONERS IN CARDIOVASCULAR HOSPITALS IN JAPAN.
Miho Suzuki, Kazuya Honda, Natsuko Sekiguchi, Masato Saito, Masahide Koda , Kazuya Honda, Takao Watanabe.
1st Asia and pacific congress for Nurse practitioner. Taiwan, 2023.12.2.

**B：国内学会**

**B-a：特別講演, 教育講演**

**＜特別講演＞**

1）特発性全般てんかんに関わる諸問題.
小野智憲.
Epileptologist Rising Star Program 西日本. WEB, 2023.4.7.

2）診療看護師（NP）とは－外傷診療領域で活躍する可能性について－.
本田和也.
NP（Nurse Practitioner）を知っていますか?. 第36回日本四肢再建・創外固定学会学術集会. 福島県郡山市, 2023.7.15.
3）てんかん外科医からみたnetwork disorderとしてのてんかん.
小野智憲、佐藤和明.
第34回臨床神経生理研究会（九州）. WEB, 2023.8.12.
4）てんかん外科治療は小児の発達を改善させるのか？.
小野智憲.
子供のてんかんを考える会 in 新潟2023. 新潟, 2023.9.15.
5）てんかん外科治療は小児発達を完全させ得るのか？.
小野智憲.
てんかん診療セミナー 2023. 大阪, 2023.11.8.

**＜教育講演＞**
1）これからのVNS療法－脳外科医の視点から－.
小野智憲.
第10回全国てんかんセンター協議会総会. 宇都宮, 2023.2.10-12.
2）MRIでみる大脳皮質解剖.
小野智憲.
第 8 回若手のためのてんかん外科実践セミナー in 九州. 沖縄, 2023.7.16.

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**
＜シンポジウム＞
1）小児てんかんにおける単脳葉または多脳葉離断術の長期成績.
小野智憲、本田涼子、内田大貴、島崎敦、馬場史郎、戸田啓介、馬場啓至.
第46回日本てんかん外科学会. 山口, 2023.1.26-27.
2）てんかん診療支援コーディネーターとしての病棟看護師の役割～焦点切除術を受けた患児の退院後の生活を見据えて～.
林優奈、小玉美香、菅明美、島崎敦、本田涼子、小野智憲.
第46回日本てんかん外科学会. 山口, 2023.1.26-27.
3）離断・緩和・凝固手術の治療戦略.
小野智憲.
第46回日本てんかん外科学会. 山口, 2023.1.26-27.
4）長崎県における自治体主導のてんかん診療連携ネットワークのねらい：専門医療と地域医療との間のアクセスルートを整備する.
小野智憲、本田涼子、實藤美香、田中圭.
第10回全国てんかんセンター協議会総会. 宇都宮, 2023.2.10-12.
5）「誰も取り残さない」てんかん移行期医療.
本田涼子、小野智憲、安忠輝、西口奈菜子、池田憲呼、佐藤和明、内田大貴.
第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.19-21.
6）脳外科医として小児発達の神秘に挑む.
小野智憲.
第53回日本臨床神経生理学会学術大会サテライトシンポジウム：小児脳機能研究会. 福岡, 2023.11.30.

**＜パネルディスカッション＞**
1）当院における多職種連携を基盤とした新たなケアモデルの提案.
森塚倫也.
より質の高い看護に向けたスペシャリストとジェネラリストの協働－Win-Winに協働するための秘訣とは－.
第19回日本クリティカルケア看護学会. 東京, 2023.7.1.

2）診療看護師（NP）が創造する、僻地・離島医療の課題－持続可能性に向けた方略－.
本田和也.
看護職の立場からへき地・離島における地域医療の持続可能性について考える. 第26回へき地離島救急医療学会. 島根県, 2023.10.7.

**B-b2：一般演題**

**＜oral＞**

1）両側椎骨動脈解離によるくも膜下出血をきたした１例.
原口渉、定方英作、内田大貴、森塚倫也、本田和也、川原一郎、小野智憲、案田岳夫.
脳血管障害１. 第143回日本脳神経外科学会九州支部会. 久留米, 2023.3.11.

**＜口演＞**

1）長崎県中核市中病院２施設におけるグリオーマ治療の10年を振り返る.
吉田道春、山口将、内田大貴、定方英作、原口渉、小野智憲、岩永充人、案田岳夫.
第144回日本脳神経外科学会九州支部会. 佐賀, 2023.6.3.

2）後交通動脈解離によるくも膜下出血をきたした１例.
定方英作、原口渉、内田大貴、森塚倫也、本田和也、小野智憲、案田岳夫.
第38回日本脳神経血管内治療学会九州地方会. 福岡, 2023.7.29.

3）地方市中病院のグリオーマ治療における脳腫瘍外科医の意義を考察してみた.
吉田道春、案田岳夫、山口将、林之茂、上之郷眞木雄、内田大貴、定方英作、原口渉、小野智憲、岩永充人、案田岳夫.
第28回日本脳腫瘍の外科学会. 長崎, 2023.9.23.

4）側頭葉てんかんにおける腫瘍性病変：単一施設での検討.
内田大貴、小野智憲、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫、馬場史郎、戸田啓介、馬場啓至.
一般演題24　機能【３】. 第28回日本脳腫瘍の外科学会. 長崎, 2023.9.30.

**＜ポスター＞**

1）長崎てんかん医療福祉ガイドブックの作成：相談支援から日常生活の困りごとを考える.
實藤美香、小野智憲、本田涼子、田中圭.
第10回全国てんかんセンター協議会総会. 宇都宮, 2023.2.10-12.

2）ステント併用コイル塞栓術後に母血管狭窄をきたしバイパスを行た１例.
定方英作、出雲剛、高平良太郎、内田大貴、原口渉、川原一郎、小野智憲、案田岳夫、松尾孝之.
ポスター 90、未破裂脳動脈瘤５. STROKE2023. 横浜, 2023.3.17.

3）舌骨に関連した頸動脈血管障害.
川原一郎、小川由夏、塩崎絵理、原口渉.
ポスターセッション108、頸動脈病変６. STROKE2023. 横浜, 2023.3.18.

4）急性期脳卒中患者におけるベッドサイド嚥下スクリーニングテストの有効性と安全性の検討.
森塚倫也、伊藤健大、松崎智子、本田和也、内田大貴、定方英作、小野智憲、原口渉、川原一郎、案田岳夫.
ポスターセッション111メディカルスタッフ. STROKE2023. 横浜, 2023.3.18.

5）画像認識AIを活用した、てんかん発作の動態解析.
内田大貴、小野智憲、山内三郎、本田涼子、佐藤和明、馬場史郎、松尾孝之.
P1-2. 第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.19.

6）日本人てんかん患者を対象としたペランパネル注射剤第２相試験－経口製剤の代替療法における安全性評価－.
花谷亮典、小野智憲、久保田有一、溝渕雅弘、飯田幸治、本岡大道、中野直樹、藤本礼尚、岩崎真樹、
福田真史、近藤聡彦、宇留野勝久、山口晃平、大西希咲、井上有史.
第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.19-21.

7）GNAO1遺伝子変異をもつ発達性てんかん性脳症例の治療経験.
池田ちづる、本田涼子、木下万莉、藏田洋文、百崎謙、今村穂積、岡田健太郎、小篠史郎、本田涼子、
小野智憲、宮冬樹、加藤光弘.
第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.19-21.

8）遠位硬化症脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血をきたしたpial AVFの1例.
定方英作、原口渉、内田大貴、森塚倫也、本田和也、小野智憲、案田岳夫.
出血性血管障害. 日本脳神経外科学会第82回学術総会. 横浜(web), 2023.10.25.
9）頭蓋外血栓化内頚動脈瘤による脳梗塞をきたした1例.
定方英作、原口渉、内田大貴、森塚倫也、本田和也、小野智憲、案田岳夫.
特殊な動脈瘤症例報告. 第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 京都, 2023.11.24.
10）地方市中病院の膠芽腫治療における脳腫瘍専門医の意義.
吉田道春、案田岳夫、山口将、林之茂、上之郷眞木雄、内田大貴、定方英作、原口渉、小野智憲、岩永充人、案田岳夫.
第41回日本脳腫瘍学会. 新潟, 2023.12.4.

**B-c：研究会発表**

**＜シンポジウム＞**

1）診療看護師（NP）が脳神経外科で活躍するための戦略とは.
本田和也.
シンポジウム2 －脳神経外科NPの現状と展望－ 第3回藤田医科大学 ばんたね病院 NP summit. Web, 2023.5.13.

**＜特別講演＞**

1）当院におけるに救急看護の取り組みと今後のNPの展望.
本田和也.
セッション①. エーザイ株式会社　神経救急conference in 長崎. 長崎県長崎市, 2023.6.7.
2）神経科医に知ってほしい大脳皮質解剖と脳波を理解するための「最少」知識.
小野智憲.
佐世保脳神経外科医会. 佐世保, 2023.6.14.
3）脳神経外科で求められる診療看護師（NP）の多様な役割.
本田和也.
第1回Neuro NP Round Table Conference. Web, 2023.9.9.

**＜口演＞**

1）頭蓋外血栓化内頚動脈瘤による脳梗塞をきたした1例.
定方英作、原口渉、内田大貴、森塚倫也、本田和也、小野智憲、案田岳夫.
第44回長崎脳神経外科研究会. 長崎, 2023.6.17.

**C, D, F, G：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜教育講演＞**

1）地域包括ケア時代を阻む壁とその解決の糸口とは－先を見る診療看護師（NP）の立場から－
本田和也.
先を見る医療－地域包括ケア時代の課題と展望－. 令和5年度東京医療保健大学大学院医療保健学研究科 公開講座. Web, 2023.7.8.

**＜パネルディスカッション＞**

1）先をみる医療に向けて、今後の地域包括ケアにおいて何に取り組むべきなのか?.
本田和也.
先を見る医療－地域包括ケア時代の課題と展望－ 令和5年度東京医療保健大学大学院医療保健学研究科 公開講座. Web, 2023.7.8.

**＜特別講演＞**

1）診療看護師（NP）の導入後の体制構築とは.
本田和也.
危機の時代にチャレンジする高度実践看護師の未来. 日本学術会議健康・生活科学委員会　健康・生活科学委員会看護学分科会. Web, 2023.7.23.

2）診療看護師（NP）として築いてきたこと－これまでの10年、これからの10年－.
本田和也.
令和 5 年度和歌山県看護管理者研修会. Web, 2023.9.16.

3）診療看護師（NP）として歩んできた10年を振り返り、その存在価値を語る.
本田和也.
令和健康科学大学 大学院設置に向けた講演会. 福岡県, 2023.12.6.

**D：学会・研究会開催**

**＜講演＞**

1）脳腫瘍の最新治療.
吉田道春.
日本脳腫瘍の外科学会　市民公開講座 「もしも脳腫瘍といわれたら・・」. 長崎, 2023.11.23.

**＜司会＞**

1）NP「第 2 の波」が変える 病院経営・地域医療の未来－ナースプラクティショナーの経済効果と導入の最前線－.
本田和也.
第 1 部. ナースプラクティショナーの未来を考える会. 東京都, 2023.11.25.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

1）小児てんかんの脳症的影響と外科治療.
小野智憲.
6th Tokyo Epilepsy Surgery Conference. 東京, 2023.3.9.

2）フリーディスカッション.
小野智憲.
第 3 回VNS Round Table Discussion. 2023.3.15.

3）看護エコーをもっと身近に！－看護現場の最前線－.
本田和也.
ランチョンセミナー . 第21回日本看護技術学会学術集会. 熊本県, 2023.10.14.

4）社会的弱者のSOSにきづき、そしてつなぐ－セーフティネットを築ける診療看護師（NP）になるために－.
本田和也.
シンポジウム 2 . 第 9 回日本NP学会学術集会. 北海道, 2023.10.21.

**G：その他**

**＜パネルディスカッション＞**

1）現行制度では対応できない医療ニーズ「ナース・プラクティショナー（仮称）制度」の必要性について.
本田和也.
ミニレクチャー. 日本看護協会　第 4 回NP教育課程修了者の交流会. Web, 2023.3.16.

**＜教育講演＞**

1）院内、地域、在宅で期待される診療看護師（NP）の役割と活動の実際.
本田和也.
トークイベント. 日総研出版「隔月刊 地域連携 入退院と在宅支援」第 5 回「この人の話が聴きたい！」. Web, 2023.4.20.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 皮膚科

責任者　石川 博士

## 診療科の特色

**○皮膚炎・蕁麻疹・中毒疹**

それぞれの疾患の原因の特定に努め、原因を含めて治療を行います。各種アレルギーの原因検索も行っています。難治性の蕁麻疹にも複数の生物学的製剤が使用できるようになりました。

難治例のアトピー性皮膚炎には生物学的製剤やJAK阻害剤内服も使用しています。そのおかげで入院治療が激減しました。

**○尋常性乾癬**

内服外用薬に加えて、難治例には免疫抑制剤や生物学的製剤を用いた治療を行います。重症例も長期の入院は不要となり、ほぼ皮疹が消退し、外用剤を少し使用するのみのレベルまで改善が期待できる時代になりました。ほとんどの症例が外来治療可能となりました。

**○薬疹**

最近の分子標的薬などの抗癌剤では半数以上の症例で何らかの皮膚障害が発生します。しかし、抗ヒスタミン薬やステロイド内服などの対応で殆どの症例で治療継続ができます。原疾患の治療をおし進めることが重要と考えています。

**○皮膚腫瘍**

種々の皮膚腫瘍に対し、ダーモスコピー、超音波検査、CT,MRI検査や病理検査などの必要な検査を行い、良悪性を判断し、手術や化学療法など最適な治療を提供します。

**○帯状疱疹**

皮膚症状に加えて難治性の神経疼痛に対して早期の治療を行い最適の治療薬を選択して早期の治癒を目指します。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | (再掲) 死亡 | |
| 757人 | 2.1人 | 124人 | 123人 | | 6.1日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 289件 | 80.2% | 192件 | 52.9% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 57人(45.6%) | 26人(20.8%) | 2人(1.6%) | 3人(2.4%) | 2人(1.6%) | 12人(9.6%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4人(3.2%) | 9人(7.2%) | 5人(4.0%) | | | 3人(2.4%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | 1人(0.8%) | 1人(0.8%) | |

| 合計 |
|---|
| 125人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 皮膚悪性腫瘍<br>（有棘細胞癌、基底細胞癌等） | C44 | 36 | 0 |
| 帯状疱疹　＋　水痘 | B02 | 13 | 0 |
| 蜂巣炎 | L03 | 11 | 0 |
| 皮膚良性新生物 | D23 | 18 | 0 |
| 薬剤アレルギー | T886 | 2 | 0 |
| 母斑症 | D22 | 12 | 0 |
| アトピー性皮膚炎 | L208 | 0 | 0 |
| 薬疹　中毒疹 | D21 | 3 | 0 |
| 円形脱毛症 | L638 | 3 | 0 |

**主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績**

| 手術名 | ICD-9コード | 患者数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 皮膚腫瘍摘出術 | 86.3 | 32 | 0 |
| 皮膚悪性腫瘍切除術 | 86.3 | 37 | 0 |

**手術件数と麻酔**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 2 | 0 | 0 | 67 | | 69 |

**手術成績**

| | 件数 | 在院死亡 | 1ヶ月以内死亡 | 再手術 | 手術部位感染症 |
|---|---|---|---|---|---|
| 待機手術 | 69 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 緊急手術 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**その他診療科別の実績資料**

外来皮膚生検＋外来小手術　293例

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 県央皮膚科研究会 | 2カ月に1回 |
| 病理医・皮膚科医、病理検討会 | 1カ月に1回 |
| 皮膚科臨床フォトカンファレンス | 1週間に1回 |
| 皮膚科病理組織カンファレンス | 1週間に1回 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 1 | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 研究会 | 市民講座 | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 0 | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 2 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**石川　博士**

◆講演会演者

県北小児科講演会～こどものアトピー性皮膚炎治療を考える会～

「アトピー性皮膚炎治療の進化」 2023年10月12日

◆座長

乾癬領域　ソーティクツ錠乾癬治療勉強会　2023年 6 月14日

乾癬領域　Taltz Focus Week Web Conference　2023年 6 月23日

◆講義

活水女子大学看護学科 2 年、臨床病態学Ⅲ、皮膚科講義　2023年 4 月

長崎医療センター　研修医セミナー、2023年12月「抗ヒスタミン薬について」

**冨野　千愛**

◆論文

「汗疹」皮膚病診療　45巻 9 号 P798-801, 2023

**里見　直義**

◆学会発表

第351回　日本皮膚科学会長崎地方会 「異型黄色腫の一例」2023年 7 月30日

◆講演会演者

地域中核病院における科科連携（当院リウマチ科と合同）2023年 9 月20日

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 泌尿器科

責任者　錦戸 雅春

## 診療科の特色

2023年も県央地区の泌尿器科の基幹病院として診療を行ってきました。４月より長崎大学から柿田聖太先生がレジデントとして赴任され、活躍されています。長年ご指導いただきました松屋先生は引き続き現在週に１回外来をお願いしております。

今年は何といってもようやく念願の手術支援ロボット「ダヴィンチ」が当院に11月導入されたことがビッグニュースでした。12月に第１例目のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術（RALP）を行うことができました。導入と開始にご尽力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。近隣の病院がロボット支援手術を開始してから手術症例も減少傾向にありましたので遅ればせながらまたロボット手術を増やして全体の底上げができればと思っています。昨年は５例の生体腎移植と１例の脳死腎移植を施行しました。他施設からの移植希望の紹介もコンスタントになり腎臓内科と連携して症例増加を期待しているところです。また前立腺肥大症に対するレーザー手術や水蒸気治療も開始しており、症例増加を目指して行きたいと思います。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 5,274人 | 14.4人 | 590人 | 608人 | ４人 | 8.8日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 287件 | 86.3% | 356件 | 104.1% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 344人(57.3%) | 98人(16.3%) | 36人(6.0%) | 26人(4.3%) | １人(0.2%) | 25人(4.2%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| ９人(1.5%) | 25人(4.2%) | ５人(0.8%) | | | ６人(1.0%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | １人(0.2%) | ５人(0.8%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | 10人(1.7%) | ９人(1.5%) |

| 合計 |
|---|
| 600人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 | コメント |
|---|---|---|---|---|
| 前立腺癌 | C61 | 130 | 1 | 内癌疑い82 |
| 膀胱癌 | C679 | 113 | 2 | 内癌疑い5 |
| 腎尿管結石 | N202 | 77 | | |
| 水腎症 | N13 | 57 | | |
| 腎癌 | C64 | 31 | | |
| 腎盂癌 | C65 | 30 | | 内癌疑い5 |
| 尿管癌 | C66 | 17 | 1 | 内癌疑い5 |
| 前立腺肥大症 | N40 | 17 | | |
| 急性腎盂腎炎 | N10 | 15 | | |
| 結石性腎盂腎炎 | N209 | 14 | | |

**主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績**

| 手術名 | Kコード | 患者数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 尿管ステント関連手術 | K783-2,3 | 138 | 0 |
| バスキュラーアクセス関連手術 | K610-3　他 | 70 | 0 |
| 経尿道的尿路結石除去術(TUL) | K781 1 | 73 | 0 |
| 経尿道的膀胱悪性腫瘍手術(TUR-Bt) | K803-6 | 66 | 0 |
| 腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍手術 | K773-2 | 25 | 0 |
| 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 | K843-2 | 14 | 0 |
| 膀胱結石　異物摘出術 | K798-1 | 12 | 0 |
| 包茎手術 | K828 | 9 | 0 |
| 経尿道的前立腺切除術 | K841-1 | 8 | 0 |
| 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 | K803-2 | 7 | 0 |

**手術件数と麻酔**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 595 | 196 | 226 | 0 | 173 | 44 | 551 |

**手術成績**

| | 件数 | 在院死亡 | 1ヶ月以内死亡 | 再手術 | 手術部位感染症 |
|---|---|---|---|---|---|
| 待機手術 | 551 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 緊急手術 | 44 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**その他診療科別の実績資料**

| | |
|---|---|
| ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘術 | 1例 |
| 生体腎移植術 | 5例 |
| 腹腔鏡下移植用腎採取術 | 5例 |
| 献腎移植術 | 1例 |
| 腹腔鏡下腎部分切除術 | 4例 |
| 腹腔鏡下副腎摘除術 | 1例 |
| 経尿道的レーザー前立腺切除術 | 4例 |
| 経尿道的前立腺水蒸気治療 | 7例 |
| 前立腺生検 | 89例 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 症例カンファランス | 1回/週 |
| 病棟カンファランス | 1回/週 |
| 中地区カンファランス | 1回/月 |
| 県央腎カンファランス | 3回/年 |
| 泌尿器科カンファランス | 1回/週 |
| 腎カンファランス（腎内合同） | 1回/週 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1（1） | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0（1） | 2 | 1（2） |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 3 | 1 | 3 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**5）その他**

（社会活動）

錦戸　雅春

日本泌尿器科学会　代議員

日本透析医学会　評議員

専門医制度委員会　カリキュラム小委員会

研修カリキュラム・指導医カリキュラム

ワーキンググループ委員

評議員選出委員会　委員

研究者の利益相反等検討委員会　委員

総務委員会

VA血管内治療認定医制度検討小委員会　委員

危機管理委員会　医療安全対策小委員会調査　委員

統計調査委員会　地域協力委員

日本臨床腎移植学会　評議員

臓器提供推進委員会　委員

| | |
|---|---|
| 日本腎臓学会 | 腎移植施設資格審査部会　委員 |
| 日本臓器保存生物医学会 | 評議員 |
| | 臓器シェアリング委員会　委員 |
| 日本アフェレシス学会 | 評議員 |
| 同　九州地方会 | 世話人 |
| 西日本泌尿器科 | 保険委員 |
| 腎移植血管外科研究会 | 世話人 |
| | 編集委員会　委員 |
| 九州腎臓移植研究会 | 常任幹事 |
| 九州人工透析研究会 | 幹事 |
| 長崎県腎不全対策協会 | 幹事（事務局） |
| 長崎県移植医療推進協議会 | 委員 |
| 長崎県透析医会 | 幹事 |
| 向陽学園看護専攻科 | 非常勤講師 |

大仁田　亨

| | |
|---|---|
| 西日本泌尿器科 | 評議員 |
| 活水女子大学看護学部 | 非常勤講師 |

## 研究業績

### 論　文　発　表

**B：和文**

**B-a2：和文症例報告**

1）嘔吐・下痢および全身紅斑を認めた認知症機能低下非透析（急性腎障害）患者の１例.
山下由恵、岡哲、錦戸雅春、竹居セラ、木下博之、西野友哉.
臨床透析 2023；VOL.39. NO3. 339-345.

2）腎移植後に発生した悪性腫瘍の臨床的検討.
松田剛、望月保志、迎祐太、中西裕美、光成健輔、松尾朋博、大庭康司郎、岩田隆寿、大仁田亨、錦戸雅春、松屋福蔵、酒井英樹、西野友哉、宮田康好.
泌尿紀要 2023；69：33-39.

### 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）長崎県での脳死下臓器提供における献腎採取の現況.
望月保志、倉田博基、松田剛、迎祐太、中西裕美、光成健輔、松尾朋博、大庭康司郎、原貴信、日高匡章、岩田隆寿、大仁田亨、錦戸雅春、竹田昭子、江口晋.
献腎ドナー . 第58回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2023.2.11-12.

2）生体腎移植後尿管壊死による尿漏をきたした１例.
岩田隆寿、本多弘幸、大仁田亨、錦戸雅春、山下由恵、池見悠太、岡哲.
第38回腎移植・血管外科研究会. 新潟, 2023.5.19-20.

3）放射線性膀胱炎の診断で高気圧酸素療法を施行した症例の検討.
大仁田亨、柿田聖太、岩田隆寿、錦戸雅春、松屋福蔵、鶴﨑俊文、青木大勇、山崎安人.
セッション２. 第100回長崎泌尿器科学会. 第278回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2023.6.10.

4）当院における経尿道的水蒸気治療の初期経験（動画）.
岩田隆寿、柿田聖太、大仁田亨、錦戸雅春.
セッション 2 . 第101回長崎泌尿器科学会. 第279回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2023.12.16.

**B-c：研究会発表**

**＜口演＞**

1）長崎県における慢性透析療法の現状～長崎県腎不全対策協会統計調査方法の変更点について～ .
望月保志、松尾朋博、大庭康司郎、玉置明、坂本良輔、松屋福蔵、錦戸雅春、西野友哉、今村亮一.
第49回長崎県人工透析研究会. 佐世保, 2023.2.19.

2）長崎県における透析患者のCOVID-19、傾向と対策.
倉田博基、松尾朋博、大庭康司郎、玉置明、坂本良輔、山下鮎子、阿部伸一、山下裕、太田祐樹、望月保志、錦戸雅春、大坪俊夫、西野友哉、今村亮一.
第49回長崎県人工透析研究会. 佐世保, 2023.2.19.

**F, G：学術講演他**

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

＜座長＞

1）錦戸雅春.
拒絶・不適合. 第58回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2023.2.11-12.

2）錦戸雅春.
尿路上皮腫瘍：手術②. 第110回日本泌尿器科学会総会. 神戸, 2023.4.20-23.

3）錦戸雅春.
バスキュラーアクセス/カフ型カテーテル 1 . 第68回日本透析医学会学術集会・総会. 神戸, 2023.6.16-18.

4）錦戸雅春.
腹膜透析 1 . 第55回九州人工透析研究会総会. 別府, 2023.11.26.

5）岩田隆寿.
セッション 3 . 第101回長崎泌尿器科学会. 第279回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2023.12.16.

**G：その他**

**＜司会＞**

1）腎移植と腎代替療法の選択について.
錦戸雅春.
第 1 回腎代替医療推進セミナー in長崎. 長崎（Web）, 2023.3.5.

2）最近のボット支援下前立腺摘除術及び前立腺癌全身療法の現況.
錦戸雅春.
長崎県中地区泌尿器科講演会. 諫早, 2023.10.26.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 産婦人科

責任者　福田 雅史

## 診療科の特色

**(1) 総合周産期母子医療センター**

新生児集中治療認定病床（NICU）9床、母体胎児集中治療室（MFICU）6床を有する県内最大の周産期母子医療センターである。長崎県央および離島地域の第2次・第3次周産期医療センターとして、さらに長崎県全体の第3次周産期医療センターとして、県内最多の母体搬送を受け入れている。救命救急センター、ドクターヘリを併設する総合周産期母子医療センターは全国的にも数カ所しかなく、きわめて緊急性を要する重症疾患の母体搬送に効果を挙げている。切迫早産の子宮収縮抑制剤の短期投与法、経口子宮収縮抑制剤の廃止、分娩時のクリステレル法の撤廃、低い会陰切開施行率など、エビデンスに基づく周産期医療を実践している。糖代謝異常妊娠の管理では臨床研究で全国をリードする。日本周産期・新生児医学会基幹研修施設。全国母体胎児医療連絡協議会（MFICU）幹事施設。

**(2) 婦人科がん治療センター**

婦人科がんの治療センターとして、各種婦人科がんに対する手術、化学療法、放射線療法などの集学的治療を実施している。放射線治療センター（腔内照射を含む）、外来化学療法センター、PETセンターを有するがん拠点病院である。2022年5月より最新の腔内照射装置を導入し、進行子宮頸がん治療症例数の増加が見込まれる。子宮頚がんに対する広汎子宮全摘術では、神経温存術式により術後患者のQOL改善に寄与している。

**(3) 産科オープンシステム**

2003年7月、全国に先駆けてオープンシステムを導入し約20年の実績がある。産科オープンシステムは、ローリスク妊娠を対象に、大村市内の1つの産婦人科診療所と完全オープンシステムとして連携し実績を上げている。

**(4) 産婦人科専門医研修プログラム基幹施設**

2017年度より開始した産婦人科専門医制度の基幹施設。九州を中心とした総合周産期母子医療センター4基幹施設と連携したプログラムで、これまで亀田総合病院、沖縄中部病院、飯塚病院、鹿児島市立病院から専修医を受け入れている。

**(5) 臨床研究活動**

臨床実績とともに臨床研究に力を入れており、国内外の産婦人科関連学会に多数の臨床研究を報告し、とくに「妊娠と糖尿病」の分野では国内外の臨床研究をリードする。また、国立病院機構ネットワーク研究では、全国のNHO周産期センターとの他施設共同研究の代表研究者施設として、周産期分野の臨床研究の発展に貢献している。

**(6) 産科シミュレーション教育**

Advanced Life Support in Obstetrics（ALSO）、Basic Life Support in Obstetrics（BLSO）などの産科シミュレーション教育を毎年開催し地域医療レベルの向上に貢献している。ALSOは、離島の周産期医療従事者、救命救急医、助産師、研修医を対象に、BLSOは、おもに救命救急士、救急隊員を対象に、「安心・安全なお産を提供する」ことをテーマにした周産期の医療安全教育コースである。それらコースの認定インストラクターとしてコースの開催・指導を行っている。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 10,438人 | 28.6人 | 1,212人 | 1,220人 | 5 人 | 8.6日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 673件 | 94.9% | 736件 | 101.7% | 3 件 | 0.6% |

### 診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 462人（38.5%） | 234人（19.5%） | 31人（2.6%） | 15人（1.3%） | 15人（1.3%） | 65人（5.4%） |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 95人（7.9%） | 69人（5.8%） | 41人（3.4%） | 5 人（0.4%） | － | 24人（2.0%） |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 人（0.3%） | － | 4 人（0.3%） | － | － | － |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 15人（1.3%） | 16人（1.3%） | 32人（2.7%） | 73人（6.1%） |

| 合計 |
|---|
| 1,200人 |

### 産科入院主要10疾患

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 |
|---|---|---|
| 1）切迫早産 | O470 | 78 |
| 2）前期破水 | O429 | 17 |
| 3）多胎妊娠 | O849 | 32 |
| 4）妊娠高血圧症候群 | O130, O141 | 60 |
| 5）糖尿病・妊娠糖尿病 | O240, O241, O244 | 106 |
| 6）子宮内胎児発育制限 | O365 | 18 |
| 7）胎児奇形・その他の胎児異常・羊水量異常 | O359 | 35 |
| 8）常位胎盤早期剝離・NRFS | O459, O683 | 36 |
| 9）前置胎盤 | O441 | 10 |
| 10）その他の合併症妊娠 | | 53 |

### 婦人科入院主要10疾患

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 |
|---|---|---|
| 1）子宮頸がん | C539 | 45 |
| 2）子宮頸部上皮内新生物 | N872 | 35 |
| 3）子宮体がん・子宮肉腫 | C542, C549 | 41 |
| 4）子宮内膜増殖症 | N850, N851 | 11 |
| 5）卵巣がん・卵管がん・腹膜がん | C482, C56 | 39 |
| 6）子宮筋腫 | D259 | 22 |
| 7）良性卵巣腫瘍 | D27 | 25 |
| 8）異所性妊娠・卵巣出血 | O009、N838 | 12 |
| 9）子宮脱 | N81 | 4 |
| 10）外陰がん・腟がん | C519, C52 | 4 |

**主要産科手術**

| 手術名 | Kコード | 患者数 |
|---|---|---|
| 帝王切開　緊急 | K8981, 8983 | 117 |
| 帝王切開　選択的 | K8982 | 90 |
| 頸管縫縮術　緊急 | K9061, K9062 | 12 |
| 頸管縫縮術　選択的 | K9061, K9062 | 8 |
| 吸引分娩 | K893 | 18 |
| 子宮内容清掃術（人工妊娠中絶術を含む） | K909 | 26 |
| 不妊手術 | K887-21 | 29 |
| その他の産科手術 | | 32 |

**主要産科手術**

| 手術名 | Kコード | 患者数 |
|---|---|---|
| 子宮頸がん手術　広汎 | K877 | 7 |
| 子宮頸がん手術　準広汎または単摘 | K877 | 2 |
| 子宮頸がん手術　治療的円切 | K867 | 3 |
| 子宮頸部上皮内新生物　単摘 | K877 | 3 |
| 子宮頸部上皮内新生物　円切 | K867 | 22 |
| 子宮体がん手術 | K877 | 25 |
| 卵巣がん手術 | K889 | 23 |
| 単純子宮全摘術（腹式または腟式） | K877 | 21 |
| 単純子宮全摘術（腹腔鏡） | K877 | 19 |
| 子宮筋腫　核出術（開腹） | K8721, 8722 | 0 |
| 子宮筋腫　核出術（腹腔鏡） | K8722 | 1 |
| 子宮筋腫　核出術（子宮鏡） | K8723 | 0 |
| 良性卵巣腫瘍手術（開腹） | K8881 | 3 |
| 良性卵巣腫瘍手術（腹腔鏡） | K8882 | 23 |
| 異所性妊娠・卵巣出血手術（開腹） | K9121 | 1 |
| 異所性妊娠・卵巣出血手術（腹腔鏡） | K9122 | 6 |
| 子宮脱手術 | K865 | 4 |
| 腟腫瘍・外陰腫瘍手術 | K549, 856 | 0 |
| 子宮内膜掻爬術 | K861 | 30 |
| その他の婦人科手術 | | 25 |

**主要産科手術**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 予定手術 | 開腹術 | 開腹術（帝切除く） | 腹腔鏡手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 517 | 183 | 249 | 40 | 5 | 153 | 364 | 293 | 86 | 59 |

その他診療科別の実績資料

**分娩数**

| | 単胎 | 双胎 | 品胎 | 多胎 | 単胎帝切 | 単胎帝切率 | 双胎帝切 | 品胎帝切 | 多胎帝切 | 多胎帝切率 | 全体分娩数 | 全体帝切数 | 全体帝切率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 早産 | 91 | 13 | 1 | 14 | 40 | 44.0% | 12 | 1 | 12 | 92.9% | 105 | 53 | 50.5% |
| 正期産 | 431 | 16 | 0 | 16 | 136 | 31.6% | 16 | 0 | 16 | 100.0% | 447 | 152 | 34.0% |
| 過期産 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 50.0% | 0 | 0 | 0 | | 4 | 2 | 50.0% |
| 合計 | 526 | 29 | 1 | 30 | 178 | 33.8% | 28 | 1 | 29 | 96.7% | 556 | 207 | 37.2% |

**週数別分娩数**

| 分娩時妊娠週数 | 単　胎 | 双　胎 | 品胎以上 | 総　数 |
|---|---|---|---|---|
| 22 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 23 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 24 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| 25 | 4 | 1 | 0 | 5 |
| 26 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 27 | 7 | 0 | 0 | 7 |
| 28 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 29 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 30 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 31 | 5 | 2 | 0 | 7 |
| 32 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 33 | 9 | 0 | 0 | 9 |
| 34 | 10 | 1 | 0 | 11 |
| 35 | 14 | 2 | 0 | 16 |
| 36 | 23 | 4 | 0 | 27 |
| 37 | 49 | 5 | 0 | 54 |
| 38 | 116 | 10 | 0 | 126 |
| 39 | 152 | 1 | 0 | 153 |
| 40 | 80 | 0 | 0 | 80 |
| 41 | 34 | 0 | 0 | 34 |
| 42 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 計 | 526 | 29 | 1 | 556 |

**週数別分娩数（帝切例）**

| 分娩時妊娠週数 | 単　胎 | 双　胎 | 品胎以上 | 総　数 |
|---|---|---|---|---|
| 22 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 23 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 24 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 25 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| 26 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 27 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| 28 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 29 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 30 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 31 | 4 | 2 | 0 | 6 |
| 32 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 33 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 34 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 35 | 3 | 2 | 0 | 5 |
| 36 | 10 | 3 | 0 | 13 |
| 37 | 17 | 5 | 0 | 22 |
| 38 | 60 | 10 | 0 | 70 |
| 39 | 47 | 1 | 0 | 48 |
| 40 | 7 | 0 | 0 | 7 |
| 41 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| 42 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 計 | 178 | 28 | 1 | 207 |

**出生体重別分娩数**

| 出生体重 | 単　胎 | 双　胎 | 品胎以上 | 総　数 |
|---|---|---|---|---|
| 500g未満 | 2 | 2 | 0 | 4 |
| 500g-999g | 16 | 7 | 1 | 24 |
| 1,000g-1,499g | 14 | 3 | 2 | 19 |
| 1,500g-1,999g | 15 | 3 | 0 | 18 |
| 2,000g-2,499g | 67 | 24 | 0 | 91 |
| 2,500g-2,999g | 173 | 17 | 0 | 190 |
| 3,000g-3,499g | 185 | 2 | 0 | 187 |
| 3,500g-3,999g | 52 | 0 | 0 | 52 |
| 4,000g-4,499g | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 4,500g以上 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 526 | 58 | 3 | 587 |

救急搬送受け入れ数

| | 産科 | 婦人科 | 総数 |
|---|---|---|---|
| 1月 | 15 | 4 | 19 |
| 2月 | 6 | 2 | 8 |
| 3月 | 8 | 2 | 10 |
| 4月 | 10 | 1 | 11 |
| 5月 | 9 | 0 | 9 |
| 6月 | 11 | 3 | 14 |
| 7月 | 10 | 2 | 12 |
| 8月 | 12 | 4 | 16 |
| 9月 | 10 | 5 | 15 |
| 10月 | 11 | 2 | 13 |
| 11月 | 8 | 1 | 9 |
| 12月 | 13 | 2 | 15 |
| 合計 | 123 | 28 | 151 |
| 平均 | 10.3 | 2.3 | 12.6 |

## 研修・教育

カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 周産期カンファレンス | 週1回 |
| 術前カンファレンス | 週1回 |
| 抄読会 | 週1回 |
| 婦人科がん症例カンファレンス | 月2回 |
| 糖尿病と妊娠カンファレンス | 月1回 |
| リサーチミーティング | 月1回 |

## 学会・論文など

1）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

4）学会座長　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Achievement of Target Glycemic Goal with Simple Basal Insulin Regimen in Women with Gestational Diabetes：A Prospective Cohort Study.
Fukuoka M, , Yasuhi I, Yamashita H, Ashimoto K, Kurta N, Yamaguchi J, Koga M,  Sugimi S, Suga S, Fukuda M.
J Diabet Res.  2023；Article ID 9574563：https://doi.org/10.1155/2023/9574563.

**A-b2：英文抄録**

1）Pathologic subtypes in Japanese women with gestational diabetes.
Hiroshi Yamashita, Misao Fukuoka, Ichiro Yasuhi.
Am J Obstet Gynecol 2023；228 (1)：S142.

2）Risk of fetal undergrowth in the management of gestational diabetes mellitus in Japan.
Maki Kawasaki. , Naoko Arata, Takashi Sugiyama, Tatsumi Moriya, Atsuo Itakura, Ichiro Yasuhi, Yasuko Uchigata, Eiji Kawasaki, Hirohito Sone, Yuji Hiramatsu, DREAMBee study gestational diabetes mellitus group.
J Diabetes Investig 2023；14：614-622.

**B：英文**

**B-b：和文総説**

1）合併症妊娠：Ⅱ. 各論： 8 . 甲状腺疾患.
安日一郎.
日本産婦人科医会. 研修ノート 2023；No. 111; 52-55.

2）巨大児発症のメカニズムはどこまでわかっているか？
安日一郎.
周産期医学　2024；53（増刊号）：194-197.

**B-d：和文報告書**

1）学会・研究会Report：米国母体胎児医学会：年次妊娠学術集会2023からの報告：日本は「 3 周回遅れ」？ .
安日一郎.
ペリネイタルケア　2023；42：90-93.

2）妊娠糖尿病診断後の体重減少はlight-for-dates を増加させる.
山下洋、安日一郎.
糖尿病と妊娠　2023；23(2)：S24-25.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会，国際会議**

**A-b2：一般演題**

1）Pathologic subtypes in Japanese women with gestational diabetes.
Yamashita H, Fukuoka M, Yasuhi I.
SMFM2023：43nd Pregnancy Meeting.San Francisco, USA2023.2.6-11.

2）Validity of the indication of insulin therapy in women with gestational diabetes.
Kensuke Ashiimoto. Misao Fukuoka, Hiroshi Yamashita, Ichiro Yasuhi.
11th International DIP Symposium on Diabetes, Hypertension, Metabolic Syndrome & Pregnancy (DIP2023). Thessaloniki, Greece. 2023.5.4-6.

3）Achievement of target glycemic goals with simple basal insulin regimen in women with gestational diabetes.
Misao Fukuoka. Ichiro Yassuhi, Kensuke Ashimoto, Hiroshi Yamashita.
11th International DIP Symposium on Diabetes, Hypertension, Metabolic Syndrome & Pregnancy (DIP2023). Thessaloniki, Greece. 2023.5.4-6.

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

1）Readiness of RITOU ～長崎県離島周産期診療のR.
山口純子、菅幸恵、志田泰一朗、山内祐樹、五十川智司、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第 8 回ALSO-Japan学術集会. 横浜市. 2023.10.28.

2）長崎の助産師が周産期シミュレーション教育の種をまく：多職種シミュレーション教育において、助産師としてできること.
泉井綾夏.
第 8 回ALSO-Japan学術集会. 横浜市. 2023.10.28.

3）助産師主体の外来における超緊急帝王切開マニュアル改変.
本多菜美、石丸絢、五十川智司、杉見創、古賀恵、山口純子、菅幸恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第 8 回ALSO-Japan学術集会. 横浜市. 2023.10.28.

4）すくすくについて.
福田雅史.
第 5 回長崎周産期フォーラム長崎市. 2023.11.23

5）ERAS（Enhanced Recovery After Surgery）を導入するために知っておきたい 7 つのこと.
菅幸恵.
第131回秋田大学産婦人科遠隔テレビ会議. 秋田市（Web）. 2023.12.18.

B-b2：一般演題

1）妊娠糖尿病診断後の体重減少とlight-for-dates児発症.
山下洋、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2023.5.12-14.

2）妊娠糖尿病のフォローアップ中に糖尿病と診断した患者のプレコンセプションケア.
菅幸恵、安日一郎、山下洋、志田泰一朗、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、山口純子、福田雅史.
第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2023.5.12-14.

3）選択的帝王切開の至適タイミング.
杉見創.
第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2023.5.12-14

4）子宮頸癌CCRT後の膣壁再発に対する組織内照射の一例.
古賀恵、中村太祐、増井浩二、福田雅史、五十川智司、山口純子、杉見創、菅幸恵、山下洋、安日一郎.
第273回長崎産科婦人科学会・長崎県産婦人科医会総会. 長崎市. 2023.7.2.

5）リスク因子トリアージを用いたGDMの管理法.
山下洋、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市. 2023.7.9-11.

6）妊娠糖尿病と産褥筋量との関連に関する検討.
古賀恵、小川真幸、五十川智司、山口純子、杉見創、菅幸恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市. 2023.7.9-11.

7）管理に苦慮したCOVID-19罹患を伴う常位胎盤早期剥離の 1 例.
濵﨑創平、菅幸恵、小川真幸、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、山下洋、福田雅史、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市. 2023.7.9-11.

8）染色体異常を伴った間葉性異形成胎盤の一例.
野々村美香、古賀恵、菅幸恵、小川真幸、五十川智司、山口純子、杉見創、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市. 2023.7.9-11.

9）診断に苦慮した気管支・肺結核合併妊娠の 1 例.
門田優太、山口純子、菅幸恵、五十川智司、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会名古屋市.2023.7.9-11."

10）当院における新型コロナウイルス感染妊婦に対する経腟分娩管理.
安田祐子、菅幸恵、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市. 2023.7.9-11.

11）肥満妊娠糖尿病妊婦におけるlight-for-dates 児発症のリスク因子に関する検討.
山下洋、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市. 2023.7.9-11.

12）当院における 8 年間の病院前分娩症例についての検討.
石丸絢、山口純子、菅幸恵、本多菜美、杉見創、古賀恵、山下洋、安日一郎.
第 8 回ALSO-Japan学術集会. 横浜市. 2023.10.28.

13）高度肥満GDM妊婦のGDM診断後の体重減少とlight-for-dates.
山下洋、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
第39回日本糖尿病・妊娠学会. 新潟市. 2023.11.17-18.

14）糖尿病女性における産婦人科医によるプレコンセプションケアの効果.
菅幸恵、安日一郎.
第39回日本糖尿病・妊娠学会. 新潟市. 2023.11.17-18.

15）妊娠糖尿病の産褥早期の骨格筋量に関する検討.
古賀恵、林勝仁*、山下洋、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
第39回日本糖尿病・妊娠学会.新潟市.2023.11.17-18."

16）妊娠糖尿病妊婦における選択的帝王切開の至適タイミング.
杉見創、菅幸恵、五十川智司、古賀恵、山口純子、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第39回日本糖尿病・妊娠学会. 新潟市. 2023.11.17-18.

17）妊娠糖尿病診断遅延例の周産期予後と産褥糖代謝異常.
末英明、山下洋、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
第39回日本糖尿病・妊娠学会. 新潟市. 2023.11.17-18.

18）妊娠糖尿病妊婦の妊娠31-33週のヘモグロビンA1c値と血糖コントロール状況.
杉村有泉１),２)、福岡操１)、網師本健佑３)、山下洋１)、安日一郎１)[ １）長崎医療センター、２）順天堂大学、３）亀田総合病院]
第39回日本糖尿病・妊娠学会. 新潟市. 2023.11.17-18.

19）妊娠糖尿病におけるグリコアルブミン測定の有効性に関する研究.
杉村有泉１),２)、福岡操１)、網師本健佑３)、山下洋１)、安日一郎１)[ １）長崎医療センター、２）順天堂大学、３）亀田総合病院]
第39回日本糖尿病・妊娠学会. 新潟市. 2023.11.17-18.

**C, F：学術講演他**

**C-b：学術講演[国内]**

１）日本人のエビデンスをもとにした妊娠糖尿病の管理.
安日一郎.
第189回分泌セミナー . 東京, 2023.2.5.

**F-b：学会・研究会座長[国内学会]**

１）安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市, 2023.7.9-11.

２）山下洋.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市, 2023.7.9-11.

３）菅幸恵.
第59回日本周産期・新生児医学会. 名古屋市, 2023.7.9-11.

４）山下洋.
第274回長崎産科婦人科学会・長崎県産婦人科医会総会. 長崎市, 2023.9.23.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 眼科

責任者　前川 有紀

## 診療科の特色

大村市、諫早市および島原地区を含めた広い地域をカバーする中核病院としての役割を担っております。外来では、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、緑内障、ぶどう膜炎などの精査や治療（レーザー治療や注射など）や、日帰りの白内障手術を行っております。手術では白内障手術が最も多いものの、チン氏帯脆弱・断裂例、他の疾患の合併例や非常に進行した成熟白内障などの難症例に対応しており、入院手術も可能です。小児や精神発達遅滞、認知症がある場合には必要に応じて全身麻酔下での手術も行っております。また、裂孔原性網膜剥離や糖尿病網膜症、黄斑前膜、黄斑円孔といった網膜硝子体疾患に対する手術や、緑内障に対する低侵襲手術（線維柱帯切開術眼内法やiStentW）および繊維柱帯切除術、斜視に対する手術など、多岐にわたる手術を実施しております。その他、週1回水曜午後の斜視や小児弱視に関する専門外来や、NICUでの未熟児網膜症の診療では、それぞれ各分野の専門性が高い医師が担当しております。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 1,146人 | 3.1人 | 520人 | 518人 | － | 2.2日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 630件 | 92.6% | 2,048件 | 298.1% | － | － |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 178人(34.4%) | 65人(12.5%) | 1人(0.2%) | 4人(0.8%) | 2人(0.4%) | 34人(6.6%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 105人(20.3%) | 113人(21.8%) | 4人(0.8%) | － | 4人(0.8%) | 3人(0.6%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2人(0.4%) | 3人(0.6%) | － | － | － | － |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| － | － | － | － |

| 合計 |
|---|
| 518人 |

**入院主要10疾患**　　**主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数（眼） | 死亡退院数 | コメント |
|---|---|---|---|---|
| 白内障 | H25 | 570 | 0 | |
| 網膜剥離 | H33 | 47 | 0 | |
| 緑内障 | H40 | 60 | 0 | |
| 黄斑円孔 | H35 | 32 | 0 | |
| 黄斑前膜 | H35 | 29 | 0 | |
| 糖尿病性網膜症 | H36 | 12 | 0 | |
| 水晶体のその他の障害 | H27 | 8 | 0 | |
| 翼状片 | H11 | 27 | 0 | |
| 眼内レンズの合併症 | T85 | 20 | 0 | |
| 斜視 | H50 | 7 | 0 | |

**主要10手術方法**　　**臨床統計ならびに治療成績**

| 手術名 | Kコード | 手術件数 | 死亡退院数 | コメント |
|---|---|---|---|---|
| 水晶体再建術 | K282 | 679 | 0 | |
| （外来水晶体再建術） | K282 | 183 | | |
| （眼内レンズ強膜内固定術） | K2821イ | 31 | 0 | |
| 硝子体手術 | K280 | 166 | 0 | |
| 翼状片手術 | K244 | 27 | 0 | |
| 緑内障手術(流出路再建術 眼内法) | K2682 | 26 | 0 | |
| 緑内障手術(濾過手術) | K2683 | 7 | 0 | |
| 硝子体切除術 | K279 | 14 | 0 | |
| 硝子体置換術 | K284 | 13 | 0 | |
| 斜視手術 | K242 | 7 | 0 | |

**手術件数と麻酔**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 798 | 18 | 0 | 0 | 782 | 47 | 751 |

その他診療科別の実績資料

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 診療カンファランス | 2回/週 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 教育講演 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Investigation of incidence and causes of acute vision loss during anti-vascular endothelial growth factor therapy for neovascular age-related macular degeneration during a 4-year follow-up.
Akira Machida, Oishi A, Tsuiki E, Maekawa Y, Kurihara J, Hirata Y, Machida E, Kitaoka T.
Retina. Online ahead of print. 2023.1.18.

### 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-a：特別講演, 教育講演**

**＜教育講演＞**

1）始めるのにあと一歩勇気がでない方に聞いてほしいロービジョンケア症例集.
石子智士、仲泊聡、前川有紀、亀山尚美、小谷真弘、立本志磨、田辺直彦.
09. ロービジョン・色覚・電気生理, 第77回日本臨床眼科学会. 東京, 2023.10.6.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 耳鼻咽喉科

責任者　田中 藤信

## 診療科の特色

常勤スタッフ医師５名、言語聴覚士（ST）２名で診療を行っています。嚥下機能検査、訓練も充実しています。当科は頭頸部領域の腫瘍や慢性中耳炎・慢性副鼻腔炎などの難治性疾患に対して、外科治療を中心に、抗がん剤動注併用放射線治療などの形態温存治療にも力を入れています。また急性の炎症性疾患や急性の難聴、めまい、顔面神経麻痺など入院が必要な方の治療も行っています。

＜手術＞

「脳」と「眼」を除いた頭頸部領域全般の手術を行っています。

【頭頸部悪性腫瘍】頭頸部領域の腫瘍摘出術や頸部郭清術から口腔・咽頭・上顎などの広範囲摘出術と再建手術などは形成外科・外科と協力して行っています。

【耳】鼓膜形成術、鼓室形成術、乳突削開術、耳小骨再建術ほか

【鼻】内視鏡下鼻内手術、鼻中隔矯正術ほか

【咽頭】口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術ほか

【喉頭】顕微鏡下声帯手術、音声改善手術ほか

【唾液腺】耳下腺手術、顎下腺手術、がま腫摘出術ほか

【甲状腺】甲状腺手術（葉切除、全摘、気管合併切除など）

【頸部】頸部良性腫瘍摘出術、正中頸嚢胞摘出術、側頸嚢胞摘出術、頸部リンパ節生検ほか

【気道】気管切開術、喉頭気管分離術ほか

＜特殊検査＞

【聴性脳幹反応（ABR）検査・聴性定常反応（ASSR）検査】新生児に対する脳波を用いた聴力検査

【COR】条件詮索反応聴力検査

【平衡機能検査】めまいに対する検査

【VF検査・VE検査】嚥下機能評価検査

＜ST訓練＞

嚥下障害の嚥下機能評価検査を行い、摂食・嚥下の間接・直接訓練、顔面神経麻痺の理学療法、構音訓練、失語に対する訓練、発声訓練などを行っています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 5,483人 | 15.0人 | 540人 | 553人 | 8 人 | 10.0日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 640件 | 89.4% | 468件 | 64.5% | 1 件 | 0.1% |

### 診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 221人(40.3%) | 121人(22.0%) | 7 人(1.3%) | 10人(1.8%) | 3 人(0.5%) | 47人(8.6%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 41人(7.5%) | 48人(8.7%) | 25人(4.6%) | | | 6 人(1.1%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 人(0.2%) | 5 人(0.9%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | 3 人(0.5%) | 9 人(1.6%) | 2 人(0.4%) |

| 合計 |
|---|
| 549人 |

### 入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 慢性副鼻腔炎 | J32 | 44 | |
| 扁桃及びアデノイドの慢性疾患 | J35 | 38 | |
| 唾液腺疾患の良性腫瘍 | D11 | 33 | |
| 中耳炎 | H71 | 33 | |
| 下咽頭がん | C13 | 33 | 2 |
| 梨状陥凹がん | C12 | 27 | |
| 声門がん | C32 | 27 | |
| 甲状腺がん | C73 | 20 | 1 |
| 中耳及び呼吸器系の良性新生物 | D14 | 17 | |
| 中咽頭の悪性新生物 | C10 | 16 | |
| 舌のその他及び部位不明の悪性新生物 | C02 | 16 | |

### 主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

| 疾患名 | 患者数 |
|---|---|
| 口蓋扁桃手術（摘出） | 44 |
| 内視鏡下鼻・副鼻腔Ⅲ型手術 | 27 |
| 鼓室形成手術（耳小骨再建手術） | 26 |
| 乳突削開術 | 20 |
| アデノイド切除術 | 20 |
| 耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術） | 20 |
| 気管切開術 | 17 |
| リンパ節摘出術 | 17 |
| 内視鏡下鼻・副鼻腔手術IV型 | 15 |
| 鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術 | 12 |

### 手術件数と麻酔

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 369 | 316 | 0 | 0 | 53 | 28 | 341 |

### 手術成績

| | 件数 | 在院死亡 | 1ヶ月以内死亡 | 再手術 | 手術部位感染症 |
|---|---|---|---|---|---|
| 待機手術 | 345 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 緊急手術 | 31 | 0 | 0 | 0 | 0 |

### その他診療科別の実績資料

#### 摂食嚥下療法件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院 | 64 | 49 | 47 | 58 | 68 | 57 | 41 | 53 | 37 | 52 | 56 | 46 |
| 外来 | 4 | 6 | 10 | 2 | 6 | 4 | 8 | 6 | 2 | 7 | 4 | 3 |

## 研修・教育

#### カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 病棟症例カンファレンス | 週1回 |
| 摂食嚥下カンファレンス | 月2回 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

#### NHOネットワーク共同研究一覧

| No. | 区分（NHO/EBM） | 研究課題名（採択番号） | 研究代表者名 | 研究代表者施設名 | 研究責任者名 | 同意書の有無 | 当院実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | NHO | 聞こえにくい方を対象としたオンライン聴覚検査精度に関する観察研究（R5－NHO（感覚）－02） | 南修司郎 | 東京医療センター | 吉田晴郎 | 有 | 1例 |
| 2 | NHO | 先天性および若年性に発症する難聴の遺伝的原因および詳細な臨床的特徴の解明（採択番号：R3－NHO（感覚器）－02） | 松永達雄 | 東京医療センター | 吉田晴郎 | 有 | 0例 |
| 3 | NHO | 内頸動脈変位走行異常による咽喉頭異常感症の把握とその診断法の標準化を目指す研究－咽喉頭異常感症における内頸動脈変位走行異常の把握と臨床的意義の研究（R5－NHO（感覚）－01 | 角田晃一 | 東京医療センター | 田中藤信 | 有 | 1例 |
| 4 | NHO | 難聴者に対する補聴器介入の有無における認知機能の影響に関する比較試験（R5－NHO（感覚器）－03 | 神崎晶 | 東京医療センター | 田中藤信 | 有 | 0例 |

#### 競争的研究費一覧

| No. | ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金 | 研究課題名 | 研究者名 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 当院登録症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ②科学研究費助成事業（科学研究費補助金） | 難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築 | 吉田晴郎 | 科学研究費 基盤C | 主任 | 継続 | 5例 |
| 2 | ⑧その他厚生労働省関連研究費 | 聴覚障害児支援 中核機能モデル事業 | 神田幸彦 | 聴覚障害児支援 中核機能モデル事業 | 分担 | 新規 | 2例 |

## 学会・論文など

1）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0（ 0 ） | 0（ ） | 0 | 0 |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 3（6） | 4 | 9 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　（件数）

| 種類 | 教育講演 | 講習会講師 | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

4）学会座長　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | 0 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Proto-oncogene mutations in middle ear cholesteatoma contribute to its pathogenesis.
Satoh C, Yoshiura KI, Mishima H, Yoshida H, Takahashi H, Kumai Y.
BMC Med Genomics 2023；16(1)：288.

2）Long-term speech perception performance in prelingually deafened adult cochlear implant recipients.
Yoshida H, Kanda Y, Satoh C, Kumai Y, Takahashi H.
Cochlear Implants Int 2023；24(5)：243-249.

3）A manual of Eustachian tube function tests-illustration of representative test results obtained from healthy subjects and typical disorders with suggestion of the appropriate test method of choice.
Ikeda R, Ohta S, Yoshioka S, Endo S, Lee K, Kikuchi T, Yoshida H, Inagaki A, Kaneko A, Kobayashi H, Yoshida N, Oshima T, Mizuta K, Morita M, Yamaguchi N, Takahashi H, Kobayashi T.
Auris Nasus Larynx 2023；51(1)：206-213.

4）Bilateral Rhinogenous Optic Neuropathy Caused by the Regrowth of a Large Sphenoid Sinus Mucocele.
Yoshida H, Kihara C, Kumai Y.
J Craniofac Surg 2023；34(5)：e503-e505.

5）Sphenoid sinus schwannoma with adhesion to the carotid canal.
Yoshida H, Adachi T, Nishi H, Kitaoka K, Kumai Y.
Radiol Case Rep 2023；24；18(5)：2019-2023.

6）CT analysis of predictors for visual acuity in optic neuropathy with mucocele.
Yoshida H, Kihara C, Satoh C, Kumai Y.
Auris Nasus Larynx 2023；50(6)：895-903.

7）Clinical practice guidelines for the diagnosis and management of otitis media with effusion（OME）in children in Japan - 2022 update.
Hidaka H, Ito M, Ikeda R, Kamide Y, Kuroki H, Nakano A, Yoshida H, Takahashi H, Iino Y, Harabuchi Y, Kobayashi H.
Auris Nasus Larynx 2023；50(5)：655-699.

**B：和文**

**B-a1：和文原著**

1）癒合した舌骨・甲状軟骨による機械的刺激で脳梗塞の再発を繰り返した内頸動脈狭窄症の 1 例.
忽那史也、川原一郎、田中藤信、定方英作、原口渉、岩永洋.
臨床神経学 2023；63(6). 369-374.

2）副耳下腺に生じた多形腺腫由来癌の 1 例.
大野純希、吉田晴郎、伊東正博、田中藤信.
耳鼻と臨床 2023；69(3). 208-213.

3）眼窩内嚢胞を伴った前頭洞の骨形成性線維腫例.
吉田晴郎、吉田光一、北岡杏子、木原千春、黒濱大和、熊井良彦、松尾孝之.
日本鼻科学会誌 2023；62(4).

4）副耳下腺に生じた多形腺腫由来癌の 1 例.
大野純希、吉田晴郎、伊東正博、田中藤信.
耳鼻と臨床 2023；69(3)：208-213.

5）両側人工内耳手術を施行した小児蝸牛型耳硬化症例.
小路永聡美、神田幸彦、吉田晴郎、原稔、佐藤智生、木原千春、北岡杏子、高橋晴雄、熊井良彦.
耳鼻咽喉科臨床 2023；116(5)：407-413.

**B-b：和文総説**

1）みみの“つまり”　外耳・中耳疾患.
吉田晴郎.
ENTONI 2023；289：13-18.

2）聴覚とその異常-up to date. 検査　耳音響放射（OAE）.
吉田晴郎.
Clinical Neuroscience 2023；41(6), 799-802.

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-a：特別講演，教育講演**

**＜特別講演＞**

1）耳管機能障害の病態.
吉田晴郎.
担当世話人講演. 第 8 回耳管開放症研究会. 大村市, 2023.7.6.

2）Long-term speech perception performance in prelingually deafened adult cochlear implant recipients.
吉田晴郎.
学術賞　受賞記念講演. 第173回日耳鼻長崎県地方部会. 佐世保市, 2023.12.9.

**＜講演＞**

1）耳管ピン手術の実際. 手術の注意点と最新画像診断.
吉田晴郎.
耳管ピン手術実施医認定講習会. 第33回日本耳科学会. 高崎市, 2023.11.4.

**＜教育講演＞**

1）これだけやれば大丈夫：鼓膜形成術・真珠腫手術の術前耳管評価.
小林俊光、池田怜吉、稲垣彰、遠藤志織、大田重人、金子明弘、菊地俊晶、守田雅弘、山口展正、岡哲志、吉田晴郎、李佳奈、吉田尚弘、小林一女、大島猛史、水田邦博、高橋晴雄.
教育セミナー 4 . 第33回日本耳科学会. 高崎市, 2023.11.4.

2）鼻すすりの見つけ方.
水田邦博、池田怜吉、稲垣彰、遠藤志織、大田重人、金子明弘、菊地俊晶、守田雅弘、山口展正、吉岡哲志、吉田晴郎、李佳奈、吉田尚弘、小林一女、大島猛史、水田邦博、高橋晴雄.
教育セミナー 4 . 第33回日本耳科学会. 高崎市, 2023.11.4.

**B-b2：一般演題**

**＜座長＞**

1）吉田晴郎
第46群　補聴器・人工内耳 2 . 第124回日本耳鼻咽喉科学会. 福岡市, 2023.5.20.

**＜口演＞**

1）QUAD SHOTが奏効した頭頸部癌の 5 例.
松井彰子、小野晋太郎、森彩加、松本浩平、田中藤信.
一般演題 1 群. 第171回日耳鼻長崎県地方部会学術講演会. 長崎市, 2023.4.9.

2）自殺企図での舌咬傷で気道緊急となった 1 例.
小野晋太郎、松井彰子、森彩加、松本浩平、田中藤信.
一般演題 2 群. 第171回日耳鼻長崎県地方部会学術講演会. 長崎市, 2023.4.9.

3）Systematic review と meta-analysis からみた小児滲出性中耳炎に対する薬物療法.
日高浩史、吉田晴郎、伊藤真人、上出洋介、黒木春郎、仲野敦子、飯野ゆき子、吉田尚弘、小林一女.
第22群　滲出性中耳炎. 第18回日本小児耳鼻咽喉科学会. 別府市, 2023.11.10.

4）両側鼻腔内に萌出した逆生歯の 1 例.
沖田奈菜、吉田晴郎、二宮直樹、森彩加、三浦史郎、田中藤信.
一般演題 2 群. 第173回日耳鼻長崎県地方部会学術講演会. 佐世保市, 2023.12.9.

5）気管切開術の転帰に付いての検討.
松本浩平、吉見龍二、田中藤信.
一般演題 2 群. 第173回日耳鼻長崎県地方部会学術講演会. 佐世保市, 2023.12.9.

**＜ポスター＞**

1）当施設で遺伝子検査を施行した人工内耳症例の検討
佐藤智生、神田幸彦、木原千春、小路永聡美、吉田晴郎、宇佐美真一、熊井良彦.
第13群　聴覚. 第124回日本耳鼻咽喉科学会. 福岡市, 2023.5.20.

2）両側鼻腔内に萌出した逆生歯の 1 例.
沖田奈菜、田中藤信、吉田晴郎、森彩加、二宮直樹、三浦史郎.
第77回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

3）長崎大学病院における2020年以降の真珠腫性中耳炎術後成績.
佐藤智生、松瀬春奈、吉田晴郎、熊井良彦.
P第 2 群（真珠腫②）. 第33回日本耳科学会. 高崎市, 2023.11.4.

4）歪成分耳音響放射検査（DPOAE）導入による乳幼児健診.
小路永聡美、吉田晴郎、熊井良彦.
ポスター　第 3 群. 第18回日本小児耳鼻咽喉科学会. 別府市, 2023.11.9.

**B-c：研究会発表**

**＜口演＞**

1）診断に難渋した扁桃原発　びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の 1 例.
二宮直樹、田中藤信、吉田晴郎、森彩加、沖田菜奈.

第90回大村ENTカンファレンス. 大村市, 2023.5.31.

2）両側鼻腔内逆生歯の１例.
沖田奈菜、田中藤信、吉田晴郎、森彩加、二宮直樹.
第90回大村ENTカンファレンス. 大村市, 2023.5.31.

3）喉頭直達鏡による科学的焼灼術を行った下咽頭梨状窩瘻の一例.
二宮直樹、田中藤信、吉田晴郎、森彩加、沖田菜奈.
第92回大村ENTカンファレンス. 大村市, 2023.11.22.

4）鼻涙管に生じた扁平上皮癌の１例.
森彩加、田中藤信、沖田奈々、二宮直樹、吉田晴朗.
第92回大村ENTカンファレンス. 大村市, 2023.11.22.

5）内頸動脈変位走行異常による咽喉頭異常感の把握とその診断法の標準化を目指す研究への協力に関する検討.
田中藤信、沖田奈菜、二宮直樹、森彩加、吉田晴郎.
第92回大村ENTカンファレンス. 大村市, 2023.11.22.

**D, E：学術講演他**

**D：学会・研究会開催**

1）吉田晴郎
第８回耳管開放症研究会. 大村市, 2023.7.6.

**E：研究会世話人**

1）吉田晴郎
第８回耳管開放症研究会. 大村市, 2023.7.6.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 放射線科

責任者　藤本 俊史・酒本 司

## 診療科の特色

新型コロナウイルス感染症の対応も4年目を迎え、ようやく2023年5月に2類から5類へ引き下げられた。いよいよ、コロナ前の業務量に戻ることを期待している一方で、ワークライフバランスの変化に体制が対応できていない状況に危機感を感じている。

2023年の放射線部門業務統計について一般撮影・透視・CT・MRI・核医学の検査数は、引き続き厳しい運営状況ではあるが放射線科検査総人数としては、対前年度比約3％増加した。これは、MRI検査総数が142人、一般撮影が2400人増加したことが要因である。

放射線治療部門は、体外照射やRALS（密封小線源治療）による婦人科領域の子宮頸がん・子宮体がん・膣がんの治療が増え、特に子宮頸がんは手術と並ぶ治療法とされており、外照射との併用により根治的治療法を提供できている。更に、婦人科および手術室の協力を得て、組織内併用腔内照射を実施しており、治療成績の向上が期待される。しかし、マンパワー不足で常時実施できないことが課題である。

装置関係では、核医学検査（PET-CT）が、更新時期を迎える。昨年の785人から828人と増加したが、採算ベース（4.5人／日）には程遠く、このままでは、装置更新が厳しい状況である。核医学装置（SPECT）は昨年にCT装置を一体化させた複合装置（SPECT-CT）に更新され、CT装置で得られる画像をシンチグラフィーと重ねることによる病変部の存在診断（特に肋骨への転移）や放射性薬剤の集積程度を数値化したSUV (Standardized Uptake Value) という定量値を算出することができるため、診断能が向上した。

他の高額医療機器である血管造影装置やCT装置ならびに放射線治療装置も数年後に更新時期を迎えるため、病院の経営状況を鑑みながら計画的な更新が求められる。

診療支援では、原子力災害拠点病院の一員として、DMAT業務調整員や甲状腺簡易測定の人材育成に取り組んでいる。

教育・研修関係では、放射線科医と協働で症例検討会（月1）を実施していたが新型コロナ感染症後から開催を中断している。若手技師の教育の一環として読影能力を向上させるため月1回「夕やけカンファランス」（救急における症例検討）を開催している。

学会・論文関係は、医師：英語論文2編、学会発表全国2演題、地方会5演題。診療放射線技師：和文論文1編、学会発表全国1演題、地方会3演題であった。

今後も各診療科を支援する中央部として信頼される放射線科を目指し、笑顔の絶えない活気あふれる部門運営に取り組んでいきたい。

（文責　診療放射線技師長　酒本　司）

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 52人 | 0.1人 | 4人 | 4人 | | 13.0日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 987件 | 94.6% | 1,189件 | 114.0% | | |

### 診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3人(75.0%) | 1人(25.0%) | | | | |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | | |

| 合計 |
|---|
| 4人 |

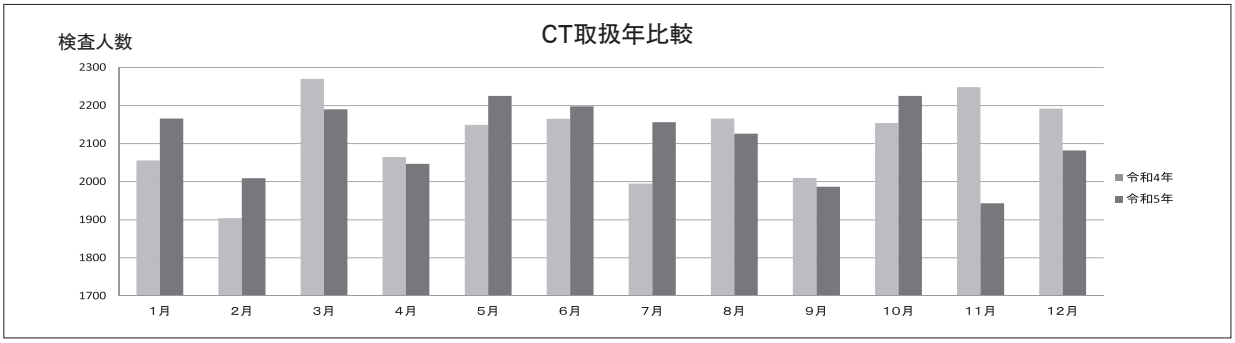
### 放射線部門診療取扱数年比較

| | | 令和4年 | 令和5年 |
|---|---|---|---|
| 総数（人数） | | 91,207 | 95,075 |
| 一般撮影 | **総数（人数）** | 45,134 | 47,550 |
| | 胸部 【件数】 | 39,696 | 42,270 |
| | 腹部 【件数】 | 8,397 | 8,311 |
| | 骨 【件数】 | 15,062 | 14,898 |
| | 乳房 【件数】 | 5,096 | 4,923 |
| | 造影撮影 【件数】 | 0 | 0 |
| | その他 【件数】 | 8 | 8 |
| 透視 | **総数（人数）** | 2,718 | 2,772 |
| | 消化管造影 | 249 | 251 |
| | その他造影 | 2,434 | 2,503 |
| | 透視・撮影のみ | 35 | 18 |
| CT | **総数（人数）** | 25,374 | 25,354 |
| | 頭部 | 6,009 | 5,917 |
| | 頭部以外 | 19,365 | 19,437 |
| MR | **総数（人数）** | 8,043 | 8,185 |
| | 頭部 | 4,510 | 4,484 |
| | 頭部以外 | 3,533 | 3,701 |
| 造血影管 | **総数（人数）** | 1,109 | 1,032 |
| | アンギオ | 490 | 424 |
| | 心カテ | 619 | 608 |
| 核医学 | **総数（人数）** | 1,380 | 1,389 |
| | 心筋 | 163 | 158 |
| | 脳血流 | 64 | 52 |
| | 骨 | 152 | 128 |
| | その他 | 995 | 1,044 |
| | PET-CT | 785 | 828 |
| | 非密封RI治療 | 6 | 7 |
| 放射線治療 | **総数（人数）** | 7,449 | 8,793 |
| | 体外照射 | 7,100 | 8,415 |
| | 密封小線源治療 | 20 | 108 |
| | 全身照射 | 0 | 0 |
| | 定位放射線治療 | 329 | 270 |
| | （治療計画） 別掲 | 378 | 578 |

## CT取扱年比較

| 令和４年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院 | 人数 | 510 | 454 | 542 | 486 | 536 | 478 | 421 | 492 | 459 | 469 | 537 | 546 | 5,930 |
| | 件数 | 662 | 565 | 681 | 606 | 649 | 582 | 519 | 613 | 551 | 595 | 657 | 662 | 7,342 |
| 外来 | 人数 | 1,546 | 1,450 | 1,728 | 1,579 | 1,613 | 1,687 | 1,574 | 1,674 | 1,551 | 1,685 | 1,711 | 1,646 | 19,444 |
| | 件数 | 1,944 | 1,843 | 2,189 | 1,990 | 2,057 | 2,152 | 1,957 | 2,080 | 1,934 | 2,082 | 2,139 | 2,052 | 24,419 |
| 小計 | 人数 | 2,056 | 1,904 | 2,270 | 2,065 | 2,149 | 2,165 | 1,995 | 2,166 | 2,010 | 2,154 | 2,248 | 2,192 | 25,374 |
| | 件数 | 2,606 | 2,408 | 2,870 | 2,596 | 2,706 | 2,734 | 2,476 | 2,693 | 2,485 | 2,677 | 2,796 | 2,714 | 31,761 |

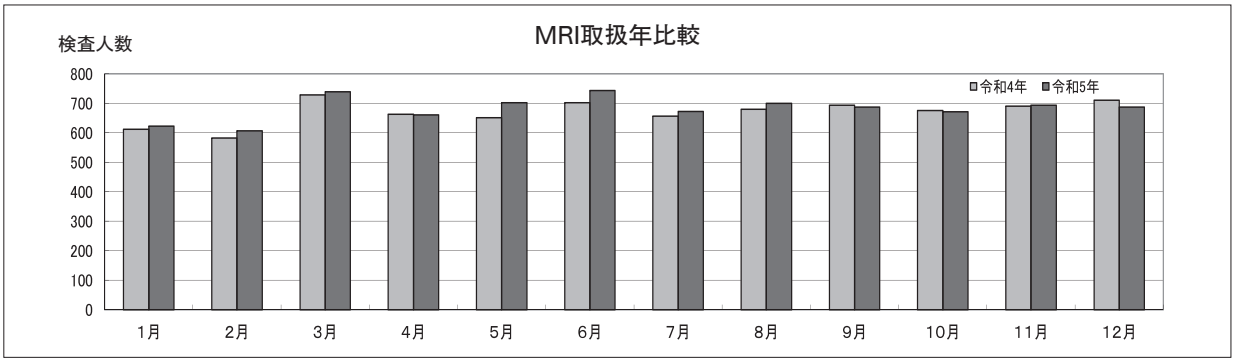
| 令和５年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院 | 人数 | 538 | 459 | 491 | 525 | 551 | 502 | 461 | 498 | 413 | 538 | 407 | 444 | 5,827 |
| | 件数 | 673 | 569 | 609 | 653 | 670 | 618 | 584 | 609 | 509 | 679 | 518 | 575 | 7,266 |
| 外来 | 人数 | 1,628 | 1,550 | 1,699 | 1,522 | 1,674 | 1,696 | 1,695 | 1,628 | 1,574 | 1,687 | 1,536 | 1,638 | 19,527 |
| | 件数 | 2,003 | 1,974 | 2,116 | 1,887 | 2,126 | 2,113 | 2,113 | 2,018 | 1,943 | 2,088 | 1,914 | 2,023 | 24,318 |
| 小計 | 人数 | 2,166 | 2,009 | 2,190 | 2,047 | 2,225 | 2,198 | 2,156 | 2,126 | 1,987 | 2,225 | 1,943 | 2,082 | 25,354 |
| | 件数 | 2,676 | 2,543 | 2,725 | 2,540 | 2,796 | 2,731 | 2,697 | 2,627 | 2,452 | 2,767 | 2,432 | 2,598 | 31,584 |




## MRI取扱年比較

| 令和４年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院 | 人数 | 166 | 159 | 200 | 167 | 164 | 184 | 165 | 184 | 191 | 168 | 173 | 191 | 2,112 |
| | 件数 | 182 | 180 | 224 | 189 | 178 | 204 | 187 | 203 | 211 | 186 | 189 | 223 | 2,356 |
| 外来 | 人数 | 446 | 423 | 528 | 496 | 487 | 518 | 491 | 496 | 502 | 508 | 517 | 519 | 5,931 |
| | 件数 | 561 | 542 | 648 | 618 | 607 | 650 | 613 | 604 | 634 | 634 | 635 | 645 | 7,391 |
| 小計 | 人数 | 612 | 582 | 728 | 663 | 651 | 702 | 656 | 680 | 693 | 676 | 690 | 710 | 8,043 |
| | 件数 | 743 | 722 | 872 | 807 | 785 | 854 | 800 | 807 | 845 | 820 | 824 | 868 | 9,747 |

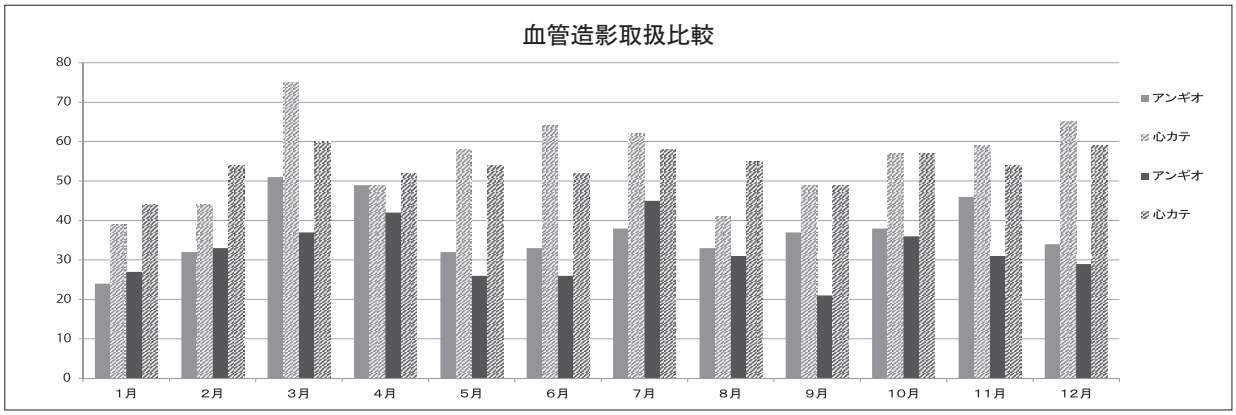
| 令和５年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院 | 人数 | 177 | 156 | 199 | 175 | 192 | 197 | 194 | 201 | 198 | 175 | 180 | 171 | 2,215 |
| | 件数 | 198 | 173 | 224 | 198 | 228 | 223 | 214 | 220 | 222 | 205 | 205 | 199 | 2,509 |
| 外来 | 人数 | 446 | 451 | 540 | 486 | 510 | 546 | 478 | 499 | 489 | 496 | 513 | 516 | 5,970 |
| | 件数 | 558 | 566 | 676 | 5,984 | 641 | 683 | 601 | 596 | 620 | 616 | 627 | 652 | 12,820 |
| 小計 | 人数 | 623 | 607 | 739 | 661 | 702 | 743 | 672 | 700 | 687 | 671 | 693 | 687 | 8,185 |
| | 件数 | 756 | 739 | 900 | 6,182 | 869 | 906 | 815 | 816 | 842 | 821 | 832 | 851 | 15,329 |



## 血管造影検査年比較

| 令和４年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アンギオ | 人数 | 24 | 32 | 51 | 49 | 32 | 33 | 38 | 33 | 37 | 38 | 46 | 34 | 447 |
| （放射線科分） | 件数 | 340 | 592 | 681 | 572 | 439 | 397 | 391 | 487 | 345 | 670 | 677 | 465 | 6,056 |
| 心カテ | 人数 | 39 | 44 | 75 | 49 | 58 | 64 | 62 | 41 | 49 | 57 | 59 | 65 | 662 |
| （循環器科分） | 件数 | 766 | 921 | 1,294 | 742 | 1,213 | 1,065 | 1,148 | 567 | 808 | 992 | 994 | 828 | 11,338 |
| 合　計 | 人数 | 63 | 76 | 126 | 98 | 90 | 97 | 100 | 74 | 86 | 95 | 105 | 99 | 1,109 |
| | 件数 | 1,106 | 1,513 | 1,975 | 1,314 | 1,652 | 1,462 | 1,539 | 1,054 | 1,153 | 1,662 | 1,671 | 1,293 | 17,394 |

| 令和５年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アンギオ | 人数 | 27 | 33 | 37 | 42 | 26 | 26 | 45 | 31 | 21 | 36 | 31 | 29 | 384 |
| （放射線科分） | 件数 | 485 | 513 | 426 | 531 | 349 | 414 | 450 | 652 | 317 | 626 | 451 | 387 | 5,601 |
| 心カテ | 人数 | 44 | 54 | 60 | 52 | 54 | 52 | 58 | 55 | 49 | 57 | 54 | 59 | 648 |
| （循環器科分） | 件数 | 687 | 689 | 882 | 729 | 723 | 786 | 945 | 862 | 905 | 1,041 | 833 | 1,194 | 10,276 |
| 合　計 | 人数 | 71 | 87 | 97 | 94 | 80 | 78 | 103 | 86 | 70 | 93 | 85 | 88 | 1,032 |
| | 件数 | 1,172 | 1,202 | 1,308 | 1,260 | 1,072 | 1,200 | 1,395 | 1,514 | 1,222 | 1,667 | 1,284 | 1,581 | 15,877 |



**年間**

## 令和５年手技別血管取扱数（総数）

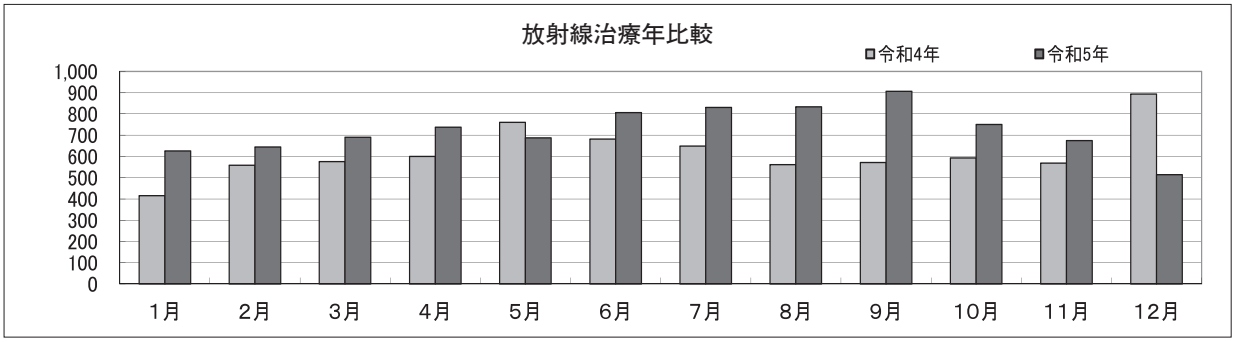
| 手技区分 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心カテ診断（大人） | 人数 | 15 | 24 | 28 | 23 | 26 | 22 | 26 | 23 | 21 | 22 | 23 | 20 | 273 |
| | 件数 | 154 | 237 | 294 | 258 | 247 | 192 | 260 | 207 | 205 | 256 | 285 | 205 | 2,800 |
| PCI | 人数 | 16 | 18 | 15 | 14 | 17 | 12 | 19 | 18 | 20 | 17 | 11 | 20 | 197 |
| | 件数 | 418 | 392 | 409 | 315 | 358 | 302 | 504 | 506 | 534 | 566 | 325 | 634 | 5,263 |
| カテーテル<br>アブレーション | 人数 | 6 | 6 | 11 | 10 | 8 | 10 | 7 | 9 | 6 | 10 | 12 | 10 | 105 |
| | 件数 | 75 | 17 | 87 | 59 | 60 | 64 | 89 | 89 | 48 | 68 | 128 | 93 | 877 |
| 心カテ診断（小児） | 人数 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 3 | 9 |
| | 件数 | 10 | 0 | 8 | 0 | 0 | 12 | 0 | 40 | 0 | 0 | 12 | 35 | 117 |
| 頭部血管診断 | 人数 | 7 | 8 | 5 | 7 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 5 | 8 | 3 | 61 |
| | 件数 | 113 | 88 | 68 | 66 | 11 | 42 | 46 | 73 | 70 | 92 | 103 | 51 | 823 |
| 脳血管内手術 | 人数 | 7 | 4 | 5 | 5 | 3 | 3 | 2 | 6 | 1 | 7 | 3 | 4 | 50 |
| | 件数 | 200 | 173 | 132 | 155 | 96 | 164 | 62 | 212 | 32 | 198 | 104 | 130 | 1,658 |
| 脳血栓回収 | 人数 | 2 | 2 | 4 | 6 | 1 | 2 | 4 | 8 | 5 | 5 | 1 | 2 | 42 |
| | 件数 | 83 | 41 | 54 | 114 | 1 | 16 | 74 | 197 | 110 | 114 | 20 | 32 | 856 |
| 腹部血管診断 | 人数 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| | 件数 | 1 | 0 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 18 |
| 腹部TAE | 人数 | 3 | 4 | 6 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 21 |
| | 件数 | 32 | 29 | 66 | 9 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0 | 185 |
| 腹部TACE | 人数 | 0 | 3 | 5 | 9 | 4 | 7 | 8 | 3 | 2 | 4 | 4 | 3 | 52 |
| | 件数 | 0 | 15 | 60 | 85 | 131 | 98 | 75 | 36 | 22 | 80 | 30 | 23 | 655 |
| ステントグラフト | 人数 | 1 | 2 | 0 | 3 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 4 | 18 |
| | 件数 | 5 | 10 | 0 | 31 | 12 | 16 | 22 | 10 | 6 | 0 | 15 | 25 | 152 |
| シャント拡張術 | 人数 | 1 | 3 | 7 | 5 | 4 | 4 | 5 | 3 | 5 | 3 | 2 | 5 | 47 |
| | 件数 | 13 | 10 | 28 | 34 | 21 | 26 | 47 | 28 | 45 | 21 | 15 | 45 | 333 |
| IVCフィルター | 人数 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 5 |
| | 件数 | 4 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 27 |
| その他部位TAE | 人数 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 10 |
| | 件数 | 10 | 0 | 0 | 9 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0 | 68 |
| EVT | 人数 | 0 | 1 | 3 | 3 | 3 | 5 | 3 | 1 | 2 | 5 | 2 | 6 | 34 |
| | 件数 | 0 | 27 | 76 | 85 | 58 | 174 | 66 | 15 | 117 | 140 | 48 | 227 | 1,033 |
| 静脈血管診断 | 人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 |
| その他 | 人数 | 2 | 2 | 4 | 12 | 7 | 2 | 8 | 11 | 4 | 9 | 11 | 7 | 79 |
| | 件数 | 9 | 3 | 46 | 96 | 68 | 2 | 82 | 117 | 49 | 55 | 93 | 26 | 646 |
| 令和５年<br>月合計 | 人数 | 65 | 77 | 97 | 102 | 78 | 73 | 96 | 89 | 71 | 96 | 80 | 88 | 1,012 |
| | 件数 | 1,127 | 1,042 | 1,341 | 1,329 | 1,063 | 1,108 | 1,369 | 1,532 | 1,238 | 1,651 | 1,188 | 1,527 | 15,515 |
| 平成４年<br>月合計 | 人数 | 63 | 76 | 126 | 98 | 90 | 97 | 100 | 74 | 86 | 95 | 105 | 99 | 1,109 |
| | 件数 | 1,106 | 1,513 | 1,975 | 1,314 | 1,652 | 1,462 | 1,539 | 1,054 | 1,153 | 1,661 | 1,670 | 1,293 | 17,392 |

（注）人数：血管造影人数、 件数：部位数（ショット数）

## 放射線治療年比較

| 令和４年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| リニアック | 人数 | 415 | 558 | 576 | 600 | 761 | 681 | 649 | 562 | 571 | 593 | 569 | 894 | 7,429 |
| 腔内（ラルス） | 人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 0 | 1 | 4 | 1 | 6 | 2 | 20 |
| 治療管理 | 人数 | 35 | 31 | 25 | 39 | 34 | 37 | 31 | 26 | 30 | 24 | 32 | 34 | 378 |

| 令和５年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| リニアック | 人数 | 626 | 644 | 690 | 738 | 688 | 806 | 831 | 833 | 907 | 750 | 675 | 514 | 8,702 |
| 腔内（ラルス） | 人数 | 0 | 4 | 20 | 7 | 8 | 14 | 2 | 10 | 11 | 6 | 12 | 14 | 108 |
| 治療管理 | 人数 | 32 | 32 | 33 | 38 | 32 | 39 | 32 | 41 | 38 | 40 | 26 | 29 | 412 |




## 令和５年新規登録症例（原発巣で分類）

| 疾患名 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 5年合計 | 4年合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1．脳・脊髄 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 | 3 |
| 2．眼窩 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 6 | 2 |
| 3．頭頚部　口腔 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 上咽頭 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 中咽頭 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 9 |
| 下咽頭 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 7 |
| 喉頭 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 副鼻腔 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 2 | 2 | 2 | 3 | 6 | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | 26 | 43 |
| 4．肺・気管・縦隔 | 3 | 2 | 8 | 4 | 3 | 3 | 1 | 5 | 3 | 8 | 4 | 7 | 51 | 68 |
| 5．食道 | 2 | 2 | 0 | 4 | 1 | 3 | 2 | 3 | 3 | 1 | 0 | 2 | 23 | 16 |
| 6．胃、十二指腸、小腸 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 6 | 5 |
| 7．大腸 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 7 | 10 |
| 8．肝・胆・膵 | 2 | 2 | 3 | 0 | 3 | 3 | 5 | 1 | 4 | 4 | 0 | 1 | 28 | 43 |
| 9．乳腺 | 2 | 0 | 3 | 6 | 0 | 2 | 1 | 6 | 8 | 5 | 3 | 1 | 37 | 53 |
| 10．泌尿器・男性性器 | 2 | 4 | 2 | 1 | 0 | 3 | 3 | 2 | 4 | 3 | 3 | 2 | 29 | 37 |
| 11．子宮 | 1 | 2 | 2 | 4 | 4 | 1 | 2 | 5 | 0 | 5 | 3 | 1 | 30 | 26 |
| 12．その他の女性性器 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | 2 |
| 13．骨 | 4 | 7 | 2 | 6 | 2 | 6 | 8 | 1 | 3 | 4 | 5 | 4 | 52 | 14 |
| 14．皮膚・軟部 | 1 | 2 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 8 |
| 15．悪性リンパ腫 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 16．造血器（除悪性リンパ腫） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17．小児（全） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 18．原発不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 19．良性疾患 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 20．転移（骨） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 21．転移（脳） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 22．その他 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 令和５年合計 | 23 | 27 | 25 | 34 | 27 | 30 | 26 | 29 | 31 | 35 | 24 | 20 | 331 | |
| 令和４年合計 | 31 | 26 | 19 | 35 | 35 | 37 | 31 | 24 | 30 | 22 | 34 | 33 | | 357 |

## 令和 5 年超音波検査年報（検査人数）

| | 1 月 | | 2 月 | | 3 月 | | 4 月 | | 5 月 | | 6 月 | | 7 月 | | 8 月 | | 9 月 | | 10月 | | 11月 | | 12月 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 集計項目 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 | 入院 | 外来 |
| 胸腹部 | 26 | 295 | 25 | 350 | 35 | 439 | 30 | 332 | 40 | 323 | 20 | 311 | 38 | 332 | 28 | 352 | 25 | 358 | 33 | 357 | 42 | 382 | 28 | 296 |
| 甲状腺 | 5 | 75 | 1 | 85 | 9 | 66 | 3 | 85 | 15 | 73 | 7 | 80 | 2 | 80 | 8 | 72 | 4 | 89 | 5 | 76 | 10 | 73 | 10 | 81 |
| 頭頚部 | 39 | 11 | 33 | 21 | 30 | 9 | 46 | 15 | 34 | 12 | 48 | 15 | 42 | 17 | 37 | 17 | 28 | 19 | 33 | 18 | 48 | 13 | 36 | 13 |
| 乳　腺 | 1 | 36 | 2 | 37 | 1 | 37 | 5 | 28 | 3 | 29 | 1 | 44 | 5 | 42 | 1 | 42 | 1 | 48 | 4 | 48 | 4 | 40 | 1 | 38 |
| その他体表 | 38 | 17 | 39 | 20 | 33 | 18 | 41 | 20 | 22 | 23 | 35 | 9 | 44 | 25 | 45 | 38 | 43 | 28 | 43 | 19 | 43 | 21 | 32 | 19 |
| 心　臓 | 128 | 154 | 120 | 184 | 128 | 204 | 141 | 171 | 152 | 168 | 166 | 143 | 143 | 175 | 156 | 175 | 120 | 199 | 141 | 180 | 141 | 186 | 137 | 179 |
| 計 | 237 | 588 | 220 | 697 | 236 | 773 | 266 | 651 | 266 | 628 | 277 | 602 | 274 | 671 | 275 | 696 | 221 | 741 | 259 | 698 | 288 | 715 | 244 | 626 |
| | 825 | | 917 | | 1,009 | | 917 | | 894 | | 879 | | 945 | | 971 | | 962 | | 957 | | 1,003 | | 870 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 令和 4 年計 | 841 | 829 | 1,015 | 839 | 879 | 980 | 967 | 913 | 955 | 920 | 975 | 963 |

## 令和 5 年核医学検査取扱数

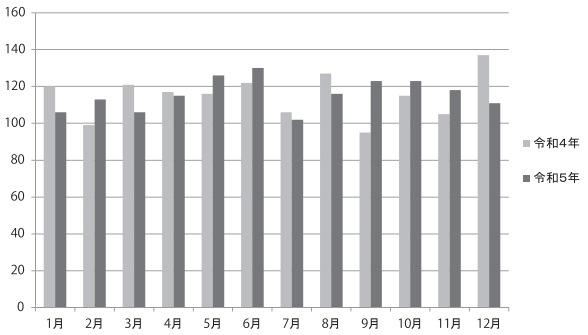
| A.イメージング検査 | | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中枢神経 | 人数 | 3 | 11 | 8 | 8 | 9 | 11 | 10 | 7 | 9 | 11 | 2 | 4 | 93 |
| | 件数 | 4 | 11 | 8 | 10 | 11 | 13 | 12 | 8 | 11 | 13 | 2 | 5 | 108 |
| 循環器 | 人数 | 10 | 10 | 14 | 13 | 16 | 21 | 12 | 15 | 12 | 13 | 12 | 10 | 158 |
| | 件数 | 19 | 20 | 28 | 26 | 32 | 42 | 24 | 30 | 24 | 26 | 24 | 20 | 315 |
| 呼吸器 | 人数 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 7 |
| | 件数 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 8 |
| 内分泌器 | 人数 | 8 | 10 | 5 | 6 | 10 | 4 | 8 | 6 | 11 | 16 | 7 | 12 | 103 |
| | 件数 | 8 | 10 | 5 | 6 | 13 | 7 | 11 | 6 | 11 | 19 | 7 | 13 | 116 |
| 消化器 | 人数 | 4 | 4 | 4 | 2 | 4 | 4 | 0 | 5 | 8 | 5 | 5 | 4 | 49 |
| | 件数 | 5 | 4 | 4 | 2 | 5 | 4 | 0 | 6 | 8 | 7 | 5 | 4 | 54 |
| 骨・関節・軟部 | 人数 | 11 | 15 | 8 | 12 | 6 | 15 | 13 | 13 | 7 | 11 | 12 | 5 | 128 |
| | 件数 | 22 | 30 | 16 | 24 | 12 | 30 | 26 | 25 | 14 | 22 | 24 | 10 | 255 |
| 尿路・生殖器 | 人数 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| | 件数 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 腫瘍・炎症 | 人数 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 5 |
| | 件数 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 10 |
| C.PET-CT | 人数 | 66 | 61 | 64 | 74 | 80 | 74 | 55 | 66 | 72 | 66 | 76 | 74 | 828 |
| | 件数 | 66 | 61 | 64 | 74 | 80 | 74 | 54 | 66 | 72 | 66 | 76 | 74 | 827 |
| B.非密封RIによる治療 | 人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 7 |
| | 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 0 | 8 |
| その他（SPECT 再掲） | 人数 | 33 | 45 | 39 | 36 | 33 | 48 | 42 | 42 | 45 | 51 | 38 | 35 | 487 |
| | 件数 | 38 | 53 | 50 | 46 | 46 | 65 | 54 | 55 | 57 | 64 | 48 | 44 | 620 |
| 総合計 | 人数 | 106 | 113 | 106 | 115 | 126 | 130 | 102 | 116 | 123 | 123 | 118 | 111 | 1,389 |
| | 件数 | 130 | 138 | 129 | 142 | 154 | 171 | 133 | 145 | 145 | 154 | 143 | 128 | 1,712 |

## RI・PET年間

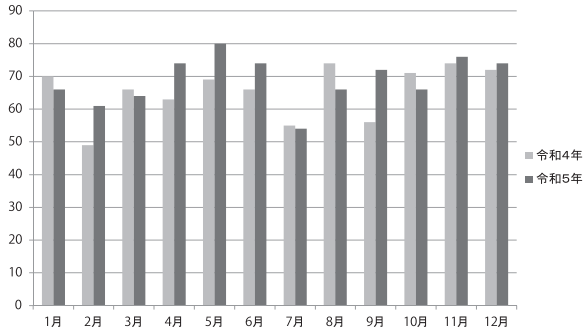
| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RI | 令和4年 | 120 | 99 | 121 | 117 | 116 | 122 | 106 | 127 | 95 | 115 | 105 | 137 | 1,380 |
| | 令和5年 | 106 | 113 | 106 | 115 | 126 | 130 | 102 | 116 | 123 | 123 | 118 | 111 | 1,389 |

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PET-CT | 令和4年 | 70 | 49 | 66 | 63 | 69 | 66 | 55 | 74 | 56 | 71 | 74 | 72 | 785 |
| | 令和5年 | 66 | 61 | 64 | 74 | 80 | 74 | 54 | 66 | 72 | 66 | 76 | 74 | 827 |

RI年間人数




PET-CT年間人数




診療放射線技師　資格・認定取得状況

| 氏　　名 | 取得資格・認定 | 認定機関・団体名 |
|---|---|---|
| 技師長：酒本　司 | 第一種作業環境測定士 | 日本作業環境測定協会 |
| | 衛生工学衛生管理者 | 中央労働災害防止協会 |
| 副技師長：南出　哲也 | 衛生工学衛生管理者 | 中央労働災害防止協会 |
| | ガンマ線透過写真撮影作業主任者 | 厚生労働省 |
| | X線作業主任者 | 厚生労働省 |
| | 第二種作業環境測定士 | 日本作業環境測定協会 |
| | 臨床実習指導教員 | 日本診療放射線技師会 |
| | X線CT認定技師 | 日本X線CT専門技師認定機構 |
| | マンモグラフィー認定技師 | 日本乳がん検診精度管理中央機構 |
| 副技師長：小濵　義幸 | 放射線治療専門放射線技師 | 日本放射線治療専門技師認定機構 |
| | 放射線治療品質管理士 | 放射線治療品質管理機構 |
| | 塩化ラジウム治療安全取扱講習修了 | 日本医学放射線学会 |
| 主任技師：石田　秀樹 | 放射線治療専門放射線技師 | 日本放射線治療専門技師認定機構 |
| | 放射線治療品質管理士 | 放射線治療品質管理機構 |
| | 第二種作業環境測定士 | 日本作業環境測定協会 |
| | 衛生工学衛生管理者 | 中央労働災害防止協会 |
| | ガンマ線透過写真撮影作業主任者 | 厚生労働省 |
| | X線作業主任者 | 厚生労働省 |
| 主任技師：中野　ちぐさ | 放射線治療専門放射線技師 | 日本放射線治療専門技師認定機構 |
| | 放射線治療品質管理士 | 放射線治療品質管理機構 |
| | Ai認定放射線技師 | 日本診療放射線技師会 |
| | X線CT認定技師 | 日本X線CT専門技師認定機構 |
| | 放射線機器管理士 | 日本診療放射線技師会 |
| | 放射線管理士 | 日本診療放射線技師会 |
| 主任技師：秋田　智和 | X線CT認定技師 | 日本X線CT専門技師認定機構 |
| | シニア放射線技師 | 日本診療放射線技師会 |
| | 磁気共鳴専門技術者 | 日本磁気共鳴専門技術者認定機構 |
| | Ai認定放射線技師 | 日本放射線技師会 |
| | 画像等手術支援認定技師 | 日本放射線技師会 |
| | 国際認定試験　MRI | 国際専門診療放射線技師認定機構 |
| | 原子力災害派遣チーム研修修了 | 原子力規制庁/厚生労働省 |

| 氏　　名 | 取得資格・認定 | 認定機関・団体名 |
|---|---|---|
| 主任技師：森　政裕 | 第一種放射線取扱主任者 | 文部科学省 |
| | 血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師 | 日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構 |
| | 放射線機器管理士 | 日本診療放射線技師会 |
| | PET研修セミナー修了 | 日本核医学会 |
| | 放射線管理士 | 日本診療放射線技師会 |
| | X線CT認定技師 | 日本X線CT専門技師認定機構 |
| 主任技師：森　康哲 | 放射線治療専門放射線技師 | 日本放射線治療専門技師認定機構 |
| | 放射線治療品質管理士 | 放射線治療品質管理機構 |
| | DMAT隊員 | 厚生労働省 |
| 主任技師：長岡　慶繁 | 第一種作業環境測定士 | 日本作業環境測定協会 |
| | 衛生工学衛生管理者 | 中央労働災害防止協会 |
| | 放射線管理士 | 日本診療放射線技師会 |
| | 放射線機器管理士 | 日本診療放射線技師会 |
| | 医療画像情報精度管理士 | 日本診療放射線技師会 |
| | 放射線治療専門放射線技師 | 日本放射線治療専門技師認定機構 |
| | 放射線治療品質管理士 | 放射線治療品質管理機構 |
| 主任技師：水町　嘉宏 | 第一種放射線取扱主任者 | 文部科学省 |
| | 磁気共鳴専門技術者 | 日本磁気共鳴専門技術者認定機構 |
| 主任技師：柳澤　克典 | X線CT認定技師 | 日本X線CT専門技師認定機構 |
| | Ai認定放射線技師 | 日本診療放射線技師会 |
| | 原子力災害派遣チーム研修修了 | 原子力規制庁/厚生労働省 |
| 技師：秋山　亜樹 | 衛生工学衛生管理者 | 中央労働災害防止協会 |
| | 第一種作業環境測定士 | 日本作業環境測定協会 |
| | マンモグラフィー認定技師 | 日本乳がん検診精度管理中央機構 |
| | 放射線治療専門放射線技師 | 日本放射線治療専門技師認定機構 |
| | 放射線治療品質管理士 | 放射線治療品質管理機構 |
| | 乳癌超音波検診実施者 | 日本乳がん検診精度管理中央機構 |
| | 超音波検査士（体表臓器領域） | 日本超音波医学会 |
| 技師：森　真理子 | マンモグラフィー認定技師 | 日本乳がん検診精度管理中央機構 |
| | 第一種放射線取扱主任者(試験合格) | 文部科学省 |
| 技師：古川　明美 | マンモグラフィー認定技師 | 日本乳がん検診精度管理中央機構 |
| | 第一種放射線取扱主任者 | 文部科学省 |
| 技師：米丸　雄太 | 血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師 | 日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構 |
| | 第一種放射線取扱主任者 | 文部科学省 |
| | 第一種作業環境測定士 | 日本作業環境測定協会 |
| | 衛生工学衛生管理者 | 中央労働災害防止協会 |
| | 原子力災害派遣チーム研修修了 | 原子力規制庁/厚生労働省 |
| 技師：緒方　翔吾 | 原子力災害派遣チーム研修修了 | 原子力規制庁/厚生労働省 |
| 技師：西嶋　快斗 | | |
| 技師：下田　将暉 | 第一種放射線取扱主任者 | 文部科学省 |
| | PET研修セミナー修了 | 日本核医学会 |
| 技師：園田　隼平 | 第一種放射線取扱主任者 | 文部科学省 |
| 技師：木場　亮 | 第一種放射線取扱主任者(試験合格) | 文部科学省 |
| 技師：中村　日向子 | | |
| 技師：儀間　絢音 | 第一種放射線取扱主任者 | 文部科学省 |
| 技師：黒石　采花 | | |
| 技師：三又　望愛 | | |
| 技師：村上　まゆみ | | |

## 研修・教育

カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 症例検討会 | 月１回 |
| 夕焼けカンファレンス | 月１回 |
| 抄読会 | 月１回 |

## 学会・論文など

【医師】

１）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 2 | | | |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

２）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 2 | 5 | |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

３）学術講演　　（件数）

| 種類 | F-b | G | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 1 | | |

４）学会座長　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | 2 | |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 学会・論文など

【診療放射線技師】

１）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | 1 | 1 |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

２）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 1 | 3 | 9 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

３）学術講演　　（件数）

| 種類 | B-a | C-b | D | E |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 3 | 3 | 1 |

４）学会座長　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 1 | 3 | |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

**【医師】**

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Clinical Outcomes of Definitive Chemoradiotherapy for Cervical Esophageal Cancer.
YUTARO TASAKI, TAKUYA YAMAZAKI, SHUHEI MIYAZAKI, TATSUYA TAKEDA, MIKA NAKATAKE, ASUKA TAKAHIRA, KOICHI HONDA, DAISUKE NAKAMURA, AKIKO EGAWA, KAZUTO ASHIZAWA.
CANCER DIAGNOSIS & PROGNOSIS 2023；Jan-Feb；3(1)：85-90.

2）Clinical Outcomes of Stereotactic Body Radiation Therapy fpr Early-stage Non-small Cell Lung Cancer.
YUTARO TASAKI, KAZUTO ASHIZAWA, DAISUKE NAKAMURA, TAKASHI MIZOWAKI, SEIJI NAGASHIMA, TOSHIFUMI FUJIMOTO, MASATAKA UETANI.
CANCER DIAGNOSIS & PROGNOSIS 2023；Mar-Apr；3(2)：201-207.

### 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）脳転移への定位放射線治療後の放射線脳壊死に対してラムシルマブが有効であった一例.
武田達哉、中村太祐、池田喬哉.
放射線診断・治療 2 . 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会. 第46回日本呼吸機内視鏡学会九州支部総会. 長崎市, 2023.2.10.

2）子宮頸癌CCRT後の膣壁再発に対する組織内照射の一例.
古賀恵、中村太祐.
一般演題Ⅰ. 第273回長崎産婦人科学会・長崎県産婦人科医会総会学術集会. 長崎市, 2023.7.2.

3）当院のRALS機器更新に関する考察.
中村太祐、武田達哉.
第34回九州放射線治療セミナー . オンデマンド. 2023.7.29.

4）長崎医療センターの取り組みについて.
中村太祐.
話題提供. 第19回マイクロセレクトロンHDR研究会. 品川区, 2023.11.18.

5）脳転移への定位放射線治療後の放射線脳壊死に対してラムシルマブが有効であった一例.
武田達哉、中村太祐、池田喬哉.
脳・脊髄・神経系. 日本放射線腫瘍学会第36回学術大会. 横浜市, 2023.11.30.

**＜ポスター＞**

1）特発性血気胸に対しNBCAを用い塞栓した 1 例.
宮﨑敦史、大塚哲洋、宮村周人、牧野謙二、北村慶、藤本俊史、森麻耶子、原敦子、田川努、下山孝一郎、三浦史郎.
ポスター 2 「呼吸器系 2 」. 第52回日本IVR学会総会. 高知, 2023.5.20.

2）外腸骨動脈尿管瘻に対して血管内ステントグラフト留置による緊急止血術を施行した 1 例.
宮村周人、宮﨑敦史、藤本俊史、牧野謙二、北村慶、大塚哲洋.
第45回九州IVR研究会. 福岡市, 2023.12.16.

**D, G：学術講演他**

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

＜座長＞

1）中村太祐.
　放射線診断・治療 2 . 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会. 第46回日本呼吸機内視鏡学会九州支部総会.
　長崎市, 2023.2.10.

2）大塚哲洋.
　ポスター発表P2-1 〜 4. 第45回九州IVR研究会. 福岡市, 2023.12.16.

**G：その他**

＜特別講演＞

1）「がんの放射線治療のお話」〜がん治療のおおきな選択肢〜 .
　中村太祐.
　基調講話. がんサロンひまわり. 定期講演会 & ミニコンサート. 大村市, 2023.3.18.

**【診療放射線技師】**

**論　文　発　表**

**B：和文**

**B-a1：和文原著**

1）慢性閉塞性肺疾患におけるCT画像を用いた肺野LAA解析と呼吸機能検査の相関関係の検討.
　森政裕, 丸山裕稔,日髙智子,緒方大聡,酒本司.
　全国国立病院療養所放射線技師会誌 2023；260：58-62.

**B-d：和文報告書**

1）TG-100 放射線治療リスク分析 ハンズオンセミナー 受講報告.
　中野ちぐさ.
　放射線治療研究会雑誌 2023；36(1)：38-44.

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-a：特別講演, 教育講演**

**＜教育講演＞**

1）変わるリスクマネジメント.
　中野ちぐさ
　実行委員企画 2 . 第72回放射線治療研究会「放射線治療のワークフローの未来」第18回九州放射線医療技術学術大会. 大分, 2023.11.4.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）カテーテルアブレーションにおけるデジタルズームを用いた術者水晶体被ばく低減効果の検討.
　米丸雄太、水町嘉宏、畑上尚一、小濵義幸、南出哲也、酒本司.
　第79回日本放射線技術学会総会学術大会. 横浜, 2023.4.16.

2）内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査における放射線防護具の有用性.
　米丸雄太、福島大輝、水町嘉宏、吉田淳一、石田隆人、酒本司.
　長崎県診療放射線技師会総会. 長崎, 2023.6.18.

3）Emergency Roomにおける頭部CT Angiography撮影法の検討.
　園田隼平.
　令和 5 年度九州国立病院機構診療放射線技師会学術大会. 福岡, 2023.10.7.

4）PCIにおける術者被ばく低減を目的とした自作L型遮蔽板の有効性の検討.
米丸雄太、森政裕、小濵義幸、南出哲也、酒本司.
第18回九州放射線医療技術学術大会. 大分, 2023.11.4.

**B-c：研究会発表**

**＜口演＞**

1）内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査における放射線防護具の有用性.
米丸雄太、福島大輝、水町嘉宏、吉田淳一、石田隆人、酒本司.
長崎県診療放射線技師会県央地区研修会 .Web, 2023.2.27

2）頭部CTAngiographyにおける至適スキャン方法の検討.
園田隼平.
国立病院機構長崎医療センター令和 4 年度　院内臨床研究発表会. 大村, 2023.3.1.

3）カテーテルアブレーションにおけるデジタルズームを用いた術者水晶体被ばく低減効果の検討.
米丸雄太、水町嘉宏、畑上尚一、小濵義弘、南出哲也、酒本司.
国立病院機構長崎医療センター令和 4 年度　院内臨床研究発表会. 大村, 2023.3.2.

4）胆嚢・膵臓・脾臓超音波の症例提示.
秋山亜樹.
九州国立病院機構診療放射線技師会第 8 回超音波セミナー . Web. 2023.4.25.

5）乳癌の症例提示.
秋山亜樹.
第28回長崎県乳房撮影技術研究会. Web. 2023.8.19.

**＜教育講演＞**

1）心臓MRIの基礎.
緒方翔吾.
第45回長崎CT・MRI研究会. 大村市, 2023.3.18.

**＜講演＞**

1）エチケットマナー .
小濵義幸.
令和 5 年度佐賀県放射線技師会フレッシャーズセミナー . 佐賀, 2023.4.22.

2）アーチファクト〜こんなときどうする〜 .
緒方翔吾.
九州国立病院機構診療放射線技師会令和 5 年度　第 8 回MRIセミナー . Web, 2023.7.13.

3）各施設から学べる外傷性救急CT撮影.
秋田智和.
九州国立病院機構診療放射線技師会令和 5 年度　第 9 回CTセミナー . Web, 2023.8.24.

**C, D, E,：学術講演他**

**C-b：学術講演［国内］**

**＜教育講演＞**

1）TG-100の概要について.
中野ちぐさ.
九州国立病院機構診療放射線技師会　第16回放射線治療セミナー . Web, 2023.9.7.

**＜口演＞**

1）胆嚢・膵臓・脾臓超音波の症例提示.
秋山亜樹.
九州国立病院機構診療放射線技師会　第 8 回超音波セミナー . 福岡, 2023.11.11.

**＜講演＞**

1）なりたい自分を考える.
水町嘉宏.
九州国立病院機構診療放射線技師会　第 2 回リフレッシャーズセミナー . Web, 2023.11.24.

**D：学会・研究会開催**

**＜司会＞**

1）水町嘉宏.
九州国立病院機構診療放射線技師会　第12回臨床画像セミナー開催. Web, 2023.6.15.
2）小濵義幸.
令和 5 年度佐賀県放射線技師学術大会. 佐賀, 2023.6.18.
3）中野ちぐさ.
九州国立病院機構診療放射線技師会　第16回放射線治療セミナー . Web, 2023.9.7.

**E：研究会世話人**

**＜長崎CT・MR研究会世話人＞**

1）水町嘉宏.
第46回長崎CT・MR研究会 開催. Web, 2023.11.30.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

1）長岡慶繁.
長崎県診療放射線技師会令和4年度県央地区研修会.　長崎(Web), 2023.2.27.
2）小濵義幸.
特別講演. 令和 5 年度佐賀県放射線技師学術大会. 佐賀, 2023.6.18.
3）小濵義幸.
放射線治療. 第39回日本診療放射線技師学術大会. 熊本, 2023.9.29.
4）緒方翔吾.
SESSION 2 CT 検査. 令和 5 年度九州国立病院機構診療放射線技師会学術大会. 福岡, 2023.10.7.

**G：その他**

**＜講演＞**

1）国家試験に向けて.
黒石采花.
帝京大学　卒業生懇親会. 福岡（Web), 2023.8.3.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 麻酔科

責任者　山口 美知子

## 診療科の特色

麻酔科術前外来では、問題症例のコンサルテーションと休日および手術当日入院患者の術前診察を、手術室看護師とともに行っています。

術前診察時は、身体診察、情報収集と合わせて、麻酔についてのわかりやすい説明を行います。

術中は、適切な麻酔計画、モニタリングにより安全に術中管理できるよう努めています。

手術に関連する痛みを和らげる術後疼痛管理を積極的に行っています。鎮痛薬使用や超音波ガイド下神経ブロック施行により、痛みや不安から解放された快適な周術期を提供することを心掛けています。

現在、多職種で連携して行う術後疼痛管理を計画中で、次年度開始予定です。

## 入院診療実績

**手術件数と麻酔**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 脊麻・硬麻（脊硬麻） | 神経ブロック | 局麻・鎮静 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3,198 | 2,829 | 290・256（175） | 981 | 12 | 796 | 2,402 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 麻酔前カンファレンス | 5回/週 |
| 抄読会 | 1回/週 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | | | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 3 | | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

# 研究業績

## 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Relationship between perfusion index and central temperature before and after induction of anesthesia in laparoscopic gastrointestinal surgery：A prospective cohort study.
Hara K, Kaneko S, Ishioka T, Tobinaga S, Urabe S, Nakao A, Hamada K, Nagaoka K, Taniguchi M, Yamaguchi M, Takeshita H, Tanaka J, Kuroda H, Matsuura E, Ishimatsu Y, Honda S, Sawai T.
Medicine. 2023；102(9)：e33169.

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜Poster＞**

1）運動誘発電位モニタリングした脳動脈瘤手術におけるレミマゾラムを用いた麻酔管理の有用性－麻酔覚醒に関する後方視的検討－.
森本崇之、吉富修、金子翔平、一ノ宮大雅、原哲也.
神経日本麻酔科学会第70回学術集会.神戸, 2023.6.1.

2）腹腔鏡下消化管手術の麻酔導入前後における灌流指標と中枢温の関連.
原健太朗、金子翔平、山口美知子、竹下浩明、黒田裕美、澤井照光.
ポスターディスカッション麻酔科関連－２（各科の麻酔•モニタリング）. 日本麻酔科学会第70回学術集会. 神戸, 2023.6.1.

3）乳癌手術における術後嘔気嘔吐の発生率とリスク因子に関する後ろ向き分析.
溝上佳史、濵田梢、卜部繁彦、西垣明久、原健太朗、山口美知子.
術後合併症PONV）1 . 日本麻酔科学会第70回学術集会. 神戸, 2023.6.2.

4）術前アスピリン内服が腹部大動脈人工血管置換術における腸間膜牽引症候群の発生に与える影響.
西垣明久、一ノ宮大雅、森本崇之、金子翔平、横山陽香、原哲也.
大血管 3 . 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会. 奈良, 2023.9.7.

**B-c：研究会発表**

**＜口演＞**

1）大腿骨近位部骨折における当院の変遷.
西垣明久、山口美知子.
一般演題 2 . 長崎麻酔研究会第18回学術集会. 長崎, 2023.5.13.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 脳神経内科

責任者　岩永 洋

## 診療科の特色

当科は脳卒中を中心に脳神経疾患の診療にあたっていますが、二番目に多い疾患はてんかんです。今年はてんかん専門医の佐藤和明先生の加入もあり、てんかんや不随意運動に関連疾患の補強が出来ました。大変こころ強い事です。老朽化していた神経電動速度の検査機材も更新され、今後の診療につなげていける様にして参ります。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | (再掲) 死亡 | |
| 7,906人 | 21.7人 | 383人 | 424人 | 10人 | 19.6日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 284件 | 92.6% | 530件 | 121.8% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 213人(52.3%) | 65人(16.0%) | 10人(2.5%) | 15人(3.7%) | 1 人(0.2%) | 35人(8.6%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7 人(1.7%) | 11人(2.7%) | 7 人(1.7%) | 3 人(0.7%) | | 8 人(2.0%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 9 人(2.2%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 5 人(1.2%) | 7 人(1.7%) | 2 人(0.5%) | 9 人(2.2%) |

| 合計 |
|---|
| 407人 |

**入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 脳卒中関連 | G60, 61, 63 等 | 265 | 7 |
| てんかん関連 | G40 | 59 | 0 |
| 重症筋無力症 | G70 | 18 | 0 |
| 中枢神経感染症 | | 14 | 0 |
| 筋萎縮性側索硬化症 | G12 | 13 | 2 |
| 視神経脊髄炎・多発性硬化症 | G35, 36 | 7 | 0 |
| 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 | G61 | 5 | 0 |
| 多巣性運動ニューロパチー | G61 | 4 | 0 |
| 急性散在性脳脊髄炎 | G04 | 3 | 0 |
| 脊髄小脳変性症 | G31 | 3 | 0 |

### 主要検査件数

| 検査 | 症例数 |
|---|---|
| 神経電動速度検査、筋電図 | 約150 |

### 特殊検査ならびに治療成績

| 特殊治療法 | 合併症とその内容 | 症例数 | 延べ施行回数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|---|
| 血栓溶解療法 | | 53 | | 0 |
| 血行再建術 | | 41 | | 1 |

## 研修・教育

### カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 脳卒中カンファ | 週 4 |
| 脳外科・内科合同カンファ | 週 1 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

### 治験等参加研究一覧

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし））、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | ユルトミリス全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調査 | 無 | アレクシオンファーマ | 岩永洋 | 例 |
| 2 | | ソリリス全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調査 | 無 | アレクシオンファーマ | 岩永洋 | 例 |
| 3 | | オンパットロ特定使用成績調査 | 無 | Alnylam Japan | 岩永洋 | 例 |

## 学会・論文など

### 1）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 2 | 0 | 0 |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

### 2）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 1 | 0 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

### 3）学術講演　　（件数）

| 種類 | 研究会 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 8 | | | |

### 4）学会座長　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 5 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

### 論　文　発　表

**B：和文**

**B-a1：和文原著**

1）離島発症超急性期脳梗塞に対するdrip-and-ship型rt-PA療法　その有効性と限界ならびにdrip-and-stay法の可能性について.
忽那史也、諸藤陽一、塩崎絵理、内田大貴、徳田昌紘、岩永洋、小野智憲、川原一郎、原口渉、中道親昭、堤圭介.
脳卒中 2023；45巻 1 号 Page23-29.

**B-a2：和文症例報告**

1）癒合した舌骨・甲状軟骨による機械的刺激で脳梗塞の再発を繰り返した内頸動脈狭窄症の 1 例.
忽那史也、川原一郎、田中藤信、定方英作、原口渉、岩永洋.
臨床神経学 2023；63巻 6 号 Page369-374.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 形成外科

責任者　藤岡 正樹

## 診療科の特色

形成外科は先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ、さらに精神的な安寧を持たせせしめ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野です。

基本は創傷処置をはじめとする外傷学ですが、先天奇形、再建、マイクロサージェリー、顎顔面外科レーザー治療へと拡がりを見せています。形成外科では腫瘍、外傷、先天奇形などによる傷や変形を正常に近くなるよう作り直す手術を行います。具体的には、①良性、悪性腫瘍の切除と再建②新鮮外傷③顔面骨骨折④手の外傷⑤熱傷⑥瘢痕とケロイド⑦褥瘡・糖尿病性潰瘍⑧劇症皮膚感染症⑨手足、顔面の先天奇形⑩顎顔面変形に対する治療を主に行っています。形成外科は上記のように、特定の臓器（呼吸器外科、脳神経外科など）の病気を治療対象とする外科ではなく、全身のあらゆる部位の異常や形態変化を治療対象としています。

2010年からは創傷センターを立ち上げ、従来は難治であった慢性創傷の治療を集学的に行っています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 5,088人 | 13.9人 | 457人 | 465人 | 2 人 | 11.0日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 474件 | 92.1% | 305件 | 53.6% | | |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 155人(33.4%) | 103人(22.2%) | 14人(3.0%) | 5 人(1.1%) | 4 人(0.9%) | 43人(9.3%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 41人(8.8%) | 29人(6.3%) | 11人(2.4%) | 5 人(1.1%) | 1 人(0.2%) | 10人(2.2%) |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 2 人(0.4%) | 1 人(0.2%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | 1 人(0.2%) | 26人(5.6%) | 13人(2.8%) |

| 合計 |
|---|
| 464人 |

**手術治療概要**

国立病院機構長崎医療センター形成外科では毎年800例以上の手術を行っています。多彩な分野に及ぶ形成外科手術ですが、その中でも長崎医療センターは外傷、骨軟部組織感染症といった緊急性の高い疾患と、腫瘍の症例数を多く集めており、全国でも有数の手術数を誇っています。

| 病　名 | 治療実績 | | 順　位 | |
|---|---|---|---|---|
| | 合計 | 手術あり | 長崎県 | 全国 |
| 熱傷・電撃傷 | 22 | 22 | 1位 | 7位 |
| 糖尿病足病変 | 16 | 22 | 2位 | 55位 |
| 骨軟部の良性腫瘍 | 77 | 77 | 2位 | 39位 |
| 骨髄炎 | 18 | 18 | 1位 | 10位 |

DPC（診断群分類包括評価制度）対象全国5143病院の治療実績・手術件数（2021）

**2023年入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-10コード | 症例数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 外傷 | Q70.0-9, C44.0-9, S02.0-9 | 273 | 3 |
| 腫瘍、母斑、血管腫 | D22.0-9, D18.0, D23.0-9, C43.0-9, C44.0-9 | 301 | |
| 難治性潰瘍 | L98 | 124 | |
| 軟部組織感染症 | L97 | 45 | |
| 先天異常 | Q69.0-9, Q70.0-9 | 35 | |
| 瘢痕・ケロイド | | 16 | |
| その他 | | 9 | |
| 合計 | | 803 | 3 |

**2023年主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績**

| 疾患名 | ICD-9コード | 患者数 | 死亡退院数 |
|---|---|---|---|
| 創傷処理 | 86.22 | 310 | |
| 良性腫瘍摘出術 | 86.21-86 | 248 | |
| 植皮術 | 86.11-86.3 | 190 | 3 |
| 皮弁形成術 | 86.70-75 | 61 | |
| 悪性腫瘍切除術 | 86.2-86.4 | 62 | |
| 瘢痕形成術 | 86.84 | 22 | |
| 唇裂・口蓋裂形成術 | 27.51-59,27.61-69 | 12 | |
| 筋・動脈皮弁形成術 | | 38 | |
| 顔面骨観血的整復術 | 76.70-79 | 21 | |
| 遊離皮弁形成術複合組織移植術 | 86.6 | 15 | |

**手術件数と麻酔**

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 803 | 354 | 29 | 0 | 420 | 248 | 555 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 手術・入院カンファランス | 毎日 |
| 病棟回診 | 1回/週 |
| 褥瘡回診 | 1回/週 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**製造販売後調査（文書同意あり）**

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

基盤研究（C）（一般）bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発

（代表研究者　林田麻衣子　島根大学）

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 9（0） | 4（1） | 0 | 2 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 16 | 6 | 4 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 1 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 4 | 1 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**論　文　発　表**

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）The decline in mild trauma patients due to the COVID-19 epidemic may have been transient.
Fujioka M, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery. 2023；76：283-284. Epub 2022 Nov 24.

2）Skin Grafting on Wound with Exposed Bone.
Fujioka M, Fukui K,Yoshino K, Idemitsu M.
International Journal of Surgical Wound Care. 2023；4(1)：1-5.

3）Additional superdrainage reduces anastomotic fistula and stenosis after gastric tube reconstruction with cervical anastomosis for esophageal cancer.
Fujioka M, Taniguchi K, Yoneda A, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
JTCVS Techniques 2023；19：142-146. doi: 10.1016/j.xjtc.2023.03.005. eCollection 2023 Jun.

4）The Decline in the Number of Plastic Surgeries Under the Novel Coronavirus Epidemic in Japan Was Attributed to the Decline In Patients with Acute Diseases such as Trauma and Malignant Tumors.
Fujioka M, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
Medical Research Archives 2023；[online] 11(4). https://doi.org/10.18103/mra.v11i4.3715.

5）Why has the outcome of Gustilo-Anderson type Ⅲ fracture not improved over 2 decades?：
Considerations for recommended initial debridement and secondary wound covering time limits.
Fujioka M, Fukui K, Idemitsu M, Koga K.
International Journal of Surgical Wound Care；5(2)1-7, 2024.

**A-a2：英文症例報告**

1）Colostomy for Fournier's Gangrene with Rectum Exposure.
Fujioka M, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
World Journal of Colorectal Surgery 2022；11(2)：43-46. DOI：10.4103/wjcs.wjcs_4_23.

2）Two cases of delayed arterial occlusion after reconstruction of Gustilo ⅢB severe olecranon fracture.
Fujioka M, Fukui K,Yoshino K. Nokuchi.M.
International Journal of Surgical Wound Care 2023；4(1)：17-21.

3）“Fix after Flap” concept that covers exposed bone wounds on the day for suffering Gustilo-Anderson ⅢB and C fractures.
Fujioka M, , Fukui K, Idemitsu M.
Open Journal of Clinical & Medical Case Reports 2023；9(22)：2068. doi.org/10.52768/2379-1039/2068.

4）Successful Ventral onlay Peripheral de-Epthelialized Skin Graft for Reconstruction of Penile Urethral Defect Due to Fournier’s Gangrene.
Fujioka M, Toru Onita.
J Urol Ren Dis 2024；9(1)：1363. DOI：10.29011/2575-7903.001363.

**B：和文**

**B-a1：和文原著**

1）新型コロナウイルス感染症流行の形成外科手術への影響：第2報－流行2年半の動向－.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
日本形成外科学会会誌 2023；43(6)：309-318.

**B-a2：和文症例報告**

1）【動静脈奇形症例集［1］－手足－】心不全症状を来たしたParkes Weber 症候群に対して塞栓-硬化療法を用いて疼痛と心機能の改善が見られた1例.
野口美帆、吉野健太郎、福井季代子、藤岡正樹、松尾崇史、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科. 2023；66(11)：1259-1264.

2）顔面耳介CM-AVMに対して塞栓-硬化療法を耳介形成術を組み合わせた1例.
野口美帆、藤岡正樹、井町賢三、福井季代子、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科67(1)：37-42. 2024.

3）胸壁に生じた巨大AVMに対してモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた塞栓-硬化療法が奏功した1例.
野口美帆、藤岡正樹、井町賢三、福井季代子、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科67(2)：125-130. 2024.

**B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）**

1）【突破セッション1】橈骨付き前腕皮弁一枚のみでのone stage and one donor site全鼻再建.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
日本形成外科学会会誌 2023；43(8)：501.（abstract）.

2）【突破セッション2】食道癌胃管再建後の吻合部瘻孔・狭窄の合併症は短胃静脈吻合付加によるsuperdrainageで有意に減少させる.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江、谷口堅.
日本形成外科学会会誌 2023；43(8)：503.（abstract）.

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-a：特別講演，教育講演**

**＜教育講演＞**

1）末期がんに伴う癌性皮膚潰瘍に対するpalliative surgery（緩和的手術）.
藤岡正樹.
皮膚腫瘍外科分野指導医教育セミナー. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.27.

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）GA3BC型骨折に対しては2nd-look Fix & Flap surgeryまでの待機期間は持続洗浄療法が安全である.
藤岡正樹, 福井季代子.
シンポジウム2；NPWTを利用した開放性骨折の治療. 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2023.7.13.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）NST介入が奏功した低栄養を有するⅢ度熱傷患者の1例～重症熱傷の回復期までの摂取栄養量の報告～.
山下真喜子、安藤翔治、桑原淳子、松尾待池、吉田翔平、大津貴寛、瀧口尚、小盛みずほ、福本明美、岩崎藤子、渡部太郎、日宇宏之、吉野健太郎、福井季代子.
第33回日本熱傷学会九州地方会. 久留米, 2023.2.25.

2）フルニエ壊疽の予後度を予測するにあたって、UFGSI、LRINEC scoreは必ずしも臨床結果を反映しない.
出光茉莉江、吉野健太郎、福井季代子、藤岡正樹.
一般口演68；躯幹・外陰部3. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.28.

3）48時間以内にFix and Flapを施行したが骨髄炎に至った重度下腿開放骨折の2例.
福井季代子、藤岡正樹.
一般演題17；その他2. 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2023.7.14.

4）同日に集中して発生したイノシシ咬創の2例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江.
一般演題4；救急症例の報告. 第31回長崎救急医学会学術集会. Web, 2023.9.16.

5）マムシ咬創に対して抗毒素血清を計4バイアル（24000単位）投与した2症例.
後藤すみれ、白水春香、松尾徳久、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、権志成、日宇宏之、増田幸子、中道親昭、福井季代子、藤岡正樹.
一般演題4；救急症例の報告. 第31回長崎救急医学会学術集会. Web, 2023.9.16.

＜ポスター＞

1）COVID-19流行後 3 年間の形成外科手術への影響の検討.
藤岡正樹、吉野健太郎、福井季代子、出光茉莉江.
ポスター発表；その他 1 【フリーディスカッション③】. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.27.

2）褥瘡に起因したフルニエ壊疽で直腸が露出した場合、人工肛門を要するか？
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
一般演題（ポスター）；外科的治療. 第25回日本褥瘡学会学術集会. 神戸, 2023.9.1.

3）鑑別が困難であった示指皮下腫瘤の 1 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、三浦史郎、伊東正博.
ポスター 4 ；皮膚疾患、形成. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

4）当科における20mm未満の有棘細胞癌の切除範囲の変遷と予後に関する検討.
出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子、古賀一史.
ポスター 4 ；皮膚疾患、形成. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

5）フルニエ壊疽の予後予測ツールの検討.
出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子、古賀一史.
ポスター 4 ；皮膚疾患、形成. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

6）食道癌胃管再建後の吻合部瘻孔や狭窄の術後合併症は短胃静脈吻合付加によるsuperdrainageで有意に減少する.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 33；上部消化管 1 － 2 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

7）眼周囲発生のSCC浸潤のため眼球摘出が必要となった 2 症例の治療経験.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 110；歯科・口腔・頭頸部疾患 2 － 2 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

8）進行性癌に起因する皮膚潰瘍に対するpalliative surgeryは患者の生活の質を改善する.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 111；終末期医療 1 － 2 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

9）COVID-19流行後 3 年間の形成外科手術への影響の検討.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 117；免疫、感染 1 － 2 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

10）48時間以内にFix and Flapを施行したが骨髄炎に至った重度下腿開放骨折の 2 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、宮本俊之.
ポスター 123；骨・運動器・リウマチ・骨粗鬆症 2 － 4 . 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

＜発表区分なし＞

1）橈骨付き前腕皮弁一枚のみでのone stage and one donor site全鼻再建.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
突破セッション 1 . 第28回日本形成外科手術手技学会. 川崎, 2023.3.4.

2）食道癌胃管再建後の吻合部瘻孔・狭窄の合併症は短胃静脈吻合付加によるsuperdrainageで有意に減少させる.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江、谷口堅.
突破セッション 2 , 第28回日本形成外科手術手技学会. 川崎, 2023.3.4.

3）48時間以内にFix&Flapを施行したが骨髄炎に至った重度下腿開放骨折の 2 例.
福井季代子、吉野健太郎、藤岡正樹、出光茉莉江、宮本俊之.
第119回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2023.3.11.

4）尿道内までスキンステイプラーが迷入した 1 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江.
第120回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2023.7.8.
5）乳房増大術に用いたアクアフィリングにより手根管症候群を呈した 1 例.
古賀一史、出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子.
第121回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 宮崎, 2023.10.28.

**B-c：研究会発表**
1）鑑別が困難であった示指皮下腫瘤の 1 例.
吉野健太郎、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、三浦史郎、伊東正博.
第114回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2023.5.13.
2）眼球摘出を要した眼周囲のSCCの 2 例.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
第114回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2023.5.13.
3）生検が下手すぎて確定診断に至らずSCCの疑いを払拭できなかった急速増大lobular capillary hemangioma（pyogenic granuloma）の経験.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史、三浦史郎、伊東正博.
第115回長崎形成外科懇話会. 別府, 2023.11.18.
4）論文読者からの相談と思っていたら国際詐欺だった案件.
藤岡正樹.
第 1 回国立長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2023.12.2.

**C・F：学術講演他**
**C-b：学術講演[国内]**
**＜講演＞**
1）外来で診られる熱傷、入院を要する熱傷.
藤岡正樹.
特別講演. 第185回県央皮膚科研究会. 諫早, 2023.9.12.

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**
**＜座長＞**
1）藤岡正樹.
一般口演48；下腿・足（外傷、その他） 3 . 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.28.
2）藤岡正樹.
一般演題（口演 2）；スキン-テア. 外科的治療等, 第20回日本褥瘡学会 九州•沖縄地方会 学術集会. 福岡, 2023.5.20.
3）藤岡正樹.
一般演題 3［口演］；創傷治癒. 第49回日本熱傷学会総会学術集会. 東京, 2023.5.25.
4）藤岡正樹.
一般演題（口演）；在宅医療・地域連携 1 . 第25回日本褥瘡学会学術集会. 神戸, 2023.9.1.

**＜司会＞**
1）藤岡正樹.
シンポジウム 2 ；NPWTを利用した開放性骨折の治療. 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2023.7.13.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 心臓血管外科

責任者　有吉 毅子男

## 診療科の特色

国立病院機構長崎医療センター心臓血管外科は、大村市を拠点とした県央地区を中心とする心臓血管外科治療の基幹施設です。高齢化社会となり心・大血管疾患に対して外科的治療介入を必要とする患者数はますます増加し、重症化することが予想されます。

心臓血管外科の診療目標
1．安全な診療（低い死亡率・合併症罹患術）
2．質の高い手術（低侵襲手術）

**・安全な診療を目指して（低い死亡率、合併症罹患率）**

高齢化によって症例数が増加し、特に最近では80歳以上の患者も珍しくなくなってきました。高齢化自体が手術の大きなリスクとなることから、「安全な診療」という目標には相反するリスクの増加が心臓血管外科手術には内在しているという大きなジレンマを抱えています。

このため入念な手術計画、確かな手術手技・術後管理を行うことが成績向上には必須となります。

長崎医療センターでは過去12年間で行われた開心術・胸部大血管（ステントグラフト非使用）手術において緊急症例を含めた術後在院死亡率は0.7%と良好な成績を収めています。

**・質の高い手術を目指して（手術の低侵襲化）**

低侵襲心臓手術

心臓血管外科の「低侵襲」手術には①人工心肺を使用しない②創自体が小さいことによる低侵襲化の 2 通りが存在します。

前者は心拍動下冠動脈バイパス術（オフポンプ手術）が代表的であり、現在は広く全国に普及しています。一方で①と②の利点を合わせ持つ大動脈瘤治療に対するステントグラフト留置術もほとんどの心臓血管外科を有する施設で可能となっており、当院でも2014年から積極的に取り組んでいます。

心臓手術に目を向けますと、心臓大血管手術には、安全でより低侵襲・美容にも配慮した術式が求められるようになってきました。MICS（Minimally invasive cardiac surgery）といわれる低侵襲心臓手術では、従来の胸骨正中切開（胸骨を縦に離断）を行わず第 4 肋間切開（約 6 cm）、右開胸によるアプローチ法により、弁形成術や弁置換術を行うことができます。限られた視野の中で手術を行う必要があり、より高度な技術が求められる手術術式です。

従来の胸骨正中切開に比較して、①胸骨離断を行わないため、胸骨からの術後出血がない。②骨癒合を待つ必要が無いため、より早期の社会活動復帰が可能である。③正中切開よりも創が小さいため、美容上優れるなど数々の利点を有しています。

当科ではこれまで行ってきた僧帽弁領域での手術に加え、2021年度からは大動脈弁領域でのMICS手術を積極的に行っています。

末梢血管治療においても低侵襲化は進んでいます。閉塞性動脈硬化症に対する従来型の末梢動脈へのバイパス手術は減少傾向にあります。これにはカテーテルによる血管形成術の成績向上によるところが大きいと思います。しかしながら高齢化に伴い下肢の冷感や痺れ、ABI（Ankle-brachial index：足関節上腕血圧比）の低下で当科に紹介となる患者さんは多く、薬物・運動療法やカテーテル治療、バイパス手術などさまざまな治療の利点・欠点を踏まえ患者さん個々人の生活強度に合わせ、これらを選択していくことがわれわれの役割と考えています。

さらに、2023年秋からは下肢静脈瘤に対して県央地区では初めてレーザー治療が可能となりました。下肢静脈瘤の98%での主な治療法となりえるもので、皮膚切開を必要としない術式となっています。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 1,777人 | 4.9人 | 112人 | 122人 | 4人 | 15.2日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| 102件 | 93.2% | 182件 | 154.2% | 1件 | 0.3% |

### 診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 30人(26.1%) | 48人(41.7%) | 3人(2.6%) | 2人(1.7%) | | 8人(7.0%) |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 11人(9.6%) | 9人(7.8%) | 1人(0.9%) | | | |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1人(0.9%) | 2人(1.7%) | | | |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| | | | |

| 合計 |
|---|
| 115人 |

### 手術件数と麻酔

| 総手術数 | 全身麻酔 | 腰椎麻酔・硬膜外麻酔 | 静脈麻酔 | 局所麻酔 | 緊急手術 | 待機手術 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 101 | 75 | 0 | 0 | 26 | 14 | 87 |

1．胸部大血管（N＝15）

| | 総数 | 上行 | 弓部 | 下行 | （うちopen stent） | TEVAR | 基部置換 | 在院死亡 | comment |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大動脈解離 | **4** | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 大動脈瘤 | **11** | 3 | 3 | 0 | 3 | 4 | 1 | 0 | CABG 2例 |

基部置換としてBentall 1例

2．虚血性心疾患（N＝19）

| 2．冠動脈バイパス手術 | 総数 | 1枝 | 2枝 | 3枝以上 | OPCAB | on beating | CKD (HD) | 在院死亡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | **19** | 3 | 9 | 7 | 4 | 0 | 2 | 0 |

3．弁膜症（N＝23）

| | 総数 | 弁置換 | 弁形成 | Maze | Bentall David | 在院死亡 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大動脈弁 | **12** | 12 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 単弁（MICS 6例） | 7 | 7 | 0 | 0 | 0 | |
| 大動脈弁＋CABG | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | |
| 大動脈弁＋上行大動脈置換術 | 4 | 3 | 0 | 0 | 1 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 僧帽弁 | | **10** | 3 | 7 | 3 | 1 |
| | 単弁 | 7 | 2 | 5 | 0 | |
| | 僧帽弁＋三尖弁 | 3 | 1 | 2 | 3 | |
| 三尖弁 | | **4** | 1 | 3 | 3 | 0 |
| | 三尖弁＋CABG | 1 | 1 | 0 | 0 | |
| | 三尖弁＋僧帽弁 | 3 | 0 | 3 | 3 | |

4．腹部大動脈（N＝16）

| | 総数 | （開腹） | （bypass） | EVAR | 在院死亡 |
|---|---|---|---|---|---|
| | **16** | 4 | | 12 | 0 |
| 破裂性動脈瘤 | 0 | 0 | | 0 | |
| 非破裂性動脈瘤 | 16 | 4 | | 12 | |

5．末梢動脈手術（N＝ 9 ）

| 総数 | （AK） | （BK） | （FF） | Interpose | 血管形成<br>内膜摘除 | 血栓除去 | 在院死亡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **9** | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 5 | 0 |

6．下肢静脈瘤（N＝18）

| 下肢静脈瘤手術 | 総数 | レーザー焼灼 | Stripping | 高位結紮 | 在院死亡 |
|---|---|---|---|---|---|
| | **18** | 13 | 4 | 1 | 0 |

7．その他

| | | 在院死亡 |
|---|---|---|
| ペースメーカー交換 | **2** | 0 |
| 胸骨生検 | **1** | 0 |
| Coil塞栓 | **1** | 0 |

**手術成績**

| | 件数 | 在院死亡 | 1ヶ月以内死亡 | 再手術 | 手術部位感染症 |
|---|---|---|---|---|---|
| 待機手術 | 87 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 緊急手術 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 循環器内科・心臓血管外科合同カンファランス | 一回/週 |
| 術前カンファランス（心臓血管外科・ME・手術看護師） | 不定期 |
| 病棟回診 | 一回/週 |
| 病棟勉強会 | 不定期 |
| 心臓リハビリテーションカンファランス | 一回/週 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**治験等参加研究一覧**

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし））、⑨その他 | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | 弁膜症術後経過の研究 | 無 | 日本メドトロニクス | 有吉毅子男 | 例 |
| 2 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | 人工弁の臨床症状に対する改善効果研究 | 無 | センチュリーメディカル | 有吉毅子男 | 例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 1 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b1：一般演題**

**＜口演＞**

1）Trifecta生体弁を用いた大動脈弁置換術の当院における中期成績
田口寛子、松隈誠司、有吉毅子男.
大動脈弁１. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会. 旭川, 2023.3.23.

**F：学術講演他**

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

1）有吉毅子男
冠動脈その他. 第56回日本胸部外科学会九州地方会総会. 大分, 2023.7.28.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 臨床研究センター

責任者　田川 努

## 診療科の特色

**肝疾患高度専門医療施設**：高度総合医療施設としての長崎医療センターでは、肝臓内科、肝臓外科、放射線部、病理部、救命救急センター等、関係各部署と密接に連携をとりながら、肝疾患分野での高度な専門的診療を行っています。また、多くの治験を行い、肝疾患治療薬の開発に貢献しています。

**臨床研究センター**：国が推進すべき政策医療の一つである肝疾患の分野での先駆的な医療や難治性の疾病等に関する診断、治療技術の機能強化を図る目的で2002年に臨床研究センターが設置されました。組織としては、治療研究部、難治性疾患研究部、病因解析研究部、外科治療研究部、機能形態研究部の５つの研究部、14の研究室から構成されています。各研究部は専任研究部長と室長および研究員が配置され、それぞれ連携を保ちながら研究を行っています。

また、2004年に国立病院から国立病院機構へと病院組織の変更に伴い、臨床研究センターは上記のような肝疾患だけではなく、リウマチなどの自己免疫性疾患、国際甲状腺病理、肝がんの外科および血管造影下治療、創傷治癒などの形成外科治療、てんかんの脳外科治療、国際医療協力、等も主たる研究テーマとして臨床研究を展開しています。

**NHO肝疾患共同研究ネットワーク**：国立病院機構肝疾患ネットワークのグループリーダーとして、ウイルス肝炎・肝癌、肝疾患難病に関して、参加施設から収集した情報、試料を解析して、EBMのためのエビデンスを作るべく研究を推進しています。

**厚生労働省肝疾患研究班**：厚生労働省科学研究費補助金により研究班を組織し、全国の研究者とともに、国が推進する肝疾患政策を支える研究を行っています。文科省・学術振興会科学研究費も獲得して、基礎的な研究も行っています。

**長崎大学大学院（連携講座）**：平成16年度より長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学専攻「肝臓病学講座」として連携講座の役割を担っており、６名の教員（教授）が大学院生の教育にあたっており、これまでに16名が卒業しています。

**肝疾患診療連携拠点病院**：平成19年８月に、全国に先駆けて長崎県の肝疾患診療連携拠点病院としての指定を受けました。長崎県における拠点病院として、県内の肝疾患診療施設と連携してウイルス肝炎・肝癌を中心とした肝疾患の診療、診療支援、医療相談、情報発信を実施するとともに、肝疾患患者の相談に応じています。

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 参加職種 | 参加人数（平均） | 実施回数 |
|---|---|---|---|
| 臨床研究センター<br>運営委員会 | 部長、室長 | 11 | 1回/月 |
| 臨床研究実践セミナー | 全職員 | 65 | 5回/年 |
| 院内臨床研究発表会 | 全職員 | 55 | 3回/年 |

## 競争的資金獲得状況

**○厚生労働省　科学研究費補助金**

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 継 | 代表 | 八橋　弘 | 八橋　弘 | 肝炎等克服政策研究事業 | ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究〔20HC2001〕 |
| 2 | 新 | 分担 | 山口　照英 | 八橋　弘 | 医薬品•医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業 | 薬害C型肝炎患者救済の実態把握のための調査研究〔22KC2008〕 |
| 3 | 継 | 分担 | 江口　晋 | 八橋　弘 | エイズ対策政策研究事業 | 血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究〔21HB2002〕 |
| 4 | 継 | 分担 | 四柳　宏 | 八橋　弘 | 肝炎等克服政策研究事業 | オーダーメードな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究〔21HC2001〕 |
| 5 | 継 | 分担 | 田中　篤 | 小森　敦正 | 難治性疾患等克服研究事業 | 難治性の肝・胆道に関する調査研究〔20FC0201〕 |
| 6 | 新 | 分担 | 田中　純子 | 山﨑　一美 | 肝炎等克服政策研究事業 | 全国規模の肝炎ウイルス感染状況把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究〔22HC1001〕 |
| 7 | 継 | 分担 | 井上　有史 | 本田　涼子 | 難治性疾患等政策研究事業 | 希少てんかんに関する包括的研究〔20FC1039〕 |
| 8 | 継 | 分担 | 白阪　琢磨 | 八橋　弘 | 友愛福祉財団委託事業 | エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究事業 |

**○国立研究開発法人　日本医療研究開発機構（AMED）研究費**

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 継 | 代表 | 八橋　弘 | 八橋　弘 | 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 | 肝硬変患者のQOLの向上及び予後改善に資する研究〔22fk0210069h0003〕 |
| 2 | 新 | 分担 | 竹原　徹郎 | 八橋　弘 | 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 | インターフェロンフリー治療がC型肝硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究〔22fk0210113h0001〕 |
| 3 | 新 | 分担 | 徳永　勝士 | 山﨑　一美 | 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 | B型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム解析に関する研究と肝炎データストレージの利活用〔22fk0210111h0001〕 |
| 4 | 新 | 分担 | 村田　一素 | 山﨑　一美 | 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 | Nucleotide analog製剤の宿主免疫賦活能を利用してB型肝炎のHBs抗原消失率向上を目指す治療法の開発および創薬に関する研究〔22fk0210112h0001〕 |
| 5 | 継 | 分担 | 本多　政夫 | 小森　敦正 | 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 | 肝類洞内皮のバリア破綻と生活習慣病に起因する非Ｂ非Ｃ型肝炎・肝がん発症機序の解明〔22fk0210073h0003〕 |
| 6 | 継 | 分担 | 溝上　雅史 | 山﨑　一美 | 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 | Ｂ型肝炎再活性化に対する、費用対効果に優れた予防および治療法の開発〔21fk0210085h0001〕 |
| 7 | 継 | 分担 | 末廣　陽子 | 吉田真一郎 | 革新的がん医療実用化研究事業 | 成人T細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立〔21ck0106482ｈ0003〕 |

**○日本学術振興会　科学研究費補助金**

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 新 | 代表 | 本田　和也 | 本田　和也 | 基盤（Ｃ）一般 | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案〔22K10433〕 |
| 2 | 継 | 代表 | 相葉　佳洋 | 相葉　佳洋 | 基盤（Ｃ）一般 | 統合解析データに基づく原発性胆汁性胆管炎におけるPRKCBの解析〔20K08370〕 |
| 3 | 継 | 代表 | 小野　智憲 | 小野　智憲 | 基盤（C）一般 | 小児難治てんかん手術例における脳梁髄鞘化の発達プロファイリング〔20K09402〕 |
| 4 | 新 | 代表 | 林　勝仁 | 林　勝仁 | 奨励研究 | 妊婦における腰痛骨盤痛と筋量との関連についての研究〔22H04415〕 |
| 5 | 継 | 分担 | 相葉　佳洋 | 伊東　正博 | 基盤（Ｃ）一般 | 統合解析データに基づく原発性胆汁性胆管炎におけるPRKCBの解析〔20K08370〕 |
| 6 | 継 | 分担 | 小野　智憲 | 本田　涼子 | 基盤（C）一般 | 小児難治てんかん手術例における脳梁髄鞘化の発達プロファイリング〔20K09402〕 |
| 7 | 新 | 分担 | 林田麻衣子 | 藤岡　正樹 | 基盤（C）一般 | bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発〔22K07615〕 |
| 8 | 新 | 分担 | 本田　和也 | 森塚　倫也 | 基盤（C）一般 | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案〔22K10433〕 |

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 新 | 分担 | 本田　和也 | 諸藤　陽一 | 基盤（C）一般 | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案〔22K10433〕 |
| 10 | 新 | 分担 | 本田　和也 | 伊藤　健大 | 基盤（C）一般 | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案〔22K10433〕 |
| 11 | 継 | 分担 | 光武　範吏 | 伊東　正博 | 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）） | チェルノブイリ放射線誘発甲状腺がんの遺伝子バンク設立と分子遺伝疫学国際共同研究〔20KK0217〕 |
| 12 | 継 | 分担 | 氏福　健太 | 諸藤　陽一 | 基盤（C）一般 | がん脳転移にペリサイトが及ぼす影響をin vitro血液脳関門モデルで解明する〔21K09154〕 |
| 13 | 継 | 分担 | 出雲　　剛 | 諸藤　陽一 | 基盤（C）一般 | 灌流型3次元血液脳関門モデルを用いた中枢神経保護薬の探求〔21K09180〕 |
| 14 | 継 | 分担 | 鈴木　美穂 | 本田　和也 | 基盤（B）一般 | 日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究〔20H03918〕 |

**○NHOネットワーク共同研究費**

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 領域 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 代表 | 継 | 安日　一郎 | 安日　一郎 | 小児・周産期 | 日本人妊婦糖尿病既往女性の産褥5年の糖尿病発症の実態と発症関連リスク因子および予防的因子の解明〔H29-NHO(成育)-03〕 |
| 2 | 分担 | 継 | 安日　一郎 | 山下　　洋 | 小児・周産期 | 日本人妊婦糖尿病既往女性の産褥5年の糖尿病発症の実態と発症関連リスク因子および予防的因子の解明〔H29-NHO(成育)-03〕 |
| 3 | 分担 | 継 | 高橋　幸利 | 本田　涼子 | 小児・周産期 | West症候群発病後の発達障害出現に関わる後天的要因の研究〔H31-NHO(小産)-01〕 |
| 4 | 代表 | 継 | 中村　　稔 | 中村　　稔 | 消化器疾患 | 原発性胆汁性胆管炎の新しい病型分類と創薬のための長期観察研究〔R2-NHO(消化)-01〕 |
| 5 | 分担 | 継 | 野木　真一 | 岡田　覚丈 | 免疫・アレルギー疾患 | リウマチ性多発筋痛症の診断・治療バイオマーカーの探索〔R2-NHO(免アレ)-01〕 |
| 6 | 分担 | 継 | 安彦　　郁 | 福田　雅史 | がん（一般） | 卵巣未熟奇形種の悪性度を判定するバイオマーカーの同定を目指した臨床研究〔R3-NHO(癌般)-01〕 |
| 7 | 代表 | 継 | 山﨑　一美 | 山﨑　一美 | 消化器疾患 | 薬物性肝障害および急性発症型自己免疫性肝炎を含む急性肝炎の発症状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究〔R3-NHO(消化)-03〕 |
| 8 | 代表 | 継 | 八橋　　弘 | 八橋　　弘 | 消化器疾患（肝疾患） | コア・グループリーダー予算 |

**○東京都特別研究**

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 新 | 分担 | 小原　道法 | 八橋　　弘 | 公益財団法人東京都医学総合研究所感染制御プロジェクト | 肝硬変治療薬の開発を促進する肝機能回復メカニズムの解明研究 |

**○二国間交流事業 共同研究 委託費**

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 継 | 代表 | 諸藤　陽一 | 諸藤　陽一 | 二国間交流事業 共同研究（スロバキア） | 脳内選択的ドラッグデリバリーシステムに注目した中枢神経疾患治療薬の開発【JPJSBP120219945】 |
| 2 | 新 | 代表 | 諸藤　陽一 | 諸藤　陽一 | 二国間交流事業 共同研究（ハンガリー） | ヒト初代培養細胞による3次元灌流型血液脳関門モデルの確立【JPJSBP120223802】 |

**○その他研究助成金**

| No. | 区分 | 代表分担 | 研究代表者 | 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 継 | 代表 | 森　　英毅 | 森　　英毅 | キヤノン財団研究助成プログラム | 舌表面画像の深層学習解析による急性中垂炎の新規診断法の開発 |
| 2 | 継 | 代表 | 内田　大貴 | 内田　大貴 | 西川医療振興財団　医学研究活動費助成事業 | 画像認識AIを活用した、てんかん発作の動態解析および自動検知技術の開発 |
| 3 | 継 | 分担 | 中島　正洋 | 伊東　正博 | 放射線災害・医科学研究拠点共同研究 | チェルノブイリ周辺地域と本邦の若年者甲状腺癌の病理組織学的検討 |

**○特許及び受賞**

・なし

## 学会・論文など

**1）論文**

| | 原著 | 症例報告 | 総説 | 著書 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 英文 | 15 | 9 | 3 | 0 | 0 |
| 和文 | 5 | 6 | 4 | 3 | 0 |
| 計 | 20 | 15 | 7 | 3 | 0 |

**2）学会・研究会**

| | 特別・教育・招待講演 | シンポジウム、パネルディスカッション | 一般演題 | 研究会発表 |
|---|---|---|---|---|
| 国際 | 0 | 2 | 11 | 0 |
| 国内 | 1 | 19 | 136 | 13 |
| 計 | 1 | 21 | 147 | 13 |

**3）学術講演**

| 種類 | 国際 | 国内 |
|---|---|---|
| 件数 | 1 | 10 |

**4）学会・研究会等　座長**

| | 座長 |
|---|---|
| 国際 | 1 |
| 国内 | 28 |
| 計 | 29 |

# 研究業績

## 論　文　発　表

**A：英文**　　**※筆頭者alphabet順**

**A-a1：英文原著（15）**

1）Corrigendum to：“An international genome-wide meta-analysis of primary biliary cholangitis：Novel risk loci and candidate drugs” [J Hepatol 75 (2021) 572-581].
Cordell HJ, Fryet15：59t JJ, Ueno K, Darlay R, Aiba Y, Hitomi Y, Kawashima M, Nishida N, Khor SS, Gervais O, Kawai Y, Nagasaki M, Tokunaga K, Tang R, Shi Y, Li Z, Juran BD, Atkinson EJ, Gerussi A, Carbone M, Asselta R, Cheung A, de Andrade M, Baras A, Horowitz J, Ferreira MAR, Sun D, Jones DE, Flack S, Spicer A, Mulcahy VL, Byan J, Han Y, Sandford RN, Lazaridis KN, Amos CI, Hirschfield GM, Seldin MF, Invernizzi P, Siminovitch KA, Ma X, Nakamura M, Mells GF；Canadian PBC Consortium；Chinese PBC Consortium；Italian PBC Study Group；Japan-PBC-GWAS Consortium；US PBC Consortium；UK-PBC Consortium.
J Hepatol. 2023；78(4)：883. Epub 2023 Jan 11.

2）Skin Grafting on Wound with Exposed Bone.
Fujioka M, Fukui K,Yoshino K, Idemitsu M.
International Journal of Surgical Wound Care. 2023；4(1)：1-5.

3）Additional superdrainage reduces anastomotic fistula and stenosis after gastric tube reconstruction with cervical anastomosis for esophageal cancer.
Fujioka M, Taniguchi K, Yoneda A, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
JTCVS Tech. 2023；19：142-146.

4）The Decline in the Number of Plastic Surgeries Under the Novel Coronavirus Epidemic in Japan Was Attributed to the Decline In Patients with Acute Diseases such as Trauma and Malignant Tumors.
Fujioka M, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
Medical Research Archives. 2023；[online] 11(4) https://doi.org/10.18103/mra.v11i4.3715.

5）An integrated genetic analysis of epileptogenic brain malformed lesions.
Fujita A, Kato M, Sugano H, Iimura Y, Suzuki H, Tohyama J, Fukuda M, Ito Y, Baba S, Okanishi T, Enoki H, Fujimoto A, Yamamoto A, Kawamura K, Kato S, Honda R, Ono T, Shiraishi H, Egawa K, Shirai K, Yamamoto S, Hayakawa I, Kawawaki H, Saida K, Tsuchida N, Uchiyama Y, Hamanaka K, Miyatake S, Mizuguchi T, Nakashima M, Saitsu H, Miyake N, Kakita A, Matsumoto N.
Acta Neuropathol Commun. 2023；11(1)：33.

6）Intravenous perampanel as an alternative to the oral formulations in Japanese patients with epilepsy.
Hanaya R, Kubota Y, Mizobuchi M, Iida K, Ono T, Motooka H, Nakano N, Fujimoto A, Iwasaki M, Fukuda M, Kondo A, Uruno K, Yamamuro S, Yamaguchi K, Onishi K, Ngo LY, Inoue Y.
Epilepsia Open. 2023；8(4)：1369-1382. Epub 2023 Aug 30.

7）rs10924104 in the expression enhancer motif of CD58 confers susceptibility to human autoimmune diseases.
Hitomi Y, Ueno K, Aiba Y, Nishida N, Kawai Y, Kawashima M, Khor SS, Takada S, Iwabuchi C, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M.
Hum Genet. 2024；143(1)：19-33. Epub 2023 Nov 23.

8）Risk Factors of Complications from Central Bisectionectomy (H458) for Hepatocellular Carcinoma：A Multi-Institutional Single-Arm Analysis.
Nanashima A, Eguchi S, Hisaka T, Kawasaki Y, Yamashita YI, Ide T, Kuroki T, Yoshizumi T, Kitahara K, Endo Y, Utsunomiya T, Kajiwara M, Sakoda M, Okamoto K, Nagano H, Takami Y, Beppu T.
Cancers (Basel). 2023；15(6)：1740.

9）Antibodies against Serum Anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5 in Rheumatoid Arthritis Patients with Chronic Lung Diseases.
Oka S, Higuchi T, Furukawa H, Shimada K, Okamoto A, Hashimoto A, Komiya A, Saisho K, Yoshikawa N, Katayama M, Matsui T, Fukui N, Migita K, Tohma S.
Medicina (Kaunas). 2023；59(2)：363.

10）Multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic olanzapine for patients with metastatic breast cancer receiving T-DXd treatment：protocol for the ERICA study (WJOG14320B).
Sakai H, Tsurutani J, Ozaki Y, Ishiguro H, Nozawa K, Watanabe K, Maeda S, Yokoe T, Imamura C K, Matsumoto K, Iwasa T, Chiba Y, Takiguchi D, Takano T.
BMJ Open. 2023；13(4)：e070304.

11）Novel HLA allele associations with susceptibility, staging, symptomatic state, autoimmune hepatitis and hepatocellular carcinoma events for primary biliary cholangitis in the Japanese population.
Khor SS, Ueno K, Nishida N, Kawashima M, Kawai Y, Aiba Y, Hitomi Y, Nagasaki M, Nakamura M, Tokunaga K.
Front Immunol. 2023；14：1151502.

12）Efficacy of laparoscopic liver resection for small hepatocellular carcinoma located in the posterosuperior segments：A multi-institutional study using propensity score matching by the Kyushu Study Group of Liver Surgery.
Tokumitsu Y, Nagano H, Yamashita YI, Yoshizumi T, Hisaka T, Nanashima A, Kuroki T, Ide T, Endo Y, Utsunomiya T, Kitahara K, Kawasaki Y, Sakota M, Okamoto K, Takami Y, Kajiwara M, Takatsuki M, Beppu T, Eguchi S.
Hepatol Res. 2023；53(9)：878-889. Epub 2023 Jun 12.

13）Temporal Lobe Surgery for Epilepsy in a Resource Limited Vietnamese Cohort.
Tran VD, Nguyen BT, Van Dong H, Lieber BA, Bista J, Van Vu H, Bui TN, Chu HT, Nguyen PX, Nguyen TA, Ono T, Trieu ST, Nhu SD.
World Neurosurg. 2023；178：e559-e565. Epub 2023 Aug 1.

14）New chemiluminescent enzyme immunoassay for quantitative measurement of Mac-2 binding protein glycosylation isomer in chronic liver disease.
Uojima H, Nakabayashi K, Yamasaki K, Sugiyama M, Ishii N, Shirabe K, Kyoutou T, Ueda K, Takahama Y, Tamaki N, Kurosaki M, Hidaka H, Kusano C, Amano K, Kawaguchi T, Taketomi A, Joshita S, Umemura T, Murakawa M, Asahina Y, Suzuki T, Matsuura K, Nishimura T, Iijima H, Sakamoto K, Ito K, Nishina S, Hino K, Toyoda H, Yatsuhashi H, Kage M, Mizokami M.
J Gastroenterol. 2023；58(12)：1252-1260. Epub 2023 Oct 8.

15）The Efficacy of Inflammatory and Immune Markers for Predicting the Prognosis of Patients with Stage IV Breast Cancer.
Yamanouchi K, Maeda S.
Acta Med Okayama. 2023；77(1)：37-43.

**A-a2：英文症例報告（9）**

1）Two cases of delayed arterial occlusion after reconstruction of Gustilo IIIB severe olecranon fracture.
Fujioka M, Fukui K,Yoshino K. Nokuchi.M.
International Journal of Surgical Wound Care. 2023；4(1)：17-21.

2）Fix after Flap concept that covers exposed bone wounds on the day for suffering Gustilo-Anderson IIIB and C fractures.
Fujioka M, Fukui K, Idemitsu M.
Open Journal of Clinical & Medical Case Reports. 2023；9(22)：2068.

3）Case report：Unruptured small middle cerebral artery aneurysm with perianeurysmal edema.
Goto Y, Morofuji Y, Shiozaki E, Uchida D, Kawahara I, Ono T, Haraguchi W, Tsutsumi K.
Front Surg. 2023；10：1134231.

4）Minimally invasive surgical necrosectomy for infected walled-off necrosis using endoscopy with the flexible overtube technique：A case report.
Hamada T, Okamoto T, Kitasato A, Kuroki T.
Acta Medica Nagasakiensia. 2023；66(2)：93-97.

5）Adrenocortical carcinoma mimicking hepatocellular carcinoma：A case report.
Ikeda T, Kitasato A, Okamoto T, Soeda M, Miura S, Kuroki T.
Int J Surg Case Rep. 2023；105：108122. Epub 2023 Apr 4.

6）Two-year efficacy of lacosamide as adjunctive therapy for generalized tonic-clonic seizures in patients with juvenile myoclonic epilepsy.
Kobayashi Y, Honda R, Yamada K, Hojo M, Miura M, Seki E, Ono T, Tohyama J.
Brain Dev. 2023；45(8)：451-455. Epub 2023 Jun 10.

7）Fulminant Guillain-Barré syndrome secondary to Campylobacter coli infection：An autopsy case report.
Kutsuna F, Soeda M, Hibino A, Tokuda M, Miura S, Iwanaga H.
eNeurologicalSci. 2023；31：100454.

8）Double vision approach applied by two teams for retrosternal gastric conduit for gastric tube cancer.
Machino R, Kobayashi S, Tagawa T, Taniguchi K, Kanetaka K, Eguchi S, Nagayasu T.
J Surg Case Rep. 2023；2023(2)：rjad068.

9）Laparoscopic subtotal cholecystectomy by linear stapler：A simple and feasible technique for difficult cases with severe cholecystitisA case series.
Noda K, Kuroki T.
Int J Surg Open. 2023；58(2023)：100671.

**A-b1：英文総説（3）**

1）Pulmonary coccidioidomycosis complicated by nontuberculous mycobacterial pulmonary diseases with a literature review.
Ashizawa H, Iwanaga N, Kurohama H, Ito Y, Ashizawa N, Hirayama T, Takeda K, Ide S, Nagayoshi Y, Tashiro M, Takazono T, Tagawa T, Fukushima K, Ito M, Nakamura S, Izumikawa K, Yanagihara K, Miyazaki Y, Mukae H.
Jpn J Infect Dis. 2023；76(5)：314-318. Epub 2023 May 31.

2）Cancer progression by the okadaic acid class of tumor promoters and endogenous protein inhibitors of PP2A, SET and CIP2A.
Fujiki H, Sueoka E, Watanabe T, Komori A, Suganuma M.
J Cancer Res Clin Oncol. 2023；149(11)：9425-9433. Epub 2023 Apr 25.

3）The Genetics of Primary Biliary Cholangitis：A GWAS and Post-GWAS Update.
Hitomi Y, Nakamura M.
Genes (Basel). 2023；14(2)：405.

**B：和文**　　**※筆頭者五十音順**

**B-a1：和文原著（5）**

1）日本版EpiTrackの開発と信頼性と妥当性の検討.
足立耕平、越本莉香、安中裕紀、長谷川直哉、本田涼子、小野智憲.
てんかん研究 2023；40(3)：519-529.

2）橈側皮静脈カットダウン法による中心静脈ポート留置術　導入初期成績と課題.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
長崎医学会雑誌 2023；98(1)：1-7.

3）離島発症超急性期脳梗塞に対するdrip-and-ship型rt-PA療法　その有効性と限界ならびにdrip-and-stay法の可能性について.
忽那史也、諸藤陽一、塩崎絵理、内田大貴、徳田昌紘、岩永洋、小野智憲、川原一郎、原口渉、中道親昭、堤圭介.
脳卒中 2023；45(1)：23-29.

4）新型コロナウイルス感染症流行の形成外科手術への影響：第 2 報－流行 2 年半の動向－.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
日本形成外科学会会誌 2023；43(6)：309-318.

5）HCV感染者における抗ウイルス治療後の抗体価の推移および，ルミパルス(R)HCV・ルミパルスプレスト(R)HCVの性能比較.
八橋弘、小鶴秀子、林由佳.
医学と薬学 2023；80(1)：115-124.

**B-a2：和文症例報告（6）**

1）早期に腹腔鏡手術を施行して腸切除を回避できた盲腸窩ヘルニアの１例.
古賀洋一、徳永隆幸、黒木保.
長崎医学会雑誌 2023；98(3)：117-121.

2）増大傾向を呈する成人円蓋部くも膜嚢胞の１症例.
後藤純寛、川原一郎、塩崎絵理、内田大貴、諸藤陽一、小野智憲、原口渉、堤圭介.
脳神経外科速報 2023；33(1)：e28-e35.

3）アダリムマブで加療中に水疱性類天疱瘡を発症した関節リウマチの一例.
塩塚高史、岩永希、赤城翠、冨野千愛、岡田覚丈、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
九州リウマチ 2023；43(1)：44-50.

4）【動静脈奇形症例集[1]－手足－】心不全症状を来たしたParkes Weber症候群に対して塞栓-硬化療法を用いて疼痛と心機能の改善が見られた１例.
野口美帆、吉野健太郎、福井季代子、藤岡正樹、松尾崇史、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科 2023；66(11)：1259-1264.

5）COVID-19感染後に反回神経麻痺を呈したサルコイドーシスの一例.
日高悠介、岩永希、赤城翠、小野晋太郎、岡田覚丈、徳田昌紘、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
九州リウマチ 2023；43(2)：101-106.

6）原発性硬化性胆管炎の経過中に胆嚢癌を発症した１例.
吉原絹子、池田貴裕、岡本辰哉、北里周、三浦史郎、伊東正博、黒木保.
胆道 2023；37(4)：820-824.

**B-b：和文総説（4）**

1）【特集 脳神経外科医が知っておきたい－てんかんのすべて】Ⅳ脳神経外科医が知っておきたいてんかん治療 － 脳梁離断術－.
小野智憲.
Neurological Surgery 脳神経外科 2023；51(1)：115-125.

2）【ラパコレを再考する－腹腔鏡下胆嚢摘出術をマスターするために】はじめての腹腔鏡下胆嚢摘出術にあたっての留意点　指導者の立場から.
黒木保、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、北里周.
手術 2023；77(10)：1463-1467.

3）原発性胆汁性胆管炎　診療の進歩とアンメットニーズ.
小森敦正.
肝臓 2023；64(10)：466-475.

4）【ウイルス性肝炎学2023－最新の病態・診断・治療情報－】A型肝炎　A型急性肝炎の臨床的特徴.
八橋弘、山﨑一美.
日本臨牀 2023；81（増刊７）ウイルス性肝炎学2023：460-464.

**B-c2：和文著書〔分担〕（3）**

1）原発性胆汁性胆管炎.
中村稔.
今日の治療指針 2023年版［ポケット判］：私はこう治療している, 医学書院, 2023；pp543-544.

2）急性肝炎.
八橋弘.
今日の治療指針 2023年版［ポケット判］：私はこう治療している, 医学書院, 2023；pp526-527.

3）【Session1；B型肝炎】HBs抗原の消失とHBs抗原量の減衰－自然経過と治療介入－.
八橋弘、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正.
第33回犬山シンポジウム～ B型肝炎、C型肝炎、脂肪性肝炎、肝癌, 犬山シンポジウム記録刊行会編, 株式会社アーツユニット. 2023；pp31-35.

## 学　会　発　表

**A：国際学会, 国際会議**　　**※開催日順**

**A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等（2）**

1）＜Symposium＞Clinical Challenges in HCV Management in Japan.
Komori A.
Joint Symposium (East Asia)；HCV Elimination, Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Conference 2023 (APASL STC 2023). Busan Korea, 2023.9.21.

2）＜Symposium＞A Twist to a Cure of HCV Infection：Occult HCV Infection.
Komori A.
Symposium 3-1；Occult Hepatitis Virus Infection and Post-Cure Virologic Failure, Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Conference 2023 (APASL STC 2023). Busan Korea, 2023.9.23.

**A-b2：一般演題（11）**　　**※英語Session含む**

1）＜Poster＞May symptom combinations at initial diagnosis of primary biliary cholangitis implicate distinct natural history?
Komori A, Kugiyama Y, Hirohara J, Toshiaki Nakano T, Tanaka A.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

2）＜Poster＞Prognostic value of serum ALP levels during additional treatment in Japanese patients with primary biliary cholangitis treated with ursodeoxycholic acid and bezafibrate.
Takeuchi A, Matsumoto K, Komori A, Abe M, Namisaki T, Kawata K, Ninomiya M, Fujii H, Takahashi A, KANG Jong-Hon, Takamura M, Arakawa M, Joshita S, Sato K, Nomura T, Kakisaka K, Kaneko A, Kikuchi K, Masaki T, Umemura T, Honda A, Ohira H, Kawada N, Yoshiji H, Mochida S, Tanaka A.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

3）＜Poster＞Serum myostatin decreased after direct acting antivirals for cirrhotic patients.
Suehiro T, Matsumoto K, Kugiyama Y, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.6.21-24.

4）＜Poster＞Usefulness of serum CCL20 as a post sustained viral response biomarker for HCV-associated liver fibrosis.
Komori A, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yatsuhashi H.
EASL Congress 2023. Vienna, Austria, 2023.06.21-24.

5）＜Poster＞Nurse practitioners lead the care innovation focused on the remote island residents and the aging society in Japan.
Honda K, Moritsuka T, Nishiyama Y, Motomura H, Ono T, Anda T.
E-POSTER VIEWING: AS05CADVANCED PRACTICE NURSING (CNS, NP, NAS), ICN Congress 2023 Montreal. Montreal Canada, 2023.7.1.

6）＜Poster＞Laparoscopic hepatectomy in the lateral position for tumors located in segment 7 or 8.
Kitasato A, Fukui S, Ikeda T, Miyoshi T, Okamoto T, Yoneda A, Takeshita H, Kuroki T.
Poster 30；Liver 10, The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. Tokyo, 2023.7.1.

7）＜Oral＞Identification of a gene expression regulatory variant in autoimmune diseasessusceptibility locus CD58.
Yuki Hitomi, Ueno K, Aiba Y, Nishida N, Kawai Y, Kawashima M, Knor SS, Takada S, Iwabuchi C, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M.
Oral Session 1；Complex Diseases and Genomic Risk Assessment, Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.12.

8）＜Oral＞Direct evidence that age-related changes in MRI-DTI in the human corpus callosum represent the development of cerebral myelination.

Ono T, Honda R, Sato K, Uchida D, Baba S, Toda K, Baba H.
English Session3, The 56th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society. Tokyo, 2023.10.21.

9）＜Poster＞Long-term Prognosis of Stereotactic Body Radiotherapy Versus Radiofrequency Ablation in Patients with Small Hepatocellular Carcinoma Evaluated by Hepatic Reserve, Single-center Study.
Motoyoshi Y, Koide A, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Onsite Poster Session；Group2；TACE, HAIC, Imaging, Radiation, APASL Oncology 2023. Sendai, 2023.10.27.

10）＜Poster＞Introduction of Belimumab Within Five Years of the Onset of Systemic Lupus Erythematosus (SLE) Contributes to the Better Therapeutic Response；A Multi-center Retrospective Cohort Study.
Kojima K, Ichinose K, Shimizu T, Umeda M, Suzuki T, Nakashima Y, Okada A, Horai Y, Fujikawa K, Aramaki T, Miyashita T, Furuyama M, Matsuoka N and Kawakami A.
ACR 2023. San Diego, California, 2023.11.10-15.

11）Developmental rate is highly accelerated within the first year after resective epilepsy surgery in children.
Ono T.
17th Asian Epilepsy Surgery Congress. Ho Chi Minh City, Vietnam2023.11.11.

**B：国内学会**

**B-a：特別講演，教育講演（1）**

1）＜教育講演＞末期がんに伴う癌性皮膚潰瘍に対するpalliative surgery（緩和的手術）.
藤岡正樹.
皮膚腫瘍外科分野指導医教育セミナー , 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.27.

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等（19）**

1）＜シンポジウム＞小児てんかん患者における単脳葉または多脳葉離断術後の長期成績.
小野智憲、本田涼子、内田大貴、島崎敦、馬場史郎、戸田啓介、馬場啓至.
シンポジウム 3 ；てんかん手術の革新的技術 2 －そこが知りたい離断・緩和・凝固手術のコツと長期予後－, 第46回日本てんかん外科学会. 山口, 2023.1.26.

2）＜シンポジウム＞てんかん診療支援コーディネーターとしての病棟看護師の役割～焦点切除術を受けた患児の退院後の生活を見据えて～ .
林優奈、小玉美香、菅明美、島崎敦、本田涼子、小野智憲.
シンポジウム 4 ；みんなのてんかん外科－多職種融合－臨床検査技師、看護師、神経心理士、MSW, 第46回日本てんかん外科学会. 山口, 2023.1.26.

3）＜シンポジウム＞長崎県における自治体主導のてんかん診療連携ネットワークのねらい：専門医療と地域医療との間のアクセスルートを整備する.
小野智憲.
シンポジウム 2 ；IGAP80パーセントセッション（てんかん診療アクセスへの取り組み）, 第10回全国てんかんセンター協議会総会. 宇都宮, 2023.2.11.

4）＜パネルディスカッション＞C 型肝硬変に対する DAA 治療後の予後におけるミオカイン測定の意義.
末廣智之、小森敦正、八橋弘.
パネルディスカッション13;C型非代償性肝硬変のDAA治療:現状と課題, 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.6.

5）＜シンポジウム＞国際メタ GWAS によって同定された東アジア人特異的な原発性胆汁性胆管炎（PBC）感受性遺伝子領域に起因する発症機序の解明.
人見祐基、中村稔.
シンポジウム 2 ；消化器診療へのゲノムワイド研究のインパクト, 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.7.

6）＜シンポジウム＞肝細胞癌における肝中央二区域切除の術後合併症リスク因子解析と短期予後に関する多施設共同研究.
七島篤志、矢野公一、江口晋、久下亨、川崎祥太、山下洋市、井手貴雄、黒木保、吉住朋晴、北原賢二、

遠藤裕一、宇都宮徹、梶原正俊、迫田雅彦、岡本好司、永野浩昭、高見裕子、別府透.
シンポジウム 6 ；正確な局所解剖に基づいた肝細胞癌に対する合理的肝切除術とは, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

7）＜シンポジウム＞有症状肝嚢胞に対する大網皮弁付加腹腔鏡下肝嚢胞開窓術の治療成績.
北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
シンポジウム16；肝胆膵良性疾患における標準的術式とその理論的背景, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.

8）＜シンポジウム＞てんかん外科治療を考えるために必要な検査と診断のポイント.
本田涼子、小野智憲、島崎敦、安忠輝、戸田啓介、馬場啓至.
シンポジウム5；てんかん外科治療up-to-date-最新のてんかん原性領域診断と QOL を考慮した治療について-, 第65回日本小児神経学会学術集会. 岡山, 2023.5.25.

9）＜シンポジウム＞West 症候群に対する外科的治療の考え方.
本田涼子、小野智憲、島崎敦、安忠輝、戸田啓介、馬場啓至.
シンポジウム 24；West症候群（乳児てんかん性スパズム症候群）への新しいアプローチ, 第65回日本小児神経学会学術集会. 岡山, 2023.5.27.

10）＜パネルディスカッション＞原因不明型急性肝炎の特徴と転帰.
山﨑一美、勝島慎二、八橋弘.
パネルディスカッション 1 ；急性肝不全・ACLF診療の未来予想図（現状と課題）, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.

11）＜パネルディスカッション＞原発性胆汁性胆管炎の新たな病態解明と治療標的の同定を目指した臨床ゲノム解析.
中村稔、植野和子、相葉佳洋.
パネルディスカッション 2 ；自己免疫性肝胆疾患診療の未来予想図（現状と課題）, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.

12）＜シンポジウム＞VANS手術法の普及に向けたコツとピットフォール.
前田茂人、杉山望、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
シンポジウム 6 ；甲状腺内視鏡手術の普及に向けて, 第35回日本内分泌外科学会総会. 長野, 2023.6.17.

13）＜シンポジウム＞GA3BC型骨折に対しては2nd-look Fix & Flap surgeryまでの待機期間は持続洗浄療法が安全である.
藤岡正樹、福井季代子.
シンポジウム 2 ；NPWTを利用した開放性骨折の治療, 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2023.7.13.

14）＜特別企画＞魅力ある地域がん診療連携拠点病院であるためには.
田川努、下山孝一郎、藤瀬悠太、町野隆介.
特別企画 1 ；SDGs：すべての人に健康と福祉を人口減少時代の呼吸器外科手術- 近未来に向けて備えること, 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

15）＜シンポジウム＞C 型肝炎の新規発癌予測モデルの検討.
山﨑一美、溝上雅史、八橋弘.
シンポジウム 4 ；ウイルス肝炎制御時代の肝癌サーベイランス, 第59回日本肝癌研究会. 大阪, 2023.7.28.

16）＜シンポジウム＞「誰もとり残さない」てんかん移行期医療.
本田涼子、小野智憲、安忠輝、西口奈菜子、池田憲呼、佐藤和明、内田大貴.
シンポジウム 2 ；「誰もとり残さない」てんかん地域診療連携を目指して, 第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.20.

17）＜ディスカサント＞
小森敦正.
シンポジウム 9 ；若手医師フォーラム, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

18）＜シンポジウム＞院内VTE予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝、黒木保、山田成美、於久幸治、有吉毅子男、森けいすけ、案田岳夫、錦戸雅春、菅幸恵、森隆浩、山崎一美、尾崎真人、荒木伸也、三角紳博、吉田真一郎、八橋弘.
シンポジウム39；医療安全　傾向と対策, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

19）＜シンポジウム＞脳外科医として小児脳発達の神秘に挑む.
小野智憲.
サテライトシンポジウム 5 ；第34回小児脳機能研究会, 第53回日本臨床神経生理学会学術大会. 福岡, 2023.11.30.

**B-b2：一般演題（136）**

1）＜口演＞超高齢者における肝細胞癌薬物治療～多施設共同研究～ .
杉本理恵、新関敬、馬渡誠一、本吉康英、柴田道彦、桑代卓也、佐々木龍、山下勉、田中靖人、新垣伸吾、和田幸之、伊藤心二、岩尾正雄、岩本英希、鳥村拓司.
一般演題 2 ；アテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法等, 第27回日本肝がん分子標的治療研究会. 大阪, 2023.1.14.

2）＜口演＞Ramcirumab+DEB-TACE シーケンシャル治療の一例.
本吉康英、杉尾小百合、中谷優、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題10；症例報告 3 , 第27回日本肝がん分子標的治療研究会. 大阪, 2023.1.14.

3）＜口演＞肝細胞癌の術前診断で肝切除を行った副腎皮質癌の 1 例.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題；症例報告 3 , 第43回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2023.1.28.

4）＜口演＞肝細胞癌肝内再発・副腎転移に対し集学的治療により長期生存を得た例.
福井彩恵子、北里周、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題；症例報告 3 , 第43回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2023.1.28.

5）＜口演＞肝S7・S8病変に対する側臥位腹腔鏡下肝切除術.
北里周、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
主題 3 ；腹腔鏡下S7・S8切除の工夫, 第43回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2023.1.28.

6）＜ポスター＞肝腫瘍に対する局所療法時の造影超音波の工夫・low-MI THIについて.
本吉康英、杉尾小百合、中谷優、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
ポスター 9 ；アブレーションの臨床 3 , 第 1 回日本アブレーション研究会. 東京, 2023.2.4.

7）＜口演＞アスペルギルス有瘻性膿胸に対して開窓術後ガイドワイヤーを用いてEWS充填術を施行した一例.
佐藤雄二、井手口周平、森麻耶子、池田喬哉、原敦子、近藤晃、下山孝一郎、田川努、迎寛.
一般演題 6 ；内視鏡的診断・治療 1 , 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

8）＜口演＞当院における肺癌マルチ遺伝子検査の現状.
石飛俊介、池田喬哉、城竜人、佐藤雄二、森麻耶子、井手口周平、原敦子、三浦史郎、藤瀬悠太、下山孝一郎、田川努、近藤晃、迎寛.
一般演題11；検査・診断, 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.11.

9）＜口演＞食道癌胃管再建後の吻合部瘻孔・狭窄の合併症は短胃静脈吻合付加によるsuperdrainageで有意に減少させる.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江、谷口堅.
突破セッション 2 , 第28回日本形成外科手術手技学会. 川崎, 2023.3.4.

10）＜口演＞橈骨付き前腕皮弁一枚のみでのone stage and one donor site全鼻再建.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
突破セッション 1 , 第28回日本形成外科手術手技学会. 川崎, 2023.3.4.

11）＜口演＞Trysomy8 陽性MDSに併発した穿孔性腸管Behcet病の 1 例.
藤瀬悠太、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、三原裕美、三浦史郎、黒木保.
一般演題43；大腸穿孔③, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.9.

12）＜口演＞OAMを施行したNOMIの 3 例.
岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
主題関連 3 ；腹部救急診療におけるOpen Abdominal Managementの活用, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.9.

13）＜口演＞傍ストーマヘルニアが原因で粘膜皮膚接合部離開を起こし急性汎発性腹膜炎となった一例.
三好敬之、竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題40；ストーマ, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.9.

14）＜口演＞内視鏡的治療後 7 年目に孤立性リンパ節転移再発をきたした 1 cm以下G1十二指腸NETの一例.
梶原優介、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；食道・胃, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

15）＜口演＞術前化学療法により病理学的完全奏功を得た膵尾部癌の 1 例.
鋸﨑翔太、岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；膵・脾, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

16）＜口演＞当院におけるバセドウ病合併甲状腺癌の検討.
角遼、杉山望、藤瀬雄太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之 、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人.
研修医セッション；内分泌外科, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

17）＜口演＞胆嚢十二指腸瘻を伴う胆石性イレウスの 2 例.
小松桃子、北里周、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
研修医セッション；小腸, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

18）＜口演＞乳頭腺管癌の術後 8 年目に乳腺扁平上皮癌が発生した 1 例.
門松英、杉山望、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人.
研修医セッション；内分泌外科, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

19）＜口演＞膵壊死、脾壊死、胃壊死を伴った特発性脾仙塞の 1 例.
門田優太、岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
研修医セッション；膵・脾, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

20）＜口演＞外傷性小腸穿孔に対する腹腔鏡アプローチの検討.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題90；外傷⑬, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

21）＜口演＞腹部救急診療に診療看護師が与える効果.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
多職種連携特別企画 Be colorful 3；腹部救急診療におけるメディカルスタッフの底力②, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

22）＜口演＞空腸憩室穿孔を起こした一例.
二宮辰光、三好敬之、竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題112；小腸⑦, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

23）＜口演＞リケッチア感染症による消化管穿孔が疑われた 1 例.
武内健祐、米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題101；十二指腸①, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

24）＜口演＞ステントグラフト内挿術による下腸間膜動脈閉塞により腸管壊死をきたした一例.
巖水慧、三好敬之、竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題81；大血管③, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.10.

25）＜口演＞嚥下障害に対してIVIgが奏功した抗NXP-2抗体陽性皮膚筋炎の一例.
岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、赤城翠、忽那史也、松本浩平、伏谷志保、川上純.
一般演題 5 ；筋炎, 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.11.

26）＜口演＞両側椎骨動脈解離によるくも膜下出血をきたした 1 例.
原口渉、定方英作、内田大貴、森塚倫也、本田和也、川原一郎、小野智憲、案田岳夫.
第143回日本脳神経外科学会九州支部会. 久留米（Web), 2023.3.11.

27）＜口演＞48時間以内にFix&Flapを施行したが骨髄炎に至った重度下腿開放骨折の 2 例.
福井季代子、吉野健太郎、藤岡正樹、出光茉莉江、宮本俊之.
第119回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2023.3.11.

28）＜口演＞全身性エリテマトーデスの罹病期間におけるベリムマブの有効性の検討.
小島加奈子、一瀬邦弘、清水俊匡、梅田雅孝、鈴木貴久、中島好一、岡田覚丈、寶來吉朗、藤川敬太、荒牧俊幸、宮下賜一郎、古山雅子、松岡直樹、川上純.
主題Ⅰ-2；リウマチ性疾患治療薬の使い分け, 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.11.

29）＜口演＞COVID-19感染後に旧姓増悪し反回神経麻痺呈したサルコイドーシスの一例.
日高悠介、岩永希、赤城翠、小野晋太郎、岡田覚丈、徳田昌紘、三浦史郎、和泉泰衛、伊東正博、川上純.
一般演題 8 ；その他, 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.12.

30）＜口演＞COVID-19ワクチン接種後、COVID-19罹患後に発症した成人スティル病の 2 例.
赤城翠、岩永希、川原知瑛子、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
一般演題 7 ；血管炎・成人スティル病, 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.12.

31）＜ポスター＞ステント併用コイル塞栓術後に母血管狭窄をきたしバイパスを行った症例
定方英作、内田大貴、森塚倫也、本田和也、川原一郎、小野智憲、案田岳夫.
ポスターセッション90；未破裂脳動脈瘤 5 , STROKE 2023. 横浜, 2023.3.17.

32）＜ポスター＞急性期脳卒中患者におけるベッドサイド嚥下スクリーニングテストの有効性と安全性の検討
森塚倫也、伊藤健大、松崎智子、本田和也、内田大貴、定方英作、小野智憲、原口渉、川原一郎、案田岳夫.
ポスターセッション111；メディカルスタッフ 2STROKE 2023. 横浜, 2023.3.18.

33）＜口演＞感染性WONに対する鏡視補助下後腹膜アプローチの有用性 -オーバーチューブ法の試み-.
池田貴裕、岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（ミニオーラル）；膵腫瘍, 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.6.

34）＜口演＞肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療の治療効果と肝予備能に与える影響.
本吉康英、濱﨑俊輔、若松彩、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題（口演）；肝癌 2 , 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.6.

35）＜口演＞当院における重症急性膵炎の診療成績と治療介入の検討.
佐伯哲、濱﨑俊輔、若松彩、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題（ミニオーラル）；膵炎, 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.7.

36）＜口演＞血清オートタキシンとHCV関連肝発癌リスクについての検討.
山﨑一美、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、若松彩、松本耕輔、長岡進矢、小森敦正、八橋弘.
一般演題（口演）；C型肝炎, 第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.7.

37）＜ワークショップ＞トシリズマブ効果不十分例に対するサリルマブ切り替え療法の有効性の検討 〜トシリズマブ増量との比較も含めて〜 .
岩本直樹、内田智久、鈴木貴久、岡田覚丈、古賀智裕、川尻真也、藤川敬太、荒牧俊幸、玉井慎美、折口智樹、溝上明成、植木幸孝、江口勝美、川上純.
ワークショップ57；IL-6阻害剤-2, 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 福岡, 2023.4.25.

38）＜ポスター＞Trisomy8を伴う骨髄異形成症候群に腸管ベーチェット病類似消化管病変と肺胞蛋白症を合併した一例.
藤原もも佳、岩永希、赤城翠、榊智佳、井手口周平、岡田覚丈、和泉泰衛、岡本辰哉、三浦史郎、伊藤正博、川上純.
近未来のリウマチ医セッション；臨床研修医 症例報告, 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 福岡, 2023.4.26.

39）＜ポスター＞COVID-19流行後 3 年間の形成外科手術への影響の検討.
藤岡正樹、吉野健太郎、福井季代子、出光茉莉江.
ポスター発表；その他 1　フリーディスカッション③, 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.27.

40）＜ポスター＞IPDA先行切離による膵頭十二指腸切除術の有用性.
岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（55）；膵臓-手術手技-3, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

41）＜ポスター＞進行直腸癌に対する適切な術前リスク評価と術前治療および側方郭清の適応に関する検討.
竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
デジタルポスター（26）；大腸-集学的治療-2, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

42）＜ポスター＞肝切除術後難治性胆汁瘻のリスク因子及びマネジメント戦略.
福井彩恵子、北里周、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（37）；肝臓-合併症-1, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.27.

43）＜口演＞中心静脈ポートカテーテルが右内胸静脈に迷入した１例.
石井青、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
研修医の発表セッション（5）；救急・外傷・心血管, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

44）＜ポスター＞橈側皮静脈カットダウン法による中心静脈ポート留置術の導入初期成績と課題.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（99）；末梢血管-2, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

45）＜口演＞外科専属診療看護師（NP）導入成功の要点と外科医の「働きやすさ」改革への貢献.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、杉山望、竹下浩明、前田茂人、黒木保.
特別企画３；外科における「働き方改革」への対応とその問題点, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

46）＜ポスター＞食道癌患者に対する術前十全大補湯投与の臨床的検討.
米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
デジタルポスター（78）；食道-周術期管理, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.28.

47）＜ポスター＞研修医と２人でできるOne access + one port（1A1P）肺癌手術.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、竹下浩明、田川努.
デジタルポスター（172）；肺-呼吸器外科手術の工夫, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.

48）＜ポスター＞胸骨後経路再建胃管癌に対する胸部外科，食道外科による合同手術：胸部外科医の立場から.
町野隆介、小林慎一朗、谷口堅、松本桂太郎、朝重耕一、土肥良一郎、溝口聡、丸屋安広、金高賢悟、田川努、江口晋、永安武.
デジタルポスター（115）；胃-残胃癌, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.

49）＜口演＞フルニエ壊疽の予後度を予測するにあたって、UFGSI、LRINEC scoreは必ずしも臨床結果を反映しない.
出光茉莉江、吉野健太郎、福井季代子、藤岡正樹.
一般口演68；躯幹・外陰部３, 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.28.

50）＜ワークショップ＞原発性胆汁性胆管炎のゲノムワイド関連解析による病態の解明.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、小森敦正、中村稔.
ワークショップ１；九州の基礎・臨床研究：腫瘍免疫・自己免疫・ゲノム, 第121回日本消化器病学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.12.

51）＜ワークショップ＞地域におけるC型肝炎撲滅への取り組み.
山﨑一美、田中敏己、八橋弘.
ワークショップ２；肝炎ウイルス診療の実際と今後の展望, 第121回日本消化器病学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.12.

52）＜口演＞アテゾリスマブ＋ベバシズマブ併用療法中に肝予備能低下をきたすもベバシズマブ休薬で肝予備能回復・治療継続可能であった進行肝細胞癌の一例.
釘山有希、本吉康英、松本耕輔、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題；肝２, 第121回日本消化器病学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.13.

53）＜口演＞急性虫垂炎における舌診の診断性能（観察研究）.
森英毅、山崎一美、最勝寺佑介、鳥巣裕一、森隆浩、永井友基、和泉泰衛.
第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 愛知, 2023.5.12-14.

54）＜ポスター＞特発性血気胸に対しNBCAを用い塞栓した 1 例.
宮崎敦史、大塚哲洋、宮村周人、牧野謙二、北村慶、藤本俊史.
ポスター 2；呼吸器系 2 , 第52回日本IVR学会総会. 高知, 2023.5.20.

55）＜口演＞Novel HLA allele associations with susceptibility, staging, symptomatic state, autoimmune hepatitis and hepatocellular carcinoma events for primary biliary cholangitis in the Japanese population.
Knor SS、植野和子、西田奈央、川嶋実苗、河合洋介、相葉佳洋、人見祐基、長﨑正朗、中村稔、徳永勝士.
一般口演, 第 6 回関東HLA研究会学術集会. 東京, 2023.5.27.

56）＜ポスター＞自己免疫疾患感受性遺伝子に起因する発症機序の解明におけるCRISPR/Cas9の活用.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、西田奈央、川嶋実苗、Khor SS、長崎正朗、徳永勝士、中村稔.
ポスター日本ゲノム編集学会第 8 回大会. 東京, 2023.6.7.

57）＜口演＞非アルコール性脂肪性肝炎を背景とする肝発癌に関連した血清代謝産物の探索.
小森敦正、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、八橋弘.
口演 2 ；NASH 1（臨床), 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.15.

58）＜口演＞副腎皮質ステロイド使用状況からみた肝炎型原発性胆汁性胆管炎における患者背景と治療効果の検討.
釘山有希、小森敦正.
ミニオーラル 3 ；AIH・PBC, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.15.

59）＜口演＞国際メタGWASによって同定された原発性胆汁性胆管炎（PBC）感受性遺伝子領域CD28に由来する発症機序の解明.
人見祐基、相葉佳洋、西田奈央、中村稔.
口演 7 ；PBC・その他（基礎), 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.15.

60）＜ワークショップ＞核酸アナログ投与前後の血清ミオスタチン測定の意義.
末廣智之、小森敦正、八橋弘.
ワークショップ13；肝疾患におけるサルコペニア診断と栄養・運動介入の課題, 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.

61）＜ポスター＞アテゾリスマブ＋ベバシズマブ併用療法中に肝予備能低下をきたすもベバシズマブ休薬で肝予備能回復・治療継続可能であった進行肝細胞癌の一例.
釘山有希、本吉康英、松本耕輔、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
ポスターセッション11；アテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法 4 , 第28回日本肝がん分子標的治療研究会. 札幌, 2023.6.24.

62）＜ポスター＞外科的切除を施行した食道原発悪性黒色腫の1例.
米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、黒木保.
一般演題ポスター 14；症例報告：内分泌癌・悪性黒色腫, 第77回日本食道学会学術集会. 大阪, 2023.6.29.

63）＜口演＞尿道内までスキンステイプラーが迷入した 1 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江.
第120回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2023.7.8.

64）＜口演＞高侵襲肝胆膵手術における術後せん妄のリスク評価.
藤瀬悠太、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
主題関連演題14；【総論】術後合併症発生後のFailure to Rescue回避の取り組み, 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

65）＜口演＞進行直腸癌に対するリスク分類と適切な術前治療および側方リンパ節郭清の適応に関する検討.
竹下浩明、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題005；【大腸】術前治療 1 , 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

66）＜口演＞胃，十二指腸潰瘍穿孔に対する保存的治療適応の検討.
三好敬之、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題064；【胃・十二指腸】その他　良性, 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.12.

67）＜口演＞当院における高齢者食道癌手術症例の検討.
米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題181；【食道】高齢者食道癌 2 , 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.13.

68）＜ポスター＞血管浸潤を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して多診療合同手術を施行した 1 例.
藤瀬悠太、下山孝一郎、杉山望、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人、田川努.
一般演題（ポスター）33；稀な症例 1 , 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

69）＜ポスター＞オピオイドフリーの呼吸器外科術後仏痛管理.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、濱田梢、西垣明久、石岡泰知、卜部繁彦、日髙翔、中尾秋葉、長岡京子、山口美知子、田川努.
一般演題（ポスター）46；周術期管理・術後合併症1, 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

70）＜ポスター＞術後エアリークは、水封、手術側下側臥位、しゃべらない、リハビリなしで止まる.
田川努、下山孝一郎、竹井大貴、肥田泰慈、藤瀬悠太、町野隆介.
一般演題（ポスター）48；周術期管理・術後合併症 3 , 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

71）＜ポスター＞市中病院における MIS（Minimum invasive surgery）における終着点とは？
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、町野隆介、田川努.
一般演題（ポスター）90；Uniport, Reduced port VATS2, 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.14.

72）＜口演＞外傷性小腸損傷に対する腹腔鏡補助下手術の取り組み.
池田貴裕、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
要望演題ビデオ 3 ；【総論】急性腹症・外傷に対する低侵襲手術, 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

73）＜口演＞大腸癌同時性肝転移切除症例の手術成績-主に短期成績に関する検討.
北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題248；【肝臓】転移性肝癌 2 , 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

74）＜口演＞大腸癌肝転移切除症例における化学療法による肝障害の検討.
福井彩恵子、北里周、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
一般演題オンライン16；その他 4 , 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.14.

75）＜口演＞48時間以内にFix and Flapを施行したが骨髄炎に至った重度下腿開放骨折の 2 例.
福井季代子、藤岡正樹.
一般演題17；その他 2 , 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2023.7.14.

76）＜口演＞当科における膵頭部癌に対するコンバージョン手術の現状.
池田貴裕、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（口演）49；コンバージョン手術, 第54回日本膵臓学会大会. 福岡, 2023.7.22.

77）＜口演＞初療の違いで異なる経過を辿った特発性血気胸の 2 例.
江川航星、下山孝一郎、田川努.
一般演題；呼吸器その他, 第56回日本胸部外科学会九州地方会総会. 大分, 2023.7.27.

78）＜ワークショップ＞Bモードベースの造影超音波（Low-MI THI）とFusion imagingを組み合わせた肝局所治療支援.
本吉康英、杉尾小百合、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
ワークショップ 7 ；肝腫瘍画像診断の新たな展開第59回日本肝癌研究会. 大阪, 2023.7.28.

79）＜ワークショップ＞全結腸型憩室症例に対する外科的治療の検討.
竹下浩明、織方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
ワークショップ 2 ；大腸憩室症の治療, 第48回日本大腸肛門病学会九州地方会. 鹿児島, 2023.7.29.

80）＜ポスター＞膵頭十二指腸切除後に肝内結石症を発症し経腸的アプローチで治療した 1 例.
池田貴裕、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション13；術後合併症, 第50回日膵切研究会. 東京, 2023.8.26.

81）＜ポスター＞褥瘡に起因したフルニエ壊疽で直腸が露出した場合、人工肛門を要するか？
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
一般演題（ポスター）；外科的治療, 第25回日本褥瘡学会学術集会. 神戸, 2023.9.1.

82）遷延した高ビリルビン（Bil）血症と亜急性の肝障害に対し，肝生検を施行した甲状腺クリーゼの一例.
柿田実紀、鶴川晃二郎、中村公隆、添田李子、三浦史郎、伊東正博、本吉康英、安井順一.
第23回日本内分泌学会九州支部学術集会. 長崎, 2023.9.2.

83）＜口演＞C型肝炎の新規発癌予測モデルの検討.
山﨑一美、大橋順、魚嶋晴紀、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、若松彩、松本耕輔、本吉康英、長岡進矢、

小森敦正、溝上雅史、八橋弘.
一般演題；肝炎（3), 第31回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会. 横浜, 2023.9.15.

84）＜口演＞同日に集中して発生したイノシシ咬創の 2 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江.
一般演題 4 ；救急症例の報告, 第31回長崎救急医学会学術集会. Web, 2023.9.16.

85）＜口演＞マムシ咬創に対して抗毒素血清を計 4 バイアル（24000単位）投与した 2 症例.
後藤すみれ、白水春香、松尾徳久、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、
窪田佳史、権志成、日字宏之、増田幸子、中道親昭、福井季代子、藤岡正樹.
一般演題 4 ；救急症例の報告, 第31回長崎救急医学会学術集会. Web, 2023.9.16.

86）＜口演＞膵頭部癌を合併した結節性多発動脈炎の一例.
馬場あかね、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、長岡進矢、伊東正博、川上純.
一般演題 5 ；強皮症・血管炎, 第66回九州リウマチ学会. 北九州, 2023.9.16.

87）＜口演＞全身性エリテマトーデスに対する生物学的製剤スイッチ例としてのアニフロルマブの有効性の検討.
梅田雅孝、小島加奈子、西畑伸哉、道辻徹、清水俊匡、古賀智裕、岩本直樹、古山雅子、坪井雅彦、松岡直樹、
岡田覚丈、荒牧俊幸、川上純.
主題Ⅱ-1；難治性リウマチ性疾患の治療（RA以外), 第66回九州リウマチ学会. 北九州, 2023.9.16.

88）＜ポスター＞CRC業務の適正化に関する取り組み～次世代も継続可能なCRC業務とするために～ .
木村梨沙、白川敦規、川﨑美幸、大久保房庫、久保三紀子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表)；CRC・CRA業務の工夫, 第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山.
岡山, 2023.9.16-17.

89）＜ポスター＞小児対象新型コロナワクチン観察研究のスケジュール管理について.
瓦田秀美、川﨑美幸、白川敦規、冨田英里、金沢愛弓、隅 明子、松井亜紀、藤岡優子、玉城葉子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表)；CRC・CRA業務の工夫, 第23回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山.
岡山, 2023.9.16-17.

90）＜ポスター＞治験検体の取り扱いに関する業務のタスクシフトについて.
冨田英里、白川敦規、久保三紀子、瓦田秀美、金沢愛弓、隅 明子、大神由美、松井亜紀、玉城葉子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表)；実施体制の整備, 第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山. 岡山,
2023.9.16-17.

91）＜ポスター＞小児を対象とした新型コロナワクチン接種の観察研究；CRC業務未経験の事務スタッフの経験から.
松井亜紀、白川敦規、大久保房庫、木村梨沙、冨田英里、瓦田秀美、金沢愛弓、隅明子、藤岡優子、小森敦正.
一般演題（ポスター発表)；CRC・CRA業務の工夫, 第23回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山.
岡山, 2023.9.16-17.

92）＜口演＞抗原提示補助シグナル分子の遺伝的バリアントに起因する自己免疫疾患感受性の分子機序の解明.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、西田奈央、河合洋介、川嶋実苗、Knor SS、長﨑正朗、徳永勝士、中村稔.
学術奨励賞候補口演, 第31回日本組織適合性学会大会. 東京, 2023.9.17.

93）＜ワークショップ＞原発性胆汁性胆管炎のトランスクリプトームデータを用いた治療標的遺伝子の探索.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、伊東正博、小森敦正、中村稔.
ワークショップ 2 ；肝胆膵免疫疾患の最新の知見, 第60回日本消化器免疫学会総会. 東京, 2023.10.6.

94）＜ポスター＞画像認識AIを活用した、てんかん発作の動態解析.
内田大貴、小野智憲、山内三郎、本田涼子、佐藤和明、馬場史郎、松尾孝之.
一般演題；ポスター 1 , 第56回日本てんかん学会学術集会. 東京, 2023.10.19.

95）＜ポスター＞鑑別が困難であった示指皮下腫瘤の 1 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、三浦史郎、伊東正博.
ポスター 4 ；皮膚疾患、形成, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

96）＜口演＞胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術におけるアンダーボディブランケットとアッパーボディブランケットを比較した加温効果の検討.
市原幸大、原健太朗、神代竜育、泉野真樹、下山孝一郎、山口美知子、田川努.
口演 1 ；周術期医療, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

97）＜ポスター＞当科における20mm未満の有棘細胞癌の切除範囲の変遷と予後に関する検討.
出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子、古賀一史.
ポスター 4；皮膚疾患、形成, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

98）＜ポスター＞フルニエ壊疽の予後予測ツールの検討.
出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子、古賀一史.
ポスター 4；皮膚疾患、形成, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

99）＜ポスター＞食道癌胃管再建後の吻合部瘻孔や狭窄の術後合併症は短胃静脈吻合付加によるsuperdrainageで有意に減少する.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 33；上部消化管1-2, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

100）＜口演＞開腹肝胆膵悪性腫瘍手術におけるリトラクター使用時の皮膚障害予防法の検討.
立花玲華、児島凪、原健太朗、北里周、黒木保.
口演 1 ；周術期医療, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

101）＜ポスター＞眼周囲発生のSCC浸潤のため眼球摘出が必要となった 2 症例の治療経験.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 110；歯科・口腔・頭頸部疾患2-2, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

102）＜ポスター＞進行性癌に起因する皮膚潰瘍に対するpalliative surgeryは患者の生活の質を改善する.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 111；終末期医療1-2, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

103）＜ポスター＞COVID-19 流行後 3 年間の形成外科手術への影響の検討.
藤岡正樹、福井季代子、古賀一史、出光茉莉江.
ポスター 117；免疫、感染1-2, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

104）＜ポスター＞48 時間以内にFix and Flapを施行したが骨髄炎に至った重度下腿開放骨折の 2 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、宮本俊之.
ポスター 123；骨・運動器・リウマチ・骨粗鬆症2-4, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

105）＜ポスター＞小児を対象とした新型コロナワクチン観察研究；事務スタッフとしての経験.
松井亜紀、川崎美幸、白川敦規、大久保房庫、久保三紀子、木村梨沙、冨田英里、瓦田秀美、金沢愛弓、隅明子、藤岡優子、玉城葉子、大神由美、小森敦正.
ポスター 175；臨床研究・治験2-3, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

106）＜ポスター＞リウマチ性多発筋痛症の罹患率・有病率.
古川宏、野木真一、岡笑美、樋口貴士、東孝典、杉山隆夫、平野史倫、岡本亨、藤森美鈴、寶來吉朗、岡田覚丈、井畑淳、片山雅夫、吉澤滋、松井利浩、右田清志、當間重人.
ポスター 119；骨・運動器・リウマチ・骨粗鬆症1-4, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

107）＜口演＞小児てんかん患者における単脳葉または多脳葉離断術後の長期成績.
小野智憲.
一般口演47；てんかん 1 , 第82回日本脳神経外科学会学術総会. 横浜, 2023.10.26.

108）＜口演＞乳房増大術に用いたアクアフィリングにより手根管症候群を呈した 1 例.
古賀一史、出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子.
第121回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 宮﨑, 2023.10.28.

109）＜口演＞One access + one port（1A1P）肺癌手術は低侵襲手術における到達点の 1 つである.
下山孝一郎、藤瀬悠太、肥田泰慈、竹下浩明、田川努.
一般演題（ビデオ） 1 ；胸腔鏡手術, 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.2.

110）＜ポスター＞胸腺原発Large cell neuroendocrine carcinomaの 1 例.
下山孝一郎、肥田泰慈、藤瀬悠太、中村大祐、三原裕美、三浦史郎、田川努.
一般演題（ポスター）44；病理診断・細胞診 5 /縦隔腫瘍, 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.4.

111）＜口演＞直腸癌に対してwatch & waitを行った症例の検討.
竹下浩明、織方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
要望演題1-10；直腸癌術前集学的治療の成績③, 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 熊本, 2023.11.10.

112）＜口演＞当科における腹腔鏡下膵体尾側切除術後膵液瘻に対するマネジメント法.
福井彩恵子. 釘山統太、緒方良介、笠伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.

一般演題 6 ；DP症例他, 第15回膵臓内視鏡外科研究会. 岡山, 2023.11.15.

113)＜口演＞静脈塞栓を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して二期的手術を施行した一例.
石飛俊介、杉山望、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、前田茂人、下山孝一郎、田川努、黒木保.
研修医セッション14；肺・縦隔／乳腺③, 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.16.

114)＜ポスター＞膵頭十二指腸切除後に肝内結石症を発症し異なる外科的アプローチで治療した 2 例.
池田貴裕、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題（示説） 5 ；胆嚢・膵臓・脾臓・門脈①, 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.16.

115)＜口演＞潰瘍様突出像（ULP）を伴った孤立性上腸間膜動脈解離（ISMAD）の一例 ―当院ISMAD症例の検討を加えて―.
近藤孝憲、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医セッション30；血管／その他①, 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.17.

116)＜口演＞原発性小腸軸捻転症の再発に対して後腹膜固定法を行った 1 例.
奥平雅之、池田貴裕、福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医セッション37；血管／その他⑦, 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.18.

117)＜口演＞食道癌術後胃管気管支瘻に対し、内視鏡的手縫い縫合にて瘻孔を閉鎖した 1 例.
中野颯斗、米田晃、緒方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医セッション43；血管／食道, 第85回日本臨床外科学会総会. 岡山, 2023.11.18.

118)＜口演＞リウマチ性多発筋痛症の疫学.
古川宏、野木真一、岡笑美、樋口貴士、東孝典、杉山隆夫、平野史倫、岡本亨、藤森美鈴、寶來吉朗、岡田覚丈、井畑淳、片山雅夫、吉澤滋、松井利浩、右田清志、當間重人.
一般演題21；その他のリウマチ膠原病疾患, 第38回日本臨床リウマチ学会. 北九州, 2023.11.19.

119)＜口演＞十二指腸 NET に対する hybrid ESD 7 年後にリンパ節転移再発の診断となり、外科的治療を行った一例.
綿屋摩湖人、後藤高介、三根祥一郎、今村祥子、中島悠史郎、末廣智之、三浦史郎、黒木保、西山仁.
専攻医発表；食道・胃・十二指腸 3 , 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

120)＜口演＞肝肉芽腫を伴った腸管スピロヘータ症の 1 例.
川添綾子、小出明妃、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進也、山崎一美、小森敦正、八橋弘、今村祥子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎.
研修医発表；肝・胆・膵 3 , 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

121)＜口演＞働き方改革及び多職種連携の時代に消化器診療に診療看護師（NP）が参画する意義について.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、南恵樹、黒木保.
特別企画；患者さん視点で消化器診療の一翼を担う「メディカルスタッフゆいまーる」～沖縄からの発信～ , 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

122)＜口演＞高シトルリン血症を背景に発症した肝細胞癌一切除例.
小川紗智、北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、長岡進矢、黒木保.
研修医発表；肝・胆・膵 1 , 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

123)＜口演＞胆嚢仮性動脈瘤を伴う出血性胆嚢炎の 1 例.
石井優子、北里周、吉野恭平、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、竹下浩明、杉山望、南恵樹、黒木保.
研修医発表；肝・胆・膵 4 , 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

124)＜口演＞当科における虫垂憩室症 6 例の検討.
吉野恭平、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題；小腸・大腸 1 , 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.25.

125)＜口演＞待機的に腹腔鏡手術で治療しえた Meckel 憩室出血の 1 例.
吉野恭平、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、竹下浩明、黒木保.

ミニオーラル30；小腸　その他１, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.7.

126)＜口演＞多発肺・骨転移を伴う原発性肝平滑筋肉腫に化学療法を施行した１例.
小出明妃、釘山有希、添田李子、三原裕美、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
若手セッション16；肝腫瘍・その他②, 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.7.

127)＜口演＞当科における胆嚢高度炎症例に対する胆嚢亜全摘術の検討.
福井彩恵子、池田貴裕、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（口演）97；胆嚢頚部　処理困難例, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

128)＜口演＞外科専属診療看護師（NP）による内視鏡外科手術助手の有効性.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、池田貴裕、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題（口演）127；メディカルスタッフ・CE, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

129)＜口演＞胃穹窿部 GIST に対する低侵襲・機能温存を目指した胃内手術の取組み.
池田貴裕、米田晃、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル88；胃・十二指腸悪性　胃 GIST, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

130)＜口演＞脳脊髄液シャントチューブ逸脱に対し腹腔鏡下に再留置術を行った症例.
笠伸大郎、米田晃、中原未智、織方良介、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル134；腹腔鏡 その他, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

131)＜口演＞ストマ静脈瘤による出血に対し、腹腔鏡下に下腸間膜静脈経由のシャント静脈を行った１例.
織方良介、竹下浩明、吉野恭平、笠伸大郎、池田貴裕、北里周、米田晃、黒木保.
ミニオーラル134；腹腔鏡 その他, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.

132)＜口演＞全国調査における原発性胆汁性胆管炎の臨床背景とステロイド治療の現状.
釘山有希、小森敦正、廣原淳子、小出明妃、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、八橋弘.
一般演題10；AIH・PBC, 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.8.

133)＜口演＞肝予備能の観点からみる小型肝癌に対するSBRTとRFAの長期予後の比較検討.
本吉康英、小出明妃、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進也、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題25；局所治療, 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.8.

134)＜口演＞新たに開発した皮下内視鏡下手術（Video-assisted subcutaneous surgery）による傍ストマヘルニア修復術.
谷口裕太郎、竹下浩明、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題（口演）190；研修医・専門医　ヘルニア, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.9.

135)＜口演＞胸腔鏡下に切除した食道GISTの１例.
米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、池田貴裕、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル172；食道良性 食道アカラシア・良性腫瘍, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.9.

136)＜口演＞全結腸型憩室症例に対する腹腔鏡下手術.
竹下浩明、織方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、池田貴裕、米田晃、北里周、黒木保.
ミニオーラル189；下部良性 憩室炎２, 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.9.

## 研　究　会　発　表

**B-c：研究会発表（13）**

１）乳癌術後化学療法時にペグフィルグラスチム使用に伴う血小板減少をきた した１例.
萩原朋也、前田茂人、杉山望.
第36回長崎乳腺研究会. 長崎（ハイブリッド）, 2023.2.18.

２）巨大膵MCNに対し腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した１例.
梶原優介、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、藤瀬悠太、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、三浦史郎、黒木保.
肝胆膵, 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.

３）静脈塞栓を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して二期的手術を施行した一例.
石飛俊介、杉山望、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、三浦史郎、伊東正博、前田茂人.
乳腺内分泌, 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.

4）潰瘍性突出像（ULP）拡大に対し血管内治療を行った孤立性上腸間膜動脈解離の一例.
近藤孝憲、北里周、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、竹下浩明、黒木保.
消化器①, 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.

5）Kartagener 症候群を伴う上行結腸癌に対して腹腔鏡下結腸右半切除術を施行した 1 例.
篠原葉瑠希、竹下浩明、三好敬之、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、岡本辰哉、米田晃、北里周、黒木保.
消化器②, 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.

6）食道癌術後胃管気管支瘻に対し、内視鏡的手縫い縫合法にて瘻孔を閉鎖した 1 例.
中野颯斗、池田貴裕、米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、西山仁、黒木保.
消化器①, 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.

7）鑑別が困難であった示指皮下腫瘤の 1 例.
吉野健太郎、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、三浦史郎、伊東正博.
第114回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2023.5.13.

8）眼球摘出を要した眼周囲のSCCの 2 例.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
第114回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2023.5.13.

9）地域中核病院における科科連携.
岡田覚丈.
第 3 回PsA科科連携を考える会 in 長崎. 長崎, 2023.9.20.

10）肝炎発症前から経過観察したB型急性肝炎の 2 例のHBsAg-HQと高感度HBcr抗原の血中動態.
山﨑一美、八橋弘.
第11回B型肝炎ウイルスマーカー研究会. 神戸, 2023.11.3.

11）生検が下手すぎて確定診断に至らずSCCの疑いを払拭できなかった急速増大lobular capillary hemangioma（pyogenic granuloma）の経験.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史、三浦史郎、伊東正博.
第115回長崎形成外科懇話会. 別府, 2023.11.18.

12）論文読者からの相談と思っていたら国際詐欺だった案件.
藤岡正樹.
第 1 回国立長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2023.12.2.

13）実臨床における患者背景を考慮した治療戦略.
岡田覚丈.
パネルディスカッション, RA communication conference in NAGASAKI. 長崎, 2023.12.9.

## 学　術　講　演

**C-a：学術講演＜国際＞（1）**

1）＜講演＞Primary Bliary Cholangitis - Can We Improve Quality of Life ?
Komori A.
Satellite Symposium 2 GSK：Addressing Clinical Gaps and Challenges in Hepatology -What Else Can We Do? The 32nd Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2023). Taipei, 2023.2.17.

**C-b：学術講演＜国内＞（10）**

1）＜講演＞これからのVNS療法　－脳外科医の観点から－.
小野智憲.
ランチョンセミナー 3 ：VNS療法　これまでの12年と今後への期待, 第10回全国てんかんセンター協議会総会. 宇都宮, 2023.2.11.

2）＜講演＞肝がん・肝硬変, NASH, PBC, AIHについて.
小森敦正.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和 4 年度）. 長崎（Web）, 2023.2.17.

3）＜特別講演＞小児てんかんの脳症的影響と外科治療.
小野智憲.
6th Tokyo Epilepsy Surgery Conference. 東京都, 2023.3.9.
4）＜特別講演＞肝疾患の拾い上げと病診連携 2023 ～ C型肝炎、NASH、自己免疫性肝障害～ .
小森敦正.
南高医師会学術講演会. 雲仙（Web）, 2023.3.16.
5）＜インストラクター＞腹部スクリーニングの基本.
本吉康英.
ハンズオンセミナー第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.8.
6）＜インストラクター＞腹部スクリーニングの基本.
末廣智之.
ハンズオンセミナー第109回日本消化器病学会総会. 長崎, 2023.4.8.
7）＜講演＞肝疾患と糖尿病について：NAFLD、MAFLDを巡る病診連携に向かって.
小森敦正.
レクチャー 2 , 大村地区糖尿病講演会. 大村, 2023.4.27.
8）＜講演＞外来で診られる熱傷、入院を要する熱傷.
藤岡正樹.
特別講演, 第185回県央皮膚科研究会. 諫早, 2023.9.12.
9）＜ディスカサント＞irAE対策について.
本吉康英.
パネルディスカッション, HCC Expert Forum in Nagasaki. Web, 2023.11.10.
10）＜講演＞人生100年時代の STOP 慢性肝臓病！
小森敦正.
講演 1 , 令和 5 年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」～ STOP 慢性肝臓病！ STOP肝細胞がん！診断と治療のアップデート. 大村（オンデマンド配信）, 2023.11.16.

## 学会発表・研究会開催・座長等

**D：学会・研究会開催（1）**

1）＜会長＞田川努.
第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10-11.

**E：研究会世話人（1）**

1）＜長崎県責任者＞小森敦正.
令和 5 年度日本肝臓学会　肝がん撲滅運動「市民公開講座」～ STOP慢性肝臓病！ STOP肝細胞がん！診断と治療のアップデート. 大村（オンデマンド配信）, 2023.11.16.

**F-a：学会・研究会座長＜国際学会＞（1）**

1）＜Chair＞ Komori A.
Early Morning Workshop 3；Fibrosis Regression after Antiviral Therapy in Patients with Chronic Viral Hepatitis, Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Conference 2023 (APASL STC 2023). Busan Korea, 2023.09.23.

**F-b：学会・研究会座長＜国内学会＞（28）**

1）＜座長＞小野智憲.
シンポジウム 6 ；離断・緩和・凝固手術の治療戦略, 第46回日本てんかん外科学会. 山口, 2023.1.27.
2）＜座長＞田川努.
ランチョンセミナー 3 ；伝えたい経験と手術手技の工夫, 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.10.

3）＜司会＞田川努.
テーマ；ここまで進歩した肺がんの治療, 第 8 回市民公開講座 がんフォーラム. 長崎（Web), 2023.2.11.
4）＜座長＞田川努.
特別企画；私の得意技、伝えたい経験 3 , 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.11.
5）＜座長＞黒木保.
研修医セッション；膵・脾, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.
6）＜座長＞小野智憲.
フリーディスカッション第 3 回VNS Round Table Discussion. 2023.3.15.
7）＜座長＞藤岡正樹.
一般口演48；下腿・足（外傷、その他） 3 , 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.28.
8）＜司会＞黒木保.
デジタルポスター（158)；胆道－悪性－予後因子, 第123回日本外科学会定期学術集会. 東京, 2023.4.29.
9）＜司会＞小森敦正.
ワークショップ 1 ；九州の基礎・臨床研究：腫瘍免疫・自己免疫・ゲノム, 第121回日本消化器病学会九州支部例会/第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 福岡, 2023.5.12.
10）＜座長＞藤岡正樹.
一般演題（口演 2 )；スキン－テア, 外科的治療等, 第20回日本褥瘡学会 九州•沖縄地方会 学術集会. 福岡, 2023.5.20.
11）＜座長＞藤岡正樹.
一般演題 3［口演］；創傷治癒, 第49回日本熱傷学会総会学術集会. 東京, 2023.5.25.
12）＜司会＞小森敦正.
パネルディスカッション 5 ；遺伝・代謝性肝疾患の未来予想図（現状と課題), 第59回日本肝臓学会総会. 奈良, 2023.6.16.
13）＜座長＞田川努.
Poster セッション42；手術②, 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 横浜, 2023.6.30.
14）＜座長＞黒木保.
要望演題ビデオ17；【肝胆膵】膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の適応と手術手技, 第78回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023.7.13.
15）＜司会＞藤岡正樹.
シンポジウム 2 ；NPWTを利用した開放性骨折の治療, 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2023.7.13.
16）＜座長＞田川努.
一般演題（口演）44；嚢胞性肺疾患、気胸 2 , 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.14.
17）＜座長＞黒木保.
一般演題（ポスター）14；症例, 第54回日本膵臓学会大会. 福岡, 2023.7.22.
18）＜座長＞小森敦正.
一般演題 1 ；NASH①, 第30回肝細胞研究会. 鹿児島, 2023.8.24.
19）＜司会＞黒木保.
ポスターセッション 8 ；外傷・慢性膵炎に対する外科治療, 第50回日膵切研究会. 東京, 2023.8.26.
20）＜座長＞藤岡正樹.
一般演題（口演)；在宅医療・地域連携 1 , 第25回日本褥瘡学会学術集会. 神戸, 2023.9.1.
21）＜座長＞黒木保.
デジタルポスター 49；胆管狭窄（3), 第59回日本胆道学会学術集会. 札幌, 2023.9.14.
22）＜座長＞田川努.
Session1, 周術期治療up to date in 長崎. 大村, 2023.10.12.
23）＜座長＞田川努.
一般演題（ポスター）32；胸腔鏡手術 2 , 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.3.

24）＜司会＞黒木保.
一般演題 4 ；教育/LPD/その他手術, 第15回膵臓内視鏡外科研究会. 岡山, 2023.11.15.
25）＜座長＞黒木保.
専攻医発表;肝•胆•膵 4 , 第122回日本消化器病学会九州支部例会/第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.
26）＜司会＞小森敦正.
若手セッション 4 ；自己免疫性肝疾患・胆管炎, 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.7.
27）＜司会＞ 黒木 保.
ミニオーラル112；肝臓 症例 1 , 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023.12.8.
28）＜座長＞黒木保.
特別講演；大腸におけるロボット手術, 第 6 回県央消化器癌化学療法カンファランス. 大村, 2023.12.15.

**G：その他（1）**

1）＜審査委員＞田川努.
JATS Case Presentation Awards5：肺 2 , 第56回日本胸部外科学会九州地方会総会. 大分, 2023.7.27.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 海外研修生リスト

責任者　小森 敦正

## 派遣母体

| | 2019年 | | | | 2020年 | | | | 2021年 | | | | 2022年 | | | | 2023年 | | | | 合計（名） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | |
| JICA | 0 | 0 | 0 | 23 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 23 |
| その他 | 12 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 20 |
| **合計（名）** | **12** | **0** | **0** | **25** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **5** | **0** | **0** | **1** | **43** |

## 出身国

| | 2019年 | | | | 2020年 | | | | 2021年 | | | | 2022年 | | | | 2023年 | | | | 合計（名） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | 医師 | 検査技師 | 看護師 | その他 | |
| カザフスタン | 8 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 16 |
| モザンビーク | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| ベナン | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ベラルーシ | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ウクライナ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ガボン | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ギニア | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| コートジボアール | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| コンゴ民主共和国 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| セネガル | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| チャド | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 中央アフリカ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| トーゴ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ニジェール | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ブルンジ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| モロッコ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ロシア | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| **合計（名）** | **12** | **0** | **0** | **25** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **5** | **0** | **0** | **1** | **43** |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 看護部

責任者　太田恵子

## 看護部の理念・方針

### 看護部の理念「その人が　その人らしく」

病む人個々の生活信条を大切にし、一人ひとりに気持ちを傾け、
科学的根拠に基づいた個別的かつ専門的な看護を提供する。

**【令和５年度　看護部目標】**

**Ⅰ．財務の視点**

1．地域の医療ニーズに合致した医療連携の推進

2．看護力を活かした経営参画（医業収支率100%達成への取り組み）

1）効果的かつ効率的な病床運用

2）夜間看護補助体制の充実

3）ニーズに応じた手術室看護の実践と適切なマネジメント

3．時間外勤務の削減とワークライフバランスの推進

**Ⅱ．顧客の視点**

1．互いをリスペクトしあう職場風土の醸成（関係の質醸成）

2．ベッドサイドケアの充実を図り、快適な入院環境の提供

3．退院後の生活を見据えた入退院支援の強化

4．救急患者の受け入れ体制の再構築

**Ⅲ．内部プロセスの視点**

1．アフターコロナを見据えた効率的な病床機能の転換と運用

2．看護の専門性に資するタスクシフト・シェアの推進

3．ルールに基づいた実践とリスク感性醸成による医療安全の質向上

4．子育て世代等多様な働き方を支援、働き続けられる体制整備

**Ⅳ．学習と成長の視点**

1．各ラダーの段階に応じた実践能力と対人関係能力等を備えた看護師の育成

2．実習指導専任化の実践により、看護学生及び新人の卒後教育との連動と充実

3．特定看護師、CN、CNS、JNPとの協働によるジェネラリストナースのアセスメント力向上

4．CREATEに基づき、看護を創造し、人と組織を大切にする看護管理者の育成

**【令和５年の看護部運営】**

Ⅰ．財務の視点、Ⅲ．内部プロセスの視点の取り組みとして、ベッドサイドケアの充実、看護の周辺業務のタスクシフト・シェアを目指し夜間看護補助者（ナースサポーター）を導入した。２年ぶりの業務量調査の結果、直接看護の割合が日勤では2.8%、夜間では6.9%増加した。また急性期看護補助体制加算（夜間100：１）夜間看護補助体制加算の取得につなげ年間約１億２千万円の収益となった。更に手術室稼働率65%の目標に対し67.6%を達成し、ダヴィンチの計画的な導入にも貢献した。加えて副看護師長による救急外来の管理遅出等を導入した。看護管理の視点の強化とともに、救急車応需率99%で稼働し３次救急を担う当院の救急外来患者に対する看護の質向上に対応しつつ経営参画に尽力した。また看護職員の超過勤務は微増したが代休取得率は83.5%と過去３年に比し約50%増

加しており人件費削減につながっている。

Ⅱ．顧客の視点では、ベッドサイドケアの充実への取り組みに加え、看護師長・副看護師長研究会において看護管理の視点と関係の質向上のための取り組みを継続している。職場での心理的安全性と紐づけ取り組みを継続し、職場風土の醸成を目指し活動した。更に仕事と子育て両立支援パス等を活用し産前産後及び育休明けの者に副看護部長にて面談し子育て世代の多様な背景に呼応した働き方を提案しつつ夜勤可能な者の確保に努め、働き続けられる職場風土の醸成及び体制整備を行うよう努めた。

Ⅳ．学習と成長の視点ではNHOから発信された看護管理者能力開発プログラムCREATEを基に長崎医療センターが目指す看護管理者像について検討し、「看護管理の能力的信頼と関わる人を大切にする豊かな人間性を併せもつ看護管理者を育成する」ことを目的に当院版CREATEを作成した。信頼に値する看護管理者の知識技術の習得と豊かな人間性を重視した管理者育成を目指し、今後戦略的に実践していく。

## 2023年　院外研修受講状況

**【国立病院機構本部主催】**

| 研　修　名 | 期　　間 | 受　講　者 |
|---|---|---|
| 初級者臨床研究コーディネーター養成研修 | 8 /30〜 9 / 1 （WEB） | 金沢　愛弓 |
| リーダー育成共同宿泊研修 | 9 / 8 〜 9 / 9 | 田中　　圭 |
| RRSセミナー（運用編） | 9 /21（WEB） | 井手　時枝　宮本　瑠美<br>清水　周二　喜岡　昭子<br>穴井久美子　医師 2 名 |
| 認定看護管理者教育課程<br>セカンドレベル | 10/11〜11/30（WEB） | 川畑　貴寛 |
| ハラスメント相談員研修 | 10/23（WEB） | 田中　久美　岩﨑　藤子 |
| 治験及び臨床研究倫理審査委員養成研修 | 11/ 2 （WEB） | 岩﨑　藤子 |
| メンタルヘルス・ハラスメント研修 | 12/ 1 （WEB） | 大山加奈子　廣瀬　智美<br>山下由起子 |

**【九州グループ主催】**

| 研　修　名 | 期　　間 | 受　講　者 |
|---|---|---|
| 看護補助者の更なる活用のための<br>看護管理者研修（前期） | 6 / 8 〜 6 /22　eラーニング<br>7 /11　WEB | 前田　由紀　大塩あゆみ<br>堂口　香織　小淵しのぶ<br>中野　直美 |
| 副看護師長新任研修 | 6 /21〜 6 /22 | 斉藤　昌子　里吉　拓海<br>池田こなつ　岸川しおり<br>弓削亜矢香　大原千奈美 |
| 院内教育担当者研修 | 7 / 6 〜 7 / 7 （WEB） | 髙松三穂子　廣瀬　智美 |
| 医療安全対策研修Ⅱ | 7 / 3 〜 7 / 4 （WEB） | 井手　時枝 |
| 看護師長新任研修 | 7 /27〜 7 /28 | 原　　知里 |
| 実習指導者養成講習会 | 7 /18〜 8 /31　eラーニング<br>9 / 1 〜 9 /28　講義 | 大山加奈子　牧山　隼人<br>梅野　香織 |
| がん看護エキスパートナース研修 | 9 /19〜 9 /21（WEB） | 黒田麻依香 |
| 感染管理エキスパートナース研修 | 10/ 4 〜10/ 6 | 井上　彩衣 |
| 救急看護エキスパートナース研修 | 10/30〜11/ 2 | 堀　　加世 |
| 入退院支援に関する実践力向上研修 | 10/ 3 〜10/24　eラーニング<br>実習 2 日（〜12/15）<br>2 / 1　フォローアップ研修 | 小淵しのぶ |
| 医療安全対策研修Ⅰ | 10/26〜11/30　eラーニング<br>10/26，12/ 7 （WEB） | 田淵　貴子　西田　美咲<br>大塩あゆみ　山口　大輔 |

| | | |
|---|---|---|
| 看護教員インターンシップ研修 | 10/10（WEB）<br>10/11～10/12現地 | 斉藤　昌子 |
| 院内感染対策研修会 | 11/28～11/29（WEB） | 里山　隼一　橋口　里佳 |
| 労務管理研修（副看護部長） | 11/13（WEB） | 岩崎　藤子　田中　久美<br>穴井久美子 |
| 神経筋難病看護エキスパートナース研修 | 12/ 5 ～12/ 8 | 下村　早織 |

**【その他】**

| 主　　催 | 研　修　名 | 期　　間 | 受　講　者 |
|---|---|---|---|
| 長崎県看護協会 | 認定看護管理者育成研修<br>（ファースト）１回目 | 5 /18～ 9 /24 | 堂口　香織　山下由起子 |
| 長崎県看護協会 | 認定看護管理者育成研修<br>（ファースト）２回目 | 10/ 6 ～ 1 /28 | 瀧口　　尚<br>岩本　　聡　辻村美希代 |
| 長崎県看護キャリア支援センター | 実習指導者養成講習会 | 6 / 1 ～ 9 /30<br>eラーニング<br>11/ 9 ～12/12　対面 | 西山可奈子　渕上香代子<br>宇田川真希　江濱　弥生 |
| 国立看護大学校 | 院内教育 | 9 /21～ 9 /28 | 松本　温子 |
| 入院時重症患者対応メディエーターに関する研修検討委員会 | 入院時重症患者メディエーター養成講習会 | 5 /27（WEB） | 高崎　美穂 |
| 長崎医療センター | 特定行為研修 | 6 / 1 ～ 1 /31 | 荒木　明花　磯本　莉穂<br>中道　大夢　平川　雅子 |
| 国際医療福祉大学 | 感染管理認定看護師教育課程<br>（Ｂ課程） | 4 / 5 ～ 3 /19 | 原　　文佳 |
| 厚生労働省委託事業<br>筑波大学 | 人生の最後の段階における医療・ケア体制整備事業<br>本人の意向を尊重した意思決定のための研修会　相談院研修 | 9 / 3 （WEB） | 山本　理枝　前田　友紀<br>医師２名 |
| 国立研究開発法人<br>国立長寿医療<br>研究センター | 認知症高齢者の看護 | 12/ 6 ～12/ 7（WEB） | 樫本　希美　山口由香理 |
| 看護協会 | 認知症高齢者の看護実践に必要な知識 | 9 / 5 ～ 9 / 6<br>9 /26～ 9 /27 | 金子和佳奈　木佐貫真子<br>野崎　友香 |
| 長崎県看護協会 | 新人看護職員研修「研修責任者・教育担当者・実地指導者研修」 | 8 /28，　8 /29，　9 /22 | 山添　早記 |
| 国立精神神経<br>医療研究センター | 第１回<br>NCNPてんかん診療支援コーディネーター研修 | 7 /23 | 黒田由依香　谷口　幸代 |
| 国立精神神経<br>医療研究センター | 第２回<br>NCNPてんかん診療支援コーディネーター研修 | 12/17（WEB） | 谷口　幸代 |
| 日本腹膜透析学会<br>（小倉記念病院） | 腹膜透析認定指導看護師研修 | 7 /20～ 7 /21 | 渡部　葉子 |
| 日本臨床栄養代謝学会<br>（愛野記念病院） | 栄養サポートチーム専門療法認定<br>NST実地訓練（40時間） | 10/26，27<br>11/9，11/10<br>11/16，11/17 | 牧　亜里沙　富永　大志<br>山田　昌恵 |
| 腎学会 | 腎臓病療養指導Ｉ資格研修 | 8 /18～ 9 /19<br>（eラーニング） | 松竹　　愛 |
| 厚生労働省<br>長崎県医療政策課 | ドクターヘリ事業従事者研修（基礎コース）愛知 | 3 / 2 ～ 3 / 3 | 松尾　悠美　中根　秀聡 |
| 長崎医療センター | 長崎県看護管理者育成研修 | 11/ 6 ～11/ 7 | 岩永　恵子　冨永　裕美<br>前川　一樹 |

【災害訓練関係】

| 主　催 | 研修名 | 期　間 | 受講者 |
|---|---|---|---|
| | 原子力災害医療派遣チーム研修 | 1 /15 | 塩塚　築 |
| NHO | 九州・沖縄ブロックDMAT実働訓練 | 1 /28－1 /29 | 塩塚　築　里吉　拓海 |
| DMAT（東京） | 日本DMAT隊員養成研修 | 5 /22，5 /26 | 上田　幸枝 |
| 長崎県（医療政策課） | 長崎県総合防災訓練 | 5 /28 | 泉野　真樹　野口みどり |
| 長崎大学 | 第1回原子力医療中核人材研修 | 8 /4，8 / 6 | 溝上　佳史　野口みどり |
| 厚生労働省委託事業<br>筑波大学 | 第1回九州・沖縄ブロックDMAT技能維持訓練 | 8 /17－8 /18 | 前田　智子　平原　拓馬<br>内野　佳樹　森塚　倫也 |
| 鹿児島大学 | 第1回原子力災害派遣チーム研修 | 8 /18-8 /19 | 里吉　拓海　上田　幸枝<br>塩塚　築 |
| 大村市 | 令和5年度大村市総合防災訓練 | 9 /24 | 中尾　直子　山口　詩織<br>泉井　綾香　百枝裕太郎 |
| DMAT（別府湾SA） | 令和5年度大規模地震時医療活動訓練 | 9 /29－9 /30 | 中村　祐子　清水　周二 |
| DMAT（大阪） | DMAT養成研修 | 10/ 4 －10/ 6 | 木下　美咲 |
| 長崎県 | 令和5年度長崎空港航空機事故対処総合訓練 | 10/26 | 堀　加世　中根　秀聡<br>木下　美咲　木﨑　愛 |
| 長崎大学<br>原子力災害対策戦略本部 | 福岡・佐賀・長崎・鹿児島<br>第3回　原子力災害医療基礎研修 | 11/11（WEB） | 中村　祐子　上田　幸枝 |
| DMAT（長崎） | 令和5年度長崎DMAT養成研修 | 12/ 2 －12/ 3 | 山口　詩織 |
| 長崎大学 | 令和5年度第2回原子力災害医療中核人材研修 | 12/15－12/17 | 中村　裕子 |

## 2023年　講師派遣等

1）一般講師

| 日　付 | 依頼元 | 講演・講義内容、研修会名等 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 6 / 2 － 6 / 3 | 長崎県病院企業団 | 周産期救急医療教育<br>ALSOプロバイダコース | 松井　知子<br>※安田　祐子<br>※石丸　絢<br>※泉井　綾夏<br>※はアシスタント |
| 6 / 4 | 長崎医療センター | BLSOプロバイダコース | 泉井　綾夏<br>福田　花菜<br>橋本　咲 |
| 7 /22 | 長崎県病院企業団長崎県対馬病院 | BLSOプロバイダコース | 泉井　綾夏 |
| 6 / 7，7 /21 | 大村市民病院 | がん化学療法看護の基礎 | 村上　摩利 |
| 7 /11 | 国立病院機構九州グループ | 看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修<br>看護補助者が働くための体制整備に関する課題の検討 | 田中　久美 |
| 6 /29 | 医療法人和光会景恵寿病院 | 施設及び病院における感染管理 | 中村　みさ |
| 7 /15 | 第36回日本四肢再建・創外固定学会学術集会 | 招待講演「NPを知っていますか？」 | 本田　和也 |
| 8 /16 | 長崎県看護協会 | イキイキ中堅ナース研修<br>今だから見直そう～感染対策とリーダーシップ～ | 中村　みさ |
| 9 / 8 － 9 /28 | 国立病院機構九州グループ | 実習指導者講習会　実習指導計画指導案作成演習 | 髙松三穂子 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10/ 2 | 長崎県教育庁体育保健課<br>がん教育指導者研修会<br>学校における健康教育スキルアップ講座 | がん教育の推進について | 田中　　圭 |
| 10/ 5 －10/ 6 | 国立病院機構九州グループ | 感染管理エキスパートナース研修 | 中村　みさ<br>木場みちよ |
| 10/20 | 長崎県看護協会　研修会 | 医療的ケアが必要な在宅小児等に対する支援事業研修会<br>NICU等における在宅以降支援の実際 | 野口　早世 |
| 10/28 | 日本手術室看護学会 | ランチョンセミナー<br>周術期に皮膚障害・褥瘡を発生させないためには断固たる決意が必要なんだ | 原　健太朗 |
| 11/11 | 長崎県看護協会　スキルアップ研修 | 感染対策・標準予防策 | 木場みちよ |
| 12/ 2 | 北海道移植医療推進財団 | 院内コーディネーター研修会<br>重症患者対応メディエーターの役割 | 高崎　美穂 |
| 12/ 5 | 長崎県医療的ケア児支援センター | 長崎県医療的ケア児等養成研修<br>医療的ケア児の退院支援退院時の準備と両親への指導 | 野口　早世 |

**2）小中高校学校講師**

| 日　付 | 依　頼　元 | 講演・講義内容、研修会名等 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 7 / 4 | 大村市役所　大村中学校 | がん教育 | 田中　　圭 |
| 9 /20 | 長崎市立土井首小学校 | がんについての講話 | 田中　　圭 |
| 11/22 | 大村市役所国保けんこう課/桜が原中学校 | がん教育 | 田中　　圭 |
| 9 / 5 | 大村市こども家庭課/郡中学校 | 思春期こころとからだの健康づくり事業 | 山口　律子 |
| 7 /13 | 大村市こども家庭課/大村高等学校 | | 安田　祐子 |
| 9 /15 | 大村市こども家庭課/萱瀬中学校 | | 西田　莉瑚 |
| 10/10 | 大村市こども家庭課/大村高等学校 | | 坂本　早苗 |
| 10/18 | 大村市こども家庭課/玖島中学校 | | 平野　絵梨 |
| 11/14 | 大村市こども家庭課/西大村中学校 | | 宇田川真希 |
| 11/20 | 大村市こども家庭課/大村中学校 | | 田尻　亜希 |
| 12/ 7 | 大村市こども家庭課/桜が原中学校 | | 古賀　千怜 |
| 10/27 | 長崎県看護協会/川棚町立川棚中学校 | 性教育セミナー　かがやくくいのち大切なあなた | 泉　美穂子 |
| 11/27 | 長崎県看護協会/諫早市立北諫早中学校 | 性教育セミナー　知ってほしい性のはなし | 泉　美穂子 |
| 12/14 | 武雄市立橘小学校 | 第 6 学年キャリア教育「青春夢プロジェクト」 | 前田紗也香 |

### 3）看護系大学専門学校等講師

| 日　付 | 依　頼　元 | 講演・講義内容、研修会名等 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 11/24, 12/1, 8 | 長崎県央看護学校 | 成人臨床看護の実際Ⅱ | 森塚　倫也 |
| 12/7 | | 小児臨床看護の実際 | 野口　早世 |
| 5月－7月 | 長崎市医師会看護専門学校 | 看護の臨床判断 計8回 | 本田　和也 |
| 4月－9月 | 活水女子大学看護学部 | フィジカルアセスメント　計15回 | 本田　和也 |
| 6/22 | | 高齢者看護学方法論演習 | 黒田由衣香 |
| 7/17, 7/31 | | 看護学統合演習/複数受け持ちロールプレイ | 斉藤　昌子 |
| 6/2 | | 基礎看護技術1　基礎看護技術演習 | 斉藤　昌子 |
| 12/7 | | 基礎看護技術Ⅳ　基礎看護技術演習 | 斉藤　昌子 |
| 12/14 | | 地域・在宅看護方法論 | 高崎　美穂 |
| 1/17 | | 医療安全管理論 | 井手　時枝 |
| 9/21 | | 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）<br>透析センター実習オリエンテーション | 田中みゆき |
| 7/12 | | 看護学統合演習/看護部の組織と概況 | 岩﨑　藤子 |
| 7/13 | | 看護学統合演習/医療安全管理体制 | 井手　時枝 |
| 7/13 | | 看護学統合演習/感染管理体制 | 中村　みさ |
| 7/5 | | 母性看護学方法論演習 | 宇田川真希 |
| 6/27 | | 救急クリティカルケア | 野口みどり |
| 11/2 | 嬉野医療センター附属看護学校 | 成人・老年看護学方法論Ⅱ<br>がん治療に対する看護：造血幹細胞移植と看護 | 渡邊　依里 |
| 9/30 | 高知大学 | 看護学研究科特別講義<br>がん看護専門看護師の実践と役割開発 | 田中　　圭 |
| 10/30 | 宮崎大学 | 看護学研究科看護学専攻/緩和ケア論Ⅰ | 田中　　圭 |
| 7/8 | 東京医療保健大学大学院 | 先をみる医療教育講演<br>地域包括ケア時代を阻む壁とその解決の糸口とは | 本田　和也 |

## 施設見学・研修受け入れ状況

### 1）研修

| 日　付 | 研修内容 | 施　設　名 | 人数 | 対　応　者 |
|---|---|---|---|---|
| 6 / 1 ～ 1 /31 | 看護師特定行為研修 | NHO西別府病院<br>NHO長崎医療センター | 5 | 特定行為研修担当者 |
| 7 / 3 | 国立病院機構<br>サードレベル統合実習 | 長崎病院 | 1 | 看護部長<br>副看護部長 |
| 8 /21 | 福岡県看護協会<br>サードレベル看護管理実習 | 佐世保総合医療センター | 1 | 看護部長<br>副看護部長 |
| 9 / 1 | 臨床研修 | 活水女子大学 | 1 | 8B看護師長 |
| 10/ 6 ～10/ 7 | 第11回長崎県看護管理者育成研修 | 長崎県内 11施設※① | 19 | 看護部長<br>副看護部長<br>看護師長 |

※①上五島病院、聖サンフランシスコ病院、田上病院、中澤病院、愛野記念病院、諫早総合病院、大村市民病院、大久保病院、みさかえの園あゆみの家、長崎病院、長崎医療センター

### 2）病院見学、就職説明会

令和 6 年度採用

| | 方　　法 | 実施回数 | 延べ参加人数 |
|---|---|---|---|
| 当院主催病院見学会 | 対面 | 8 | 69 |
| マイナビ主催就職説明会 | 対面 | 2 | 165 |
| 学校主催合同説明会 | 対面 | 4 | 207 |
| 九州グループ主催説明会 | 対面 | 2 | 118 |
| 当院主催病院見学会 | Web | 3 | 15 |
| 長崎県主催合同説明会 | Web | 1 | 14 |
| 学校主催合同説明会 | Web | 1 | 64 |
| 九州グループ主催説明会 | Web | 1 | 65 |

### 3）卒業生と在校生の交流等参加実績

| 依頼校 | 職員参加人数 |
|---|---|
| NHO岩国医療センター附属看護学校 | 1 |
| NHO岡山医療センター附属看護助産学校 | 1 |
| 活水女子大学看護学部（卒業生インタビュー） | 1 |
| 活水女子大学看護学部（活水女子大学卒業生との交流会） | 2 |
| YIC看護福祉専門学校 | 1 |
| 社会福祉専門学校緑生館 | 1 |

### 4）リクルート学校訪問

| | |
|---|---|
| 長崎県 | 8 校 |
| 佐賀県 | 7 校 |
| 福岡県 | 2 校 |

※看護系大学、専門学校等を看護部長、副看護部長で訪問

## 看護学生実習受け入れ

| 学校名 | 実習名 | 学年 | 人数 | 実習日数 | 実習病棟 |
|---|---|---|---|---|---|
| 活水女子大学<br>看護学部 | 基礎看護学実習Ⅰ | 1年次 | 60 | 4 | 3B，5A，5B，6A，6B<br>7A，8A，9A |
| | | | | 4 | 3B，5A，5B，6A，6B<br>7A，8A，8B，9A |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 2年次 | 36 | 7 | 3B，5A，5B，6A，6B<br>7A，8A，8B，9A |
| | 成人看護学実習Ⅰ | 3年次 | 70 | 11 | 5B，6A，6B，7A，OP，3A |
| | 成人看護学実習Ⅱ | 3年次 | 70 | 11 | 8A，8B，9A，5A，透析室 |
| | 小児看護学実習 | 3年次 | 70 | 4.5 | 4A 1名4.5日×70人<br>1日外来 |
| | 母性看護学実習 | 3年次 | 70 | 7.5 | 4B 1名7.5日×70人 |
| | 精神看護学実習 | 3年次 | 42 | 4 | 9B 1名4日×42人 |
| | 統合実習 | 4年次 | 78 | 8 | 3B，4B，5A，5B，6A，6B<br>7A，8A，8B，9A |
| | | | | 8 | 3B，4B，5A，5B，6A，6B<br>7A，8A，8B，9A |
| 学校法人向陽学園<br>向陽高校看護専攻科 | 小児看護学実習Ⅲ | 2年生 | 39 | 21 | 4A |
| | | | | | 4A |
| | 母性看護学実習 | 2年生 | 4 | 8 | 4A |

## 研究業績

### 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）パネルディスカッション：ワークショップ参加後の自施設での取り組み.
冨永美希.
長崎県HCCチーム医療ワークショップﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟの会. 7月12日.

2）シンポジウム：放射線看護専門看護師が描く未来.
大石景子.
日本放射線看護学会学術集会. 9月9日.

3）ランチョンセミナー：看護エコーをもっと身近に！看護現場の最前線.
黒田由依香/金子尚子.
看護技術学会学術集会. 10月14日.

4）シンポジウム医療安全　傾向と対策：院内VTE予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝.
国立病院総合医学会. 10月20日

5）シンポジウム論文を書いてみよう：医療安全の視点で論文を書いてみて思ったこと
田中久美.
国立病院総合医学会. 10月20日.

6）シンポジウム周産期シミュレーション教育の種をまく：長崎の助産師が周産期シミュレーション教育の種をまく～他職種シミュレーション教育において助産師としてできること.
泉井　綾夏.
ALSO-Japan学術集会. 10月28日.

7）パネルディスカッション：気管食道領域がんの患者のHR-QOLの向上を求めたチーム医療.
田中圭.
日本気管食道科学会. 11月14日.

**＜座長＞**

1）シンポジウム:放射線看護の継承と創造.
大石景子.
日本放射線看護学会学術集会. 9月10日.

2）ランチョンセミナー:看護エコーをもっと身近に！看護現場の最前線.
本田和也.
看護技術学会学術集会. 10月14日.

3）ポスターセッション:医療安全.
大原千奈美.
国立病院総合医学会. 10月19日.

**B-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術におけるアンダーボデイブランケットとアッパーボデイブランケットの加温効果の比

較検討.
市原幸、大神代竜育、泉野真樹、原健太朗、山口美和子、下山孝一郎、田川努.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

2）全身麻酔下開腹肝胆膵手術におけるデイスポーザブルリトラクター使用時の皮膚障害予防法の検討.
立花玲華、児島凪、原健太朗、北里周、黒木保.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

3）当院救命救急センターにおけるABCDEFGHバンドル 導入による効果とスタッフへの影響.
堀加世、百枝裕太郎、大山加奈子、宮本瑠美.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

4）Visionを探せ！.
長崎医療センター　特定行為研修フォローアップ研修の報告.
斉藤昌子、和泉泰衛、永井友基、髙松三穂子.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

5）診療看護師が救急科と総合診療科研修を行う意義.
江口貴彦.
日本NP学会学術集会. 札幌, 2023.10.22.

6）脊椎麻酔施行患者における導電性ポリマー式化温装置のマットレスとブランケットの加温効果の比較検討.
児島凪、立花玲華、原健太朗.
第37回日本手術看護学会年次大会. 福岡, 2023.10.28.

7）術中褥瘡発生に関連する看護師の個人的要因の分析.
岡田久瑠美、上村貴弘、原健太朗.
第37回日本手術看護学会年次大会. 福岡, 2023.10.28.

8）シリコンフォームドレッシング材の使用基準作成後の術後皮膚障害減少効果の検討.
上村貴弘、弓削亜矢香、原健太朗.
第37回日本手術看護学会年次大会. 福岡, 2023.10.28.

9）当院救命センターにおけるフライトナース志願の阻害要因について.
木﨑愛里、吉拓海.
日本航空医療学会. 北海道, 2023.11.4.

10）組織の成功循環モデルに基づいた関係の質向上プロジェクトの効果に関する考察.
田中圭、高松三穂子、岩﨑藤子、田中久美、髙尾珠江、西山ゆかり.
組織変革. 日本看護管理学会. 東京, 2023.8.26.

**＜ポスター＞**

1）患者がストレスを生じる救命救急センター環境の実態. 〜患者視点からとらえたICU環境の改善へ向けて〜 .
松尾悠美、野口みどり、大山加奈子.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

2）高度救命救急センターにおけるABCDEバンドル導入の取り組みと今後の課題.
内野佳樹、百枝裕太郎、平原拓馬、中根秀聡、堀佳世、宮本瑠美.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

3）高度救命救急センターにおけるICUダイアリー導入の取り組みと今後の課題.
門畑綾花、百枝裕太郎、内野佳樹、木下美咲光、武愛梨、有地穂乃佳、山口さおり、宮本瑠美.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

4）偶発性低体温症による蘇生後の人工呼吸器管理・リハビリにおいて、特定行為看護師による治療連携により良

好な転帰を得た一例.
田中恵理、玉屋さつき、山下由起子、日高悠介、森隆浩、和泉泰衛.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

5）急性期病院における頭頸部癌終末期患者の口腔ケアについての検討～看護介入の現状をもとに多職種カンファレンスを実施して～.
平川珠理、西山美樹、岩下有華.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

6）高度救命救急センターにおいて安全で専門性を発揮できる看護提供体制の構築～看護管理者としての課題解決～.
大山加奈子.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

7）大腿骨近位部骨折患者の早期離床に向けた整形外科病棟による介入の実態調査.
井原悠里、太田麻友、川崎多恵子、宮崎美紀、江濱弥生、宮本俊之、森圭介、都留瞭菜.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

8）せん妄評価尺度導入前後における看護師の術後せん妄への認識の特徴.
横田朱音、髙見栞、石丸美幸、牧山隼人、川畑貴寛.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

9）身体拘束に対する意識変容と行動制限最少化への影響についての検討－認識や身体拘束方法の統一に関する方法の取り組みを通して－.
森清架、山下主税、遠藤優花、小森みづほ.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.20.

10）ICU退室後の患者における妄想的記憶の実態と関連要因の分析.
百枝裕太郎、内野佳樹、門畑綾花、木下美咲、宮崎里奈、光武愛梨、有地穂乃佳、山口さおり、宮本瑠美.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

11）コロナ禍における緊急入院となった患児に付き添う家族の現状と課題.
大浦栞、小玉美香、菅明美、愛合美穂、小淵恵子、宮吉美希、本村秀樹.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

12）術式別にみた離床状況の実態と課題.
荒木梨花、松﨑のぞみ、川畑貴寛、米田晃.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

13）多剤耐性アシネトバクター保菌患者の看護業務を経験した看護師の思い.
池田久美子、原文佳、宮本瑠美、岸川しおり.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

14）放射線科診療を受ける患者の看護に関する文献検討～患者の心理に配慮した看護に焦点をあてて～.
江口明子、千葉恵里佳、大石景子、福本明美.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

15）入退院支援コアナースと地域医療連携室の自己評価尺度から考える入退院支援コアナース会議（研修）の有効性.
大迫朝子、實藤美香、高崎美穂、原岡和世、龍田彩加、田中尚子、宮﨑智恵、小川志帆、富永裕美、田中圭.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

16）入院時重症患者対応メディエーターに求められるニーズ～相談支援内容から分析する～.
高崎美穂、田中圭、宮本瑠美、中道親昭.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

17）三次救急病院外来看護師の看護倫理における認職調査.
相川秀美、山口陽子、村上摩利、酒谷紀子

第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

18）直接観察法開始による手指消毒回数の変化と手指消毒回数の看護必要度との関連.
中村みさ.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2023.10.21.

19）診療看護師が患者・家族の意思決定支援に関わることで良好な経過を辿った一例.
溝上佳史、溝田梢、卜部繁彦、西垣明久、原健太朗、山口美和子.
日本NP学会学術集会. 札幌, 2023.10.21.

20）腹腔鏡下消化管手術の麻酔導入前後における還流指標と中枢温の関連.
原健太朗.
日本麻酔科学会第70回学術集会. 神戸, 2023.6.1.

21）乳がん手術における術後嘔気嘔吐の発生率とリスク因子に関する後ろ向き分析.
溝上圭史、濱田梢、卜部繁彦、西垣明久、原健太朗、山口美和子.
日本麻酔科学会第70回学術集会. 神戸, 2023.6.2.

22）タキサン系薬剤を使用した乳がん化学療法患者における末梢神経障害発症の要因解析.
村上摩利、渕邊まりな、杉山望、前田茂人.
日本乳がん学会学術集会. 横浜, 2023.6.29.

23）当院における新型コロナウイルス感染妊婦に対する経腟分娩管理.
安田祐子、菅幸恵、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 名古屋, 2023.7.11.

24）新興感染症対応机上訓練の成果と課題.
中村みさ、木場みちよ、山口友子、竹村恵、田添智津子、小川麻子.
41地域連携. 第38回日本環境感染学会. 横浜, 2023.7.22.

25）手指衛生直接観察法開始による手指消毒回数の変化と手指消毒回数と看護必要度の関連.
中村みさ、岩﨑藤子、永井友基、近藤晃、太田恵子、吉田真一郎.
126：感染管理6-7. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**＜司会＞**

1）令和 5 年度 第 2 回 九州グループ内感染管理担当看護師連絡会，全体討議.
中村みさ、小田原美樹、外垣亮太.
令和 5 年度 第 2 回 九州グループ内感染管理担当看護師連絡会. 福岡, 2023.12.14.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 専門看護師・認定看護師・特定看護師

## ■専門看護師・認定看護師状況

専門看護師： 3 分野 3 名

| 分　野 | 資格取得人数 | 職員名 |
|---|---|---|
| がん看護 | 1 | 田中　　圭 |
| 感染症看護 | 1 | 中村　みさ |
| 放射線看護 | 1 | 大石　景子 |

認定看護師：10分野14名

| 分野 | 資格取得人数 | 職員名 |
|---|---|---|
| 感染管理 | 2 | 木場みちよ　　中村　みさ |
| 緩和ケア | 2 | 石丸　美幸　　岩永　一也 |
| がん化学療法看護 | 2 | 村上　摩利　　冨永　美希 |
| 皮膚排泄ケア | 1 | 中村裕紀子 |
| 新生児集中ケア | 1 | 野口　早世 |
| がん放射線療法看護 | 1 | 大石　景子 |
| クリティカルケア | 1 | 野口みどり　　平原　拓馬 |
| 集中ケア | 1 | 平川　雅子 |
| 糖尿病看護 | 1 | 土井　広貴 |
| 手術看護 | 1 | 原　健太朗 |

特定行為研修修了者： 5 名

| | | |
|---|---|---|
| 4 区分 8 行為 | 3 | 玉屋さつき　　中村　裕子　　田中　恵里 |
| 3 区分11行為 | 1 | 野口みどり　　平原　拓馬 |

認定看護管理者： 3 名

| 役職名 | 職員名 |
|---|---|
| 看護部長 | 太田　恵子 |
| 副看護部長 | 田中　久美　　穴井久美子 |

## 〔専門看護師〕
## ■がん看護

田中　圭

**【役割】**

がんの予防から診断・治療・共生・終末期での質の高い実践を行い、外来化学療法センター・放射線治療室・緩和ケアチーム・緩和ケアセンター・相談支援センター・がんゲノム外来などにおいて多職種による質の高い医療が提供できるように、円滑なチーム作りを推進する。また、倫理事例の検討・臨床倫理カンファレンス・看護倫理委員会などを担当し積極的に患者の擁護者役割が求められている。

都道府県および地域がん診療連携拠点病院の整備に参画し、がん医療の均てん化や、地域医療連携を促進する。

**【実践報告】**

＜実　践＞

がん相談などを通してがん患者、家族の意思決定支援を行っている。また、セカンドオピニオン外来の窓口も務めており、がん患者、家族の個々の治療や生活背景にあった情報提供を行っている。

＜相　談＞

緩和ケアチームの専従看護師、専任看護師、県央がんセンターのがん化学療法看護認定看護師からがん看護実践・教育の相談に応じている。また、各診療科や病棟からもがん看護のコンサルテーションを受けている。

＜調　整＞

緩和ケアチーム、がん相談支援センターがチームとして円滑に機能するように医師、看護師、MSW等の役割や業務をコーディネートしている。また、他医療機関や在宅医療との地域緩和ケアネットワークづくりも行っている。

＜倫理調整＞

院内の毎月１回開催されるキャンサーボード、倫理カンファレンスの司会や事例検討の相談窓口を担っている。また、臨床倫理委員会の委員でもあり、院内の倫理的問題に積極的に介入している。

＜教育＞

院内のがん看護教育には当院がん関連認定専門看護師の支援を行う形で間接的に関わっている。院外の県民、医療福祉従事者への教育活動としては、長崎県の小中高校生にがんの予防や命の大切さを学んでもらうためのがん教育を行っており、医療福祉従事者へは学会や研修会などの講演活動を行っている。2023年は大学院教育のがん看護専門看護師の育成も行っている。

＜研究＞

2023年は２つの研究の共同研究者となり、2023年の学会発表には６つ関わっている。その内、当方が筆頭演者で発表したのは２つである。

**【がん看護専門看護師の介入による算定件数】**

○特になし。

## ■感染症看護

中村　みさ

**【役割】**

感染症看護専門看護師は、「病院だけでなく地域の集団に対する感染管理」と「感染症や易感染状態にある複雑で解決困難な看護問題を持つ個人または家族に対して水準の高い看護ケア」を効率良く提供する役割がある。

**【実践報告】**

＜実践＞　感染管理の主となる実践はサーベイランスである。

| サーベイランス | 担　当 | 目　標 | 結　果 |
|---|---|---|---|
| 手指消毒回数　（患者/日） | 全部署 | 16回以上 | 平均31.7回 |
| 直接観察での手指衛生観察数 | 全部署 | 観察数128回/月 | 111.2回/月 |
| 中心静脈カテーテル血流感染 | 全病棟 | 感染10件/年未満 | 15件/年 |
| 尿道留置カテーテル尿路感染 | （3A•4A（未）以外） | 感染10件/年未満 | 44件/年 |
| 手術部位感染 | 整形外科 | 感染 0 件/年 | 0 件/年 |
| 人工呼吸器関連肺炎 | 全病棟 | — | 使用比 0.09 |
| 針刺し切創・粘膜汚染 | 全部署 | 針刺し20件/年 | 26件/年 |

脳神経外科の手術部位感染は、11月より開始した。人工呼吸器関連肺炎は、クリティカルケア認定看護師と協力して実施する予定である。

＜指導・教育＞

院内教育　1 件

手指衛生直接観察法について、新採用時研修、5 月の集団研修や感染リンクスタッフ連絡会議で教育した。サーベイランスの結果をもとに医療関連感染の教育を予定する。

院外教育　8 件

ケアプランセンターと高齢者施設に出張し、教育を行った。連携医療機関 3 か所を訪問して指導を行った。

＜相談＞

院内は172件、院外は 3 件であった。院内の内訳は、医師27件、看護師125件、コメディカル17件であった。すぐに解決可能なことや組織的なこと、感染管理に関する相談が多かった。感染症や易感染患者の看護ケアの相談や意見交換を増やしていくことを目指している。

＜倫理調整＞

専門・認定看護師会で事例提供し、倫理感性の向上に努めた。一般病棟で、新型コロナ感染症を契機になり死亡した患者の看護についてのカンファレンスに参加し、また、耐性菌を保菌した患者の不安の軽減について情報交換を行った。

＜調整＞

九州内の感染管理担当者の会議の調整を行った。

＜研究＞

2 件、新興感染症対応机上訓練の成果と課題を日本環境感染学会で、手指衛生直接観察法開始による手指消毒回数の変化と、手指消毒回数と看護必要度の関連を国立病院総合医学会で発表した。

## 〔認定看護師〕
## ■感染管理

木場　みちよ

**【役割】**

感染管理認定看護師の主な役割として、1．病院感染サーベイランス、2．感染防止技術、3．病院環境管理、4．職業感染防止、5．感染管理教育、6．相談がある。自施設の現状を的確に把握し、効果的・効率的な感染対策を立案し、実践する。安全で良質な医療の提供に貢献するために、組織横断的に病院感染低減およびコントロールに努める。

**【実践報告】**

＜実践＞

1）サーベイランス：厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業に手術部位感染サーベイランスの報告を行なっている。

| サーベイランス | 対象病棟 | 感染件数 |
|---|---|---|
| 手指衛生サーベイランス | 3A | － |
| 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス | 3A | 4件/年 |
| 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス | 3A | 36件/年 |
| 手術部位感染サーベイランス | 7A | 直腸0件/年　結腸1件/年 |

2）活動

- ICTミーティング、ICTラウンド：週1回
- 感染リンクスタッフ会議：月1回
- 3A病棟新型コロナウィルス感染症対策マニュアル第3版の改訂。
- 3A病棟にて定期的な環境ラウンドの実施、医療関連サーベイランスの結果を伝達し、ケアの見直しや提案と継続の確認。
- ICTラウンド、手指衛生直接観察を実施し、各部署に結果について現場や文書による報告。
- 感染管理ベストプラクティスについて感染リンクスタッフと協働し内容改訂。

＜指導＞

- 病棟や部署の要望に応じた教育やラウンドでの現場教育。
- 手指衛生直接観察数が少ない部署を優先的に観察し、その場で指導。結果を部署長へ報告。
- 感染リンクスタッフ連絡会議にて手指衛生の5つのタイミング、5S活動、感染管理ベストプラクティスについて、各部署での活動へつながるようにレクチャーを実施。

＜相談＞

- メール、電話、リンクスタッフ連絡会議、ラウンド時現場等で、感染対策や環境整備等についての相談あり、必要時病棟へ出向き現状を確認し、迅速な対応を心がけ対応。
- 相談内容：耳鼻科ファイバーの管理方法、小児科吸入器の管理方法、多剤耐性菌に関する勉強会の内容について、勉強会に参加しアドバイスを実施。

## ■緩和ケア

岩永　一也　　石丸　美幸

**【役割】**

がんなどの治癒が困難な進行性の疾患による病気そのものや治療に伴う様々な苦痛を抱える患者および家族に対して、苦痛を全人的に捉え、患者・家族のQOLを維持・向上するために専門的な知識・技術をもって看護を実践していくこととされている。また、患者・家族への喪失と悲嘆に対するケアの実践も求められている。緩和ケアはがんと診断を受けた段階から臨死期のケアに到るまでと長い療養期間の中で、特に緩和ケア認定看護師の特科技術は、エンゼルケア・呼吸困難・リンパ浮腫・口腔ケアとされ、より専門的な介入が求められる。

**【実践報告】**

＜実　践＞

2016年４月より、緩和ケア専従看護師として配置されており、緩和ケアチーム活動や院内のがん看護啓発のための活動を行っている。各部署において、がん患者の診断・告知の段階からの緩和ケアの介入の視点から、がん患者とその家族の治療に伴う全人的苦痛の緩和のための看護実践を行った。また、がん終末期にある患者・家族の苦痛緩和のための看護ケアやマネジメントの実際について担当看護師と一緒にカンファレンス等で検討し、安楽なケアを提供するための実践を行った。2023年４月より、それぞれ緩和ケアチーム専従・専任の配置となった。

＜指　導＞

がん診療リンクスナース会議の企画・運営やがん診療システム拡充と浸透のための資料・マニュアル改定を行った。今年度はアドバンスケアプランニングの周知と部署の取り組みについて年間を通した計画を立案し実施している。緩和ケア研究会や院内における教育活動は、地域も対象とした緩和ケア研究会を再開し、10月に開催した。各部署におけるOJTを中心とした教育・指導を継続している。また、院内の緩和ケア研修会のファシリテーターとして参加し貢献した。

＜相　談＞

医師・看護師を中心として、その他のコメディカルからの緩和ケア・がん看護における相談に対応した。また、苦痛のスクリーニングにおける“緩和ケアに関する相談の希望”に対して、カウンセリングなど、患者・家族と直接面談を行い、入院から外来、病院から在宅など療養の場に関わらず、継続した意思決定支援や精神的なサポートを行っている。病棟のみではなく、薬物療法センターや放射線治療室などの外来における苦痛のスクリーニングの拡充を促進しており、スクリーニング体制を定着化することにつながっている。

**【緩和ケア認定看護師の介入による算定件数】**

○2023年４月～12月まで

・緩和ケア診療加算（390点）：800件　　・個別栄養食事支援加算（70点）：302件

・外来緩和ケア管理料（290点）：43件

○2023年１月～12月まで

・がん患者指導管理料イ（500点）：８件

・がん患者指導管理料ロ（200点）：７件

## ■がん化学療法看護

村上　摩利　　冨永　美希

**【役割】**

がん薬物療法を受ける患者が、安全で安楽に治療を受けながら、QOLを維持するために、最新の知識や専門性の高い技術を用いて、患者のニーズに対応した副作用対策、セルフケア支援を実践する。がん薬物療法看護の勉強会を病院内外で行い、がん薬物療法看護の質の向上に貢献できるよう活動する。

**【実践報告】**

＜実践＞

がん薬物療法を行う患者・家族に対し、治療管理・セルフケア支援を行った。治療の有害事象を含めた苦痛のスクリーニングを行い、必要な部署と連携し対応した。また、がん患者への病状説明への同席や面談を通して意思決定を支援し、治療や療養上における不安や苦痛の軽減を図れるよう介入した。

外来と９A病棟との連携業務において、外来化学療法センターの業務やセルフケア支援に関する手順をチェックリスト化し、効率的な業務ができる体制の整備を行った。連携業務を通じて、がん薬物療法に関する看護ケアをスキルアップや、入院患者の退院支援へ活かすことができるように取り組んだ。

2023年４月からは、irAE対策チーム（医師・薬剤師・がん化学療法看護認定看護師２名）の活動が開始となり、院内でのirAE発生状況の確認や看護師への周知活動を行った。

2023年の外来薬物療法件数：5505件

| | 病状説明同席 | がん患者指導管理料イ算定（500点） | がん患者指導管理料ロ算定（300点） |
|---|---|---|---|
| 2023年件数 | 206件 | 125件 | 59件 |

来年は、現在取り組んでいる、がん薬物療法関連の各種マニュアルの見直し・改訂と、抗がん薬曝露対策に関連した体制整備や業務の見直し、スタッフ指導について他職種と連携して進めていきたい。

＜指導＞

患者支援として、薬物療法の副作用による生活への影響が最小限となるように、皮膚障害のケアや口内炎予防、中心静脈ポートの管理などの患者指導を行った。スタッフへの指導としては、がん薬物療法に関する情報提供や指導、各部署のがん薬物療法に関するマニュアルの見直しや新規作成への支援、複数の部署での勉強会（がん薬物療法看護や曝露対策など）の実施、がん診療リンクナースの活動支援を行った。また、がん看護コースで、がん診療リンクナース向けに、Advance Care Planningを基盤とした告知時および治療期の看護に関する講義をそれぞれ担当した。

社会活動として、大村市民病院の看護師を対象としたがん薬物療法看護の講義を行った。

＜相談＞

がん薬物療法に伴う看護ケアに関して、スタッフからの相談に応じた。相談内容は、主に新規薬剤に関することや曝露対策、がん薬物療法薬の投与管理やレジメンに関すること、皮膚障害のケア、血管外漏出時の対応、中心静脈ポートの管理、がんゲノムパネル検査などであった。

＜学会発表＞

冨永美希：レナリドミドへの服薬アドヒアランスが低い独居高齢患者に対する治療継続の可能性を見出した支援事例
第37回日本がん看護学会学術集会　令和５年２月25日・26日

村上摩利：タキサン系薬剤を使用した乳がん化学療法患者における末梢神経障害発症の要因解析
第31回日本乳癌学会学術総会　令和５年６月29日

## ■皮膚・排泄ケア

中村　裕紀子

**【役割】**

『創傷』、『ストーマ』、『失禁』の分野におけるケアの相談を受け、専門的な知識と熟達した技術により実践および教育を行う。

**【実践報告】**

褥瘡管理者として活動を行っている。

＜実践＞

1．褥瘡回診（毎週金曜日）　回診対象者499名/年

2．新規褥瘡発生患者数、持ち込み褥瘡患者数、発生率、発生要因の分析

3．体圧分散マットレスは中央管理し、各部署で過不足なく使用できるよう管理している（稼働率は80%以上）

4．褥瘡対策委員会（月１回）では、褥瘡保有患者の動向、褥瘡発生の傾向など報告を行い、予防ケアなどの対策を検討している．2023年の新規発生率は1.03%であった（前年度0.9%）

5．ストーマ外来　場所：外来棟２階相談室１　受診患者数108名/年

6．外来患者ケア（褥瘡ケア・褥瘡予防ケア・創傷ケア）14名/年（医師より相談あり対応）

7．褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書を作成、褥瘡ハイリスク患者に対して重点的なケアを行っている

褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書の作成　1574件/年（前年比-123）

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 146 | 149 | 130 | 144 | 115 | 136 | 130 | 103 | 126 | 143 | 121 | 131 |

褥瘡ハイリスク患者ケア加算（500点）総診療点数　2022年843,500点　2023年781,000点

＜指導＞

1．褥瘡リンクスタッフ対象

| | | |
|---|---|---|
| 1月　スキンケアについて | 2月　事例検討 | 6月　弾性ストッキングの着用時のケアについて |
| 7月　おむつの正しい着用 | 9月　事例検討 | 11月　体圧分散寝具について |
| 12月　座位時の褥瘡について | | |

褥瘡予防のために必要なケアについてレクチャーを行い、その後各部署でのラウンドを行い、スタッフへの指導を行った。今後も、予防ケアに重点を置き指導を継続していく。

2．新採用者研修

1）褥瘡予防ケアについて

＜相談＞

1）創傷ケア（瘻孔ケア他含む）　333名/年

2）褥瘡予防ケア　120名/年

3）ストーマケア（ストーマサイトマーキング含む）　112名/年

## ■新生児集中ケア

野口　早世

**【役割】**

急性期にあるハイリスク新生児の治療・療養過程中に生じうる身体的及び心理社会的有害事象に対して予防的観点から働きかけ、発達促進的、個別的ケアを実践するため、日々、ベッドサイドケアを中心に活動を行っている。

**【実践報告】**

＜実践＞

新生児集中ケアに関する知識・技術を用いて、急性期にあるハイリスク新生児のベッドサイドケアを行った。先天性心疾患の新生児の初期ケアについては、入院時の情報からのアセスメントを行い、スタッフと共に予測した準備～入院受け入れを行った。また、実際に初期ケアを行った後は、スタッフ全体に対して勉強会を開催した。入院前の情報からのアセスメント、それに基づいた準備物品、必要な観察点、ケアの優先度を考えチームとしてのどのように動くかなど、多角的な視点での勉強会を行った。また県内の新生児医療を担っている総合母子周産期医療センターの認定看護師として行政・地域との連携強化に努めている。大村市障害者自立支援協議会への参加や長崎県看護協会、長崎県県央看護学校等の講義も積極的に実施している。医療的ケア児とその家族が地域で安心して生活できるためには何を行うべきか、改めて病院の役割を考える機会となった。

＜指導＞

日々、ベッドサイドケアを行う中で、気づいた点についてはスタッフに対してタイムリーに指導を行った。2年目看護師とともに超低出生体重児の初期ケアを行い、必要な準備やアセスメントについて指導を行った。新生児の状態を予測すること、お互いに声を掛け合いながら協働すること、安全だけでなく安楽を考えたケアの大切さなどを実際の場面および振り返りを通して指導を行った。また、3年目看護師には計画外抜管が起こった際に一緒にケアに立会い、急変時対応に必要な技術についてだけでなく、家族の心理状況を踏まえた対応について指導を行った。

＜相談＞

看護ケアに対して病棟スタッフからの相談活動を行った。相談を受けた際には、根拠や具体的な方法が理解できるように文献や写真などを用いてスタッフと一緒にディスカッションを行い、理解を深めることができるように関わった。また、今年度は3年目看護師の指導計画にも携わり、教育担当者からの相談を受けながら、計画立案および修正を行った。そのほか、新しいドレッシング材の導入に関して、医師や担当の係りとともにマニュアル作成にあたり、使用する対象（出生週数や体重など）の検討や使用方法について相談活動を行った。

**【その他の活動】**

- 大村市障害者自立支援協議会医療的ケア児等支援特別部会への参加
- 講義「NICU等における在宅移行支援の実際」：長崎県看護協会主催
- 講義「医療的ケア児の退院支援」：長崎県医療的ケア児等コーディネーター養成研修
- 講義「小児臨床看護の実際」：長崎県県央看護学校

## ■がん放射線療法看護

大石　景子

**【役割】**

がん放射線療法看護の分野において、がん放射線療法効果を最大限に得られるよう放射線療法の治療過程に生じる患者の身体、心理、社会的問題の解決を支援し、長期にわたる治療を患者自身が主体的に継続し、安全に完遂することを目的とし水準の高い専門的看護を提供する。

**【実践報告】**

1．実践

放射線治療を受ける患者に対し初診時の診察へ同席することで治療選択への支援のため放射線に対する恐怖心や副作用に対する不安への対応、放射線治療によって生じる副作用症状への処置方法や日常生活管理など、治療開始前から治療終了後まで、患者本人および家族へ直接的な処置介入及び指導など、心理的支援とともに日常生活に関わる支援などの看護活動を実施した。

令和５年１月～令和５年12月現在の主な活動は以下のとおりである。

◆意思決定支援：放射線科医師の説明へ同席し、治療選択への意思決定支援を実施。

◆治療継続支援：放射線治療継続の障害となるものを抽出し、解決出来るような支援を実施。

◆療養生活支援：放射線治療による副作用管理や退院に向けたセルフケアや必要な処置の実施と指導。

◆がん患者指導管理料：算定実績と対応件数　　がん患者指導管理料Ⅰ算定実績/500点⇒282件
がん患者指導管理料Ⅱ算定実績/200点⇒61件
対応件数合計461件

2．指導

今年度より遠隔操作密封小線源治療Remote After Loading System（以下、RALS）の機材が一新され、新しく組織内照射も加わったことにより、昨年度実施件数21件より128件と増加した。そのため、放射線科看護師および産婦人科病棟看護師に対し治療内容の詳細と必要な看護について指導を行った。また、病棟RALSカンファレンスに参加し治療内容についての情報提供や個別的に必要な看護について検討を行い、治療室と病棟看護師とが共通した認識を持ち患者の看護に臨めるよう活動した。

3．相談

がん放射線治療を受ける患者・家族に対しての副作用に対する処置方法や看護技術について、放射線治療室および病棟看護師が対応に困った内容についてのコンサルテーションを実施した。

**【院内活動】**

・令和５年度がん診療リンクナース会議の企画運営
・がん看護コース「放射線治療を受ける患者の看護：ACPを視野に入れて」を担当

**【学術・学会】**

・令和５年９月９、10日　第12回日本放射線看護学会学術集会
1）専門看護師シンポジウム「 放射線看護専門看護師が描く未来」シンポジスト
2）「看護職における放射線リスクコミュニケーションの今後の展望」口演
3）シンポジウム「頭頸部放射線治療における放射線性皮膚炎ケアへの多職種連携の取り組み」座長

## ■クリティカルケア

野口　みどり

**【役割】**

クリティカルケア看護は、生命の危機状態にある患者・家族および集団に対し、速やかに恒常性の回復・維持を図り、QOLや自律性の向上を目指す。また、最新の知見や根拠に基づいた高度な実践能力、教育、研究を探求する領域である。その範囲は救命救急・集中治療室にとどまらず、一般病棟・外来から在宅・地域まで及ぶ。

**【実践報告】**

＜実践＞

救命センターにおいて、クリティカルケア看護に関する知識と技術を用いて、急性期にある患者のケアを行っている。月1.2回の活動日には、救命センターのみならず、各病棟で重症または急性期の患者に対し、病棟の担当看護師と共に観察やケアの看護実践を行い活動。活動を通して急性期看護に関する指導を看護師へ行った。院内急変時への対応として、Drコール事例の検討や急変時記録の改定を行った。

＜指導＞

救急看護コースとして、副看護師長に対しBLSの演習を行い、以後参加者には月２回のBLS講習会の指導者として活動を行っている。自部署内の看護カンファレンスに参加し、病棟やケア方法などについてアドバイスを行った。

・院内活動

| 時期 | 活動内容 | 件数 |
|---|---|---|
| 10月 | 気管挿管の実際 | １件 |
| ７月12月 | 急変時対応シミュレーション | ２件 |

・院外活動

| 時期 | 活動内容 | 対象者数 | 講義形式 |
|---|---|---|---|
| １月 | 「包帯法」長崎県消防学校 | 40名 | WEB |
| ２月 | 「救急看護とは」長崎県消防学校 | 40名 | WEB |
| ６月 | 「救急看護」活水大学 | 69名 | 対面 |

・カンファレンス参加

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 看護計画の評価 | 前期週１回 |
| 多職種カンファレンス | 不定期２回 |

＜相談＞

認定看護師活動として、RSTラウンド、METラウンドを多職種と共に活動を行った。看護実践を行うにあたってスタッフの困りごとや気になる患者の状態観察を一緒に行いながら、観察のポイントを説明するなどした。介入件数は計13件であった。

## ■糖尿病看護

土井　広貴

**【役割】**

糖尿病看護分野において、院内のスタッフに対して教育を行い、病院全体の糖尿病看護の質の向上を図るとともに、糖尿病を有する患者とその家族に対して療養支援を行い、その人らしく療養生活を送ることができるように支援を行う。

**【実践報告】**

＜実践＞

毎週水曜、木曜にフットケア外来及び療養支援外来を実施した。糖尿病看護認定看護師１名、日本糖尿病療養指導士1名で外来を実践し、下記表のように療養支援を行い、糖尿病合併症指導管理料を算定した。

フットケア外来における実践報告

| 2023年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 総数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①フットケア（合併症指導管理） | 22 | 24 | 13 | 17 | 18 | 20 | 21 | 21 | 20 | 21 | 30 | 18 | 245 |
| ②透析予防療養指導 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③CSII/SAP指導 | 3 | 4 | 3 | 4 | 6 | 8 | 4 | 10 | 8 | 5 | 9 | 9 | 73 |
| ④FGM指導 | 16 | 18 | 12 | 19 | 14 | 19 | 15 | 29 | 23 | 31 | 28 | 28 | 252 |
| ⑤SMBG、注射製剤自己注射手技 | 1 | 0 | 1 | 3 | 3 | 2 | 3 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 19 |
| ⑥妊娠糖尿病療養指導 | 3 | 2 | 1 | 2 | 1 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 36 |
| ⑦食事、運動、薬物の療養指導 | 36 | 44 | 26 | 35 | 38 | 33 | 33 | 47 | 46 | 50 | 54 | 43 | 452 |
| ⑧患者総数 | 44 | 45 | 30 | 42 | 44 | 48 | 45 | 53 | 47 | 57 | 60 | 49 | 564 |

＜指導＞

10月より中断していた糖尿病教育入院患者対象の糖尿病教室を５階カンファレンス室にて再開した。医師、薬剤師、検査技師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士と協力して１回の教室時間が30分、１クール２週間のスケジュールで糖尿病教室を運営した。参加者は10月１クール目７名、２クール目５名、11月１クール目６名、２クール目７名、３クール目７名、12月１クール目３名であった。

＜相談＞

医師、看護師からそれぞれの所属部署の入院患者、外来患者に対する療養支援のコンサルテーション依頼を受け、適宜対応を行った。

## ■手術看護

原　健太朗

**【役割】**

患者が手術という侵襲的な治療を受ける場において、いかなる状況下においても医療倫理・看護者としての倫理を遵守し、患者が安全・安楽に周術期を迎えることが出来るよう、化学的根拠に基づく看護技術を提供する。手術看護の専門性を追求し、熟達した実践・指導・相談の役割を遂行し、手術看護の発展に貢献するとともに、他職種との連携を高め、質の高い看護・チーム医療を患者へ提供する。

**【実践報告】**

＜実践＞

患者が手術という侵襲的な治療を受ける場において、科学的根拠に基づく看護技術を提供するとともに、手術看護における質の向上、エビデンスの確立に努めた。

・手術室内における自部署スタッフ主導の勉強会の調整・指導を行った。

| 時期 | テーマ | 対象 |
|---|---|---|
| 隔月 | 急変対応、呼吸管理、手術看護計画、研究実践　など | 全手術室看護師 |

・院外講義

| 時期 | テーマ | 対象 | 開催方法 | 主催 |
|---|---|---|---|---|
| 1月 | 手術室看護師による術前外来と皮膚ケア | 手術室看護師<br>1000名 | Web | アルケア |
| 11月 | 手術室における皮膚障害・褥瘡対策 | 全国手術室看護師<br>500名 | 対面 | 日本手術<br>看護学会 |
| 12月 | 手術患者に対するドレッシング材の適正使用 | 全国手術室看護師<br>300名 | Web | メンリッケ<br>ヘルスケア |

＜指導＞

病棟相談会や月1回の指導者会議などを利用し、教育指導内容の伝達・周知を行った。学生実習は、シャドウイング教育を継続し、知識・理解を深めた。院内看護師の臨床研究指導・相談を実施した。

＜相談＞

1）面談等を実施し、新人教育の評価・ニーズの把握に努めた。

2）手術を受ける患者に対し、手術看護の早期介入を行うため、術前外来設置の計画を行った。

＜学会発表＞

1）第70回日本麻酔科学会「腹腔鏡下消化管手術の麻酔導入前後における潅流指標と中枢温の関連」

2）第25回日本医療マネジメント学会「手術室看護師の人員配置と業務に関する実態調査」

3）第37回日本手術看護学会「手術看護認定看護師が術前外来の設置と術前評価実施率に及ぼす影響」

4）第27回日本看護管理学会「手術室看護管理者が捉えた手術室看護師の人員配置と安全性の認識」

＜論文投稿＞

1）原健太朗，他．手術室看護師の人員配置と手術医療の安全性の関連．医療マネジメント会誌．24，66-72，2023.

2）Kentaro Hara, et al. Relationship between perfusion index and central temperature before and after induction of anesthesia in laparoscopic gastrointestinal surgery：A prospective cohort study. Medicine (Baltimore), 3, 102 (9), e33169, 2023.

## ■看護師特定行為研修

本村　秀樹　　斉藤　昌子

**【概要】**

令和５年度は、院内研修生４名、院外研修生１名の計５名が受講した。教育に携わった指導者は42名であり、その内訳は医師31名、薬剤師１名、診療看護師４名、特定看護師５名、医療安全管理係長であった。令和５年度より、特定看護師の知識、技術、態度の維持および向上を目的に、特定看護師が指導者として本研修に参画する環境を整備した。

共通科目６科目（252時間）の履修期間を６月～８月、区分別科目科目（69時間）の履修期間を８月下旬～１月とした。演習および実習は対面とし、双方向的に学習できるシステムを継続した。区分別科目の臨地実習は、10月より３か月間実施した。ローテートした診療科は、総合診療科、救急科、内分泌・代謝内科、耳鼻咽喉科であった。「非侵襲的陽圧換気の設定の変更」および「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」については、修了要件となる症例数確保に困難を要する状況が続いている。そのため、次年度に向け、実習協力施設を検討する予定である。また、本研修を開講し令和６年度で５年目を迎えるため、特定行為区分を見直し、区分変更も視野に入れ検討する予定である。１月末に研修の学びの発表会、および修了式を執り行い研修を修了する。指導者、院内の看護職、および院外研修生の所属施設の看護管理者に学びの発表会への出席を依頼し、研修生の学びの成果を共有する予定である。

その他、研修修了者が自己研鑽を図るとともに、情報共有することを目的に、研修修了者フォローアップ研修を１回／年開催している。フォローアップ研修においては、指導者にも参画を依頼し、知識、技術に偏らず、モチベーションの維持、向上をねらいとし、研修を企画している。

**【実績：看護師特定行為研修修了者数】**

| 看護師特定行為研修修了者数 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 院内 | 国立病院機構内 | その他 | 合計 |
| 第１期生（令和２年度） | １名 | ０名 | ２名 | ３名 |
| 第３期生（令和３年度） | ２名 | ０名 | １名 | ３名 |
| 第４期生（令和４年度） | １名 | １名 | ２名 | ４名 |
| 第５期生（令和５年度） | ４名 | １名 | ０名 | ５名 |
| 総修了者数 | 15名 | | | |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 看護部教育委員会

委員長　高松 三穂子

**【目的】**

1．看護部の理念に基づきACTyナースをもとに教育を実施し、看護の質向上を目指し、責任と役割が果たせる自律した看護師を育成する
2．組織における自己の役割が遂行できるよう、教育委員としての能力向上を図る

**【目標】**

1．ACTyナースに沿って、集合教育とOJTの連動ができるよう、看護師長・副看護師長と連携し支援する
2．ACTyナースの研修を担当し、看護のやりがいと楽しみを見出せるよう、研修計画・企画・運営・評価を実施することができる
3．教育委員として、各ラダーの段階に応じた実践能力と対人関係能力等を備えた看護師育成について考え、自己の役割が遂行できる

**【構成メンバー】**

委員長：髙松三穂子、副委員長：榊原チハル、担当副看護部長：穴井久美子
教育委員：23名（担当副看護師長５名を含む）

**【活動内容・日時】**

毎月第２金曜日　会議13：30～14：00　企画会議14：00～14：30

| 日程 | 検討事項 | 司会・書記 |
|---|---|---|
| １月13日 | ACTyナースの活用状況（レベルⅡ～レベルⅤ） | ４B・OP |
| ２月10日 | ACTyナース支援における次年度に向けた課題 | 外来・治検 |
| ３月10日 | １．教育委員として各部署における活動報告<br>２．１年間のまとめ、次年度の課題 | ５A・５B |
| ４月14日 | １．2023年度　教育委員会年間計画（案）検討<br>２．2023年度　院内研修内容、年間計画（案）検討<br>３．各研修担当・係（案）検討 | 委員長<br>副委員長 |
| ５月８日 | １．委員紹介（自己紹介）・2023年度院内研修担当者<br>２．看護部教育委員会規程について<br>３．2023年度　教育委員会年間計画について<br>４．2022年度　ACTyナース評価報告<br>５．研修案内<br>６．研修報告 | 副看護師長 |
| ６月９日 | 【報告】各部署の年間教育計画<br>【発表・検討】<br>１．委員会目標に沿った委員としての今年度の取組み<br>２．新人看護師および２年目看護師の状況の共有 | 6A・6B |
| ７月14日 | 【ワークショップ】『研修企画の考え方と計画の立案①』 | 副看護師長 |
| ９月８日 | 【ワークショップ】『研修企画の考え方と計画の立案②』 | 副看護師長 |
| 10月13日 | 【報告】<br>１．Actyナース中間評価<br>２．教育委員として各部署における活動報告（中間） | 7A・7B |
| 11月10日 | 【発表】Actyナース中間評価をふまえた自部署の取り組み | 8A・8B |
| 12月８日 | 【ワークショップ】OJTでの教育実践の検討（事例検討） | 副看護師長 |

**【総括】**

令和４年度（2022年度）に引き続き、教育委員を中心に集合教育（Off-JT）と機会教育（OJT）の効果的な連動に向け、情報発信し活動した。特に、研修生のレディネスをふまえ、実地指導者とのコミュニケーションを密にしたことで、教育計画への反映および実践につなげられた。また、教育委員が指導スキル向上を図り、自ら学ぶ機会（ワークショップ）を設けた。そして、集合教育の企画・運営では、看護師長・副看護師長・教育委員が協働しながら研修生のレディネス把握に力を注ぎ、教育にニードと学習ニードが合致するように努めた。その結果、教育委員として、自部署の人材育成における役割を明確にし、リーダーシップを図りながら部署内の教育に取り組むことができている。

令和６年度（2024年度）も引き続き、教育委員を中心とし、各部署の教育が、研修生のレディネスに合わせ画期的な教育となるよう支援をしたい。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 看護部記録委員会

委員長　田淵 貴子

**【目的】**

活動を通して記録の質の向上と記録時間の短縮を図る

**【目標】**

1．実施した看護及びプロセスの見える記録ができ、継続した看護を行う事ができる

2．褥瘡評価方法の変更を行い、記録時間短縮につなげる

3．クリティカルパスの改訂を行い、記録の質の向上と記録時間の短縮を図る

**【構成メンバー】**

委員長：田淵貴子　副委員長：清水周二　副看護師長：岩村和美、泉野真樹、宮崎千佳、岸川しおり

担当看護副部長：岩﨑藤子

看護記録委員18名：3A・3B・4A（小児）・4A（未熟児）・4B・5A・5B・6A・6B・7A・7B

8A・8B・9A・9B・外来・外来治療センター・手術室

**【活動内容】**

1．実施した看護及びプロセスの見える記録ができ、継続した看護を行う事ができる

新記録監査表を用いて部署内監査を6月に実施し、ディスカッションした。なぜ、監査の視点が必要か再度記録委員へ確認し、病棟での周知伝達とした。11月に継続して看護するために必要なサマリー項目について看護サマリー検討会を行い、外来でどのような項目を記載した方が継続して看護できるのか話しあい、情報共有した。各病棟で伝達を図り、サマリー記載内容は充実した。

2．褥瘡評価方法の変更を行い、記録時間短縮につなげる

褥瘡委員会との話し合いを行い、褥瘡保有患者はEXチャートでの1週間毎の評価を看護計画評価とみなすこととした。7月に記録・褥瘡委員・師長への伝達を行い、8月より変更とし、評価を行なったが現在問題なく経過している。このことで褥瘡評価は記録の短縮につながったと考える。

3．クリティカルパスの改訂を行い、入院診療計画書・記録として認められ、記録の質の向上と記録時間の短縮を図る

5月より各病棟で使用頻度の高いクリパスを抽出し、順次改定を行っている。

質の向上と記録時間の短縮を目指し、入院診療計画書として認められ尚且つ診療記録として認められるクリパスを作成しやすくするため、新規・改定クリティカルパス申請書を改定した。

質向上、経費削減のため、7月からクリパス1枚で入院診療計画書もみなす用紙を作成し、試験期間で実施する予定であったが、監査の視点でログ管理ができず、実施できなかった。

改定は7月～11月までで23件。7月に経腟分娩（母児同室）6日間、TUL、9月に心カテスタンバイPCI、11月に脳波モニタリング1泊2日、予定帝王切開（単胎NICU）8日間、予定帝王切開（単胎母児同室）8日間、ペースメーカー電池交換術、ペースメーカー植え込み（タインド型)、心カテCAG,ペースメーカー植え込み（スクリュー型)、高催吐リスク乳腺化学療法、中・催吐リスク乳腺化学療法、甲状腺全摘術、甲状腺葉切除術、副甲状腺摘出術、胃EMR、大腸EMR、食道EMR、胃ESD、大腸ESD、食道ESD、レミケード、大腸ハイブリッドEMRの改訂を行った。

改定により、記録として認められ、記録時間の短縮が図れた。2月クリパス大会にて症例発表予定である。

**【今後の課題】**

1．看護サマリー項目：病気・治療の説明と受け止め方の記載と取り込み内容（患者・家族の要望や希望）の相違に関してのシステム変更を行う必要がある。

2．183件のクリパスの未改定がある。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 看護部業務委員会

委員長　西田 美香

**【目的】**

看護職員に関わる業務に必要な見直し、分析・検討を行い、適切な看護を提供する

**【目標】**

1．看護業務の見直しを行い、ベッドサイドケアの充実を図る

1）業務量調査の実施と分析・評価

2022年度の看護体制の再構築をもとに、業務量調査を行い、ベッドサイドケア充実の評価を行う。

また、2023年３月よりナースサポーター（夜間看護補助者）の導入による評価を行う。

2．重症度、医療・看護必要度の測定の精度向上を図り、30%以上を維持する

1）重症度、医療・看護必要度の伝達の実施

3．看護部関連マニュアルの整備ができる

1）「症状別看護基準」「疾患別看護基準」「看護補助者基準手順」の改訂

**【活動内容】**

第２木曜日

| 日程 | 内容 |
|---|---|
| ４月27日 | ・年間計画の話し合い |
| ５月18日 | ・メンバー紹介<br>・委員会規定、年間活動計画の説明<br>・看護必要度報告（毎月実施、以降記載省略）<br>・「症状別看護基準」「疾患別看護基準」「看護補助者基準・手順」改訂について意見交換 |
| ６月15日 | ・「症状別看護基準」「疾患別看護基準」改訂作業 |
| ７月13日 | ・業務量調査について説明<br>・「症状別看護基準」「疾患別看護基準」改訂作業 |
| ８月21日～ | 業務量調査実施（8/21～23）３日間　全看護職対象 |
| ９月14日 | ・業務量調査の集計作業<br>・「疾患別看護基準」等の内容の審議や検討（メールでの対応） |
| 10月12日 | ・業務量調査の集計作業<br>・「疾患別看護基準」等の内容の審議や検討（メールで対応） |
| 11月９日 | ・業務量調査集計・分析 |
| 12月14日 | ・業務量調査の分析報告（部署報告） |
| １月18日 | ・業務量調査結果からの分析・評価と課題（全体評価と最終報告）<br>・「症状別看護基準」「疾患別看護基準」改訂作業（修正作業） |
| ２月８日 | ・「疾患別看護基準」の差し替え |
| ３月14日 | ・最終評価及び次年度の計画の検討 |

**【評価】**

1．2022年度の看護体制等の見直しや業務改善及び、ナースサポーターの介入により直接看護は増加している。しかし、看護助手については大きな変化はなかった。今後もタスクシフトシェアを踏まえた業務改善と教育が継続的に必要である。

2．重症度、医療・看護必要度の測定の精度を維持し、30%以上を維持することができた。

3．「症状別看護基準」は使用状況を踏まえ廃止し「疾患別看護基準」「検査基準（一部）」の改訂を行った。看護補助者基準については、「看護補助者指導マップ」を副看護師長研究会で作成した追加した。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 3A病棟（高度救命救急センター）

責任者　宮本 瑠美

**基本方針**

1．安全で質の高い看護の提供
2．根拠に基づいた看護実践ができる看護師の育成
3．病院経営を意識した新規加算の取得
4．関係の質の向上

**目標**

1．ベッドサイドケアの充実を図り、安全で質の高い看護を提供する。
2．OJTを重視した救命ラダー教育を行い、高い倫理観を持ち、根拠に基づいた看護が実践できる看護師を育成する。
3．経営参画を意識した看護実践と体制整備（急性期充実加算、重症患者対応体制強化加算等の新設加算を取得）する。
4．関係の質を向上させ、労働環境を整えることにより、職員の満足度が向上する。

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　運営病床数：22床
救命センター14床　HCU 4 床　ICU 4 床
救急外来 9 床、救急外来隔離診療棟 2 床

2．主な疾患・治療・検査
主な疾患は、脳梗塞、脳出血、外傷性頭蓋内損傷、クモ膜下出血、心筋梗塞、高エネルギー外傷などである。治療・検査については、頭蓋内血種除去術、コイル塞栓術、t-PA療法、血栓回収術、TPA、コイル塞栓術、PCI、PCPS、高気圧酸素療法、HD・CHDF、COVID-19感染症患者のECMO装着など行っている。

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 1066 | 1043 |
| 一日平均患者数 | 13.6 | 14.3 |
| 平均在院日数 | 8.2 | 9.95 |
| 平均年齢 | 65 | 65.6 |
| 病床利用率 | 48.4 | 51 |
| ドクヘリ出動件数 | 839 | 710 |
| 看護必要度 | 83.5 | 86.5 |
| 手術件数 | 340 | 357 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1 名 |
| 副看護師長 | 3 名 |
| 看護師 | 68名 |
| 看護助手 | 3 名 |
| クラーク | 1 名 |

有資格者
クリティカルケア認定看護師 2 名
フライトナース 9 名

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式：受け持ち看護師制
2）看護の特徴
入院時より、入院時重症患者対応メディエーターと多職種カンファレンスを随時行い、早期介入し退院支援を行っている。またABCDEFバンドルを導入によりケアの標準化を図りRST介入により早期抜管・離床に向けたチーム看護を行っている。また、脳死下臓器提供が 1 例あり多職種と協力し対応を行った。

2．教育
1）スタッフ教育
⑴院外研修参加状況
日本DMAT研修 1 名、原子力災害時医療中核人材研修 2 名、救急看護エキスパートナース研修 1 名、医療安全対策研修Ⅰ 1 名、ファーストレベル 1 名、NST実地研修 1 名と参加している。
⑵院内教育の状況
教育委員と担当者を中心に、救急看護の教育にラダー制を導入し教育を実施。OJT強化のため令和 5 年 3 月よりバディ制を導入し先輩看護師と共に患者を看ることで、若手看護師の重症患者の対応や救急外来での看護を行う場面が増えている。
2）学生教育
成人看護学急性期を担当。担当者を専任化しオリエンテーションを実施している。2022年より見学を中心とした 2 日間の実習へ変更している。術後患者の見学や重症患者の清潔ケアを一緒に実践している。
3）看護研究・学会発表
⑴国立病院総合医学会
①高度救命救急センターにおけるADCDEバンドル導入の取り組みと今後の課題：内野佳樹他
②ICU退室後の患者における妄想記憶の実態と関連要因の分析：百枝裕太郎他
③高度救命救急センターにおけるICU Diary導入の取り組みと今後の課題：門畑綾花他
④患者がストレスを生じる高度救命救急センター環境の実態：松尾悠美
⑵日本航空医療学会
①当院救命救急センターにおけるフライトナース志願の阻害要因について：木﨑愛

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 3B病棟（脳神経疾患センター）

責任者　清水 周二

## 基本方針

1．脳疾患患者を積極的に受け入れ地域医療に貢献する
2．患者・家族に適した看護の実践
3．笑顔の見える環境の推進

## 目標

1．効果的な病床運用を行う
2．働きやすい職場をつくる
3．安心・安全な医療を提供する
4．急性期看護の実践能力を備えた看護師の育成

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：48床
　　脳外科30床　　脳神経内科18床
2．主な疾患・治療・検査
　脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・
　脳腫瘍・てんかん・頭部外傷・神経難病・
　脳血管内治療・動脈瘤クリッピング術・
　開頭腫瘍摘出術・脳梁離断術・
　脳血管造影検査・長時間脳波モニタリング

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 540 | 483 |
| 一日平均患者数 | 43.4 | 43.4 |
| 平均在院日数 | 22.7 | 25 |
| 平均年齢 | 68.2 | 67.6 |
| 病床利用率 | 90.5 | 90.4 |
| CP使用率 | 33.7 | 32.3 |
| 看護必要度 | 25.5 | 23.8 |
| 手術件数 | 203 | 195 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 32名 |
| 看護助手 | 6名 |
| 診療看護師（診療部・脳外科） | 2名 |

有資格者
　てんかん診療支援コーディネーター　1名
　DMAT　2名

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
　固定チーム+プライマリーナーシング
2）看護の特徴
　対象は小児から後期高齢者に及んでいる。高齢化に伴い、誤嚥性肺炎の発症や栄養状態の悪化のため重症化する患者が多く、褥瘡予防対策チームや摂食嚥下チーム、NSTと協働しながら回復期に移行できるよう介入している。平成28年より退院支援担当者を含めた退院支援カンファレンスを2回／週行い、入院早期からの退院支援に繋げている。また、令和3年6月よりリハビリカンファレンスの体制の見直しを行い、医師・リハビリスタッフ・栄養士・JNP・退院支援看護師等多職種でリハビリ内容・予測される転帰の検討を行っている。そのようななか、嚥下状態に注意した食事介助、褥瘡発生予防の体位調整、覚醒・ADL向上に向けた離床に留意しケアを行っている。

2．教育
1）スタッフ教育
　教育実地担当者が中心となり教育計画を作成し、個々の状況を加味しながらOJTを実施している。
⑴院外研修参加状況
・令和5年度看護師特定行為研修6月～1月　中道大夢
・2023年度第1回てんかん診療支援コーディネーター研修会　8月　黒田由依香・谷口幸代
・てんかんに関する看護師研修会　11月　寺坂賢太
・2023年度第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会　12月　谷口幸代
・神経・筋難病看護エキスパートナース研修　12月　下村早織
2）学生教育
　活水女子大学看護部より、基礎看護学実習・基礎看護学実習Ⅱ・看護学統合実習の受け入れを行っている。学生指導担当者が、病棟で多く使用する、意識・運動レベルの見方など病棟の特殊性も踏まえた指導を行っている。
3）看護研究・学会発表
⑴日本看護技術学会　ランチョンセミナー
　携帯型エコー導入（排泄）の実際と工夫
　黒田由依香　他

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 4A病棟（成育医療センター）

責任者　菅 明美

**基本方針**

1．安全で質の高い看護を提供する
2．総合周産期母子医療センター、てんかん拠点病院としての機能を果たす
3．リスペクトしあえる職場風土を醸成する

**目標**

1．自部署の特性を活かし、地域医療・看護との連携を図る
2．働きやすい職場環境を作る
3．マニュアルに沿った行動を遵守し、安全な看護が提供できる
4．個別性に応じた質の高い看護の提供とOJTでの後輩指導

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：　58床
NICU　9床　GCU　21床　小児病棟　28床

2．主な疾患・治療・検査

1）主な疾患（上位5）

| | 小児病棟 | 未熟児 |
|---|---|---|
| 1 | てんかん | 低出生体重児 |
| 2 | 気管支炎 | 超低出生体重児 |
| 3 | 肺炎 | 呼吸障害 |
| 4 | インフルエンザ | 極低出生体重児 |
| 5 | 熱性けいれん | 早産児 |

2）検査

小児病棟では、てんかん診療拠点病院として脳波モニタリングや脳梁離断術等のてんかん手術が多い。また、未熟児病棟では人工呼吸器管理、保育器管理、点滴による呼吸・循環管理を行い、未熟児網膜症による眼底検査や光凝固治療を行っている。

## Ⅱ．患者の動向

| | 小児 | | 未熟児 | |
|---|---|---|---|---|
| | 2022年 | 2023年 | 2022年 | 2023年 |
| 入院患者数 | 870 | 1115 | 163 | 135 |
| 一日平均患者数 | 12.1 | 14.4 | 14.4 | 15.5 |
| 平均在院日数 | 4.9 | 4.6 | 43.1 | 57.3 |
| 平均年齢 | 6.0 | 5.6 | 0 | 0 |
| 病床稼働率 | 52.4 | 62.7 | 48.7 | 52.4 |
| CP使用率 | 32.5 | 22.4 | 0 | 0 |
| 手術件数 | 153 | 151 | 2 | 4 |
| 人口呼吸器管理 | 536 | 151 | 1239 | 1754 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 3名 |
| 看護師 | 62名 |
| 看護助手 | 3名 |
| クラーク | 2名 |

有資格者

| | |
|---|---|
| 新生児集中ケア認定看護師 | 1名 |
| 集中ケア認定看護師 | 1名 |
| てんかん診療支援コーディネーター | 1名 |

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴

1）看護方式

受け持ち看護師制＋チームナーシング

2）看護の特徴

当病棟は、総合周産期母子医療センター、てんかん拠点病院及びBFH施設としての役割を担う小児病棟と未熟児病棟（NICU・GCU）を有しており、24時間体制で入院患者を受け入れている。産婦人科、精神科、脳外科、MSW、薬剤科、栄養科など多職種と連携し、周産期精神リエゾンカンファレンスやCPT（Child Protection Team）カンファレンスなど様々なカンファレンスを実施し、患者個々の状況に応じた看護を提供している。

2．教育

1）スタッフ教育

人工呼吸器装着時の看護ができるスタッフの育成のため、Actyのレベル毎の進捗状況の確認、指導方法の検討を毎月実施している。

⑴院外研修参加状況

・看護師特定行為研修　1名
・実習指導者養成講習会　1名

2）学生教育

⑴活水女子大学看護学部 小児看護学実習
⑵活水女子大学看護学部　母性看護学実習
⑶向陽高等学校看護専攻科 小児看護学実習

3）看護研究・学会発表

⑴国立病院総合医学会

緊急入院となった乳幼児のコロナ禍における付き添い制限の保護者への影響
大浦　栞　他

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 4B病棟（成育医療センター：産婦人科）

責任者　西田 美香

**基本方針**

1．すべての妊産褥婦・新生児と家族に安心と安全な治療と看護を提供する
2．女性のライフステージに応じて寄り添う看護を実践する

**目標**

1．総合周産期母子センターとして、妊産褥婦・新生児と家族に寄り添う看護を実践する
2．患者及び家族の希望に沿った支援ができるよう調整や連携、看護実践を行う

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：41床
主な診療科：産婦人科
2．主な疾患・治療・検査
疾患（産科）：切迫流早産、既往帝王切開後妊娠、子宮内発育不全　等
検査・治療：CTG、安静、薬物療法
疾患（婦人科）：卵巣癌、子宮体癌 等
検査・治療：手術療法、薬物（抗がん剤）治療、放射線治療

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 1391 | 1305 |
| 一日平均患者数 | 31.4 | 29.6 |
| 平均在院日数 | 8.3 | 8.2 |
| 平均年齢 | 38.4 | 36.7 |
| 病床利用率 | 76.6 | 72.1 |
| 看護必要度（%） | 43.4 | 36.0 |
| 手術件数 | 473 | 496 |
| 分娩件数 | 608 | 556 |
| 経膣分娩数（再掲） | 390 | 349 |
| 帝王切開数（再掲） | 218 | 207 |
| 救急搬送数（件） | 164 | 123 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 14名 |
| 助産師 | 27名 |
| 看護助手 | 3名 |

有資格者
アドバンス助産師7名（4B在籍者のみ）

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
プライマリーナーシングと一部機能別看護
2交代制勤務

2）看護の特徴
看護職は、助産師と看護師で構成されている。新生児から高齢の方まで、幅広い年齢層及びライフステージの女性を対象として看護実践を行っている。特に、婦人科疾患では、外科的治療や薬物療法だけではなく、ターミナル期のケアも行っている。産科については、BFHの施設としても精神的・社会的ハイリスクの妊産褥婦への支援も行っている。助産師として、妊娠期の保健指導、産後の母乳外来、1か月健診での関わりと乳腺炎の患者へのケアを実施している。

2．教育
1）スタッフ教育
医師や認定看護師等と協働でシミュレーション教育や勉強会を実施している。
⑴院外研修参加状況
・保健師助産師看護師実習指導者講習会（県看護協会　主催：1名）
・がんチーム医療研究会（NHO主催：1名）
・認知症高齢者の看護実践に必要な知識（県看護協会　主催：1名）
・看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修（NHO主催1名）
・ALSO研修：2名、NCPR研修（更新含む）：7名
2）学生教育
⑴向陽高等学校　看護学科・看護専攻科　母性看護学実習
⑵活水女子大学　看護学部看護学科　統合実習、母性看護学実習
3）地域活動
⑴思春期こころとからだの健康づくり事業（大村市）における講話（高校2校、中学校6校）
4）看護研究・学会発表
⑴第59回日本周産期・新生児医学会学術集会
当院における新型コロナウイルス感染症妊婦の経膣分娩管理に向けた取り組み（ポスター）
安田祐子
⑵院内研究
病棟助産師による性教育が中学生の自尊感情に与える影響宇
田川　真希　平野　絵梨

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 5A病棟（腎疾患センター）

責任者　山下 由起子

**基本方針**

1．患者一人ひとりに沿った専門的で質の高い看護の提供
2．安全で安心な療養環境の提供
3．専門職として自己研鑽に努め責任のある看護

**目標**

1．患者のニーズをとりいれた質の高い看護の提供
2．医療事故の予防・再発防止に努め、患者の安全でできる安心できる療養環境を提供できる
3．キャリアニーズに沿った自己研鑽を図り、看護師としての役割を果たすことができる
4．病院経営の積極的参加、排尿自立支援加算の取得
5．働き方改革の推進と良好な人間関係に基づく風土作り

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床統計　総病床数：49床
泌尿器科29床　腎臓内科10床
皮膚科５床　内分泌・代謝内科５床

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 1101 | 1339 |
| 退院患者数 | 1130 | 1340 |
| 死亡 | 16 | 14 |
| 一日平均患者数 | 33.1 | 37.6 |
| 平均在院日数 | 10.8 | 10.4 |
| 平均年齢 | 67.9 | 68.1 |
| 病床利用率 | 76.4 | 76.7 |
| 病床稼働率 | 73.8 | 84.2 |
| 特室利用率 | 68.3 | 71.1 |
| 看護必要度 | 23.4 | 23.7 |

2．インシデント（上位5）　総件数119件

| | |
|---|---|
| 薬剤（与薬・注射） | 48 |
| 転倒転落 | 19 |
| インスリン・血糖測定 | 9 |
| ドレーン・チューブ類の管理 | 8 |
| 検査（放射線・内視鏡を除く） | 8 |

## Ⅱ．患者の動向

1．主な疾患
慢性腎不全・前立腺腫瘍・膀胱腫瘍
上部尿路疾患・２型糖尿病

2．治療・検査・処置
手術・血液透析・腹膜透析・化学療法
献腎移植（１件）・生体腎移植（５件）

3．保健指導

| 個人<br>栄養指導 | 集団<br>栄養指導 | 薬剤指導 | 糖尿病教室<br>（10～12月） |
|---|---|---|---|
| 283件 | 12件 | 535件 | 29名 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| 看護師長 | 副看護師長 | 看護師 | 看護補助者 |
|---|---|---|---|
| １名 | ２名 | 29名 | ４名 |

## Ⅳ．看護の概要

1．看護体制
1）施設基準：急性期一般入院基本料1
看護方式：固定チームナーシング
夜勤体制：二交替制
2）看護の特徴
外科系・内科系の混合病棟であり、急性期、回復期、慢性期、終末期の幅広い患者を受け入れている。
有資格者が多数在籍しており、腎移植前後・透析導入前後・ストーマケア・化学療法患者・糖尿病患者に対して、専門性の高い看護を実践している。
中止していた糖尿病教室を10月より再開した。

2．教育
1）スタッフ教育
⑴院外研修参加状況
・看護師特定行為研修　長崎医療センター
磯本莉穂
・認定看護管理者教育課程ファーストレベル
長崎県看護協会：山下由起子
岩本聡
・高齢者医療・在宅医療総合看護研修
認知症高齢者看護②：樫本希美

2）学生教育
活水女子大学看護学部学生の基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱ、成人看護学実習Ⅱ、統合実習を受け入れている。

3）看護研究・学会発表
⑴国立病院総合医学会
偶発性低体温症による蘇生後の人工呼吸管理・リハビリにおいて、特定行為看護師による治療連携により良好な転帰を得た一例
田中恵里

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 5B病棟（感覚器疾患センター）

責任者　大山 加奈子

**基本方針**

1．ベッドサイドケアの充実
2．急性期看護の実践能力を備えた看護師の育成
3．関係の質を向上し、働きやすい職場をつくる

**目標**

1．患者・家族へ安全安心な看護を提供できる
2．専門性が高い看護師の育成
3．WLBの推進と関係の質向上

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：48床
　頭頚部耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、整形外科
2．主な疾患・治療・検査
　【頭頚部耳鼻咽喉科】
　悪性疾患（咽頭、舌、上顎、口腔底、上中下咽頭、甲状腺、頸部、頬部）急性・慢性中耳炎、副鼻腔炎、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺
　【形成外科】
　熱傷、褥瘡、四肢切断、皮膚腫瘍、鼻骨・頬骨骨折、口蓋裂、口唇裂
　【眼科】白内障、緑内障、網膜剥離
　【整形外科】圧迫骨折、外傷で形成との併診

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 1,495 | 1,550 |
| 一日平均患者数 | 37.2 | 37.6 |
| 平均在院日数 | 9.0 | 8.8 |
| 平均年齢 | 65.3 | 64.7 |
| 病床利用率 | 77.4 | 78.5 |
| 病床稼働率 | 87.2 | 87.8 |
| CP使用率 | 56.9 | 54.8 |
| 看護必要度 | 29.7 | 33.85 |
| 手術件数 | 1,066 | 1,114 |
| DPCⅡ期以内 | 76.6 | 76.1 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 26名 |
| 看護助手 | 3名 |
| ナースサポーター | 1名 |

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　固定チームナーシング＋プライマリーナーシング
　2）看護の特徴
　　外科的手術治療・放射線治療・化学療法・創傷治療を行っている。喉頭摘出や四肢断裂、熱傷などによりボディイメージが変化した患者や放射線・化学療法による有害事象が生じている患者が多く入院されており、退院後の生活サポートや精神的ケアなどの看護を行っている。
2．教育
　1）スタッフ教育
　⑴院外研修参加状況
　・e-field研修　荒木眞吏
　・医療安全対策研修Ⅰ　大塩あゆみ
　・NST実地修練研修　牧亜理沙
　・実習指導者講習会　大山加奈子、梅野香織
　・認知症ケア研修　三浦彩梨、一瀬かえで
　2）学生教育
　　活水女子看護大学の基礎看護学Ⅰ,Ⅱ、成人看護学Ⅰ、統合実習を受け入れ、実習指導者の専任化を実施
　3）看護研究・学会発表
　⑴国立病院総合医学会
　①高度救命救急センターにおいて安全で専門性の発揮できる看護体制の構築
　大山加奈子
　②急性期の病院における頭頸部癌終末期患者の口腔ケアについての検討　平川　珠理
3．業務改善
　看護補助者と連携を図り、部屋移動の時間を手術時間に合わせ、朝の多忙な時間に患者搬送ができるようにした。ナースサポーターによる夕食の配下膳、イブニングケアを実施することで直接看護が導入前より4％増加した。また、看護師が与薬業務、記録に専念することができている。
4．医療事故防止
　転倒が35件（37.2％）と一番多いため、リスク感性を高めるためにKYTを行い、転倒事例はカンファレンスを実施し、情報共有に努めた。2ヶ月に1回5Sラウンドを実施し、ベッドサイドの環境調整を重点的に行った。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 6A病棟（循環器病センター）

責任者　田淵 貴子

**基本方針**

1．循環器・呼吸器外科、総合診療科の急性期に対応できる質の高い看護の提供
2．多職種での入退院支援を実施し、患者一人一人に寄り添った看護の提供
3．職種を超えリスペクトし、職員一人一人を大切にする職場環境の整備

**目標**

1．科学的根拠に基づいた循環器、急性期看護実践能力の高い看護師育成
2．看護専門職として必要なスキルを身につけ、看護チームの一員として能力を発揮し、対人関係構築ができるスタッフの育成
3．看護の視点に立ち、安全で快適な入院環境を提供できる
4．職員が経営を意識した行動をとり、経営参画することが出来る
5．働き方改革を実施し、職員が働きやすく、働き続ける職場環境を作る

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：
（重症個室４床　有料個室７床　CCU３床　４人部屋36床）　病床数　50床
循環器内科　心臓血管外科　呼吸器外科　総合診療科

2．主な疾患・治療・検査
【循環器内科】狭心症、心筋梗塞・心不全、完全房室ブロックなど不整脈
◎心臓カテーテル検査及び治療、ペースメーカー植え込み術
【心臓血管外科】
心筋梗塞、狭心症、弁疾患、腹部大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、下肢血栓症
◎冠動脈バイパス術、弁置換術、弁形成術、人工血管置換術、血栓除去術、ステントグラフト内挿術
【呼吸器外科】
肺癌、気胸、膿胸、縦隔腫瘍
◎肺切除術
【総合診療内科】
内科系疾患（肺炎、膠原病、敗血性ショックなど）

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 1211 | 1125 |
| 一日平均患者数 | 37.1 | 36.4 |
| 平均在院日数 | 10.7 | 13.2 |
| 平均年齢 | 70.4 | 70.8 |
| 病床利用率 | 78.5 | 78.0 |
| CP使用率 | 68.8 | 53.6 |
| 看護必要度 | 37.3 | 38.0 |
| 手術件数 | 248 | 274 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | １名 |
| 副看護師長 | ２名 |
| 看護師 | 29名 |
| 看護助手 | ３名 |

有資格者：心不全療養士１名　BLSプロバイダー３名
ACLSプロバイダー２名

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
固定チームナーシング＋プライマリナーシング
2）看護の特徴
CCU４床、重症個室３床においては、術後や重症心不全などの全身状態に応じた丁寧な看護が必要とされる。また、大部屋や特別室においては、術後や心不全などの心臓リハビリ、また呼吸器リハビリを実施している患者が多く退院指導も実施している。心臓カテーテル検査及び治療患者などには安心して診療を受けることができるようにクリティカルパスに沿い統一した看護を提供している。総合診療科は精査や治療が多種多様であるため、医師と協働しながら看護提供している。

2．教育
1）スタッフ教育
・心不全療養士学習会の定期的な参加
・重症看護　心臓リハビリテーション看護教育
・循環器学会、循環器看護学会への参加
2）学生教育
専任化体制にて基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ、看護学統合実習の受け入れ

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 6B病棟（骨・運動器センター・総合診療内科）

責任者　川﨑 多恵子

## 基本方針

1．整形外科、総合診療内科等の患者に対する安全で質の高い医療・看護の提供
2．地域拠点病院として地域の医療機関や行政と密に連携し患者から信頼を得る
3．病院経営への積極的参画

## 目標

1．チーム医療を推進し連携を図ることで患者個々に応じた質の高い看護を提供できる
2．安全な看護を提供するための対策を検討し、５Ｓを意識した療養環境整備が徹底できる
3．二次性骨折予防継続管理料取得に向けてのシステムの構築と算定取得の維持

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：　49床
　整形外科25床　　総合診療内科24床
2．主な疾患・治療・検査
　整形外科では大腿骨頚部骨折をはじめとする大腿骨近位部骨折や変形性股関節、膝関節症の手術療法、脊椎や腰椎疾患、事故等による多発外傷、脊髄損傷患者を受け入れている。総合診療内科では発熱や痛み、炎症などの原因を追究し治療方針を決定するための検査目的の患者や、膠原病、関節リウマチ等の症状コントロール目的の患者を受け入れている。

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 686 | 711 |
| 一日平均患者数 | 36.7 | 36.5 |
| 平均在院日数 | 17.4 | 16.4 |
| 平均年齢 | 68.0 | 69.2 |
| 病床利用率 | 75.0 | 74.5 |
| CP使用率 | 11.1 | 12.2 |
| 看護必要度 | 36.7 | 38.6 |
| 手術件数 | 504 | 455 |
| 重症個室利用率 | 98.4 | 85.8 |
| 有料個室利用率 | 52.1 | 56.9 |
| 二次性骨折予防継続管理料 | 7月～開始 68件 | 157件 |
| 緊急整復・緊急挿入加算（人工骨頭） | 7月～開始 33件 | 87件 |
| DPCⅡ期以内退院率 | 55.8 | 61.8 |

## Ⅲ．保健指導・加算

| | |
|---|---|
| 入退院支援加算 | 558件 |
| 服薬指導 | 365件 |
| 栄養指導 | 64件 |

## Ⅳ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 看護師長 | 1名 | 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 29名 | 看護補助者 | 3名 |

## Ⅴ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　固定チームナーシング
　2）看護の特徴
　　整形外科領域では後期高齢者が多く運動機能を障害された急性期から回復期の患者のQOLの維持、向上に向け早期離床を促し日常生活が自立できるように援助している。総合診療内科領域においては、疾患が幅広く症状に応じた看護を提供している。合併症や重症化しやすい症例が多く、多岐に渡るアセスメント能力や対応を求められており、他職種との連携を図りながら患者、家族支援を行い看護の質の向上に努めている。
2．教育
　1）スタッフ教育
　⑴院外研修参加状況
　　・認知症高齢者の看護実践に必要な知識
　　野﨑友香
　　・実習指導者養成講習会　江濱弥生
　　・高齢者医療・在宅医療総合看護研修
　　認知症高齢者の看護②　山口由香里
　2）学生教育
　　活水女子大学より、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱと成人看護学実習Ⅰ、統合実習の学生を受け入れている。
　3）看護研究・学会発表
　⑴国立病院総合医学会
　大腿骨近位部骨折患者の早期離床に向けた整形外科病棟による介入の実態調査：井原悠里
　⑵院内研究
　大腿骨近位部骨折患者に行った早期離床介入後のADLに関する実態調査：百武未佳

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 7A病棟（総合外科センター）

責任者　川畑 貴寛

**基本方針**

1．外科患者の積極的な受け入れ
2．ワークライフバランスの推進
3．寄り添ったがん看護の実践

**目標**

1．看護体制の確立と業務内容の見直しを行い職員がワークライフバランスを保てるようにする。
2．５Sの充実を図り、患者満足度の高い療養環境を提供するとともに、職員も働きやすい職場環境を整える。
3．ベッドサイドケアの充実を図り、看護の質を向上させることでDPCを意識した退院調整が行える。
4．がん看護と周手術期看護の知識と技術を高め、専門性の高い看護実践ができる看護師を育成する。

**Ⅰ．病棟の特徴**

1．病床数構成　総病床数：48床
　　外科・乳腺外科48床
2．主な疾患・治療・検査
　大腸がん、胃がん、肝がん、膵がん、
　胆のう炎、乳がん
　腹腔鏡下胆のう摘出術、乳房切除術、結腸切除術、胃切除術、亜全胃温存膵頭十二指腸切除術、肝切除術

**Ⅱ．患者の動向**

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 1090 | 1059 |
| 一日平均患者数 | 35.1 | 34.7 |
| 平均在院日数 | 11.2 | 11.5 |
| 平均年齢 | 65.0 | 65.9 |
| 病床利用率 | 81 | 73.1 |
| 病床稼働率 | 89 | 80 |
| CP使用率 | 75.9 | 77.1 |
| 看護必要度 | 49.4 | 51.7 |
| 手術件数 | 713 | 719 |

**Ⅲ．看護職員数**（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 28名 |
| 看護助手 | 3名 |

**Ⅳ．看護の概要**

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　モジュール・セル方式混合
　2）看護の特徴
　　消化器、食道、肝・胆・膵、乳房、甲状腺の予定手術や外傷・穿孔・閉塞等による緊急手術に対し、術前から術後まで全身管理を行いながら、早期離床、合併症予防を図り、安全安楽に回復が促進されるよう援助を行っている。また、がん化学療法看護、放射線療法看護やがん再発の緩和ケアについては、がん関連認定看護師に相談・介入を依頼しながら患者の状態把握、症状緩和に努め、その人らしく生を全うできるよう患者やその家族の支えとなる看護を提供している。

2．教育
　1）スタッフ教育
　　医師、病棟配属のJNPの協働し、カンファレンスの時間を活用して、周手術期における看護や疾患毎の勉強会を月１回程度開催し、病棟全体の知識の向上を図っている。
　⑴院外研修参加状況
　・認知症ケア研修：木佐貫真子
　・実習指導者養成講習会：牧山隼人
　・認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）
　　川畑貴寛
　2）学生教育
　　活水女子大学受け入れ
　　基礎看護学実習Ⅰ：７名
　　基礎看護学実習Ⅱ：４名
　　成人看護学実習Ⅰ：69名
　　看護学統合実習：７名
　3）看護研究・学会発表
　⑴国立病院総合医学会
　　①術式別に見た離床状況の実態と課題
　　荒木梨花・松﨑のぞみ
　　②術後せん妄に対する看護師の判断基準統一化に向けた取り組み
　　横田朱音・高見栞

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 7B病棟（総合診療センター）

責任者　酒谷 紀子

## 基本方針

1．第２種指定感染症病棟の役割を担っている。
2．MDRA感染患者とCOVID-19感染患者の対応を行っており、感染症に強い病院としての役割を担っている。
3．感染対策チームとして多剤耐性菌対策等の情報発信や感染管理の実践を行っている。

## 目標

1．アフターコロナを見据えた病床運営
2．他病棟応援体制の整備
3．特定看護師と協働しジェネラリスト看護師のアセスメント力向上

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成
第２種指定感染症病床　　４床
MDRA病床 総合診療科　３床
COVID-19病床　　14床

2．主な疾患・治療・検査
COVID-19感染症
ヒトメタニューモウイルス感染症
くも膜下出血後
うっ血性心不全
急性硬膜下血種

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 308 | 247 |
| 一日平均患者数 | 9.4 | 78 |
| 平均在院日数 | 12.4 | 12.6 |
| 平均年齢 | 43.9 | 63.4 |
| 病床利用率 | 21.4 | 17.4 |
| CP使用率 | 4 | 2 |
| 看護必要度 | 9.7 | 28.0 |
| 手術件数 | 6 | 8 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | １名 |
| 副看護師長 | １名 |
| 看護師 | 21名 |
| 看護助手 | ２名 |

有資格者　特定看護師１名　フライトナース１名

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
チームナーシング、受け持ち看護師制
2）看護の特徴
第２種指定感染症病棟であり、第２種感染症病床、MDRA感染患者病床、COVID-19感染患者病床を担っている。手指衛生遵守率100％を保持し、感染対策の実施を行っている。また、小児科を含め、様々な診療科の治療や看護が実践できるよう、知識、技術の向上に努めると共に、多職種で連携して患者が安心して療養ができるような関わりを行っている。

2．教育
1）スタッフ教育
⑴部署内学習会状況
１回/月を計画　同じ内容を２～３回実施。
内容：「正しい手指衛生」「教育企画について」「人工呼吸器装着患者の看護」等
参加できないスタッフは資料を用いて自己学習。
⑵院外研修参加状況
・認定看護師教育課程「感染管理」（Ｂ課程）：原文佳
・副看護師長新任研修：岸川しおり
・大規模地震医療活動訓練　DMAT訓練：中村裕子
・日本臨床栄養代謝学会NST専門療法士臨床実地修練：山田昌恵
・原子力災害医療研修（基礎・中核人材）：中村裕子
2）学生教育
現在学生の実習受け入れなし
3）看護研究・学会発表
(1) 国立病院総合医学会
多剤耐性アシネトバクター保菌患者の看護業務を経験した看護師の思い
池田久美子

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 8A病棟（肝疾患センター）

責任者　廣瀬 智美

**基本方針**

1．看護の質の向上
2．働きやすい環境づくり
3．看護能力の開発、自己研鑽

**目標**

1．患者・家族の意向を尊重した看護の実践
2．適切な労務管理とWLBの推進
3．スタッフ個々の学習意欲を高め専門性のある看護の提供

**Ⅰ．病棟の特徴**

1．病床数構成　総病床数：42床
（R5.8月より40から42床に増床）
肝臓内科：42床

2．主な疾患・治療・検査

【疾患】1．総胆管結石 2．肝細胞癌 3．膵癌
4．胆管癌 5．膵炎 6．肝硬変 7．胆嚢炎.胆管炎

【治療・検査】

内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP)、超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA)、経皮的ラジオ波焼灼両方（RFA)、食道静脈瘤治療（EVL)、肝生検、腫瘍生検、経皮的肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）

**Ⅱ．患者の動向**

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 812 | 887 |
| 一日平均患者数 | 29.7 | 29.95 |
| 平均在院日数 | 12.7 | 11.9 |
| 平均年齢 | 70.2 | 70.7 |
| 病床利用率 | 80.3 | 73.5 |
| 入院Ⅱ期間内率 | 49.8 | 53.6 |
| 看護必要度 | 35.9 | 37.8 |
| ERCP件数 | 401 | 307 |
| 血管造影件数 | 56 | 59 |
| 肝・腫瘍生検件数 | 71 | 70 |
| RFA件数 | 24 | 27 |

**Ⅲ．看護職員数**（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 24名 |
| 看護助手 | 2名 |

新卒割合14.8%
看護師平均年齢31歳

**Ⅳ．看護の概要**

1．看護の特徴

1）看護方式

モジュール型看護方式+一部機能別看護方式

2）看護の特徴

肝疾患診療連携拠点病院としての役割を担い、主に肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の入院を受け入れている。

肝がんの治療として、高周波ラジオ波（RFA)、TAE、TACEなどクリティカルパスを活用し看護を提供している。医師、MSW、病棟担当薬剤師、管理栄養士と連携を取りながら退院支援を行っている。

2．教育

ラダー教育対象者の支援者会議を毎月開催した。各レベルの教育計画に沿った進捗状況を確認し、指導者間との情報共有を行った。また、教育内容の共有ファイルを作成し、Acty内容や各レベルの課題をスタッフ全員で共有した。研修生からも研修報告を行い、off-JTで学んだ内容がOJTに繋がるよう関わりを行った。また、個人の進捗に合わせたデビュー時期の検討を行い、スタッフ個々が出来る技術を増やすことで、病棟全体のスキルアップを図った。

⑴院外研修参加状況

・がん看護エキスパートナース研修
黒田麻衣香

3．医療・看護の質の向上

毎日カンファレンスを行い、転倒防止策や抑制の必要性などを検討すると共に、他職種も一緒に患者や家族の気持ちに寄り添った看護について話す機会を設けていった。また、毎週1回、記録カンファレンスを行い、看護計画の見直し修正を行い、日々の看護実践に繋げていった。ヒヤリハットは総件数98件と前年度より21件増加した。転倒防止策の検討を日々行っているにも関わらず、前年度同様、転倒転落が20件（前年度21件）と20%を占めており、20件中4件が骨折事例を認めた。Pm-SHELL分析やKYTを用いて、分析・改善策の検討を行った。また、プロセスレコードを用いて、患者との関わりにおける自己の看護の振り返りを行った。転倒に次いで、注射21件、内服19件と確認不足による内容が多くを占めていた。

4．経営参画

R5.8月より観察室（841号室）として2床増床し有料個室の無料転用は減少した。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 8B病棟（消化器・呼吸器センター）

責任者　尾上 嘉周子

## 基本方針

1．高い知識・技術・倫理観に基づいた看護の実践
2．多職種と連携しチームとして適切な看護の提供
3．専門職業人としての主体的な行動

## 目標

1．医療・看護の質の向上
2．安全な医療の提供
3．各職種に応じた責任と役割を果たせる人材育成
4．病院経営への積極的参画
5．WLBの向上と、働き方の改善を図る

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数　49床
　消化管内科　32床　　呼吸器内科　17床
2．主な疾患・治療・検査
　消化管内科の疾患として胃・大腸・食道の悪性疾患、潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患。
　検査・治療は、内視鏡検査、治療・化学療法放射線治療。
　呼吸器疾患の疾患として悪性腫瘍、間質性肺炎、検査・治療は、内視鏡検査、呼吸器管理・化学療法、放射線治療、結核疑い患者においては簡易陰圧室での感染管理を実施。

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 新入院患者数 | 1,330 | 1,311 |
| 一日平均患者数 | 38.4 | 37.7 |
| 平均在院日数 | 10.4 | 10.5 |
| 平均年齢 | 70.8 | 67.4 |
| 病床利用率 | 78.3 | 76.9 |
| CP使用率 | 41.4 | 43.9 |
| 重症度、医療・看護必要度 | 26.9 | 28.7 |
| 手術件数 | 43 | 59 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 27名 |
| 業務技術員 | 3名 |
| ナースサポータ（派遣） | 2名 |

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　固定チームナーシング看護方式＋一部機能別
　2）看護の特徴
　　確定診断や治療のため、検査に伴う不安の軽減や化学療法、放射線治療、呼吸器管理を行う患者の管理など、看護の領域は多岐にわたる。
　　コ・メディカルと連携を図り在宅支援を必要とする患者の支援に積極的に取り組み、早期介入を図っている。
　　内視鏡治療は、大腸EMRは144件、大腸ESDは44件、胃ESDは43件であった。治療や検査搬送等が多い中、口頭での伝達依頼にならないよう依頼用紙を工夫して看護師間の連携を図った。その結果、検査搬送に伴う患者誤認に関するヒアリハット件数は0件であった。
2．教育
　1）スタッフ教育
　　レベルⅠでは個々の成長に合わせ、看護実践できるよう業務内容を調整した。「全員が実地指導者」というスタンスで、1回／月　実習指導者会議を開催し、進捗状況を確認。2年目以上の看護師が教育・看護実践に関わることができた。レベルⅡ以上の研修生に対しても実践できる業務内容を拡大し、病棟内での存在感を発揮できるよう支援した。
　⑴院外研修参加状況
　　・認知症ケア研修　道副　照美
　　・院内感染対策研修会　里山　隼一
　　・看護協会県央支部情報交換会
　　　尾上　嘉周子
　　・長崎県看護管理者育成研修　前川　一樹
　2）学生教育
　　実習における指導者の専任化を継続した。
　　チームメンバーとの情報共有や業務調整を実施し学生のレディネスやレジリエンスに応じた関わりを実施し目標が達成できるよう支援を行い、担当教員とも連携・情報共有を図った。臨地実習前には、実習の目的・目標、実習要綱をスタッフへ周知し、実習中は専任看護師が、看護計画の確認や清潔ケアなどの看護実践、患者の観察を共に行うことで、統一した指導へ繋がった。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 9A病棟（化学療法センター）

責任者　原 知里

**基本方針**

1．患者・家族の意向の最大限の尊重と支援に向けた活発なチーム医療実践
2．安全な化学療法管理と患者の安楽を目指した症状マネジメントの実践
3．病院経営への参画と入院から外来までのシームレスなケアの提供

**目標**

1．関係の質の維持・向上による職員満足度、患者満足度の向上
2．各ラダー段階に応じた実践能力と対人関係能力を備えた看護師の育成
3．ルールに基づいた実践とリスク感性醸成による医療安全の質の向上
4．医業収支100％の取り組みへの貢献と病棟－外来連携のモデル病棟としての運営

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成

| 総病床数 | 血液内科（内婦人科5床） | 呼吸器内科 |
|---|---|---|
| 56床 | 33床 | 23床 |

2．主な疾患

血液疾患（白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫）や呼吸器内科系疾患（肺がん•肺炎）に対する、検査・診断・治療が行われている。

## Ⅱ．患者の動向

1．病棟運営状況

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数 | 1024 | 1083 |
| 一日平均患者数 | 43.4 | 45.7 |
| 平均在院日数 | 15.5 | 15.3 |
| 病床利用率 | 77.6 | 81.1 |
| 平均年齢 | 69.8 | 70.1 |
| 看護必要度 | 24.0 | 24.6 |

2．主たる治療・検査・処置件数　　単位：件

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 手術件数 | 46 | 64 |
| 化学療法件数 | 3531 | 3289 |
| 輸血件数 | 1142 | 1392 |
| 骨髄穿刺 | 73 | 81 |
| 末梢血幹細胞採取／自家移植 | 9/6 | 3/5 |
| 気管支鏡 | 27 | 69 |
| 胸腔穿刺 | 21 | 44 |

3．保健指導　　単位：件

| 個人栄養指導：220 | 薬剤管理指導：516 |
|---|---|

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| 看護師長 | 副看護師長 | 看護師 | 看護補助者 |
|---|---|---|---|
| 1名 | 2名 | 32名 | 4名 |
| 有資格者：臨床輸血看護師•介護支援専門員　各1名 | | | |

## Ⅳ．看護の概要

1．看護配置・体制

| 施設基準 | 看護師配置状況 | | 看護師平均年齢 | 夜勤体制 |
|---|---|---|---|---|
| | 看護師数 | 新卒割合 | | |
| 7：1 | 32名 | 12.5% | 29.8歳 | 2交代：4人夜勤 |

1）看護方式：固定チームナーシング

2年目以下の看護師の増加と繰り返し化学療法施行する患者が多い病棟の特徴がある。同じチームメンバーでスタッフ間と対患者ともに継続した支援ができるように3チームで1年間同じメンバーを設定した固定チームナーシングで看護を提供している。

2）看護の特徴

入院患者の大部分が悪性疾患であるため、全人的な苦痛を抱える患者ケアが主軸となる。がん化学療法看護認定看護師と連携し、安全、確実に化学療法が実施できるように専門性の高い看護を提供している。また2023年度からは、シームレスな継続看護の実践に向け、外来化学療法センターとの連携を開始し、1回/週程度の外来化学療法センター勤務を行っている。

2．教育

1）スタッフ教育

安全で確実な化学療法看護、がん看護の実践に向け、1～2回/月程度で学習会を実施している。

4～6月：胸腔ドレーンの管理、輸血時の看護、がん化学療法の概要（CN主催）、がん化学療法（血管外漏出、IR、過敏症）、人工呼吸器装着中の看護（JNP主催）、CVポート管理、CO2ナルコーシス病態、がん化学療法（暴露予防）

7～12月：レブラミド管理、気切管理、急変事例・痙攣事例・METシミュレーション演習

(1)院外研修参加状況：

- 認定看護管理者教育課程：ファーストレベル
- がんチーム医療研修会

2）学生教育

- 実習指導者専任化
- 嬉野医療センター附属看護学校の講義（血液疾患の看護、移植領域）

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 9B病棟（精神・リエゾンセンター）

責任者　小森 みづほ

## 基本方針

1．精神科と身体科の医師が連携し、精神疾患、または精神疾患を合併した患者の治療と看護を行う
2．全診療科患者が対象であり、骨折や、消化器等の外科手術前・後、悪性腫瘍の放射線療法・化学療法等の専門的治療を受ける内科患者の看護を行う
3．精神看護を基本として、患者・家族のニードの把握に努め、患者の安心・安全、人権を尊重した看護を行う

## 目標

1．安心・安全な患者中心の看護を提供する
2．病院経営に参画する
3．精神科・リエゾン病棟としての専門性を発揮するための人材育成
4．患者の状況にあった療養環境の提供と健康で働きやすい職場つくり

## Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　病床数33床（閉鎖病棟）
2．主な精神科疾患（上位５）

| 統合失調症 | 精神遅滞 | 認知症 | うつ病 | 双極性感情障害 |
|---|---|---|---|---|
| 89 | 36 | 34 | 26 | 20 |

3．主な身体科疾患（上位５）

| 悪性腫瘍 | 骨折 | 自殺企図（薬物中毒） | 肺炎 | イレウス |
|---|---|---|---|---|
| 55 | 22 | 16（14） | 15 | 11 |

4．主な治療（上位５）

| 手術 | 輸血 | 化学療法 | ERCP | ステント |
|---|---|---|---|---|
| 63 | 35 | 15 | 7 | 6 |

5．インシデント

| レベル | 0 | 1 | 2 | 3a | 3b | 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 14 | 18 | 23 | 14 | 0 | 1 |

分類別

| 薬剤：（与薬） | 薬剤：（注射） | チューブトラブル | 転倒転落 | 検査 |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 6 | 18 | 9 | 2 |
| 食事・栄養 | 窒息 | 療養環境 | 情報システム | その他 |
| 3 | 3 | 9 | 3 | 3 |

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 入院患者数（名） | 4,733 | 5,131 |
| 一日平均患者数（名） | 13 | 14.1 |
| 平均在院日数（日） | 24.5 | 25.6 |
| 平均年齢（歳） | 58.8 | 60.3 |
| 病床利用率 | 39.3 | 42.7 |
| CP使用率（%） | 21.6 | 28.6 |
| 手術件数 | 48 | 63 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/４/１現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | １名 |
| 副看護師長 | １名 |
| 看護師 | 17名 |
| 看護助手 | １名 |

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
チームナーシング　２人夜勤３交替
2）看護の特徴
精神疾患、または精神疾患に身体疾患を合併した患者の看護を行っている。入院169名・転入76名。全診療科の患者が対象で、骨折や消化器等の外科手術前・後、悪性腫瘍の放射線療法・化学療法等の専門的治療を受ける患者の看護を行っている。病院や自宅から入院する患者が多く、入院時より次の転帰先を見据えた情報収集、介護保険等の調整、多職種カンファレンスでの検討等を行い患者・家族の意向を尊重しながらの退院支援を行っている。病棟での医療保護入院者生活環境相談員を稼働している。

2．教育
1）スタッフ教育（院外研修参加状況）
包括的暴力防止プログラム研修１名、精神科看護研修１名、看護補助者の活用推進のための看護管理研修１名
2）学生教育
実地指導者専任化で育児時間取得看護師をメインに指導体制をとり教員との情報共有を細やかに行いながら学生教育を行った。
3）看護研究・学会発表
⑴国立病院総合医学会
身体拘束実施患者に対する褥瘡予防対策とスタッフの意識変容　森清架

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 手術センター

責任者　榊原 チハル

**基本方針**

1．安全で安心できる周術期看護の提供
2．効率的な手術室運営
3．高い専門性を持った手術室看護師の育成

**目標**

1．手術を受けるすべての人へ安心・安全な質の高い看護を提供し、周術期看護の質の向上を図る。
2．医療者間のコミュニケーションを良くし、マニュアルを遵守し、安心安全な周術期看護の提供ができる。
3．看護体制（新人教育・育休復帰者・配置換え者）に沿って個々の能力向上を目指した人材育成ができる。
4．効率的な手術室運営（処置漏れ・不動在庫削減・ME機器の破損削減）を行い、病院経営の積極的参画を行う。
5．スタッフ間の関係の質を向上し、ハラスメントのない職場風土、適切な勤務時間管理（時間外勤務時のノー残業デイ）、計画的な年休取得を行う事で働きやすい職場にできる。

**Ⅰ．病棟の特徴**

1．手術室数：10室（空気清浄度：クラス100　1室、10000　9室（1室は陰圧システム））
＊クラス100のBCR（バイオクリンルーム）は人工関節置換術や生体腎移植に使用
2．主な診療科
外科・乳腺外科・呼吸器外科・脳外科・心臓血管外科・耳鼻科・整形外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・皮膚科・循環器内科・腎臓内科・麻酔科・消化器内科

**Ⅱ．患者の動向**

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 手術件数 | 5008 | 5094 |
| 緊急手術 | 813 | 976 |
| 全身麻酔件数 | 3036 | 3198 |
| 脳死下臓器摘出術 | 1 | 1 |

＊緊急手術：当日申し込み、当日手術のこと

**Ⅲ．看護職員数**（2023/4/1現在数）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 看護師長 | 1名 | 副看護師長 | 2名 |
| 看護師 | 36名 | 非常勤看護師 | 1名 |
| 看護助手 | 3名 | クラーク | 1名 |

有資格者：手術室看護認定看護師　1名

**Ⅳ．看護の概要**

1．看護の特徴
1）看護体制：2交代制、1人夜勤（1名拘束体制）
＊土曜日、日曜日の日勤及び土曜日の夜間は2名拘束体制
2）看護の特徴
安全で安心できる周術期看護を提供するために、術前、術後訪問を実施している。また、手術室入室時のオリエンテーションDVDを作成し、QRコード付きのリーフレットを外来で配布してもらい、手術を受ける患者がいつでも視聴できる環境を整えた。休日、時間外には、48時間以内の外傷緊急手術に対応できるように、環境を整え、専門性の高い看護師の育成にも力を入れている。ダヴィンチ手術の導入が決定し、初症例に向けた準備を多職種と計画的に行い、12月19日（火）に泌尿器科初症例を無事に終了することができた。

2．教育
1）スタッフ教育
新人看護師、配置換え者に対し、OJTで共に手術の直接介助、外回り看護を行い、一人立ちできるように支援している。また、1年間3人1組のパートナー制とし、進捗状況を確認しながら個別的に段階を踏み、すべての診療科の手術に対応できるように教育を行っている。
⑴院外研修参加状況
・感染管理エキスパートナース研修：井上彩衣
・院内感染対策研修会：橋口里佳
2）学生教育
活水女子大学、3年生の成人看護学実習で、手術室の見学実習（2日間）を受け入れている。患者体験、手術室看護の業務内容、病棟との連携について学ぶ環境を整えた。
3）看護研究・学会発表
⑴日本麻酔科学会第70回学術集会
①腹腔鏡下消化管手術の麻酔導入前後における灌流指標と中枢温の関連：原健太朗
⑵国立病院総合医学会
①全身麻酔下開腹肝胆膵手術におけるデイスポーザブルリトラクター使用時の皮膚障害予防法の検討：立花玲華
②胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術におけるアンダーブランケットとアッパーボデイブランケットを比較した加温効果の検討：市原幸大
⑶日本手術看護学会年次大会
①手術看護認定看護師の存在が術前外来の設置と術前評価実施率に及ぼす影響：原健太朗
②脊椎麻酔施行患者における電動性ポリマー式加温装置のマットレスブランケットの加温効果の比較検討：児島凪
③シリコーンフォームドレッシング材の使用基準作成後の術後皮膚障害減少効果の検討：上村貴弘
④術中褥瘡発生に関連する看護側要因の解析：岡田久瑠美

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 治療検査センター

責任者　福本 明美

**基本方針**

1．病む人個々の生活信条を大切にし、ひとりひとりに気持ちを傾け寄り添う看護を行う
2．科学的根拠に基づいた当院にしかできない専門的治療および看護を提供する
3．お互いをリスペクトし職業人として誇りと品性をもち職務に専念する

**目標**

1．他部門とのコミュニケーションを図り、協働し安心・安全な検査・治療を行う
2．わかりやすい説明と情報提供を行い患者・家族が納得のいく検査・看護ケアの提供を行う
3．常に自己研鑽し、専門的知識・技術の向上を図る

## Ⅰ．部署の特徴

1．内視鏡、透析、放射線３部署の機能を備え、他施設ではできない専門的治療を行っている
2．放射線科看護師は24時間拘束体制を取っている
3．子育て世代の働きやすい職場環境

## Ⅱ．主な検査・治療件数、拘束呼び出し件数

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 上部内視鏡 | 2607 | 2468 |
| 下部内視鏡 | 1213 | 1257 |
| 肝膵系　ERCP | 401 | 476 |
| 気管支内視鏡　BF | 362 | 359 |
| 透析総件数 | 4530 | 3894 |
| 腹膜透析指導件数 | 124 | 113 |
| 血管造影総件数 | 1095 | 1023 |
| 心カテ、PCI | 668 | 636 |
| 放射線治療件数 | 6395 | 7540 |
| PET/CT | 797 | 831 |
| 拘束呼び出し件数 | 100 | 94 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | 1名 |
| 副看護師長 | 1名 |
| 看護師 | 25名 |
| 看護補助者 | 5名 |

有資格者
第１種消化器内視鏡技師認定看護師：７名
透析技術認定士：２名
INE（インターベーションエキスパートナース）１名
がん放射線療法看護認定看護師：１名

## Ⅳ．看護の概要

1．看護師配置

内視鏡センター、透析センター、放射線科部門に配置し、患者の治療検査の介助を行っている。常に情報交換をし、業務の補完や人員調整を行い、スタッフ間のリリーフ体制をとっている。

2．看護の特徴

内視鏡センターでは、精密検査及び大腸内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）・食道静脈瘤の治療、胆膵の治療・気管支内視鏡及び胸腔鏡等の高度な治療を行うと同時に、手術室にて食道ESDや、消化器外科や呼吸器外科と合同で手術を実施し、高度な医療の介助において安全で質の高い看護を実践している。

透析センターでは、外来・入院患者の透析導入と維持透析患者の専科の検査・治療後の透析を行っている。また､PD（腹膜透析）外来を開設し、在宅にて腹膜透析を行っている患者への指導管理を実施している。穿刺等、看護師の技術・質向上を目指し技術チェック等教育の再構築を図っている。

放射線科では、がん放射線療法看護認定看護師の活動で、放射線治療を受ける患者の身体・精神・社会的側面から患者の意向を取り入れた看護が提供できるよう、医師・放射線技師・病棟看護師・放射線科看護師間のチーム医療・連携を図っている。

3．教育

1）スタッフ教育

内視鏡センター、透析センター、放射線科の３部門で各々の専門的な知識・技術の向上、介助方法の習得を行っている。配置換えや育児休業からの復帰のスタッフに対しては、担当看護師を付け、マニュアルに沿って段階的に業務の拡大を図っている。

2）学生教育

主に透析センターにて、実習生を受け入れている。専任化体制で実習しやすい環境を整えている。

3）看護研究・学会発表

⑴国立病院総合医学会

放射線診療を受ける患者の看護に関する文献検討
～患者の心理に配慮した看護に焦点をあてて～
江口明子　千葉恵里佳　大石景子　福本明美

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 外来

責任者　川原 直美

**基本方針**

1．地域住民の医療ニーズに合わせた地域・外来・病棟での連携体制の構築
2．患者に意向を中心とした在宅診療支援の充実
3．在宅療養支援における看護師に人材育成

**目標**

1．患者にあった看護の提供を行い、外来受診を満足したものにできる
2．患者の訴えを聞き、看護観を高めていくことで、スタッフの育成ができる
3．複数の診療科の業務ができるスタッフを増やすことで、協力体制を図る

## Ⅰ．外来の特徴

1．標榜診療科：38科

病気に対する認識や生活状況について患者に確認し、地域や病棟からの情報提供を基に継続看護を行い、患者満足度及び看護の質の向上に努めている。

2．主な疾患・治療・検査

外来治療センターでは、医師と連携を図り患者の対応を行っている。また、化学療法では抗がん剤治療の知識を有す医師や薬剤科、看護師を配属しソーシャルワーカーなど他部署と連携を図りながら患者の情報を共有して、外来通院患者に医療を実施している。

## Ⅱ．患者の動向

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 外来診療日数 | 243 | 246 |
| 外来患者数 | 168,657 | 170,543 |
| １日平均患者数 | 694.1 | 693.2 |
| 新患者数 | 14,581 | 14,601 |
| 新患率 | 8.6 | 8.5 |
| 手術件数 | 201 | 421 |
| 外来化学療法 | 5753 | 5505 |

## Ⅲ．看護職員数（2023/4/1現在数）

| | |
|---|---|
| 看護師長 | １名 |
| 副看護師長 | ２名 |
| 看護師 | 39名 |
| 看護助手 | １名 |
| 事務助手 | ８名 |

有資格者
がん化学療法看護認定看護師：１名

## Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴

1）看護方式

外来看護、各診療科のブースに分かれ４～６名の看護師を配置し、診療介助、各種処置介助、検査説明等を実施している。化学療法センターでは、専任看護師を配置し多職種で担当している。

2）看護の特徴

地域医療連携室や地域の医療施設と連携し診療を行っている。化学療法センターでは、がん化学療法認定看護師を中心として専門的な知識を活かし医療安全や抗がん剤曝露対策で安全な医療・看護を提供できるよう努めている。各科外来での診療介助、各種検査介助等さまざまな分野の看護知識・技術が必要とされる。入院から通院へ移行する際には、外来看護師の継続した関りができるようなシステムを整え、外来看護の質向上に努めている。

2．教育

1）スタッフ教育

各ブースでの補完業務を見直し複数診療科業務ができるように教育体制を整えた。また、可能な限り他ブース間応援ができるように改善した。今後は、化学療法看護ができるスタッフの育成が課題である。

⑴院外研修参加状況

・認知症ケア研修：内野紀代美
・てんかんに関する看護研修会研修：小松節子

2）学生教育

活水女子大学看護学部看護学科母性看護実習の産婦人科外来における実習、小児科看護学実習の小児科外来における実習について、それぞれ実習指導担当看護師により指導を行った。

3）看護研究・学会発表

⑴国立病院総合医学会発表

①三次救急病院外来看護師の看護倫理における認識調査　相川秀美　山口陽子

⑵第31回日本乳癌学会学術総会発表

①タキサン系薬剤を使用した乳がん化学療法患者における末梢神経障害発症の要因解析
村上摩利

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 医療相談支援センター

責任者　田中 圭

## Ⅰ．基本方針

医療相談支援センターは地域医療連携室・患者サポート室・予約入院支援室の3部署からなる。それらの部署で病診、病病連携を推進し、患者、家族が安心して治療・療養を行うことが出来るような体制を整えている。また、入院前から退院後までの生活を見据えた支援を病棟と共に行う。

### 目標

1．地域の病院や診療所などの医療施設から、新患の診療予約、検査予約を増加させ、入院患者の退院、転院などの退院支援・調整をスムーズに行うために病棟と協働して行う。
2．医療相談支援の質の向上を図り、患者が安心して治療ができる環境を整える。
3．入院前から退院支援までシームレスな支援を行う。

## Ⅱ．地域医療連携室実績

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 全退院者数 | 13,348 | 13,578 |
| 介入数 | 2,825 | 2,706 |
| 入退院支援加算1算定数 | 2,580 | 2,554 |
| 入退院支援加算1算定率 | 19 | 19 |

## Ⅲ．患者サポート室実績

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 新規相談者 | 1,019 | 1,005 |
| 実人数 | 1,677 | 1,586 |
| 延べ件数 | 3,789 | 3,364 |

## Ⅳ．予約入院支援室実績

| | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|
| 全対応件数 | 4,190 | 4,136 |
| 療養計画書作成件数 | 3,992 | 4,096 |
| 入院時支援加算件数 | 154 | 221 |

## Ⅳ．医療相談支援センター職員数（2023/4/1現在数）

| 看護職員 | | 事務職員 | |
|---|---|---|---|
| 看護師長 | 1名 | MSW | 4名 |
| 副看護師長 | 1名 | 事務助手 | 5名 |
| 看護師 | 11名 | | |
| 看護師（非） | 3名 | | |
| クラーク | 1名 | | |

有資格者
がん看護専門看護師：1名
緩和ケア認定看護師：2名
がん化学療法看護認定看護師：1名
肝炎コーディネーター：1名

## Ⅴ．看護の概要

### 1．看護の特徴

地域医療連携室の看護師は各部署の入退院支援コアナースと共に入退院支援の質を向上させるための取り組みを行っている。2024年2月からは入退院支援加算1を病棟のコアナースが算定できる取り組みを開始する。患者サポート室の看護師はがん関連の有資格者であり院内外のがん看護やがん薬物療法看護に携わっている。今年度から緩和ケアチームの看護師が1名体制から2名体制に変更となった。専従看護師と専任看護師として活動している。2024年1月からがん性疼痛緩和指導管理料を算定する体制を整えた。予約入院支援室の看護師は今年度からケアマネージャーが介入している予定入院患者に対して入院前に情報提供を行っている。今後、病棟コアナースがケアマネージャーと連携が行いやすいように情報整理方法も検討している。入院前の情報は各病棟と共有し入院前支援を行っている。

### 2．看護研究・学会発表

1）第27回日本看護管理学会：口演：組織の成功循環モデルに基づいた関係の質向上プロジェクトの効果に関する考察：田中圭
2）第74回日本気管食道科学会:パネルディスカッション：頭頸部がん患者を多職種で支えるためのチームづくり：田中圭
3）第77回国立病院総合医学会：示説：入院時重症患者対応メディエーターに求められるニーズ～相談支援内容から分析する～：高崎美穂
第77回国立病院総合医学会：示説：退院支援コアナースと地域医療連携室の自己評価尺度から考える入退院支援コアナース会議（研修）の有効性：大迫朝子
第77回国立病院総合医学会：示説：入退院支援における記録の質を向上させるための取り組み：實藤美香
4）第37回日本がん看護学会：示説：レナリドミドへの服薬アドヒアランスが低い独居高齢患者に対する治療継続の可能性を見出した支援事例：冨永美希

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 診療看護師（JNP）

責任者　本田 和也・本村 秀樹

## 診療部門の特色

**診療看護師（Japanese Nurse Practitioner：JNP）の概要**

国立病院機構では、全国に先駆けて2010年より東京医療保健大学大学院看護学研究科（NP養成大学院）と連携し、クリティカル領域で高度な看護実践能力を持ち、スキルミックスによるチーム医療を提供できる看護師の育成を行っている。5年以上の看護師経験があり、さらにNP養成大学院で特定行為研修を修了し、一般社団法人日本NP教育大学院協議会の実施する資格試験に合格した者を診療看護師（Japanese Nurse Practitioner：JNP）と認証している。JNPは、医学的視点と元々看護師経験で培った看護の視点を持ち合わせており、なおかつ、特定行為の実施も可能であることから臨床で様々な役割が期待されている医療職である。

2023年度は6名のJNPが所属している。当院のJNPは、特定行為を補助的に活用しながら、臨床で培った看護師としての知識・経験を基盤とした患者の個別性に合わせた全人的ケアと医師の思考（治療的視点、臨床推論の能力）の融合をイメージした活動をしている。また、「チーム医療の要」「地域医療の担い手」としての役割を果たすことを目標に、地域、施設の機能、診療科の特徴を踏まえ、患者・家族のニーズにあった活動を心がけている。特徴としては、①医師不在時の急変時の初期対応や患者の全身管理、処置ができること（例：21区分38行為の特定行為の実施が可能）、②個々の患者に対する情報・診療方針を医師と共有し、その指示のもとに各種検査のオーダー・指示簿の変更が可能であること、③他診療科へのコンサルテーションや多職種との連携によりチーム医療の中核的役割が担えること、④離島等医療連携ヘリ事業（Remote Island Medical Co-oporation Air Service：RIMCAS）ヘリや民間航空機を利用した転院搬送時の調整・患者と同乗し直接的ケアを提供する権限があること、⑤各診療科における診療データーベースの構築、臨床研究等がある。JNPはこのような役割を担いながら、配属先の診療科・病棟における診療・看護の質維持、向上を図っている。

**【JNPの活動理念】**

1．チーム医療の要：患者を取り巻くあらゆる職種・環境とのコミュニケーション・連携を図り、円滑かつ安全安楽な医療の提供に寄与する。
2．地域医療の担い手：クリティカルケア、プライマリケア両領域における患者の健康回復・保持増進に向けた思考力や実践力を養う。

**【JNPの活動目標】**

専門性の高い判断力と実践力を持つJNPが、日々、多職種との関わりを持ちながら診療の一部分を担い、患者や家族・関わりを持つ他職種職員にとっての存在意義を高めること。

**【構成メンバー】**

| 所　属 | 役　職 | 氏　名 |
|---|---|---|
| 責任者 | 統括診療部長 | 本村秀樹 |
| 教育センター・脳神経外科 | 副看護師長・JNP | 本田和也 |
| 新生児科 | JNP | 津野﨑絹代 |
| 脳神経外科 | JNP | 森塚倫也 |
| 外科 | JNP | 吉岡未智（旧姓：中原） |
| 総合診療科（2023年3月まで在籍） | JNP | 伊藤健大 |
| JNP臨床研修 | JNP | 江口貴彦 |
| JNP臨床研修 | JNP | 溝上佳史 |

## 入院診療実績

**【脳神経外科】**

転院搬送実績（脳神経外科）期間：2023.01.01－2023.12.31

総搬送件数20症例（うち、RIMCASヘリ 4 件）

**【新生児科】**

転院搬送： 3 症例、新生児蘇生対応：30症例

**【チーム医療、等】**

NSTラウンド：介入件数124件、算定件数114件

## 研修・教育

**1．カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 脳神経外科/脳神経内科/救急科合同カンファレンス | 計52回（週 1 回） |
| 脳血管リハビリテーションカンファレンス | 計52回（週 1 回） |
| NICUカンファレンス・心理士外来カンファレンス | 計52回（週 1 回） |
| 産科・NICU合同カンファレンス | 計52回（週 1 回） |
| モニターカンファレンス(NICU) | 計12回（月 1 回） |
| リエゾンカンファレンス（NICU） | 計12回（月 1 － 2 回） |
| 退院支援カンファレンス(NICU) | 計12回（月 1 回） |
| CPTカンファレンス | 計12回（月 2 回） |
| 術前カンファレンス（外科） | 計52回（週 1 回） |
| 術後カンファレンス（外科） | 計52回（週 1 回） |
| 消化管内科・外科合同カンファレンス（外科） | 計52回（週 1 回） |
| 問題症例カンファレンス（外科） | 計52回（週 1 回） |

**2．研修会等参加**

令和 5 年度　原子力災害医療中核人材研修参加（溝上佳史）

令和 5 年度　特定行為研修指導者講習会受講（溝上佳史）

**3．教育（講義・演習）活動**

1）看護師特定行為研修

当院は2020年より看護師特定行為研修（ 4 区分 8 行為）を実施している。21区分38行為全ての特定行為取得者であるJNPは、知識や臨床現場での経験等を活かし、この看護師特定行為研修の講義・演習・実習の指導を担っている。

(1) 看護師特定行為研修教育内容（共通科目）

・通しの全身診察の型

・疾病・臨床病態概論：看取り（演習）・褥瘡（演習）

・フィジカルアセスメント：身体診察基本手技（演習・実習・評価）・総論：実習、評価

・インフォームド・コンセント（PICC留置）

・医療安全学/特定行為実践：チーム医療 - 終末期患者の退院支援（演習）・コンサルテーション症例（せん妄、高カリウム血症）（演習）・意思決定支援・手順・書の作成/評価/改良（演習）・チーム医療の

事例検討（演習）・臨床倫理（演習）

・統合実習/振り返り/統合実習

（2）看護師特定行為研修教育内容(区分別科目)

・呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：気管カニューレの交換の手技（手技動画、OSCE）

・インスリン投与量の調整（手順書の作成）

・気管カニューレの交換の手技（実技）

2）院内BLS研修指導

医療安全管理室からの依頼で、2023年７月～12月に17回研修指導を担当した。

3）その他、教育機会（院内外）

| 担当 | テーマ | 対象 |
|---|---|---|
| 本田 和也 | 科目：フィジカルアセスメント<br>科目担当者 | 活水女子大学<br>看護学部２年次生 |
| 本田 和也 | 科目：看護の臨床判断<br>科目担当者 | 長崎市医師会看護専門学<br>第１看護学科２年次生 |
| 本田 和也 | 令和５年度メディカルスタッフ喀痰吸引研（説明会、講義・演習） | リハビリセンタースタッフ４名 |
| 津野﨑 絹代 | 新生児勉強会 | ４階フロア新人看護師 |
| 津野﨑 絹代 | NCPR（Sコース） | 医師・看護師・助産師 |
| 津野﨑 絹代 | NCPR（Aコース） | 医師・看護師・助産師 |
| 津野﨑 絹代 | NCPR（Pコース） | 救急救命士 |
| 津野﨑 絹代 | フィジカルアセスメント講義・講演 | 看護部教育委員会<br>レベルⅠ研修　新人看護師 |
| 津野﨑 絹代<br>森塚 倫也 | 長崎大学看護師特定行為研修<br>OSCE試験　外部評価 | 長崎大学病院特定行為研修者 |
| 森塚 倫也 | 成人臨床看護の実際Ⅱ<br>中枢神経機能障害 | 長崎県央看護学校 |
| 吉岡 未智 | 血液検査の見方 | 7A病棟看護師 |
| 江口 貴彦<br>溝上 佳史<br>本田 和也 | 急変対応勉強会（シミュレーション教育） | 外来看護師 |

**4．委員会活動**

1）JNP研修・管理運営委員会

JNPについての統括、労務管理、業務内容・体制、研修、その他JNPに関わる全ての事柄について審議・決定を行う。2023年は、６回（２月、３月、４月、６月、９月、11月）委員会を企画・運営した。

2）その他委員会参加

教育委員会、副看護師長会議、広報委員会、NST委員会、特定行為研修指導者委員会、特定行為運営委員会、特定看護師ミーティング

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**様式２　競争的研究費一覧**

| No. | ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金 | 研究課題名 | 研究者名 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 当院登録症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ①文部科学省科学研究費 | 日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究 | 本田和也 | | 分担 | 継続 | |
| 2 | ①文部科学省科学研究費 | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用した適正マンパワーの提案 | 本田和也 | | 主任 | 継続 | |
| 3 | ①文部科学省科学研究費 | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用した適正マンパワーの提案 | 森塚倫也 | | 分担 | 継続 | |

## 学会・論文など

**１）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 2 | 0 | 0 | 4 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**２）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 2 | 10 | 1 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**３）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 特別講演 | 教育講演 |
|---|---|---|
| 件数 | 13 | 1 |

**４）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 2 | 0 | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**論　文　発　表**

**A：英文**

**A-a1：＜英文原著＞（２）**

１）Nurse Practitioner Placement in A Nursing Home in Japan.
Masahide Koda, Nahoko Harada, Naoko Sato, Tomoko Araki, Kazuya Honda, Takemi Kudo, Takao Watanabe, Miho Suzuki.
The Journal for Nurse Practitioners, 20(1), 2023.

２）Comparison of dwell time and complications between peripheral venous catheters and midline catheters in infants weighing ≥1500 g at birth.

Kinuyo Tsunozaki, Hideyo Suenaga, Aoki Mikihiro, Hanaguchi Yo.
PEDIATRICS INTERNATIONAL, 65：e15611, 2023.

**B：和文**

**B-e：＜その他（ラジオ・新聞・雑誌等）＞（4）**

1）離島を支える診療看護師、九大で医療版MBAに挑む理由.
本田和也.
NIKKEIリスキニング（Web), 2023.

2）限られた医療資源の中で、サスティナブルなケアシステムを構築する.
本田和也.
週刊医学界新聞（看護号), 3507, 2023.

3）看護の旅をとおして、看護のリーダーシップを振り返る.
本田和也.
看護展望, 49(1), 80-83, 2023.

4）外科専属診療看護師（NP）導入成功の要点と外科医の「働きやすさ」改革への貢献.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、杉山望、竹下浩明、前田茂人、黒木保.
日本外科学会雑誌, 124(6), 567-571, 2023.

5）看護師特定行為研修修了者の活動の実際と課題.
津野﨑絹代.
小児看護, 46(10), 1250-1255, 2023.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会・国際会議**

**A-b2：＜一般演題＞（2）**

1）Nurse practitioners lead the care innovation focused on the remote island residents and the aging society in Japan.
Kazuya Honda, Tomoya Moritsuka, Yukari Nishiyama, Hideki Motomura, Tomonori Ono, Takeo Anda.
International Council of Nurses Congress 2023, e-poster, Canada（Montreal）, 2023.6.30.

2）CHANGES IN OUTCOMES FROM BEFORE TO AFTER EMPLOYING NURSE PRACTITIONERS IN CARDIOVASCULAR HOSPITALS IN JAPAN.
Miho Suzuki, Natsuko Sekiguchi, Masato Saito , Masahide Koda, Kazuya Honda, Takao Watanabe.
1st Asia and pacific congress for Nurse practitioner, e-poster, Taiwan, 2023.12.2.

**B：国内学会**

**B-a：＜特別講演, 教育講演＞（4）**

1）診療看護師（NP）とは －外傷診療領域で活躍する可能性について－.
本田和也.
第36回日本四肢再建・創外固定学会学術集会, 特別講演, 福島県郡山市, 2023.7.15.

2）腹部救急診療に診療看護師が与える効果.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、黒木保.
第59回日本腹部救急医学会総会, 多職種連携特別企画Be colorful 3, 沖縄, 2023.3.10.

3）外科専属診療看護師(NP)導入成功の要点と外科医の「働きやすさ」改革への貢献.

中原未智、米田晃、福井彩恵子、藤瀬悠太、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、杉山望、竹下浩明、前田茂人、黒木保.
第123回日本外科学会定期学術集会, 特別企画03, 東京, 2023.4.28.

4）働き方改革及び多職種連携の時代に消化器診療に診療看護師（NP）が参画する意義について.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、南恵樹、黒木保.
第122回日本消化器病学会九州支部例会, 特別企画:患者さん視点で消化器診療の一躍を担う「メディカルスタッフゆいまーる」～沖縄からの発信～ , 沖縄, 2023.11.24.

**B-b1：＜シンポジウム、パネルディスカッション等＞（4）**

1）現行制度では対応できない医療ニーズ「ナース・プラクティショナー（仮称）制度」の必要性について.
本田和也.
日本看護協会第 4 回NP教育課程修了者の交流会, パネルディスカッション・ミニレクチャー , Web, 2023.3.16.

2）診療看護師（NP）が創造する, 僻地・離島医療の課題 －持続可能性に向けた方略－.
本田和也.
第26回へき地離島救急医療学会, パネルディスカッション, 島根県, 2023.10.7.

3）当院における多職種連携を基盤とした新たなケアモデルの提案.
森塚倫也.
第19回日本クリティカルケア看護学会, パネルディスカッション, 2023.7.1-7.2.

4）「痛みのケアガイドライン：改訂に向けての新たなエビデンスと推奨草案」 術後痛に対する非薬理的緩和法に関するエビデンスと推奨草案.
清水彩、津野崎絹代、木下眞里、藤本智久.
第32回新生児看護学会, シンポジウム, 神奈川, 2023.11.3.

**B-b2：＜一般演題＞（7）**

**＜口演＞**

1）急性期脳卒中患者におけるベッドサイド嚥下スクリーニングテストの有効性と安全性の検討.
森塚倫也.
STROKE2023, ポスターセッション111（メディカルスタッフ）, 横浜, 2023.3.18.

2）専門的導入プログラムを経た外科専属診療看護師（NP）による術後重症例に対する介入の好事例.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
第9回日本NP学会学術集会, 札幌, 2023.10.21

3）外科専属診療看護師（NP）による内視鏡外科手術助手の有効性.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、池田貴裕、北里周、竹下浩明、黒木保.
第36回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2023.12.8.

4）診療看護師実地研修 －総合診療科研修を行う意義－.
江口貴彦、伊藤健大、森英毅.
日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第10回学術集会・講演会, 長崎, 2023.3.25.

5）診療看護師（NP）が救急科と総合診療科研修を行う意義.
江口貴彦、森塚倫也、溝上佳史、中原未智、津野崎絹代、本田和也、森英毅、中道親昭.
第 9 回日本NP学会学術集会, 札幌, 2023.10.22.

6）乳癌手術における術後嘔気嘔吐の発生率とリスク因子に関する後ろ向き分析.
溝上佳史、濵田梢、西垣明久、卜部繁彦、山口美知子、原健太朗.
第70回日本麻酔科学会学術集会, 神戸, 2023.6.2.

7）診療看護師(NP)が患者・家族の意思決定支援に関わることで良好な経過を辿った一例.
溝上佳史、鳥巣裕一、中原未智、伊藤健大、森英毅、和泉泰衛.
第 9 回日本NP学会学術集会, 札幌, 2023.10.21.

**C-b：＜学術講演（国内）＞（ 9 ）**

1）診療看護師(NP)が脳神経外科で活躍するための戦略とは.
本田和也.
第 3 回藤田医科大学　ばんたね病院　NP summit, シンポジウム 2（脳神経外科NPの現状と展望), Web, 2023.5.13.

2）当院におけるに救急看護の取り組みと今後のNPの展望.
本田和也.
エーザイ株式会社 神経救急conference in 長崎, 特別講演・セッション①, 長崎県長崎市, 2023.6.7.

3）地域包括ケア時代を阻む壁とその解決の糸口とは －先を見る診療看護師（NP）の立場から－.
本田和也.
令和 5 年度東京医療保健大学大学院医療保健学研究科 公開講座, 教育講演・先を見る医療 －地域包括ケア時代の課題と展望－, Web, 2023.7.8.

4）先を見る医療に向けて、今後地域包括ケアにおいて何に取り組むべきなのか？.
本田和也.
令和 5 年度東京医療保健大学大学院医療保健学研究科公開講座, パネルディスカッション, Web, 2023.7.8.

5）診療看護師（NP）の導入後の体制構築とは.
本田和也.
日本学術会議健康・生活科学委員会 健康・生活科学委員会看護学分科会, 特別講演, Web, 2023.7.23.

6）脳神経外科で求められる診療看護師(NP)の多様な役割.
本田和也.
第 1 回Neuro NP Round Table Conference, 特別講演, Web, 2023.9.9.

7）診療看護師（NP）として築いてきたこと －これまでの10年、これからの10年－.
本田和也.
令和 5 年度 和歌山県看護管理者研修会, 特別講演, Web, 2023.9.16.

8）診療看護師（NP）として歩んできた10年を振り返り、その存在価値を語る.
本田和也.
令和健康科学大学 大学院設置に向けた講演会, 特別講演, 福岡県, 2023.12.6.

9）NICUにおけるNPの業務内容と役割分担.
津野﨑絹代.
聖マリアンナ医科大学病院診療看護師（NP)研修, Web, 2023.12.16.

**D：＜学会・研究会開催＞（ 2 ）**

1）Healthcare Crisis セーフティネットとして高度実践看護.
本田和也.
第 9 回日本NP学会学術集会, 企画・運営委員, 札幌, 2023.10.21.

2）NP「第 2 の波」が変える病院経営•地域医療の未来 －ナースプラクティショナーの経済効果と導入の最前線－.
本田和也.
ナースプラクティショナーの未来を考える会（主催者）, 司会, 東京都, 2023.11.25.

**F-b：＜学会・研究会座長（国内学会）＞（2）**

1）看護エコーをもっと身近に！－看護現場の最前線－.
本田和也.
第21回日本看護技術学会学術集会, 座長, 熊本県, 2023.10.14.

2）社会的弱者のSOSにきづき、そしてつなぐ －セーフティネットを築ける診療看護師（NP）になるために－.
本田和也.
第 9 回日本NP学会学術集会, 座長, 北海道, 2023.10.21.

**G：＜その他＞（1）**

1）院内、地域、在宅で期待される診療看護師(NP)の役割と活動の実際.
本田和也.
日総研出版「隔月刊 地域連携 入退院と在宅支援」第 5 回「この人の話が聴きたい！」
教育講演・トークイベント, Web, 2023.04.20.

**＜その他（学術貢献・社会貢献等）＞（18）**

1）＜委員＞日本プライマリ・ケア連合学会（看護部会 教育実践活動支援部門）
本田和也.

2）＜委員＞日本看護協会 ナース・プラクティショナー（仮称）制度検討委員会
本田和也.

3）＜委員＞第 9 回日本NP学会学術集会　企画・運営委員会/査読担当
本田和也.

4）＜理事：board member＞Asian Congress of Neurological Nurses（ACNN）
本田和也.

5）＜代議員＞日本プライマリ・ケア連合学会
本田和也.

6）＜副理事長＞日本NP学会
本田和也.

7）＜広報委員長＞日本NP学会
本田和也.

8）＜理事＞国立病院機構　JNP協議会
本田和也.

9）＜委員＞長崎県特定行為研修推進事業（長崎県医療介護総合確保基金補助金事業）運営委員会
本田和也.

10）＜委員＞長崎県病院企業団 離島等医療連携ヘリ事業（remote islands medical co-operation air service）運営委員
本田和也.

11）＜アドバイザー＞一般社団法人　Nurse for Nurse 看護エキスパート契約
本田和也.

12）＜研究代表＞日本学術振興会（基礎研究C）
テーマ：脳卒中診療におけるナースプラクティショナー(NP)を活用した適正マンパワーの提案、2022年-2026年
本田和也、森塚倫也、忠雅之、諸藤陽一、鈴木美穂.

13）＜研究分担＞日本学術振興会（基礎研究B）

テーマ：日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究、2020年-2024年.

鈴木美穂、本田和也、渡邊隆夫、原田奈穂子、香田将英.

14）＜委員＞日本新生児・成育医学会　CLDガイドライン作成委員会

津野﨑絹代.

15）＜委員＞日本新生児看護学会　痛みのケアガイドライン作成委員会

津野﨑絹代.

16）＜委員＞日本新生児・成育医学会　倫理委員会

津野﨑絹代.

17）＜インストラクター＞日本周産期・新生児医学会 - 新生児蘇生法（NCPR）

津野﨑絹代.

18）＜外部評価者>長崎大学看護師特定行為研修　OSCE試験　外部評価

津野﨑絹代、森塚倫也

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 薬剤部

責任者　三角 紳博

## 診療科の特色

薬剤部は治療に用いられる医薬品を安全かつ適正に使用することを目的として業務を行っている。薬剤業務としては処方せんに基づく調剤・監査の他、抗がん薬・TPN調製、病棟薬剤業務・薬剤管理指導、チーム医療、DIを含めた医薬品管理、治験業務、病院経営への参画など多岐にわたっている。

入院患者に対する医薬品の適正使用に関しては、2014年７月より病棟薬剤業務実施加算の施設基準を取得し業務を展開している。病棟薬剤業務として入院時の持参薬確認を始め、服薬計画の提案や医薬品の使用状況把握、副作用モニタリング等を行っている。これらを実施することで安全で適正な医薬品使用につながり、医師、看護師等の業務負担軽減にも寄与している。2017年には持参薬チェックセンターを開設し、2018年１月から救急救命病棟を除く全病棟での運用を開始している。薬剤師が直接患者や患者家族、施設職員などから聞き取りを行うことで、内服薬だけでなく外用薬や自己注射製剤の確認、確実な術前休薬が行えているか等の付加情報も得られ、入院後の医療安全向上に寄与している。さらに2022年６月から、内服薬を経管投与する際に粉砕法より安定した血中濃度が得られる簡易懸濁法を全病棟で導入し、薬物療法の最適化にも取り組んでいる。

一方、外来患者に対しては、外来化学療法センターに専従の薬剤師を配置し、薬剤管理指導と副作用マネジメントに取り組んでいる。併任業務として薬剤師外来も開設して経口抗がん剤の薬剤管理にも注力している。2020年６月には、保険薬局薬剤師とお薬手帳を介したレジメン情報・副作用情報等の共有を行い外来化学療法における連携充実加算の算定を開始している。地域の薬剤師会との薬薬連携は患者安全に寄与し外来化学療法の質の向上にもつながるため、連携ツールとして自宅での服薬状況が客観的に共有可能できるトレーシングレポート等の運用体制構築にも積極的に取り組んでいる。また、予約入院支援センターには専任の薬剤師を配置して入院予定患者の常用薬のチェックを行い、術前中止薬においては医師へ継続の必要性を確認し、内服中止の場合には患者・家族へ指導を実施している。

教育・研修に関しては、ジェネラリストとしてだけでなく、スペシャリストとして、がん、緩和ケア、感染など各種認定・専門薬剤師の資格取得を視野に日々努力を重ねている。薬学生対象の長期実務実習（11週）受入れ施設として、また、保険薬局薬剤師の研修受入れ施設（日本医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会の研修施設）として、臨床薬剤師の育成にも精力的に取り組んでいる。

2023年としては、２月から病棟-薬剤部の業務効率向上を目的に調剤状況進捗管理システムの導入を行い、病棟-薬剤部間での連携強化を図った。７月には術後疼痛管理チーム加算算定を視野に入れた取り組みを開始し、算定の事前準備として手術室専従薬剤師を選出、要件に必要な「学会等研修受講」を行った。さらに９月には医療安全管理室と連携して「術前中止薬一覧」の見直しを行い、近年術前中止する必要性が高くなっているSGLT2阻害薬等の新たな薬剤情報を更新した。また、地域連携向上の一つとして、保険薬局から提供される患者情報を病院内で共有しやすい形式へと服薬情報提供書の改定等を行った。

2024年には、術後疼痛管理に対して安心できる薬物治療につながるように麻酔科医師、手術室看護師等と連携しつつ、術後疼痛管理チームの一員として疼痛緩和に寄与していきたいと考えている。そして、医師の働き方改革のサポート、診療報酬改定に向けて、他職種との連携強化およびPBPMを推進することによって、患者安全を確保した質の高い医療の推進に取り組んでいきたい。

※Protocol Based Pharmacotherapy Management

# 入院診療実績

■薬剤部定員（2024年１月現在）

**薬剤部（地下１階）**

| 薬剤部長 | 副薬剤部長 | 主任薬剤師 | 薬剤師 | 薬剤助手 | *治験主任 | *治験薬剤師 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1名 | 2名 | 7名<br>（1名欠員） | 15名 | 11名 | 2名 | 1名 |

*治験主任及治験薬剤師は臨床研究センター治験管理室に配属

■業務実績

１．処方箋

| 2021年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 注射処方せん枚数 | 入院 | 9,464 | 8,642 | 10,847 | 10,242 | 9,472 | 8,484 | 10,538 | 9,471 | 9,848 | 10,312 | 10,812 | 10,437 | 118,569 | 9,881 |
| | 外来 | 1,165 | 1,262 | 1,412 | 1,544 | 1,227 | 1,352 | 1,372 | 1,374 | 1,460 | 1,456 | 1,263 | 1,560 | 16,447 | 1,371 |
| 処方せん枚数 | 入院 | 9,557 | 9,148 | 11,177 | 10,591 | 9,084 | 9,727 | 10,515 | 10,137 | 9,673 | 10,684 | 10,761 | 10,791 | 121,845 | 10,154 |
| | 院内 | 600 | 577 | 726 | 676 | 675 | 677 | 777 | 746 | 679 | 718 | 663 | 671 | 8,185 | 682 |
| | 院外 | 5,988 | 5,495 | 6,478 | 6,221 | 5,705 | 6,238 | 5,753 | 6,395 | 6,376 | 6,268 | 6,161 | 6,382 | 73,460 | 6,122 |
| 院外処方せん発行率 | | 90.9% | 90.5% | 89.9% | 90.2% | 89.4% | 90.2% | 88.1% | 89.6% | 90.4% | 89.7% | 90.3% | 90.5% | | 90.0% |

| 2022年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 注射処方せん枚数 | 入院 | 13,968 | 11,638 | 12,752 | 12,615 | 13,625 | 13,110 | 13,545 | 13,197 | 13,076 | 13,894 | 14,214 | 14,911 | 160,545 | 13,379 |
| | 外来 | 1,989 | 1,927 | 2,183 | 1,958 | 2,077 | 2,126 | 2,128 | 2,363 | 2,173 | 2,172 | 2,331 | 2,368 | 25,795 | 2,150 |
| 処方せん枚数 | 入院 | 11,611 | 10,055 | 11,731 | 10,899 | 11,869 | 12,297 | 12,204 | 11,403 | 10,969 | 11,388 | 12,321 | 12,278 | 139,025 | 11,585 |
| | 院内 | 716 | 613 | 705 | 640 | 685 | 667 | 723 | 779 | 722 | 667 | 655 | 744 | 8,316 | 693 |
| | 院外 | 6,074 | 5,947 | 6,856 | 6,219 | 5,914 | 6,441 | 6,237 | 6,682 | 6,543 | 6,227 | 6,555 | 6,749 | 76,444 | 6,370 |
| 院外処方せん発行率 | | 89.5% | 90.7% | 90.7% | 90.7% | 89.6% | 90.6% | 89.6% | 89.6% | 90.1% | 90.3% | 90.9% | 90.1% | | 90.2% |

| 2023年 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 注射処方せん枚数 | 入院 | 14,872 | 13,110 | 13,391 | 13,957 | 14,752 | 13,637 | 14,592 | 14,337 | 13,554 | 14,852 | 13,278 | 13,928 | 168,260 | 14,022 |
| | 外来 | 2,206 | 2,032 | 2,225 | 2,208 | 2,273 | 2,216 | 2,454 | 2,532 | 2,322 | 2,277 | 2,131 | 2,332 | 27,208 | 2,267 |
| 処方せん枚数 | 入院 | 11,396 | 11,401 | 11,710 | 11,880 | 12,769 | 12,427 | 12,162 | 12,447 | 11,877 | 12,647 | 11,045 | 11,848 | 143,609 | 11,967 |
| | 院内 | 799 | 699 | 551 | 607 | 634 | 635 | 660 | 673 | 602 | 685 | 646 | 746 | 7,937 | 661 |
| | 院外 | 6,413 | 6,241 | 6,831 | 6,287 | 6,306 | 6,598 | 6,501 | 6,785 | 6,370 | 6,705 | 6,427 | 6,638 | 78,102 | 6,509 |
| 院外処方せん発行率 | | 88.9% | 89.9% | 92.5% | 91.2% | 90.9% | 91.2% | 90.8% | 91.0% | 91.4% | 90.7% | 90.9% | 89.9% | | 90.8% |

２．薬剤管理指導料（件数）

| 2021年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①安全管理が必要な医薬品 | 380 | 507 | 487 | 527 | 500 | 475 | 514 | 411 | 478 | 477 | 452 | 410 | 445 | 5,683 | 474 |
| ②その他の患者 | 325 | 423 | 433 | 475 | 422 | 410 | 526 | 454 | 500 | 487 | 463 | 490 | 467 | 5,550 | 463 |
| ①②の合計 | | 930 | 920 | 1,002 | 922 | 885 | 1,040 | 865 | 978 | 964 | 915 | 900 | 912 | 11,233 | 936 |
| 配置薬剤師数 | | 20 | 19 | 20 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 18 | | 19 |
| 薬剤師１人当り | | 47 | 48 | 50 | 49 | 47 | 55 | 46 | 51 | 51 | 48 | 47 | 51 | | 49 |

| 2022年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①安全管理が必要な医薬品 | 380 | 482 | 451 | 365 | 253 | 228 | 295 | 219 | 218 | 242 | 264 | 241 | 222 | 3,480 | 290 |
| ②その他の患者 | 325 | 496 | 400 | 346 | 166 | 178 | 177 | 160 | 152 | 220 | 224 | 218 | 199 | 2,936 | 245 |
| ①②の合計 | | 978 | 851 | 711 | 419 | 406 | 472 | 379 | 370 | 462 | 488 | 459 | 421 | 6,416 | 535 |
| 配置薬剤師数 | | 19 | 19 | 18.5 | 11 | 13 | 12 | 12 | 12 | 14 | 14 | 14 | 14 | | 14 |
| 薬剤師１人当り | | 51 | 45 | 38 | 38 | 31 | 39 | 32 | 31 | 33 | 35 | 33 | 30 | | 36 |

| 2023年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①安全管理が必要な医薬品 | 380 | 216 | 278 | 287 | 283 | 297 | 362 | 300 | 300 | 247 | 316 | 265 | 209 | 3,360 | 280 |
| ②その他の患者 | 325 | 213 | 197 | 265 | 260 | 279 | 339 | 312 | 331 | 215 | 280 | 240 | 269 | 3,200 | 267 |
| ①②の合計 | | 429 | 475 | 552 | 543 | 576 | 701 | 612 | 631 | 462 | 596 | 505 | 478 | 6,560 | 547 |
| 配置薬剤師数 | | 14 | 14 | 14 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 17 | 17 | 17 | 17 | | 15 |
| 薬剤師１人当り | | 31 | 34 | 39 | 36 | 38 | 47 | 41 | 42 | 27 | 35 | 30 | 28 | | 36 |

3．病棟薬剤業務

| 2021年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病棟薬剤業務実施加算(1)* | 100 | 2,087 | 2,025 | 2,611 | 2,454 | 2,179 | 2,261 | 2,380 | 2,224 | 2,001 | 2,157 | 2,331 | 2,319 | 27,029 | 2,252 |
| 病棟薬剤業務実施加算(2)* | 80 | 543 | 458 | 412 | 431 | 507 | 375 | 567 | 815 | 926 | 913 | 772 | 748 | 7,467 | 622 |
| 持参薬確認件数 | | 644 | 624 | 828 | 774 | 657 | 795 | 752 | 732 | 709 | 792 | 809 | 788 | 8,904 | 742 |

| 2022年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病棟薬剤業務実施加算(1)* | 100 | 2,280 | 1,941 | 2,263 | 2,129 | 2,403 | 2,447 | 2,363 | 2,232 | 2,157 | 2,347 | 2,474 | 2,470 | 27,506 | 2,292 |
| 病棟薬剤業務実施加算(2)* | 80 | 880 | 249 | 281 | 239 | 277 | 280 | 269 | 271 | 264 | 296 | 305 | 263 | 3,874 | 323 |
| 持参薬確認件数 | | 790 | 650 | 765 | 728 | 797 | 805 | 812 | 704 | 731 | 819 | 842 | 746 | 9,189 | 766 |

| 2023年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病棟薬剤業務実施加算(1)* | 100 | 2,333 | 2,311 | 2,311 | 2,335 | 2,548 | 2,390 | 2,410 | 2,482 | 2,289 | 2,487 | 2,258 | 2,303 | 28,457 | 2,371 |
| 病棟薬剤業務実施加算(2)* | 80 | 282 | 299 | 299 | 286 | 261 | 247 | 266 | 260 | 236 | 300 | 219 | 295 | 3,250 | 271 |
| 持参薬確認件数 | | 777 | 780 | 788 | 792 | 817 | 820 | 845 | 798 | 757 | 860 | 774 | 788 | 9,596 | 800 |

*病棟薬剤業務実施加算(1)：週１回100点　加算(2)（救急救命入院料病棟）：１日につき80点

4．がん診療関係（件数）

| 2021年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 外来化学療法センター(指導) | | 295 | 317 | 401 | 327 | 302 | 336 | 306 | 320 | 328 | 317 | 342 | 347 | 3,938 | 328 |
| 外来化学療法加算１ | 580 | 342 | 372 | 441 | 414 | 399 | 416 | 399 | 406 | 409 | 429 | 385 | 396 | 4,808 | 401 |
| がん患者指導管理料ハ | 200 | 34 | 49 | 44 | 36 | 41 | 33 | 33 | 37 | 43 | 37 | 37 | 34 | 458 | 38 |
| 連携充実加算 | 200 | 190 | 209 | 216 | 230 | 190 | 113 | 136 | 151 | 160 | 162 | 146 | 147 | 2,050 | 171 |

| 2022年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 外来化学療法センター(指導) | | 350 | 370 | 434 | 281 | 295 | 222 | 224 | 323 | 305 | 276 | 272 | 253 | 3,605 | 300 |
| 外来化学療法加算１ | 580 | 407 | 412 | 479 | | | | | | | | | | 1,298 | 433 |
| 外来腫瘍化学療法診療料１ | 700 | | | | 372 | 385 | 423 | 385 | 441 | 438 | 389 | 427 | 434 | 3,694 | 410 |
| がん患者指導管理料ハ | 200 | 46 | 37 | 42 | 3 | 1 | 4 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 4 | 149 | 12 |
| 連携充実加算* | 200 | 143 | 157 | 151 | 148 | 161 | 166 | 161 | 198 | 184 | 165 | 175 | 162 | 1,971 | 164 |

| 2023年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 外来化学療法センター(指導) | | 271 | 245 | 329 | 232 | 208 | 232 | 224 | 252 | 225 | 222 | 223 | 225 | 2,888 | 241 |
| 外来化学療法加算１ | 700 | 386 | 400 | 447 | 409 | 408 | 373 | 367 | 372 | 340 | 384 | 388 | 388 | 4,662 | 389 |
| がん患者指導管理料ハ | 200 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 9 | 1 |
| 連携充実加算* | 200 | 166 | 171 | 157 | 155 | 155 | 147 | 150 | 142 | 164 | 167 | 169 | 172 | 1,915 | 160 |

2022年４月抗悪性腫瘍剤を使用した場合の外来化学療法加算１が廃止、外来腫瘍化学療法診療料１が新設
*2020年６月より連携充実加算算定開始

5．無菌処理料（件数）

| 2021年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①無菌製剤処理料１　イ* | 100 | 46 | 35 | 54 | 57 | 48 | 48 | 37 | 33 | 39 | 29 | 25 | 36 | 487 | 41 |
| ②無菌製剤処理料１　ロ* | 50 | 581 | 601 | 689 | 684 | 625 | 633 | 621 | 608 | 612 | 632 | 594 | 633 | 7,513 | 626 |
| ③無菌製剤処理料２　* | 40 | 63 | 85 | 124 | 113 | 93 | 80 | 95 | 111 | 50 | 71 | 80 | 115 | 1,080 | 90 |
| ④未熟児の無菌調製 | 40 | 22 | 43 | 42 | 25 | 19 | 25 | 46 | 12 | 9 | 15 | 28 | 37 | 323 | 27 |
| ⑤未熟児の無菌調製(CV)* | 非算定 | 43 | 80 | 156 | 146 | 94 | 98 | 132 | 174 | 80 | 110 | 101 | 157 | 1,371 | 114 |
| 無菌製剤処理料(①②③の合計) | | 690 | 721 | 867 | 854 | 766 | 761 | 753 | 752 | 701 | 732 | 699 | 784 | 9,080 | 757 |

| 2022年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①無菌製剤処理料１　イ* | 100 | 39 | 53 | 52 | 43 | 36 | 55 | 57 | 48 | 50 | 42 | 37 | 35 | 547 | 46 |
| ②無菌製剤処理料１　ロ* | 50 | 650 | 580 | 697 | 615 | 650 | 733 | 658 | 687 | 723 | 691 | 720 | 749 | 8,153 | 679 |
| ③無菌製剤処理料２　* | 40 | 118 | 45 | 40 | 88 | 22 | 79 | 45 | 48 | 73 | 101 | 102 | 60 | 821 | 68 |
| ④未熟児の無菌調製 | 40 | 60 | 33 | 38 | 68 | 16 | 65 | 9 | 3 | 30 | 65 | 22 | 37 | 446 | 37 |
| ⑤未熟児の無菌調製(CV)* | 非算定 | 198 | 104 | 97 | 205 | 25 | 145 | 83 | 94 | 114 | 193 | 238 | 113 | 1,609 | 134 |
| 無菌製剤処理料(①②③の合計) | | 807 | 678 | 789 | 746 | 708 | 867 | 760 | 783 | 846 | 834 | 859 | 844 | 9,521 | 793 |

| 2023年 | 点数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①無菌製剤処理料１　イ* | 100 | 26 | 25 | 27 | 22 | 33 | 32 | 35 | 41 | 28 | 32 | 35 | 25 | 361 | 30 |
| ②無菌製剤処理料１　ロ* | 50 | 670 | 703 | 758 | 719 | 683 | 673 | 639 | 689 | 617 | 703 | 713 | 656 | 8,223 | 685 |
| ③無菌製剤処理料２　* | 40 | 104 | 97 | 129 | 152 | 92 | 79 | 76 | 58 | 106 | 135 | 92 | 157 | 1,277 | 106 |
| ④未熟児の無菌調製 | 40 | 12 | 15 | 56 | 77 | 4 | 26 | 35 | 14 | 42 | 130 | 66 | 157 | 634 | 53 |
| ⑤未熟児の無菌調製(CV)* | 非算定 | 206 | 155 | 187 | 230 | 112 | 126 | 119 | 117 | 201 | 188 | 195 | 253 | 2,089 | 174 |
| 無菌製剤処理料(①②③の合計) | | 800 | 825 | 914 | 893 | 808 | 784 | 750 | 788 | 751 | 870 | 840 | 838 | 9,861 | 822 |

*イ（閉鎖式接続機器を使用した場合：2015年3月より算定開始）　*ロ（イ以外の場合）
*無菌製剤処理料２（無菌製剤処理料１以外のもの）
*2017年11月より未熟児病棟のCVルート分の輸液調整を開始（非算定）

■医薬品採用数と後発医薬品の割合（購入実績より）

| 年度区分 | | 2020年度<br>(2020.4-2021.3) | 2021年度<br>(2021.4-2022.3) | 2022年度<br>(2022.4-2023.3) |
|---|---|---|---|---|
| 採用医薬品目数<br>（３月末現在） | 内用 | 808 | 821 | 825 |
| | 外用 | 270 | 263 | 250 |
| | 注射 | 629 | 651 | 673 |
| | 合計 | 1,707 | 1,735 | 1,748 |
| 後発品採用品目数<br>（３月末現在） | 内用 | 285 | 309 | 314 |
| | 外用 | 79 | 83 | 72 |
| | 注射 | 143 | 173 | 168 |
| | 合計 | 507 | 565 | 554 |
| 後発品比率<br>（品目割合） | 内用 | 74% | 76% | 75% |
| | 外用 | 76% | 74% | 71% |
| | 注射 | 72% | 74% | 73% |
| | 合計 | 74% | 75% | 74% |
| 後発品比率<br>（金額割合） | 内用 | 41% | 45% | 57% |
| | 外用 | 68% | 74% | 71% |
| | 注射 | 43% | 38% | 45% |
| | 合計 | 43% | 40% | 47% |
| 後発品比率<br>（数量割合） | 内用 | 84% | 87% | 93% |
| | 外用 | 96% | 95% | 96% |
| | 注射 | 90% | 89% | 89% |
| | 合計 | 87% | 89% | 93% |

割合は全て新指標で算出
新指標＝後発医薬品購入数量／（後発品のある先発医薬品購入数量＋後発医薬品購入数量）*100

■病棟業務

●３Ａ

➢持参薬の確認
➢注射薬の投与量、流速計算、点滴ルートの確認
➢副作用、相互作用の確認
➢薬剤情報提供
➢TDM解析
➢服薬指導
➢バイタル、尿量、血液検査データなどの情報による薬剤適正使用のモニタリング
➢定数薬および救急カート内の確認、定数薬の品目と数量の見直し
➢RSTカンファレンス参加（週１回）
➢麻薬管理状況確認
➢定数配置薬確認

●３Ｂ

➢持参薬、処方薬の用法・用量、禁忌、相互作用のチェック
➢医師、看護師への医薬品情報の提供
➢TDM解析
➢処方薬についての服薬指導と副作用確認
➢定数配置薬処方の代行入力

●４Ａ（小児）
➢年齢・体重に応じた内服薬・注射薬の用法用量、相互作用のチェック
➢持参薬の確認・報告
➢家族・本人への服薬指導、副作用の確認
➢定数薬のチェック
➢週１回の病棟カンファレンスへの参加
➢医師や看護師への医薬品情報の提供
➢抗菌薬の調製方法及びメインの輸液との配合変化表の改訂
➢特殊配送医薬品の搬入および病棟への運搬
➢高額医薬品の投与スケジュール管理および購入手続き

●４Ａ（未熟児）
➢年齢・体重に応じた内服薬・注射薬の用法用量、相互作用のチェック
➢配合変化のある薬剤を複数投与する場合の投与ルートの提案
➢TDM解析
➢依頼された家族への服薬指導
➢定数薬のチェック
➢中心静脈より投与する薬剤の無菌調製（平日）
➢無菌調製に関する運用管理およびマニュアルの作成・改訂
➢職種間での医薬品情報の共有

●４Ｂ
➢入院時の持参薬チェック
➢内服薬、注射薬の相互作用、禁忌等の確認
➢処方薬についての服薬指導
➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュールと服薬指導、副作用の対処法の説明
➢両親学級（オンライン）

●５Ａ
➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュールと服薬指導、副作用の対処法の説明
➢内服薬、注射薬の相互作用、禁忌等の確認と処方薬についての服薬指導
➢入院時の持参薬報告
➢病棟ストック薬の代行処方
➢腹膜透析液の管理
➢月１回の腎臓病教室
➢カンファレンス参加

●５Ｂ
➢入院時持参薬の確認、代替薬の提案
➢入院時患者情報収集（アレルギー、副作用歴、服薬状況の確認等）
➢化学療法の投与量確認、パンフレットを用いた患者への説明、副作用モニタリング
➢内服薬、注射薬の処方チェック
➢内服薬や注射薬の配合変化、併用注意などスタッフへ医薬品適正使用に関する情報提供

➢TDM解析と処方提案
➢患者への服薬指導
➢プレアボイド報告

●6 A
➢緊急入院時持参薬の報告、また、院内処方切り替え時の薬剤の確認、アレルギー、副作用歴、服薬状況の確認、院内同効薬の処方提案
➢内服薬、注射薬の配合変化・相互作用の確認と処方薬についての服薬指導
➢病棟スタッフからの注射剤の投与ルート等についての問い合わせに対する回答
➢麻薬の管理状況の確認（週１回）
➢定数保管薬（内服）の代行処方
➢心リハカンファレンスへの参加（週１回)
➢心リハ委員会への参加（２か月に１回）
➢心臓病教室（週１回）
➢循環器内科および心臓血管外科カンファレンスへの参加
➢TDM解析

●6 B
➢入院時持参薬の報告（特に抗血栓薬等）および残薬整理、院内同効薬の処方提案
➢医師-看護師へ医薬品適正使用に関する情報提供
➢内服薬、注射薬の処方チェックと処方薬についての服薬指導
➢TDM解析と処方提案
➢整形外科カンファレンスへの参加（週２回）

●7 A
➢持参薬報告、術前中止薬のチェックや処方薬についての服薬指導
➢化学療法時の吐き気、末梢神経障害、便秘、下痢等、副作用軽減のための処方提案
➢病棟スタッフからの注射剤の配合変化についての問い合わせにする回答
➢TDM解析
➢病棟会議への参加

●7 B
➢入院患者経過確認と投薬状況確認
➢処方薬の継続処方薬依頼とMDRA検査依頼
➢病棟スタッフとの情報共有
➢病棟管理薬チェック
➢入院時の持参薬報告

●8 A
➢持参薬の報告、代替薬の提案
➢入院患者の内服・注射の投薬状況の把握と用法用量、投与速度、相互作用の確認
➢用法・用量、副作用も含めた服薬指導のほか、肝臓病教室にて患者指導を実施
➢病棟スタッフへの配合変化等の医薬品情報の提供

➢病棟保管薬の代行入力
➢肝臓内科カンファレンス、回診への参加
➢TDM解析
➢入院中に転倒があった患者に対する、多職種カンファレンス

●８Ｂ
➢医薬品の投薬・注射状況の把握
➢患者等に対するハイリスク薬等に係る投与前の詳細な説明
➢薬剤の投与にあたり、流量又は投与量の計算等の実施
➢持参薬報告
➢TDM解析
➢患者等に対する処方薬についての服薬指導
➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュール、副作用およびその対処法の説明

●９Ａ
➢入院患者経過確認・治療方針等確認
➢入院時の持参薬鑑別・院内採用薬報告
➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュール、副作用およびその対処法の説明
➢内服薬、注射薬の処方チェック
➢病棟スタッフからの注射剤の配合変化、投与ルート等についての問い合わせ
➢麻薬の管理状況の確認
➢診療科カンファレンスへの参加
➢TDM解析
➢レブメイト患者登録・ID失効手続き
➢DI情報の収集と主治医への情報提供

●９Ｂ
➢薬物療法の適正使用の確認
➢服薬指導（理解可能な患者のみ)、服薬支援（一包化等）及び服用法の説明
➢病棟ストック薬の確認など医薬品の管理

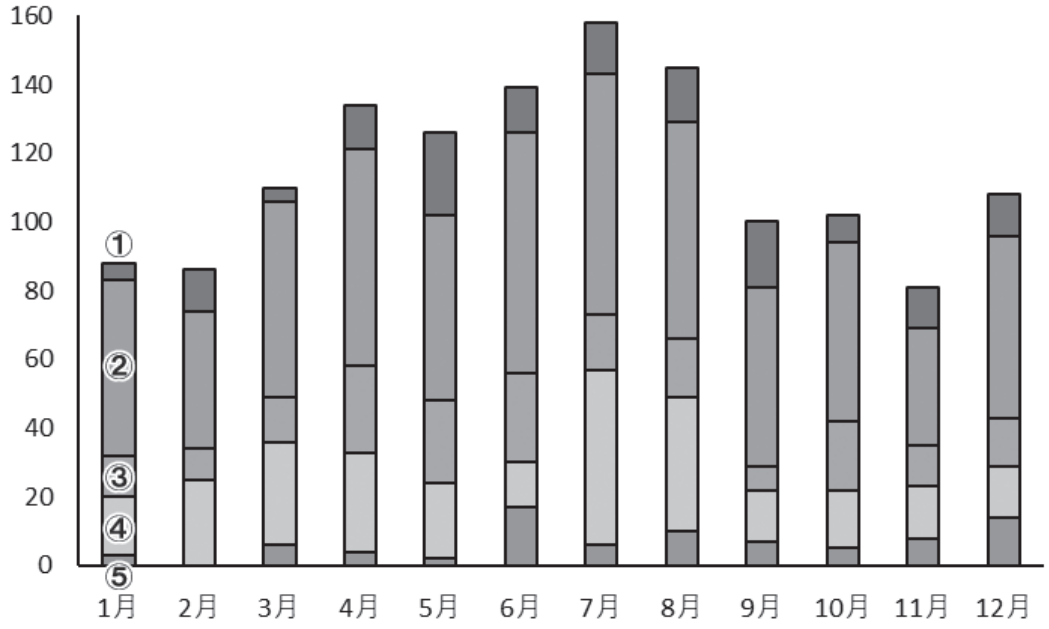
●病棟活動の事例報告について
2021年6月より医療安全の質向上の観点から、「情報共有」の目的で業務の可視化を行うこととして病棟活動事例の集積を開始した。また事例を以下の５つに分類し、優良事例を薬剤管理運営委員会にて紹介している。

①薬学的観点（薬理作用、相互作用、配合変化等からの判断）
②医薬品情報（添付文書、インタビューフォーム等から確認できる情報）
③主観的情報（患者面談、患者の訴え、アドヒアランス等）
④観的情報（副作用歴、アレルギー歴、薬歴、検査値等（腎機能低下事例を除く））
⑤腎機能低下（客観的情報のうち、腎機能低下）

全体の件数および採択率

| 2023年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数（件） | 88 | 86 | 110 | 134 | 126 | 139 | 158 | 145 | 100 | 102 | 81 | 108 | 115 |
| 採択率（%） | 89 | 91 | 93 | 92 | 89 | 91 | 92 | 87 | 91 | 87 | 90 | 91 | 90 |

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①薬学的観点 | 5 | 12 | 4 | 13 | 24 | 13 | 15 | 16 | 19 | 8 | 12 | 12 |
| ②医薬品情報 | 51 | 40 | 57 | 63 | 54 | 70 | 70 | 63 | 52 | 52 | 34 | 53 |
| ③主観的情報 | 12 | 9 | 13 | 25 | 24 | 26 | 16 | 17 | 7 | 20 | 12 | 14 |
| ④客観的情報 | 17 | 25 | 30 | 29 | 22 | 13 | 51 | 39 | 15 | 17 | 15 | 15 |
| ⑤腎機能低下 | 3 | 0 | 6 | 4 | 2 | 17 | 6 | 10 | 7 | 5 | 8 | 14 |




■外来業務

●外来化学療法センター

外来化学療法センターで治療を受けられる患者や家族に対し、2011年9月から薬剤管理指導を行っている。抗がん薬の投与量・投与スケジュールのチェックや化学療法前の患者のバイタル、検査値などを確認して、治療中の患者に対する薬剤管理指導を通した副作用マネジメントなどを行い、適切で安全な化学療法の実施を支援している。2020年6月から連携充実加算の算定を開始し、お薬手帳への副作用情報提供シールの貼付などがん薬物療法における地域の保険薬局との連携強化を図っている。

外来化学療法センターにおける医師へのオーダー確認および処方提案件数

| 2023年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 51 | 89 | 73 | 41 | 31 | 56 | 46 | 51 | 45 | 68 | 79 | 58 |

●薬剤師外来

近年、分子標的治療薬をはじめとする注射薬と同等以上の効果を持った経口抗がん薬が多数開発され、がん治療のキードラッグとして積極的に使用されている。2013年10月から腫瘍内科の診察枠に薬剤師外来を開設して予約制で経口抗がん薬の初回導入時やレジメン変更時に説明を行い、治療が継続できるよう支援を行っている。

●予約入院支援センター

2012年４月より予約入院支援センターにて、クリティカルパス適応患者を対象に入院前の内服薬確認を行っている。2013年11月からは、一部の外科を対象にクリティカルパス適応外の患者の内服薬確認を開始、2014年４月より外科のクリティカルパス適応患者以外についても適宜内服薬確認を開始、現在では対応診療科すべてのクリティカルパス適応患者以外においても適宜内服薬確認を行っている。観血的治療(手術・内視鏡などの処置)や心臓カテーテル検査、血管造影検査時に休薬が必要とされる薬剤をスクリーニングし、該当する薬があれば医師へ確認し、患者・家族へ説明を行っている。また、電子カルテに持参薬を記録し、病棟スタッフと情報共有している。

現在はその他に、手術前における検査入院目的の患者の内服薬確認も行っている。2023年１月から12月までの12ヶ月の確認件数は4,137件で休薬対象薬を含んでいた件数は1181件であった。この内、カルテに休薬等の指示がなく医師に確認後休薬となった件数は122件であった。2023年よりSGLT2阻害関連薬も休薬対象としている。

対象診療科:肝臓内科・消化管内科・循環器科・呼吸器内科・外科・呼吸器外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・血液内科・整形外科・皮膚科・産婦人科・形成外科・心臓血管外科・腎臓内科・脳神経外科・小児科・内分泌代謝内科、放射線科

予約入院支援センターでの薬剤業務状況

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 患者数 | 337 | 326 | 352 | 328 | 362 | 365 | 379 | 368 | 349 | 340 | 340 | 291 |
| 内服あり | 289 | 273 | 309 | 291 | 301 | 319 | 313 | 311 | 296 | 292 | 305 | 264 |
| 休薬対象あり | 93 | 93 | 105 | 91 | 93 | 102 | 108 | 98 | 106 | 97 | 97 | 98 |
| 休薬を確認した件数（注） | 8 | 6 | 9 | 8 | 5 | 13 | 17 | 11 | 16 | 11 | 5 | 13 |

(注)：カルテに指示がなく医師に休薬するかどうかの確認をした結果、休薬となった件数

■新型コロナウイルスCOVID-19への対応

2021年２月より実施されている院内スタッフのコロナワクチン接種では、ワクチンの保管・温度管理、希釈等の業務を行っている。

COVID-19に対する治療薬に関しては、コロナ診療に関わる診療科、看護部、事務部と協力し院内の使用体制の整備を行っている。経口治療薬に関しては院内に加えて院外の保険薬局とも連携を行っている。

2023年５月より５類感染症に移行し、管理体制も変更した。

承認済の新型コロナウイルス治療薬（2023年12月23日現在、承認順に掲載）

| 成分名（販売名） | 分　類 | 対象者 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| レムデシビル<br>（ベクルリー点滴静注用） | 抗ウイルス薬<br>（RNAポリメラーゼ阻害薬） | 軽症～重症 | 2020.5.7特例承認。2021.8.12保険適用、2021.10.18から一般流通開始。 |
| デキサメタゾン<br>（デカドロン錠 等） | 抗炎症薬<br>（ステロイド薬） | 中等症Ⅱ～重症 | 重症感染症の治療薬として従来から承認されていたステロイド薬。投与方法は経口、経管、静注。2020.7.17に診療の手引き掲載。 |

| 成分名（販売名） | 分　類 | 対象者 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| バリシチニブ<br>（オルミエント錠） | 抗炎症薬（JAK阻害薬） | 中等症Ⅱ～重症 | 2021.4.23追加承認。一般流通。 |
| カシリビマブ/イムデビマブ<br>（ロナプリーブ注射液セット） | 中和抗体薬 | 軽症～中等症Ⅰ<br>※重症化リスク因子有り<br><br>発症抑制<br>※曝露後の免疫抑制患者等 | 2021.7.19特例承認。2021.11.5に曝露後の免疫抑制患者等に対する発症抑制の適応追加及び皮下投与の投与経路追加を特例承認。厚生労働省が買い上げ、配分対象医療機関に無償譲渡。オミクロン株の場合は中和活性が減弱することから、他の治療薬が使用できない場合に投与を検討。 |
| ソトロビマブ<br>（ゼビュディ点滴静注液） | 中和抗体薬 | 軽症～中等症Ⅰ<br>※重症化リスク因子有り | 2021.9.27特例承認。厚生労働省が買い上げ、配分対象医療機関に無償譲渡。オミクロン株の場合は中和活性が減弱することから、他の治療薬が使用できない場合に投与を検討。 |
| モルヌピラビル<br>（ラゲブリオカプセル） | 抗ウイルス薬<br>（RNAポリメラーゼ阻害薬） | 軽症～中等症Ⅰ<br>※重症化リスク因子有り | 2021.12.24特例承認。<br>2022.8.10保険適用、2022.9.16から一般流通開始。 |
| トシリズマブ<br>（アクテムラ点滴静注） | 抗炎症薬（IL-6阻害薬） | 中等症Ⅱ～重症 | 2022.1.21追加承認。一般流通。 |
| ニルマトレビル/リトナビル<br>（パキロビッドパック） | 抗ウイルス薬<br>（プロテアーゼ阻害薬） | 軽症～中等症Ⅰ<br>※重症化リスク因子有り | 2022.2.10特例承認。厚生労働省が買い上げ、配分対象医療機関および薬局に無償譲渡。 |
| チキサゲビマブ/シルガビマブ<br>（エバシェルド点滴静注） | 中和抗体薬 | 軽症～中等症Ⅰ<br><br>曝露前の発症抑制<br>※投与条件あり | 2022.8.30特例承認。厚生労働省が買い上げ、配分対象医療機関に無償譲渡。現在は発症抑制の場合のみ流通。 |
| エンシトレビルフマル酸<br>（ゾコーバ錠） | 抗ウイルス薬<br>（プロテアーゼ阻害薬） | 軽症～中等症Ⅰ<br>※重症化リスク因子なし | 2022.11.22緊急承認。厚生労働省が買い上げ、配分対象医療機関および薬局に無償譲渡。 |

## 委員会における薬剤師の役割

■がん薬物療法及びレジメン審査委員会

院内で施行されるがん薬物治療の妥当性と科学的根拠を審査する当該委員会に薬剤師３名が参加している。薬剤師は、新規に実施される臨床研究を含むがん薬物療法のレジメン申請書・投与計画表・根拠論文を受理・審査後、事前審査委員へ審査を依頼している。レジメン審査委員会では申請されたレジメンの妥当性について答申を行い、承認レジメンを電子カルテのレジメンシステムへの登録・管理のほか、委員会議題・議事録作成、レジメン申請窓口などの事務局業務を行っており、2023年（１月～12月）は新規申請３件、迅速審査62件であった。

■ICT

毎週火曜日に開催されているミーティングに薬剤師が参加し、抗菌薬の使用状況、指定抗菌薬（カルバペネム系薬剤・抗MRSA薬剤）の長期使用患者などについてICD、ICNまたはコメディカルスタッフなどに対して報告を行っている。ミーティング後の院内の環境ラウンドへも同行し、アドバイスを行っている。毎週金曜日の感染症内科のカンファレンスでは指定抗菌薬の長期使用患者、許可制抗菌薬の使用患者および感染症コンサルテー

ションの対象患者に関する抗菌薬適正使用について協議している。職員対象に年に1～2回講習会を行っている。

また、毎月、全国規模の耐性菌サーベイランスであるJANIS（院内感染対策サーベランス）、J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）への報告を行っている。

感染対策向上加算に係る合同カンファレンスを年に4回、相互評価を2施設とそれぞれ年に1回行っている。合同カンファレンスでは、抗菌薬使用状況に関する連携4施設すべてのデータ整理、情報提供を担当している。

当院では指定抗菌薬（カルバペネム系薬剤・抗MRSA薬剤）の適正使用に向けた届出率向上、使用状況確認の効率化を目的に、電子カルテの抗菌薬管理機能を用いる方法を導入しており、届出率は100%を維持している。

AUD（抗菌薬使用密度）を用いた耐性菌サーベイランスへの取り組みを行い、耐性菌検出率と抗菌薬使用量との関連性について研究を開始しており、今後に期待されている。

■NST

毎週木曜日に行われるカンファレンス・回診へ参加し、投薬状況の確認、輸液メニューの組成チェック、血液データの確認、薬剤の提案等を行っている。月1回のNST委員会ではNST加算件数や問題点等を報告している。

■緩和ケア

当院の緩和ケアチームは身体症状担当の緩和ケア科医師、精神症状担当の精神科医師、緩和ケアチーム専従のがん性疼痛認定看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどの多職種からなるチームである。週に1回カンファレンスを行い、薬剤師は、患者の症状に合わせた適切な薬剤の選択、投与量の調節、副作用のモニタリングなどを通して、患者の苦痛緩和へ貢献している。

■RST

呼吸ケアサポートチーム（RST）は人工呼吸器を装着している患者に対し、人工呼吸器の使用上の問題に関するサポートを多職種連携で行うことで、患者ケアを向上させ人工呼吸器の早期離脱を目指している。毎週火曜日に回診とカンファレンスを実施し、主に鎮痛薬、鎮静薬について薬剤師として助言を行うなど薬学的介入を行っている。

■医療安全

週1回開催の医療安全管理部会、月1回開催の医療安全管理委員会、医療安全推進担当者会議があり、特に医薬品関連のインシデントについてはシステム等を活用した防止策を講じ、再発防止に取り組んでいる。また部内ではインシデント発生時の対応や事例分析、対策等を共有し、部員全員で医療安全における意識の向上と業務改善を行っている。

■クリティカルパス委員会

2か月に1回のパス委員会と2か月に1回の推進部会への参加を通して、事務も含めた他職種と情報交換を行いながらよりよいパス作成に取り組んでいる。

■腎臓病教室

月に1回開催されている腎臓病教室に参加している。教室では医師・看護師・栄養士・MSWと協力し、腎臓内科に通院もしくは入院されている患者様とそのご家族に対して各スタッフ10分前後の講義を行っている。

■糖尿病教室

毎週木曜日に開催される入院患者向け糖尿病教室には、薬剤師担当回の講師として2名参加している。主として血糖コントロールを目的に入院した患者を対象に、薬物治療に関した講義を実施している。当院では年1回、

糖尿病患者の教育及び交流を目的として「みんなの健康教室」を開催しており、そこでも担当テーマに沿った講義を薬剤師が実施している。

■肝臓病教室

1年に4回開催される肝臓病教室に薬剤師1名が参加している。医療スタッフは専門医、薬剤師、看護師、栄養士の4名である。入院・外来患者に対してスライドを用いて肝疾患の薬物療法（肝炎、肝硬変などをテーマに）について説明し患者の理解を得ながら適切な薬物療法の支援を行っている。

■両親学級

『妊娠とお薬について』をテーマに妊娠期特有の薬の処方やサプリメントについての説明を中心にweb講義を行っている。

■心臓病教室

週に1回、医師・看護師・薬剤師より、心疾患で入院されている患者さんとそのご家族を対象に講義を行う。心疾患患者に対する薬物治療の目的、薬剤の特徴、副作用、内服における注意点、服用継続の意義に対して理解を目的とした講義を実施し、積極的な患者教育に取り組んでいる。また、心不全患者サポートの質向上を目指し、心不全療養指導士の資格取得にも取り組んでいる。

## 研修・教育

■カンファレンス・勉強会

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 薬剤勉強会（製薬会社説明） | 適宜 |

■薬学部学生実務実習

薬学部の薬剤師養成課程が6年制に移行し、5年時に病院での11週間の実務実習が義務付けられたことに伴い、当院でも2010年5月より薬学部の学生を受入れ、実習指導を行っている。2023年度も2期6名、3期6名の学生を受入れ、調剤業務、製剤業務などの基礎的なものから、服薬指導、疑義照会、TDM解析、病棟業務、チーム医療などより臨床に密着した業務を、カリキュラムに基づいて、指導・教育を行っている。

| 名　　称 | 対　象 | 受入人数 | 実施月 |
|---|---|---|---|
| 2023年度　第2期　長崎国際大学 | 5年生学生 | 6名 | 5月～8月 |
| 2023年度　第3期　長崎国際大学 | 5年生学生 | 6名 | 8月～11月 |

■長崎県大村東彼地区薬剤師会講習会及び院内化学療法セミナー

| 名　　称 | 参加職種 | 参加人数 | 実施日 |
|---|---|---|---|
| 2023年度第1回大村東彼薬剤師会薬薬連携勉強会 | 薬剤師 | 64名 | 10月5日 |

■各種研修（機構主催；本部、ブロック）

| 名　　称 | 参加者 | 参加人数 | 実施月 |
|---|---|---|---|
| 令和5年度チーム医療推進のための研修（NST） | 松永 | 1 | 9 |
| 令和5年度主任薬剤師管理業務研修 WEB | 金原他 | 6 | 12 |
| 令和5年度医療安全対策研修Ⅰ | 橋本 | 1 | 10-12 |

■認定薬剤師・専門薬剤師など

| 名　　称 | 氏　　名 |
|---|---|
| 日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師 | 三角紳博 |
| 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師 | 三角紳博，福山雄卯介 |
| 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 | 濱野麻子 |
| 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 | 濱野麻子 |
| 日本薬剤師研修センター<br>認定実務実習指導薬剤師 | 三角紳博，福山雄卯介，橋本未雷，副島啓司，<br>白川敦規，川﨑美幸 |
| 日本病院薬剤師会 精神科専門薬剤師 | 福山雄卯介 |
| 日本精神薬学会 認定薬剤師 | 福山雄卯介 |
| 日本臨床栄養代謝学会 NST専門療養士 | 三角紳博，福山雄卯介，橋本未雷，吉田翔平，<br>松尾待池 |
| 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 | 白川敦規 |
| 日本糖尿病療養指導士認定機構<br>糖尿病療養指導士 | 福山雄卯介，西川睦美 |
| 日本くすりと糖尿病学会<br>糖尿病薬物療法履修薬剤師 | 福山雄卯介 |
| 日本循環器学会　心不全療養指導士 | 松永望東子 |
| 日本アンチ・ドーピング機構<br>スポーツファーマシスト | 福山雄卯介，小園晃生，白川敦規，永江一徳 |
| 日本臨床薬理学会 日本臨床薬理学会認定CRC | 川﨑美幸，小園晃生 |
| 日本リウマチ財団 リウマチ登録薬剤師 | 福山雄卯介，大津貴寛 |
| 日本骨粗鬆症学会 骨粗鬆症マネージャー | 福山雄卯介 |
| 日本性感染症学会 認定士 | 福山雄卯介 |
| 日本臨床栄養協会<br>NR・サプリメントアドバイザー | 福山雄卯介 |
| 厚生労働省 DMAT登録 | 綱脇徹意，相川美穂 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 6 | 1 | 2 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）その他**　　**（件数）**

| 種類 | 講演 |
|---|---|
| 件数 | 2 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 1 | 4 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

# 研究業績

## 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）薬物血中濃度・薬物相互作用を基にした精神科治療薬の適正使用.
シンポジウム11：精神科領域のあらゆる場面における薬剤師の役割を考える.
福山雄卯介.
第33回日本医療薬学会年会. 仙台, 2023.11.3.

**B-b2：一般演題**

**＜ポスター＞**

1）カルボプラチンの算出法の違いによる副作用発現状況の調査.
濱野麻子、三角紳博.
日本臨床腫瘍薬学会. 名古屋, 2023.3.4.

2）アルコール依存症入院治療における向精神薬の処方実態調査（パイロット調査）.
宮浦淳一、加藤剛、五味和彦、福山雄卯介、細木加寿子、細川智成、亀井浩行.
第 7 回日本精神薬学会学術集会. 岡山, 2023.9.16.

3）多職種で支えるirAE対策の立ち上げと活動.
馬場麻佑花、堤国章、中川未菜、福山雄卯介、橋本未雷、池田喬哉、三角紳博.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

4）アンデキサネット　アルファの適正使用に向けた取り組み.
相川実穂、松尾待池、大津貴寛、橋本未雷、福山雄卯介、里吉拓海、木場みちよ、辻村美希代、宮本瑠美、権志成、中道親昭、三角紳博.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

5）Enterococcus faecium菌血症治療に用いるvancomycin治療パラメータの検討.
野田晃洋、平山和登、中川未菜、副島啓司、福山雄卯介、三角紳博、近藤晃.
第33回日本医療薬学会年会. 仙台, 2023.11.3.

**B-c：研究会発表**

**＜口演＞**

1）アンデキサネット　アルファの適正使用に向けた取り組み.
相川実穂、松尾待池、大津貴寛、橋本未雷、福山雄卯介、里吉拓海、木場みちよ、辻村美希代、宮本瑠美、権志成、中道親昭、三角紳博.
第47回九州国立病院薬剤師会総会・薬学研究会. Web, 2023.7.8.

**C, F：学術講演他**

**C-b：学術講演[国内]**

**＜講演＞**

1）大腸がんの化学療法について
中川未菜
令和 4 年度　第 2 回薬薬連携勉強会. 大村, 2023.1.19.

2）がん患者のトレーシングレポートの書き方.
濱野麻子.
令和5年度大村東彼薬剤師会薬薬連携勉強会. 大村, 2023.10.5
3）トレーシングレポートに活かせるCTCAEについて.
永江一徳.
令和5年度大村東彼薬剤師会薬薬連携勉強会. 大村, 2023.10.5.

**F-b：学会・研究会座長 [国内学会]**

**＜座長＞**

1）医師の働き方改革に向けた薬剤師業務の広がりと可能性.
三角紳博.
Pharmacy Director Seminar. 長崎, 2023.3.14.
2）ホルモン感受性陽性・HER2陰性乳癌　周術期薬物療法 最新の話題.
三角紳博.
大村東彼Oncology Seminar for Pharmacists. 長崎, 2023.9.20.
3）長崎原爆病院外来治療室における乳腺外科患者への薬剤師の介入.
橋本未雷.
大村東彼Oncology Seminar for Pharmacists. 大村, 2023.9.20.
4）当院の皮膚障害対策の取り組みと薬剤師外来の関わり.
三角紳博.
モーニングセミナー第39回九州山口薬学大会. 長崎, 2023.9.24.
5）電子処方箋モデル事業の取組み.
三角紳博.
第4回Pharmacy Seminar in 県央. 大村, 2023.10.12.
6）一般口演　薬剤関連1-2薬剤管理1.
橋本未雷.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**G：その他**

**＜講演＞**

1）求められる薬剤師とは
三角紳博
病院薬剤師について長崎国際大学就職ガイダンス. 長崎, 2023.1.12.
2）薬剤部門の運営について.
三角紳博.
第2回室長研究会九州地区国立病院管理栄養士協議会. 長崎, 2023.2.1.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 病理診断科

責任者　三浦 史郎

## 診療科の特色

病理部門は常勤病理医３名、後期研修医１名、院外非常勤病理医２名で病理診断、病理解剖を行っています。腎生検、悪性リンパ腫の診断は特殊なため産業医科大学病理と久留米大学の専門家にコンサルトしています。てんかん病理は秋田県立脳血管研究センターの専門医に依頼しています。当院のスタッフは日本病理学会認定専門医が４名で、１名が日本臨床細胞学会認定指導医資格を有しています。主な病理の業務内容は①細胞診断、②生検組織診断、③手術で摘出された臓器・組織の診断、④手術中の迅速診断、⑤病理解剖、⑥臨床との合同カンファレンス、院内、大村医師会CPCの主催、⑦研修医の指導などです。病理診断は最終診断として治療方針の決定に重要な役割を担っています。当院では細胞診、組織診とも全例トリプルチェックを行い、診断精度の向上と良質な医療の提供を心がけています。さらに症例によっては国立がんセンター、日本病理学会九州支部のコンサルテーションシステムなどを積極的に活用しています。近年の傾向はがん診療の発達で、病理検体を用いた生物製剤・ホルモン受容体薬の選択の為の免疫染色検査やがんゲノムパネル検査を含む遺伝子検査が急増しています。全国的に減少傾向にある剖検は、新型コロナウイルス流行を受け、昨年は11体でしたが、本年は18体とコロナ前の状態に戻りました。研修医教育を兼ねたCPCは例年通り年５回実施し、複数の診療科が一堂に会し多面的に討議する貴重な教育の場になっています。

## 入院診療実績

| | | | |
|---|---|---|---|
| 病理解剖 | 18体 | 組織検体数 | 7,746件 |
| 組織診断 | 5,893件 | 作製ブロック数 | 18,609個 |
| 細胞診断 | 6,172件 | 作製標本枚数 | 38,139枚 |
| 迅速組織診断 | 286件 | 免疫組織枚数 | 8,767枚 |
| 特殊染色 | 4,200枚 | 治験・外注未染色枚数 | 2,480枚 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 院内CPC | ５／年 |
| 大村医師会CPC | ２／年 |
| 肝病理カンファランス | １／週 |
| 皮膚病理カンファランス | １／月 |
| 抄読会 | １／月 |
| 九州スラコン症例検討会 | 隔月 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**様式１－１　治験等症例数一覧**

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）） | 研究課題名 | 同意書有無 | 依頼者（または試験母体） | 責任医師（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品） | Semi-dry dot-blot（SDB）法を応用した新規乳癌リンパ節転移診断キットに関する多施設共同臨床性能試験（再試験） | 有 | ㈱ニッポンジーン | 三浦史郎（分担） | 20例 |

**様式１－３　NHOネットワーク共同研究　新規症例登録数（文書同意あり）**

| No. | 区分（NHO/EBM） | 研究課題名（採択番号） | 研究代表者名 | 研究代表者施設名 | 研究責任者名 | 同意書の有無 | 当院実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | NHO | メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の遺伝子変異プロファイルの解析（H31-NHO（多共同)-02） | 星田義彦 | 大阪南医療センター | 伊東正博 | 無 | 5例 |
| 2 | NHO | メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究（H28-NHO（多共同)-02） | 星田義彦 | 大阪南医療センター | 伊東正博 | 無 | 5例 |
| 3 | NHO | 国立病院機構内に組織した『病理診断ネットワーク』によるデジタルパソロジーをつかった病理診断ダブルチェックの実現性と有効性に関する研究（H31-NHO（癌般)-04） | 寺本典弘 | 四国がんセンター | 伊東正博 | 無 | 0例 |

**様式２　競争的研究費一覧**

| No. | ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金 | 研究課題名 | 研究者名 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 当院登録症例数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑩その他財団等からの研究費 | チェルノブイリ周辺地域と本邦の自然発症性甲状腺癌の病理組織学的検討 | 伊東正博 | 「放射線災害・医科学研究拠点」共同利用・共同研究 | 主任 | 継続 | 0例 |
| 2 | ⑩その他財団等からの研究費 | 腫瘍組織登録の標準化 | 三浦史郎 | 長崎県医師会 | 主任 | 継続 | 1,980例 |
| 3 | ⑪民間セクターからの寄附金 | 人工知能による悪性判定感度100％胃生検自動判定システム開発に向けた多施設共同予備研究研究 | 三浦史郎 | (株)エビデント | 分担 | 新規 | 20例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 2（ 3 ） | 6 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1（ 1 ） | 19（ 3 ） | 18 | 5 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

3）学術講演　（件数）

| 種類 | 教育講演 |
|---|---|
| 件数 | 3 |

4）学会座長　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Prevalence and diagnostic significance of non-invasive follicular thyroid neoplasm with papillary-like nuclear features in Japan-A multi-institutional study.
Hirokawa M, Ito M, Motoi N, Chiba T, Imamura Y, Yasuoka H, Hino R, Higuchi M, Miyauchi A, Akamizu T.
Pathol Int. 2023；doi:10.1111/pin.13393. Online ahead of print.

**A-a2：英文症例報告**

1）Fulminant Guillain-Barré syndrome secondary to Campylobacter coli infection: An autopsy case report.
Kutsuna F,  Soeda M, Hibino A, Tokuda M, Miura S, Iwanaga H.
eNeurologicalSci. 2023；31：100454. eCollection 2023 Jun.

2）Adrenocortical carcinoma mimicking hepatocellular carcinoma: A case report.
Ikeda T, Kitasato A, Okamoto T, Soeda M, Miura S, Kuroki T.
Int J Surg Case Rep. 2023；105：108122. Epub 2023 Apr 4.

3）Collision tumor of a papillary and follicular thyroid carcinoma：a case report.
Kawasaki K, Kai K, Tanaka N, Kido S, Ibi A, Minesaki A, Yamauchi M, Kuratomi Y, Aishima S, Nakashima M, Ito M.
Thyroid Res. 2023；16(1)：24.

**A-b1：英文総説**

1）Pulmonary coccidioidomycosis complicated by nontuberculous mycobacterial pulmonary diseases with a literature review.
Ashizawa H, Iwanaga N, Kurohama H, Ito Y, Ashizawa N, Hirayama T, Takeda K, Ide S, Nagayoshi Y, Tashiro M, Takazono T, Tagawa T, Fukushima K, Ito M, Nakamura S, Izumikawa K, Yanagihara K, Miyazaki Y, Mukae H.
Jpn J Infect Dis. 2023；76(5)：314-318. Epub 2023 May 31.

**B：和文**

**B-a2：和文症例報告**

1）アダリムマブで加療中に水疱性類天疱瘡を発症した関節リウマチの一例.
塩塚高史、岩永希、赤城翠、冨野千愛、岡田覚丈、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
九州リウマチ. 2023；43(1)：44-50.

2）造影超音波検査が有用であった肝原発DLBCLの1例.
手嶋翔一朗、西浦哲哉、小林真未、藤田寿之、牧野謙二、長岡進矢、三浦史郎、伊東正博.
医学検査. 2023；72(2)：272-280.

3）COVID-19感染後に反回神経麻痺を呈したサルコイドーシスの一例.
日高悠介、岩永希、赤城翠、小野晋太郎、岡田覚丈、徳田昌紘、和泉泰衛、三浦史郎、伊東正博、川上純.
九州リウマチ. 2023；43(2)：101-106.

4）原発性硬化性胆管炎の経過中に胆嚢癌を発症した1例.
吉原絹子、池田貴裕、岡本辰哉、北里周、三浦史郎、伊東正博、黒木保.
胆道. 2023；37(4)：820-824.

**B-b：和文総説**

1）「病理解剖の意義を問い直す－現状と展望－」当院における初期研修医制度、専門医研修制度の中で行っている取り組み.
三浦史郎、佐藤俊輔、添田李子、三原裕美、伊東正博.
医療. 2023；77(1)：22-26.

**B-c2：和文著書[分担]**

1）【各論2 甲状腺】7．Basedow病.
伊東正博.
非腫瘍性疾患病理アトラス-内分泌臓器（日本語）単行本, 亀山香織（編集), 中村保宏（編集), 文光堂, 東京, 2023；pp87-93.

## 学会・研究会・講演

**A：国際学会, 国際会議**

**A-b2：一般演題**

1）Increased favorable prognosis of small breast cancers：An epidemiological study.
Maeda S, Kuba S, Yamanouchi K, Sugiyama S, Miura S, Ito M.
2023 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting. Chicago, USA, 2023.6.2-6.

**＜Poster＞**

1）A randomized controlled trial comparing primary tumor resection plus systemic therapywith systemic therapy alone in metastatic breast cancer (PRIM-BC)：Japan Clinical Oncology Group study JCOG1017.
Shien T, Hara F, Aogi K, Yanagita Y, Tsuneizumi M, Yamamoto N, Matsumoto H, Suto A, Watanabe K, Harao M, Kanbayashi C, Ito M, Kadoya T, Anan K, Maeda S, Sasaki K, Ogawa G, Fukuda H, Iwata H.
Breast Cancer-Local/Regional/Adjuvant, 2023 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting. Chicago, USA, 2023.6.2-6.

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）長崎医療センター病理検査室認定取得の軌跡～ISO15189認定取得・国立病院機構の特色を交えて～.
佐田勇樹.
シンポジウムⅤ；ISO取得目指してますか？先駆者に学ぶ作業環境マネジメント！～病理検査室のパフォーマンス向上へ～, 第57回日臨技九州支部医学検査学会. 佐賀, 2023.10.22.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）当院における肺癌マルチ遺伝子検査の現状.
石飛俊介、池田喬哉、城竜人、佐藤雄二、森麻耶子、井手口周平、原敦子、三浦史郎、藤瀬悠太、下山孝一郎、田川努、近藤晃、迎寛.
一般演題11；検査・診断, 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会/第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 2023.2.11.

2）Trysomy8 陽性MDSに併発した穿孔性腸管Behcet病の１例.
藤瀬悠太、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、三原裕美、三浦史郎、黒木保.
一般演題43；大腸穿孔③, 第59回日本腹部救急医学会総会. 沖縄, 2023.3.9.

3）内視鏡的治療後７年目に孤立性リンパ節転移再発をきたした１cm以下G1十二指腸NETの一例.
梶原優介、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；食道・胃, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

4）術前化学療法により病理学的完全奏功を得た膵尾部癌の１例.
鋸﨑翔太、岡本辰哉、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；膵・脾, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

5）当院におけるバセドウ病合併甲状腺癌の検討.
角遼、杉山望、藤瀬雄太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之 、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人.
研修医セッション；内分泌外科, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

6）乳頭腺管癌の術後８年目に乳腺扁平上皮癌が発生した１例.
門松英、杉山望、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人.
研修医セッション；内分泌外科, 第59回九州外科学会・第59回九州小児外科学会・第58回九州内分泌外科学会. 宮崎, 2023.3.10.

7）DA-EPOCH-R療法の経過中に侵襲性肺アスペルギルス症を合併した悪性リンパ腫の剖検例.
桐野祐子、小林裕児、榊智佳、今泉芳孝、吉田真一郎、坂本光、井手口周平、佐藤俊輔、三浦史郎.
セッション３；リンパ系（２）・感染症, 第13回日本血液学会九州地方会. 福岡, 2023.3.11.

8）腸管Bechet病の治療中に合併したMDSと肺胞蛋白症の一例.
小谷龍太郎、森麻耶子、井手口周平、榊智佳、岩永希、三原裕美、三浦史郎、原敦子、池田喬哉、近藤晃.
一般演題；D1　免疫・アレルギー , 第90回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 春季学術講演会. 熊本, 2023.3.11.

9）COVID-19感染後に旧姓増悪し反回神経麻痺呈したサルコイドーシスの一例.
日高悠介、岩永希、赤城翠、小野晋太郎、岡田覚丈、徳田昌紘、三浦史郎、和泉泰衛、伊東正博、川上純.
一般演題８；その他, 第65回九州リウマチ学会. 福岡, 2023.3.12.

10）ニボルマブ投与中に免疫関連有害事象（irAE）による大腸炎、腎障害、ぶどう膜炎を来しインフリキシマブが著効した腎癌の１例.
野口大気、最勝寺佑介、梅木悠希、岩永希、大仁田享、中島悠史郎、三浦史郎、和泉泰衛.
アレルギー・膠原病２, 第341回日本内科学会九州地方会. 北九州, 2023.5.27.

11）22q11.2欠損症候群に続発する低カルシウム血症の影響と思われた心筋症の１例.
塩塚高史、福田侑甫、鶴川晃二郎、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治、佐藤俊輔、伊東正博.
研修医セッション３, 第134回日本循環器学会九州地方会. 熊本, 2023.6.24.

12）A new approach to develop computer-aided diagnosis using artificial intelligence for gastric biopsy specimens - 4th report-.
Daiki Taniyama, Kiyomi Taniyama, Kazuya Kuraoka, Masayuki Mano, Norihiro Teramoto, Shiro Miura, Morihisa Akagi, Norihiko Katayama, Tomonori Kawasaki, Chika Nakajima.
一般口演１, 第21回日本デジタルパソロジー・AI研究会. 愛知, 2023.8.24-26.

13）遷延した高ビリルビン（Bil）血症と亜急性の肝障害に対し、肝生検を施行した甲状腺クリーゼの一例.
柿田実紀、鶴川晃二郎、中村公隆、添田李子、三浦史郎、伊東正博、本吉康英、安井順一.
第23回日本内分泌学会九州支部学術集会. 長崎, 2023.9.2.

14）成人T細胞白血病に合併した脾破裂の一例.
安倍翔、増田幸子、松尾徳久、小渕幸稔、重野晃宏、淺野太郎、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、白水春香、権志成、内田雄三、日宇宏之、中道親昭、三原裕美、三浦史郎.
一般演題４；救急症例の報告, 第31回長崎救急医学会学術集会. Web, 2023.9.16.

15）膵頭部癌を合併した結節性多発動脈炎の一例.
馬場あかね、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、長岡進矢、伊東正博、川上純.
一般演題５；強皮症・血管炎, 第66回九州リウマチ学会. 北九州, 2023.9.16.

16）原発性胆汁性胆管炎のトランスクリプトームデータを用いた治療標的遺伝子の探索
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、伊東正博、小森敦正、中村稔.
ワークショップ２；肝胆膵免疫疾患の最新の知見, 第60回日本消化器免疫学会総会. 東京, 2023.10.6.

17）Neuroendocrine tumor of the breast showing invasive micropapillary features and multiple lymph node metastases.
川崎朋範、田島知明、村松千左子、市川二郎、寺本典弘、星田義彦、川島篤弘、伊東正博、谷山大樹、倉岡和矢、谷山清己、永井宏和.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20-21.

18）当院におけるGBSスクリーニングに使用する選択増菌培地とラテックス凝集法の検討.
平山和登、岩永真悟、高木麻里、久場兼槙、山川徹.
一般演題；微生物, 第57回日臨技九州支部医学検査学会. 佐賀, 2023.10.21.

19）肝肉芽腫を伴った腸管スピロヘータ症の１例.
川添綾子、小出明妃、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進也、山崎一美、小森敦正、八橋弘、今村祥子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎.
研修医発表；肝・胆・膵３, 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

20）十二指腸NETに対するhybrid ESD ７年後にリンパ節転移再発の診断となり、外科的治療を行った一例.
綿屋摩湖人、後藤高介、三根祥一郎、今村祥子、中島悠史郎、末廣智之、三浦史郎、黒木保、西山仁.
専攻医発表；食道・胃・十二指腸３, 第122回日本消化器病学会九州支部例会. 那覇, 2023.11.24.

21）多発肺・骨転移を伴う原発性肝平滑筋肉腫に化学療法を施行した１例.
小出明妃、釘山有希、添田李子、三原裕美、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
若手セッション16；肝腫瘍・その他②, 第45回日本肝臓学会西部会. 京都, 2023.12.7.

**＜ポスター＞**

1）急性の胸骨痛に対して乳癌術後16年の胸骨転移と診断し，治療介入し得た症例.
野口栞、森英毅、最勝寺佑介、鳥巣裕一、森隆浩、永井友基、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人、和泉泰衛.
日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部　第10回学術集会・講演会. 長崎, 2023.3.25.

2）剖検により明らかになった胆嚢肉腫様癌の一例.
上木望、山根大毅、添田李子、片渕直、米満伸久、中島正洋.
ポスター（一般）13；膵・胆道-4, 第112回日本病理学会総会. 下関, 2023.4.13.

3）劇症型ギラン・バレー症候群の 1 剖検例.
三浦史郎、添田李子、忽那史也、佐藤俊輔、三原裕美、宮本和人、小森隆司、伊東正博.
ポスター（一般）31；神経系-4, 第112回日本病理学会総会. 下関, 2023.4.13.

4）当院におけるパラフィン包埋切片を用いた遺伝子変異解析不能例の検討.
佐藤俊輔、三浦史郎、三原裕美、伊東正博.
ポスター（一般）33；病理業務管理-2, 第112回日本病理学会総会. 下関, 2023.4.13.

5）胎児型形質を有する胃癌の病理学的特徴～侵襲性と予後の検討～ .
添田李子、伊東正博、三原裕美、米田晃、上木望、中島正洋、三浦史郎.
ポスター（一般）72；胃-1, 第112回日本病理学会総会. 下関, 2023.4.15.

6）Trisomy8を伴う骨髄異形成症候群に腸管ベーチェット病類似消化管病変と肺胞蛋白症を合併した一例.
藤原もも佳、岩永希、赤城翠、榊智佳、井手口周平、岡田覚丈、和泉泰衛、岡本辰哉、三原裕美、三浦史郎、伊藤正博、川上純.
近未来のリウマチ医セッション；臨床研修医 症例報告, 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 福岡, 2023.4.26.

7）ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬で長期に寛解を維持している血管免疫芽球性T細胞リンパ腫.
小林裕児、今泉芳孝、桐野祐子、榊 智佳、伊東正博、大島孝一、吉田真一郎.
ポスター 6 , 第63回日本リンパ網内系学会学術集会・総会. 埼玉, 2023.6.24.

8）外科的切除を施行した食道原発悪性黒色腫の 1 例.
米田晃、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、黒木保.
一般演題ポスター 14；症例報告：内分泌癌・悪性黒色腫, 第77回日本食道学会学術集会. 大阪, 2023.6.29.

9）HER2 low乳癌におけるERとの相関や予後についての解析.
前田茂人、杉山望、三浦史郎、伊東正博.
ポスター 288；バイオマーカー（予後因子）10, 第31回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023.7.1.

10）血管浸潤を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して多診療合同手術を施行した 1 例.
藤瀬悠太、下山孝一郎、杉山望、佐藤俊輔、三浦史郎、前田茂人、田川努.
一般演題（ポスター）33；稀な症例 1 , 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023.7.13.

11）治療抵抗性ATLに対してレナリドミド投与後に長期寛解を維持している症例.
西村紗央里、今泉芳孝、牧山純也、加藤丈晴、榊知佳、小林裕児、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
第85回日本血液学会学術集会. 東京, 2023.10.14.

12）Angioimmunoblastic T-Cell Lymphoma Presenting with Severe Anemia with severe erythroid hypoplasia.（重篤な貧血を伴い発症した血管免疫芽救性T細胞リンパ腫）
Kotani R, Kobayashi Y, Imaizumi Y, Kirino Y, Sakaki C, Sato S, Miura S, Yoshida S.
第85回日本血液学会学術集会. 東京, 2023.10.14.

13）鑑別が困難であった示指皮下腫瘤の 1 例.
古賀一史、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、三浦史郎、伊東正博.
ポスター 4 ；皮膚疾患、形成, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20.

14）当院におけるパラフィン包埋切片を用いたマルチプレックス遺伝子パネル検査解析不能例の検討.
石飛俊介、三浦史郎、佐藤俊輔、添田李子、三原裕美、伊東正博.
ポスター 140；病理検査, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

15）当院における胎児型形質を有する胃癌 46 例の臨床病理学的検討.
添田李子、伊東正博、三原裕美、米田晃、三浦史郎.
ポスター 140；病理検査, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

16）両側鼻腔内に萌出した逆性歯の 1 例.
沖田奈菜、吉田晴郎、二宮樹、森彩加、三浦史郎、田中藤信.
ポスター 110；歯科・口腔・頭頸部疾患2-2, 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

17）胸腺原発Large cell neuroendocrine carcinomaの 1 例.
下山孝一郎、肥田泰慈、藤瀬悠太、中村大祐、三原裕美、三浦史郎、田川努.
一般演題（ポスター）44；病理診断・細胞診 5 /縦隔腫瘍, 第64回日本肺癌学会学術集会. 千葉, 2023.11.4.

18）モガムリズマブ併用化学療法後に長期寛解を維持しているCD30・CCR4陽性ATL.
西村紗央里、今泉芳孝、榊智佳、小林裕児、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
第 9 回日本HTLV-1学会学術集会. 京都, 2023.11.10-12.

**B-c：研究会発表**

1）静脈塞栓を伴う転移性甲状腺腫瘍に対して二期的手術を施行した一例.
石飛俊介、杉山望、藤瀬悠太、福井彩恵子、池田貴裕、三好敬之、岡本辰哉、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保、三浦史郎、伊東正博、前田茂人.
乳腺内分泌, 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.

2）巨大膵MCNに対し腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した 1 例.
梶原優介、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、藤瀬悠太、三好敬之、米田晃、北里周、竹下浩明、佐藤俊輔、伊東正博、三浦史郎、黒木保.
肝胆膵, 第254回長崎外科集談会. 長崎, 2023.3.18.

3）消化管の症例.
若松彩、濱崎俊輔、三根祥一郎、今村祥子、後藤高介、中島悠史郎、榊 知佳、三浦史郎、西山仁.
長崎胃疾患研究会. 長崎, 2023.4.19.

4）鑑別が困難であった示指皮下腫瘤の 1 例.
吉野健太郎、藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、三浦史郎、伊東正博.
第114回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2023.5.13.

5）生検が下手すぎて確定診断に至らずSCCの疑いを払拭できなかった急速増大lobular capillary hemangioma（pyogenic granuloma）.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史、三浦史郎、伊東正博.
第115回長崎形成外科懇話会. 別府, 2023.11.18.

**C：学術講演他**

**C-b：学術講演[国内]**

**＜講義＞**

1）消化器系　胃～胃癌の病理を主体に～ .
三浦史郎.
長崎大学医学部 系統講義. 長崎, 2023.5.17.

**＜講習会＞**

1）「顆粒細胞腫」の提示と解説.
　鹿島星林.
　第29回長崎県細胞検査士会懇話会　スライドカンファランス. Web, 2023.8.23.

2）「子宮体部の 5 症例」の提示と解説.
　鹿島星林.
　中地区病理細胞診部会 症例検討会. Web, 2023.11.22.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 臨床検査部臨床検査科

責任者　長井 一浩・染矢 賢俊

## 臨床検査科概要

### 1．部署の紹介

臨床検査科は、検体検査部門と生理検査部門の 2 部門よりなります。検体検査部門では総合検査室にある一般・血液検査、生化学・免疫検査、輸血・HLA検査と細菌検査室、病理・細胞診検査室の 5 部署に分かれており、生理検査部門では心電図・脳波・呼吸機能・聴力等と超音波検査の2部署より構成されています。また、外来部門には外来採血室業務、病棟予約検査用の採血管準備を行うために技師および検査助手を配置しています。

スタッフは医師 5 名（臨床検査部長 1 名、臨床検査科長 1 名、病理診断科医師 3 名、臨床検査専任医師 1 名)、臨床検査技師34名、検査助手 2 名の合計41名で構成されています。当科では患者さんから得られた貴重な試料や情報を適切に用いて、診療現場に向けて「迅速で質の高い検査情報の提供（臨床検査科の理念)」を継続的に実践し医療の最前線を支えてゆくために、日々作業品質の向上に努めています。

### 2．組織の構成

| | |
|---|---|
| 臨床検査部長 | 1 名 |
| 臨床検査科長（病理診断科長） | 1 名 |
| 病理診断科医師 | 3 名 |
| 臨床検査専任医師 | 1 名 |
| 臨床検査技師長 | 1 名 |
| 副臨床検査技師長 | 2 名 |
| 主任技師 | 9 名 |
| 技師 | 18名 |
| 非常勤職員 | 7 名（臨床検査技師 5 名、業務技術員 2 名） |

### 3．臨床検査科品質方針

1）長崎医療センター臨床検査科・病理診断科要員は、常に自己研鑽に努め、高水準の技術と知識の向上を図り正確で迅速なデータを提供することをもって、診療に貢献します。

2）顧客である当院医師ならびに患者に質の高いサービスを提供するとともに、ISO15189規格要求事項を厳守し、臨床検査サービスを継続的に改善します。

3）品質マネジメントシステムの有効性維持のため､品質方針に基づいた品質目標を設定し､遂行状況をレビューすることでよりよい品質の追及を続けます。

4）すべての要員がこの品質方針を理解し、品質方針に沿って行動します。

### 4．令和 5 年運営目標

1）患者診療に貢献できる高品質なサービス提供する。

検査室利用者である当院の医師および患者に質の高いサービスを提供するため、ISO15189規格要求事項を遵守し、品質マネジメントシステムの維持管理に努める。検査室利用者の声をマネジメントレビューに反映させ、利用者へのサービス改善と高品質なサービスの提供に生かします。

2）迅速な検査実施と高精度の検査情報を提供します。

検査業務のTAT（検査所要時間）短縮に向けた活動計画を策定・実行するとともに、精度確保に向けた取組みとレビューを実施する。

3）高度な専門知識・技術を有し、高い倫理観を伴った医療人を養成する。

個人教育訓練を充実させ、力量評価にてスタッフの遂行能力を確実にレビューし、提供するデータの信頼性を担保する。また、学会・研修会への参加、専門能力の向上を図り、認定資格取得者を増やす。さらに、診療科からの問い合わせに対しアドバイスサービス実施件数を増加させる。

4）検査環境改善とインシデント案件分析の充実

5S活動による環境改善を図り適切な環境を整える。インシデント報告の収集・分析を通じて潜在的なリスクを発掘、医療事故の発生を未然に防止する。

## 5．結果と展望

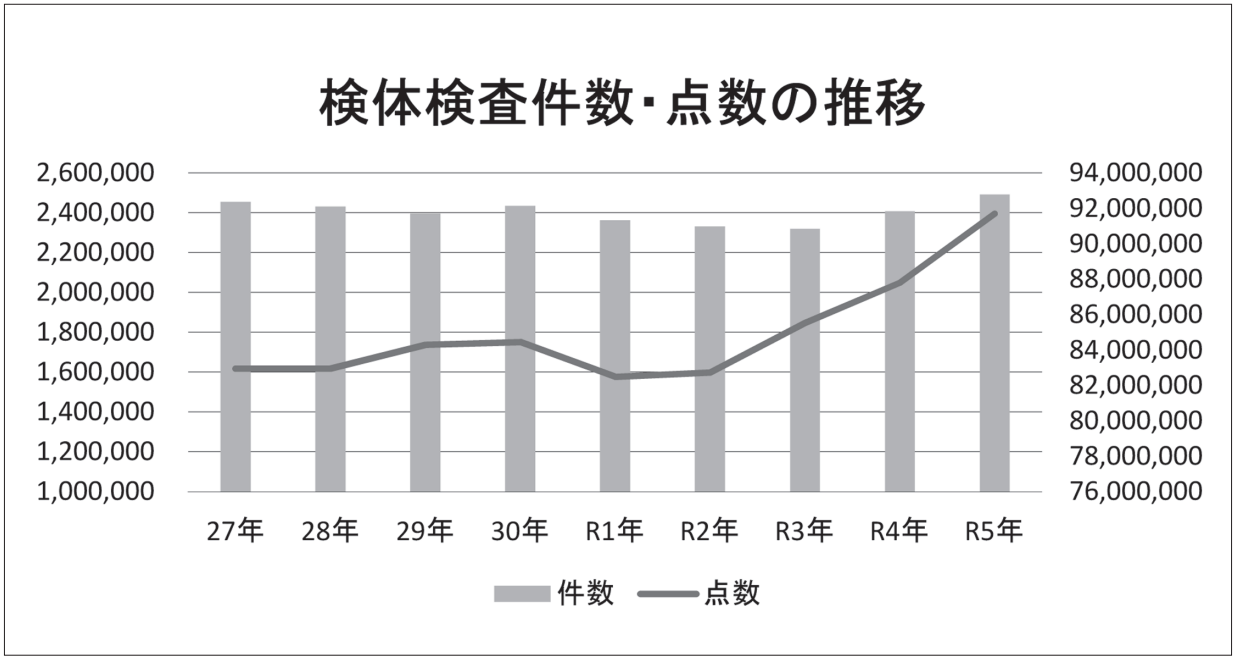
令和5年の検査件数は前年度比で検体検査全体では＋3.4%で、病理組織・細胞診が減少であった。輸血部門では、使用製剤数は前年比でRCC、FFP、PC共に増加し、廃棄率では、RCC、FFP、PC共に減少認め適正管理が確認出来た。生理検査では全体として＋4.7%増加を認め、呼吸機能検査、脈波等検査の増加が目立った。超音波検査では軽度の増加にとどまった。診療点数（出来高換算）は、対前年度比で、検体検査が＋4.5%、生理検査が＋2.0%、合計で＋3.4%となった。

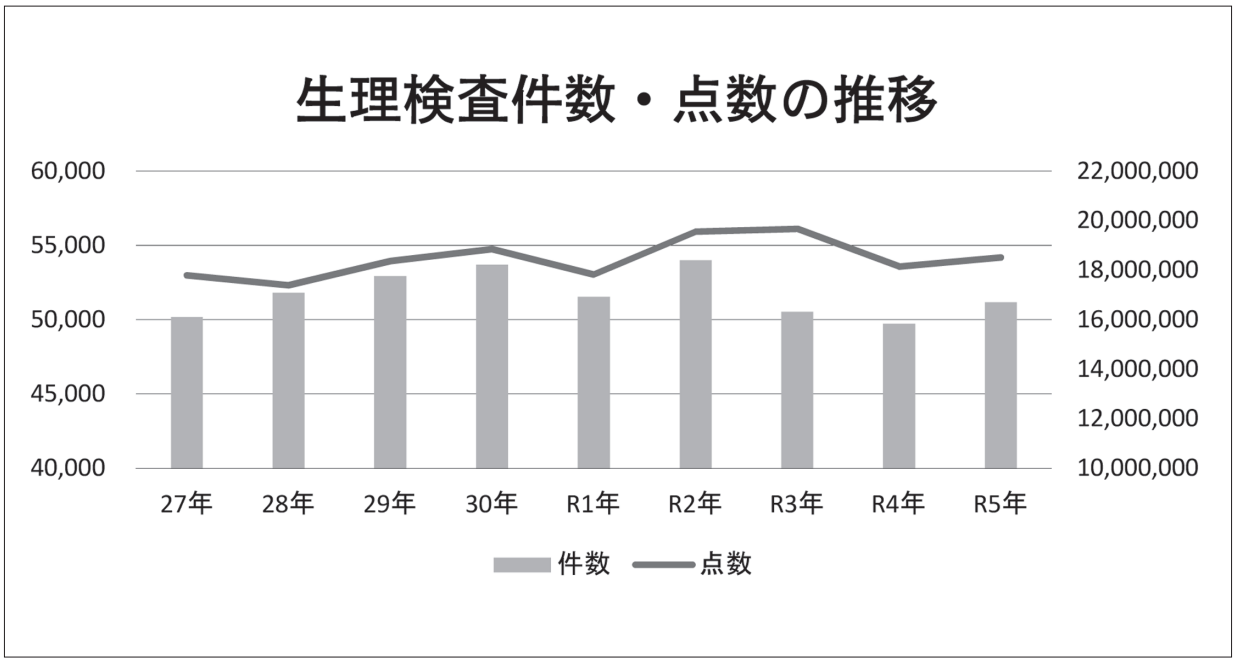
新型コロナ感染状況は、令和4年12月～1月にかけて院内発生して以来、現在まで大きな変化は見られない。SARS-CoV-2検査（抗原、遺伝子）も1月以降徐々に減少傾向となり5月以降は抗原検査で約150件/月、遺伝子検査で約620件/月程度で推移した。検査機器の更新として、1月に自動輸血検査システム（輸血2台）、冷却遠心機（微生物）、2月に安全キャビネット（微生物）を設置していただき検査の品質維持に役立っている。検査運用では、5月にFib4index結果表示開始、6月に高感度トロポニンT測定開始を実施し現在問題なく経過している。また、当科では医療機関の臨床検査室を運営するための国際規格であるISO15189の認証を受けており、そのクオリティマネジメントシステムを継続的に運用している。1月に日本適合性認定協会（JAB）より更新が認められ、現在第4回サーベイランスに向けて準備を進めている。

## 臨床検査件数

| 令和5年 | | | 令和3年 | 4年 | 5年 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 総　計 | | | 2,369,977 | 2,458,362 | 2,542,812 | 1.03 |
| 検体検査 | 総数 | | 2,319,426 | 2,408,630 | 2,491,638 | 1.03 |
| | 尿検査 | | 74,772 | 75,563 | 78,415 | 1.04 |
| | 糞便検査 | | 1,170 | 953 | 953 | 1.00 |
| | 穿刺液、採取液検査 | | 780 | 703 | 805 | 1.15 |
| | 血液学的検査 | | 352,236 | 360,618 | 374,318 | 1.04 |
| | | 血球算定等（再掲） | 119,610 | 120,400 | 122,260 | 1.02 |
| | | 血液像検査等（再掲） | 146,134 | 148,646 | 152,080 | 1.02 |
| | 生化学的検査 | | 1,661,361 | 1,738,854 | 1,798,532 | 1.03 |
| | 免疫学的検査 | | 162,552 | 169,768 | 174,994 | 1.03 |
| | 微生物学的検査 | | 50,300 | 45,328 | 47,732 | 1.05 |
| | 病理学的検査 | | 9,605 | 10,135 | 9,267 | 0.91 |
| | 細胞学的検査 | | 6,650 | 6,708 | 6,622 | 0.99 |
| 生理機能検査 | 総数 | | 50,551 | 49,732 | 51,174 | 1.03 |
| | 心電図検査 | | 17,897 | 18,060 | 18,551 | 1.03 |
| | 心音図検査 | | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| | 脳波検査 | | 1,383 | 785 | 775 | 0.99 |
| | 基礎代謝検査 | | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| | 呼吸機能検査 | | 5,598 | 5,023 | 5,725 | 1.14 |
| | 超音波検査 | | 22,676 | 22,731 | 22,755 | 1.00 |
| | | 検査科実施 | 11,216 | 11,093 | 11,139 | 1.00 |
| | | 各科病棟実施 | 11,460 | 11,638 | 11,616 | 1.00 |
| | 脈波等検査 | | 735 | 717 | 815 | 1.14 |
| | 筋電図検査（検査科外） | | 557 | 691 | 762 | 1.10 |
| | 聴力検査 | | 1,705 | 1,725 | 1,791 | 1.04 |
| 点数 | 検体検査 | | 85,533,055 | 87,793,411 | 91,702,402 | 1.04 |
| | 生理検査 | | 19,669,240 | 18,145,380 | 18,513,060 | 1.02 |
| | 検体検査判断料 | | 31,207,927 | 31,957,792 | 32,742,302 | 1.02 |
| | 生理検査判断料 | | 584,340 | 559,410 | 577,680 | 1.03 |
| | 病理（細胞診）診断料 | | 2,575,450 | 2,864,920 | 3,072,720 | 1.07 |
| | 病理診断管理加算（組織＋細胞） | | 1,874,080 | 1,899,040 | 1,963,200 | 1.03 |
| | 輸血管理料（Ⅰ・Ⅱ） | | 358,600 | 380,380 | 373,120 | 0.98 |
| 医事分 | 管理加算Ⅰ | | 2,398,880 | 2,445,800 | 2,487,360 | 1.02 |
| | 管理加算Ⅳ | | 5,868,500 | 6,001,000 | 6,118,500 | 1.02 |
| | 検体検査時間外緊急院内検査加算 | | 787,000 | 927,600 | 1,067,400 | 1.15 |
| | 外来迅速検体検査加算 | | 2,042,890 | 2,070,480 | 2,097,670 | 1.01 |
| 剖　検　数 | | | 7 | 11 | 17 | 1.55 |
| 受託検査 | | 他の医療機関等 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 外部委託検査 | | 他の医療機関等 | 99,226 | 99,904 | 107,138 | 1.07 |
| | | 保険適用外検査件数 | 2,634 | 1,523 | 1,523 | 1.00 |
| | | 委託検査金額 | 222,042,832 | 229,539,466 | 236,865,124 | 1.03 |
| | | 保険適用外検査金額 | 17,349,210 | 17,089,868 | 19,634,490 | 1.15 |
| 血中薬物濃度 | | | 3,798 | 3,591 | 3,379 | 0.94 |

※脳波検査判断料１：350点、脳波検査判断料２：180点
※病理診断料：組織診断料 450点、細胞診断料 200点
※病理診断管理加算Ⅰ：組織診断を行った場合 120点、細胞診断を行なった場合 60点
※病理診断管理加算Ⅱ：組織診断を行った場合 320点、細胞診断を行なった場合 160点
※輸血管理料Ⅰ：220点（適正使用加算：120点）、輸血管理料Ⅱ：110点（適正使用加算：60点）
※検体管理加算：Ⅱ 100点、Ⅳ 500点
※外来迅速検体加算：10点（５項目を限度）
※時間外緊急院内検査加算：200点


検体検査件数･点数の推移
2,600,000
2,400,000
2,200,000
2,000,000
1,800,000
1,600,000
1,400,000
1,200,000
1,000,000
94,000,000
92,000,000
90,000,000
88,000,000
86,000,000
84,000,000
82,000,000
80,000,000
78,000,000
76,000,000
27年
28年
29年
30年
R1年
R2年
R3年
R4年
R5年
件数
点数


生理検査件数・点数の推移
60,000
55,000
50,000
45,000
40,000
22,000,000
20,000,000
18,000,000
16,000,000
14,000,000
12,000,000
10,000,000
27年
28年
29年
30年
R1年
R2年
R3年
R4年
R5年
件数
点数

## 入院・外来別臨床検査件数

| 令和5年 | | | 入院 | | 外来 | | 合計 | | 研究件数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 件数 | 点数 | 件数 | 点数 | 件数 | 点数 | |
| 総計 | | | 869,405 | ******** | 1,673,407 | ******** | 2,542,812 | ******** | 0 |
| 検体検査 | 総数 | | 848,537 | ******** | 1,643,101 | ******** | 2,491,638 | ******** | 0 |
| | 尿検査 | | 18,468 | ******** | 59,947 | ******** | 78,415 | ******** | 0 |
| | 糞便検査 | | 826 | ******** | 127 | ******** | 953 | ******** | 0 |
| | 穿刺液、採取液検査 | | 597 | ******** | 208 | ******** | 805 | ******** | 0 |
| | 血液学的検査 | | 149,517 | ******** | 224,801 | ******** | 374,318 | ******** | 0 |
| | | 血球算定等（再掲） | 46,620 | ******** | 75,640 | ******** | 122,260 | ******** | 0 |
| | | 血液像検査等（再掲） | 53,906 | ******** | 98,174 | ******** | 152,080 | ******** | 0 |
| | 生化学的検査 | | 589,399 | ******** | 1,209,133 | ******** | 1,798,532 | ******** | 0 |
| | | 血中薬物濃度測定（再掲） | 1,372 | ******** | 2,007 | ******** | 3,379 | ******** | 0 |
| | 免疫学的検査 | | 53,106 | ******** | 121,888 | ******** | 174,994 | ******** | 3,637 |
| | 微生物学的検査 | | 28,904 | ******** | 18,828 | ******** | 47,732 | ******** | 0 |
| | 病理学的検査 | | 6,166 | ******** | 3,101 | ******** | 9,267 | ******** | 0 |
| | 細胞学的検査 | | 1,554 | ******** | 5,068 | ******** | 6,622 | ******** | 0 |
| 生理機能検査 | 総数 | | 20,868 | ******** | 30,306 | ******** | 51,174 | ******** | 0 |
| | 心電図検査 | | 8,252 | ******** | 10,299 | ******** | 18,551 | ******** | 0 |
| | 脳波検査 | | 359 | ******** | 416 | ******** | 775 | ******** | 0 |
| | 呼吸機能検査 | | 950 | ******** | 4,775 | ******** | 5,725 | ******** | 0 |
| | 超音波検査 | ＊ | 10,040 | ******** | 12,715 | ******** | 22,755 | ******** | 0 |
| | 脈波等検査 | | 798 | ******** | 17 | ******** | 815 | ******** | 0 |
| | 筋電図検査 | ＊ | 110 | ******** | 652 | ******** | 762 | ******** | 0 |
| | 聴力検査 | | 359 | ******** | 1,432 | ******** | 1,791 | ******** | 0 |
| 点数医事分 | 検体検査 | | ******** | 42,336,520 | ******** | 49,365,882 | ******** | 91,702,402 | 0 |
| | 生理検査 | | ******** | 7,753,350 | ******** | 10,759,710 | ******** | 18,513,060 | 0 |
| | 検体検査判断料 | | ******** | 6,785,903 | ******** | 25,956,399 | ******** | 32,742,302 | 0 |
| | 生理検査判断料 | | ******** | 183,100 | ******** | 394,580 | ******** | 577,680 | 0 |
| | 病理診断料（病理＋細胞） | | 4,167 | 1,828,280 | 3,259 | 1,244,440 | 7,426 | 3,072,720 | 0 |
| | 病理診断管理加算（組織＋細胞） | | 4,106 | 1,149,120 | 3,256 | 814,080 | 7,362 | 1,963,200 | 0 |
| | 輸血管理料Ⅰ | | 1,381 | 303,820 | 315 | 69,300 | 1,696 | 373,120 | 0 |
| | 管理加算Ⅰ | | ******** | ******** | 62,184 | 2,487,360 | 62,184 | 2,487,360 | 0 |
| | 管理加算Ⅳ | | 12,237 | 6,118,500 | ******** | ******** | 12,237 | 6,118,500 | 0 |
| | 検体検査時間外緊急院内検査加算 | | 2,429 | 485,800 | 2,908 | 581,600 | 5,337 | 1,067,400 | 0 |
| | 外来迅速検体検査加算 | | ******** | ******** | 206,783 | 2,067,830 | 206,783 | 2,067,830 | 0 |
| 剖検数 | | | 17 | ******** | ******** | ******** | 11 | ******** | 0 |
| 受託検査 | 他の医療機関等 | | ******** | ******** | ******** | ******** | 0 | ******** | 0 |
| 外部委託検査 | 他の医療機関等 | | ******** | ******** | ******** | ******** | 53,569 | 17,238,123 | 0 |
| | 保険適用外検査件数 | | ******** | ******** | ******** | ******** | 1,523 | 0 | 0 |

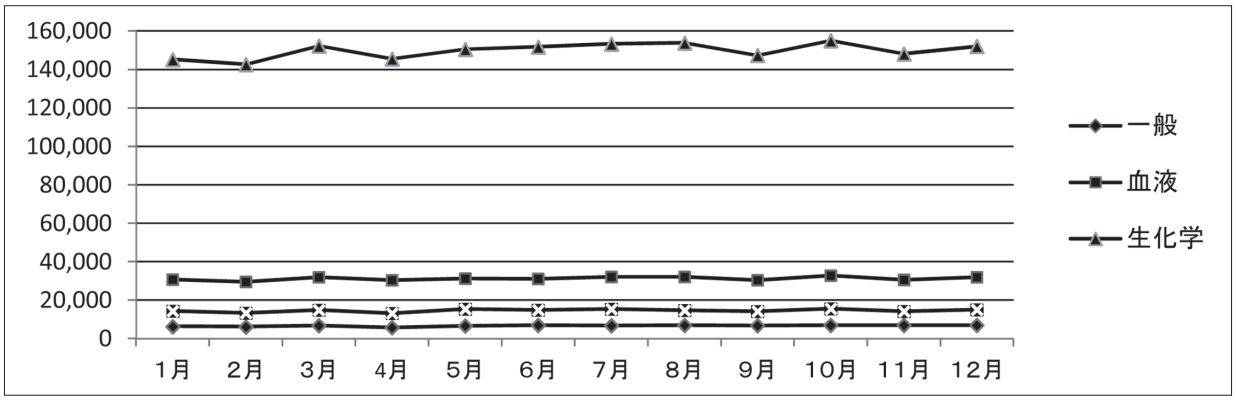
＊検査科外実施検査を含む

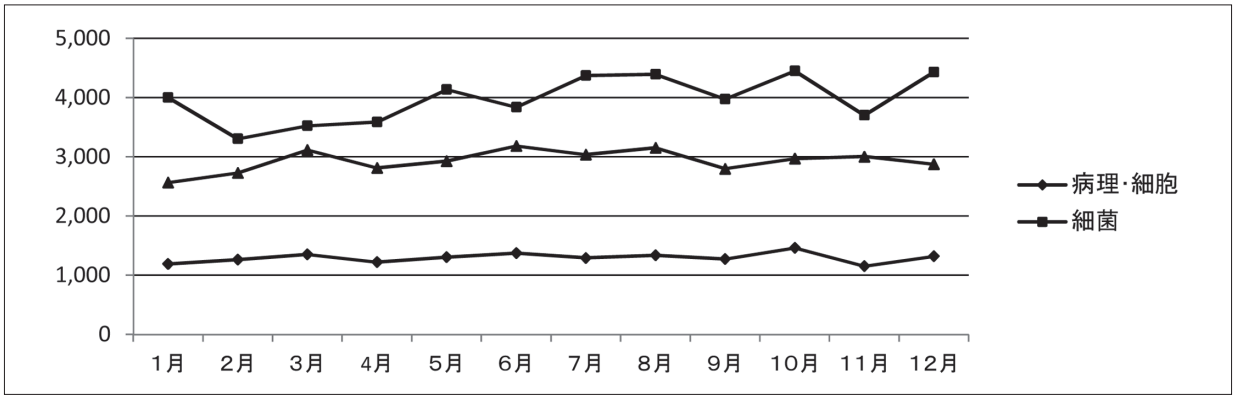
## 部門別検査件数の推移

| 部門 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一　般 | 6,340 | 6,166 | 6,761 | 5,797 | 6,546 | 7,021 | 38,631 |
| 血　液 | 30,636 | 29,442 | 31,854 | 30,448 | 31,289 | 31,141 | 184,810 |
| 生化学 | 145,187 | 142,643 | 152,334 | 145,680 | 150,639 | 151,828 | 888,311 |
| 免疫血清 | 14,369 | 13,369 | 14,784 | 13,126 | 15,316 | 14,915 | 85,879 |
| 病理・細胞 | 1,191 | 1,262 | 1,352 | 1,223 | 1,306 | 1,371 | 7,705 |
| 細　菌 | 4,004 | 3,306 | 3,523 | 3,588 | 4,140 | 3,840 | 22,401 |
| 生　理 | 2,566 | 2,728 | 3,116 | 2,811 | 2,930 | 3,186 | 17,337 |
| 計 | 204,293 | 198,916 | 213,724 | 202,673 | 212,166 | 213,302 | 1,245,074 |

| 部門 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一　般 | 6,840 | 6,992 | 6,786 | 6,920 | 6,930 | 6,912 | 41,380 | 80,011 |
| 血　液 | 32,039 | 32,065 | 30,303 | 32,731 | 30,510 | 31,860 | 189,508 | 374,318 |
| 生化学 | 153,326 | 153,846 | 147,411 | 155,104 | 148,189 | 152,069 | 909,945 | 1,798,256 |
| 免疫血清 | 15,451 | 14,758 | 14,142 | 15,502 | 14,163 | 15,099 | 89,115 | 174,994 |
| 病理・細胞 | 1,292 | 1,335 | 1,274 | 1,464 | 1,153 | 1,321 | 7,839 | 15,544 |
| 細　菌 | 4,373 | 4,393 | 3,974 | 4,452 | 3,705 | 4,434 | 25,331 | 47,732 |
| 生　理 | 3,039 | 3,155 | 2,800 | 2,971 | 3,004 | 2,874 | 17,843 | 35,180 |
| 計 | 216,360 | 216,544 | 206,690 | 219,144 | 207,654 | 215,813 | 1,280,961 | 2,526,035 |

図. 令和5年月別件数の推移



## 月別検査点数

検査実施料

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 検体検査点数 | 7,256,623 | 7,006,491 | 7,569,122 | 7,283,175 | 7,812,953 | 7,664,961 | 44,593,325 |
| 生理検査点数 | 1,376,140 | 1,384,880 | 1,640,020 | 1,495,800 | 1,473,660 | 1,605,320 | 8,975,820 |
| 合　計 | 8,632,763 | 8,391,371 | 9,209,142 | 8,778,975 | 9,286,613 | 9,270,281 | 53,569,145 |

| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 検体検査点数 | 8,147,886 | 7,917,153 | 7,525,670 | 8,062,442 | 7,641,780 | 7,814,146 | 47,109,076 | 91,702,402 |
| 生理検査点数 | 1,589,070 | 1,727,260 | 1,546,790 | 1,546,790 | 1,534,720 | 1,592,610 | 9,537,240 | 18,513,060 |
| 合　計 | 9,736,956 | 9,644,413 | 9,072,460 | 9,609,232 | 9,176,500 | 9,406,756 | 56,646,316 | 110,215,462 |

検体検査判断料

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 尿・便判断料（34） | 63,512 | 61,846 | 68,816 | 64,838 | 65,076 | 70,108 | 394,196 |
| 血液学的（125） | 695,875 | 681,500 | 721,125 | 687,375 | 685,625 | 714,750 | 4,186,250 |
| 生化学Ⅰ（144） | 812,160 | 793,872 | 841,536 | 802,800 | 799,200 | 835,200 | 4,884,768 |
| 生化学Ⅱ（144） | 299,520 | 304,272 | 337,968 | 317,664 | 307,728 | 322,704 | 1,889,856 |
| 免疫学的（144） | 611,568 | 583,632 | 621,792 | 621,792 | 611,136 | 618,624 | 3,668,544 |
| 微生物学的（150） | 186,150 | 154,500 | 171,150 | 165,750 | 172,950 | 172,050 | 1,022,550 |
| 病理学的（150） | 23,270 | 28,470 | 35,750 | 29,120 | 29,250 | 31,850 | 177,710 |
| 合　計 | 2,692,055 | 2,608,092 | 2,798,137 | 2,689,339 | 2,670,965 | 2,765,286 | 16,223,874 |

| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 尿・便判断料（34） | 70,618 | 68,952 | 67,558 | 69,190 | 67,694 | 69,564 | 413,576 | 807,772 |
| 血液学的（125） | 719,875 | 720,875 | 684,250 | 720,125 | 691,750 | 710,625 | 4,247,500 | 8,433,750 |
| 生化学Ⅰ（144） | 838,800 | 837,936 | 801,360 | 837,792 | 804,096 | 831,168 | 4,951,152 | 9,835,920 |
| 生化学Ⅱ（144） | 316,080 | 314,640 | 313,056 | 321,840 | 313,344 | 321,120 | 1,900,080 | 3,789,936 |
| 免疫学的（144） | 637,200 | 618,912 | 594,000 | 623,520 | 601,776 | 616,752 | 3,692,160 | 7,360,704 |
| 微生物学的（150） | 199,350 | 186,000 | 172,500 | 179,250 | 165,900 | 183,150 | 1,086,150 | 2,108,700 |
| 病理学的（150） | 25,740 | 32,370 | 28,080 | 33,150 | 28,860 | 29,250 | 177,450 | 355,160 |
| 合　計 | 2,807,663 | 2,779,685 | 2,660,804 | 2,784,867 | 2,673,420 | 2,761,629 | 16,468,068 | 32,691,942 |

生理検査判断料

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生理検査判断料 | 41,840 | 36,950 | 55,140 | 42,550 | 44,430 | 48,270 | 269,180 |

| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生理検査判断料 | 56,670 | 70,480 | 43,170 | 49,030 | 43,520 | 45,630 | 308,500 | 577,680 |

加算料

＊その他の加算（検体検査時間外緊急院内検査＋外来迅速検体検査加算＋生化学検査（Ⅰ）初回加算）

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 管理加算Ⅰ（40） | 206,680 | 200,960 | 214,720 | 202,600 | 200,440 | 210,680 | 1,236,080 |
| 管理加算Ⅳ（500） | 500,500 | 490,500 | 502,500 | 498,000 | 477,000 | 481,500 | 2,950,000 |
| その他の加算 | 292,760 | 262,120 | 283,750 | 271,200 | 268,610 | 271,340 | 1,649,780 |
| 合　計 | 999,940 | 953,580 | 1,000,970 | 971,800 | 946,050 | 963,520 | 5,835,860 |

| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 管理加算Ⅰ（40） | 210,840 | 210,400 | 203,880 | 210,640 | 205,280 | 210,280 | 1,251,320 | 2,487,400 |
| 管理加算Ⅳ（500） | 501,000 | 542,500 | 487,000 | 517,500 | 474,000 | 515,000 | 3,037,000 | 5,987,000 |
| その他の加算 | 300,100 | 300,370 | 275,480 | 276,030 | 263,840 | 297,730 | 1,713,550 | 3,363,330 |
| 合　計 | 1,011,940 | 1,053,270 | 966,360 | 1,004,170 | 943,120 | 1,023,010 | 6,001,870 | 11,837,730 |

病理診断料

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病理診断料（450） | 198,640 | 202,280 | 218,920 | 210,600 | 210,600 | 239,200 | 1,280,240 |
| 細胞診断料（200） | 38,400 | 39,800 | 41,800 | 42,600 | 40,200 | 43,400 | 246,200 |
| 合　計 | 237,040 | 242,080 | 260,720 | 253,200 | 250,800 | 282,600 | 1,526,440 |

| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病理診断料（450） | 207,480 | 222,560 | 221,520 | 239,200 | 193,440 | 215,280 | 1,299,480 | 2,579,720 |
| 細胞診断料（200） | 39,400 | 40,600 | 41,800 | 46,600 | 36,000 | 42,400 | 246,800 | 493,000 |
| 合　計 | 246,880 | 263,160 | 263,320 | 285,800 | 229,440 | 257,680 | 1,546,280 | 3,072,720 |

病理診断管理加算 2

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病理診断管理加算(組織診断)(320) | 119,680 | 122,560 | 130,240 | 129,600 | 128,000 | 144,640 | 774,720 |
| 病理診断管理加算(細胞診断)(160) | 30,560 | 31,840 | 33,760 | 34,080 | 31,360 | 34,240 | 195,840 |
| 合　計 | 150,240 | 154,400 | 164,000 | 163,680 | 159,360 | 178,880 | 970,560 |

| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病理診断管理加算(組織診断)(320) | 127,360 | 136,000 | 135,680 | 145,920 | 118,720 | 132,160 | 795,840 | 1,570,560 |
| 病理診断管理加算(細胞診断)(160) | 30,880 | 30,720 | 32,800 | 37,120 | 27,360 | 33,280 | 192,160 | 388,000 |
| 合　計 | 158,240 | 166,720 | 168,480 | 183,040 | 146,080 | 165,440 | 988,000 | 1,958,560 |

輸血管理料Ⅰ

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 輸血管理料Ⅰ（220） | 29,040 | 31,680 | 29,920 | 32,120 | 32,560 | 28,380 | 183,700 |

| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 輸血管理料Ⅰ（220） | 29,260 | 30,580 | 26,840 | 33,880 | 34,320 | 34,540 | 189,420 | 373,120 |

輸血適正使用加算

| 項　目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 輸血適正使用加算(輸血管理料Ⅰ) | 15,720 | 17,280 | 16,320 | 17,520 | 17,760 | 15,480 | 100,080 |

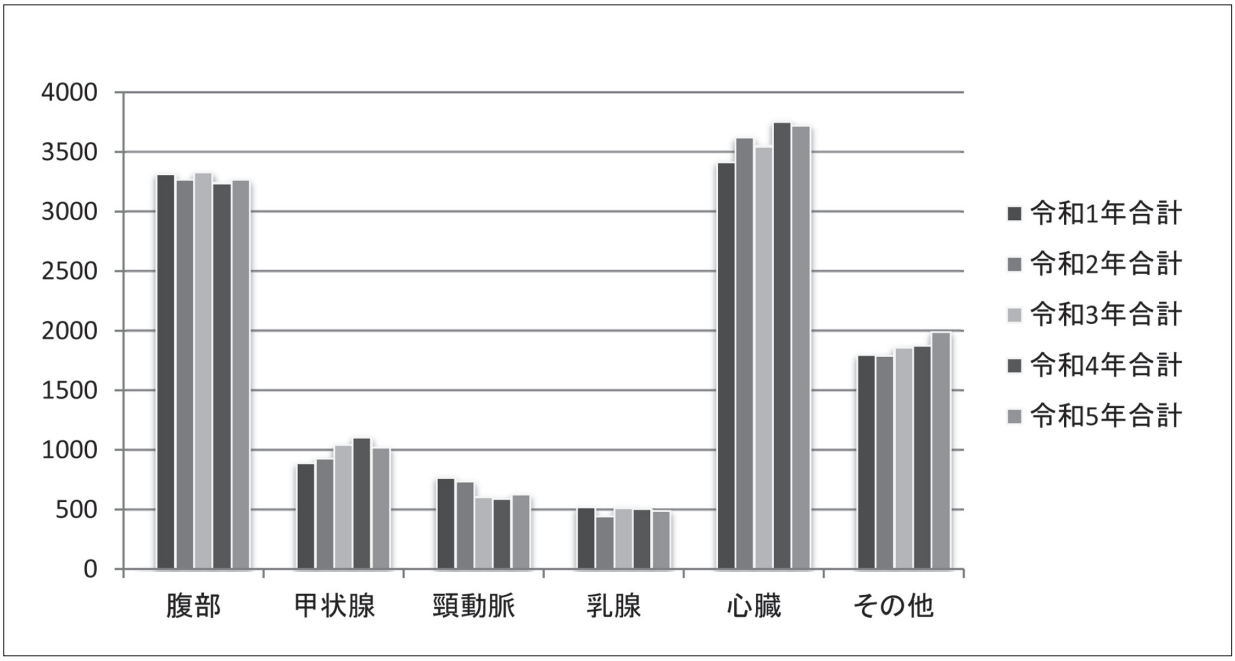
| 項　目 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 輸血適正使用加算(輸血管理料Ⅰ) | 15,960 | 16,680 | 14,640 | 18,360 | 18,720 | 18,840 | 103,200 | 203,280 |

## 超音波検査年度別推移

| | 腹部 | 甲状腺 | 頸動脈 | 乳腺 | 心臓 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 令和1年合計 | 3,318 | 892 | 773 | 522 | 3,419 | 1,799 | 10,723 |
| 令和2年合計 | 3,269 | 932 | 738 | 446 | 3,625 | 1,795 | 10,805 |
| 令和3年合計 | 3,330 | 1,046 | 608 | 519 | 3,551 | 1,863 | 10,917 |
| 令和4年合計 | 3,244 | 1,110 | 594 | 510 | 3,758 | 1,877 | 11,093 |
| 令和5年合計 | 3,271 | 1,023 | 630 | 494 | 3,727 | 1,994 | 11,139 |

（その他：体表・下肢血管・関節・TCD・肝硬度）

※診療部除く



## 輸血およびHLA検査取扱い件数

**血液製剤取り扱い件数**

| | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 | 令和5年 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|
| RBC　納入製剤数 | 3377 | 3193 | 3297 | 3312 | 1.00 |
| 使用製剤数（総数） | 3391 | 3313 | 3338 | 3495 | 1.05 |
| （外来） | 681 | 643 | 842 | 792 | 0.94 |
| （入院） | 2710 | 2670 | 2499 | 2703 | 1.08 |
| 廃棄製剤数 | 14 | 14 | 9 | 2 | 0.22 |
| 廃棄率（%） | 0.41 | 0.44 | 0.27 | 0.06 | ＊＊＊ |
| FFP　納入製剤数 | 804 | 815 | 759 | 841 | 1.11 |
| 使用製剤数（総数） | 791 | 838 | 757 | 864 | 1.14 |
| （外来） | 153 | 122 | 150 | 148 | 0.99 |
| （入院） | 638 | 716 | 607 | 716 | 1.18 |
| 廃棄製剤数 | 2 | 5 | 10 | 6 | 0.60 |
| 廃棄率（%） | 0.24 | 0.61 | 1.32 | 0.71 | ＊＊＊ |
| PC　納入製剤数 | 1420 | 1684 | 1119 | 1295 | 1.16 |
| 使用製剤数（総数） | 1418 | 1686 | 1030 | 1294 | 1.26 |
| （外来） | 122 | 256 | 356 | 310 | 0.87 |
| （入院） | 1296 | 1430 | 728 | 984 | 1.35 |
| 廃棄製剤数 | 2 | 0 | 6 | 5 | 0.83 |
| 廃棄率（%） | 0.14 | 0.00 | 0.54 | 0.39 | ＊＊＊ |
| 全製剤依頼件数（外来） | 828 | 1163 | 1387 | 1262 | 0.91 |
| （入院） | 5073 | 6615 | 5791 | 6145 | 1.06 |
| 全納入製剤数 | 5601 | 5692 | 5175 | 5448 | 1.05 |
| 全使用製剤数（総数） | 5600 | 5837 | 5125 | 5653 | 1.10 |
| （外来） | 956 | 1021 | 1348 | 1250 | 0.93 |
| （入院） | 4644 | 4816 | 3834 | 4403 | 1.15 |
| 全廃棄製剤数 | 18 | 19 | 25 | 13 | 0.52 |
| 全廃棄率（廃棄数／納入数）% | 0.32 | 0.33 | 0.48 | 0.24 | ＊＊＊ |
| 自己血400ml貯血（総数） | 73 | 69 | 60 | 42 | 0.70 |
| （外来） | 24 | 25 | 25 | 16 | 0.64 |
| （入院） | 49 | 44 | 35 | 26 | 0.74 |
| 200ml貯血（総数） | 0 | 0 | 1 | 0 | 0.00 |
| （外来） | 0 | 0 | 1 | 0 | 0.00 |
| （入院） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 自己血400ml輸血（総数） | 46 | 44 | 44 | 34 | 0.77 |
| （外来） | 0 | 3 | 3 | 1 | 0.00 |
| （入院） | 46 | 41 | 41 | 33 | 0.80 |
| 200ml輸血（総数） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| （外来） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| （入院） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |

### 輸血状況と交差適合試験

| | 令和 2 年 | 令和 3 年 | 令和 4 年 | 令和 5 年 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|
| 輸血管理室取扱い患者数 | 3215 | 3101 | 3447 | 3457 | 1.00 |
| 輸血実施人数（総数） | 2148 | 2031 | 2179 | 2206 | 1.01 |
| RBC輸血実施人数（外来） | 352 | 336 | 437 | 423 | 0.97 |
| （入院） | 1106 | 1002 | 1062 | 1086 | 1.02 |
| FFP輸血実施人数（外来） | 61 | 57 | 69 | 59 | 0.86 |
| （入院） | 232 | 221 | 210 | 221 | 1.05 |
| PC輸血実施人数（外来） | 56 | 96 | 124 | 123 | 0.99 |
| （入院） | 341 | 319 | 277 | 294 | 1.06 |
| 輸血未実施人数（総数） | 1067 | 1070 | 1268 | 1251 | 0.99 |
| （外来） | 14 | 13 | 42 | 50 | 1.19 |
| （入院） | 1053 | 1057 | 1226 | 1201 | 0.98 |
| 交差適合試験件数 | 3916 | 3704 | 3704 | 3885 | 1.05 |
| 輸血実施 | 3417 | 3313 | 3341 | 3495 | 1.05 |
| 輸血未実施 | 535 | 391 | 363 | 390 | 1.07 |
| （再掲）交差適合試験件数（外来） | 724 | 705 | 900 | 864 | 0.96 |
| （輸血実施） | 672 | 643 | 842 | 792 | 0.94 |
| （輸血未実施） | 52 | 62 | 58 | 72 | 1.24 |
| 交差適合試験件数（入院） | 3202 | 2999 | 2804 | 3021 | 1.08 |
| （輸血実施） | 2821 | 2670 | 2499 | 2703 | 1.08 |
| （輸血未実施） | 380 | 329 | 305 | 318 | 1.04 |

### HLA検査件数の状況

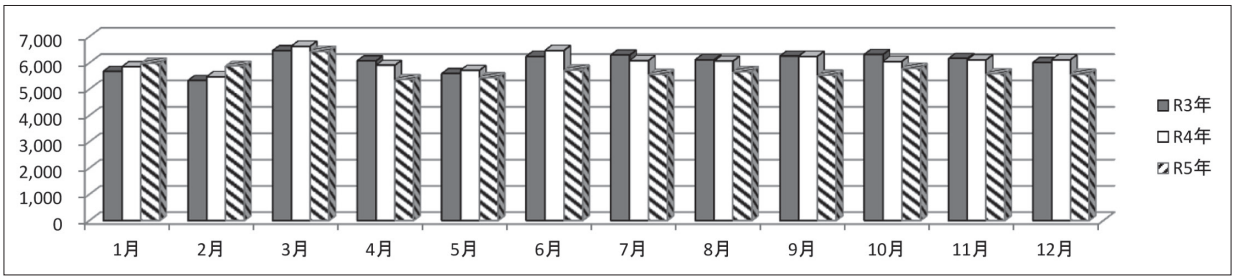
| | 令和 2 年 | 令和 3 年 | 令和 4 年 | 令和 5 年 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|
| HLAタイピング（総数） | 11 | 17 | 22 | 7 | 0.32 |
| 長崎医療センター（外来） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 長崎医療センター（入院） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 腎移植ネットワーク登録 | 11 | 17 | 22 | 7 | 0.32 |
| HLAダイレクトクロスマッチ（総数） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 長崎医療センター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 他施設受託 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| ドナー•レシピエントタイピング（総数） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 長崎医療センター（ドナータイピング） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| （レシピエントタイピング） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| 他施設受託（ドナータイピング） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |
| （レシピエントタイピング） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 |

## 採血（管準備）支援件数の推移

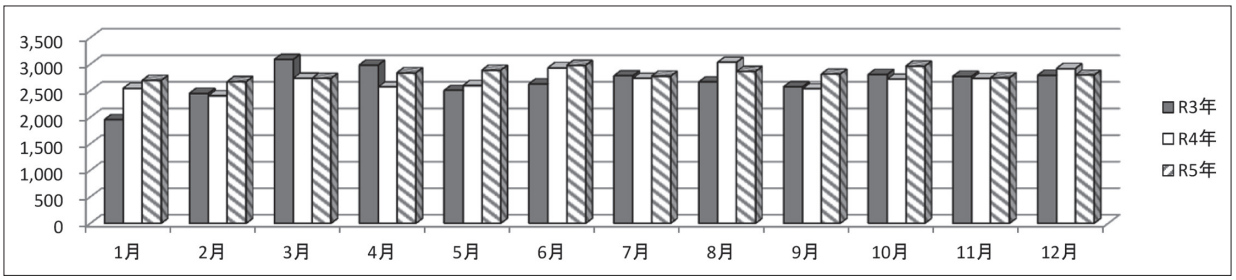
| (外来) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R3年 | 5,677 | 5,327 | 6,461 | 6,074 | 5,590 | 6,247 | 6,295 | 6,121 | 6,257 | 6,319 | 6,164 | 6,014 | 72,546 |
| R4年 | 5,856 | 5,475 | 6,634 | 5,906 | 5,712 | 6,473 | 6,090 | 6,066 | 6,249 | 6,056 | 6,114 | 6,118 | 72,749 |
| R5年 | 5,983 | 5,875 | 6,439 | 5,361 | 5,438 | 5,729 | 5,557 | 5,668 | 5,528 | 5,800 | 5,584 | 5,570 | 68,532 |

| (病棟) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R3年 | 1,954 | 2,448 | 3,087 | 2,982 | 2,503 | 2,628 | 2,778 | 2,663 | 2,572 | 2,805 | 2,769 | 2,788 | 31,977 |
| R4年 | 2,545 | 2,403 | 2,732 | 2,567 | 2,596 | 2,930 | 2,730 | 3,033 | 2,534 | 2,713 | 2,727 | 2,915 | 32,425 |
| R5年 | 2,693 | 2,668 | 2,730 | 2,836 | 2,885 | 2,976 | 2,773 | 2,860 | 2,810 | 2,961 | 2,741 | 2,791 | 33,724 |

**外　来**




**病　棟**




## 研修・教育

| 開催日 | 演　　題 | 人数 |
|---|---|---|
| 2023/4/3-4/18<br>2023/7/6-7/13<br>2023/10/18-10/23 | 新任者オリエンテーション：検査部門組織、配属予定セクション、施設・設備、労働衛生サービス、休暇取得手続き、超過勤務手続き、各種提出書類の提出方法、医療安全、電子カルテ及び検査システム、感染性物質の取扱い、感染防護具の取扱い、防災対策、スタンダードプリコーション、品質マネジメントシステム、文書管理、教育訓練、設備管理、技術管理 | 8<br>1<br>2 |
| 2023/4/24-4/26 | 採血業務前の勉強会 | 6 |
| 2023/5/17 | 『採血センター業務作業手順書』『検体ラベル出力タイミング一覧』の再周知 | 8 |
| 2023/6/1-9/15 | 感染対策・抗菌薬使用支援講習会 | 42 |
| 2023/6/27 | 必須トレーニング『患者情報の守秘義務・倫理』、検査科勉強会『①ヒトメタニューモウイルスについて（微生物部門）』『②検査科勉強会輸血部門（輸血部門）』 | 42 |
| 2023/6/29-7/6 | 『採血センター業務作業手順書』の改訂に伴う周知 | 8 |
| 2023/7/1-10/15 | 医療倫理・個人情報保護・接遇、虐待（高齢者・児童） | 41 |
| 2023/7/1-10/31 | 医療に係る安全研修 | 43 |

| 開催日 | 演　　題 | 人数 |
|---|---|---|
| 2023/7/10-7/28 | 尿検査の検体取扱いについての周知 | 34 |
| 2023/7/21 | 必須トレーニング『①2023年度検査科災害対策訓練』『②化学物質の取り扱い』『③医療廃棄物について』 | 43 |
| 2023/8/24 | 検査科勉強会『①当番業務トラブルシューティング（生化学・免疫部門)』『②心電図について（生理部門)』 | 42 |
| 2023/8/30 | 内部監査員養成セミナー | 5 |
| 2023/10/1-10/20 | 臨床検査室のフレキシブルスコープ認定について、当院の取り決めについて | 42 |
| 2023/10/19 | 検査科勉強会『①時間外の検体受領について（病理部門)』『②検査エラーについて（血液・一般部門)』 | 35 |
| 2023/10/31-11/2 | 危機管理手順書の教育、周知 | 3 |
| 2023/10/23-11/10 | 採血業務前の勉強会 | 2 |
| 2023/12/9 | ISO 15189:2022（第4版）全要求事項解説セミナー | 44 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 2 | 4 | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 1 | 5 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## その他

**1）施設認定**

日本病理学会施設認定
日本病理学会研修施設認定
ISO15189認定施設
日本臨床細胞学会施設認定
日本臨床細胞学会教育研修施設認定
日本輸血細胞治療学会認定医制度「指定施設認定証」
日本輸血細胞治療学会輸血検査技師制度「指定施設認定証」
日本輸血細胞治療学会I＆A認定証

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本臨床衛生検査技師会精度保証施設

### 2）各種認定免許と取得者数

| 免許の種類 | 取得者数 | 備考 |
|---|---|---|
| 細胞検査士 | 5 | |
| 国際細胞検査士 | | |
| 超音波検査士 | 5 | |
| 認定血液検査技師 | 1 | |
| 認定臨床微生物検査技師 | | |
| 睡眠医療認定検査技師 | 1 | |
| 認定輸血検査技師 | 2 | |
| 認定一般検査技師 | | |
| 二級臨床検査士（病理学） | | |
| 二級臨床検査士（微生物学） | 2 | |
| 二級臨床検査士（循環生理学） | 2 | |
| 緊急臨床検査士 | 3 | |
| 認定心電検査技師 | 2 | |
| NST専門療法士 | 1 | |
| 特定化学物質等作業主任者 | 5 | |
| 有機溶剤作業主任者 | 8 | |
| 毒物・劇物取扱主任者 | 5 | |
| 上級バイオ技術者認定 | | |
| 認定HLA検査技術者 | | |
| POCT測定認定士 | | |
| フローサイトメトリー技術者 | | |
| 電子顕微鏡技術二級技士 | 2 | |

### 3）日本医師会臨床検査精度管理調査結果

過去７年間の成績

| 参加年度 | 参加項目満点数 | 参加項目点数 | 参加項目修正点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 27年度 | 630 | 630 | 100.0 | |
| 28年度 | 630 | 617 | 97.9 | |
| 29年度 | 630 | 586 | 93.0 | |
| 30年度 | 590 | 580 | 98.0 | |
| R1年度 | 645 | 635 | 98.4 | |
| R2年度 | 655 | 651 | 99.4 | |
| R3年度 | 655 | 649 | 99.1 | |
| R4年度 | 655 | 647 | 98.8 | |

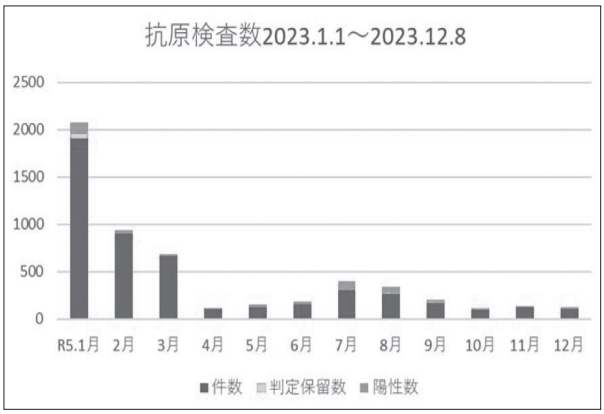
## 新型コロナ検査状況

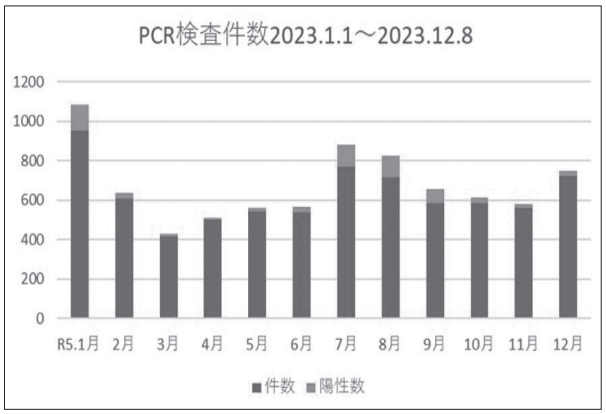
**新型コロナ抗原検査推移（R5. 1月～12月）**

| | | R5. 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件　数 | | 1,913 | 900 | 953 | 111 | 129 | 157 | 304 | 266 | 166 | 100 | 123 | 104 |
| 判定保留数 | | 41 | 15 | 11 | 0 | 1 | 3 | 6 | 4 | 6 | 5 | 1 | 1 |
| 陽性数 | | 119 | 25 | 3 | 2 | 24 | 21 | 91 | 70 | 36 | 15 | 15 | 21 |
| 判定保留率 | | 2.1% | 1.7% | 1.2% | 0.0% | 0.8% | 1.9% | 2.0% | 1.5% | 3.6% | 5.0% | 0.8% | 1.0% |
| 陽性率 | | 6.2% | 2.8% | 0.3% | 1.8% | 18.6% | 13.4% | 29.9% | 26.3% | 21.7% | 15.0% | 12.2% | 20.2% |
| 検査種類 | ルミパルス（抗原定量） | 1,094 | 875 | 895 | 78 | 106 | 124 | 249 | 214 | 113 | 70 | 76 | 49 |
| | クイックナビ-Flu+COVID19 | 9 | 25 | 28 | 33 | 25 | 33 | 55 | 52 | 53 | 30 | 47 | 55 |

**新型コロナPCR検査推移（R5. 1月～ 12月）**

| | | R5. 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 953 | 606 | 413 | 502 | 544 | 539 | 769 | 716 | 586 | 594 | 561 | 719 |
| 陽性数 | | 131 | 29 | 17 | 9 | 19 | 28 | 113 | 107 | 70 | 28 | 20 | 29 |
| 陽性率 | | 13.7% | 4.8% | 4.1% | 1.8% | 3.5% | 5.2% | 14.7% | 14.9% | 11.9% | 4.7% | 3.6% | 4.0% |
| 検査種類 | フィルムアレイ | 4 | 11 | 7 | 18 | 12 | 18 | 17 | 13 | 13 | 10 | 13 | 27 |
| | ID-NOW | 921 | 581 | 599 | 479 | 531 | 517 | 747 | 700 | 571 | 584 | 548 | 692 |
| | TRCR | 28 | 14 | 18 | 5 | 1 | 4 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 |



National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 栄養管理室

責任者　四元 有吏

## 診療科の特色

栄養管理室では、管理栄養士７名が入院時より全患者の栄養状態を評価し、早期に栄養介入できる体制をとっている。また、各担当者は、病棟、診療科ごとのカンファレンスに参加し医師、看護師、メディカルスタッフからも患者の病態、入院までの生活状況などの情報を収集し患者の状態を正しく把握した上で栄養管理の実践に努めている。

当院ではここ数年、脳血管障害や悪性腫瘍などの疾患、また加齢による嚥下機能低下を来した患者の食事調整の依頼が著しく増加している。このことから今年度は、摂食嚥下チームの協力のもと、嚥下調整食の見直しに取り組んだ。調理スタッフと作業工程も見直し、安定した形態調整の美味しい嚥下調整食を完成することができた。

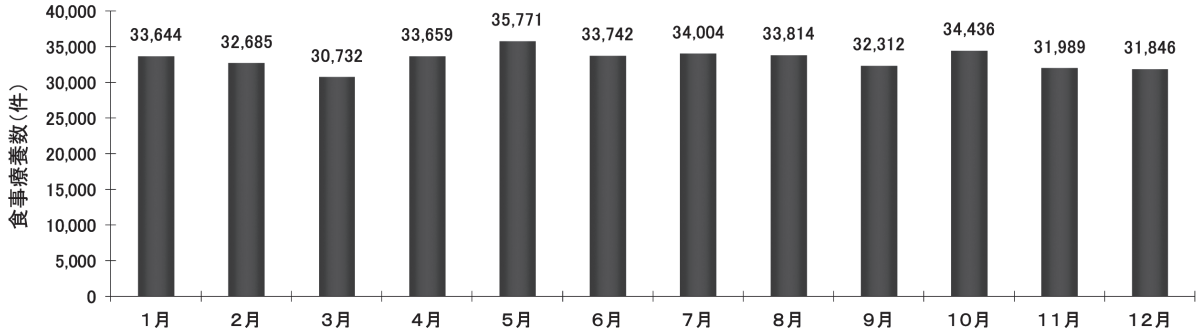
今後も、疾患だけでなく加齢による身体機能の変化による問題も合併した対応の難しい入院患者が増加することが予想されるが、栄養管理室では、関係部門と連携しながら安全で美味しい食事の提供を基本とした栄養管理の実践に取り組んでいく。

## 入院診療実績

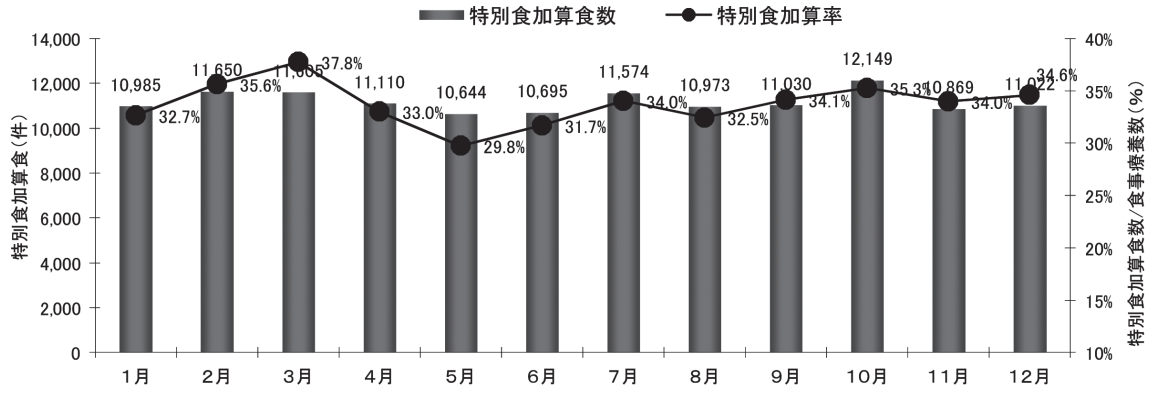
### 1）食事療養

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 取扱患者数 | 13,514 | 12,924 | 13,403 | 13,318 | 14,029 | 13,210 | 13,560 | 13,375 | 12,326 | 13,403 | 12,354 | 12,881 | 13,191 |
| 食事療養数 | 33,644 | 32,685 | 30,732 | 33,659 | 35,771 | 33,742 | 34,004 | 33,814 | 32,312 | 34,436 | 31,989 | 31,846 | 33,220 |
| 特別食加算食数 | 10,985 | 11,650 | 11,605 | 11,110 | 10,644 | 10,695 | 11,574 | 10,973 | 11,030 | 12,149 | 10,869 | 11,022 | 11,192 |
| 特別食加算率 | 32.7% | 35.6% | 37.8% | 33.0% | 29.8% | 31.7% | 34.0% | 32.5% | 34.1% | 35.3% | 34.0% | 34.6% | 33.7% |
| 食堂加算数 | 12,107 | 11,848 | 11,982 | 12,243 | 12,942 | 12,413 | 12,488 | 12,450 | 11,872 | 12,612 | 11,653 | 12,135 | 12,229 |

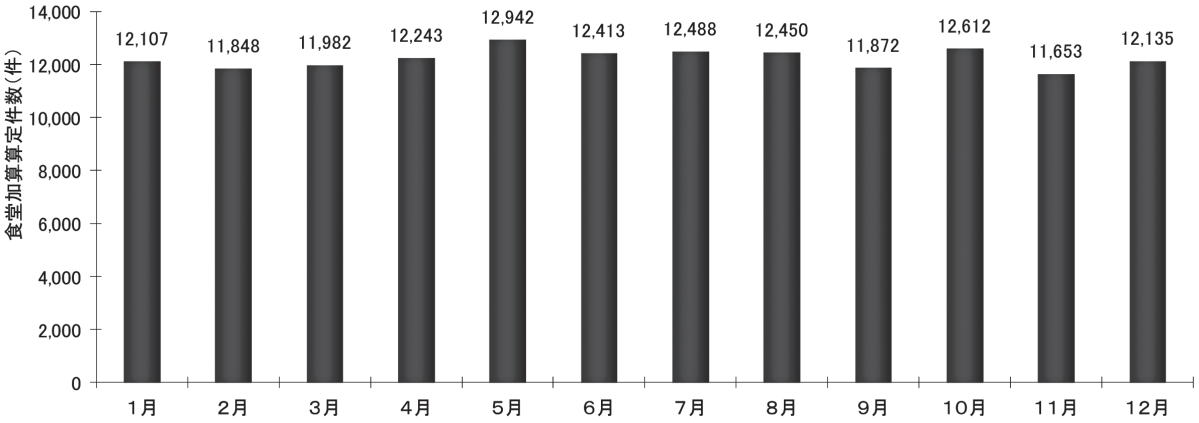
【食事療養数】



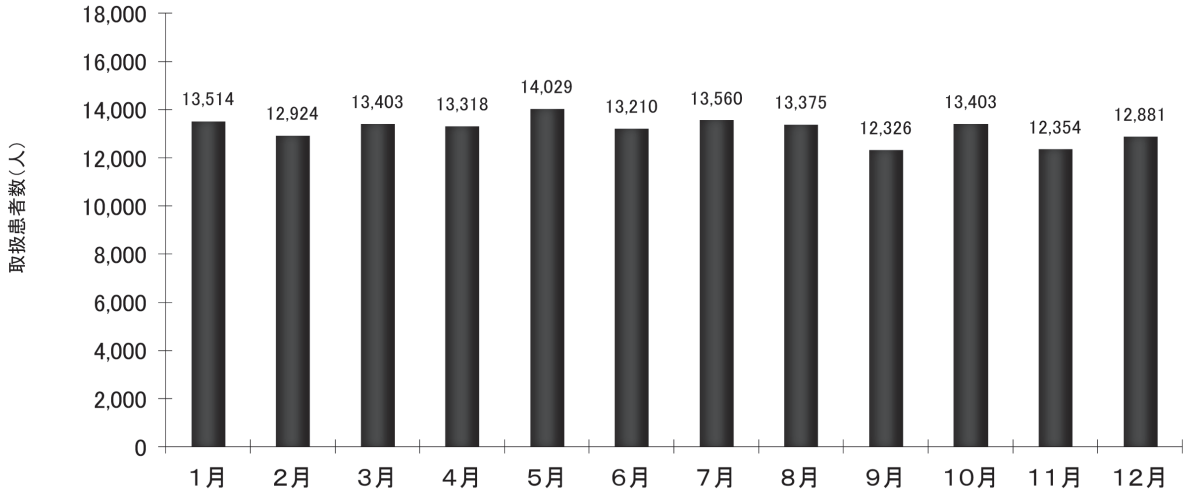
【特別食加算食数と特別食加算率】




【食堂加算件数】



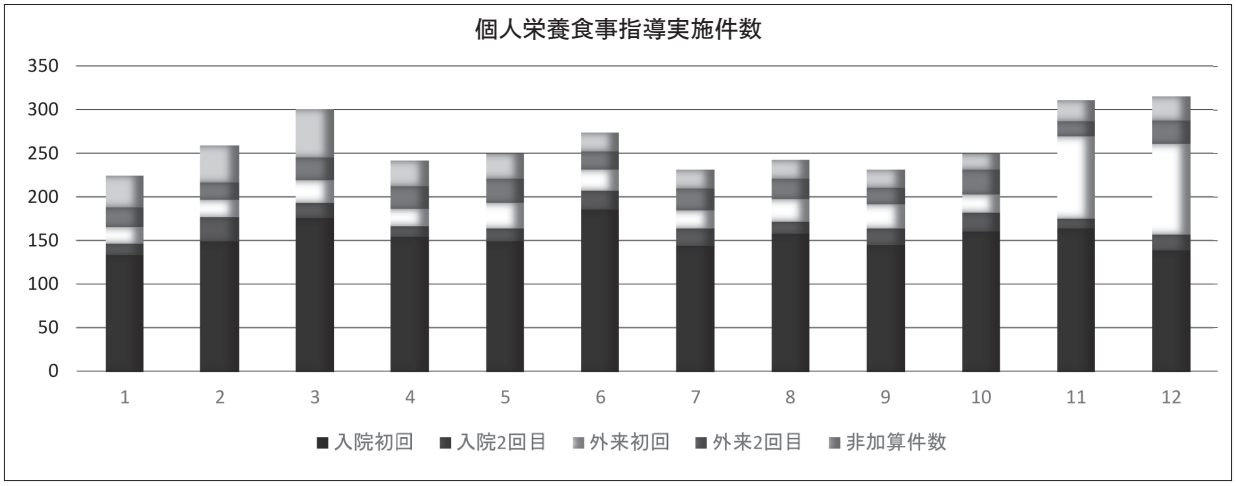

【取扱患者数】



## 栄養食事指導

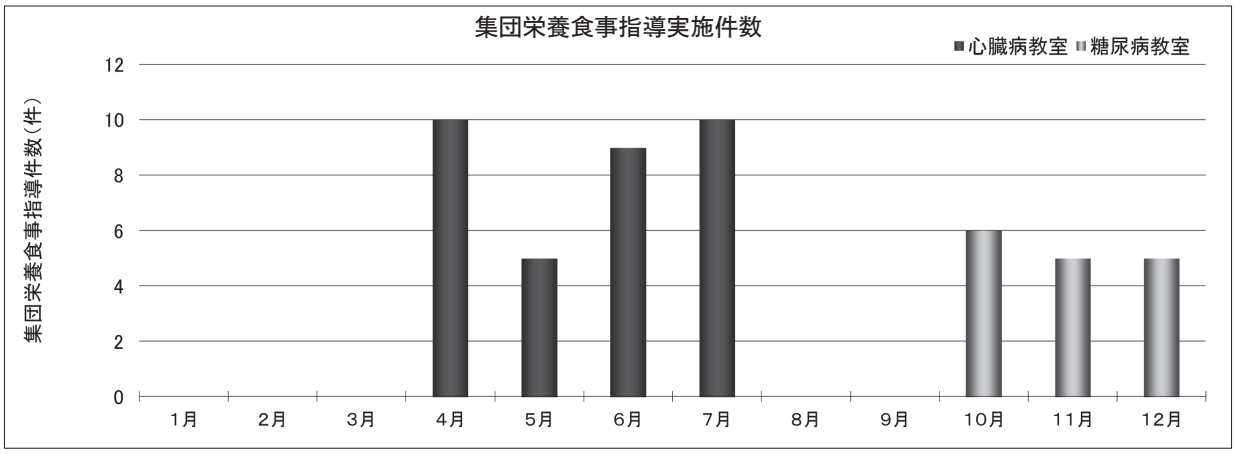
### 1）個人栄養食事指導

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院初回 | 134 | 149 | 176 | 155 | 149 | 186 | 144 | 158 | 145 | 161 | 164 | 139 | 1,860 |
| 入院2回目 | 13 | 28 | 17 | 12 | 15 | 21 | 20 | 14 | 19 | 21 | 11 | 18 | 209 |
| 外来初回 | 19 | 20 | 27 | 20 | 29 | 25 | 21 | 26 | 28 | 21 | 95 | 104 | 435 |
| 外来2回目 | 22 | 20 | 26 | 25 | 28 | 20 | 25 | 23 | 19 | 28 | 17 | 27 | 280 |
| 非加算件数 | 36 | 42 | 55 | 30 | 29 | 22 | 21 | 22 | 21 | 19 | 24 | 28 | 349 |
| 指導件数合計 | 224 | 259 | 301 | 242 | 250 | 274 | 231 | 243 | 232 | 250 | 311 | 316 | 3,133 |



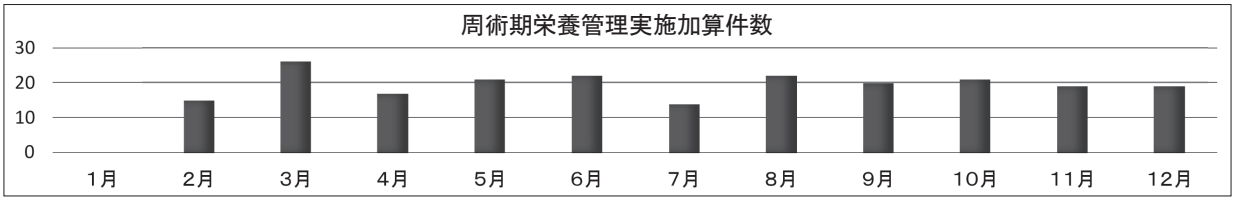

### 2）集団栄養指導件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心臓病教室 | | | | 10 | 5 | 9 | 10 | | | | | | 34 |
| 糖尿病教室 | | | | | | | | | | 6 | 5 | 5 | 16 |
| 指導件数合計 | 0 | 0 | 0 | 10 | 5 | 9 | 10 | 0 | 0 | 6 | 5 | 5 | 50 |



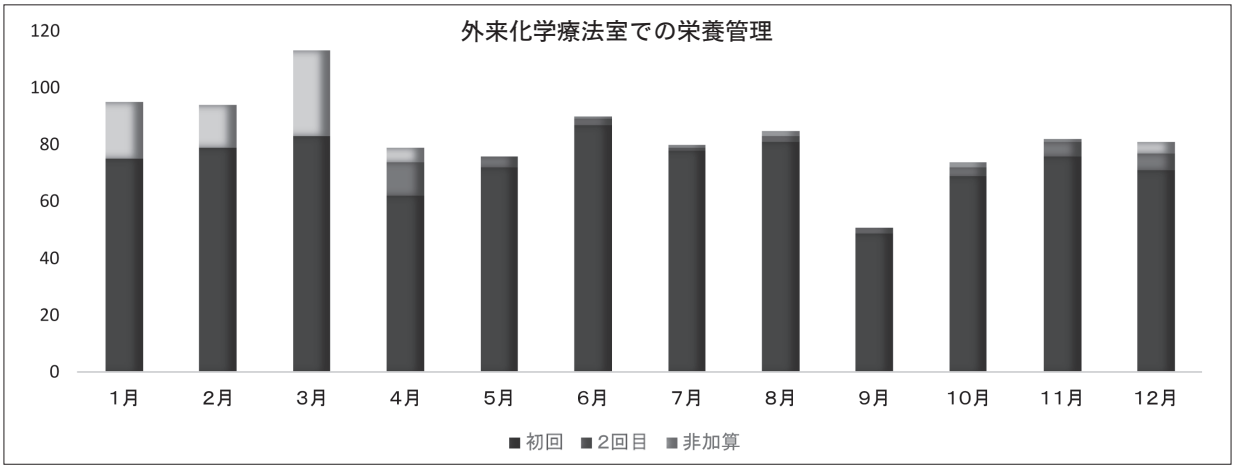
### 3）周術期栄養管理実施加算

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 加算件数 | 0 | 15 | 26 | 17 | 21 | 22 | 14 | 22 | 20 | 21 | 19 | 19 | 216 |



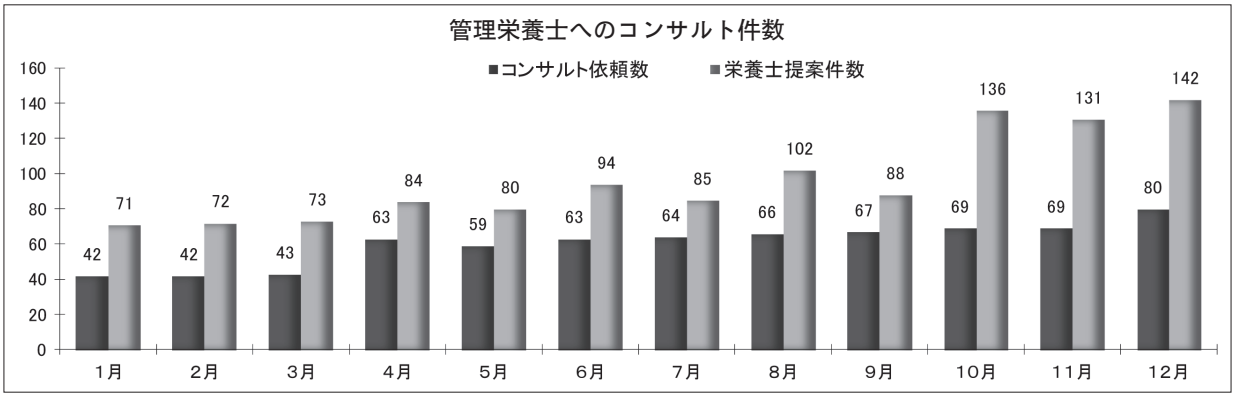

### 4）外来化学療法室での栄養管理件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 初回 | 75 | 79 | 83 | 62 | 72 | 87 | 78 | 81 | 49 | 69 | 76 | 71 | 882 |
| 2回目 | 0 | 0 | 0 | 12 | 4 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 5 | 6 | 37 |
| 非加算 | 20 | 15 | 30 | 5 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 4 | 81 |



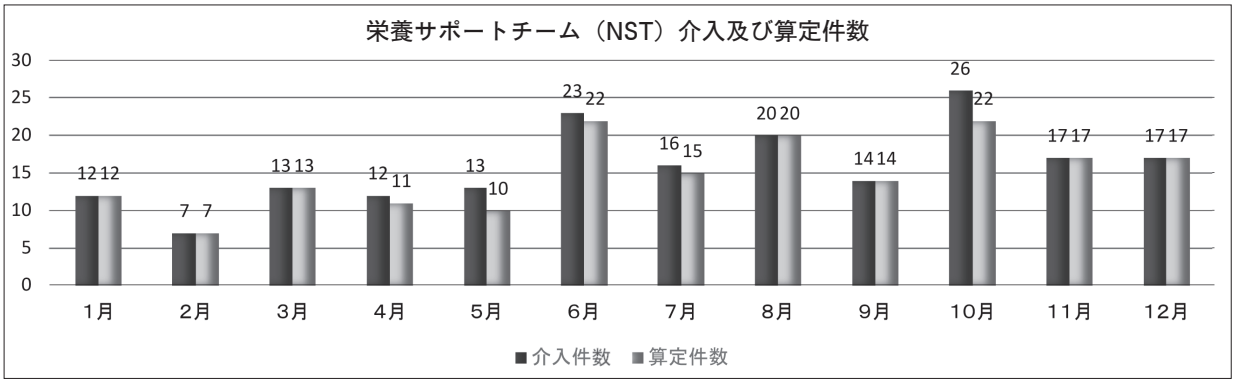

### 5）管理栄養士へのコンサルト依頼件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| コンサルト依頼数 | 42 | 42 | 43 | 63 | 59 | 63 | 64 | 66 | 67 | 69 | 69 | 80 | 727 |
| 栄養士提案件数 | 71 | 72 | 73 | 84 | 80 | 94 | 85 | 102 | 88 | 136 | 131 | 142 | 1,158 |



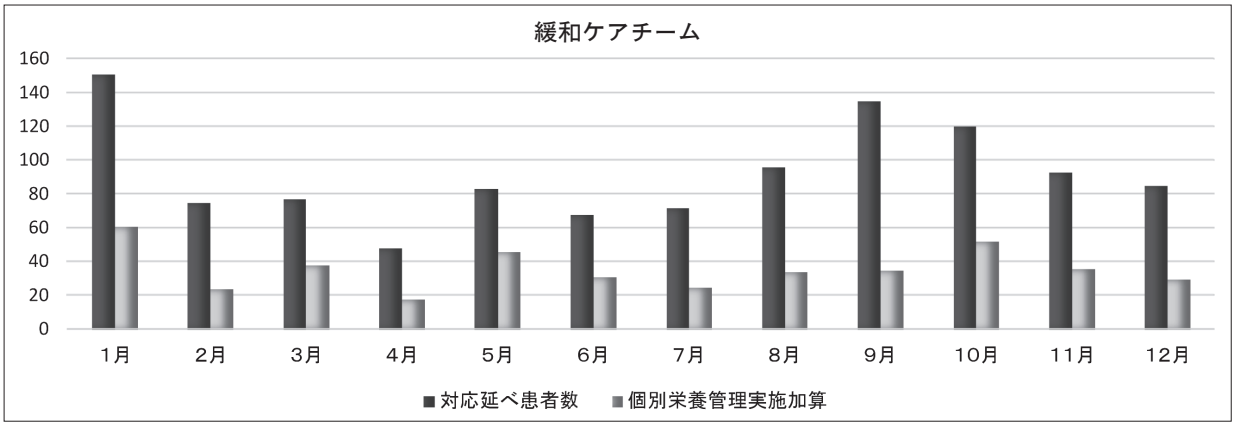
### 6）NST介入件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 介入件数 | 12 | 7 | 13 | 12 | 13 | 23 | 16 | 20 | 14 | 26 | 17 | 17 | 190 |
| 算定件数 | 12 | 7 | 13 | 11 | 10 | 22 | 15 | 20 | 14 | 22 | 17 | 17 | 180 |




### 7）緩和ケアチーム

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 対応延べ患者数 | 151 | 75 | 77 | 48 | 83 | 68 | 72 | 96 | 135 | 120 | 93 | 85 | 1103 |
| 個別栄養管理実施加算 | 61 | 24 | 38 | 18 | 46 | 31 | 25 | 34 | 35 | 52 | 36 | 30 | 430 |




## 研修・教育

### 管理栄養士養成校大学臨地実習受け入れ

| 養成大学 | 学部学科 | 実習期間 | 人数 |
|---|---|---|---|
| 長崎国際大学 | 健康管理学部 | 6月5日～9日 | 4名 |
| 長崎国際大学 | 健康管理部 | 6月12日～23日 | 3名 |
| 長崎県立大学 | 看護栄養学部 | 7月3日～14日 | 3名 |
| 活水女子大学 | 健康生活学部 | 8月21日～9月1日 | 2名 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 2 | | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 3 | | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | | | | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

### 論　文　発　表

**B：和文**

**B-a1：和文原著**

1）血清アルカリホスファターゼ値は亜鉛欠乏の指標とならない ～亜鉛欠乏の指標における検討～ .
安藤翔治、春田典子、緒方優子.
日本病態栄養学会誌 2023；26(2)：185-193.

2）急性期病院の栄養介入を要する患者における血清銅濃度低値割合と関連因子の検討.
安藤翔治、春田典子、緒方優子.
日本病態栄養学会誌 2023；26(3)：203-214.

### 学会・研究会・講演

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）急性骨髄性白血病における体重減少に影響する摂取栄養量および体重減少・GNRIによる短期生存時間解析の検討.
北和貴、津田美怜、國吉綾夢、山下真喜子、安藤翔治、淵邊まりな、桑原淳子、吉田真一郎.
一般演題59　がん緩和ケア⑥（造血器腫瘍）. 第26回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都, 2023.1.15.

2）血清アルカリホスファターゼ値は亜鉛欠乏の指標とならない～低亜鉛血症の指標における検討～ .
安藤翔治、春田典子、緒方優子.
一般演題 2　栄養アセスメント②. 第26回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都, 2023.1.13.

3）安藤翔治、河野恵美子、栗本遼、春田典子、菊池秀年.
口演45　栄養管理2-2. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**E, F：学術講演他**

**E：研究会世話人**

1）四元有吏.
　第26回長崎県NST研究会. 長崎, 2023.10.7.

**F-b：学会・研究会座長[国内学会]**

1）四元有吏.
　第26回長崎県NST研究会. 長崎, 2023.10.7

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 緩和ケアチーム：Palliative Care Team

責任者　濵脇 正好・石丸 美幸・岩永 一也

## 診療科の特色

がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげ、生活やその人らしさを大切にする考え方です。がん患者さんやご家族は、がんと診断されたとき、治療中、あるいは再発や転移がわかったときなどのさまざまな場面でつらさやストレスを感じます。緩和ケアでは患者さんとご家族が「その人らしく」過ごせるように、医学的な側面に限らず、いろいろな場面で幅広い対応をしていきます。また、がん治療と緩和ケアは、いつどちらからどちらへ移行するという類のものではなく、いつでも平行して存在しています。がん診療連携拠点病院である当院は「がんと診断された時からの緩和ケア」を推進しています。長崎医療センター緩和ケアチームは2007年２月に発足した、身体症状緩和医師、精神症状緩和医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW等による専門チームです。がんと診断された時から患者さんやご家族に生じるさまざまな問題に対応しサポートしています。

**【緩和ケアチーム活動】**

緩和ケア依頼の患者さんやご家族に対し、週１回の多職種によるカンファレンスや回診を行っています。回診時には、病棟看護師（可能な場合は主治医）とともにカンファレンスを行い、患者さんやご家族のご要望に応えられるよう努めています。2009年４月から緩和ケア専従看護師が配置され、2011年からリハビリテーション科のスタッフ、2014年からMSW、2016年よりJNP（診療看護師）と歯科衛生士を新たに迎えサポート体制がより充実しました。2017年より緩和ケア内科医師の配置は専従より専任へ変更となりました。2023年４月より緩和ケアチーム専従看護師・専任看護師の各１名の配置で増員となりました。

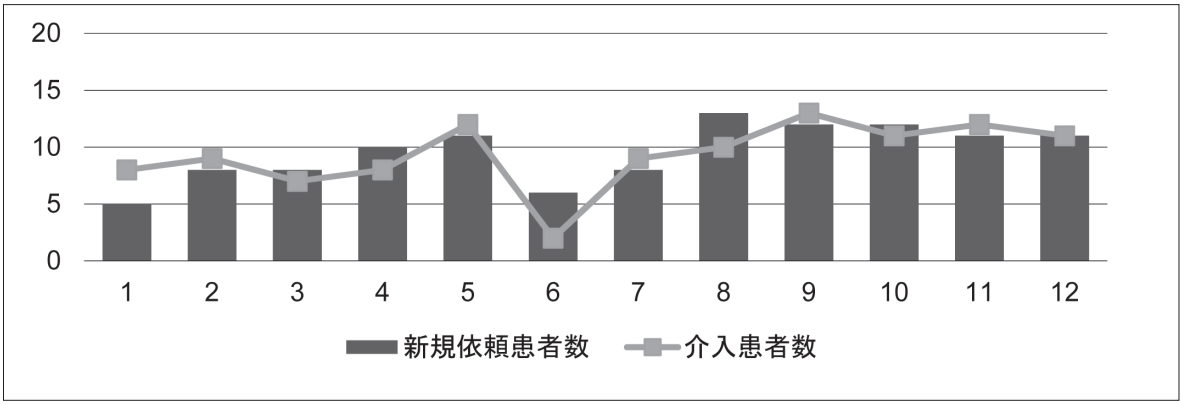
チーム依頼は、年間115件で急性期病院として特徴的ながん診断時から抗がん剤治療中の比較的早期からの相談が５割程度を占めております。依頼内容としては、消化器症状・疼痛・しびれ・精神症状・全身症状の順に多く、診療科としては、婦人科・乳腺内分泌外科・消化管内科・肝臓内科からの依頼数で半数を超える状況でした。2018年4月より、緩和ケア診療加算と個別栄養食事支援加算の算定を再開しました。2019年より、心不全終末期も対象疾患に加わり、非腫瘍の患者は1件の介入依頼がありました。

**【緩和ケア外来】**

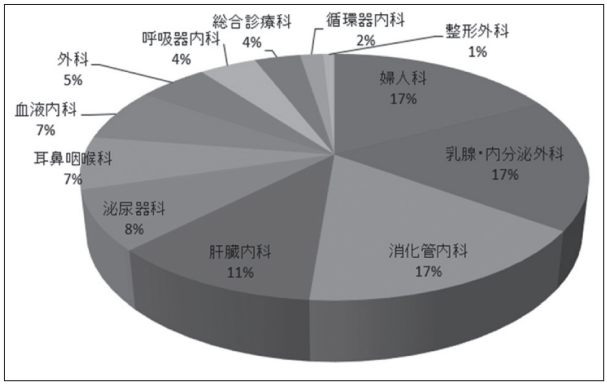
2014年に緩和ケア内科外来を開始し、2023年は年間延べ284名（前年171名）の患者さんの診療にあたりました。AYA世代にある患者層の増加やACPや在宅療養調整などに継続して関わる症例も年々増加傾向にあります。

## 入院診療実績

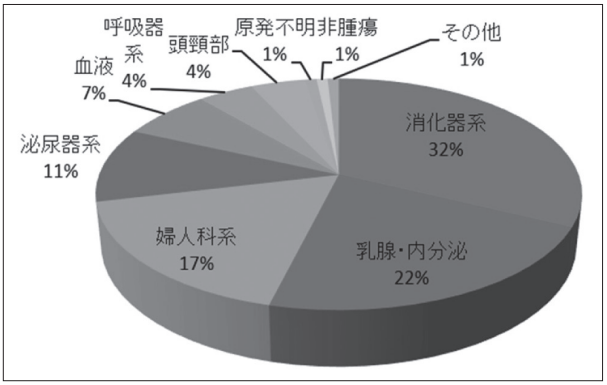
令和５年　月別緩和ケア新規依頼患者数（総数115）と介入患者数の推移



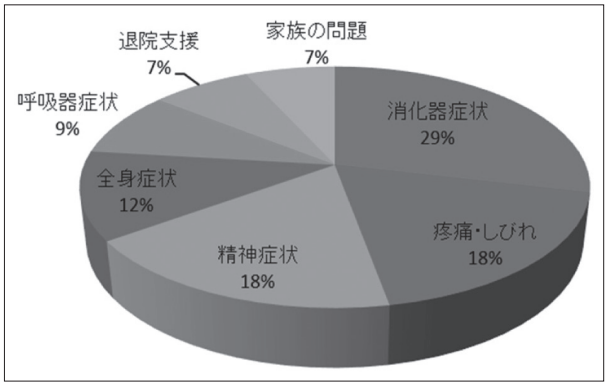

令和５年　診療科別依頼数（総数115）



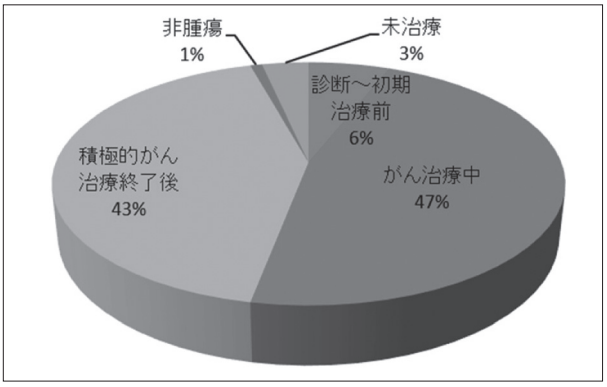

令和５年　部位別内訳（総数115）




令和５年　依頼内容内訳（重複あり）




令和５年　緩和ケア依頼の時期（総数115）



## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名　称 | 参　加　職　種 | 開催頻度 |
|---|---|---|
| 緩和ケアカンファレンス | 医師（4）、薬剤師（3）、栄養士（1）、看護師（2）、理学療法士（2）、言語聴覚士（1）、MSW（1）、臨床心理士（1） | 1回/週 |
| 緩和ケアラウンド | 医師（3）、薬剤師（1）、栄養士（1）、看護師（2）、臨床心理士（1） | 1回/週 |

**PEACEプロジェクト（医師に対する緩和ケア教育プログラム）**

| 開催日 | 研　修　名 | 参加数 |
|---|---|---|
| 2023年12月 2 日 | 令和 5 年度<br>長崎医療センター緩和ケア研修会<br>（新カリキュラム　eラーニング） | 17名 |

**緩和ケア研究会**

| 開催日 | テ　ー　マ | 参加数 |
|---|---|---|
| 第43回研究会<br>2023年 2 月 8 日 | 『がん患者の神経障害性疼痛<br>　どう対応するか？』<br>演者：埼玉県立がんセンター<br>　　緩和ケア科科長　余宮きのみ　先生 | 会場： 9 名<br>Web：32名 |
| 第44回研究会<br>2023年10月10日 | 『診断時からの緩和ケア』<br>演者：国立がん研究センター東病院<br>　　精神腫瘍科科長　小川　朝生　先生 | 会場: 8 名（医師 1 名、看護師 7 名）<br>Web:10名（医師 4 名、薬剤師 4 名、臨床心理士 1 名、看護師 3 名） |

**長崎県緩和ケアチーム研修会**
**ファシリテーターとして参加（濵脇正好・岩永一也）**

| 開催日 | 研　修　名 | 参　加　数 |
|---|---|---|
| 2023年 8 月11日 | 令和 5 年度<br>長崎県緩和ケアチーム研修会 | 長崎県内13施設　50名 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

**様式 1 － 1　治験等症例数一覧**

| No. | 項目<br>（①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）） | 研究課題名 | 依頼者<br>（または試験母体） | 責任医師<br>（または担当研究者名） | 当該施設実施症例数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ⑧製造販売後調査（文書同意なし） | ジクトルテープ一般使用成績調査 | 久光製薬株式会社 | 濵脇正好 | 3例 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 3 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演　なし**

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 6 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）診療情報管理室におけるサイバー攻撃時対応事業継続計画（BCP）の策定と院内災害初動訓練への参加について.
尾﨑真人、馬場愛、本村秀樹、濵脇正好.
安全管理災害対策. 第49回日本診療情報管理学会学術大会. 青森県十和田市, 2023.9.15.

2）診療情報管理士による診療記録を介した病院経営への関り～救急医療管理加算算定における診療記録の効率化と算定増への取組み～.
尾﨑真人、馬場愛、本村秀樹、濵脇正好.
経営分析. 第49回日本診療情報管理学会学術大会. 青森県十和田市, 2023.9.15.

**＜ポスター発表＞**

1）せん妄評価尺度導入前後における看護師の術後せん妄への認識の特徴.
横田朱音、高見栞、石丸美幸、牧山隼人、川畑貴寛.
第78回国立病院総合医学会. 広島市, 2023.10.21.

**F：学術講演他**

**F-b：学会・研究会座長[国内学会]**

**＜特別講演＞**

1）HL7FHIR仕様となった標準化退院時サマリー～その意図は？その使途は？～.
渡邊直、濵脇正好.
第54回長崎県診療情報管理研究会. 大村市, 2023.1.28.

2）がん患者の神経障害性疼痛　どう対応するか？
余宮きのみ、濵脇正好.
第43回緩和ケア研究会. 大村市, 2023.2.8.

3）診断時からの緩和ケア.
　小川朝生、蓬莱彰士.
　第44回緩和ケア研究会. 大村市, 2023.10.10.

**＜一般講演＞**

1）非がん患者に対する当院の緩和ケアチームのかかわり.
　緩和ケアチーム、濵脇正好.
　第21回長崎緩和ケアセミナー . 長崎市, 2023.9.2.

**＜医療講演＞**

1）整形外科治療の実際.
　宮本俊之、濵脇正好.
　第57回長崎県診療情報管理研究会. 大村市, 2023.10.14.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 褥瘡対策委員会

責任者　藤岡 正樹・中村 裕紀子

## 診療科の特色

**1．褥瘡対策活動褥瘡発生予防、適正な治療、教育・研究活動は褥瘡対策の 3 本柱である。**

**1）褥瘡予防**

褥瘡発生母体である寝たきり患者における褥瘡発生の傾向や、個々の患者の全身状態を的確に把握し、褥瘡発生危険性の高い患者に対して重点的な看護や体圧分散寝具使用などの注意を払い、発生を未然に防いでいる。2012年度の診療報酬改定にて、褥瘡対策は入院基本料算定の施設基準となり、褥瘡リンクスタッフを中心に、適切にリスクアセスメントが行われ、ケア介入ができるようスタッフ指導を行っている。

**2）適正な治療とその効果**

週に一度の褥瘡回診を開始し、wound bed preparation理論に則った創処置と閉鎖療法の徹底・創傷治療教育の施行によって看護スタッフの褥瘡治療に対する意識・技術の向上と啓蒙を図った。褥瘡治癒日数は2023年6.9日であった。（前年8.8日）

発足当初は、形成外科医師，医療安全管理係長、医療安全対策の褥瘡ワーキンググループの構成メンバーのみであった。2008年からは、皮膚･排泄ケア認定看護師、2011年からは褥瘡リンクスタッフが回診へ参加し、ケアの充実を図るようにしている。

**3）教育・研究活動**

褥瘡対策委員会では褥瘡リンクスタッフに対し勉強会を開催し、褥瘡に対する知識の啓蒙と処置、観察技術の向上を図っている。

**2．当院における持ち込み褥瘡患者の現状**

2023年持ち込み褥瘡183名（前年187名)、褥瘡発生場所が自宅であったものが106名（前年97名）であった。介護者が高齢であることによる介護力不足や、知識不足が原因であると推測された。これら在宅・介護施設の患者を病院に搬送・受診させることは医療費、搬送手段、付添い者などの問題が存在し、介護者にとって負担となるため、早期の医療介入ができていない。また長崎県が抱える問題として、離島での寝たきり老人に対するケア、特に褥瘡をはじめとする皮膚のケアは全く体系的になされていない。

**3．褥瘡リンクスタッフ（病棟看護師）の導入と褥瘡対策委員会**

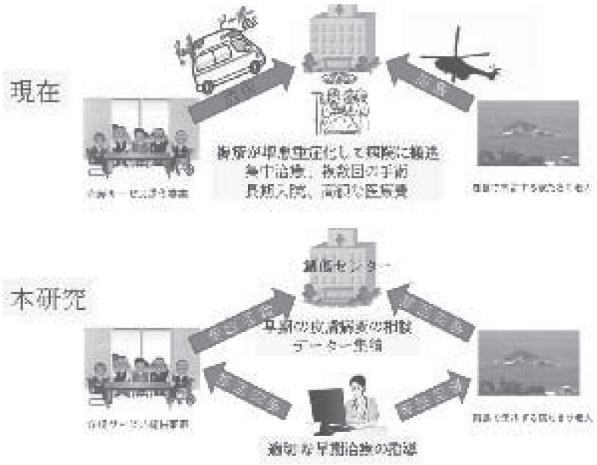
2011年度より院内全体の褥瘡予防に関する知識を向上させるとともに、院内発生の褥瘡の減少、治癒期間の短縮を図ることを目的として手術室を含む各病棟に褥瘡リンクスタッフが配置された。そして、2012年10月より、発生した褥瘡に対して褥瘡リンクスタッフが認識し、安全かつ適切なケア方法を実施できるように院内の状況をスタッフに情報提供できることなどを目的に、褥瘡リンクスタッフミィーティングを行っていた。2018年度からは褥瘡対策委員会との合同開催となり（第 3 金曜日の16時～ 17時)、褥瘡リンクスタッフが院内の状況について把握し､スタッフへ情報提供することでリーダーシップがとれるようになることなどを期待している。2023年も、部署でのラウンドを行い、病棟の現状の把握、スタッフ指導への指導を重点的に行った。

**4．体圧分散マットレスの中央管理**

2007年より院内保有のエアマットレスおよび静止型マットレスの体圧分散寝具を褥瘡対策委員会で一括管理している。各部署（3A病棟を除く）が、過不足なく適切に体圧分散寝具を使用できるような体制を整えている。

**5．創傷センターを中心とした在宅褥瘡ケアシステムの構築**

在宅褥瘡発生背景の推移にいち早く対応し、在宅・介護施設の褥瘡発生を予防するため、容易に医療機関に相談できるシステムの構築が急務であった。褥瘡対策委員会では、国立長崎医療センター創傷センターを中心に県内の全ての介護サービス提供事業者（約500）をインターネット回線で結ぶシステムを構築し、各介護施設と画像送信し、専門医や専門看護師がアドバイスできるシステムの構築を行った。




**6．褥瘡ハイリスク患者ケア加算**

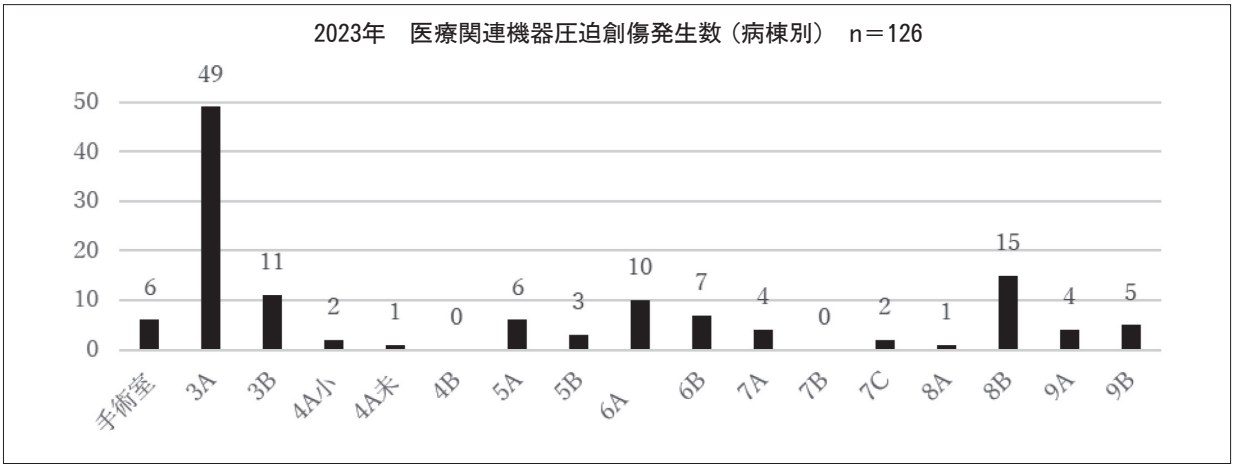
2013年５月より、褥瘡リスクアセスメントの結果を踏まえ、特に重点的なケアが必要と思われる患者について褥瘡予防等に関する治療計画書を作成し、計画に基づき重点的な褥瘡ケアを実施している。

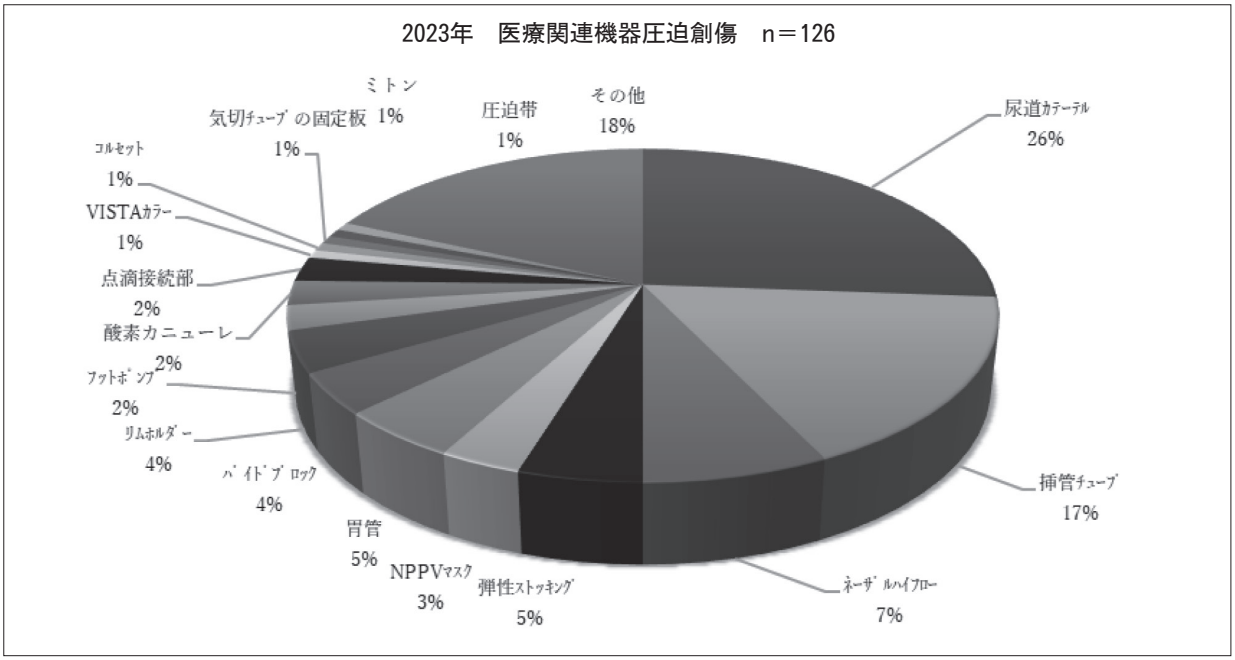
**2026年　褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書の作成件数（1574件）**

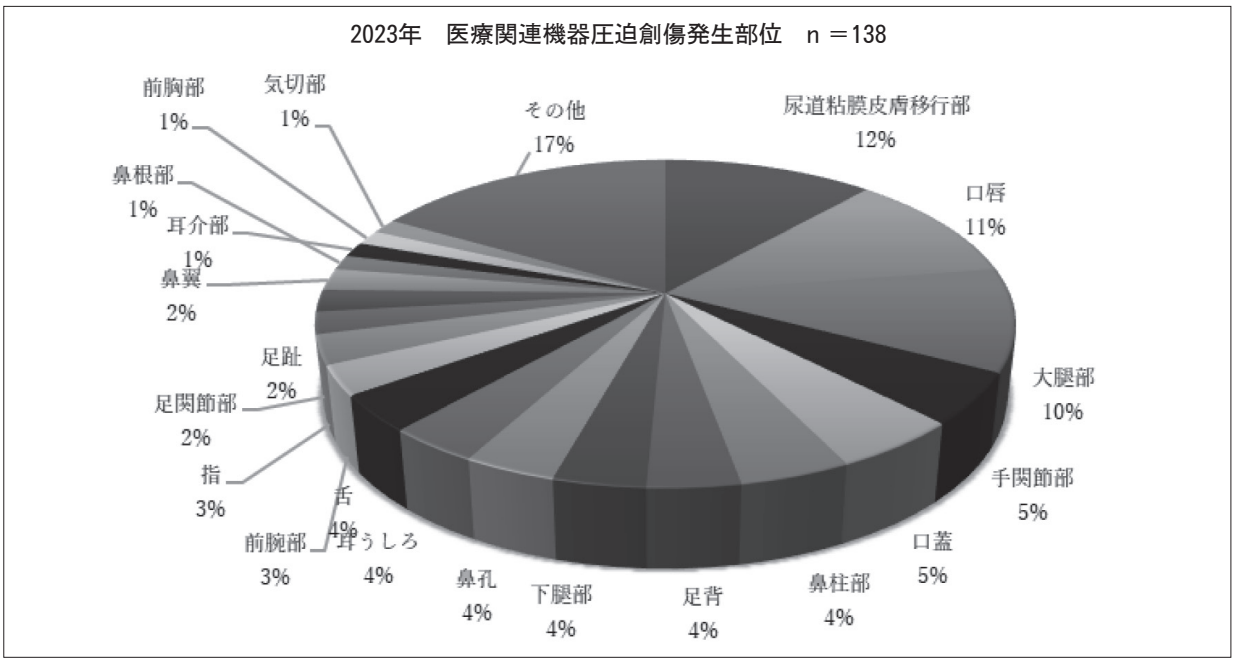
| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 140 | 1149 | 130 | 144 | 115 | 136 | 130 | 103 | 126 | 143 | 121 | 131 |

**7．医療関連機器圧迫創傷の現状**

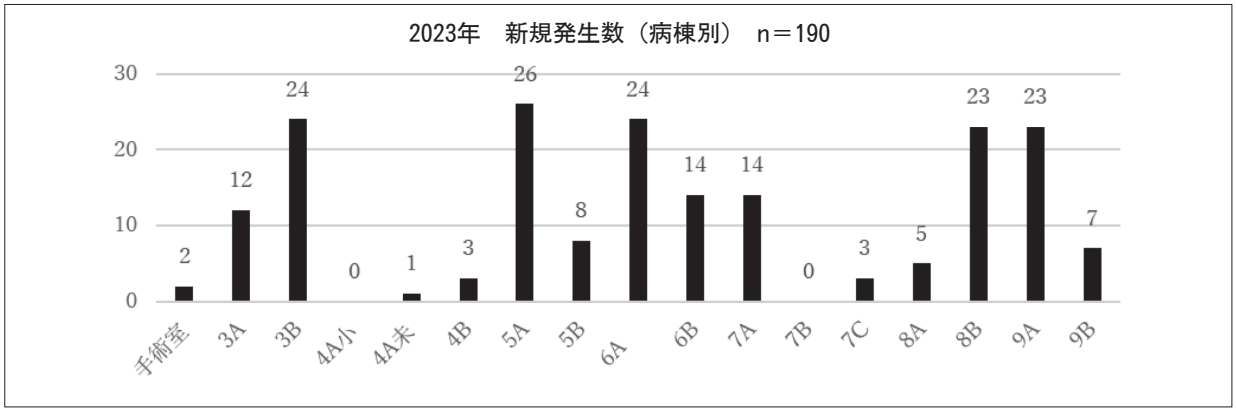
医療関連機器圧迫創傷とは、「機器装着時に局所的な外力によって発生する創傷」のことである。当院でも、NPPVマスクや尿道留置カテーテル、弾性ストッキングなどによる創傷が発生しており、褥瘡対策委員会においても発生予防のための対策を検討している。

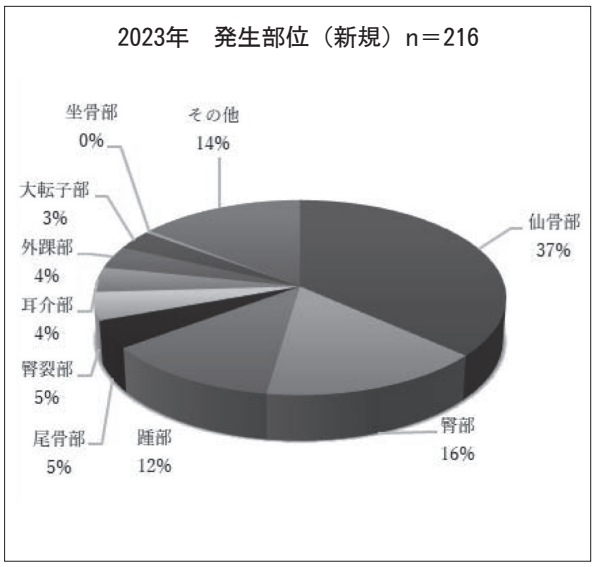


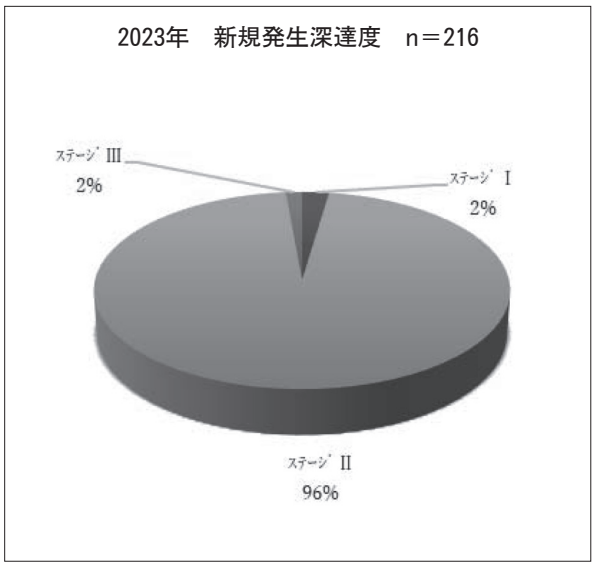



| | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新規発生数 | 156 | 138 | 154 | 162 | 178 | 157 | 169 | 190 |
| 新規発生率 | 0.73 | 0.64 | 0.7 | 0.8 | 0.94 | 0.89 | 0.9 | 1.03 |
| 医療関連機器圧迫創傷数 | | | | | | | 150 | 126 |
| 医療関連機器圧迫創傷発生率 | | | | | | | 0.82 | 0.67 |
| 持ち込み数 | 163 | 160 | 167 | 167 | 180 | 167 | 157 | 183 |
| 持ち込み率 | 0.78 | 0.74 | 0.75 | 0.83 | 0.95 | 0.93 | 1.02 | 0.99 |




## 研修・教育

### カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 褥瘡対策委員会 | 1回/月 |
| 褥瘡回診 | 1回/週 |

### 教育講演

| 日時 | テーマ | 研修内容 | 研修方法・準備 |
|---|---|---|---|
| 2023年<br>1月20日（金） | スキンケアについて | 保湿ケア | ・講義と演習<br>・講義資料 |
| 2023年<br>6月16日（金） | 弾性ストッキングについて | 弾性ストッキング着用時のケア | ・講義<br>・講義資料 |
| 2023年<br>7月21日（金） | おむつの正しい使用について | サイズの選択、着用方法 | ・講義<br>・講義資料 |
| 2023年<br>11月17（金） | 体圧分散マットレスについて | 体圧分散マットの種類、選択方法 | ・講義<br>・講義資料 |
| 2023年<br>12月15日（金） | 褥瘡予防ケア | 座位時の予防ケア | ・講義<br>・講義資料 |

## 学会・論文など

**1）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 3 | 1 | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | | | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

## 研究業績

### 論　文　発　表

**A：英文**

**A-a1：英文原著**

1）Indications of colostomy for Fournier's gangrene with rectum exposure.
Fujioka M, Fukui K,Yoshino K. Nokuchi M.
World Journal of Colorectal Surgery, 2023, p 43-4611(2).

### 学会・研究会・講演

**C, F：学術講演他**

**C-b：学術講演[国内]**

**＜Poster＞**

1）褥瘡に起因したフルニエ壊疽で直腸が露出した場合、人工肛門を要するか？
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
第25回日本褥瘡学会学術集会. 神戸, 2023.9.1-2.

2）palliative surgeryで臭いを元から断つ.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20-21.

**F-b：学会・研究会座長[国内学会]**

1）藤岡正樹.
一般演題 2 （スキンテア・外科的治療）. 第20回日本褥瘡学会総会九州・沖縄地方会学術集会. 福岡, 2023.5.20.

2）藤岡正樹.
「一般演題　在宅医療・地域連携 1 」座長. 第25回日本褥瘡学会学術集会. 神戸, 2023.9.1-2.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# NST（栄養サポートチーム）

責任者　安井 順一・北 和貴

## 診療科の特色

『栄養サポートチーム（Nutrition Support Team（以下：NST））』は、複雑な病態下や栄養障害を有した患者に対して、最適な栄養管理を行う医療チームである。患者それぞれに応じた栄養量・栄養素・投与経路を多角的な視点で検討し、栄養状態の改善をサポートするために取り組んでいる。

長崎医療センター NSTは、2004年１月に設立され、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門スタッフがチームを組んで全科型NSTとして集学的治療を行なっている。

### 活動状況

全患者を対象に入院時の栄養スクリーニング並びに栄養状態の評価判定を行い、栄養不良の早期発見及び早期対応を行っている。また、主治医及び看護師が「患者の栄養状態に何らかの問題がある」と判断しNST介入を依頼した場合には、NST専任を中心にNSTスタッフが患者の詳細な栄養アセスメント及び適切な栄養補給法を提案し、主治医と共に患者の栄養状態の改善を図っている。

2022年まで栄養管理に係る所定の研修を修了した看護師の不足により、ラウンドの算定要件を満たさないことが課題に挙げられていたことから、NSTメンバーとしてJNPが加わり、2023年からはラウンド時に算定に必要な職種が揃い、非算定の割合が2022年24％から2023年９％に減少した。

また2023年はラウンド時にNSTリンクナースが同行する取り組みを開始した。毎週のラウンド時に各病棟のNSTリンクナースが同行することで一連の流れを経験できるようになり、NSTの活動内容について理解を深めた。この取り組みにより、2022年と比較して新規依頼件数は1.4倍、介入件数は1.6倍に増加した。NSTリンクナース合同会議も例年通り年３回（６月、10月、２月）開催し、栄養療法についての講義やNSTリンクナース間でラウンド同行時の気づきや各病棟の取り組みを共有することでNST活動の活性化につなげることができた。

2023年10月７日には第26回長崎県NST研究会を当院が担当幹事として開催した。座長は当院の内分泌・代謝内科医長 安井順一、栄養管理室長 四元有吏が担当した。一般演題として５演題の発表を頂き、特別講演には愛知医科大学　前田圭介先生を迎え「誤嚥性肺炎治療における栄養管理のリアルワールド」をテーマにご講演頂いた。長崎県内より多数の施設が参加し、学び多き研究会となった。

ここ数年はCOVID-19感染症予防対策として院内のNST勉強会を中止していたが、2023年はeラーニングを活用して全職員を対象にNST勉強会を実施することができた。自己研鑽の研修ではあったが、284名の職員に受講いただき、院内全体で栄養に関連した知識習得を行うことができた。

栄養管理に係る所定の実地研修も看護師３名、薬剤師２名、管理栄養士１名が受講した。栄養に関連した専門的知識を持ったスタッフが院内に充実することで、今後さらに患者の栄養状態改善を多職種でサポートできる施設に発展することが期待される。

### ≪NSTカンファレンス・ラウンド≫

○実施日

毎週木曜日　15：00～

○メンバー

専任（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士）、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のNSTスタッフと、主治医、病棟看護師。

○内容

必要栄養量の算出、栄養管理プランの検討、食事内容の検討、経管栄養の種類・投与方法の検討、輸液栄養の検討、報告書作成など。

### NSTの地域連携

県央・島原地区NST研究会、長崎県NST研究会、長崎県NSTenjoy会の世話人として当院の医師、管理栄養士が関わっており、他施設の多くの医療スタッフと連携をとりながら長崎地区のNST活動促進を図っている。

当院の入院中にNSTが関わった症例に対して、転院時などに情報提供書を作成して切れ目のない栄養サポートができるよう他施設と連携している。

## 研修・教育

### カンファレンス

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| NST回診・カンファレンス | 毎週１回 |
| NST委員会 | 毎月１回 |

### 学会認定状況

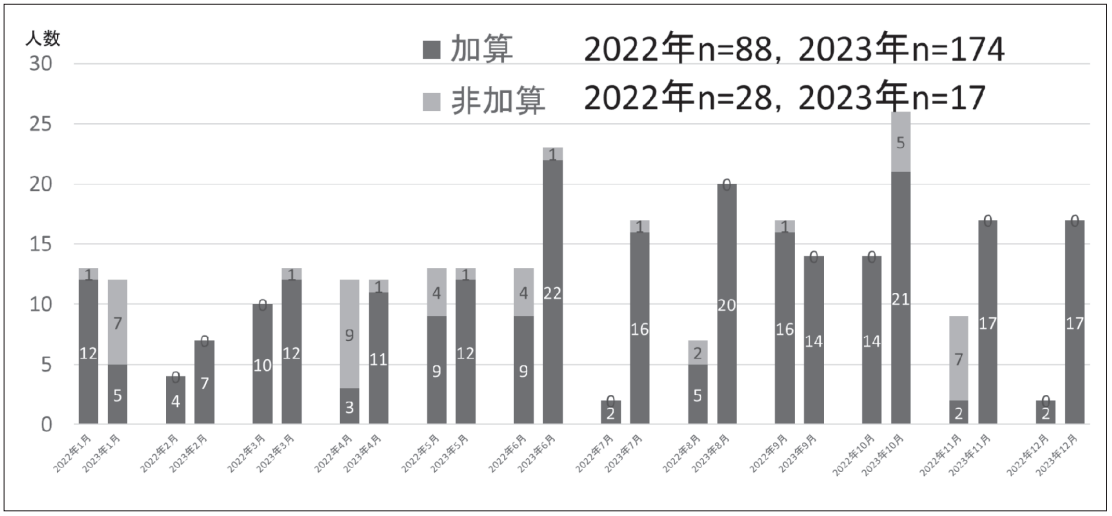
| 認定名称 | 認定学会 | 認定日 |
|---|---|---|
| NST稼動施設認定 | 日本臨床栄養代謝学会<br>（旧名称：日本静脈経腸栄養学会） | 2005年11月１日～<br>（５年毎更新） |

### NSTスタッフ

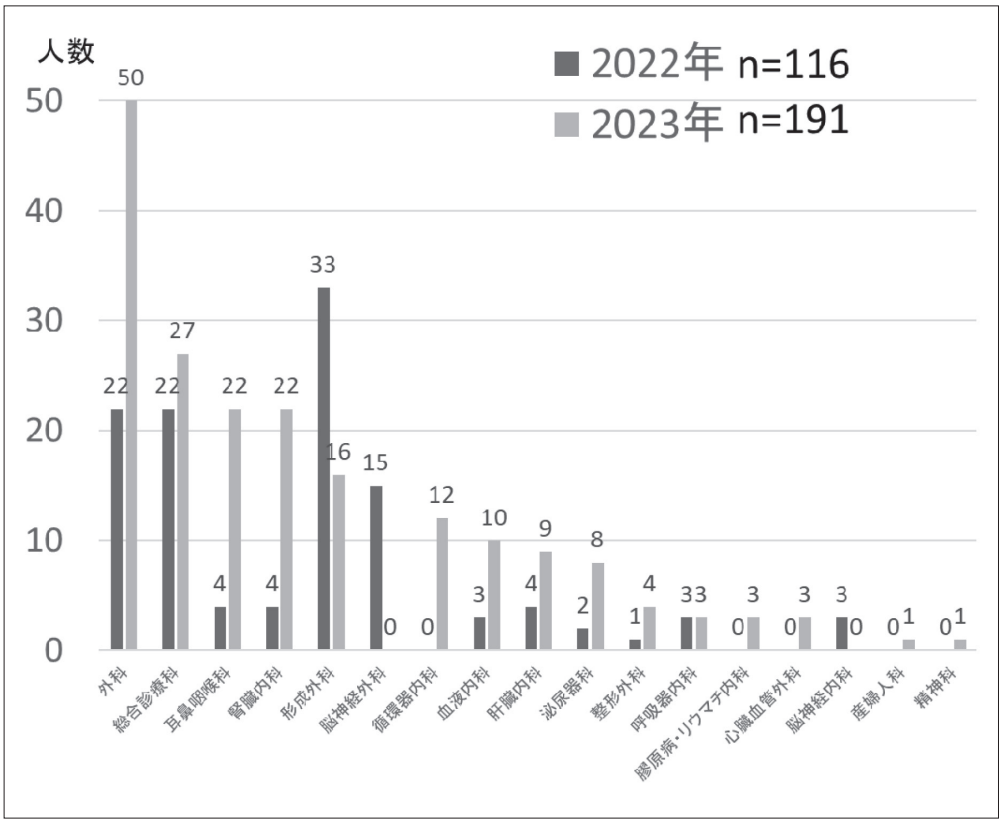
| 役　割 | 職　種 | 人数／（ ）内はNST加算要件を満たす研修修了者数 | NST関連認定等 |
|---|---|---|---|
| スーパーバイザー | 副院長 | １（０） | |
| チェアマン | 内分泌・代謝内科医長 | １（１） | ＴＮＴ1名 |
| ディレクター | 外科医長 | １（０） | |
| バイス・ディレクター | 栄養管理室長 | １（１） | |
| コアスタッフ | 内分泌・代謝内科医師 | ２（２） | TNT1名<br>NST医師-歯科医師教育セミナー１名 |
| | 副看護部長 | １（０） | |
| | 看護師長 | ２（０） | |
| | 副看護師長 | ４（３） | |
| | 管理栄養士 | ５（５） | NST専門療法士１名 |
| | 薬剤師 | ６（５） | |
| | 臨床検査技師 | １（０） | |
| | 理学療法士 | １（０） | |
| | 作業療法士 | １（０） | |
| | 言語聴覚士 | １（０） | |
| リンクナース | 看護師 | 14（２） | |
| 事務 | 経営・企画係 | １（０） | |

## 入院診療実績

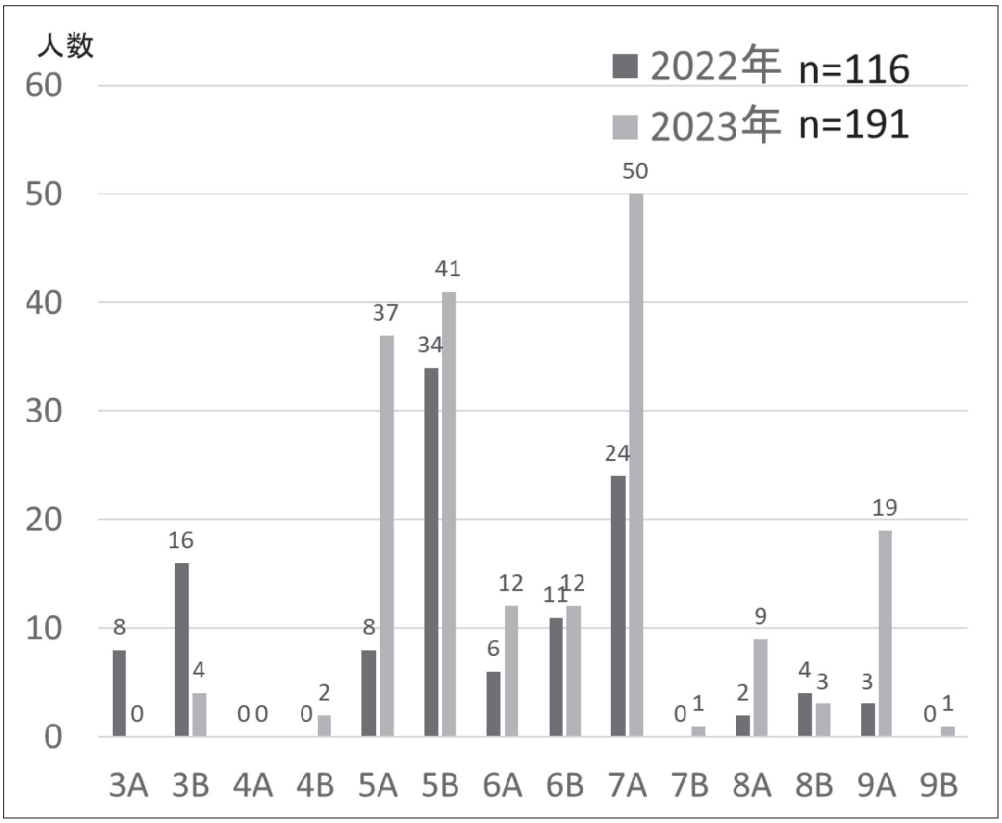
【2022年、2023年NST介入患者数の比較】



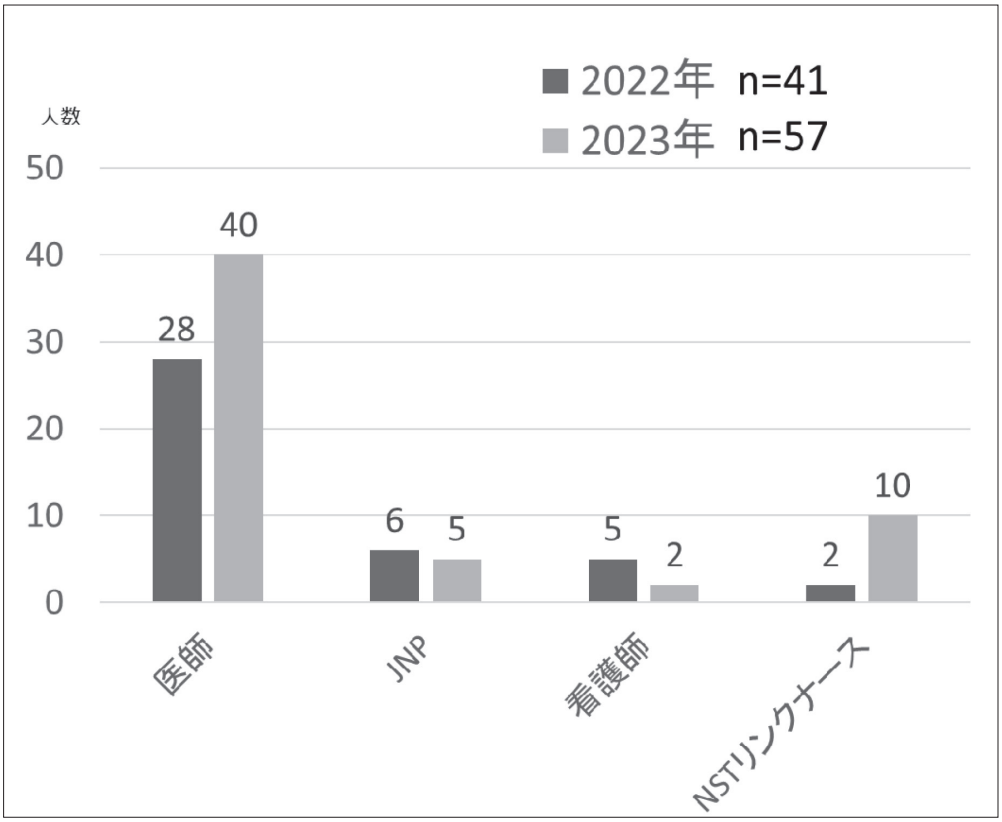

【2022年、2023年診療科別NST介入の比較】



【2022年、2023年病棟別NST介入件数の比較】




【2022年、2023年NST介入依頼者の比較】



## 研修・教育

**NST関連勉強会・研修会**

| 開催日・場所 | 名称・開催場所 | 内容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 2023年10月 7 日 | 第26回長崎県NST研究会 | 担当幹事・座長 | 世話人 2 名<br>参加者 2 名 |

**NST40時間実地研修**

| 研修施設 | 取得者 |
|---|---|
| 九州医療センター | 國吉綾夢（管理栄養士） |
| 九州医療センター | 松永望東子（薬剤師） |
| 長崎大学病院 | 吉本辰暁（薬剤師） |
| 愛野記念病院 | 牧亜里沙（副看護師長） |
| 愛野記念病院 | 山田昌恵（看護師） |
| 愛野記念病院 | 富永大志（看護師） |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

1）急性骨髄性白血病における体重減少に影響する摂取栄養量および体重減少・GNRIによる短期生存時間解析の検討.

北和貴、津田美怜、國吉綾夢、山下真喜子、安藤翔治、淵邊まりな、桑原淳子、吉田真一郎.

一般演題59　がん緩和ケア⑥（造血器腫瘍）. 第26回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都, 2023.1.15.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 臨床工学室

責任者　中道 親昭、寺下 真吾、杉山 哲司

## 診療部門の特色

2001年９月の新病院スタート時に解説されたME機器センターは2016年より新たに「臨床工学室」と名称を改められた。組織的に救命救急センターの一組織であったのも統括診療部直轄部署となり再スタートを切った。

中央管理機器として輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器等をはじめとした様々な汎用機器を対象としている。ME機器管理システムを導入し、効率的かつ安全な医療機器を提供できるよう臨床工学室として努めてきた。

臨床的には各種血液浄化やアフェレシスをはじめ、末梢血幹細胞採取、心カテ部門、不整脈治療、呼吸療法、高気圧治療、人工心肺、補助循環、脳外科モニタリング業務など多岐にわたり当院の高度医療・救急集中治療に寄与している。時間外の緊急対応にも24時間対応している。

医療安全／教育の観点では医療機器の基本的取り扱いや注意点に関する講義、人工呼吸器の勉強会等に対して指導を依頼されている。

スタッフのスキルアップもなされており各々が各種専門臨床工学技士、認定士も取得しており、学会等での世話人、座長や発表も積極的になされている。

2023年は新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行したものの、患者は存在し制度あわせた運用の変更にも柔軟に対応してきた、2024年はロボット手術に参入する予定ではあるが、人材の不足や教育など問題も多く抱えており、業務内容の見直しや編成の見直しが必要になる。日々進化する高度医療や病院DXに適応できるように多職種と連携を図りながら研鑽を続ける。

## 入院診療実績

**【2023機器管理件数】**

| | 輸液ポンプ | シリンジポンプ | 人工呼吸器 | SpO2モニター | 低圧吸引機 | フットポンプ | 経腸ポンプ | バッグマスク | 血液浄化 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日常点検 | 351 | 736 | 603 | 23 | 231 | 202 | 95 | 234 | 17 |
| 定期点検 | 684 | 540 | 27 | 49 | 112 | 169 | 37 | 0 | 0 |
| 修理 | 18 | 15 | 7 | 3 | 41 | 32 | 16 | 1 | 0 |
| 業者依頼 | 7 | 1 | 21 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総数 | **1060** | **1292** | **658** | **76** | **318** | **352** | **148** | **235** | **17** |
| | 生体モニター | 高流量システム | 内視鏡 | 除細動器 | 体外式PM | 電気メス | 麻酔器 | 保育器 | 低体温 |
| 日常点検 | 48 | 183 | 0 | 8 | 46 | 0 | 0 | 2 | 7 |
| 定期点検 | 171 | 0 | 0 | 30 | 1 | 84 | 14 | 0 | 0 |
| 修理 | 55 | 2 | 0 | 3 | 1 | 3 | 0 | 5 | 0 |
| 業者依頼 | 13 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総数 | **287** | **185** | **0** | **43** | **48** | **87** | **14** | **7** | **3** |

【2023臨床業務件数】

| | 透析（センター） | 透析（救命） | 持続血液浄化 | 白血球吸着 | 血漿交換 | 腹水濾過 | 幹細胞採取 | No療法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 定　例 | 3647 | 41 | 35 | 65 | 31 | 24 | 8 | 0 |
| 緊　急 | 27 | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 総　数 | **3674** | **49** | **36** | **65** | **31** | **24** | **8** | **2** |
| | 呼吸器巡回 | 呼吸器搬送 | 人工心肺 | 自己血回収 | PM埋込 | PMチェック | PM手術立会 | shuntPTA |
| 定　例 | 3647 | 41 | 42 | 57 | 131 | 900 | 39 | 32 |
| 緊　急 | 27 | 8 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 5 |
| 総　数 | **3674** | **49** | **43** | **58** | **132** | **901** | **43** | **37** |
| | IABP | PCPS | 心カテ（CAG） | 心カテ（PCI） | アブレーション | 高気圧治療 | CAS | MEP, SEP |
| 定　例 | 2 | 3 | 258 | 182 | 103 | 214 | 7 | 17 |
| 緊　急 | 9 | 2 | 13 | 36 | 2 | 18 | 2 | 0 |
| 総　数 | 11 | 5 | 271 | 218 | 105 | 232 | 9 | 17 |

| | 低体温療法 | Davinci | 血管焼灼 |
|---|---|---|---|
| 定　例 | 0 | 1 | 6 |
| 緊　急 | 1 | 0 | 0 |
| 総　数 | **1** | **1** | **6** |

## 研修・教育

**カンファレンス等**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 臨床工学室カンファレンス | 1回／2週 |
| 透析センターカンファレンス | 1回／週 |
| アブレーションカンファレンス | 1回／週 |

**講義等**

| 名称 | 対象 | 担当講師 |
|---|---|---|
| 新人医師オリエンテーション／ME機器（4/4・5） | 研修医 | 寺下真吾<br>杉山哲司<br>加来泰司 |
| 医療安全研修／生体情報モニターに関して（7/1～） | 全職員 | 寺下真吾 |
| 医療安全研修／AEDについて（7/1～） | 全職員 | 加来泰志 |
| 人工呼吸器について（7/11・12・13・14） | 3A看護師 | 石川真聖 |
| BV計に関して（11/5） | 透析室看護師 | 井手下清香 |
| 人工呼吸器について（9/28） | 4A看護師 | 石川真聖 |
| 人工呼吸器について（10/26） | 理学療法士 | 石川真聖 |
| 人工呼吸器について（6/27） | 6A看護師 | 川満守 |
| 人工呼吸器について（10/12） | 6B看護師 | 川満守 |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | 1 | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | 2 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）温故知新「コロナがもたらしたもの」.
八尋智基.
第15回長崎県臨床工学会. 長崎市, 2023.6.11.

2）ワンスライドディスカッション.
松本育海.
第18回九州・沖縄臨床工学会. 久留米市, 2023.11.4.

**G：学術講演他**

**G：その他**

**＜座長＞**

1）若手・中堅技士が考える教育とは～理想と現実～ .
松本育海.
第 4 回NHOCE協議会学術大会. 福岡市, 2023.9.9.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 医療安全管理室

責任者　黒木 保・井手 時枝

## 部署の特色

医療施設においては、安全な医療の提供が基本である。そのためには、全職員がその重要性を認識し医療行為を遂行しなければならない。医療安全管理室の業務としては、1）現場の情報収集および実態調査、2）マニュアルの作成・点検・見直しの提言、3）インシデント・アクシデント報告事例の収集・分析・保管、4）分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理、5）改善策の提案・推進とその評価、などである。

毎週火曜日に医療安全管理部会を開催し事例検討や各部門との情報共有を行い、改善策やマニュアル改訂の必要性等を検討している。多職種間で検討することで、さまざまな観点から問題解決の糸口を見つけることができ、より組織横断的に医療安全に取り組むことが出来るようになった。改善内容は、看護師長会議・医療安全推進担当者会議・管理診療会議・医局会などでの伝達や独自の活動広報誌を作成し周知を図るとともに、日々のラウンドで改善および実践状況の確認を行っている。

### 1．医療安全管理室活動実績

| 月 | 内　　容 |
|---|---|
| 1月 | ・医療安全Newsレター（Vol.8）発行<br>・令和4年度　医療安全対策地域連携評価の開催<br>（連携加算Ⅰ：嬉野医療センターより評価）<br>・「COVID-19患者のカルテ作成時の漢字登録間違い事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知<br>書類など紙類の保管期間を変更<br>・「脳室ドレーンのエアフィルター漏れによるオーバードレナージ事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 |
| 2月 | ・医療安全Newsレター（Vol.9・Vol.10）発行<br>・患者誤認防止マニュアルの改訂<br>・「点滴投与側の上肢より採血を実施した事例」「内視鏡室でのペチジンの取り扱い不備事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 |
| 3月 | ・令和4年度　医療安全対策地域連携評価の開催<br>（連携加算Ⅰ：壱岐病院を評価、連携加算Ⅱ：光武内科循環器科病院を評価）<br>・「PICCカテーテルを誤ってはさみで切断した事例」「ベッド移動時の尿道カテーテル抜去による尿道損傷・膀胱タンポナーデの発症」「ミトンの一部破損により絞扼し左示指へ壊死を発症」の情報共有と再発防止策の検討・周知<br>・院内使用のミトンに関する現状調査 |
| 4月 | ・医療安全Newsレター 2023年度（Vol.1）発行<br>・行動制限マニュアルの改訂<br>・ミトンの使用方法マニュアルの作成<br>・肺血栓塞栓症予防治療マニュアルの改定<br>・医療安全研修の年間計画を提示 |
| 5月 | ・医療安全Newsレター（Vol.2、Vol.3）発行<br>・BLS研修の年間計画を提示<br>・「セントラルモニターのSpO2設定がオフになっており酸素化低下の気付きが遅れた事例」「術中アレルギー薬の使用を阻止できた事例」「未熟児リハビリ介入時の患者誤認」「患者誤認による採血の採り間違い」の情報共有と再発防止策の検討・周知 |
| 6月 | ・医療安全Newsレター（Vol.4、Vol.5）発行<br>・「検体採り違えにより不必要な検査、処置の実施」の情報共有と再発防止策の検討・周知 |

| | |
|---|---|
| 7月 | ・医療安全Newsレター（Vol.6）発行<br>・全職員へのBLS研修開催<br>・BLS研修　対象：レベルⅡ研修生<br>・医療法で規定された職員研修（医薬品・医療機器・医療ガス）開催<br>・「気管カニューレ事故抜去事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知<br>・ペイシェントハラスメント対応マニュアルの作成<br>・生体情報モニターマニュアルの作成 |
| 8月 | ・医療安全Newsレター（Vol.7）発行<br>・「低Mg血症に対し原液で硫酸マグネシウム静注を行った事例」「ストックからの抗生剤使用時、アレルギー薬剤を投与した事例」情報共有と再発防止策の検討・周知<br>・注射マニュアルの改訂 |
| 9月 | ・患者誤認防止対策に関する検討<br>・BLS研修　対象：レベルⅠ研修生・レベルⅢ研修生<br>・気管カニューレMRI対応表の作成<br>・患者誤認ゼロ月間に向けた各部署の対策立案<br>・令和5年度病院間医療安全相互チェック　テーマ「ハイリスク薬の取り扱い」<br>（9月25日　仙台医療センターより当院評価） |
| 10月 | ・医療安全Newsレター（Vol.8、Vol.9）発行<br>・患者誤認ゼロ月間の案内<br>・診療部のBLS研修開催<br>・BLS研修　対象：レベルⅣ研修生<br>・「無菌室での自傷行為（絞頚）事例」「輸液ポンプ誤接続で逆血しルート閉塞を起こした事例」「バンコマイシンの溶解方法間違い」「人工呼吸器の加湿器電源入れ忘れ・酸素配管接続忘れ」の情報共有と再発防止策の検討・周知<br>・令和5年度病院間医療安全相互チェック（10月30日　オブザーバー） |
| 11月 | ・医療安全Newsレター（Vol.10）発行<br>・医療法で規定された職員研修（診療放射線・MRI・原子力災害・AED）開催<br>・令和5年度病院間医療安全相互チェック<br>（11月27日　当院より水戸医療センター評価）<br>・「電子カルテの体重と実際値に約20kgの差がありリツキサンが過剰投与された事例」の情報共有と再発防止策の検討<br>・生体情報モニターラウンド結果の報告<br>・令和5年度前期、患者誤認事例発生件数の報告 |
| 12月 | ・令和5年度 医療安全対策地域連携評価の開催<br>（連携加算Ⅰ：壱岐病院より評価）<br>・「インスリン投与後経腸栄養剤を投与せず低血糖を起こした事例」「転倒後の左大腿骨遠位端骨折事例」の情報共有と再発防止策の検討<br>・不眠時指示の薬剤の見直し<br>・病棟定数配置薬の見直し<br>・ドクターコール要請基準改定の案内 |

**2．報告状況**

**＜インシデント報告、医療事故報告＞**

報告件数は1978件で、昨年より135件増加した。医療事故事例は13件であった。事故の分類としては、療養上の世話に関することが8件、治療・処置に関することが3件、医療機器等・医療材料の使用・管理に関することが2件であった。医療事故事例は、日本医療機能評価機構及び国立病院機構への報告を行った。周知が必要なインシデントや医療事故発生時は、「周知・警鐘事例」としてタイムリーに情報発信し、再発防止に努めた。活動広報誌としてNewsレターを作成し、できるだけタイムリーに周知するための工夫を行った。各部署での振り返りを行う際には、医療安全管理室より参加し一緒に再発防止策の検討を行った。

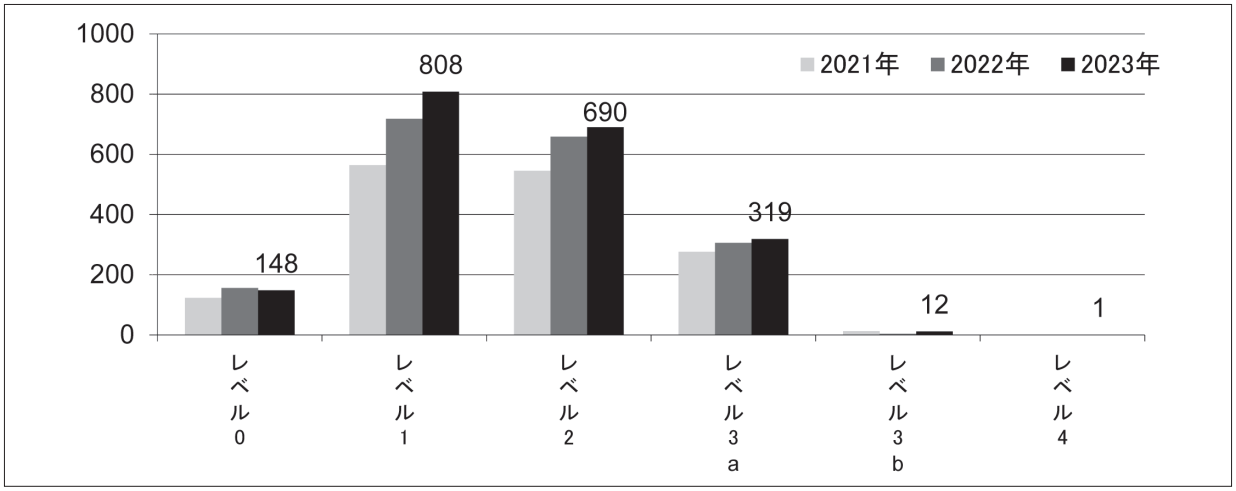
○発生件数年間推移

| | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|---|
| 発生報告件数全体 | 1522件 | 1843件 | 1978件 |
| 医療事故等状況報告 | 13件 | 4 件 | 13件 |
| MP報告 | 2 件 | 3 件 | 7 件 |

○施設外報告状況

| 報告管理施設 | 報告内容 | 件数もしくは報告頻度 |
|---|---|---|
| 日本医療機能評価機構 | 医療事故報告、ヒヤリ・ハット報告 | 16件 |
| | ヒヤリ・ハット事例発生件数報告 | 4 回／年 |
| 国立病院機構 | 医療事故報告、ヒヤリ・ハット報告 | 16件 |

**＜患者影響レベル別報告件数＞**



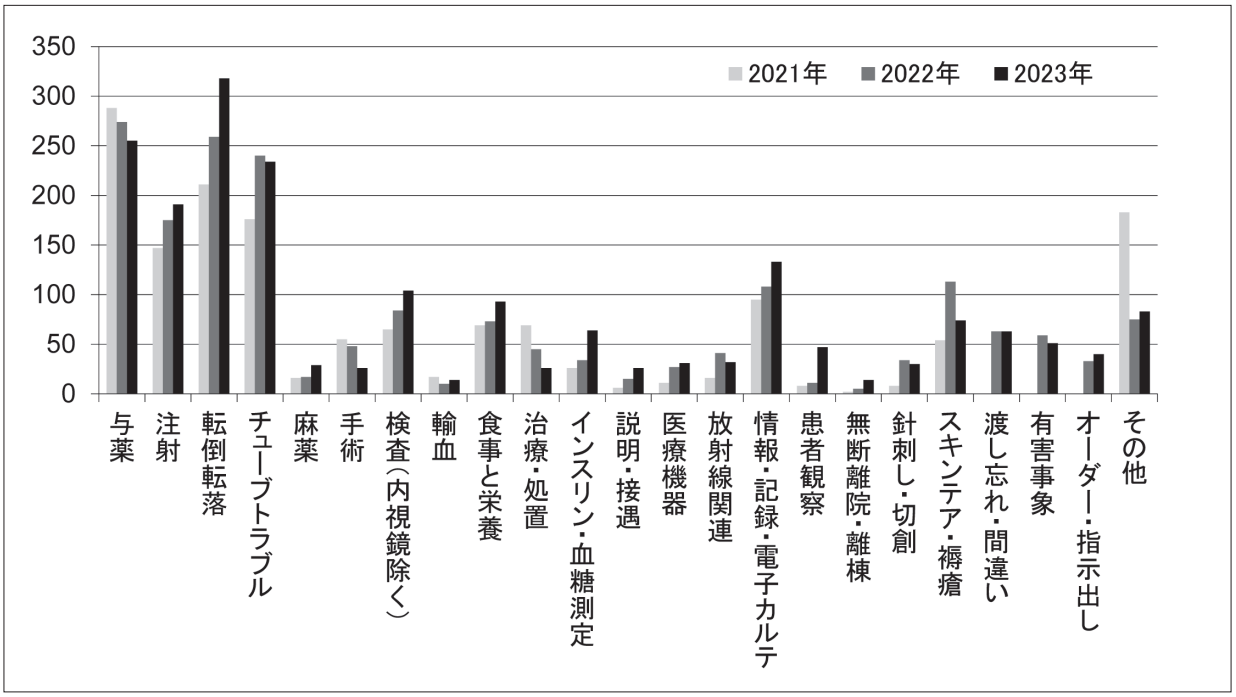

報告件数1978件に対して各患者影響レベルの報告件数割合は、レベル 0 が7.5%、レベル 1 が40.8%、レベル 2 が34.9%、レベル3aが16.1%、レベル3bが0.6%であった。間違ったことが発生しても患者へ実施する前に気付いた事例や間違ったことを実施したが早期に発見したことで重症化を予防できた事例を優良レポートとして閲覧できるようにした。積極的な報告を呼びかけ、2022年より45件増えた。今年も患者誤認防止に関する取り組みを行ったが127件（6.4%）を占めた。今後も、事例を通し確認行動の定着に繋げて行く。

**＜部門別報告件数＞**

| 看護部 | 医師 | 研修医 | 薬剤部 | 放射線 | リハビリ | 栄養 | 検査 | ME | 事務 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1649 | 80 | 9 | 38 | 37 | 24 | 51 | 31 | 1 | 38 | 20 | 1978 |

報告件数の83.3%が看護部であり、前年より3.0%減少した。看護部以外は329件（16.6%）で、前年より2.9%増加した。医師部門（レジデント・研修医含む）は89件で前年より27件増加した。薬剤部は、払い出し間違いが主であり前年より26件減少した。放射線科は、患者影響レベル 0 やレベル 1 での報告がよく上がり前年より 3 件減少した。リハビリは、転倒や指示の確認漏れ主で前年より 3 件増加した。栄養科は、異物混入や食形態に関する事例が主で前年より 3 件増加した。検査科は、検査室内での検体の取り扱いに関する報告が主で前年より 8 件増加した。事務は書類の取り込み間違いや紛失が主で前年より12件増加した。各部署からタイムリーに報告があり、医療安全管理部会で要因分析や検討を重ねシステムの改善や再発防止に向け、組織横断的に活動することが出来た。

＜出来事分類別報告件数＞




前年と比較し、発生傾向には大きな変化はなかった。与薬に関しては与薬実施時の確認不足が最も多く日頃から5Rの確認を徹底するように促し、医療安全推進担当者の活動においても与薬確認行動チェックを２回/年実施した。また、注射は16件、転倒転落は59件と前年より発生件数が増加した。検査は検体採取時のミスや検体取り扱いの不備により20件増加した。インスリン・血糖測定ではインスリン投与量の投与間違いなど指示簿の見落としによるものが多く30件増加した。情報・記録・電子カルテでは、書類の取り込み間違いやカルテの誤記載が多く25件増加した。患者誤認に関係するため、継続して確認行動の定着を図る必要がある。

## 研修・教育

### １．カンファレンス

| 名　称 | 参加職種 | 構成人数 | 実施回数 |
|---|---|---|---|
| 医療安全管理部会 | 医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師・理学療法士・栄養士・臨床工学技士・専門職・医療安全管理係長 | 18人 | １回/週 |

### ２．確認行動チェック

| 名　称 | 監査委員 | 実施回数 |
|---|---|---|
| 確認行動チェック<br>（内服・注射・インスリン） | 副看護師長・医療安全推進担当者 | ５回/年 |

### ３．研修会開催状況

医療ガス・医薬品・医療機器・診療放射線・原子力災害の５つの分野において、医療安全職員研修を開催した。感染対策と働き方改革を考慮し研修動画の視聴及びWeb上のテスト問題に回答する形で実施した。BLS研修においても全職員を対象に各自、自己学習を行った上で15分ずつのBLS実技試験のみを受ける形で実施した。

| 開催日 | 研修名 | 講師もしくは<br>実技試験チェック者 | 対象者 | 実施回数 | 受講者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7/12・7/18<br>7/21・7/26<br>9/11・9/13<br>9/15・9/26<br>9/27・10/2<br>10/4・10/11<br>10/12・10/25<br>11/8・11/9<br>11/22・12/13<br>12/14・12/27 | BLS研修 | 高度救命救急センター医師、総合診療科医師、JNP、救急看護コース受講者、救急看護認定看護師、医療安全管理係長、医療安全専従看護師 | 副看護師長<br>研修医<br>レベルⅠ看護師<br>レベルⅡ看護師<br>レベルⅢ看護師<br>レベルⅣ看護師<br>医療従事者 | 20 | 588 |
| 4/3・4/4<br>4/6・6/2<br>7/6・8/7<br>10/3・11/1 | 新採用者（転入者含）<br>職員研修 | 医療安全管理係長 | 医師・看護師・<br>事務・その他 | 8 | 70 |
| 7/1 ～ 10/31 | 医療ガスの安全管理と事故防止 | 学研ナーシングサポート<br>院内全体研修コース | 全職員必須 | 各自 | 1198 |
| 7/1 ～ 10/31 | 医療安全（医薬品）<br>医薬品の安全使用について | 副薬剤部長 | 全職員必須 | 各自 | 1186 |
| 7/1 ～ 10/31 | 医療安全（医療機器）<br>生体情報モニター使用時の注意点 | 臨床工学技士長 | 医師<br>看護師 | 各自 | 856 |

**4．講　義**

1）「病院組織における医療安全の実際」活水女子大学看護学部 2 年生　2023.1.18

2）「医療安全管理体制」活水女子大学看護学部 4 年生　2023.7.13

## 学会・論文など

**1）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）院内VTE予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝、黒木保、山田成美、於久幸治、有吉毅子男、森圭介、案田岳夫、錦戸雅春、菅幸恵、森隆浩、山﨑一美、尾﨑真人、荒木伸也、三角紳博、吉田真一郎、八橋弘.
医療安全、傾向と対策. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# BLS研修

責任者　中道 親昭・井手 時枝

## 診療科の特色

BLS（Basic Life Support；一次救命処置）は、日常生活において突発する健康危機に対して、即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムであり、反復教育が有効とされている。2004年より本格的にBLS研修が開始され、2023年で20年目となった。長崎医療センターに勤務している職員としての自覚を持ち、いつでも救命処置や自動体外式除細動器（AED）が使えるようにすることを目的とし開催している。2020～2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対象を限定し開催した。

昨年より全職員を対象に感染対策と働き方改革を考慮し各自、自己学習（動画視聴と資料閲覧）を行った上で15分ずつのBLS実技試験のみを受ける形式へ変更した。BLS研修の受講者には、右記のようなシールを発行し受講終了したことを把握している。




## BLS研修の周知

救急患者や急変時に対応する機会の少ない場合は、6ヶ月で知識が薄れ、即座には対応出来なくなる。新型コロナウイルスの影響で2年ほど定期開催ができずにいた。感染状況は今後も継続する事が予測されるが患者急変はいつ起こるかわからない。対応するスタッフへ繰り返し開催することで、急変時の対応能力の向上を目指したい。

2023年のドクターコールの発生件数は37件で前年より7件減少した。急変発見時から院内緊急システム起動までの遅延を回避するため、PHS保有者は、即座に5000番に電話し専門スタッフを呼ぶようにしている。年間計画としてMETシミュレーションやMETラウンドを行い、予期せぬ心停止を防ぐためのアセスメント能力向上のための機会を設けた。ドクターコール事例については、可能な限り救急看護認定看護師も参加しMET運営委員会や自部署での振り返を行った。

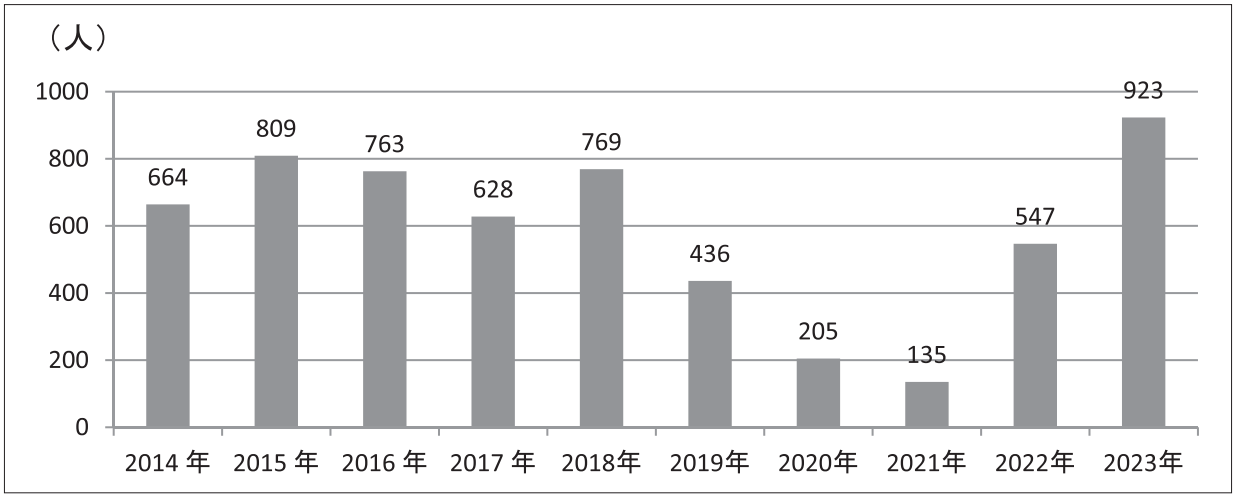
要請者別にみると、看護師34件、医師1件、放射線技師1件、医療職以外1件であった。発生場所では、病棟29件、アンギオ室2件、会計前・救急外来・CT室・MRI室・内視鏡室・外来治療センターがそれぞれ1件ずつであった。

2020年の心肺蘇生ガイドラインでは、質の高いCPRを目標に胸骨圧迫の重要性が増し、少しでも早く胸骨圧迫を開始し、中断時間を短くすることが求められている。2012年には各病棟の救急カートに、2015年5月には人材育成センター1F入口ホールにAEDを備え付けあらゆる場所での早期の除細動が可能となった。また小児対応として、小児科外来ブース以外にも9A病棟に小児用緊急セットを配置している。急変時により多くの職員が適切に対応できるよう、今後も継続してBLS研修を開催していく。

また、部署での学習会等でも急変時対応の有効例や成功体験例を紹介し職員間で共有できるようにしていきたい。

# BLS研修受講状況

## 1．年間のBLS受講者の推移（件）




## 2．月別にみたBLS受講者数の推移（人）

| 年 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 9 月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2014 | 77 | 79 | 45 | 73 | 42 | 40 | 57 | 68 | 64 | 77 | 42 | 664 |
| 2015 | 96 | 94 | 48 | 56 | 65 | 80 | 79 | 78 | 84 | 87 | 42 | 809 |
| 2016 | 78 | 73 | 38 | 38 | 81 | 79 | 72 | 70 | 93 | 93 | 48 | 763 |
| 2017 | 75 | 64 | 26 | 10 | 52 | 62 | 83 | 80 | 80 | 48 | 48 | 628 |
| 2018 | 42 | 75 | 71 | 48 | 65 | 83 | 83 | 79 | 80 | 75 | 68 | 769 |
| 2019 | 47 | 42 | 33 | 33 | 17 | 0 | 0 | 0 | 82 | 90 | 92 | 436 |
| 2020 | 41 | 85 | 0 | 0 | 0 | 0 | 79 | 0 | 0 | 0 | 0 | 205 |
| 2021 | 0 | 0 | 0 | 0 | 38 | 0 | 97 | 0 | 0 | 0 | 0 | 135 |
| 2022 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34 | 80 | 89 | 147 | 92 | 105 | 547 |
| 2023 | 125 | 98 | 99 | 0 | 0 | 19 | 133 | 167 | 118 | 74 | 90 | 923 |

## 3．BLS受講者数（人）とドクターコール件数・METコール件数（件）

| | BLS受講者数 | ドクターコール件数 | METコール件数 |
|---|---|---|---|
| 2014年 | 664 | 23 | |
| 2015年 | 809 | 35 | |
| 2016年 | 763 | 29 | |
| 2017年 | 628 | 30 | 6 |
| 2018年 | 769 | 47 | 5 |
| 2019年 | 436 | 48 | 5 |
| 2020年 | 205 | 52 | 10 |
| 2021年 | 135 | 30 | 2 |
| 2022年 | 547 | 44 | 5 |
| 2023年 | 923 | 37 | 3 |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 感染対策チーム

責任者　近藤 晃

## 診療科の特色

安心、安全で良質な医療は、検査や手術といった診断・治療手技の充実だけでは達成できない。病院で生じる危険性のある様々な感染症（医療関連感染）を未然に防ぎ、万一の場合は迅速かつ適切に対応することが不可欠である。感染対策チーム（以下ICT）は、感染対策委員会傘下の部組織として、院内で起こる様々な感染症から患者さんや職員の安全を守るために活動を行う部署である。

ICTのコアメンバーは、感染制御部室の部長（副院長）、ICDの室長と副室長、専従看護師である。さらに、メンバーとして、ICD、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、放射線技師、療法士、事務職員など多職種が参加し、週１回のミーティングで感染対策に関する報告や協議を行っている。

ICTの任務は、感染症の発生状況調査と報告（サーベイランス）、日頃の感染症発生予防と対策についての検討、さらに病院全職員への教育、啓発等であり、アウトブレイク時には、感染対策委員会メンバーと臨時のミーティングを開催し、収束にむけた対応を行っている。地道な作業と迅速な対応が求められる。

令和３年10月１日、第２種感染症指定医療機関の指定を受け「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」６条３号に規定する第２種感染症を対応できるよう、陰圧病床を確保した。現在、新型コロナウイルス感染症の患者で稼働している。

その他、HIV/エイズ診療拠点病院でもあり、地域連携として、長崎県内の相談を受ける体制も整えている。

【沿革】

| | |
|---|---|
| 平成11年４月 | リンクナース会議に向けての準備委員会発足 |
| 平成11月10月 | リンクナース会議発足。１名のリンクナースが各病棟に配置 |
| 平成16年１月 | 院内感染予防委員会傘下の活動部隊として感染対策チーム（ICT発足） |
| 平成18年４月 | 看護部以外からもメンバー（薬剤師、検査技師、栄養士、事務）が参加し、リンクナース会議からリンクスタッフ会議へ名称変更 |
| 平成26年４月 | リンクスタッフから感染リンクスタッフへ名称変更。 |
| 平成28年11月 | ICT会議および感染リンクスタッフ会議に放射線科とリハビリセンターより参加 |
| 平成31年４月 | 院内感染予防委員会より感染対策委員会へ名称変更 |
| 令和元年９月 | 感染制御部室発足 |

## 入院診療実績

### 1．会議

| 名　称 | 参　加　職　種 | 参加人数（平均） | 実施回数 |
|---|---|---|---|
| 感染対策委員会 | 医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務、研修医 | 14 | 12回/年 |
| ICTミーティング | 医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、事務 | 16 | 1回/週 |
| ICTラウンド | 医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、事務 | 5 | 1回/週 |
| 感染リンクスタッフ連絡会議 | 看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士 | 28 | 1回/月 |

### 2．ICT活動

#### 1）サーベイランス

| 名称 | 対象 | 目標 | 結果 |
|---|---|---|---|
| 手指消毒回数 | 全部署 | 16回以上/患者/日 | 平均31.7回/患者/日 |
| 手指衛生観察数 | | 126回以上/月 | 111.2回/月 |
| 手術部位感染 | 直腸・大腸<br>人工関節<br>脳外科 | 感染 0 件/年 | 0 件/年 |
| 人工呼吸器肺炎 | 全病棟 | － | 使用比0.09 |
| 中心静脈カテーテル | 全病棟 | 感染10件以下/年 | 感染 15件/年 |
| 尿道留置カテーテル | 全病棟 | 感染10件以下/年 | 感染 44件/年 |
| 針刺し切創・粘膜汚染 | 全職員 | 13件以下/年 | 26件/年 |
| インフルエンザ（院内発生） | 全患者 | 0 件/年 | 1 件/年 |
| 新型コロナ（院内発生） | | 0 件/年 | 9 件/年 |
| 多剤耐性菌（院内発生・持込含） | | 0 件/年 | MDRA： 0 件/年<br>MDRP： 0 件/年<br>CRE・CPE： 5 件/年 |

耐性菌発生防止や感染症対策として、“簡単かつ最良の方法”である手指衛生の向上を目標に活動している。手指衛生直接観察法の教育は 5 年目で、手指衛生回数、手指衛生実施率はほぼ80%以上を保っている。しかし、手指衛生観察数の減少、手指衛生回数と手指衛生の実施率に解離があり、再教育の必要性がある。厚生労働省院内感染サーベイランス（JANIS）、厚生労働省委託事業AMRサーベイランス（J-SIPHE）、職業感染制御研究会（EPNET）、長崎県耐性菌ネットワーク等に参加し、近隣や全国の施設との比較を行っている。耐性菌は、MRSAは減少傾向であるが、ESBL産生菌、多剤耐性菌、抗菌薬下痢症が増加傾向であり、流行感染症より医療器具感染への知識向上が課題である。人工呼吸器関連肺炎サーベイランスは、クリティカル分野の認定看護師と計画していく予定である。

#### 2）ICTラウンド

毎週のICTミーティング後、高度救命救急センター・小児病棟（未熟児）は毎週、他の病棟はテーマ別に毎月 1 回、病棟以外の部署は 2 ヶ月に 1 回、ICTメンバーが交代でラウンドし、感染対策が適切に遂行されているか否かを確認するとともに環境改善を指導している。さらに環境改善を受けた後、改善の有無を確認し、患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行するための医療安全文化の醸成に努めている。

#### 3）アウトブレイク対応

平成31年 3 月、多剤耐性アシネトバクター（MDRA）によるアウトブレイクが高度救命救急センターで発

生した。現在３名入院中である。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検出者が増えたが、早い段階で対応し、水平感染はすることはなかった。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが院内発生したが、ゾーニング等行い、早期収束に努めた。

**４）抗菌薬使用支援**

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）として、感染症治療に難渋する症例に対して、感染対策チーム所属の医師が主治医と情報共有し、治療法を評価し、週１回の抗菌薬使用支援チームで検討している。血液培養陽性約600症例の治療法の評価、薬剤耐性の抑制、広域抗菌薬使用量の削減に取り組んでいる。抗MRSA薬と広域抗菌薬は、届出制または許可制としている。届出方法の改善、届出の意義の浸透により、届出率は100%である。２週間以上の長期投与薬に関しては、抗菌薬支援チームで検討、使用法の改善策等を提案した。

抗菌薬使用動向調査システムに参加し、抗菌薬使用密度（AUD）を算出して、当院の抗菌薬の使用状況を確認しており、地域連携医療機関との比較検討も行っている。

検査部門においては、エンピリック治療を開始する際の重要な情報源として、当院主要臨床分離株の薬剤感受性情報であるアンチバイオグラムを作成している。これにより、当院検出菌の薬剤感受性および耐性菌の動向を把握し、現場にフィードバックしている。

**５）広報**

院内外の感染症状況を情報収集し、院内に広報している。インフルエンザに関しては、『大村市パンデミック対策協議会』からの情報をまとめ、周知・注意喚起している。

**６）医療用器材の管理**

ラウンドで、スポルディングの分類（器具の使用目的による洗浄消毒等の処理の分類）に沿って正しく管理されているか否か確認している。時々、ノンクリティカル製品の洗浄作業とディスポ製品の切り替えは、費用対効果を算出して検討している。

**７）ワクチン接種**

職員の小児ウイルス性疾患ワクチン接種（水痘14名、麻疹35名、風疹25名、流行性耳下腺炎18名）インフルエンザワクチン接種（接種率約90%）、新型コロナワクチン接種計画に協力した。

**８）結核接触者健診**

今年度は、患者や職員の接触者健診を行うことはなかった。

**９）結核カンファレンス**

DOTSカンファレンスは、２ヶ月に１回の予定で実施した。今後、保健所とも連携を深めて行く予定である。

**10）地域連携**

「診療所等は、感染対策向上加算1の医療機関のカンファレンスに年２回以上（訓練に１回）参加することで、外来感染対策向上加算を算定できる。感染症の発生状況、抗菌薬の使用状況等について感染対策向上加算１医療機関に年４回以上報告を行っていることで、連携強化加算を算定できる。さらに、感染対策向上加算１の医療機関は、専従の医師または看護師が、加算２・新設された加算３医療機関または外来感染対策向上加算の医療機関に年４回以上赴くことで、連携指導加算が算定できる」と医師会や保健所との連携や感染対策のレベル向上を目的に診療報酬が改訂された。年4回のカンファレンスや訓練に医師会や保健所も参加し、さらに、耐性菌や抗菌薬使用の報告を受け、フィードバックしていった。

### （1）相互評価

| 開催日 | 相互評価 |
|---|---|
| 7/13 | 諫早総合病院と国立病院機構嬉野医療センターが国立病院機構長崎医療センターを評価 |
| 8/7 | 国立病院機構長崎医療センターが諫早総合病院を評価 |

### （2）カンファレンス

感染症、抗菌薬、耐性菌について検討している。3回目は県央地域の加算1医療機関、その連携医療機関と合同で机上訓練を実施した。

| 開催日 | 相互評価 |
|---|---|
| 5/1 | 県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院 |
| 7/31 | 県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院 |
| 10/16 | 県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院、諫早総合病院、市立大村市民病院、諫早原爆病院 |

### （3）連携指導

| 開催日 | 訪問医療機関 |
|---|---|
| 7/5 | 国立病院機構長崎川棚医療センター |
| 8/24 | 南野病院 |
| 10/5 | 国立病院機構長崎病院 |
| 12/6 | 国立病院機構長崎川棚医療センター |

## 研修・教育

**院内研修会（ICT主催）**

| 開催日 | 研修名称 | 参加数 |
|---|---|---|
| 4/11 ～ 4/24 | 手指衛生直接観察法 | 155 |
| 前期（6/1 ～ 9/15） | 感染経路別予防策をおさらい<br>もしもの備えるアウトブレイク対策 | 1209 |
| | 安全な尿道留置カテーテルの挿入と感染管理 | 1207 |
| 後期（12/8 ～ 2024/2） | 抗菌薬適正使用 | |
| | 職業感染防止策 | |

**院外研修会**

| 開催日 | 主催 | テーマ | 担当 |
|---|---|---|---|
| 5/18 | 長崎県高齢者福祉保健部 | 長崎県新型コロナウイルス感染症対応人材育成研修（高齢者施設） | 近藤晃<br>中村みさ |
| 7/13 | 活水女子大学 | 看護学統合実習「感染管理体制」 | 中村みさ |
| 8/16 | 長崎県看護協会 | イキイキ中堅ナース　安全で良質な看護を提供するために ①今だから見直そう～感染管理とリーダーシップ～ | 中村みさ |

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 2 | | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜ポスター＞**

1）新興感染症対応机上訓練の成果と課題.
中村みさ、木場みちよ、山口友子、竹村恵、田添智津子、小川麻子.
41地域連携. 第38回日本環境感染学会. 横浜, 2023.7.22.

2）手指衛生直接観察法開始による手指消毒回数の変化と手指消毒回数と看護必要度の関連.
中村みさ、岩﨑藤子、永井友基、近藤晃、太田恵子、吉田真一郎.
126：感染管理6-7. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21.

**E：学術講演他**

**E：研究会世話人**

**＜司会＞**

1）令和 5 年度第 2 回九州グループ内感染管理担当看護師連絡会，全体討議.
中村みさ、小田原美樹、外垣亮太.
令和 5 年度第 2 回九州グループ内感染管理担当看護師連絡会. 福岡, 2023.12.14.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# クリティカルパス

責任者　松尾 崇史

## 委員会の紹介

本委員会は、医療の標準化、質の向上、効率化を目指し、２か月毎に定例会を開催している。定例会ではパスの使用率向上を目指し、新規パスの開発、既存パスの見直し・改訂、運用上の問題など検討を行なっている。

2009年９月にパスが新電子カルテへ移行され、電子化されたパスの作成、運用方法やバリアンス分析方法の標準化を行ってきた。また、看護師の業務効率化を図る目的でここ数年かけて検討してきたパスのアウトカム評価を看護記録として使用することに関しては、アウトカムの表現の見直し作業を継続的に行い、診療録委員会との協議を経て一部のパスで実際に運用を開始することができた。運用開始ができたパスはまだ少なく、見直し作業を円滑に進めるために、今年度より記録委員会と合同で作業を行うこととし、今後、すべてのパスで運用できるように作業を進めていく方針である。アウトカム評価を看護記録として使用していくためには、アウトカム未評価率やパス未終了率を０％にすることが重要であり、各病棟のパス委員から診療科医師、診療にかかわるコメディカルスタッフに働きかけを行っており、パスを使用している各診療科、各病棟スタッフの方々の協力が必須である。2023年の改定パス18件、新規パス２件、削除パス６件であり、登録パス数は204件となった。

パス適用率は全体が43.2％（前年比－0.3％）。呼吸器外科112.4％、眼科102.1％、肝臓内科101.4％、乳腺内分泌外科93.4％、外科90.8％、循環器内科89.4％の６診療科が80％以上の高い適用率であった。適用率の高い病棟は順に、7A病棟77.1％、8A病棟72.3％、6A病棟70.8％であった。

## 研修・教育

2023年２月24日　令和４年度クリティカルパス実践研修会への参加

## 入院診療実績

1）使用実績

2023年度

| 診療科別 | パス開始数 | 新入院患者数 | 適用率（%） | 前年比 |
|---|---|---|---|---|
| 総合診療科 | 12 | 1,797 | 0.7 | 0.4 |
| 血液内科 | 12 | 525 | 2.3 | 1.1 |
| 腎臓内科 | 208 | 297 | 70.0 | △ 5.0 |
| 内分代謝 | 3 | 134 | 2.2 | 0.8 |
| 救急科 | 1 | 129 | 0.8 | △ 0.6 |
| 消化管内科 | 523 | 971 | 53.9 | 0.2 |
| 肝臓内科 | 675 | 666 | 101.4 | 9.0 |
| 呼吸器内科 | 58 | 719 | 8.1 | 2.2 |
| 循環器内科 | 626 | 700 | 89.4 | △ 1.3 |
| 脳神経内科 | 18 | 383 | 4.7 | 4.2 |
| 精神科 | 30 | 119 | 25.2 | △ 1.7 |
| 小児科 | 207 | 1,220 | 17.0 | 0.5 |
| 新生児科 | 0 | 0 | 0.0 | - |
| 外科 | 621 | 684 | 90.8 | 0.9 |
| 乳腺内分泌外 | 271 | 290 | 93.4 | - |
| 呼吸器外科 | 145 | 129 | 112.4 | △ 0.9 |
| 心臓血管外科 | 23 | 112 | 20.5 | 18.5 |
| 整形外科 | 68 | 597 | 11.4 | 1.9 |
| 形成外科 | 18 | 457 | 3.9 | 0.3 |
| 脳神経外科 | 145 | 557 | 26.0 | △ 3.7 |
| 皮膚科 | 77 | 124 | 62.1 | △ 8.0 |
| 泌尿器科 | 397 | 590 | 67.3 | △ 2.7 |
| 産婦人科 | 817 | 1,212 | 67.4 | 1.4 |
| 眼科 | 531 | 520 | 102.1 | △ 2.6 |
| 耳鼻咽喉科 | 366 | 540 | 67.8 | 4.0 |
| リウマチ科 | 1 | 68 | 1.5 | △ 4.4 |
| 麻酔科 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| 放射線科 | 0 | 4 | 0.0 | 0.0 |
| 総計 | 5,853 | 13,544 | 43.2 | △ 0.3 |

※新生児科及び乳腺外科はR4.1新設

| 病棟別 | パス開始数 | 新入院患者数 | 適用率（%） | 前年比 |
|---|---|---|---|---|
| 3 A | 16 | 1,072 | 1.5 | △ 0.5 |
| 3 B | 156 | 483 | 32.3 | △ 1.4 |
| 4 A（児） | 298 | 1,114 | 26.8 | △ 5.3 |
| 4 A（未） | 0 | 135 | 0.0 | 0.0 |
| 4 B | 823 | 1,305 | 63.1 | 3.2 |
| 5 A | 670 | 1,300 | 51.5 | △ 6.4 |
| 5 B | 850 | 1,550 | 54.8 | △ 2.1 |
| 6 A | 797 | 1,125 | 70.8 | 4.4 |
| 6 B | 87 | 711 | 12.2 | 1.1 |
| 7 A | 817 | 1,059 | 77.1 | 1.2 |
| 7 B | 0 | 7 | 0.0 | △ 1.6 |
| 8 A | 638 | 883 | 72.3 | 72.3 |
| 8 B | 571 | 1,301 | 43.9 | △ 30.4 |
| 9 A | 77 | 1,083 | 7.1 | △ 33.1 |
| 9 B | 53 | 169 | 31.4 | 26.6 |
| 総計 | 5,853 | 13,544 | 43.2 | 15.3 |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 情報管理センター

責任者　山崎 一美

## 診療部門の特色と歴程

国立病院機構長崎医療センターにおける病院情報システムの目的は、①医療情報の蓄積・共有化による医療の質的向上を図り、患者中心の医療に寄与すること、②国立病院等総合情報ネットワークシステム（HOSPnet)、政策医療ネットワーク等と連携しつつ高度先駆的医療をサポートすることである。

上記の目的に対し、総合情報センターでは、電子カルテの管理と運用フローの最適化、システム障害の対応と解決、機器の保守・点検、および院内向け情報の発信、病院ホームページの管理などを行っている。さらに個人情報保護およびコンピューターウイルス感染の問題などの課題に対して、職員教育、セキュリティ強化対策を日々検討している。院内の情報ネットワークはHOSPnetと独自ネットワークのNMCnet（2014年１月開始）を併用してきた。またグループウェアを用い、院内業務の作業および費用の効率化の一助を担ってきた。2018年はセキュリティ強化のため新情報系HOSPnetへ移行した。これに伴い独自のネットワークであったNMCnetは廃止され、NHO本部管理の新たなネットワークが始まった。

当院の地域医療連携の推進のために、2004年10月からNPO法人「あじさいネット」に参加した。同意が得られた当院患者の診療情報を地域診療所へ開示し情報共有をしている。運用開始から16年が経過し、この間あじさいネットを利用した連携患者数は１か月200例前後で、2020年は年間連携数が調剤薬局・在宅医療との連携も含めて1,899件で累計連携患者数は38,572件となった。地域連携システムは2011年１月からクラウド型システム（HumanBridge）に移行し、双方向性連携としてWEB紹介状や地域連携メールによる、かかりつけ医からの情報提供も行われている。2012年10月からは診療所からの放射線機器利用のWEB予約システムを稼働させ、在宅医療においても本システムを利用した運用を開始した。2017年12月あじさいネットによる長崎大学病院との病病連携の締結をし、2018年運用を開始した。当院のあじさいネット会員は24名となった。

2009年９月14日に更新した電子カルテシステム（富士通EGMAIN-GX）は順調に稼働していたが、2012年５月のV02からV04へのレベルアップを経て2014年９月16日にV06へのバージョンアップとハードウェアおよび部門システムの全面更新を行った。200を超える新機能を搭載した最新のシステムとなり、透析システムおよびモバイル端末を使用した電子カルテ参照システム（Pocket Chart）の新規追加、レジメン機能や持参薬管理システムを導入した。上記のような変更に伴い2015年３月には院内情報システム運用規定集の改定を行った。2015年８月にはリビジョンアップを行った。2016年は電子カルテの代行入力を開始。なお外来診療のみの限定とした。2016年11月には特定共同指導を受け、カルテ１号用紙の再確認を行った。2019年８月には電子カルテシステムのレベルアップを行いGX Ver.08に移行した。

また災害時対策として、2012年２月より日本で初めてとなる緊急時参照機能を装備した遠隔地バックアップシステムを稼働させ、災害時の拠点病院としての役割が果たせるようBCP（事業継続計画）の実行を進めている。

2021年８月９日あじさいネットで病病連携を開始した。

2021年12月19日病院情報システムの全面更新を行った。本部指示に対応して予定より１年３カ月遅れての更新となった。同時に看護業務支援システム（スポットチェックモニター）を導入した。当院が策定した更新の予算額にNHO本部の同意が得られず、予算を減額せざるをえず、ネットワークの更新を断念した。ネットワークは2023年で９年目を超え、突発的に停止するリスクがあるため、緊張感をもって対応してきた。

2023年度、改めてネットワーク更新について本部に説明を行ったが、更新は終了済みとして同意いただけなかった。診療継続に支障を来さないよう、引き続き本部に説明を継続し、理解をいただく。

## 電子カルテ操作演習

新採用者電子カルテ操作研修

| | 日 | 対象 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 2023/4/4 | 医師 | 28 |
| 第2回 | 2023/4/10 | 研修医 | 20 |
| 第3回 | 2023/5/8 | 医学生 | 5 |
| 第4回 | 2023/6/2 | 医師 | 2 |
| 第5回 | 2023/6/5 | 医学生 | 6 |
| 第6回 | 2023/6/13 | 研修医 | 1 |
| 第7回 | 2023/7/3 | 医学生 | 4 |
| 第8回 | 2023/7/18 | 医師 | 1 |
| 第9回 | 2023/8/1 | 医師 | 1 |
| 第10回 | 2023/8/7 | 研修医 | 1 |
| 第11回 | 2023/8/21 | 医師 | 1 |
| 第12回 | 2023/9/4 | 研修医 | 6 |
| 第13回 | 2023/10/2 | 医師 | 1 |
| 第14回 | 2023/10/10 | 研修医 | 1 |
| 第15回 | 2023/10/31 | 研修医 | 1 |
| 第16回 | 2024/1/9 | 医師 | 6 |
| 第17回 | 2024/2/5 | 医学生 | 6 |
| 合計 | | | 91名 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| SV会議 | 1回/月 |
| 情報セキュリティ講座（動画） | 1回/年 |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 診療情報管理室

責任者　本村 秀樹

## 診療科の特色

診療情報管理室は、病院における診療録等を中央管理する目的で設けられました。また、インフォームド・コンセントの理念に基づいて診療録等に必要な情報を適切に記録するように、医療従事者に対して指導を行い、これを適切に保管管理するとともに診療内容の説明又は診療録等の開示の求めがあった場合には、適切・迅速かつ正確な情報提供ができるように努めています。このことで診療に対して患者さんが積極的に参加できるようになり、患者さんと医療従事者との一層強固な信頼関係の確保を図ることで、より良質な医療提供体制を構築することができると考えています。また、がん登録は、病院におけるがん診療の向上と診療への支援、患者・家族、一般への情報提供、並びに地域及び国の“がん政策”医療のための情報提供を目的としており、院内で診断・治療・受診を行ったがん患者さんについてその診断・治療・予後に関する情報を登録しています。現在のスタッフは診療情報管理士10名を含む13名です。

**1．診療録・統計委員会**

診療情報管理室長を委員長とし、隔月１回の定例会を開催し以下の項目に関して審議する。

①診療記録等の管理
②DPC
③年報作成
④がん登録
⑤診療録多職種監査
⑥その他、診療録・統計

**2．DST委員会（DPCサポートチーム）**

診療報酬管理運営部長を委員長とし年４回開催。診療情報管理室としては適切なコーディング体制確保のため問題提起を行っている。

**3．診療情報管理室カンファレンス**

診療報酬管理運営部長と診療情報管理室長、診療情報管理室スタッフで月１回、日常業務などに関してカンファレンスを行っている。

**4．がん登録部門カンファレンス**

診療情報管理室のがん登録部門と副院長、診療報酬管理運営部長、診療情報管理室長、経営企画室長で隔月カンファレンスを行っている。がん登録部門と医事課の情報交換の場となっている。

**5．県央がんセンター運営会議**

県央がんセンター長を委員長とし、隔月開催。がん診療に関する情報を共有している。

**6．業務内容**

－診療情報管理部門－

①診療録等の整理・保管・修正依頼・貸出・閲覧に関する業務
②退院サマリー受取業務
・退院日の翌日から14日以内に退院サマリーを完成させるよう推進・受取・督促する

③オーディット業務
・診療録のオーディット（診療科別）
・入院日から3日目、6日目、7日目に入院診療計画書をチェックする
・看護サマリーの作成状況を確認する
④DPCに関する業務
・様式1の病名を確認する
・様式1データを入力・確認・督促する
・DPCデータを厚生労働省に提出する
⑤各種統計作成
・年報データ作成、統計依頼データ、輸血療法委員会データ
⑥病歴管理システム・eXChartへの退院患者登録業務
⑦その他、診療録の作成、整理に関する事項（詳細は診療録等整理要綱に記載）

－がん登録部門－
①対象患者の登録と予後調査
長崎医療センターで運用されている各種データベース並びに診療録情報を用い、診断・治療・受診に関する腫瘍毎の登録を行なう。また、患者毎の予後調査に関する情報を登録する。
②がん登録情報の集計・報告・公開
がん登録情報の集計・解析を行ない、院内外へ報告・公開する。
③がん登録情報の院内への提供
登録情報の集計結果に関する院内への情報提供、並びに「研究者」への情報提供。
④国立がん研究センターへの届出
⑤全国がん登録への届出
⑦県央がんセンター運営会議への参加
⑧提供資料に関する問い合わせへの対応

## 研修・教育

**＜長崎県診療情報管理研究会＞**

名誉会長：　中原　賢一　医療法人和光会恵寿病院　院長
会　　長：　濵脇　正好　長崎医療センター　診療報酬管理部長　緩和ケア外科医長
副 会 長：　山岡　早苗　聖フランシスコ病院　医療情報管理科長
　　本村　秀樹　長崎医療センター　統括診療部長
　　松永　直樹　佐世保市総合医療センター　診療情報管理係
事務局長：　尾﨑　真人　長崎医療センター　診療情報管理係長
事 務 局：　長崎医療センター　診療情報管理室

■日時：2023年1月28日（土）
【特別講演】「HL 7 FHIR仕様となった標準化退院時サマリー～その意図は？その使途は？～」
講師：一般財団法人　医療情報システム開発センター顧問　渡邉　直先生
【事例発表】2題

■日時：2023年4月22日（土）
【特別講演】「診療情報の安全管理～サイバーテロ対策も含めて」
講師：長崎医療センター　医療情報管理運営部長　山﨑　一美先生

■日時：2023年７月22日（土）
【グループワーク】監査

■日時：2023年10月14日（土）
【特別講演】「整形外科治療の実際」
講師：長崎医療センター　整形外科　宮本俊之先生

【事例発表】４題

## 学会・論文など

**１）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**２）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | 2 | | 2 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**３）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | |

**４）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | | | | 4 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

１）退院サマリーシンポジウム.
本村秀樹.
第54回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2023.1.28.

２）長崎医療センターにおけるサイバー攻撃時対応事業継続計画（BCP）策定について.
尾崎真人.
診療情報管理士会生涯教育研修会. 大阪, 2023.7.22.

**B-b2：一般演題**

**＜口演＞**

１）診療情報管理士による診療記録を介した病院経営への関り～救急医療管理加算算定における診療記録の効率化と算定増への取組み～.
尾崎真人.
第49回日本診療情報管理学会学術大会. 青森, 2023.9.14.

**F：学術講演他**

**F-b：学会・研究会座長［国内学会］**

**＜座長＞**

1）HL7 FHIR仕様となった標準化退院時サマリー～その意図は？その使途は？～.
　濵脇正好.
　第54回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2023.1.28.

2）診療情報の安全管理～サイバーテロ対策も含めて.
　本村秀樹.
　第55回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2023.4.22.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 県央がんセンター

責任者　田川 努・吉田　真一郎

## センターの特色

長崎医療センターは、県央地区唯一の厚生労働省指定「地域がん診療連携拠点病院」で、以前より質の高いがん医療の提供に努めて参りました。

2014年10月１日からは診療部門の一組織であった「がん診療センター」を格上げし、「県央がんセンター」を設置し、がん治療における高度医療提供をさらに推進しています。

具体的には、内科系、外科系、中央診療部門など各専門診療科に緩和ケア内科や腫瘍内科を新規開設したがん診療に加え、がん診療支援部として多職種からなる緩和ケアチームや、患者さんとその家族が安心・納得して治療を受けられるよう支援する患者サポートチームの強化、さらには最新のがん診断装置であるPET/CTと高精度放射線治療装置が導入され、がん診療に対する当院の機能が拡充されました。

2015年４月から長崎医療センターの目抜き通りともいうべき病院受付から病棟に至る通路に面して、「県央がんセンター」の窓口を「患者サポート室」とともに開設しました。これによりがん相談は通常の相談とともに増加し、「県央がんセンター」の大きな目的である相談支援部門の充実が実現しました。2018年からは、「がん患者就労支援」や「Advanced Care Planning（ACP)」にも相談窓口を広げています。2022年は、長崎県のピアサポーター養成研修を受講したがんサバイバーの参加によるがんサロンを開催しました。また、ハローワーク諫早による長期療養者就職支援事業に基づく出張相談に加え、患者の治療と仕事の両立を目的とした長崎産業保健総合支援センターによる出張相談も開設しました。

2023年は、毎月の「キャンサーボード」の際に「がん関連の倫理カンファレンス」を同時に開催することとしました。これまで治療法の検討が中心であった「キャンサーボード」の内容が拡がり、医師のみでなく病棟看護師などの参加が増加することになって、さらに患者さんにより沿った議論や検討が多職種で行えるように改善されました。

以上のように県央地域の「地域がん診療連携拠点病院」としてがん診療に邁進し、地域の皆様及び連携医療機関様に対し質の高いがん医療を提供します。

## がん診療支援部　診療実績

① がん登録：院内がん登録室の頁を参照

② 化学療法：

2023年の入院・外来における抗がん剤無菌調製件数

| 2023年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年入院 | 280 | 305 | 317 | 321 | 289 | 320 | 273 | 323 | 290 | 323 | 299 | 231 | 3571 |
| 2023年外来 | 454 | 463 | 516 | 482 | 476 | 453 | 425 | 447 | 439 | 456 | 474 | 467 | 5552 |
| 計 | 734 | 768 | 833 | 803 | 765 | 773 | 698 | 770 | 729 | 779 | 773 | 698 | 9123 |
| 2022年入院 | 298 | 224 | 269 | 304 | 289 | 324 | 306 | 300 | 308 | 312 | 303 | 296 | 3533 |
| 2022年外来 | 462 | 461 | 532 | 455 | 455 | 499 | 468 | 535 | 512 | 459 | 502 | 513 | 5853 |
| 計 | 760 | 685 | 801 | 759 | 744 | 823 | 774 | 835 | 820 | 771 | 805 | 809 | 9386 |

2023年の外来における「がん患者指導管理料３」算定件数

| 2023年外来 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 算定件数 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 10 |
| （2022年） | 41 | 39 | 39 | 3 | 1 | 4 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 4 | 143 |

2023年の外来における「薬剤管理指導」件数

| 2023年外来 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 化学療法センター | 271 | 245 | 329 | 484 | 208 | 232 | 224 | 252 | 225 | 222 | 223 | 225 | 3140 |
| （2022年） | 343 | 365 | 426 | 281 | 295 | 222 | 224 | 323 | 305 | 276 | 272 | 253 | 3585 |
| 薬剤師外来* | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 10 |
| （2022年） | 7 | 5 | 8 | 3 | 1 | 4 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 4 | 44 |

＊薬剤師外来：院外処方の経口抗がん剤服用患者のフォローアップ

③緩和医療部門：緩和ケアチームの頁を参照

④相談支援・診療連携部門：

【がん相談支援】

○患者サポート室におけるがん相談件数2023年1月～12月

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 実人数（人） | 76 | 73 | 71 | 58 | 65 | 46 | 49 | 62 | 60 | 65 | 68 | 61 | 754 |
| 延べ件数（件） | 107 | 104 | 107 | 97 | 78 | 86 | 66 | 92 | 81 | 88 | 110 | 89 | 1105 |

○相談内容分類（がん相談支援センター「全国統一版　相談記入シート」に基づく）

| | | | |
|---|---|---|---|
| がんの治療 | 20 | 食事・服薬・入浴・運動・外出など | 2 |
| がんの検査 | 2 | 介護・看護・養育 | 12 |
| 症状・副作用・後遺症 | 34 | 社会生活（仕事・就労・学業） | 54 |
| セカンドオピニオン（一般） | 4 | 医療費・生活費・社会保障制度 | 785 |
| セカンドオピニオン（受入） | 1 | 補完代替療法 | 0 |
| セカンドオピニオン（他へ紹介） | 15 | 不安・精神的苦痛 | 41 |
| 治療実績 | 2 | 告知 | 1 |
| 臨床試験・先進医療 | 1 | 医療者との関係・コミュニケーション | 19 |
| 受診方法・入院 | 24 | 患者-家族間の関係・コミュニケーション | 26 |
| 転院 | 11 | 友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション | 2 |
| 医療機関の紹介 | 11 | 患者会・家族会（ピア情報） | 5 |
| がん予防・検診 | 0 | 生きがい・価値観 | 7 |
| 在宅医療 | 65 | 不明 | |
| ホスピス・緩和ケア | 82 | | |

⑤研修教育部門：

1）キャンサーボード実施状況（全12回・総参加者数402名）

＊9月は電子カルテシステム不具合のため中止

| | 開催日 | 担当科 | 医師 | 研修医 | 看護師 | 薬剤師 | PT/OT | MSW | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第118回 | 1月23日 | 泌尿器科 | 21 | | 2 | | | | 23 |
| 第119回 | 2月27日 | 血液内科 | 16 | | 1 | | | | 17 |
| 第120回 | 3月27日 | 消化器外科 | 22 | 1 | 2 | | | | 25 |
| 第121回 | 4月24日 | 乳腺外科 | 22 | 2 | 6 | | | 1 | 32 |
| 第122回 | 5月22日 | 泌尿器科 | 27 | 1 | 8 | | | 1 | 37 |
| 第123回 | 6月26日 | 消化器外科 | 26 | 2 | 18 | 1 | | 1 | 48 |
| 第124回 | 7月24日 | 血液内科 | 17 | 1 | 15 | 2 | | 1 | 36 |
| 第125回 | 8月28日 | 脳神経外科 | 22 | 2 | 13 | | | 1 | 38 |
| 第126回 | 10月23日 | 呼吸器内科 | 16 | 1 | 21 | | | | 38 |
| 第127回 | 11月20日 | 肝胆膵内科 | 16 | | 3 | | | 2 | 21 |
| 第128回 | 11月27日 | 産婦人科 | 26 | 2 | 23 | | | 1 | 52 |
| 第129回 | 12月25日 | 肝臓内科 | 18 | 1 | 15 | | | 1 | 35 |

2）倫理カンファレンス実施状況

| | 開催日 | 担当病棟 | テーマ |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 4月24日 | 7A病棟 | 統合失調症がある乳がん患者への生活支援 |
| 第2回 | 5月22日 | 5B病棟 | 最後まで積極的な治療を希望しつづけた患者・家族へのケア |
| 第3回 | 6月26日 | 7A病棟 | 療養先の意思決定支援　本人と家族の意向のズレの調整 |
| 第4回 | 7月24日 | 9A病棟 | 認知機能障害がある患者の最善の治療方針の検討 |
| 第5回 | 8月28日 | 3B病棟 | 治療方針における患者と家族の意向のズレのコーディネート |
| 第6回 | 10月23日 | 5A病棟 | 病状の進行が早く病態を受け入れられない患者・家族へのケア |
| 第7回 | 11月27日 | 9B病棟 | 事例報告 |
| | | 4B病棟 | パニック障害の既往がある患者への高侵襲度治療の意思決定支援・生活支援 |
| 第8回 | 12月25日 | 8A病棟 | 意思の表出が少ない終末期がん患者への意思決定支援 |

⑥放射線治療部門：放射線科の頁を参照

⑦地域連携パス部門：

【がん地域連携パス：連携患者数】

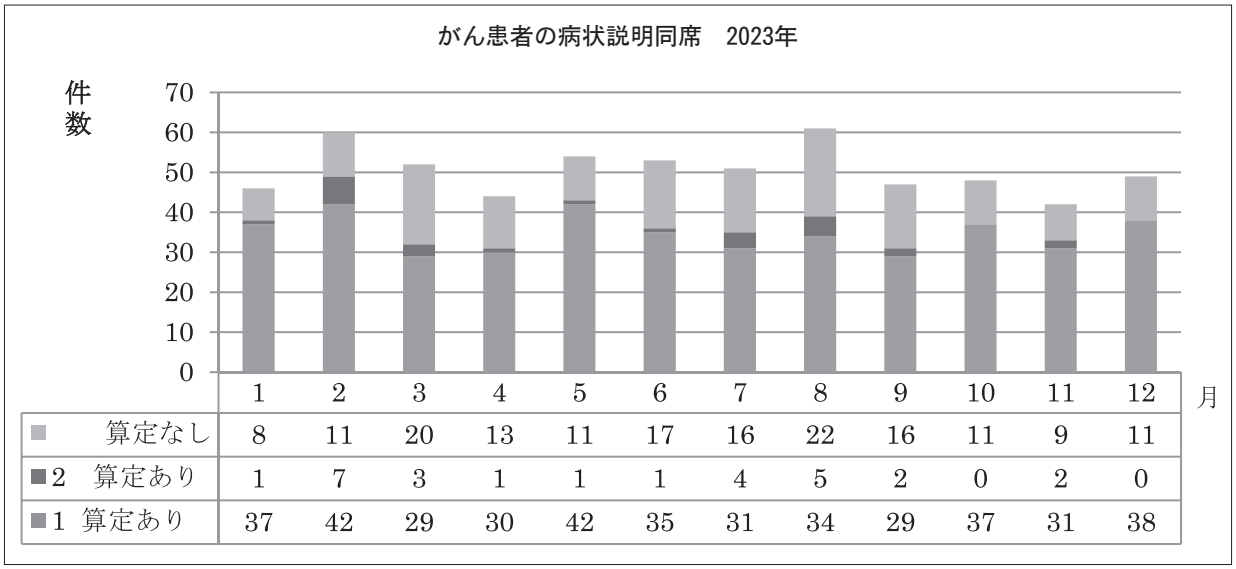
| 乳がん | 肺がん | 肝がん | 胃がん | 大腸がん | 膵がん | 前立腺がん | 緩和ケア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

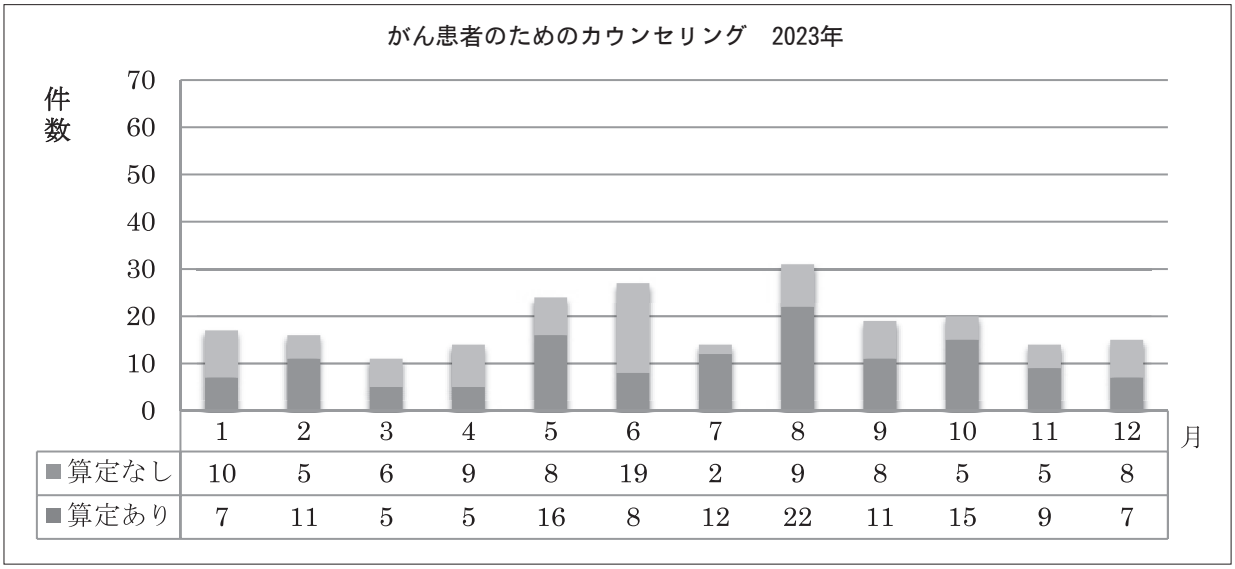
⑧がん診療支援部門：

○がん関連専門・認定・専門看護師による活動

がん化学療法看護認定看護師2名、放射線看護専門看護師兼がん放射線療法看護認定看護師1名、緩和ケア認定看護師2名、緩和ケア所定研修修了者1名にてがん患者の病状説明同席や精神的サポートのための面談を行う。各診療科医師と協働し、患者・家族の診療のサポートを行う。

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病状説明同席　※1 | 46 | 60 | 52 | 44 | 54 | 53 | 51 | 61 | 47 | 48 | 42 | 49 | 607 |
| がん患者　※2<br>カウンセリング | 16 | 9 | 8 | 13 | 23 | 26 | 10 | 26 | 17 | 20 | 12 | 15 | 195 |






| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■算定なし | 10 | 5 | 6 | 9 | 8 | 19 | 2 | 9 | 8 | 5 | 5 | 8 |
| ■算定あり | 7 | 11 | 5 | 5 | 16 | 8 | 12 | 22 | 11 | 15 | 9 | 7 |

がん患者指導管理料

※1（イ）　がん患者さんへの告知や病状説明にがん関連の認定看護師が同席し、患者さんやご家族の病状理解への支援や精神的サポートを行う。

※2（ロ）　がん患者さんの心理的不安を軽減するために認定看護師が面談を行う。

○がん看護コースの企画・担当

各部署のがん看護領域における看護の質向上を目的に、アドバンスケアプランニングにおける課題や必要な看護をについて理解を深め、看護実践につなげられるよう、各専門性を活かして講義を担当した。

- 第1回：アドバンスケアプランニングの概要・基礎知識（緩和ケア：石丸）
- 第2回：病状説明における看護師の役割と必要な看護（がん化学療法看護：冨永）
- 第3回：アドバンスケアプランニングの現状と今後取り組むべき課題について（緩和ケア：石丸）
- 第4回：がん薬物療法治療期におけるアドバンスケアプランニング（がん化学療法看護：村上）
- 第5回：放射線治療を受ける患者の看護（がん放射線療法看護：大石）
- 第6回：人生の最終段階における意思決定支援（緩和ケア：岩永）

○がん診療リンクナース会議の運営

今年度は前年度までの2か月に1回の開催頻度から、月1回の開催に変更。

内容は、がん看護コースと併せて、各部署でのアドバンスケアプランニングの定着に向けた取り組みを支援している。

○各部署がん診療リンクナース活動

16部署に各1名がん診療リンクナースを配置しがん関連の専門・認定看護師と協力して活動を行っている。今年度は、各部署のがん診療リンクナースの部署での活動日を1回以上確保し、自部署におけるがん看護・ACPの問題把握や今後の取り組みについて検討する機会とし、適宜各専門・認定看護師が支援。

その他、部署内カンファレンスや勉強会の企画・開催、がん関連の専門・認定看護師との連携による患者ケアを行っている。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 治験管理室

責任者　小森 敦正

## 診療部門の特色

医薬品や医療機器が国（厚生労働省）に承認されるには、患者さんを対象とした臨床試験（治験）により、有効性や安全性の確認が必要である。

私たちは、GCP（Good Clinical Practice，臨床試験の実施の基準に関する省令）をはじめとする国の定めた基準を遵守し、倫理性・科学性・信頼性が確保された質の高い治験を円滑に実施することを目標とし、患者さんが安心して治験に参加いただけるよう、治験開始から終了時までサポートしている。

【本年の目標と活動】

本年は「組織と個人のupdate“今日から期待されていること”」を治験管理室の目標とし、さらに個々の目標達成へ向け取り組んでいく中で、スタッフ間で協力して効率よく業務を行いながらも、患者さんに不利益が生じないよう、安全で確実な治験を実施することを心掛けた。

本年は、依頼者が活用しやすいようホームページの更新も行った。また、定期的に業務ミーティングを開催し、業務改善を行っている。「CRCと臨床試験のあり方を考える会議」では4演題、および「国立病院総合医学会」では1演題の発表を行った。

一方で、治験の裾野を広げ、より多くの診療科に治験に携わっていただくように、依頼者、機構本部、院内医師へ働きかけを行っている。過去の実績に関わらず各診療科の希望とニーズを充分に評価し、治験獲得へとサポートすることがますます重要であると思われる。

対外的な活動としては、長崎県治験ネットワークへ引き続き参加しており、本年の研修会開催にあたっても、準備委員として協力し研修会の企画準備をおこなった。今後もCRC養成研修の開催などに参画することで、県内を中心に他の治験実施医療機関の支援等を行っていく予定である。

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 参加職種 | 参加人数（平均） | 開催頻度 |
|---|---|---|---|
| 治験管理室ミーティング | 医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、事務職員 | 19人 | 1回/月 |

【6年制薬学実習生への講義】

薬剤部において薬学部実務実習の実習生を受け入れている。

治験管理室では、治験及び臨床研究に関して、2時間×2期＝4時間の講義を担当した。

## 受託研究関連実績

### 1）受託研究契約数・契約症例数

| | 新規・継続 | 種類 | 契約数 | 契約症例数 |
|---|---|---|---|---|
| | 継続 | Ⅱ相 | 10 | 22 |
| | | Ⅲ相 | 22 | 154 |
| | | 継続　集計 | 32 | 176 |
| | 新規 | Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ相 | 1 | 8 |
| | | Ⅱ相 | 4 | 10 |
| | | Ⅱ/Ⅲ相 | 1 | 5 |
| | | Ⅲ相 | 3 | 20 |
| | | 新規　集計 | 9 | 43 |
| | | 治験　合計 | **41** | **219** |
| 受託研究 | 継続 | 使用成績調査 | 23 | 993 |
| | | 特定使用成績調査 | 37 | 123 |
| | | 副作用 | 1 | 1 |
| | | その他 | 6 | 413 |
| | | その他（体外診） | 7 | 5,430 |
| | | その他（特定臨床研究） | 11 | 30 |
| | | その他（医師/研究者主導臨床研究） | 6 | 30 |
| | | 継続　集計 | 91 | 7,020 |
| | 新規 | 使用成績調査 | 5 | 21 |
| | | 特定使用成績調査 | 7 | 24 |
| | | 副作用 | 5 | 5 |
| | | その他 | 8 | 543 |
| | | その他（体外診） | 2 | 1,527 |
| | | その他（医師/研究者主導臨床研究） | 1 | 2 |
| | | 新規　集計 | 28 | 2,122 |
| | | 受託研究　合計 | 119 | 9,142 |
| 総　数　計 | | | **160** | **9,361** |

## その他

### 1）日本臨床薬理学会認定CRC（認定取得年）

木村　梨沙　（2015年）
川﨑　美幸　（2015年）
久保　三紀子（2016年）
大久保　房庫（2022年）
冨田　英里　（2023年）

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 6（ 4 ） | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b2：一般演題**

**＜ポスター発表＞**

1）小児対象新型コロナワクチン観察研究のスケジュール管理について.
瓦田秀美、川崎美幸、白川敦規、冨田英里、金沢愛弓、隅明子、松井亜紀、藤岡優子、玉城葉子、小森敦正.
第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2023in岡山. 岡山（Web）, 2023.9.16.

2）小児を対象とした新型コロナワクチン接種の観察研究；CRC業務未経験の事務スタッフの経験から.
松井亜紀、白川敦規、大久保房庫、木村梨沙、冨田英里、瓦田秀美、金沢愛弓、隅明子、藤岡優子、小森敦正.
第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2023in岡山. 岡山（Web）, 2023.9.16.

3）治験検体の取り扱いに関する業務のタスクシフトついて.
冨田英里、白川敦規、久保三紀子、瓦田秀美、金沢愛弓、隅明子、大神由美、松井亜紀、玉城葉子、小森敦正.
第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2023in岡山. 岡山（Web）, 2023.9.16.

4）CRC業務の適正化に関する取り組み～次世代も継続可能なCRC業務とするために～
木村梨沙、白川敦規、川崎美幸、大久保房庫、久保三紀子、小森敦正.
第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2023in岡山. 岡山（Web）, 2023.9.16.

5）小児を対象とした新型コロナワクチン観察研究；事務スタッフとしての経験.
松井亜紀、川崎美幸、白川敦規、大久保房庫、久保三紀子、木村梨沙、冨田英里、瓦田秀美、金沢愛弓、
隅明子、藤岡優子、玉城葉子、大神由美、小森敦正.
第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20

6）感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）を用いた当院における抗微生物薬の使用状況評価.
白川敦規、坂口晋哉、田代紘士、桑原貴美子、鈴田浩孝.
ポスター示説15 ／感染制御（治療薬）. 第33回日本医療薬学会年会. 仙台, 2023.11.3.

7）カルバペネム系薬剤の供給制限によって生じた院内抗菌薬使用状況の変化.
坂口晋哉、白川敦規、田代紘士、桑原貴美子、鈴田浩孝.
ポスター示説16／感染制御（その他）. 第33回日本医療薬学会年会. 仙台, 2023.11.3.

8）ラモトリギン錠による重篤な副作用事例を経験して取り組んだことについて.
中島瑞貴、白川敦規、桑原貴美子、鈴田浩孝.
ポスター示説27／有害事象・副作用. 第33回日本医療薬学会年会. 仙台, 2023.11.4.

9）バイオシミラー導入と診療報酬（導入加算）への取り組み.
江川友子、野口智宏、大久保嘉則、北御門由衣、園田美幸、白川敦規、桑原貴美子、鈴田浩孝.
ポスター示説26／バイオシミラー . 第33回日本医療薬学会年会. 仙台, 2023.11.4.

10）当院スタッフにおけるポリファーマシーに関する意識調査.
杉本隼人、白川敦規、北御門由依、江川友子、中島瑞貴、野田愛珠、桑原貴美子、鈴田浩孝.
ポスター 184／薬剤関連11-11　フォーミュラリー、ポリファーマシー . 第77回国立病院総合医学会.
広島, 2023.10.21.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 教育センター

責任者　本村 秀樹

## 教育センターの概要

1）部署の紹介

教育センターは2007年4月に開設され、16年が経過しました。開設当初は、研修医教育や医学生の病院見学の支援を中心に活動を開始しました。2011年よりレジデントや専修医を対象とする後期研修委員会を立ち上げ、2012年に医学生を主な対象とする卒前研修委員会を研修管理委員会の分科会として設けました。2013年からは教育センター運営委員会を通し、看護師や薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、MEなどのコメディカルの教育の支援を開始しました。2014年度は診療看護師研修病院の指定を受け、実地研修を開始しました。JNP研修管理運営委員会を設けて、診療看護師の周知や研修内容などについて検討しました。ラボ室は2009年に開設し、新人看護師、看護師、指導医、研修医、レジデントなどへのシミュレーション研修を実施しています。

2015年4月に人材育成センターが開設され、教育センターとラボ室も移転しました。今まで会議室で実施していたBLS研修や新人看護師・研修医の技術研修など、数十人の研修がラボ室でできるようになり活用件数・人数も増加しています。

2）構成メンバー

| | |
|---|---|
| センター長 | 本村　秀樹（統括診療部長兼任）1名 |
| 室長 | 長岡　進矢（教育研修管理運営部長）1名 |
| 係長 | 髙松三穂子（教育担当係長）1名 |
| 事務助手 | 本田　未菜・一瀬　愛伽・馬場真由美3名 |
| | 柿本　陽子（長崎県病院企業団派遣） |

3）教育センターの理念・役割

（1）教育センターの理念

長崎医療センター教育センターは、高度で専門的な知識のみならず、人間や社会についても深い理解を有する医療人の育成を目指します。

（2）教育センターの役割

①当院における臨床教育を統括し、一貫した研修教育が行われる体制を築く。（統括機能）

②当院の教育理念を浸透させるために、各部署の指導者層を対象とした研修を企画する。（FD機能）

③地域医療への貢献のため、当院での研修内容などについて発信し、積極的に参加を募る。（情報発信機能）

④当院での研修教育修了者を組織化し、生涯教育の核となる。（バックアップ機能）

4）教育センター2023年度目標

（1）教育センターの統括機能を強化する

（2）業務内容の多様化、増加に伴う業務の効率化を目的に作成した「教育センター手順書」の実用と追加、修正を行う

（3）看護部門：ACTナースキャリアラダーに沿った看護師の育成

（4）メディカルスタッフ部門：各部門との職員教育・研修の支援

（5）医師部門：研修プログラムの検討・研修医評価表運用の検討

（6）診療看護師（JNP）：研修管理体制の構築、運営

5）教育センター運営会議

＜活動目的＞

長崎医療センターの職員研修についての統括、各部署の指導者層育成、情報発信、臨床研修教育修了者のバックアップをするため、教育センター運営委員会を置く。

＜概要＞

教育センターは、医師のみならず、看護師他コメディカルの教育・研修を広くつかさどる。教育・研修において蓄積したノウハウを生かし、各部署での教育をサポートする。ひいては病院全体の教育活性化に繋げていく。会議を行うことで教育センターは各部門の研修を把握が出来た。新に各部門の研修の窓口や実習の連絡調整を行い、教育センターの経験を活かすことが出来ている。

＜構成メンバー＞

本村秀樹（統括診療部長）、長岡進矢（教育研修管理運営部長）、森英毅・増田幸子（臨床研修管理委員会副委員長）、中道親昭（高度救命救急センター長）、岩﨑藤子（副看護部長）、髙松三穂子（教育担当係長、看護部教育委員会委員長）、四元有吏（栄養管理室長）福山雄卯介（副薬剤部長）、因幡朱里（副検査技師長）、小濱義幸（副放射線科技師長）、増田賢武（管理課長）

＜活動報告＞

（1）運営委員会：年2回　　2023年3月（メールでの活動報告）、2023年6月6日

（2）検討・決定事項

各部署の活動報告　診療部：CVC挿入講習会

救急科：長大医学部学生臨床実習、救急救命士病院実習、消防学校救急科病院実習、BLS・ACLS研修

看護部：看護管理者育成研修、教育委員会年間教育

薬剤科：薬学部学生研修、病棟薬剤業務見学

リハビリ・ME：吸引研修

検査科：実習生受け入れ

放射線科：MRI院内安全講習、災害医療従事者研修Ⅱ

事務部：事務部長主催1～4年目事務職員のグループ合同研修

ドクターズクラーク研修

全職員研修：「個人情報の保護」「接遇」「虐待」について、学研ナーシングサポートのeラーニング視聴、「ハラスメント防止」については動画視聴を行った。

6）スキルラボ室の概要

シミュレータ・備品保有状況（2023年12月現在）

| | シミュレータ・備品名 | 保有数 | | シミュレータ・備品名 | 保有数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | PHYSICO | 1 | 11 | Pediatric incubation Trainer | |
| 2 | 万能型実習モデル（さくら） | 1 | 12 | Leardal Little Anne（BLS用） | |
| 3 | 装着型女性導尿シミュレータⅡ | 2 | 13 | HEARTSTART AED Trainer2 | 3 |
| 4 | 透明男性導尿模型 | 1 | 14 | Save Man アドバンス二次救命処置訓練人形 | 4 |
| 5 | 男性導尿・浣腸シミュレータ | 1 | 15 | 静脈路確保困難モデル | 4 |
| 6 | 女性導尿・浣腸シミュレータⅡ | 1 | 16 | Baby Anne（小児） | 2 |
| 7 | 装着式上腕筋肉注射シミュレータ | 6 | 17 | CardioLife AEDトレーニングユニット | 1 |
| 8 | 装着型摘便シミュレータ | 1 | 18 | AIRISMエアウェイトレーニングシステム（黒） | 1 |
| 9 | 口腔ケアモデル（せいけつくん） | 1 | 19 | 新CVC穿刺挿入シミュレータ | 2 |
| 10 | 吸引シミュレータ（Qちゃん） | 2 | 20 | 採血・静脈シミュレータ　シンジョーⅡ | 4 |

| | シミュレータ・備品名 | 保有数 | | シミュレータ・備品名 | 保有数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 21 | Airway Management trainer | 1 | 32 | 足浴用バケツ（足浴専科） | 2 |
| 22 | Ressaci Ann | 1 | 33 | 輸液ポンプTE-161SA | 1 |
| 23 | 挿管用喉頭鏡ブレード（マッキントッシュ型） | 1 | 34 | シリンジポンプTE-351 | 1 |
| 24 | 挿管用喉頭鏡ハンドル | 1 | 35 | 点滴スタンド（トップ） | 2 |
| 25 | 装着式採血静注キットSASUKE | 5 | 36 | 褥瘡ケアシミュレータ | 4 |
| 26 | 装着式採血静注キットかんたんくん | 12 | 37 | ベッド | 2 |
| 27 | 直結式酸素湿潤器FS-500 | 1 | 38 | オーバーテーブル | 2 |
| 28 | 壁掛け式吸引器HK-500 | 1 | 39 | 車椅子 | 2 |
| 29 | 低圧持続吸引器TK-300 | 1 | 40 | ストレッチャー | 1 |
| 30 | スタンド型手洗いチェッカー | 4 | 41 | ワゴン（大） | 2 |
| 31 | 洗髪器（さっぱりさん） | 1 | 42 | ワゴン（小） | 1 |

## 教育センター実績

ここでは教育センターが介入した研修のみ挙げる。その他は、各部署の年報を参照する。

### 実習・研修

＜研修＞

1）看護部教育研修（集合教育）　受講生415名

2）第11回看護管理者育成研修：2023年11月 7 日～ 11月 8 日　受講生19名

3）看護師長・副看護師長合同学習会：2023年 7 月 2 日、10月11日、12月13日
（予定）2024年 2 月14日、 3 月13日　受講生60名

4）令和 5 年度コメディカル喀痰吸引研修：2023年 6 月～ 12月　受講生 4 名

5）CVC挿入講習会（初期研修医）：2023年 1 月～ 12月　受講生20名

6）キャンサーボード支援：2023年 1 月～ 12月　参加者402名

7）看護師特定行為研修：2023年 6 月 1 日～ 2024年 1 月31日（予定）　受講生 5 名

### ラボ室活用状況

スキルラボ室・使用：総数1483人、75件（いずれも延べ）

| 年月 | 人数/件数（延べ） | 内容 | 部署 |
|---|---|---|---|
| 2023年 1 月 | 125/5 | BLS、AHA-ACLS、研修医OSCE、看護部研修 | 医療安全、救急科、教育センター |
| 2023年 2 月 | 118/4 | BLS、AHA-PALS、ALSO | 医療安全、救急科、産科 |
| 2023年 3 月 | 109/4 | BLS、看護部研修、病棟学習会 | 医療安全、6A |
| 2023年 4 月 | 115/4 | 新採用看護師研修、 1 年次研修医研修、技術練習 | 看護部、教育センター、3A |
| 2023年 5 月 | 23/3 | BLS、技術練習 | 救急科、6A |
| 2023年 6 月 | 119/12 | 特定行為研修、BLSO、ACLS、METシミュレーション、技術練習 | 特定行為研修、産科、救急科、3A、3B、教育センター |
| 2023年 7 月 | 169/9 | 特定行為研修、BLS、METシミュレーション | 特定行為研修、医療安全、5A |
| 2023年 8 月 | 18/3 | 看護部リクルート活動、メディカルスタッフ吸引研修 | 看護部、教育センター |
| 2023年 9 月 | 243/11 | 特定行為研修、BLS、METシミュレーション、看護部研修、研修医技術練習、病棟学習会 | 特定行為研修、医療安全、外科、看護部、6B、9A |
| 2023年10月 | 147/7 | BLS、AHA-BLS、ACLS、病棟学習会 | 医療安全、救急科、8A |
| 2023年11月 | 156/7 | BLS、ACLS、METシミュレーション、病棟学習会 | 医療安全、救急科、3A、7A、8A |
| 2023年12月 | 141/6 | BLS、METシミュレーション、研修医技術練習 | 医療安全、救急科、外科、9A、9B |

**その他**

1）広報活動

（1）メディア掲載

以下の媒体にて研修情報を掲載

- 長崎県医師臨床研修ガイドブック2022年長崎医療センターの紹介」（製本版・WEB版）
- 国立病院機構ガイドブック2022年度版「長崎医療センターの紹介」（製本版・WEB版）
- 臨床研修病院ガイドブック（P-MET）2022年度版「長崎医療センターの紹介」（WEB版）
- 長崎大学病院群たすきがけ病院ガイドブック2022年度版（製本版）

（2）長崎医療センター初期・後期臨床研修ブログ（http://nmckensyu.sblo.jp/）

2011年11月に開設し、2022年12月31日までの訪問者数はのべ259,430名

（3）Facebookの運用（http://www.facebook.com/nmc.kensyu）

ブログに連動させる形で2014年４月よりFacebookに教育センターアカウントを開設。当院OBを含めた医師・コメディカルの交流の場になること、フレッシュな情報を届けることで、当院の臨床研修の認知力向上を推進している。フォロワー数：1,255名。

（4）３月に長崎県内合同説明会が開催され参加。　訪問者数32名　３月20日（日）長崎大学病院

（5）７月に長崎県内合同説明会及び合同面接が開催され、説明会にのみ参加。前回開催からの期間が短かったためか、参加人数は少なく18名だった。

（6）コロナ以前は３月に実施されていた民間医局レジナビフェアが７月に開催され、３年ぶりに参加。来場者は会場全体 約400名、当院ブースへは13名だった。

（7）例年６月に実施されてるNHOの臨床研修合同説明会も、コロナウイルス感染拡大対策のため昨年同様にWEB開催だった。当院の個別説明ブース参加者：７名。

2）同窓会

長崎医療センター研修医同窓会「あかしや医師の会」事務局

・同窓会会員へ・医療センター報(毎月)・医学生向け見学会開催情報（逐次）・採用試験開催情報（逐次）送付

# 医師関係

## 1）初期研修　　責任者　長岡 進矢

### 歴史

当院では1971年より全国に先駆けてスーパーローテート方式の研修医教育を開始しました。研修医教育は主に離島へ赴く医師の初期教育が当初の目的でしたが、徐々に離島のみならず一般の医師の初期研修を重視するようになりました。2004年より新臨床研修制度が始まり、18年目を迎えるに至っていますが、採用研修医数は10名/年から19名/年に増え、市中病院では研修医数の多い病院になっています。2010年には長崎県医師臨床研修協議会（新・鳴滝塾）が設立され、長崎県主体の取り組みが始められました。研修病院見学旅費助成金給付、長崎県全体でのレジナビ参加、海外研修支援など様々な企画が行われ、県全体の研修医数の増加に寄与しています。2011年３月にあかしや新館（42個室、１会議室）が完成し研修医の居住環境は整備され、2007年から始まった中期改善計画は目標を達成しました。また広報の充実の一環としてブログ形式のホームページを2011年11月から開設し、日々の研修状況を外部向け施設ホームページとブログから全国に発信しています。研修医評価は2013年度からはEPOCに替わり新研修医手帳で運用を開始しました。2014年度から２年次修了前に全国共通試験の基本的臨床能力評価試験（全国約2,000名受験）を受験しています。2015年３月にNPO法人卒後臨床研修評価機構の２回目の審査結果を受け、ホームページの大幅な刷新、他種職種評価、ICTラウンドや医療安全推進担当者会議への参加など新たな取り組みを始

めました。教育センターの効率的な運営を図るために、毎週火曜日、定例運営会議を開催し細やかな活動計画を立てています。

3年にわたるコロナ禍が終わり、今年は以前に近い形で見学会、説明会が開催されるようになりました。今年の見学者数は昨年とほぼ同数でしたが、採用試験の受験者数が8年ぶりに30名を下回り、1位指名は13名と過去2番目に低い人数となりました。最終的にプライマリケア養成プログラム11名（定員:15名)、周産期プログラム3名（定員：4名）の14名となりました。来年度採用予定研修医（第54期生）は、これに自治医大の2名が加わり16名となります。内訳は長崎大3名、佐賀大3名、島根大2名、産業医大1名、久留米大1名、川崎医大1名、岩手医大1名、信州大1名、福岡大1名、男性7名、女性9名です。現時点での志望科は特定の科に偏ることなく、全体に外科系志望が多いようです。

## 長崎医療センターの実績

1）研修修了者：1000名以上（概算）
2）研修修了者の出身大学：50大学以上
3）2019年7月、公益財団法人　日本医療機能評価機構の審査を受け2023年までの4年間を特に指摘事項もなく承認を得る結果となる。
4）厚生労働省認定研修医指導医資格を有する割合（2022年末時点）：73.5%
　2023年度　長崎大学病院群臨床研修指導医養成講習会受講　　6名受講
　2023年度　NHO令和4年度第1回臨床研修指導医養成講習会受講　0名受講

## 臨床研修管理委員会の概要

1）委員会の紹介

臨床研修管理委員会は、公的な基準を満たし且つ質の高い研修を行うため、本院卒後臨床研修プログラムの総括的な評価・問題点の検討等を行い、到達目標達成のために、臨床研修医自らがその能力を十分に発揮し、適正な疾病の診療に関する（とくにPrimary Careを中心とした）知識、態度ならびに技術を習得することを目的とする。

①臨床研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整。
②臨床研修医の採用・中断・修了の際の評価等臨床研修の実施の統括管理。
③その他、臨床研修のために必要なことを審議する。
原則として年2回は定期開催とし、必要に応じ追加の開催をする。

総括責任者：八橋　　弘（病院長）
委　員　長：長岡　進矢（プログラム責任者・肝臓内科医長）
副委員長：森　　英毅（プログラム副責任者・総合診療科医長）
　　増田　幸子（プログラム副責任者・救命救急）
　　和泉　泰衛（内科部長）
教育センター長：本村　秀樹（統括診療部長）
院内委員：青木　幹弘（新生児科部長)、髙松三穂子（教育担当係長)、
　　三角　紳博（薬剤部長)、酒本　　司（診療放射線技師長)、
　　染矢　賢俊（臨床検査技師長)、増田　賢武（管理課長）
協力型病院・施設委員：
　　内藤　愼二（嬉野医療センター教育研修部長)、

福留　隆泰（長崎川棚医療センター臨床研究部長）、
八坂　貴宏（長崎県対馬病院院長）、向原　茂明（長崎県壱岐病院院長）、
一宮　邦訓（長崎県上五島病院院長）、
大塚　俊弘（長崎県精神医療センター院長）、
松島加代子（長崎大学病院医療教育開発センター）、
山下　雅巳（平戸市立生月病院院長）、中桶　了太（平戸市民病院副院長）、
柿添　三郎（柿添病院副院長兼診療部長）、常光　信正（青洲会病院院長）
栗原　隆二（小値賀町国民健康保険診療所）、
外 部 委 員：牟田　幹久（長崎県医師会常任理事）、渡海　俊明（元長崎県立長崎北高等学校校長）

## 臨床研修運営委員会の概要

1）委員会の紹介

臨床研修運営委員会は、医師法に基づき臨床研修を適正、かつ円滑に実施するために必要な事項を定めることを目的とする。①臨床研修プログラムの作成、内容見直し、プログラム間の調整等、全体的な管理に関すること。②臨床研修医の教育、研究、診療等の管理に関すること。③臨床研修医の受け入れ、採用、中断、評価に関することなどを審議する。原則として月1回は開催するものとして必要に応じ追加の開催をする。

2023年４月より、吉原・西浦（専攻医）・床嶋・岩野（職員係）・宇佐・川添・山下（研修医１年）が新メンバーとして参加することとなった。

令和２（2019年）４月には、副委員長増田（救命救急科医師）を任命。

令和４（2022年）年４月より、構成委員の変更に伴い副委員長を森　英毅（総合診療科医長）に任命。

2）構成メンバー

委 員 長：長岡　進矢（教育研修管理運営部長）
副委員長：森　　英毅（総合診療科医長）
　　増田　幸子（救命救急科医長）
委　　員：本村秀樹（教育センター長・統括診療部長）、小森敦正（難治性疾患研究部長）、福田雅史（産婦人科部長）、蓬莱彰士（精神科長）山口美知子（麻酔科医長）、中道親昭（救命センター長）、北里　周（外科医長）、和泉泰衛（内科部長）、森　英毅（総合診療科医長）、本田涼子（小児科医師）、青木幹弘（新生児科部長）、吉原聖智（後期研修医代表）、西浦　藍（後期研修医代表）、梶原優介（２年次研修医代表）、門松　英（２年次研修代表）、藤原もも佳（２年次研修医代表）、宇佐俊哉（１年次研修医代表）、川添綾子（１年時研修医代表）、山下　慶（１年時研修医代表）、床嶋　剛（庶務班長）、岩野友政（職員係）、髙松三穂子（教育担当係長）、本田未菜、一瀬愛伽、馬場真由美（教育センター事務）

## 事務職員の業務内容と臨床研修運営委員会の活動報告

**A．事務職員の業務内容**

学生に関すること：病院見学会や研修合同説明会から採用試験、採用までの手続き等
研修医に関すること：研修プログラム、宿舎、進路、協力病院、その他研修中に生じる研修関連の事務業務
レジデント（専攻医）に関すること：後期研修説明会、後期研修プログラム、進路、同門会（あかしや医師の会）、宿舎に関する事務業務

**B．臨床研修運営委員会の活動報告**

（1）研修委員会：毎月1回（第1水曜）定例会を開催。

①事務担当は、専任事務：本田、一瀬、馬場　兼任事務：床嶋（庶務班長）、岩野（職員係）

②現研修医数は、1年次20名、2年次23名計43名である。

（2）医学生見学会について

| | | 期間 | 申込人数（人） | 参加人数（人） | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1－2月見学会 | 1/20-2/24 | － | － | 感染状況拡大のため、開催中止 |
| 2 | 春の見学会 | 3/1-3/23 | 16 | 15 | コロナ感染拡大のため夜間見学中止<br>1名参加できず |
| 3 | 5－6月見学会 | 5/12-6/23 | 15 | 15 | 夜間見学再開 |
| 4 | WEB説明会 | 6/16 | 8 | 8 | コロナが5類になった為、開催は年1回 |
| 5 | 夏の見学会 | 7/4-8/24 | 29 | 24 | 5名見学できず |
| 6 | 10－11月見学会 | 10/6-11/24 | 4 | 4 | |
| 7 | 冬の見学会 | 12/12-12/22 | 14 | 11 | 3名参加できず<br>夜間見学再3名の参加 |

（3）在籍研修医状況

2023年度（第53期）採用の研修医は男性16名、女性4名、合計20名。

出身大学の内訳：長崎大学8名、九州大学2名、久留米大1名、佐賀大学3名、自治医科大学2名、愛媛大学1名、東海大学1名、兵庫医科大学1名、川崎医科大学1名

（4）研修プログラム

2024年度（令和6年度）採用については2つのプログラムで募集を行った。

①従来と同様プライマリ・ケア能力養成プログラム（募集人数15名）

②小児科・産婦人科医を目指すための周産期研修プログラム（募集人数4名）

（5）2024年度（令和6年度）採用研修医選考試験について

①試験日程は、期間を4日間にて開催した。

②試験内容は、書類審査、小論文、個人WEB面接（面接官は3名）。

③コロナウイルス感染対策として　例年当院にて小論文試験を行っていたが事前課題とし、WEB面接前日までに郵送とした。

④受験者数は、28名（前年33名）であった。（長崎県養成医11名（前年15名）含む）

⑤第1志望中間発表数は13名（前年18名）であった。

⑥2024年4月より、マッチング採用研修医14名、自治医生2名、マッチング結果に伴い二次募集を行い、1名採用。併せて計17名が採用予定。

（6）2023年度研修修了者の後期研修先について（合計23名）

当院4名、長崎大学3名、九州大学1名、山口大学病院2名、久留米大学病院1名、長崎県対馬病院3名、長崎県上五島病院2名、長崎県五島中央病院1名、長崎県島原病院2名、長崎県富江病院1名、東京ベイ浦安市皮医療センター1名、亀田総合病院1名、未定1名　合計23名

専攻診療科：総合診療科5名、救命科3名、産婦人科3名、循環器内科3名、病理診断科1名、リウマチ・膠原病内科2名、外科1名、脳神経内科2名、血液内科1名、放射線診断科1名、未定1名

（7）研修医　準夜勤・日直・深夜勤務は、1人月5回程度で行っている。

平日は1人体制、土日祝日は2人体制に変更。診療科ごとの区別は廃止。

（8）研修医　コロナ患者対応の為、拘束担当者を決めて対応にあたっている。

2023年1月以降　　毎日（1名）

2023年6月19日以降　　平日のみ17：00～翌8：30まで（1名）

※2023年9月20日よりコロナ拘束廃止。流行した際は随時対応。

（9）研修医・指導医合同ワークショップ

1．ワークショップテーマ【プログラムについて】

日　時：9月9日（土）あかしやホール

13：00-17：25　ワークショップ

9 ：00-12：00　研修医手帳及びサマリーファイル作成

2．参加者

研修医43名（2年次研修医23名・1年次研修医20名）指導医15名　58名参加

3．診療科

①内科②総合診療科③外科④産婦人科⑤小児科⑥救命救急の5グループに分かれ実施した。

（10）令和7年度入職予定者　17名の内　17名参加

12月15日（金）17：00～18：00　第一応接室にて　リモート懇親会を実施（Webex）

（11）初期実践NMCコアセミナーは毎週金曜日に行い、2023年1月から12月23日までに39回実施した。

【初期実践NMCコアセミナー年間スケジュール】　39回実施/総参加者数805名

| | 開催日 | 講　義　名 | 担当医師 | | 開催日 | 講　義　名 | 担当医師 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1/13 | 輸血 | 研修医<br>松尾和哉 | 21 | 8/4 | めまいのアプローチ | 総合診療科<br>森隆浩 |
| 2 | 1/20 | 救急外来で遭遇する心電図の鑑別 | 循環器内科<br>松尾崇史 | 22 | 8/18 | 意識障害のみかた | 脳神経内科<br>徳田昌紘 |
| 3 | 1/27 | 妊娠と薬 | 産婦人科<br>福田雅史・<br>小川真幸 | 23 | 8/25 | 頭痛へのアプローチ | 脳神経内科<br>岩永洋 |
| 4 | 2/3 | サムネイル画像から始めるMR用語解説 | 放射線科<br>藤本俊史 | 24 | 9/1 | 運動麻痺・筋力低下へのアプローチ | 脳神経内科<br>足利裕哉 |
| 5 | 2/10 | 輸液と循環の基本 | 研修医<br>馬渡萌 | 25 | 9/8 | 痙攣患者をみたら | 脳神経内科<br>佐藤和明 |
| 6 | 2/17 | 胸部単純写真 | 研修医<br>角遼 | 26 | 9/15 | 小児喘息・アナフィラキシーの対応 | 脳神経内科<br>山田洸夢 |
| 7 | 3/3 | 褥瘡管理のいろは | 研修医<br>鋸崎翔太 | 27 | 9/22 | 眼科救急 | 眼科<br>前川有紀 |
| 8 | 3/10 | 呼吸器　色々ワンポイントアドバイス | 研修医<br>井手口周平 | 28 | 9/29 | 呼吸困難へのアプローチ | 呼吸器内科<br>原敦子 |
| 9 | 4/28 | 臨床推論と腹痛 | 総合診療科<br>永井友基 | 29 | 10/6 | 気管支喘息について | 呼吸器内科<br>平野優大 |
| 10 | 5/12 | 初期研修医/後期研修医に知ってほしい～サマリーの書き方～ | 総合診療科<br>永井友基 | 30 | 10/13 | 小児のけいれんへのアプローチ | 小児科<br>本田涼子 |
| 11 | 5/19 | プレゼンテーション | 総合診療科<br>永井友基 | 31 | 10/20 | 慢性閉塞性肺疾患へのアプローチ | 呼吸器内科<br>瀬戸口大地 |
| 12 | 5/26 | 血液ガスのみかた | 総合診療科<br>永井友基 | 32 | 10/27 | 腹痛診療の原則　救急外来編 | 総合診療科<br>森英毅 |
| 13 | 6/9 | 発熱患者へのアプローチ | 総合診療科<br>和泉泰盛 | 33 | 11/10 | グラム染色 | 呼吸器内科<br>峯慧輔 |
| 14 | 6/16 | 小児の発熱へのアプローチ | 小児科<br>本村秀樹 | 34 | 11/17 | 小児の呼吸器感染症 | 小児科<br>安忠輝 |
| 15 | 6/23 | 災害カルテ | 救命救急科<br>白水春香 | 35 | 11/24 | 肺がんについて研修医が知っておくべきこと | 呼吸器内科<br>池田喬哉 |
| 16 | 6/30 | 感染症のみかた | 総合診療科<br>永井友基 | 36 | 12/1 | 肺炎へのアプローチ | 呼吸器内科<br>近藤晃 |

| | 開催日 | 講　義　名 | 担当医師 | | 開催日 | 講　義　名 | 担当医師 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 7/7 | 抗菌薬前半 | 総合診療科<br>永井友基 | 37 | 12/8 | 女性の急性腹症 | 産婦人科<br>小川真幸 |
| 18 | 7/14 | 抗菌薬後半 | 総合診療科<br>永井友基 | 38 | 12/15 | 嘔気・嘔吐へのアプローチ | 総合診療科<br>森隆浩 |
| 19 | 7/21 | 一過性意識消失へのアプローチ | 総合診療科<br>鳥巣裕一 | 39 | 12/22 | 急性胃腸炎について | 消化器内科<br>西山仁 |
| 20 | 7/28 | 脳血管障害へのアプローチ | 脳神経内科<br>忽那史也 | | | | |

（12）院内CPC回数及び内容CPCは年間５回（２、５、９、10、11月）実施した。

| 開催日 | 臨床診断 | 症例担当 | 担当指導医 | 担当病理 | コメンテーター |
|---|---|---|---|---|---|
| 2/24<br>（木） | 慢性心不全、肝障害 | 二宮　辰光、松尾　和哉、<br>山領　優斗 | 最勝寺佑介 | 後藤　純寛<br>三浦　史郎 | 阿比留正剛 |
| 5/31<br>（火） | 慢性腎不全憎悪、torsades de pointes、心室細動 | 佐藤　康人、中村　　樹、<br>鋸﨑　翔太 | 森　　英毅 | 中平　皓太<br>佐藤　俊輔 | |
| 9/20<br>（火） | 心原性ショック | 朝長　純花、小川　紗智、<br>髙濵　健太 | 忽那　史也 | 武内　建祐<br>三浦　史郎 | |
| 10/18<br>（火） | 80才代、女性 臨床診断　圧座症候群、たこつぼ型心筋症 | 大﨑　幸平、馬渡　　萌、<br>野々村美香、濵﨑　創平、<br>吉岡　瑞姫 | 森　　隆浩 | 中野　颯斗<br>伊東　正博 | 松尾　崇史 |
| 11/22<br>（火） | 死亡塞栓症 | 吉原　絹子、石井　　青、<br>百岳　龍平 | 中川晧一朗 | 石飛　俊介<br>佐藤　俊輔 | |

## 研修会、セミナー、講習会等の参加

| | | |
|---|---|---|
| 令和５年　第59回日本腹部救急医学会総会<br>「会長賞」受賞 | 3/9 | 武内　健祐（研修医） |
| 令和５年　第67回日本消化器リウマチ学会総会・<br>学術集会近未来のリウマチ医セッション<br>「優秀賞」受賞 | 4/26 | 藤原もも佳（研修医） |
| 令和５年　脈圧亢進症学会<br>「若手部門優秀賞」受賞 | 9/25 | 萩原　朋也（研修医） |
| 令和５年　第85回日本臨床外科学会総会<br>「研修医　Award賞」受賞 | 11/16 | 石飛　俊介（研修医） |
| 令和５年　第85回日本臨床外科学会総会<br>「研修医　Award賞」受賞 | 11/16 | 中野　颯斗（研修医） |
| 令和５年　第343回日本内科学会九州地方会<br>「初期研修医激励賞」受賞 | 11/26 | 宇佐　俊哉（研修医） |

## 良質な医師を育てる研修

| | | |
|---|---|---|
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「病院勤務医に求められる総合内科医スキル研修」 | 6/9 | 小川　紗智（研修医） |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「病院勤務医に求められる総合内科医スキル研修」 | 6/9 | 藤原もも佳(研修医) |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「神経・筋（神経難病）診療中級研修」 | 9/29 | 足利　裕哉 |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「神経・筋（神経難病）診療中級研修」 | 9/29 | 篠原葉瑠希（研修医） |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「内科救急医MHO-JMCC指導者講習会研修」 | 10/22 | 忽那　史也 |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「内科救急医MHO-JMCC指導者講習会研修」 | 10/22 | 山中萌奈美 |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「循環器疾患に関する研修」 | 10/27 | 小松　桃子（研修医） |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「循環器疾患に関する研修」 | 10/27 | 梶原　優介（研修医） |
| 令和５年　良質な医師を育てる研修<br>「循環器疾患に関する研修」 | 10/27 | 髙濵　健太（研修医） |

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

期間：2015年４月～ 2024年３月（予定含む）

（２年次研修期間での学会発表数を修了年度ごとに集計したデータ）

（年度）

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 | R5 |
| 発表回数 | 63 | 71 | 86 | 83 | 52 | 15 | 42 | 31 | 48 |
| 研修医数 | 16 | 21 | 19 | 25 | 21 | 22 | 22 | 18 | 23 |
| 発表平均回数 | 3.9 | 3.4 | 4.5 | 3.3 | 2.4 | 0.68 | 1.9 | 1.7 | 2.1 |

# ２）後期研修　　責任者　長岡 進矢

## 後期研修運営委員会の概要

１）委員会の紹介

後期研修委員会は、2011年に設置され、①後期研修内容の質の向上、②後期研修医の待遇改善、③後期研修医間の親睦、④後期研修終了後の援助などを主な活動としている。

平成30年度（2018年）から開始となった新専門医制度に対応すべく、後期研修運営委員会と名称を変え、上記の活動に加え、①後期研修医の採用・中断・修了の際の評価、研修実施の統括管理、②研修協力施設との連絡、調整（各プログラムの研修管理委員会開催を含む）などを審議している。

新専門医制度における、当院の専攻医プログラムは以下の６プログラムである。

１．Nagasaki-MC内科専門医プログラム
２．救急科専門研修プログラム
３．形成外科専門研修プログラム
４．総合診療専門研修プログラム、
５．小児科専門研修プログラム、
６．産婦人科専門研修プログラム

当院管理型の専攻医は現在27名である。(2024年開始予定者含まず)

| | |
|---|---|
| 平成30年　2018年開始 | 総合診療科：１名 |
| 平成31年　2019年開始 | 総合診療科：１名、内科：２名、産婦人科：１名 |
| 令和２年　2020年開始 | 総合診療科：３名、内科：３名、産婦人科：２名、救急科：２名、小児科：１名 |
| 令和３年　2021年開始 | 産婦人科：１名 |
| 令和４年　2022年開始 | 総合診療科：２名、内科：３名、産婦人科：１名、小児科：２名 |
| 令和５年　2023年開始予定<br>※2023年１月時点 | 総合診療科：１名、内科：４名、小児科：３名 |
| 令和６年　2024年開始予定<br>※2024年１月時点 | 総合診療科：１名、内科：６名、救急科：３名、産婦人科：２名 |

２）構成メンバー

委 員 長：長岡　進矢（教育研修管理運営部長）
副委員長：本村　秀樹（統括診療部長）
委　　員：和泉　泰衛（内科部長）
中道　親昭（高度救命救急センター長）
藤岡　正樹（形成外科部長）
森　　英毅（総合診療科医長）
安　　忠輝（小児科医長）
山下　　洋（産婦人科医長）
床嶋　　剛（庶務班長）
岩野　友政（職員係）
髙松三穂子（教育担当係長）
吉原　聖智（専攻医）
西浦　　藍（専攻医）
本田未菜・一瀬愛伽・馬場真由美（教育センター事務）

年３回実施している。

## 後期研修委員会の実績

### 院　外　広　報

病院ホームページ後期研修ページの新専門医制度に対応した刷新。

### そ　の　他

１）新専門医制度の各プログラムの見直し及び申請、後期研修運営委員会の組織作り、規約作成。
２）Nagasaki-MC内科専門医プログラム、総合診療専門研修プログラム管理委員会（６月、３月開催）
３）６月に後期研修医面談（42名）の実施
４）リクルート活動
４月、６月に総合診療科専門研修プログラム及びNagasaki-MC内科専門研修プログラム説明及びレクチャーをWEBにて開催した。

## 3）卒前研修　　責任者　和泉 泰衛

### 卒前委員会の概要

1）委員会の紹介

卒前研修委員会は、主に医学部学生の卒前研修教育質向上を目的として、研修委員会下部組織として2012年に新たに立ち上げられた。当院で担う医学部学生の卒前研修教育は大きく二つに分けられる。一つは長崎大学医学部・自治医科大学医学部6年生に行う高次臨床実習（クリニカルクラークシップ）で、もう一つは長崎大学を含む諸大学から受け入れる1ヶ月以下の短期間の臨床実習である。定期的な委員会の開催はなく、研修管理委員会の際に当該問題について随時話し合う形式をとっている。

2）構成

委員長：和泉泰衛（内科部長）

委　員：中道親昭（高度救命救急センター長）

黒木　保（副院長）

3）高次臨床実習（クリニカルクラークシップ）

①長崎大学

第1ターム6名、第2ターム5名、第3ターム5名、第4ターム3名、第5ターム6名、第6ターム4名

②自治医科大学

5月　2名

### 卒前委員会の実績

2012年から受け入れ体制として、カリキュラム、手順、規約、同意書等を作成した。各診療科単位で行っている短期の医学生実習（ポリクリ）に加え、2013年5月から、長崎大学医学部6年生の高次臨床実習の受け入れを開始した。その後、2014年度からは自治医科大学などからも臨床実習の受け入れを開始した。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 高度救命救急センター

責任者　中道 親昭

## 診療科の特色

・長崎県で 3 次救急医療を行う高度救命救急センターである。
・長崎県ドクターヘリ及び医師等同乗救急車（EMTAC）に搭乗し、病院前での早期治療を行っている。
・24時間体制で、一次二次医療施設から紹介された重症患者を受け入れている。
・日本DMAT5チーム以上の人員がおり、国内の大規模災害や集団災害に即時対応できる体制を有している。
・統括DMAT研修の修了者が 6 名在籍、県内での災害時に県庁や実際の現場での調整を担うことになる。長崎DMATの中心的役割を担っている。
・原子力災害拠点病院である当院の中心的役割を担い、原子力災害医療派遣チームを有する。
・へき地中核親元病院として、長崎県の離島で発生した救急患者を長崎県ドクターヘリや自衛隊・海上保安庁・防災ヘリにて受入を行っている。
・離島医療支援として、画像伝送システムを活用し、当院の専門医や救急医が支援を行っている。
・医師や看護師、消防関係者など医療関係者に対して救急医療に関する教育を行っている。
・BLS、ACLS、JMECC、JATEC、JPTEC、MCLS、DMAT、TNTなどインストラクターを擁し、多方面にわたる指導を展開している。
・新型コロナウイルス対応として対応病床を有し、重症患者の受入を行っている。

## 入院診療実績

| 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | （再掲）死亡 | |
| 4,903人 | 13.4人 | 1,072人 | 141人 | 40人 | 8.1日 |

| 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| － | － | － | － | 5 件 | 12.5% |

**診療科別入院患者住所分布**

**※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）**

| 大村市 | 諫早市 | 東彼杵町 | 川棚町 | 波佐見町 | 雲仙市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 423人（39.5%） | 252人（23.5%） | 22人（2.1%） | 25人（2.3%） | 8 人（0.7%） | 82人（7.6%） |

| 島原市 | 南島原市 | 長崎市 | 西彼杵郡 | 西海市 | 佐世保市 |
|---|---|---|---|---|---|
| 37人（3.5%） | 38人（3.5%） | 29人（2.7%） | 11人（1.0%） | 2 人（0.2%） | 15人（1.4%） |

| 平戸市 | 松浦市 | 五島市 | 南松浦郡 | 北松浦郡(小値賀) | 佐々町 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 人（0.1%） | 2 人（0.2%） | 26人（2.4%） | 21人（2.0%） | － | － |

| 壱岐市 | 対馬市 | 佐賀県 | その他県外 |
|---|---|---|---|
| 17人（1.6%） | 13人（1.2%） | 11人（1.0%） | 37人（3.5%） |

| 合計 |
|---|
| 1,072人 |

**主要10疾患**　　**主要疾患別臨床統計**

| 疾患名 | ICD-10 | 患者数 |
|---|---|---|
| 1）脳梗塞 | I63 | 102 |
| 2）脳内出血 | I61 | 92 |
| 3）外傷性頭蓋内損傷 | S06 | 90 |
| 4）くも膜下出血 | I60 | 63 |
| 5）急性心筋梗塞 | I21 | 39 |
| 6）急性薬物中毒 | T36-50 | 36 |
| 7）大腿骨骨折 | S72 | 33 |
| 8）腰椎・骨盤骨折 | S32 | 30 |
| 9）イレウス | K56 | 27 |
| 10）敗血症 | A40-41 | 24 |
| 11）心不全 | I50 | 22 |
| 12）てんかん | G40-41 | 21 |
| 13）肋骨・胸骨・胸椎の骨折 | S22 | 20 |
| 13）下腿骨折 | S82 | 20 |

**主要10手術**　　**臨床統計**

| 術式名 | Kコード | 件数 |
|---|---|---|
| 1）骨折観血的手術 | K046 | 44 |
| 2）頭蓋内血腫除去術 | K164 | 36 |
| 3）一時的創外固定骨折治療術 | K046-3 | 29 |
| 4）脳動脈瘤頸部クリッピング | K177 | 27 |
| 5）テブリードマン | K002 | 25 |
| 6）脳血管内手術 | K178 | 23 |
| 7）穿頭脳室ドレナージ | K145 | 18 |
| 8）小腸切除術 | K716 | 15 |
| 9）創傷処理 | K000 | 12 |
| 10）慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術 | K164-2 | 10 |
| 10）人工骨頭挿入術 | K081 | 10 |
| 10）脊椎固定術 | K142 | 10 |

**厚生労働省　救命救急センター　重篤救急患者数**

| 番号 | 疾病名 | 基準（基準を満たすもののみ数えること） | 患者数(人) |
|---|---|---|---|
| 1 | 病院外心停止 | 病院前心拍再開例、外来での死亡確認例を含む | 74 |
| 2 | 重症急性冠症候群 | 切迫心筋梗塞、急性心筋梗塞又は緊急冠動脈カテーテル施行例 | 49 |
| 3 | 重症大動脈疾患 | 急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂 | 13 |
| 4 | 重症脳血管障害 | 来院時JCS 100以上または開頭術もしくは血管内手術施行例、あるいはtPA療法施行例 | 194 |
| 5 | 重症外傷 | Max AISが3以上または緊急手術施行例 | 202 |
| 6 | 重症熱傷 | Artzの基準による | 6 |
| 7 | 重症急性中毒 | 来院時JCS 100以上又は血液浄化法施行例 | 17 |
| 8 | 重症消化管出血 | 緊急内視鏡施行例 | 13 |
| 9 | 重症敗血症 | 感染性SIRSで臓器不全、組織低灌流又は低血圧を呈する例 | 58 |
| 10 | 重症体温異常 | 熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈する例 | 10 |
| 11 | 特殊感染症 | ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等 | 5 |
| 12 | 重症呼吸不全 | 人工呼吸器管理症例（1～11を除く） | 64 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 重症急性心不全 | 人工呼吸器管理症例もしくはSwan-Ganzカテーテル、PCPSまたはIABP使用症例（1～11を除く） | 21 |
| 14 | 重症出血性ショック | 24時間以内に10単位以上の輸血必要例（1～11を除く） | 13 |
| 15 | 重症意識障害 | JCS 100以上が24時間以上持続（1～11を除く） | 21 |
| 16 | 重篤な肝不全 | 血漿交換または血液浄化療法施行例（1～11を除く） | 1 |
| 17 | 重篤な急性腎不全 | 血液浄化療法施行例（1～11を除く） | 4 |
| 18 | その他の重症病態 | 重症膵炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群などで持続動注療法、血漿交換または手術療法を実施した症例（1～17を除く） | 136 |
| | 計 | | 901 |

## 研修・教育

**カンファレンス**

| 名称 | 開催頻度 |
|---|---|
| 救命センターカンファランス | 毎日 8 時45分及び16時30分 |
| 脳神経カンファランス | 毎週木曜日午前中 |
| 脳卒中カンファランス | 毎週火曜日午後 |
| リハビリカンファランス | 毎週水曜日午後 |
| 栄養カンファランス | 毎週金曜日午後 |
| RSTカンファランス | 毎週火曜日午後 |
| 抄読会 | 毎週水曜日17時30分 |
| 院内講義（研修医・JNP・医学生対象） | 毎週木曜日夕方 |
| 県央消防本部合同勉強会 | 毎月第 3 火曜日18時30分 |
| 長崎県ドクターヘリ症例検討部会 | 3、5、7、9、11月第 2 水曜日 |
| 長崎県消防学校救急科教育 | 1～3 月 |
| 県央県南MC協議会症例検討会 | 2 月、9 月 |

## 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

- ICUレジストリー
- 心停止症例、MET対応症例レジストリー
- 外傷症例レジストリー
- RSTレジストリー
- 血液浄化症例レジストリー

## 学会・論文など

**1）原著論文**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）**

**2）学会発表**　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 2 | 5 | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

**3）学術講演**　　**（件数）**

| 種類 | 学術講演会 |
|---|---|
| 件数 | 1 |

**4）学会座長**　　**（件数）**

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 1 |

**（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）**

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

**B：国内学会**

**B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等**

**＜シンポジウム＞**

1）救急医が考える救急初療における看護師へのタスクシフト・シェアに向けて必要なこと.
中道親昭.
救急看護の専門性を高める救急初療でのタスクシフト・シェア. 第25回日本救急看護学会学術集会. 長崎, 2023.11.25.

**B-b2：一般演題**

**＜口演発表＞**

1）院内における脳死下臓器移植シミュレーションの取り組みと、移植医療を経験して.
内田雄三、鳥巣藍、小渕幸稔、松尾徳久、淺野太郎、重野晃宏、日比野愛子、中原知之、権志成、白水春香、日宇宏之、増田幸子、山田成美、中道親昭.
一般演題10　システム・人材. 第27回日本救急医学会九州地方会. 福岡, 2023.5.13.

2）DKAにNOMIを合併した2症例.
中原知之、鳥巣藍、小渕幸稔、松尾徳久、淺野太郎、重野晃宏、日比野愛子、権志成、白水春香、内田雄三、日宇宏之、増田幸子、山田成美、中道親昭.
一般演題4　内因性疾患・その他. 第27回日本救急医学会九州地方会. 福岡, 2023.5.13.

3）マムシ咬傷に対して抗毒素血清を計4バイアル（24000単位）投与した2症例.
後藤すみれ、白水春香、松尾徳久、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、権志成、日宇宏之、増田幸子、中道親昭、福井季代子、藤岡正樹.
一般演題4　救急症例の報告. 第31回長崎救急医学会. web, 2023.9.16.

4）成人T細胞白血病に合併した脾破裂の一例.
安倍翔、増田幸子、松尾徳久、小渕幸稔、重野晃宏、淺野太郎、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、白水春香、権志成、内田雄三、日宇宏之、中道親昭、三浦史郎.
一般演題 4　救急症例の報告. 第31回長崎救急医学会. web, 2023.9.16.

5）災害時におけるドクターヘリ参集及び運用の在り方に関する検討.
中道親昭、増田幸子、日宇宏之、白水春香、権志成、中原知之、日比野愛子、内田雄三.
システム・体制・その他 2 . 第30回日本航空医療学会総会. 釧路, 2023.11.3.

**B-c：研究会発表**

**＜口演発表＞**

1）肥満患者における敗血症重症化リスクの解析－Plasminogen activator inhibitor-1を用いた検討－.
鳥巣藍、山田成美、俵口結衣、松尾徳久、小渕幸稔、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、日比野愛子、中原知之、白水春香、権志成、日宇宏之、増田幸子、中道親昭.
県央敗血症治療講演会. 大村, 2023.2.17.

2）肥満患者における敗血症重症化リスクの解析－Plasminogen activator inhibitor-1を用いた検討－.
鳥巣藍、山田成美、俵口結衣、松尾徳久、小渕幸稔、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、日比野愛子、中原知之、白水春香、権志成、日宇宏之、増田幸子、中道親昭.
院内研究発表会. 大村, 2023.3.2.

**F：学術講演他**

**F-b：学会・研究会座長[国内学会]**

**＜講演＞**

1）中道親昭.
県央敗血症治療講演会. 大村, 2023.2.17.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 長崎県ドクターヘリ

責任者　中道 親昭

## 診療科の特色

長崎県事業主体で、基地病院を当院として2006年12月より開始し、要請基準として生命の危機がある場合に加え2011年よりキーワード要請方式も追加して運用している。

・2023年は、710件の出動をおこなった。
・運航時間は、毎日365日 8 ：30から日没30分前まで運航している。
・フライトドクターは 8 名、フライトナースは10名で活動を行っており、今後も育成予定である。
・使用機種は、エアバス社製BK117D2/H145を使用している。
・2014年 8 月に駐機場と格納庫ができ、機体の保守点検・機体入れ替えを行っている。
・運航調整委員会が年 1 回行われ運営方針などを決定している。
・症例検討部会にて事例の検討を年 5 回実施している。
・安全管理部会を、定期的に開催している。
・毎月フライトドクター・ナース及び運航部とミーティングを開催している。
・2006年12月 1 日～ 2023年12月31日にて、総出動件数12355件であった。

## 運行実績

**2023年 1 月から12月までの運航状況**

12 ヶ月の要請件数は906件で、出動件数は710件でした。

| 2023年 | | 全要請件数 | 906 | 全出動件数 | 710 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大項目 | | 中項目 | | 小項目 | 小計 |
| 現場要請 | 661 | 出動 | 345 | 出動 | 345 |
| | | 出動後キャンセル | 121 | 天候不良 | 3 |
| | | | | 消防よりキャンセル | 118 |
| | | | | その他 | 0 |
| | | 出動前キャンセル | 195 | 天候不良 | 54 |
| | | | | 出動中 | 128 |
| | | | | 日没・時間外 | 12 |
| | | | | 消防よりキャンセル | 1 |
| | | | | その他 | 0 |

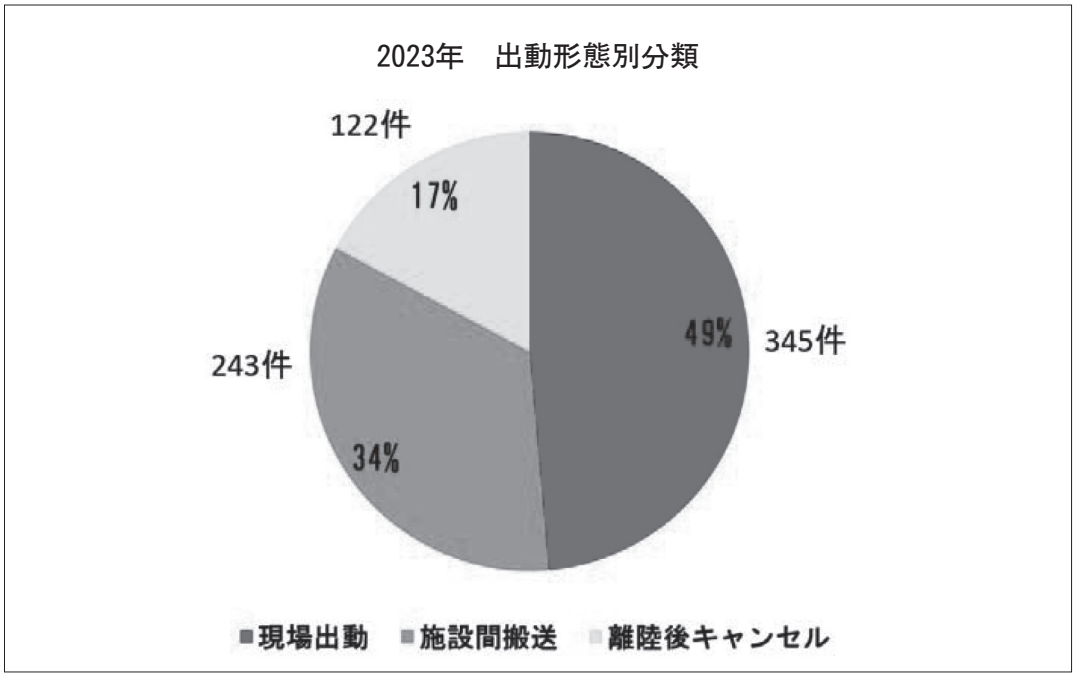
| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 施設間 | 245 | 出動 | 243 | 出動 | 243 |
| | | 出動後キャンセル | 1 | 天候不良 | 1 |
| | | | | 施設よりキャンセル | 0 |
| | | | | その他 | 0 |
| | | 出動前キャンセル | 1 | 天候不良 | 0 |
| | | | | 出動中 | 0 |
| | | | | 日没・時間外 | 0 |
| | | | | 施設よりキャンセル | 0 |
| | | | | その他 | 1 |

710件の要請機関を以下に示します。

| 2023年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長崎市 | 3 | 5 | 5 | 6 | 7 | 3 | 4 | 3 | 3 | 1 | 2 | 1 | 43 |
| 佐世保市 | 6 | 10 | 6 | 6 | 5 | 4 | 8 | 11 | 11 | 7 | 12 | 8 | 94 |
| 平戸市 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 6 | 5 | 4 | 5 | 1 | 3 | 7 | 43 |
| 島原 | 10 | 7 | 5 | 11 | 10 | 10 | 9 | 10 | 15 | 13 | 10 | 5 | 115 |
| 県央 | 17 | 15 | 24 | 16 | 10 | 11 | 14 | 16 | 13 | 13 | 8 | 14 | 171 |
| 松浦 | 6 | 4 | 4 | 2 | 6 | 4 | 6 | 2 | 4 | 4 | 4 | 1 | 47 |
| 対馬 | 1 | 2 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 5 | 4 | 0 | 17 |
| 壱岐 | 2 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 8 | 4 | 1 | 30 |
| 五島 | 0 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 16 |
| 新上五島 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 | 2 | 0 | 3 | 5 | 4 | 2 | 3 | 35 |
| 診療所・離島 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他要請機関 | 6 | 3 | 8 | 8 | 9 | 4 | 3 | 9 | 9 | 9 | 10 | 6 | 84 |
| 佐賀広域 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 唐津市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 5 |
| 伊万里・有田 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 杵藤地区 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 8 |
| 鳥栖・三養基地区 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 佐賀県その他医療機関 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他要請機関（長崎・佐賀以外） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 海上保安庁 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
|  | 56 | 56 | 65 | 61 | 55 | 46 | 55 | 65 | 70 | 71 | 61 | 49 | 710 |

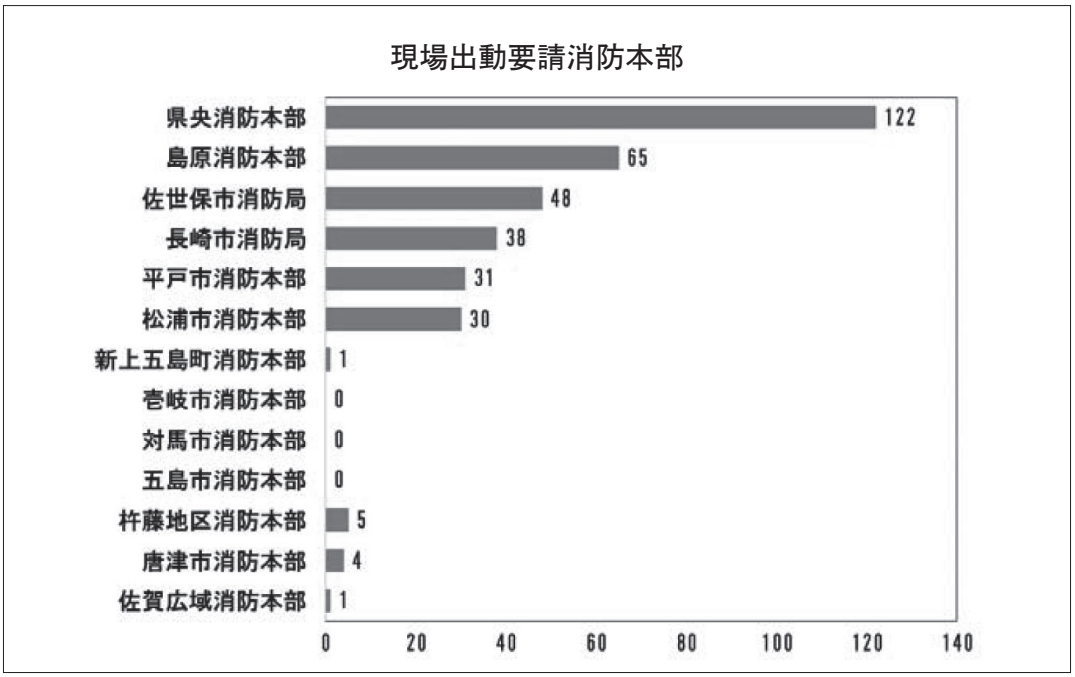
＊その他の要請機関は、長崎県内のヘリポートを有する医療機関である。

**現場出動と施設間搬送の割合**

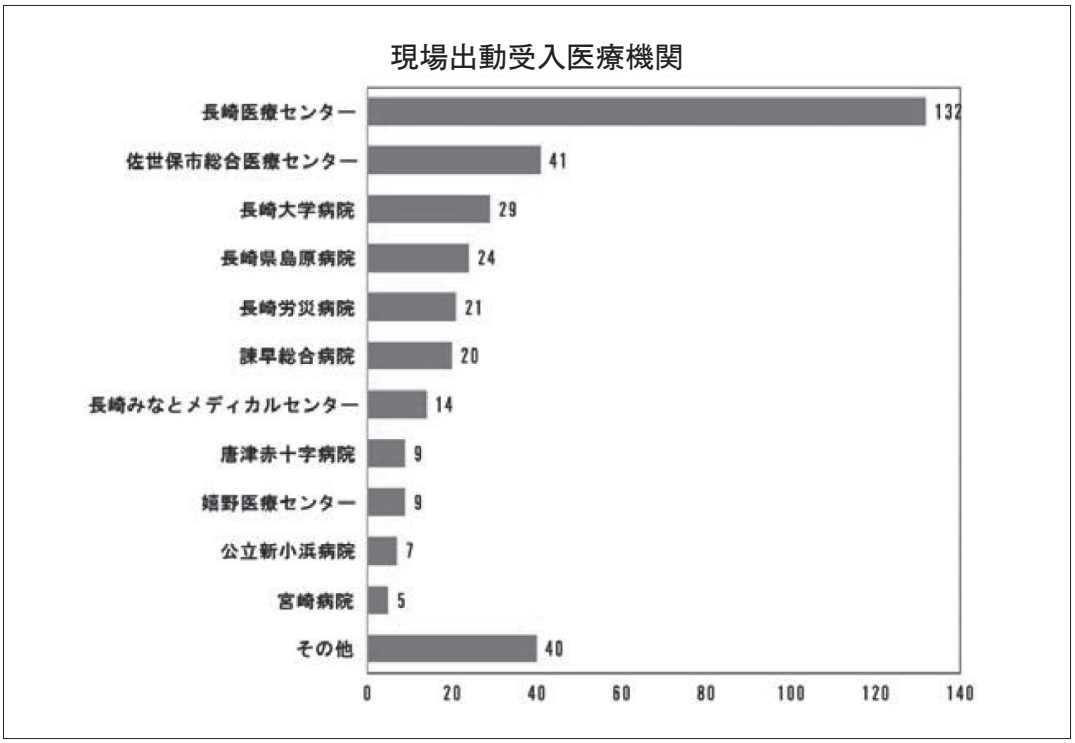


**現場要請（345件）に関して**

1．消防本部別の件数

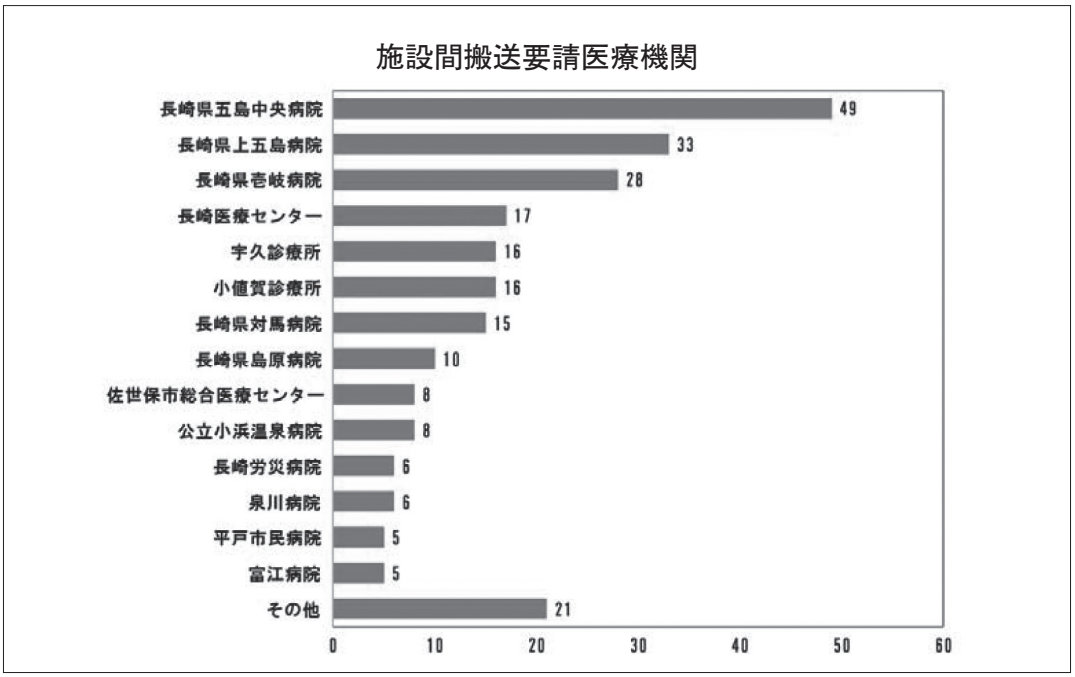



2．受入医療機関別件数

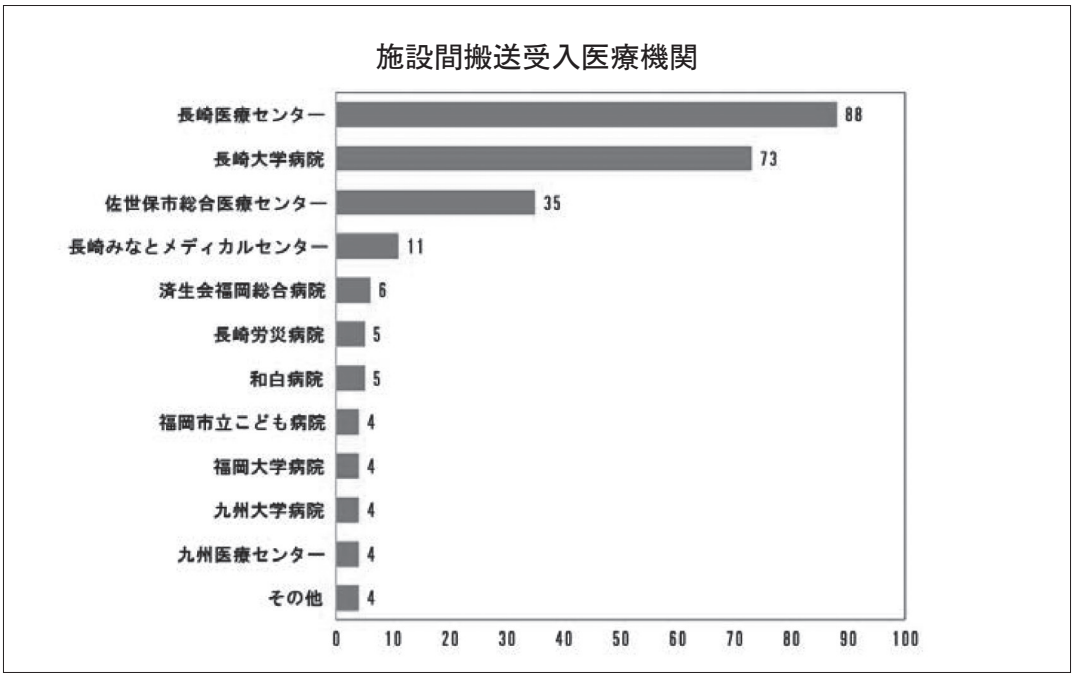


施設間搬送（243件）に関して

1．搬送元医療機関別の件数




2．搬送先医療機関別の件数



予後の改善効果に関して

**予後の改善効果に関して（集計可能であった497例での解析）**
**死亡を回避できた事例（防ぎえた死亡）は、14例であった。**

| | ドクターヘリ転帰（例） | 救急車推定転帰（例） | |
|---|---|---|---|
| 死亡 | 42 | 56 | 14減 |
| 植物状態 | 2 | 6 | 4減 |
| 重症後遺症 | 75 | 95 | 20減 |
| 中等度後遺症 | 114 | 118 | 4減 |
| 回復・社会復帰 | 263 | 222 | 41増 |
| 計 | 496 | 497 | |

**8.2%（41例/497例）に予後改善効果あり**
**2.8%（14例/497例）に死亡回避効果あり**

## 学会・論文など

1）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 英文論文 | 邦文査読あり | 邦文査読なし | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | 0 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　（件数）

| 種類 | 国際学会 |
|---|---|
| 件数 | 0 |

4）学会座長　　（件数）

| 種類 | 国際学会 | 全国学会 | 地方会 | 研究会 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 |

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

## 研究業績

**学会・研究会・講演**

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演発表＞

1）災害時におけるドクターヘリ参集及び運用の在り方に関する検討.
中道親昭、増田幸子、日宇宏之、白水春香、権志成、中原知之、日比野愛子、内田雄三.
システム・体制・その他 2 . 第30回日本航空医療学会総会. 釧路, 2023.11.3.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 防災センター・ベッドセンター・車庫

責任者　増田 賢武

## 防災センター

**設備年間整備計画**

| 機械・設備名 | 項　　目 | 整備回数 |
|---|---|---|
| **エネルギー設備** | | |
| ガスタービン発電機 | 法定・機能維持に伴う整備 | 2 |
| ボイラー設備洗缶工事 | 機能維持に伴う整備 | 1 |
| 第一種圧力容器 | 法定・機能維持に伴う整備 | 1 |
| **冷暖房設備** | | |
| 冷凍機設備点検 | 法定・機能維持に伴う整備 | 2 |
| 排ガス測定 | 法定・機能維持に伴う整備 | 1 |
| フィルター清掃 | 機能維持に伴う整備 | 2 |
| フィルター取り替え（空調機用） | 機能維持に伴う整備 | 2 |
| **建築設備** | | |
| 受水槽清掃 | 法定・機能維持に伴う整備 | 1 |
| 消防設備点検 | 法定・機能維持に伴う整備 | 2 |
| 昇降機点検（エレベーター） | 法定・機能維持に伴う整備 | 24 |
| 排水除外設備 | 機能維持に伴う整備 | 12 |
| 9階無菌室点検 | 機能維持に伴う整備 | 1 |
| RO水製造設備点検 | 機能維持に伴う整備 | 4 |
| **医療ガス設備** | | |
| 医療ガス保守点検（吸引・非治療用空気） | 法定・機能維持に伴う整備 | 4 |
| 医療ガス保守点検（空気） | 法定・機能維持に伴う整備 | 12 |
| 医療ガス保守点検（CE） | 法定・機能維持に伴う整備 | 1 |
| 医療ガス保守点検（マニホールド） | 法定・機能維持に伴う整備 | 4 |
| 医療ガス保守点検（アウトレット） | 法定・機能維持に伴う整備 | 4 |

エネルギー使用量

| | 市水使用量 | 雨水使用量 | 都市ガス使用量 | 電力使用量 |
|---|---|---|---|---|
| 2023年 1 月 | 8,892㎥ | 583㎥ | 133,788㎥ | 965,693Kwh |
| 2023年 2 月 | 8,823㎥ | 671㎥ | 116,179㎥ | 861,600Kwh |
| 2023年 3 月 | 9,947㎥ | 635㎥ | 81,679㎥ | 947,049Kwh |
| 2023年 4 月 | 9,794㎥ | 976㎥ | 57,726㎥ | 928,272Kwh |
| 2023年 5 月 | 10,026㎥ | 1,460㎥ | 55,782㎥ | 964,666Kwh |
| 2023年 6 月 | 11,920㎥ | 1,760㎥ | 94,694㎥ | 1,008,528Kwh |
| 2023年 7 月 | 11,575㎥ | 2,650㎥ | 147,315㎥ | 910,224Kwh |
| 2023年 8 月 | 12,518㎥ | 2,409㎥ | 153,183㎥ | 1,000,637Kwh |
| 2023年 9 月 | 11,907㎥ | 1,915㎥ | 131,924㎥ | 892,147Kwh |
| 2023年10月 | 10,677㎥ | 915㎥ | 76,243㎥ | 946,195Kwh |
| 2023年11月 | 8,998㎥ | 726㎥ | 66,856㎥ | 895,920Kwh |
| 2023年12月 | 9,294㎥ | 574㎥ | 110,274㎥ | 963,542Kwh |
| 年間 | 124,371㎥ | 15,274㎥ | 1,225,643㎥ | 11,284,473Kwh |

## 車庫

救急車患者搬送エリア別（2023年 1 月～ 12月）

| 区分 | エリア | 搬送件数 |
|---|---|---|
| 県内 | 県央地域（95件） | |
| | 大村地区 | 66件 |
| | 長崎空港 | 0件 |
| | 航空隊 | 1件 |
| | 諫早地区 | 39件 |
| | 県南地域（20件） | |
| | 雲仙・小浜地区 | 7件 |
| | 島原地区 | 21件 |
| | 愛野地区 | 4件 |
| | 長崎地域（33件） | |
| | 長崎地区 | 29件 |
| | 佐世保地域（20件） | |
| | 佐世保地区 | 11件 |
| | 東彼杵地区 | 8件 |
| | 五島・壱岐・対馬地域（ 0件） | |
| | 五島地区 | 0件 |
| | 県内　計 | 186件 |
| 県外 | 佐賀県（ 2件） | |
| | 福岡県（ 9件） | |
| | 熊本県（ 0件） | |
| | 県外　計 | 11件 |
| | 合　計 | 197件 |

## ベッドセンター

**マットレス洗浄・消毒（2023年）**　　単位：枚

| 病棟 | 種類 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3A | 清掃 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| | 貸出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | **2** | 0.2 |
| 3B | 清掃 | 43 | 62 | 70 | 56 | 55 | 63 | 62 | 44 | 49 | 56 | 57 | 58 | **675** | 56.3 |
| | 貸出 | 6 | 10 | 4 | 4 | 11 | 9 | 1 | 3 | 4 | 2 | 2 | 5 | **61** | 5.1 |
| 4A | 清掃 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | **24** | 2.0 |
| | 貸出 | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 1 | 2 | **13** | 1.1 |
| 4B | 清掃 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 6 | 17 | 9 | **34** | 2.8 |
| | 貸出 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 | **15** | 1.3 |
| 4C | 清掃 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| | 貸出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 5A | 清掃 | 5 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | **12** | 1.0 |
| | 貸出 | 5 | 8 | 13 | 8 | 11 | 11 | 5 | 14 | 13 | 5 | 6 | 7 | **106** | 8.8 |
| 5B | 清掃 | 86 | 77 | 97 | 83 | 102 | 106 | 88 | 112 | 89 | 105 | 90 | 114 | **1,149** | 95.8 |
| | 貸出 | 9 | 9 | 7 | 9 | 8 | 10 | 12 | 5 | 7 | 9 | 5 | 5 | **95** | 7.9 |
| 6A | 清掃 | 50 | 63 | 71 | 72 | 68 | 81 | 68 | 80 | 79 | 84 | 70 | 91 | **877** | 73.1 |
| | 貸出 | 7 | 7 | 8 | 11 | 7 | 9 | 7 | 11 | 14 | 5 | 5 | 6 | **97** | 8.1 |
| 6B | 清掃 | 60 | 64 | 64 | 67 | 62 | 73 | 60 | 65 | 72 | 64 | 71 | 67 | **789** | 65.8 |
| | 貸出 | 2 | 5 | 8 | 12 | 10 | 7 | 6 | 6 | 7 | 9 | 4 | 3 | **79** | 6.6 |
| 7A | 清掃 | 65 | 60 | 69 | 64 | 59 | 76 | 69 | 65 | 61 | 65 | 61 | 60 | **774** | 64.5 |
| | 貸出 | 3 | 6 | 5 | 8 | 3 | 6 | 5 | 3 | 4 | 4 | 4 | 8 | **59** | 4.9 |
| 7B | 清掃 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| | 貸出 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **6** | 0.5 |
| 8A | 清掃 | 0 | 0 | 15 | 12 | 0 | 0 | 0 | 11 | 8 | 10 | 8 | 3 | **67** | 5.6 |
| | 貸出 | 10 | 12 | 6 | 7 | 12 | 9 | 8 | 15 | 6 | 9 | 8 | 12 | **114** | 9.5 |
| 8B | 清掃 | 72 | 79 | 97 | 73 | 76 | 73 | 90 | 82 | 87 | 96 | 74 | 78 | **977** | 81.4 |
| | 貸出 | 10 | 10 | 9 | 9 | 7 | 12 | 12 | 13 | 11 | 10 | 10 | 10 | **123** | 10.3 |
| 9A | 清掃 | 37 | 56 | 75 | 52 | 62 | 78 | 60 | 73 | 59 | 58 | 65 | 72 | **747** | 62.3 |
| | 貸出 | 13 | 14 | 9 | 5 | 14 | 9 | 5 | 7 | 10 | 15 | 15 | 15 | **131** | 10.9 |
| 9B | 清掃 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | **2** | 0.2 |
| | 貸出 | 4 | 8 | 6 | 9 | 8 | 10 | 11 | 11 | 9 | 18 | 12 | 10 | **116** | 9.7 |
| 計 | 清掃 | 438 | 462 | 561 | 479 | 484 | 551 | 497 | 533 | 507 | 544 | 513 | 558 | **6,127** | 510.6 |
| | 貸出 | 76 | 91 | 78 | 86 | 92 | 92 | 75 | 92 | 89 | 87 | 72 | 87 | **1,017** | 84.8 |
| **稼働日数** | | **19** | **19** | **22** | **20** | **20** | **22** | **20** | **22** | **20** | **21** | **20** | **20** | **245** | **20.4** |
| 1日平均 | 清掃 | 23.1 | 24.3 | 25.5 | 24.0 | 24.2 | 25.0 | 24.9 | 24.2 | 25.4 | 25.9 | 25.7 | 27.9 | 年間1日平均 | 25.0 |
| | 貸出 | 4.0 | 4.8 | 3.5 | 4.3 | 4.6 | 4.2 | 3.8 | 4.2 | 4.5 | 4.1 | 3.6 | 4.4 | | 4.2 |

**シーツ交換定期・臨時（2023年）**

単位：台

| 病棟 | 種類 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3B | 定期 | 52 | 56 | 63 | 51 | 45 | 62 | 43 | 40 | 55 | 50 | 35 | 50 | **602** | 50.2 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 4A | 定期 | 21 | 19 | 28 | 16 | 23 | 22 | 26 | 27 | 16 | 20 | 28 | 20 | **266** | 22.2 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 4B | 定期 | 70 | 71 | 82 | 51 | 72 | 74 | 71 | 93 | 70 | 71 | 89 | 70 | **884** | 73.7 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 5A | 定期 | 60 | 78 | 47 | 46 | 94 | 54 | 75 | 82 | 68 | 80 | 67 | 74 | **825** | 68.8 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 5B | 定期 | 37 | 55 | 55 | 50 | 67 | 39 | 52 | 51 | 41 | 50 | 54 | 58 | **609** | 50.8 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 6A | 定期 | 50 | 77 | 68 | 58 | 83 | 35 | 67 | 69 | 54 | 62 | 67 | 83 | **773** | 64.4 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 6B | 定期 | 106 | 83 | 141 | 106 | 86 | 153 | 98 | 131 | 102 | 108 | 105 | 108 | **1,327** | 110.6 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 7A | 定期 | 62 | 87 | 63 | 50 | 87 | 85 | 81 | 105 | 84 | 86 | 106 | 83 | **979** | 81.6 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 7B | 定期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 8A | 定期 | 52 | 64 | 73 | 50 | 40 | 74 | 42 | 35 | 67 | 59 | 40 | 57 | **653** | 54.4 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 8B | 定期 | 89 | 81 | 74 | 85 | 100 | 52 | 64 | 102 | 79 | 94 | 54 | 51 | **925** | 77.1 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 9A | 定期 | 78 | 96 | 132 | 100 | 82 | 133 | 75 | 74 | 102 | 90 | 63 | 94 | **1,119** | 93.3 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 透析 | 定期 | 88 | 66 | 110 | 88 | 66 | 110 | 66 | 110 | 88 | 88 | 88 | 88 | **1,056** | 88.0 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| 計 | 定期 | 765 | 833 | 936 | 751 | 845 | 893 | 760 | 919 | 826 | 858 | 796 | 836 | **10,018** | 834.8 |
| | 臨時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | **0** | 0.0 |
| **稼働日数** | | **19** | **19** | **22** | **19** | **20** | **20** | **20** | **22** | **20** | **21** | **20** | **20** | **242** | **20.2** |
| 1日平均 | 定期 | 40.3 | 43.8 | 42.5 | 39.5 | 42.3 | 44.7 | 38.0 | 41.8 | 41.3 | 40.9 | 39.8 | 41.8 | 年間1日平均 | 41.4 |
| | 臨時 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | | 0.0 |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# NHO共同研究、その他研究等（治験含む）【2022年度】

責任者　田川 努

## 1．NHO共同研究・EBM研究

| 区分 | 課題名 | 研究代表者名 | 研究代表者施設名 | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|---|
| NHO | 頭蓋内主幹脳動脈狭窄症の進行に関する血行力学的予測因子の探索研究（採択番号：R2-NHO(心脳)-02） | 福田俊一 | 京都医療センター | 案田岳夫 | 脳神経外科 |
| NHO | メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究（採択番号：H28-NHO(多共)-02） | 星田義彦 | 大阪南医療センター | 伊東正博 | 病理診断科 |
| NHO | メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の遺伝子変異プロファイルの解析（採択番号：H31-NHO(多共)-02） | 星田義彦 | 大阪南医療センター | 伊東正博 | 病理診断科 |
| NHO | 腎移植後BKポリオーマウイルス感染症克服に向けた観察研究（採択番号：H30-NHO(糖尿)-02） | 圷　尚武 | 千葉東病院 | 大仁田亨 | 泌尿器科 |
| NHO | 関節リウマチに対する分子標的薬治療における免疫学的寛解のマーカーの探索（採択番号：H31-NHO(免アレ)-03） | 大島至郎 | 大阪南医療センター | 岡田覚丈 | 膠原病・リウマチ科 |
| NHO | 間質性肺疾患に合併した気胸症例における治療方針と治療成績の前向きリアルワールドデータ調査（採択番号：H31-NHO(呼吸)-01） | 原田洋明 | 東広島医療センター | 田川　努 | 呼吸器外科 |
| NHO | 先天性中・高度難聴児の就学年齢（6歳）における聴覚・言語・音声の獲得レベルに関する研究（採択番号：H30-NHO(感覚)-04） | 加我君孝 | 東京医療センター | 田中藤信 | 耳鼻咽喉科 |
| NHO | 言語聴覚リハビリテーションの向上を目的とした先天性難聴の遺伝的原因と生後早期の経過の解明－新たな研究推進－（採択番号：H27-NHO(感覚)-02） | 松永達雄 | 東京医療センター | 田中藤信 | 耳鼻咽喉科 |
| NHO | 先天性難聴のゲノム解析による遺伝的要因と臨床像の包括的解明および有用性の高い遺伝学的検査の開発（採択番号：H30-NHO(感覚)-01） | 松永達雄 | 東京医療センター | 田中藤信 | 耳鼻咽喉科 |
| NHO | 慢性線維化性特発性間質性肺炎の適正な診断治療法開発のための調査研究（採択番号：H26-NHO(呼吸)-01） | 井上義一 | 近畿中央呼吸器センター | 長島聖二 | 呼吸器内科 |
| NHO | West症候群発病後の発達障害出現に関わる後天的要因の研究（採択番号：H31-NHO(小産)-01） | 高橋幸利 | 静岡てんかん・神経医療センター | 本田涼子 | 小児科 |
| NHO | 人工知能を用いた分娩時大量出血症例における凝固障害の病態解明と新しい産科DICスコアの開発（採択番号：H31-NHO(小産)-02） | 多田克彦 | 岡山医療センター | 安日一郎 | 産婦人科 |
| NHO | B型慢性肝疾患に対する核酸アナログ長期投与例の課題克服および電子的臨床検査情報収集（EDC）システムを用いた多施設大規模データベースの構築（採択番号：H31-NHO(消化)-03） | 阪森亮太郎 | 大阪医療センター | 八橋　弘 | 肝臓内科 |
| NHO | 成人初発未治療びまん性大細胞型B 細胞リンパ腫における R CHOP 単独治療と放射線併用療法の治療成績、QOL 、費用、費用対効果の多施設共同前向きコホート研究（採択番号：H28-NHO(血液)-02） | 堤　育代 | 水戸医療センター | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| NHO | 未治療濾胞性リンパ腫におけるObinutuzumabの治療成績、QOL、費用対効果、予後に関する多施設前向きコホート研究（採択番号：H31-NHO(血液)-01） | 堤　育代 | 水戸医療センター | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| NHO | B細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャー RNA-seqを用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究（採択番号：H31-NHO(血液)-02） | 安田貴彦 | 名古屋医療センター | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| NHO | 原発性胆汁性胆管炎の新しい病型分類と創薬のための長期観察研究（採択番号：R2-NHO(消化)-01） | 中村　稔 | 長崎医療センター | 中村　稔 | 肝臓内科 |
| NHO | 薬物性肝障害および急性発症型自己免疫性肝炎を含む急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究（採択番号：R3-NHO(消化)-03） | 山﨑一美 | 長崎医療センター | 山﨑一美 | 肝臓内科 |
| EBM | 膵がん切除後の補助化学療法におけるS-1単独療法とS-1とメトホルミンの併用療法の非盲検ランダム化第Ⅱ相比較試験（ASMET）（採択番号：H26-EBM(介入)-03） | 古川正幸 | 九州がんセンター | 佐伯　哲 | 肝臓内科 |
| EBM | 我が国における左冠動脈主幹部インターベンションに対するコホート研究（LM-JANHO）（採択番号：H29-EBM(観察)-02） | 村里嘉信 | 九州医療センター | 深江貴芸 | 循環器内科 |
| EBM | 免疫抑制患者に対する13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体型肺炎球菌ワクチンの連続接種と23価莢膜多糖体型肺炎球菌ワクチン単独接種の有効性の比較－二重盲検無作為化比較試験－（CPI STUDY）（採択番号：H27-EBM(介入)-01） | 丸山貴也 | 三重病院 | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| EBM | 未治療多発性骨髄腫における遺伝子解析による治療感受性・予後予測因子の探索的研究（NGSMM研究）（採択番号：H26-遺伝子-02） | 饗場郁子 | 東名古屋病院 | 吉田真一郎 | 血液内科 |

## 2．競争的研究資金他

●区分（財源別）
①文部科学省科学研究費
②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）
④科学技術振興機構科学研究費
⑤その他文部科学省関連研究費
⑥厚生労働科学研究費
⑦国立高度専門医療センター等研究費
⑧その他厚生労働省関連研究費
⑨日本医療研究開発機構研究費
⑩その他財団等からの研究費
⑪民間セクターからの寄附金

| 区分 | 研究課題名 | 責任医師 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 研究種別 | 責任医師等診療科 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ② | 妊婦における腰痛骨盤痛と筋量との関連についての研究【22H04415】 | 林　勝仁 | 奨励研究 | 主任 | 新規 | 補助金 | リハビリテーション科 |
| ② | 日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究【20H03918】 | 本田和也 | 基盤(B)一般 | 分担 | 継続 | 補助金 | JNP |
| ③ | 統合解析データに基づく原発性胆汁性胆管炎におけるPRKCBの解析【20K08370】 | 相葉佳洋 | 基盤(C)一般 | 主任 | 継続 | 補助金 | 臨床研究センター |
| ③ | 統合解析データに基づく原発性胆汁性胆管炎におけるPRKCBの解析【20K08370】 | 伊東正博 | 基盤(C)一般 | 分担 | 継続 | 補助金 | 病理診断科 |
| ③ | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】 | 伊藤健大 | 基盤(C)一般 | 分担 | 新規 | 補助金 | JNP |
| ③ | チェルノブイリ放射線誘発甲状腺がんの遺伝子バンク設立と分子遺伝疫学国際共同研究【20KK0217】 | 伊東正博 | 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化（B)) | 分担 | 継続 | 補助金 | 病理診断科 |
| ③ | 小児難治てんかん手術例における脳梁髄鞘化の発達プロファイリング【20K09402】 | 小野智憲 | 基盤(C)一般 | 主任 | 継続 | 補助金 | 脳神経外科 |
| ③ | bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発【22K07615】 | 藤岡正樹 | 基盤(C)一般 | 分担 | 新規 | 補助金 | 形成外科 |
| ③ | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】 | 本田和也 | 基盤(C)一般 | 主任 | 新規 | 補助金 | JNP |
| ③ | 小児難治てんかん手術例における脳梁髄鞘化の発達プロファイリング【20K09402】 | 本田涼子 | 基盤(C)一般 | 分担 | 継続 | 補助金 | 小児科 |
| ③ | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】 | 森塚倫也 | 基盤(C)一般 | 分担 | 新規 | 補助金 | JNP |
| ③ | 脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】 | 諸藤陽一 | 基盤(C)一般 | 分担 | 新規 | 補助金 | 脳神経外科 |
| ③ | がん脳転移にぺりサイトが及ぼす影響をin vitro血液脳関門モデルで解明する【21K09154】 | 諸藤陽一 | 基盤(C)一般 | 分担 | 継続 | 補助金 | 脳神経外科 |
| ③ | 灌流型3次元血液脳関門モデルを用いた中枢神経保護薬の探求【21K09180】 | 諸藤陽一 | 基盤(C)一般 | 分担 | 継続 | 補助金 | 脳神経外科 |
| ⑤ | 脳内選択的ドラッグデリバリーシステムに注目した中枢神経疾患治療薬の開発【JPJSBP120219945】 | 諸藤陽一 | 二国間交流事業共同研究 | 分担 | 継続 | 補助金 | 脳神経外科 |
| ⑤ | ヒト初代培養細胞による３次元灌流型血液脳関門モデルの確立【JPJSBP120223802】 | 諸藤陽一 | 二国間交流事業共同研究 | 主任 | 新規 | 補助金 | 脳神経外科 |
| ⑥ | 難治性の肝・胆道に関する調査研究【20FC0201】 | 小森敦正 | 厚生労働科学研究費補助金 | 分担 | 継続 | 補助金 | 肝臓内科 |
| ⑥ | 希少てんかんに関する包括的研究【20FC1039】 | 本田涼子 | 厚生労働科学研究費補助金 | 分担 | 継続 | 補助金 | 小児科 |
| ⑥ | ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究【20ＨＣ2001】 | 八橋　弘 | 厚生労働行政推進調査事業費補助金 | 主任 | 継続 | 補助金 | 肝臓内科 |
| ⑥ | 薬害C型肝炎患者救済の実態把握のための調査研究【22KC2008】 | 八橋　弘 | 厚生労働行政推進調査事業費補助金 | 分担 | 新規 | 補助金 | 肝臓内科 |
| ⑥ | 血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究【21HB2002】 | 八橋　弘 | 厚生労働行政推進調査事業費補助金 | 分担 | 継続 | 補助金 | 肝臓内科 |
| ⑥ | オーダーメードな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究【21HC2001】 | 八橋　弘 | 厚生労働行政推進調査事業費補助金 | 分担 | 継続 | 補助金 | 肝臓内科 |
| ⑥ | 全国規模の肝炎ウイルス感染状況把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究【22HC1001】 | 山﨑一美 | 厚生労働科学研究費補助金 | 分担 | 新規 | 補助金 | 肝臓内科 |

| 区分 | 研究課題名 | 責任医師 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 研究種別 | 責任医師等診療科 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑨ | 肝類洞内皮のバリア破綻と生活習慣病に起因する非Ｂ非Ｃ型肝炎・肝がん発症機序の解明【22fk0210073h0003】 | 小森敦正 | 肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業 | 分担 | 継続 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑨ | 肝硬変患者のＱＯＬの向上及び予後改善に資する研究【22fk0210069h0003】 | 八橋　弘 | 肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業 | 主任 | 継続 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑨ | インターフェロンフリー治療がC型肝硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究【22fk0210113h0001】 | 八橋　弘 | 肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業 | 分担 | 新規 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑨ | B型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム解析に関する研究と肝炎データストレージの利活用【22fk0210111h0001】 | 山﨑一美 | 肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業 | 分担 | 新規 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑨ | Nucleotide analog製剤の宿主免疫賦活能を利用してB型肝炎のHBs抗原消失率向上を目指す治療法の開発および創薬に関する研究【22fk0210112h0001】 | 山﨑一美 | 肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業 | 分担 | 新規 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑨ | Ｂ型肝炎再活性化に対する、費用対効果に優れた予防および治療法の開発【21fk0210085h0001】 | 山﨑一美 | 肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業 | 分担 | 継続 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑨ | 成人T細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立【21ck0106482h0003】 | 吉田真一郎 | 革新的がん医療実用化研究事業 | 分担 | 継続 | 委託 | 血液内科 |
| ⑩ | いわゆる「てんかん性脳症」における未熟アストロサイト機能の解明 | 小野智憲 | 公益財団法人てんかん治療研究振興財団 | 主任 | 新規 | 委託 | 脳神経外科 |
| ⑩ | 「全身麻酔下開腹肝胆膵悪性腫瘍手術におけるディスポーザブルリトラクター使用時の皮膚障害予防の検討」の研究のため | 立花玲華 | 公益財団法人SGH財団 | 主任 | 新規 | 委託 | 看護部 |
| ⑩ | 腫瘍組織登録の標準化のため | 三浦史郎 | 一般社団法人長崎県医師会 | 主任 | 新規 | 委託 | 病理診断科 |
| ⑩ | 舌表面画像の深層学習解析による急性虫垂炎の新規診断法の開発 | 森　英毅 | 一般財団法人キヤノン財団 | 主任 | 継続 | 委託 | 総合診療科 |
| ⑩ | 肝硬変治療薬の開発を促進する肝機能回復メカニズムの解明研究 | 八橋　弘 | 公益財団法人東京都医学総合研究所感染制御プロジェクト | 主任 | 新規 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑪ | 研究テーマ「人工弁機能の患者症状への寄与効果」の実施 | 有吉毅子男 | アボットメディカルジャパン合同会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 心臓血管外科 |
| ⑪ | 心臓血管外科における研究テーマ「人工弁の臨床症状に対する改善効果研究」の研究助成 | 有吉毅子男 | センチュリーメディカル株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 心臓血管外科 |
| ⑪ | 腎疾患や透析、動脈硬化、高血圧についての研究活動 | 岡　　哲 | 中外製薬株式会社代表取締役社長奥田　修 | 主任 | 新規 | 委託 | 腎臓内科 |
| ⑪ | 胆管癌における術前赤血球容積分布幅（red cell istribution width；RDW）を用いた予後予測の検討への助成 | 黒木　保 | 大塚製薬株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | ＳＶＲ後肝細胞癌発癌のメカニズム解明に向けて | 黒木　保 | 中外製薬株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | 臨床研究センター外科治療研究部　研究助成のため | 黒木　保 | 塩野義製薬株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | 胆管癌における術前赤血球容積分布幅（red cell istribution width；RDW）を用いた予後予測の検討 | 黒木　保 | 大鵬薬品工業株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |

| 区分 | 研究課題名 | 責任医師 | 研究事業名（依頼業者名） | 主任分担 | 新規継続 | 研究種別 | 責任医師等診療科 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑪ | SVR後肝細胞癌発癌のメカニズム解明に向けての研究助成 | 黒木　保 | 協和キリン株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | 外科治療研究部への研究助成 | 黒木　保 | 第一三共株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | 臨床研究センターの「SVR後肝細胞癌発癌のメカニズム解明に向けて」の研究 | 黒木　保 | 日本イーライリリー株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | 「膵頭十二指腸切除術後の脂肪肝発生におけるリスク因子の検討と脂質代謝改善の試み」研究助成 | 黒木　保 | 帝人ファーマ株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | 研究助成：食道癌患者に対する術前十全大補湯投与の臨床的検討 | 黒木　保 | コヴィディエンジャパン株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 外科 |
| ⑪ | 肝発癌、および免疫チェックポイント阻害剤を用いた肝癌治療反応の予測に対する、血中メタボライト測定の意義 | 小森敦正 | 中外製薬株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 肝臓内科 |
| ⑪ | 呼吸器外科手術直後のNSAIDs静注およびアセトアミノフェン静注間欠的集中投与による鎮痛効果および安全性についての検討への助成 | 下山孝一郎 | ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 呼吸器外科 |
| ⑪ | 呼吸器外科学における教育研究助成のため | 田川　努 | KMバイオロジクス株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 呼吸器外科 |
| ⑪ | 「救急医学、集中治療に関する研究」への助成 | 中道親昭 | 旭化成ファーマ株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 救命救急科 |
| ⑪ | 75歳以上高齢者乳癌の臨床的特徴と予後 | 前田茂人 | 中外製薬株式会社 | 主任 | 新規 | 委託 | 乳腺・内分泌外科 |
| ⑪ | 造血器悪性腫瘍の標準的治療確立に向けた研究活動 | 吉田真一郎 | 中外製薬株式会社<br>代表取締役社長<br>奥田　修 | 主任 | 新規 | 委託 | 血液内科 |

### 3．治験・医師主導治験

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者（試験母体） | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 治験 | AMG0001のFontaine Ⅲ度の慢性動脈閉塞症（閉塞性動脈硬化症・バージャー病）患者に対するプラセボ対照二重盲検並行群間比較試験（実施計画書№：AMG0001-JN-103） | アンジェス（株） | 有吉毅子男 | 心臓血管外科 |
| 治験 | 過去2年間に尿路感染症の既往がある60歳以上の成人を対象にExPEC9Vを接種したときの侵襲性腸管外病原性大腸菌感染症の予防における有効性，安全性及び免疫原性を評価するランダム化，二重盲検，プラセボ対照，多施設共同，第3相試験 | ヤンセンファーマ株式会社 | 和泉　泰衛 | 総合診療科 |
| 治験 | 活動性全身性エリテマトーデス（SLE）患者を対象としたanifrolumabの長期安全性及び忍容性を評価する第Ⅲ相多施設共同無作為化プラセボ対照二重盲検継続試験（実施計画書№：D3461C00009） | アストラゼネカ（株） | 岩永　　希 | リウマチ科 |
| 治験 | 標準治療（SOC）で効果不十分な活動性全身性エリテマトーデス（SLE）患者を対象としてAMG 570の有効性及び安全性を評価する第Ⅱ相用量設定試験（実施計画書№：20170588） | アムジェン（株） | 岩永　　希 | リウマチ科 |
| 治験 | 心血管リスクが高く低比重リポ蛋白コレステロール（LDL-C）高値の日本人患者に、異なる用量のinclisiranを皮下注射したときの効果を評価する、プラセボ対照、二重盲検、ランダム化試験（ORION-15）（実施計画書№：CKJX839A11201） | ノバルティスファーマ（株） | 於久　幸治 | 循環器内科 |
| 治験 | OPC-131461 の心性浮腫（うっ血性心不全）に対する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間、多施設共同、用量探索試験（実施計画書№：351-102-00004） | 大塚製薬（株） | 於久　幸治 | 循環器内科 |
| 治験 | 部分てんかん患者に対するcenobamate追加療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験及び非盲検継続試験 | IQVIAサービシーズジャパン株式会社 | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 治験 | STEREOTYPICAL PROLONGED SEIZUREを有する12歳以上の患者を対象として、STACCATO ALPRAZOLAMの有効性及び安全性を評価する二重盲検、無作為化、プラセボ対照、多施設共同、外来、並行群間比較試験（実施計画書№：EP0162） | ユーシービージャパン（株） | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 治験 | STEREOTYPICAL PROLONGED SEIZUREを有する12歳以上の患者を対象として、STACCATO ALPRAZOLAMの安全性及び忍容性を評価する非盲検、多施設共同、外来継続試験（実施計画書№：EP0165） | ユーシービージャパン（株） | 小野　智憲 | 脳神経外科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者<br>（試験母体） | 責任医師 | 責任医師<br>診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 治験 | 部分発作を有する日本人てんかん患者を対象としたCenobamateの長期安全性を評価する第２相多施設共同非盲検継続投与試験 | 小野薬品工業株式会社 | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 治験 | 入院を要する日本人成人の複雑性腹腔内感染症患者を対象としてPF-06947386（セフタジジム・アビバクタム）に加えてメトロニダゾールを併用したときの有効性および安全性を評価する、多施設共同、非盲検、単群、第Ⅲ相試験 | ファイザー 株式会社 | 黒木　　保 | 外科 |
| 治験 | A Randomised, Double-blind, Placebo-controlled, Multi-centre Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy, Safety and Tolerability of AZD2693 in Participants with Non-cirrhotic Non-alcoholic Steatohepatitis (NASH) with Fibrosis Who Are Carriers of the PNPLA3 rs738409 148M Risk Allele<br>リスク対立遺伝子PNPLA3 rs738409148Mを保有する、線維化を伴う非肝硬変非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の患者を対象にAZD2693の有効性、安全性、及び忍容性を評価するランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同第Ⅱb相試験（実施計画書№：D7830C00004） | アストラゼネカ（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | A Phase IIb/III Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Study to Evaluate the Safety and Efficacy of Cotadutide in Participants with Non-cirrhotic Non-alcoholic Steatohepatitis with Fibrosis<br>線維化を伴う非肝硬変非アルコール性脂肪肝炎の患者を対象にcotadutideの安全性及び有効性を評価する第Ⅱb/Ⅲ相ランダム化二重盲検プラセボ対照試験（実施計画書№：D5671C00006） | アストラゼネカ（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | 非肝硬変の原発性硬化性胆管炎を有する被験者を対象として、Cilofexorの安全性、忍容性及び有効性を評価する、第３相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験（実施計画書№：GS-US-428-4194） | ギリアド・サイエンシズ（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | Phase IIb Multi-Center, Randomised, Partial-Blind Parallel Cohort Study to Assess the Efficacy and Safety of Treatment with GSK3228836 in Participants with Chronic Hepatitis B Virus（B-Clear）（実施計画書№：209668） | グラクソ・スミスクライン（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | A Phase IIb Multi-Center, Randomised, Open Label Study to Assess the Efficacy and Safety of Sequential Treatment with GSK3228836 followed by Pegylated Interferon Alpha 2a in Participants with Chronic Hepatitis B Virus（B-Together）（実施計画書№：209348） | グラクソ・スミスクライン（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | 成人の肝硬変移行前の非アルコール性脂肪肝炎患者を対象としたGSK4532990の有効性及び安全性を評価する二重盲検、プラセボ対照、第Ⅱb相試験<br>A Double-Blind, Placebo-Controlled Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy and Safety of GSK4532990 in Adults with Pre-Cirrhotic Non-Alcoholic Steatohepatitis（HORIZON）（実施計画書№：218672） | グラクソ・スミスクライン（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | Phase 3 Multicenter, Randomized, Double Blind, Study to Assess the Efficacy and Safety of Treatment with Bepirovirsen in HBeAg negative Nucleos(t)ide Analogue treated Participants with Chronic Hepatitis B Virus（B-Well 2）<br>核酸アナログ治療を受けているHBe抗原陰性のB型肝炎ウイルス持続感染患者を対象としたbepirovirsen投与の有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、二重盲検試験（B-Well 2）（実施計画書№：219288 ） | グラクソ・スミスクライン（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | A two-part, randomized, placebo controlled, double blind, multicenter, Phase 3 study to evaluate the efficacy and safety of linerixibat for the treatment of cholestatic pruritus in participants with primary biliary cholangitis（PBC）. | グラクソ・スミスクライン株式会社 | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | Long-term Safety and Tolerability Study of Linerixibat for the Treatment of Cholestatic Pruritus in Participants with Primary Biliary Cholangitis. | グラクソ・スミスクライン株式会社 | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | 過去の治療研究においてGSK3228836の投与を受けて効果を示した被験者のうち、ヌクレオシド/ヌクレオチド療法下及び未治療の慢性B型肝炎患者を対象として、持続的なウイルス学的反応の長期持続性を評価するための前向き多施設共同試験（B-Sure試験）（実施計画書№：206882） | サイネオス・ヘルス・クリニカル（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者<br>（試験母体） | 責任医師 | 責任医師<br>診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 治験 | B型肝炎及びD型肝炎ウイルス共感染患者を対象としてJNJ-73763989＋核酸アナログ製剤の有効性、安全性及び薬物動態を検討する第２相、多施設共同、ランダム化、二重盲検、実薬投与遅延群を設定したプラセボ対照比較試験（実施計画書№：73763989HPB2004） | ヤンセンファーマ（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 治験 | ソリスロマイシンの臨床第Ⅲ相試験　市中肺炎を対象としたアジスロマイシンとの非劣性検証　－層別ランダム化、多施設共同、二重盲検試験－ | 富士フイルム富山化学株式会社 | 近藤　　晃 | 呼吸器内科 |
| 治験 | 早発型重症妊娠高血圧腎症患者を対象としたKW-3357 の第Ⅲ相ランダム化プラセボ対照二重盲検比較試験（実施計画書№：3357-101） | 協和キリン（株） | 菅　　幸恵 | 産婦人科 |
| 治験 | A Phase 2 Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study of the Safety and Efficacy of BMS-986165 in Subjects with Moderate-to-Severe Crohn's Disease<br>（邦題）中等度から重度のクローン病患者を対象とした、BMS-986165の安全性及び有効性を検討する、プラセボ対照、ランダム化二重盲検第Ⅱ相試験（実施計画書№：IM011023） | ブリストル・マイヤーズ　スクイブ（株） | 西山　　仁 | 消化器内科 |
| 治験 | An open-label study to investigate the safety and efficacy of cannabidiol oral solution (GWP42003-P) in Japanese children and adults as adjunctive treatment for seizures associated with Lennox-Gastaut syndrome, Dravet syndrome, or tuberous sclerosis complex<br>日本人小児および成人患者を対象にレノックス・ガストー症候群、ドラベ症候群または結節性硬化症と関連する発作に対する併用療法として、カンナビジオール経口液剤（GWP42003-P）の安全性および有効性を検討する非盲検試験（実施計画書№：GWEP19186） | IQVIAサービシーズ ジャパン（株） | 本田　涼子 | 小児科 |
| 治験 | 小児及び成人レノックス・ガストー症候群（LGS）患者を対象とした二部構成ZX008評価試験：パート１：小児及び成人LGS患者の発作に対する補助療法として2種類の固定用量のZX008（fenfluramine hydrochloride）経口液剤を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験；後続のパート２：小児及び成人LGS患者におけるZX008の長期安全性を評価する非盲検継続試験（実施計画書№：ZX008-1601） | サイネオス・ヘルス・クリニカル（株） | 本田　涼子 | 小児科 |
| 治験 | 小児及び若年成人のドラベ症候群（DS）患者を対象に併用療法として投与したときのsoticlestat の有効性、安全性及び忍容性を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験（実施計画書№：TAK-935-3001） | 武田薬品工業（株） | 本田　涼子 | 小児科 |
| 治験 | ドラベ症候群又はレノックス・ガストー症候群患者を対象に併用療法として投与したときのsoticlestatの長期的な安全性及び忍容性を評価する、第３相、前向き、非盲検、多施設共同、第３相試験からの継続投与試験（ENDYMION 2） | 武田薬品工業株式会社 | 本田　涼子 | 小児科 |
| 治験 | 小児及び成人のレノックス・ガストー症候群（LGS）患者を対象に併用療法として投与したときのsoticlestatの有効性、安全性及び忍容性を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験 | 武田薬品工業株式会社 | 本田　涼子 | 小児科 |
| 治験 | CLCZ696B2319試験を終了した左室収縮機能障害による心不全を有する小児患者を対象に、非盲検のLCZ696を長期投与した時の安全性及び忍容性を評価する多施設共同試験（実施計画書№：CLCZ696B2319E1） | ノバルティスファーマ（株） | 本村　秀樹 | 小児科 |
| 治験 | ５歳から11歳の被験者を対象としたS-268019の第1/2/3相無作為化オブザーバーブラインド試験（Part ２）（実施計画書№：2211U0233） | 塩野義製薬（株） | 本村　秀樹 | 小児科 |
| 治験 | ５歳から11歳の被験者を対象にS-268019又はコミナティ筋注を追加接種した時の免疫原性を評価する第３相無作為化オブザーバーブラインド実薬対照試験（実施計画書№：2214U0234 ） | 塩野義製薬（株） | 本村　秀樹 | 小児科 |
| 治験 | 切除不能肝細胞がん患者を対象に、第一選択治療としてのBGB-A317とソラフェニブの有効性及び安全性を比較する無作為化、非盲検、多施設共同第Ⅲ相試験（実施計画書№：BGB-A317-301） | パレクセル・インターナショナル（株） | 本吉　康英 | 肝臓内科 |
| 治験 | 生後１ヵ月～４歳未満のてんかん患者を対象とした、部分発作に対する単剤療法又は併用療法としてのレベチラセタムの非盲検、単群、多施設共同試験（実施計画書№：EP0100） | ユーシービージャパン（株） | 安　　忠輝 | 小児科 |
| 治験 | HBe抗原陰性のB型慢性肝炎患者を対象としたテノホビル アラフェナミド（TAF）25mgの１日１回投与とテノホビルジソプロキシルフマル酸塩（TDF）300mg １日１回投与の安全性及び有効性を比較評価する第３相、無作為化、二重盲検試験（実施計画書№：GS-US-320-0108） | ギリアド・サイエンシズ（株） | 八橋　　弘 | 肝臓内科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者（試験母体） | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 治験 | HBe抗原陽性のB型慢性肝炎患者を対象としたテノホビル アラフェナミド（TAF）25mgの１日１回投与とテノホビルジソプロキシルフマル酸塩（TDF）300mgの１日１回投与の安全性及び有効性を比較評価する第３相、無作為化、二重盲検試験（実施計画書№：GS-US-320-0110） | ギリアド・サイエンシズ（株） | 八橋　弘 | 肝臓内科 |
| 治験 | 慢性B 型肝炎ウイルス感染の治療においてJNJ-73763989 及び／又はJNJ-56136379 を含む各種併用レジメンの有効性及び安全性を検討する第２b相、多施設共同、二重盲検、実薬対照、ランダム化試験（実施計画書№：73763989HPB2001） | ヤンセンファーマ（株） | 八橋　弘 | 肝臓内科 |
| 治験 | A Phase 2b Open-Label Single Arm Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Oral HBI-8000 in Patients with Relapsed or Refractory Peripheral T-cell Lymphoma（PTCL）<br>再発又は難治性末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）患者を対象としたHBI-8000経口投与の有効性及び安全性を評価する第２b相非盲検単一群試験（実施計画書№：HBI-8000-203） | IQVIAサービシーズジャパン（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 治験 | 再発性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫患者を対象としたcopanlisib（リツキシマブ併用）の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相臨床試験：CHRONOS-3（実施計画書№：17067） | バイエル薬品（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 医師主導治験 | 成人T細胞白血病・リンパ腫を対象としたウイルス抗原を標的とする樹状細胞ワクチン療法　多施設共同非盲検無作為化比較試験（第Ⅱ相試験）（実施計画書№：ATL-DC-101-JP-P201） | 医師主導治験 | 吉田真一郎 | 血液内科 |

### ４．製造販売後調査、受託臨床研究、公費臨床試験他

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者（試験母体） | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 受託臨床研究（文書同意あり） | 癌性胸膜炎を伴う非小細胞肺癌に対するラムシルマブ、ドセタキセル併用療法の第Ⅱ相試験（PLEURAM study） | 国立大学法人長崎大学 | 池田　喬哉 | 呼吸器内科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | メトトレキサート（MTX）抵抗性関節リウマチ患者を対象としたウパダシチニブ+MTX併用による臨床的寛解達成および臨床的寛解達成後のMTX休薬における臨床的非再燃の維持を評価する他施設共同前向き試験（DOPPLER STUDY） | 国立大学法人長崎大学 | 岡田　覚丈 | 膠原病・リウマチ科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | メトトレキサート抵抗性関節リウマチ患者を対象としたフィルゴチニブ単剤治療のトシリズマブ単剤治療に対する有用性の非劣性を検証する多施設共同ランダム化比較試験<br>Efficacy and safety of selective JAK 1 inhibitor Filgotinib in active rheumatoid arthritis patients with inadequate response to methotrexate: Comparative study with Filgotinib and Tocilizumab examined by clinical index as well as musculoskeletal ultrasound assessment（TRANSFORM STUDY） | 国立大学法人長崎大学 | 岡田　覚丈 | 膠原病・リウマチ科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | 間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎患者を対象とした肺病変の進行を規定するバイオマーカー探索研究 | 国立大学法人長崎大学 | 岡田　覚丈 | 膠原病・リウマチ科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | Comprehensive Outcomes Registry in Subjects with Epilepsy Treated with Vagus Nerve Stimulation Therapy（迷走神経刺激療法で治療されたてんかん患者における、包括的な転帰に関する登録研究：CORE-VNS） | リヴァノヴァ（株） | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | てんかん患者におけるペランパネル一次単剤療法の有効性・安全性に関する観察研究（PORTABLE study）（実施計画書№：E2007-M081-515） | 国際医療福祉大学成田病院 | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | HAMRET Study　切除不能肝細胞癌における薬物療法の前向き観察研究 | 一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会 | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | 新型コロナワクチン第二期追加接種（４回目接種）にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査） | 学校法人順天堂 | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | 新型コロナ組換えタンパクワクチン初回シリーズおよび追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査）（ノババックス） | 学校法人順天堂 | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究（文書同意あり） | ATT（Attenuation Measurement）を用いた肝脂肪化の診断（多施設共同研究）－MRIを用いたPDFF（proton density fat fraction）との比較－ | 岐阜協立大学 | 末廣　智之 | 肝臓内科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者<br>（試験母体） | 責任医師 | 責任医師<br>診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 呼吸器外科術後神経障害性疼痛患者にミロガバリンを追加併用した際の有効性と安全性の検討-他施設共同、無作為化、非盲検、並行群間、介入研究- | シミック（株） | 田川　努 | 呼吸器外科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | オシメルチニブ耐性EGFR陽性非扁平上皮非小細胞肺癌に対するアファチニブ治療におけるトランスレーショナル試験（ASPEC） | 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター | 長島　聖二 | 呼吸器内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の有効性と安全性に関する解析 | 国立大学法人<br>長崎大学 | 原　敦子 | 呼吸器内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 「エンハーツ点滴静注用100mg特定使用成績調査（乳癌）」患者を登録対象としたトラスツズマブ デルクステカン中止後の後治療に関するコホート研究 | イーピーエス（株） | 前田　茂人 | 乳腺・<br>内分泌外科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | HER2陽性乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第Ⅱ相比較試験（ERICA）（WJOG14320B） | 特定非営利活動法人西日本がん研究機構 | 前田　茂人 | 乳腺・<br>内分泌外科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | JBCRG-M06「HER2陽性進行・再発乳癌におけるトラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法とトラスツズマブ、ペルツズマブ、エリブリン併用療法を比較検討する第Ⅲ相臨床研究」 | 一般社団法人<br>JBCRG | 前田　茂人 | 乳腺・<br>内分泌外科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 化学療法既治療の転移乳がんに対するアベマシクリブ療法の観察研究 | 一般社団法人<br>CSPOR-BC | 前田　茂人 | 乳腺・<br>内分泌外科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 閉経後ホルモン受容体陽性切除不能および転移・再発乳癌に対するパルボシクリブ療法の観察研究（CSPOR-BC） | 一般社団法人<br>CSPOR-BC | 前田　茂人 | 乳腺・<br>内分泌外科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | オミクロン株対応２価ワクチンの追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査） | 学校法人順天堂 | 本村　秀樹 | 小児科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 小児侵襲性肺炎球菌感染症患者から分離された肺炎球菌株の莢膜血清型分布及び薬剤感受性に関する多施設共同観察研究（実施計画書№：V114-NIS-7998） | MSD（株） | 本村　秀樹 | 小児科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 新型コロナワクチン接種（初回シリーズおよび追加接種）にかかわる免疫原性および安全性調査（５歳から11歳） | 学校法人順天堂 | 本村　秀樹 | 小児科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 新型コロナワクチン接種（初回接種）にかかわる免疫原性および安全性調査（６か月～４歳） | 学校法人順天堂 | 本村　秀樹 | 小児科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | １型糖尿病におけるイプラグリフロジン補助療法による腎機能変化の検討（IPRA-CKD） | 国立大学法人<br>長崎大学 | 安井　順一 | 内分泌・<br>代謝内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 切除不能肝細胞癌患者に対するAtezolizumab＋Bevacizumab併用療法の多施設共同前向き観察研究（ELIXIR） | （株）エスアールエル・メディサーチ | 八橋　弘 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 再生不良性貧血におけるウサギATG+シクロスポリン+エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討（W-JHS AA02） | 一般社団法人九州臨床研究支援センター | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 少量レナリドミド療法に再発・難治性となったMM患者に対するIld療法の効果と安全性（W-JHS　MM02） | 一般社団法人九州臨床研究支援センター | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 日本における初発ホジキンリンパ腫に対するA-AVD療法の成績　前向き登録研究（W-JHS HL01） | 一般社団法人九州臨床研究支援センター | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者（以下、「DLBCL」という。）に対するポラツズマブ ベドチン（以下「Pola」という。）＋R-CHP療法の有効性と安全性を検討する多機関共同前向き観察研究－W-JHS NHL03（POLASTAR）－ | 一般社団法人九州臨床研究支援センター | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 術前化学療法を施行する食道癌・胃癌における十全大補湯によるQOL改善を検討するオープンラベル比較第Ⅱ相試験（QuEST study） | 一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会 | 米田　晃 | 外科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 「脳転移（放射線未治療）のある非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの第II相試験」OCEAN study（LOGIK1603/WJOG9116L） | 一般社団法人九州臨床研究支援センター | 長島　聖二 | 呼吸器内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 新型コロナワクチンの投与開始初期の重点的調査（コホート調査） | 学校法人順天堂 | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（文書同意あり） | 新型コロナワクチン追加接種（３回目接種）にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査） | 学校法人順天堂 | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | レジオネラ症診断における尿中抗原検査と臨床的特徴に関する全国サーベイランス研究－多施設共同前向き観察研究－ | 一般社団法人<br>日本感染症学会 | 近藤　晃 | 呼吸器内科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者<br>（試験母体） | 責任医師 | 責任医師<br>診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | Semi-dry dot-blot（SDB）法を応用した新規乳癌リンパ節転移診断キットに関する他施設共同臨床性能試験における残余検体を用いた追加実験 | 国立大学法人長崎大学 | 前田　茂人 | 乳腺・<br>内分泌外科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | HCV感染者における治療前後の抗体価推移および、ルミパルスHCV・ルミパルスプレストHCVの基本的性能比較 | 富士レビオ（株） | 八橋　　弘 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | HCV抗原を用いたC型肝炎スクリーニングにおける可能性に関する研究 | アボットジャパン合同会社 | 八橋　　弘 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | 医療従事者を対象としたSARS-CoV-2抗体モニタリング | シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株） | 八橋　　弘 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | 肝炎患者におけるM2BPGi試薬の臨床有用性の検討 | シスメックス（株） | 八橋　　弘 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | 化学発光免疫測定法（CLIA法）におけるHBs定量試薬の基礎評価 | シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株） | 八橋　　弘 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | 慢性肝疾患におけるWFA（＋）M2BP、AFP-L3とautotaxinの病態生理学的意義の検討 | 東ソー（株） | 山﨑　一美 | 肝臓内科 |
| 受託臨床研究<br>（体外診断用医薬品） | 慢性肝疾患における可溶性免疫チェックポイント分子測定の有用性の検証 | 国立研究開発法人国立国際医療研究センター<br>国立大学法人 東京大学<br>シスメックス（株） | 山﨑　一美 | 肝臓内科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | Horizon AG5300の製品性能調査 | （株）バイタル | 有吉毅子男 | 心臓血管外科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | コラテジェン筋注用4mg承認条件評価の使用成績比較調査『コラテジェン投与における長期観察の特定使用成績調査』 | 田辺三菱製薬（株） | 有吉毅子男 | 心臓血管外科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | コラテジェン筋注用4mg承認条件評価の使用成績比較調査『保存治療の重症下肢虚血における特定使用成績調査』 | 田辺三菱製薬（株） | 有吉毅子男 | 心臓血管外科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | ピヴラッツ点滴静注液150mg　特定使用成績調査（長期観察） | イドルシアファーマシューティカルズジャパン（株） | 案田　岳夫 | 脳神経外科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | シムジア皮下注200mgシリンジ、シムジア皮下注200mgオートクリックス　一般使用成績調査（乾癬） | ユーシービージャパン（株） | 石川　博士 | 皮膚科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | クリースビータ皮下注　特定使用成績調査－FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症患者の長期使用に関する調査－ | 協和キリン（株） | 和泉　　啓 | 小児科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | イラリス皮下注用150mg、イラリス皮下注射液150mg　使用成績調査 | ノバルティスファーマ（株） | 岩永　　希 | 膠原病・<br>リウマチ科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | ソリリス点滴静注300mg視神経脊髄炎スペクトラム障害に関する特定使用成績調査 | アレクシオンファーマ合同会社 | 岩永　　洋 | 脳神経内科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | エナロイ　特定使用成績調査（長期） | 鳥居薬品（株） | 岡　　哲 | 腎臓内科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | バフセオ錠150mg/300mg特定使用成績調査（長期使用に関する調査）VIOLET survey | 田辺三菱製薬（株） | 岡　　哲 | 腎臓内科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | ビンダケルカプセル特定使用成績調査－トランスサイレチン型心アミロイドーシス患者に対する調査－ | ファイザー（株） | 於久　幸治 | 循環器内科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | レパーサ皮下注　特定使用成績調査（長期使用） | アステラス製薬（株） | 於久　幸治 | 循環器内科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | 潰瘍性大腸炎患者を対象としたジセレカ錠特定使用成績調査 | エーザイ（株） | 中島悠史郎 | 消化管内科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | バベンチオ点滴静注200mg　特定使用成績調査（根治切除不能な尿路上皮癌における化学療法後の維持療法） | メルクバイオファーマ（株） | 錦戸　雅春 | 泌尿器科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | バベンチオ点滴静注200mg　特定使用成績調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） | メルクバイオファーマ（株） | 錦戸　雅春 | 泌尿器科 |
| 製造販売後調査<br>（文書同意あり） | ゼジューラ特定使用成績調査「卵巣癌」 | 武田薬品工業（株） | 福田　雅史 | 産婦人科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者（試験母体） | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 製造販売後調査（文書同意あり） | レルミナ錠40mg一般使用成績調査 | あすか製薬（株） | 福田　雅史 | 産婦人科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | 自家培養表皮ジェイスの先天性巨大色素性母斑に対する使用成績調査 | （株）ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング | 藤岡　正樹 | 形成外科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | サブリル散分包500mg使用成績調査（点頭てんかん） | アルフレッサファーマ（株） | 本田　涼子 | 小児科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | タリージェ錠　特定使用成績調査-末梢性神経障害性疼痛患者における有効性の検討-（TLG017-041） | 第一三共（株） | 宮本　俊之 | 整形外科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | イラリス皮下注用150㎎、イラリス皮下注射液150㎎　特定使用成績調査　全身型若年性特発性関節炎 | ノバルティスファーマ（株） | 安　　忠輝 | 小児科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | サークリサ点滴静注　特定使用成績調査 | サノフィ（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定使用成績調査：低体重かつ高年齢の患者における安全性の確認 | MSD（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | ハイヤスタ錠10mg　再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）患者における一般使用成績調査（全例調査） | Meiji Seika ファルマ（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | ハイヤスタ錠10㎎再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）患者における一般使用成績調査（全例調査） | Meiji Seika ファルマ（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | レボレード®錠特定使用成績調査（再生不良性貧血） | ノバルティスファーマ（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | エザルミア錠一般使用成績調査 | 第一三共（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意あり） | コミナティ筋注 一般使用成績調査（C4591006）（承認後早期に接種される被接種者（医療従事者）を対象とした追跡調査） | ファイザー（株） | 小森　敦正 | 肝臓内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | オンデキサ静注用200mg　一般使用成績調査 | アストラゼネカ（株） | 案田　岳夫 | 脳神経外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | 製品の性能調査及び薄型チタンプレート使用による整容的効果 | サンエー精工（株） | 案田　岳夫 | 脳神経外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | 閉頭に用いる薄型チタンプレートシステムの有効性及び安全性調査 | （株）ベアーメディック | 案田　岳夫 | 脳神経外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ヤーボイ®点滴静注液特定使用成績調査 - 切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫に対するオプジーボとの併用療法 - | ブリストル・マイヤーズ　スクイブ（株） | 池田　喬哉 | 呼吸器内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | 日本におけるがん化学療法後に増悪したKRAS G12C変異陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象としたルマケラスの特定使用成績調査（全例調査） | アムジェン（株） | 池田　喬哉 | 呼吸器内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | イキセキズマブ（トルツ皮下注80mgオートインジェクター　トルツ皮下注80mgシリンジ）特定使用成績調査 | 日本イーライリリー（株） | 石川　博士 | 皮膚科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | オンパットロ点滴静注 2 mg/mL　特定使用成績調査（全例調査） | Alnylam Japan（株） | 和泉　泰衛 | 総合診療科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | イミフィンジ点滴静注120mg・500mg　副作用・感染症詳細調査 | アストラゼネカ（株） | 井手口周平 | 呼吸器内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | サフネロー点滴静注300mg特定使用成績調査　全身性エリテマトーデス患者を対象とした全例調査 | アストラゼネカ（株） | 岩永　　希 | 膠原病・リウマチ科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ベンリスタ点滴静注用　ベンリスタ皮下注　特定使用成績調査（全例調査） | グラクソ・スミスクライン（株） | 岩永　　希 | 膠原病・リウマチ科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | エンスプリング皮下注　一般使用成績調査（全例調査）－視神経脊髄炎スペクトラム障害（視神経脊髄炎を含む）の再発予防－ | 中外製薬（株） | 岩永　　洋 | 脳神経内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | オンパットロ点滴静注 2 mg/mL　特定使用成績調査（全例調査） | Alnylam Japan（株） | 岩永　　洋 | 脳神経内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | コパキソン皮下注シリンジ　特定使用成績調査（全例調査）「多発性硬化症の再発予防」 | 武田薬品工業（株） | 岩永　　洋 | 脳神経内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ソリリス点滴静注300mg全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調査 | アレクシオンファーマ合同会社 | 岩永　　洋 | 脳神経内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | リューブリンSR注射用キット　11.25mg　特定使用成績調査「全例調査：球脊髄性筋萎縮症（SBMA）」 | 武田薬品工業（株） | 岩永　　洋 | 脳神経内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | 献血ヴェノグロブリンIH 5 %静注　特定使用成績調査（全身型重症筋無力症） | 一般社団法人日本血液製剤機構 | 岩永　　洋 | 脳神経内科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者（試験母体） | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 製造販売後調査（文書同意なし） | サムスカ一般使用成績調査（SIADHにおける低ナトリウム血症） | 大塚製薬（株） | 岡　哲 | 腎臓内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | フォシーガ®錠における副作用詳細調査 | 小野薬品工業（株） | 岡　哲 | 腎臓内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | アデムパス錠使用成績調査（慢性血栓塞栓性肺高血圧症） | バイエル薬品（株） | 於久　幸治 | 循環器内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | オンパットロ点滴静注２mg/mL　特定使用成績調査（全例調査） | Alnylam Japan（株） | 於久　幸治 | 循環器内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | イノベロン錠　特定使用成績調査（Lennox-Gastaut症候群・全例調査） | エーザイ（株） | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ビムパット点滴静注　一般使用成績調査 | 第一三共（株） | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ビムパット点滴静注　一般使用成績調査　－強直間代発作に対する調査－ | 第一三共（株） | 小野　智憲 | 脳神経外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕__肝臓内科 | 小野薬品工業（株） | 佐伯　哲 | 肝臓内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | キムリア点滴静注の有害事象詳細調査 | ノバルティスファーマ（株） | 榊　智佳 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | イブリーフ静注20mg　一般使用成績調査 | 千寿製薬（株） | 末永　英世 | 小児科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | フェソロデックス筋注250㎎副作用・感染症詳細調査 | アストラゼネカ（株） | 杉山　望 | 乳腺・内分泌外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕 | 小野薬品工業（株） | 竹下　浩明 | 外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | 献血ヴェノグロブリンIH静注　一般使用成績調査（抗ドナー抗体陽性腎移植における術前脱感作） | 一般社団法人日本血液製剤機構 | 錦戸　雅春 | 泌尿器科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | エンハーツ点滴静注用100mg　特定使用成績調査－胃癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討－ | 第一三共（株） | 西山　仁 | 消化管内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ジクトルテープ一般使用成績調査 | 久光製薬（株） | 濵脇　正好 | 緩和ケア科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕__肝臓内科 | 小野薬品工業（株） | 戸次 鎮宗 | 肝臓内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ブコラム口腔用液　特定使用成績調査 | 武田薬品工業（株） | 本田　涼子 | 小児科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | エンハーツ点滴静注用100mg　特定使用成績調査－乳癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討－（ENH019-061） | 第一三共（株） | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | イミフィンジ点滴静注120mg・500mg　副作用・感染症詳細調査 | アストラゼネカ（株） | 森　麻耶子 | 呼吸器内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | タグリッソ40㎎・80㎎副作用・感染症詳細調査 | アストラゼネカ（株） | 森　麻耶子 | 呼吸器内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | イノベロン錠　特定使用成績調査（Lennox-Gastaut症候群・全例調査） | エーザイ（株） | 安　忠輝 | 小児科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | スピンラザ髄注12mg　使用成績調査 | バイオジェン・ジャパン（株） | 安　忠輝 | 小児科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | C型非代償性肝硬変患者におけるエプクルーサ配合錠の長期有効性（生存状況及び肝細胞癌の発症）を評価することが目的の特定使用成績調査 | ギリアド・サイエンシズ（株） | 八橋　弘 | 肝臓内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | アイクルシグ錠15mg使用成績調査 | 大塚製薬（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | オプジーボ特定使用成績調査［再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫］ | ブリストル・マイヤーズ　スクイブ（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ガザイバ点滴静注1000mg　特定使用成績調査　CD20陽性濾胞性リンパ腫（GAZ180IN） | 日本新薬（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | カルケンスカプセル100mg　一般使用成績調査 | アストラゼネカ（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | デファイテリオ静注200mg　一般使用成績調査 | 日本新薬（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定使用成績調査：希少真菌感染症患者における有効性の確認 | MSD（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |

| 区分 | 研究課題名 | 依頼者（試験母体） | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ベネクレクスタ錠　特定使用成績調査　－急性骨髄性白血病を対象とした全例調査－ | アッヴィ合同会社 | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ベルケイド注射用　3 mg　マントル細胞リンパ腫患者を対象とした使用成績調査 | ヤンセンファーマ（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ポライビー点滴静注30mg、同140mg　一般使用成績調査（全例調査）－再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫－ | 中外製薬（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | リツキシマブBS点滴静注100mg 「KHK」, 500mg「KHK」特定使用成績調査 | 協和キリン（株） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 製造販売後調査（文書同意なし） | ラパリムス錠１㎎(難治性リンパ管疾患)一般使用成績調査(全例調査) | ノーベルファーマ（株） | 吉野健太郎 | 形成外科 |
| 公費臨床試験 | 限局型小細胞肺癌に対するアムルビシン/シスプラチンと加速過分割照射放射線同時併用療法の第Ⅰ相試験 | 長崎大学病院 | 池田　喬哉 | 呼吸器内科 |
| 公費臨床試験 | 進展型小細胞肺癌に対する複合免疫療法後のイリノテカン療法の第Ⅱ相試験 | 長崎大学病院 | 池田　喬哉 | 呼吸器内科 |
| 公費臨床試験 | 中等度障害の心停止後症候群に対する低体温療法と常温療法の30日神経学的予後に関する比較：多施設無作為化比較試験 | 岡山大学病院 | 中道　親昭 | 救命救急科 |
| 公費臨床試験 | JCOGバイオバンクジャパン連携バイオバンク | JCOG乳がんグループ | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験（JCOG1505） | JCOG乳がんグループ | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | 高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1607） | JCOG乳がんグループ | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | 再発高リスク乳癌術後患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローアップの比較第Ⅲ相試験（JCOG1204） | JCOG乳がんグループ | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | 日本人乳癌患者を対象とし仮想的市場評価法を用いて患者が考える「生命」や「健康」に対する金銭的価値を支払い意思額（Willingness to pay：WTP）として検証する前向き観察研究（JCOG1709A） | JCOG乳がんグループ | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | 薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験（JCOG1806） | JCOG乳がんグループ | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | 薬物療法非抵抗性Stage IV乳癌に対する原発巣切除の意義（原発巣切除なしversusあり）に関するランダム化比較試験（JCOG1017） | JCOG乳がんグループ | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | 高齢者乳癌における治療法、予後及びQOLに関する多施設共同観察研究 | 長崎大学病院 | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | HER2陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第Ⅲ相臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－ | 一般社団法人JBCRG | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験 | 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター | 前田　茂人 | 乳腺・内分泌外科 |
| 公費臨床試験 | t（8；21）およびinv（16）陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を 指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性に関する 臨床第Ⅱ相試験（JALSG-CBF-AML220） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-B19） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 小児・AYA・成人に発症したT前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-T19） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 高齢者急性骨髄性白血病における遺伝子異常と予後の関連に関する研究（JALSG GML219-Molecular） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |

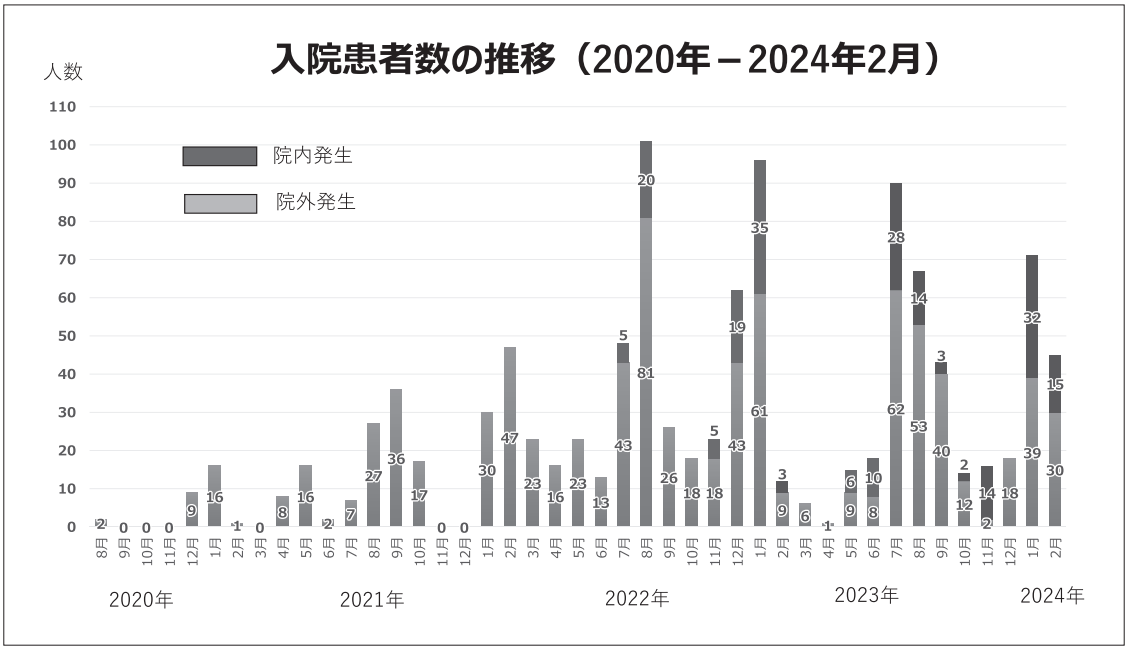
| 区分 | 研究課題名 | 依頼者（試験母体） | 責任医師 | 責任医師診療科 |
|---|---|---|---|---|
| 公費臨床試験 | 高齢者急性骨髄性白血病（AML）の層別化により化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用いる第II相臨床試験（JALSG GML219） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 再発または難治性のFLT3 遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病患者を対象とする MEC（ミトキサントロン/エトポシド/シタラビン）とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、前向き介入試験（JALSG-RR-FLT3-AML220） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 初発BCR-ABL1陽性急性リンパ性白血病（Ph+ALL）を対象としたダサチニブ、ポナチニブ併用化学療法および造血幹細胞移植の臨床第Ⅱ相試験（JALSG PhALL219） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 本邦の初発 APL に対する ATRA＋ATO 療法の多施設共同第 Ⅱ相試験（JALSG APL220 Study） | Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | JCOGバイオバンクプロジェクト | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ＋メルファラン＋プレドニゾロン＋ボルテゾミブ（D-MPB）導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ＋ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1911） | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 多発性骨髄腫に対するダラツムマブ併用化学療法における効果予測因子および抵抗性機序に関する探索的研究（JCOG1911A1） | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ＋ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG2008） | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 ver1.0（JCOG1411） | JCOGリンパ腫グループ | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 再発・難治CCR4陽性ATLを対 象としたモガムリズマブ併用レナリドミド療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験 | 今泉芳孝（長崎大学病院血液内科） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 移植非適応初発多発性骨髄腫患者に対するレナリドミド－デキサメタゾン（Rd）療法に効果不十分の症例に対しボルテゾミブを追加するレスポンスガイドセラピーの有用性と安全性（W-JHS MM01） | 西日本血液臨床研究グループ（W-JHS） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | 非重症再生不良性貧血に対するシクロスポリン療法の有用性に関する検討（W-JHS AA01） | 西日本血液臨床研究グループ（W-JHS） | 吉田真一郎 | 血液内科 |
| 公費臨床試験 | MAGE A4陽性かつHLA-A*02：01陽性の切除不能進行・再発を有する固形がん患者を対象にMU-MA402Cの安全性及び忍容性を検討することを目的とした多施設共同第Ⅰ相試験付随臨床研究１　腫瘍組織検体を用いた腫瘍抗原発現及びHLAの解析 | 三重大学大学院医学系研究科 | 米田　　晃 | 外科 |

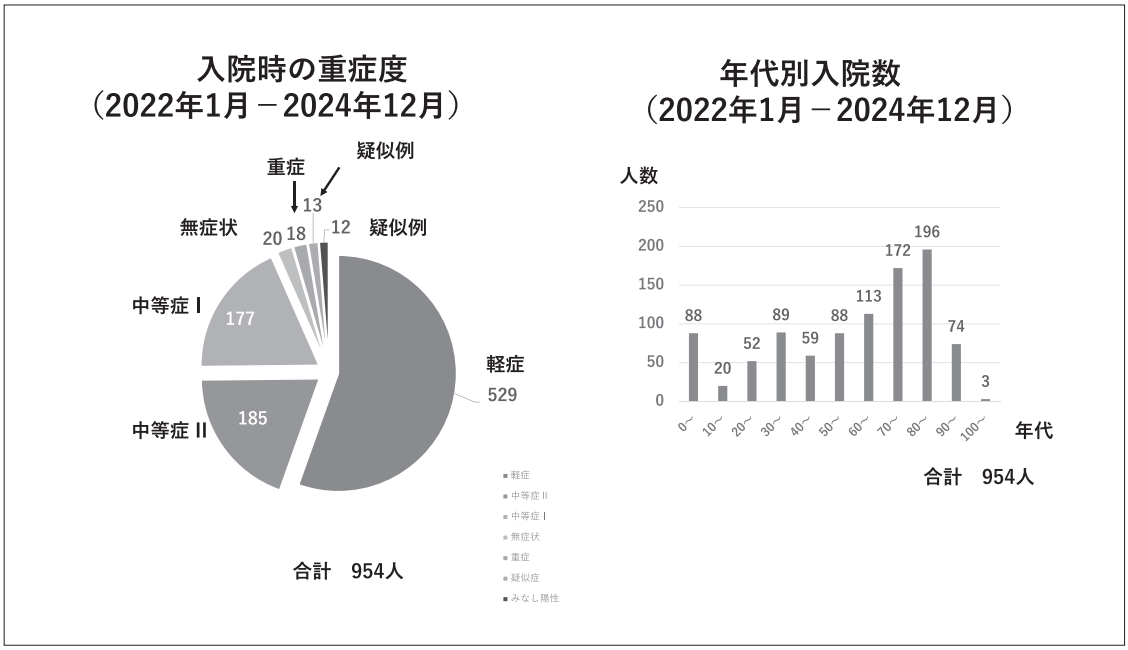
National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# COVID-19

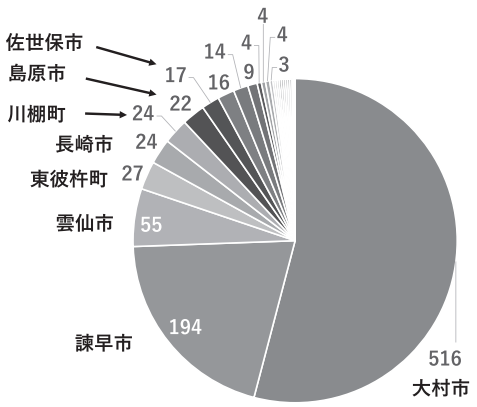
責任者　統括診療部長　本村 秀樹

## COVID-19資料



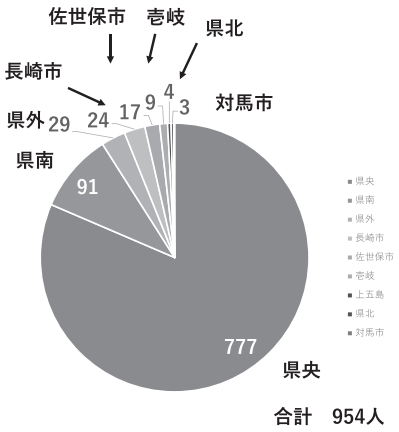



## 地域別入院数（2022年1月－2023年12月）




地域　：入院数
大村市　：516
諫早市　：194
雲仙市　：　55
東彼杵町：　27
長崎市　：　24
川棚町　：　24
島原市　：　22
佐世保市：　17
波佐見町：　16
南島原市：　14
壱岐市　：　9
佐賀県藤津郡太良町：4
南松浦郡新上五島町：4
佐賀県鹿島市：4
佐賀県武雄市：4
松浦市　　：2
その他　　：18
**合計　　：954**

## 医療圏別入院数（2022－2023年12月）




合計　954人

## COVID-19診断検査数（延べ回数）（2022年6月-2024年1月）

| 抗原検査 | | | | PCR | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ルミパルス（抗原定量） | エスプライン（抗原定性） | クイックナビ（抗原定性） | クイックナビ（Flu＋COVID） | ミュータス | Film Array | ID-now | TRCR | Light・Cycler |
| 33859 | 83 | 36 | 651 | 41 | 364 | 21288 | 500 | 87 |

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

# 医療情報統計部門

責任者　安井 順一

## 患者数（診療科別）

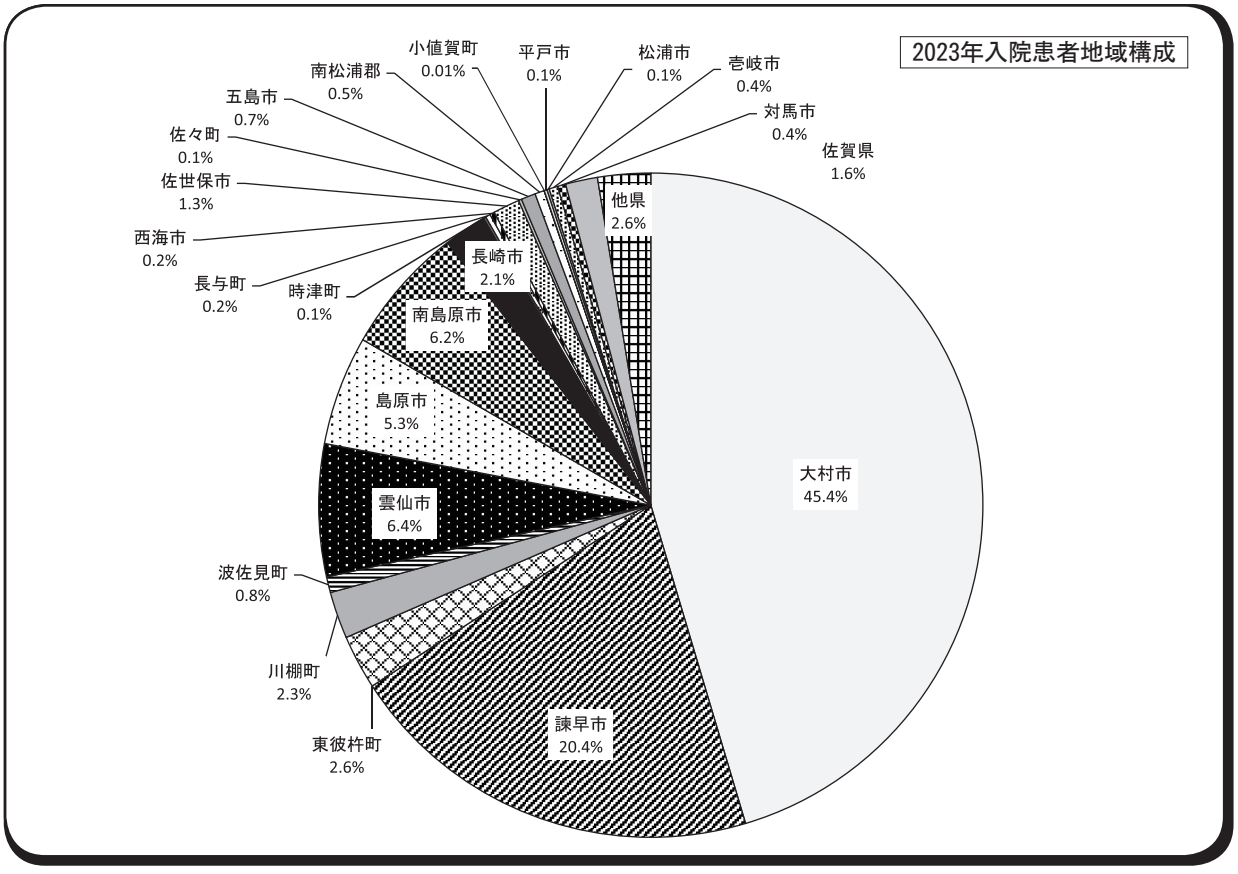
2023年

| 診療科 | 入院患者数 | | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 平均在院日数 | 外来患者数 | | 新外来患者数 | | 紹介率 | | 逆紹介率 | | 剖検数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 延患者数 | 一日平均 | | 総数 | (再掲) 死亡退院 | | 延患者数 | 一日平均 | 新患数 | 新患率 | 紹介された件数 | 紹介率 | 紹介した件数 | 逆紹介率 | 剖検数 | 剖検率 |
| | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 日 | 人 | 人 | 人 | % | 件 | % | 件 | % | 件 | % |
| 内科 | 16,576 | 45.4 | 1,797 | 1,017 | 65 | 11.8 | 7,191 | 32.1 | 2,288 | 31.8 | 792 | 92.1 | 1,215 | 90.7 | 8 | 12.3% |
| 血液内科 | 10,378 | 28.4 | 525 | 578 | 25 | 18.8 | 7,426 | 33.2 | 154 | 2.1 | 117 | 76.6 | 330 | 214.3 | 2 | 8.0% |
| 腎臓内科 | 4,459 | 12.2 | 297 | 338 | 9 | 14 | 5,569 | 24.9 | 133 | 2.4 | 110 | 85.7 | 582 | 437.6 | | 0.0% |
| 内分泌・代謝内科 | 1,742 | 4.8 | 134 | 142 | 2 | 12.6 | 6,460 | 28.8 | 215 | 3.3 | 153 | 74 | 301 | 140 | | 0.0% |
| 消化器内科 | 7,830 | 21.5 | 971 | 1,060 | 25 | 7.7 | 6,638 | 29.6 | 369 | 5.6 | 320 | 88.6 | 930 | 252 | | 0.0% |
| 肝臓内科 | 9,292 | 25.5 | 666 | 839 | 33 | 12.3 | 11,781 | 52.6 | 431 | 3.7 | 366 | 88.3 | 662 | 154.3 | | 0.0% |
| 呼吸器内科 | 12,900 | 35.3 | 719 | 864 | 47 | 16.3 | 8,706 | 38.9 | 408 | 4.7 | 320 | 81.4 | 438 | 107.4 | | 0.0% |
| 循環器内科 | 5,931 | 16.2 | 700 | 753 | 12 | 8.2 | 8,650 | 38.6 | 463 | 5.4 | 354 | 86.8 | 868 | 187.9 | | 0.0% |
| 脳神経内科 | 7,906 | 21.7 | 383 | 424 | 10 | 19.6 | 4,574 | 20.4 | 438 | 9.6 | 284 | 92.6 | 530 | 121.8 | | 0.0% |
| 精神科 | 5,179 | 14.2 | 119 | 234 | 2 | 29.3 | 5,959 | 26.6 | 127 | 2.1 | 98 | 80.3 | 218 | 171.7 | 1 | 50.0% |
| 小児科 | 11,044 | 30.3 | 1,220 | 1,220 | 7 | 9.1 | 14,255 | 63.6 | 1,964 | 13.8 | 617 | 95.2 | 1,185 | 124 | 1 | 14.3% |
| 再）新生児科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0.0% |
| 外科 | 9,337 | 25.6 | 684 | 734 | 21 | 13.2 | 3,639 | 16.2 | 273 | 7.5 | 188 | 81.5 | 930 | 350.9 | 2 | 9.5% |
| 乳腺内分泌外科 | 1,768 | 4.8 | 290 | 292 | 5 | 6.1 | 5,089 | 22.7 | 202 | 4 | 182 | 90.1 | 219 | 108.4 | | 0.0% |
| 呼吸器外科 | 1,350 | 3.7 | 129 | 159 | 0 | 9.4 | 965 | 4.3 | 47 | 4.9 | 35 | 78.7 | 127 | 270.2 | | 0.0% |
| 心臓血管外科 | 1,777 | 4.9 | 112 | 122 | 4 | 15.2 | 1,522 | 6.8 | 118 | 7.8 | 102 | 93.2 | 182 | 154.2 | 1 | 25.0% |
| 整形外科 | 7,967 | 21.8 | 597 | 596 | 2 | 13.4 | 4,666 | 20.8 | 686 | 14.7 | 339 | 90.5 | 660 | 123.4 | 1 | 50.0% |
| 形成外科 | 5,088 | 13.9 | 457 | 465 | 2 | 11 | 4,612 | 20.6 | 759 | 16.5 | 474 | 92.1 | 305 | 53.6 | | 0.0% |
| 脳神経外科 | 12,136 | 33.2 | 557 | 548 | 31 | 22 | 4,574 | 20.4 | 601 | 13.1 | 282 | 94.6 | 538 | 126.6 | | 0.0% |
| 皮膚科 | 757 | 2.1 | 124 | 123 | 0 | 6.1 | 6,029 | 26.9 | 422 | 7 | 289 | 80.2 | 192 | 52.9 | | 0.0% |
| 泌尿器科 | 5,274 | 14.4 | 590 | 608 | 4 | 8.8 | 10,283 | 45.9 | 354 | 3.4 | 287 | 86.3 | 356 | 104.1 | | 0.0% |
| 産婦人科 | 10,438 | 28.6 | 1,212 | 1,220 | 5 | 8.6 | 14,786 | 66 | 740 | 5 | 673 | 94.9 | 736 | 101.7 | 3 | 60.0% |
| 眼科 | 1,146 | 3.1 | 520 | 518 | 0 | 2.2 | 7,370 | 32.9 | 705 | 9.6 | 630 | 92.6 | 2,048 | 298.1 | | 0.0% |
| 耳鼻咽喉科 | 5,483 | 15 | 540 | 553 | 8 | 10 | 8,682 | 38.8 | 788 | 9.1 | 640 | 89.4 | 468 | 64.5 | 1 | 12.5% |
| リハビリテーション科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 66 | 0 | | 0.0% |
| 放射線科 | 52 | 0.1 | 4 | 4 | 0 | 13 | 5,339 | 23.8 | 1,043 | 19.5 | 987 | 94.6 | 1,189 | 114 | | 0.0% |
| 麻酔科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 165 | 0.7 | 2 | 1.2 | 0 | 0 | 8 | 0 | | 0.0% |
| リウマチ科 | 2,460 | 6.7 | 68 | 93 | 1 | 30.6 | 4,222 | 18.8 | 93 | 2.2 | 62 | 68.8 | 238 | 255.9 | | 0.0% |
| 救急科 | 281 | 0.8 | 129 | 73 | 7 | 2.8 | 1,292 | 5.8 | 1,073 | 83 | 97 | 32.4 | 354 | 64.7 | | 0.0% |
| 小児外科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0.0% |
| 腫瘍内科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0.0% |
| 感染症内科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0.0% |
| 緩和ケア科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 98 | 0.4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0.0% |
| 合計 | 158,551 | 434.4 | 13,544 | 13,577 | 327 | 11.7 | 170,554 | 761.4 | 14,896 | 8.7 | 8,798 | 87.2 | 15,875 | 135.5 | 20 | 6.1% |

## 地域別新入院患者数

2023年（単位：人）

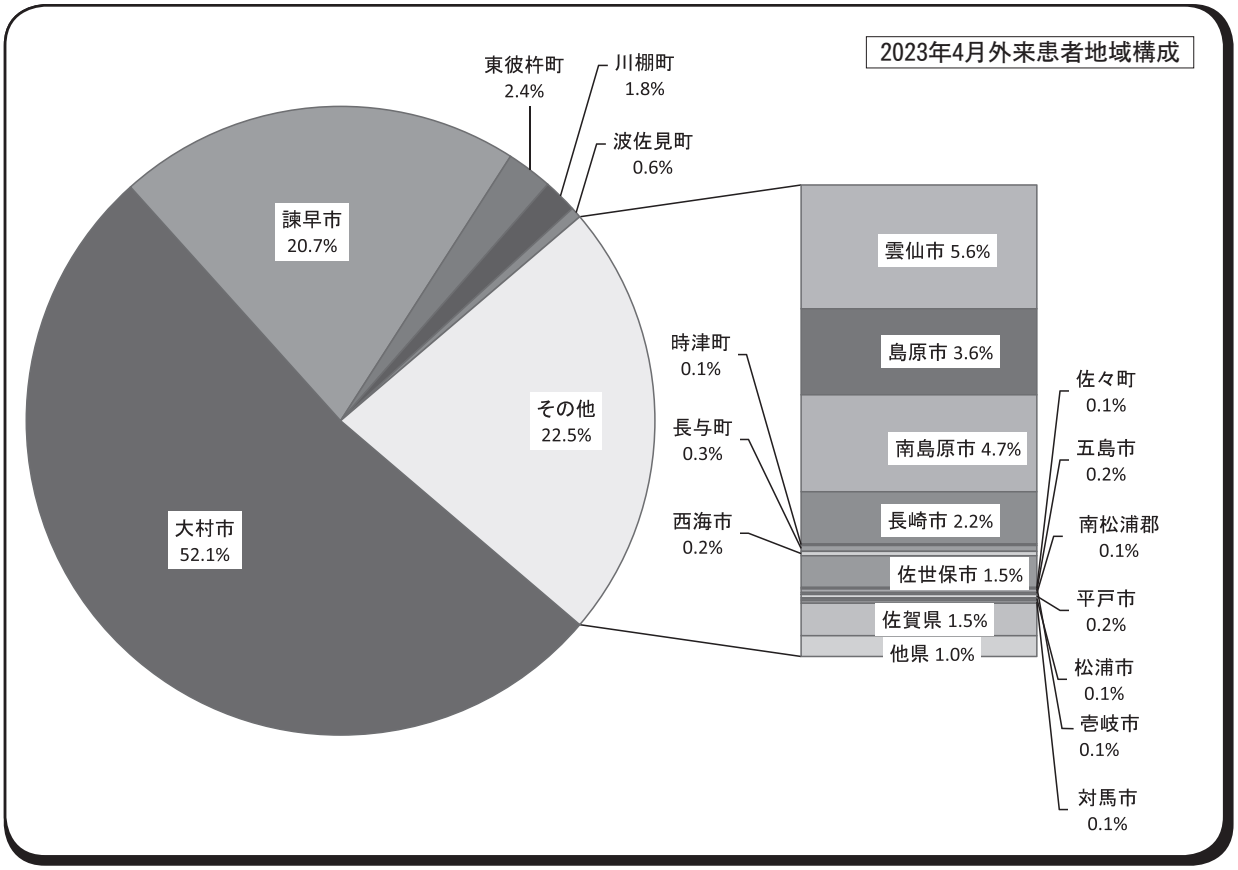
| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 県央 | 大村市 | 483 | 449 | 487 | 504 | 492 | 530 | 553 | 549 | 516 | 550 | 487 | 548 | 6,148 | 45.4% | 9,688 |
| | 諫早市 | 233 | 216 | 223 | 222 | 241 | 232 | 274 | 220 | 239 | 248 | 200 | 221 | 2,769 | 20.4% | |
| | 東彼杵町 | 30 | 33 | 30 | 29 | 36 | 27 | 26 | 34 | 22 | 29 | 32 | 30 | 358 | 2.6% | |
| | 川棚町 | 33 | 18 | 23 | 18 | 35 | 24 | 26 | 23 | 34 | 27 | 24 | 24 | 309 | 2.3% | |
| | 波佐見町 | 7 | 10 | 13 | 10 | 12 | 7 | 9 | 5 | 3 | 11 | 8 | 9 | 104 | 0.8% | |
| 県南 | 雲仙市 | 85 | 73 | 79 | 81 | 72 | 83 | 82 | 70 | 57 | 71 | 62 | 58 | 873 | 6.4% | 2,435 |
| | 島原市 | 63 | 44 | 63 | 71 | 56 | 65 | 58 | 71 | 67 | 61 | 56 | 46 | 721 | 5.3% | |
| | 南島原市 | 58 | 73 | 54 | 64 | 68 | 70 | 69 | 91 | 67 | 83 | 85 | 59 | 841 | 6.2% | |
| 長崎 | 長崎市 | 23 | 25 | 28 | 20 | 24 | 24 | 31 | 20 | 18 | 28 | 20 | 23 | 284 | 2.1% | 363 |
| | 時津町 | 2 | 0 | 0 | 3 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 3 | 0 | 1 | 16 | 0.1% | |
| | 長与町 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 | 1 | 2 | 1 | 3 | 4 | 4 | 1 | 32 | 0.2% | |
| | 西海市 | 1 | 4 | 1 | 4 | 7 | 4 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 3 | 31 | 0.2% | |
| 佐世保 | 佐世保市 | 20 | 16 | 16 | 9 | 14 | 13 | 13 | 16 | 13 | 12 | 15 | 19 | 176 | 1.3% | 196 |
| | 佐々町 | 3 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 3 | 3 | 20 | 0.1% | |
| 五島・上五島 | 五島市 | 7 | 10 | 4 | 8 | 7 | 8 | 6 | 8 | 9 | 7 | 9 | 12 | 95 | 0.7% | 158 |
| | 南松浦郡 | 7 | 2 | 9 | 7 | 2 | 6 | 3 | 5 | 4 | 7 | 4 | 6 | 62 | 0.5% | |
| | 小値賀町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.01% | |
| 県北 | 平戸市 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 | 19 | 0.1% | 34 |
| | 松浦市 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 15 | 0.1% | |
| 壱岐・対馬 | 壱岐市 | 5 | 2 | 3 | 6 | 2 | 8 | 5 | 6 | 4 | 8 | 5 | 3 | 57 | 0.4% | 111 |
| | 対馬市 | 4 | 3 | 6 | 7 | 4 | 3 | 5 | 6 | 1 | 5 | 6 | 4 | 54 | 0.4% | |
| 他県 | 佐賀県 | 29 | 20 | 19 | 14 | 10 | 16 | 18 | 23 | 12 | 19 | 19 | 12 | 211 | 1.6% | 559 |
| | 他県 | 29 | 28 | 23 | 29 | 28 | 33 | 28 | 42 | 28 | 31 | 18 | 31 | 348 | 2.6% | |
| 合計 | | 1,126 | 1,032 | 1,091 | 1,113 | 1,118 | 1,160 | 1,215 | 1,195 | 1,106 | 1,209 | 1,060 | 1,119 | 13,544 | | |



## 地域別外来患者数

| | | 人口（推計） | 2022年４月 | | | 2023年４月 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 2023.12現在 | 延患者数（人） | 一日平均（人） | 構成比率 | 延患者数（人） | 一日平均（人） | 構成比率 |
| 県央 | 大村市 | 96,760人 | 7,066 | 353.3 | 51.1% | 7,157 | 357.9 | 52.1% |
| | 諫早市 | 131,689人 | 2,938 | 146.9 | 21.2% | 2,849 | 142.5 | 20.7% |
| | 東彼杵町 | 7,417人 | 378 | 18.9 | 2.7% | 324 | 16.2 | 2.4% |
| | 川棚町 | 12,828人 | 259 | 13.0 | 1.9% | 241 | 12.1 | 1.8% |
| | 波佐見町 | 13,872人 | 62 | 3.1 | 0.4% | 77 | 3.9 | 0.6% |
| 県南 | 雲仙市 | 39,574人 | 843 | 42.2 | 6.1% | 811 | 40.6 | 5.9% |
| | 島原市 | 41,470人 | 541 | 27.1 | 3.9% | 563 | 28.2 | 4.1% |
| | 南島原市 | 39,438人 | 674 | 33.7 | 4.9% | 635 | 31.8 | 4.6% |
| 長崎 | 長崎市 | 393,112人 | 290 | 14.5 | 2.1% | 340 | 17.0 | 2.5% |
| | 時津町 | 29,237人 | 14 | 0.7 | 0.1% | 11 | 0.6 | 0.1% |
| | 長与町 | 39,352人 | 26 | 1.3 | 0.2% | 38 | 1.9 | 0.3% |
| | 西海市 | 24,631人 | 41 | 2.1 | 0.3% | 29 | 1.5 | 0.2% |
| 佐世保 | 佐世保市 | 233,459人 | 233 | 11.7 | 1.7% | 208 | 10.4 | 1.5% |
| | 佐々町 | 13,855人 | 11 | 0.6 | 0.1% | 10 | 0.5 | 0.1% |
| 五島・上五島 | 五島市 | 32,582人 | 24 | 1.2 | 0.2% | 23 | 1.2 | 0.2% |
| | 南松浦郡 | 16,147人 | 5 | 0.3 | 0.0% | 13 | 0.7 | 0.09% |
| | 小値賀 | 2,139人 | 1 | 0.1 | 0.0% | 2 | 0.1 | 0.01% |
| 県北 | 平戸市 | 27,537人 | 18 | 0.9 | 0.1% | 20 | 1.0 | 0.2% |
| | 松浦市 | 20,069人 | 11 | 0.6 | 0.1% | 10 | 0.5 | 0.1% |
| 壱岐・対馬 | 壱岐市 | 23,292人 | 7 | 0.4 | 0.1% | 11 | 0.6 | 0.08% |
| | 対馬市 | 26,577人 | 14 | 0.7 | 0.1% | 15 | 0.8 | 0.1% |
| 他県 | 佐賀県 | － | 199 | 10.0 | 1.4% | 213 | 10.7 | 1.6% |
| | 他県 | － | 173 | 8.7 | 1.3% | 136 | 6.8 | 1.0% |
| 合計 | | － | 13,828 | 691.4 | － | 13,736 | 686.8 | － |

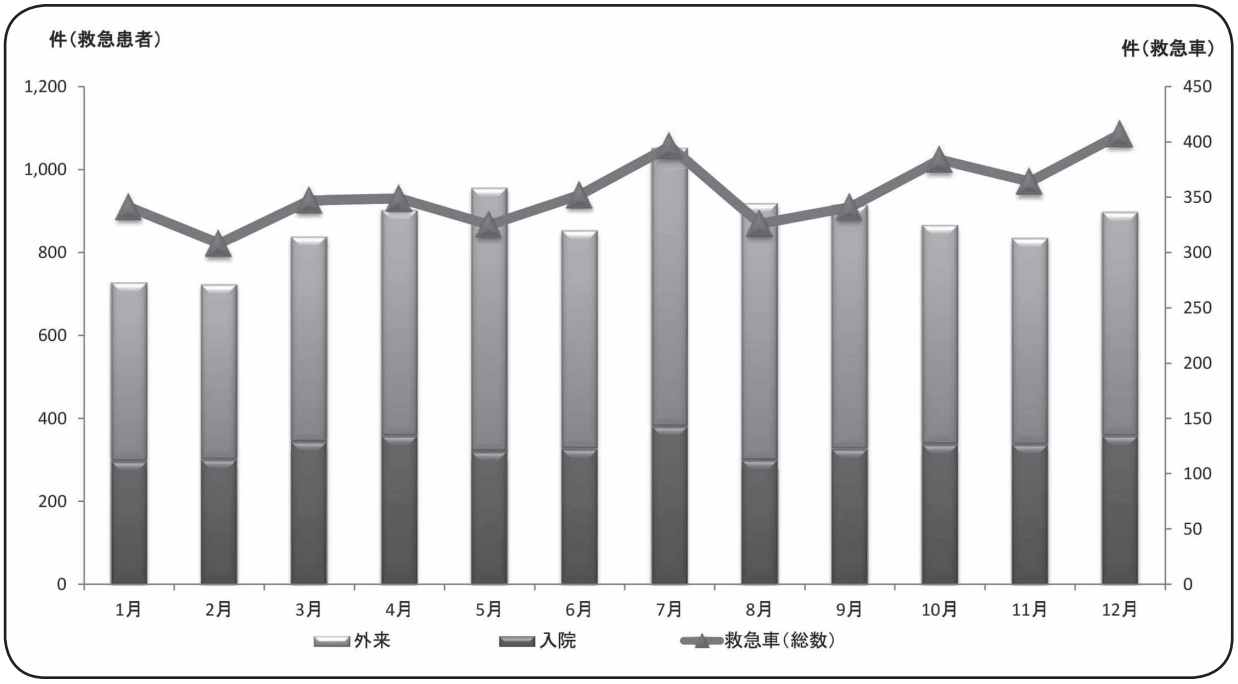
※「人口（推計）」については、長崎県ホームページによる。



# 救急患者受入状況

2023年

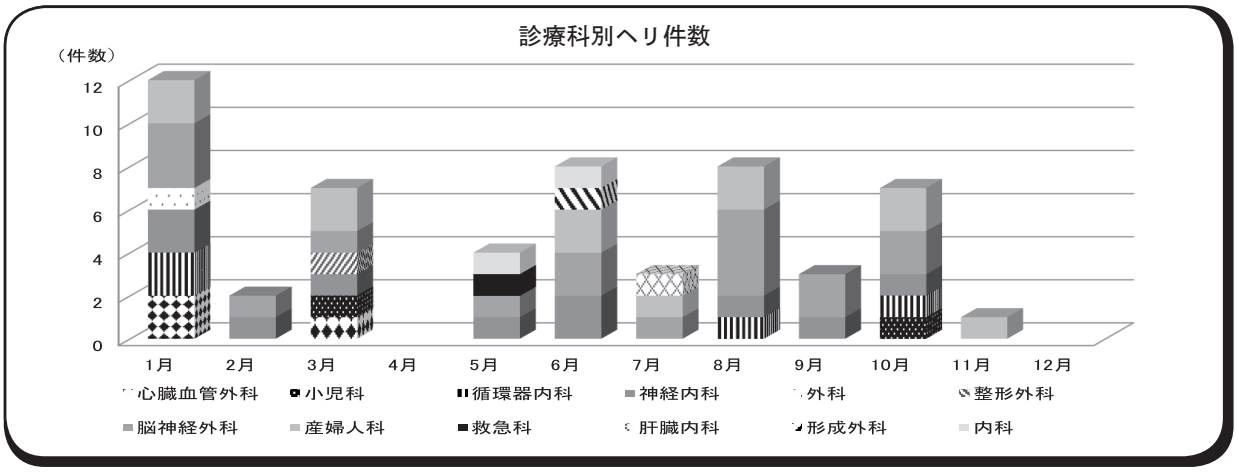
| | | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 救急患者来院件数 | | | 1,101 | 812 | 837 | 884 | 960 | 877 | 1,114 | 1,055 | 976 | 948 | 873 | 1,051 | 11,488 |
| 入院 | 件数 | | 428 | 303 | 344 | 368 | 358 | 336 | 410 | 401 | 369 | 364 | 307 | 381 | 4,369 |
| 入院 | 比率 | | 38.9% | 37.3% | 41.1% | 41.6% | 37.3% | 38.3% | 36.8% | 38.0% | 37.8% | 38.4% | 35.2% | 36.3% | 38.0% |
| 外来 | 件数 | | 673 | 509 | 493 | 516 | 602 | 541 | 704 | 654 | 607 | 584 | 566 | 670 | 7,119 |
| 外来 | 比率 | | 61.1% | 62.7% | 58.9% | 58.4% | 62.7% | 61.7% | 63.2% | 62.0% | 62.2% | 61.6% | 64.8% | 63.7% | 62.0% |
| 受付時間別 | 入院 | 時間内 | 104 | 83 | 102 | 86 | 78 | 93 | 116 | 112 | 107 | 106 | 83 | 98 | 1,168 |
| 受付時間別 | 入院 | 時間外 | 324 | 220 | 242 | 282 | 280 | 243 | 294 | 289 | 262 | 258 | 224 | 283 | 3,201 |
| 受付時間別 | 入院 | (再)深夜 | 83 | 71 | 64 | 66 | 74 | 61 | 54 | 66 | 62 | 67 | 60 | 70 | 798 |
| 受付時間別 | 外来 | 時間内 | 75 | 62 | 65 | 67 | 77 | 58 | 68 | 67 | 69 | 76 | 59 | 76 | 819 |
| 受付時間別 | 外来 | 時間外 | 598 | 447 | 428 | 449 | 525 | 483 | 636 | 587 | 538 | 508 | 507 | 594 | 6,300 |
| 受付時間別 | 外来 | (再)深夜 | 129 | 113 | 118 | 124 | 130 | 131 | 166 | 147 | 130 | 138 | 115 | 165 | 1,606 |
| 受付時間別 | 合計 | 時間内 | 179 | 145 | 167 | 153 | 155 | 151 | 184 | 179 | 176 | 182 | 142 | 174 | 1,987 |
| 受付時間別 | 合計 | 時間外 | 922 | 667 | 670 | 731 | 805 | 726 | 930 | 876 | 800 | 766 | 731 | 877 | 9,501 |
| 受付時間別 | 合計 | (再)深夜 | 212 | 184 | 182 | 190 | 204 | 192 | 220 | 213 | 192 | 205 | 175 | 235 | 2,404 |
| 救急車搬送件数 | 入院 | 時間内 | 87 | 72 | 96 | 77 | 70 | 83 | 104 | 99 | 99 | 101 | 79 | 89 | 1,056 |
| 救急車搬送件数 | 入院 | 時間外 | 206 | 135 | 130 | 177 | 155 | 128 | 158 | 161 | 148 | 147 | 106 | 153 | 1,804 |
| 救急車搬送件数 | 入院 | (再)深夜 | 53 | 45 | 39 | 42 | 35 | 31 | 24 | 40 | 30 | 41 | 23 | 42 | 445 |
| 救急車搬送件数 | 入院 | 計 | 293 | 207 | 226 | 254 | 225 | 211 | 262 | 260 | 247 | 248 | 185 | 242 | 2,860 |
| 救急車搬送件数 | 外来 | 時間内 | 73 | 57 | 59 | 61 | 72 | 51 | 61 | 60 | 58 | 72 | 59 | 68 | 751 |
| 救急車搬送件数 | 外来 | 時間外 | 166 | 99 | 111 | 94 | 106 | 104 | 154 | 153 | 114 | 106 | 98 | 142 | 1,447 |
| 救急車搬送件数 | 外来 | (再)深夜 | 41 | 31 | 35 | 28 | 28 | 35 | 40 | 40 | 32 | 35 | 26 | 49 | 420 |
| 救急車搬送件数 | 外来 | 計 | 239 | 156 | 170 | 155 | 178 | 155 | 215 | 213 | 172 | 178 | 157 | 210 | 2,198 |
| 救急車搬送件数 | 合計 | 時間内 | 160 | 129 | 155 | 138 | 142 | 134 | 165 | 159 | 157 | 173 | 138 | 157 | 1,807 |
| 救急車搬送件数 | 合計 | 時間外 | 372 | 234 | 241 | 271 | 261 | 232 | 312 | 314 | 262 | 253 | 204 | 295 | 3,251 |
| 救急車搬送件数 | 合計 | (再)深夜 | 94 | 76 | 74 | 70 | 63 | 66 | 64 | 80 | 62 | 76 | 49 | 91 | 865 |
| 救急車搬送件数 | 合計 | 計 | 532 | 363 | 396 | 409 | 403 | 366 | 477 | 473 | 419 | 426 | 342 | 452 | 5,058 |



# 2023年　ヘリコプター急患搬送実績【自衛隊ヘリ・防災ヘリ】

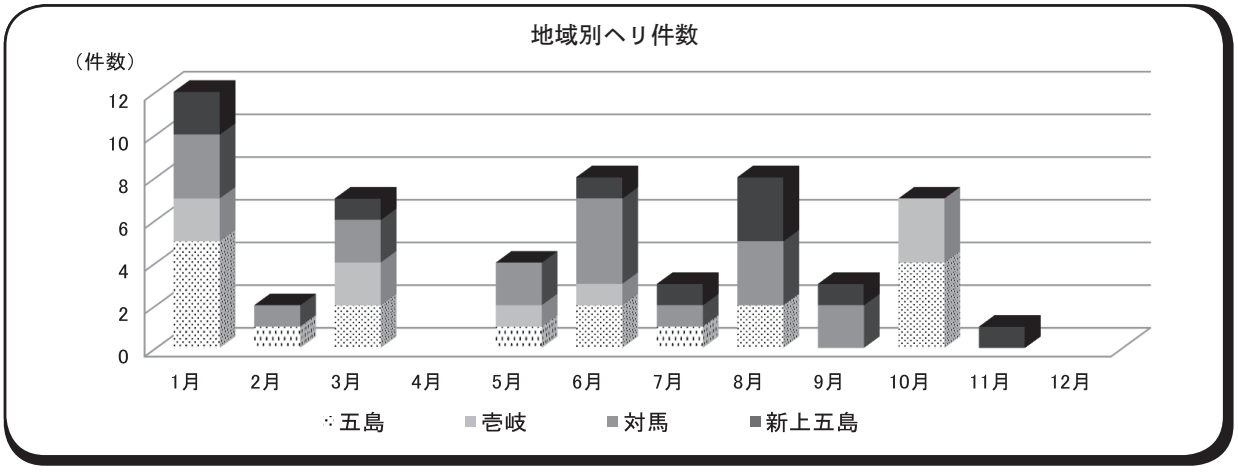
○診療科別

| 診療科 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心臓血管外科 | 2 | | 1 | | | | | | | | | | 3 |
| 小　児　科 | | | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 |
| 循環器内科 | 2 | | | | | | | 1 | | 1 | | | 4 |
| 神経内科 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 2 | | 1 | 1 | 1 | | | 10 |
| 外　　科 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 整形外科 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 脳神経外科 | 3 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 | 2 | | | 17 |
| 産婦人科 | 2 | | 2 | | | 2 | 1 | 2 | | 2 | 1 | | 12 |
| 救　急　科 | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 肝臓内科 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 形成外科 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 内　　科 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 2 |
| 計 | 12 | 2 | 7 | | 4 | 8 | 3 | 8 | 3 | 7 | 1 | | 55 |




○地域別

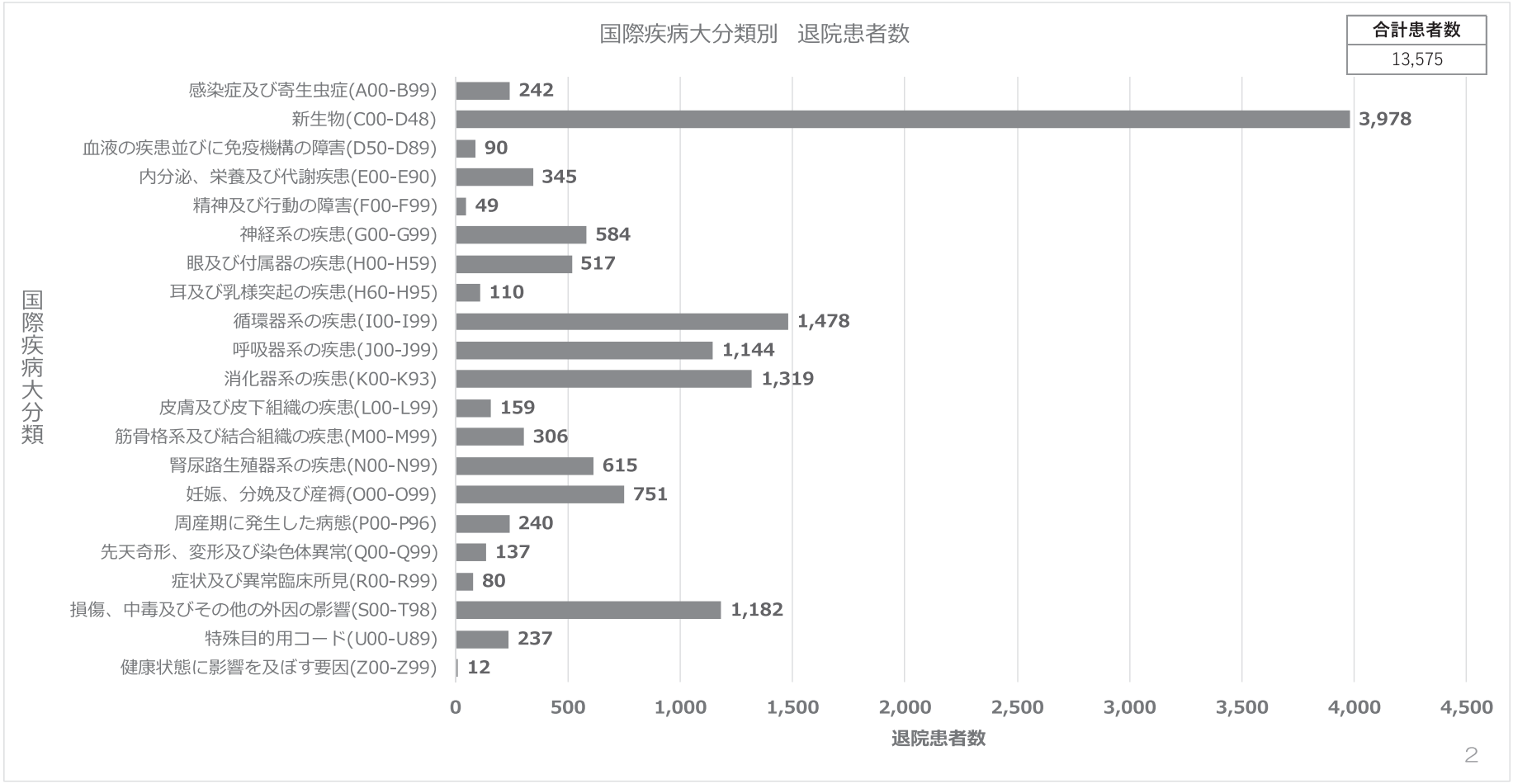
| 地区 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五　　島 | 5 | 1 | 2 | | 1 | 2 | 1 | 2 | | 4 | | | 18 |
| 壱　　岐 | 2 | | 2 | | 1 | 1 | | | | 3 | | | 9 |
| 対　　馬 | 3 | 1 | 2 | | 2 | 4 | 1 | 3 | 2 | | | | 18 |
| 新上五島 | 2 | | 1 | | | 1 | 1 | 3 | 1 | | 1 | | 10 |
| 計 | 12 | 2 | 7 | | 4 | 8 | 3 | 8 | 3 | 7 | 1 | | 55 |

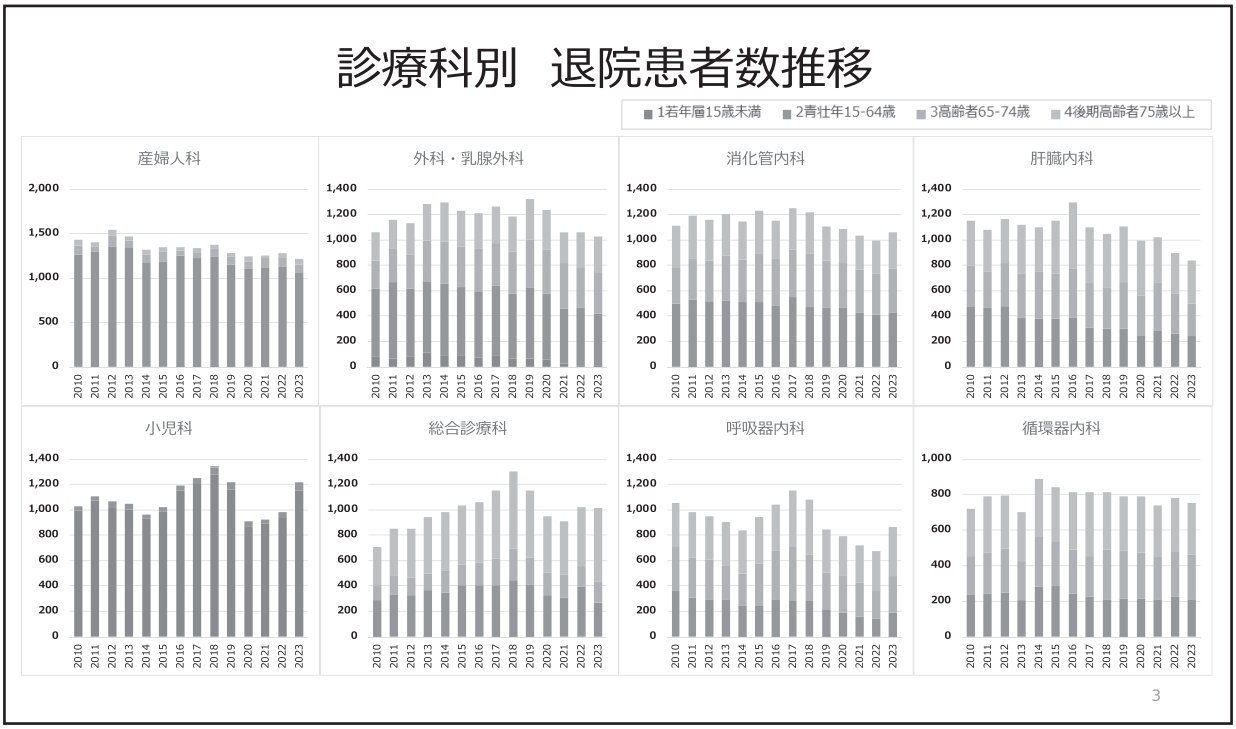


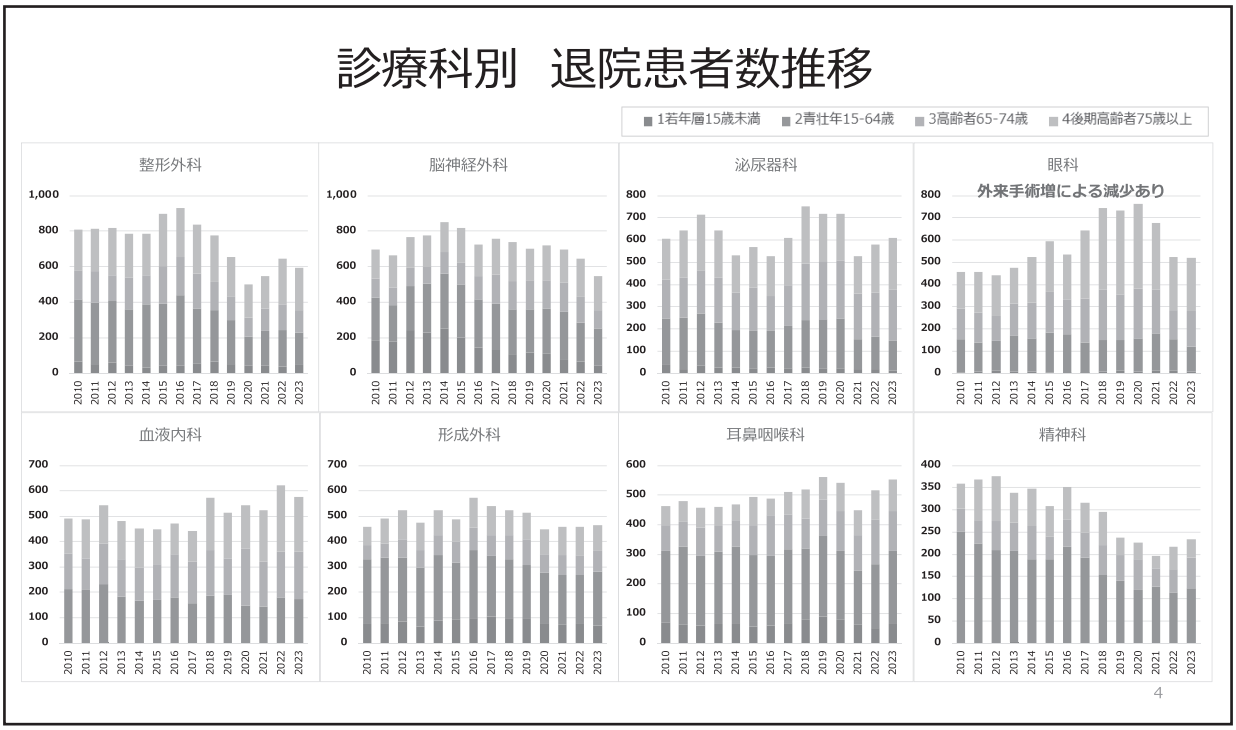


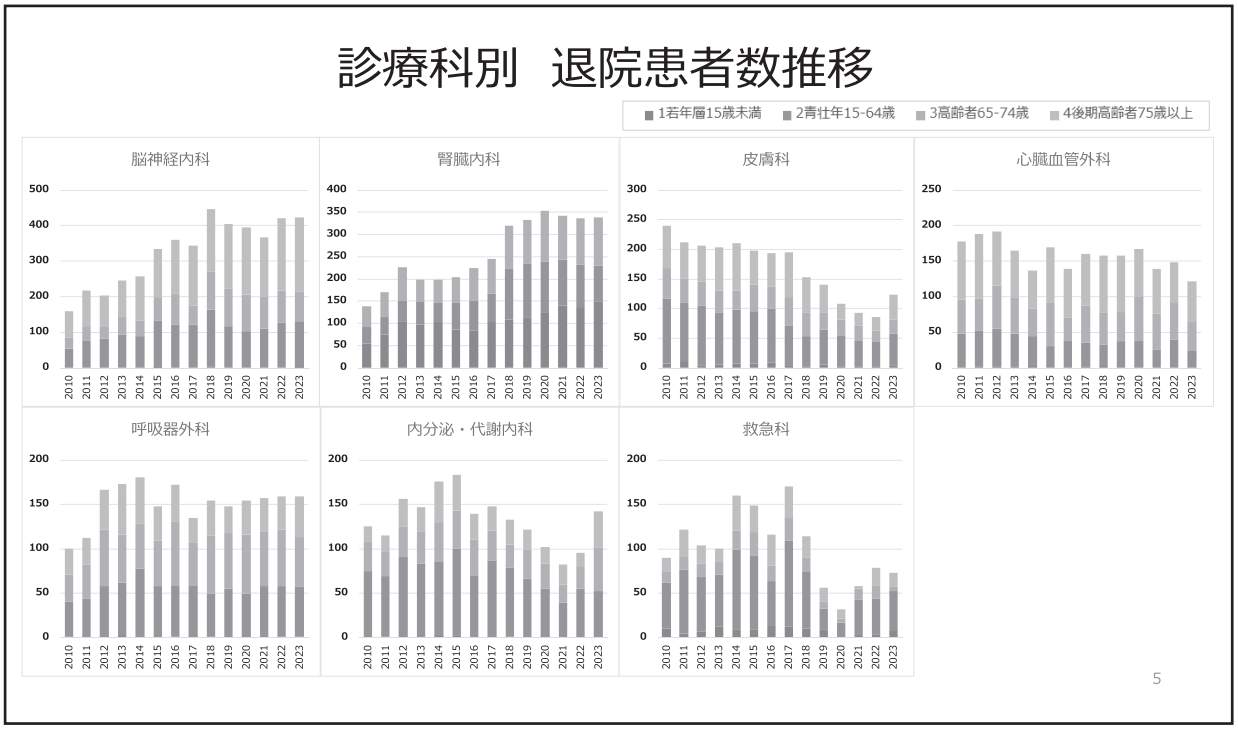

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
診療情報管理室

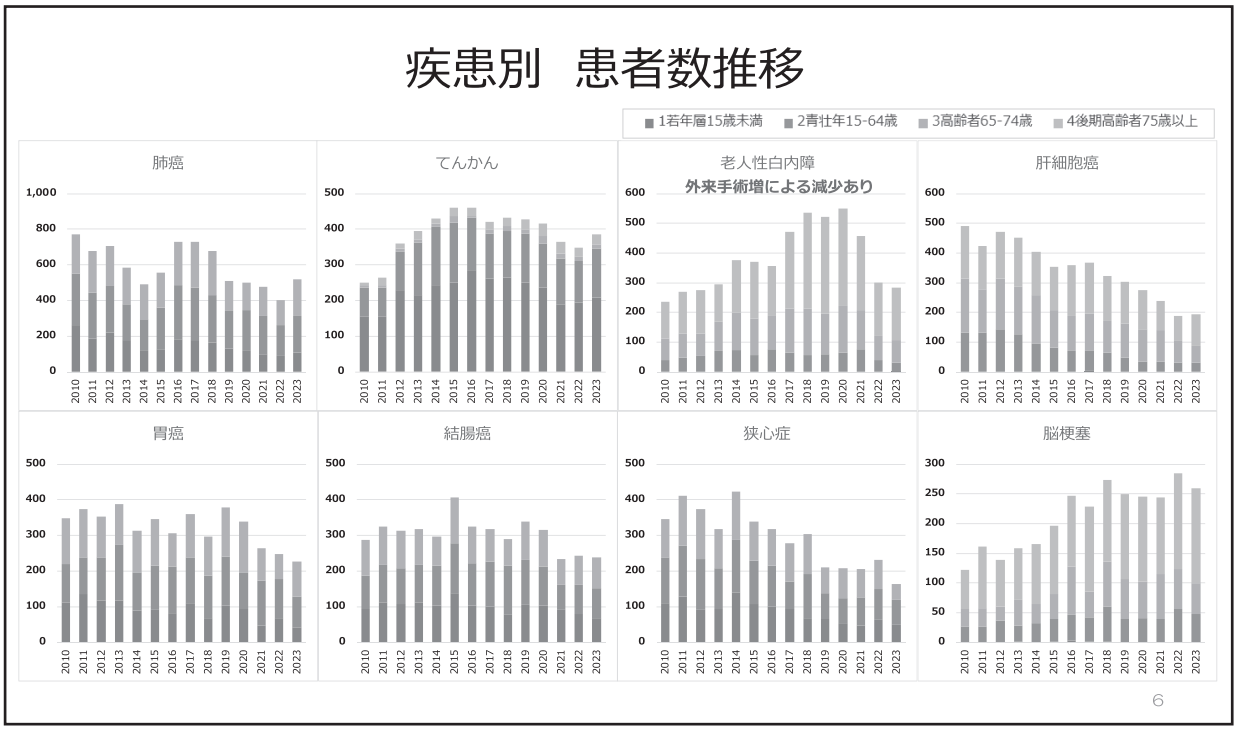
# 国際疾病大分類別の退院患者数

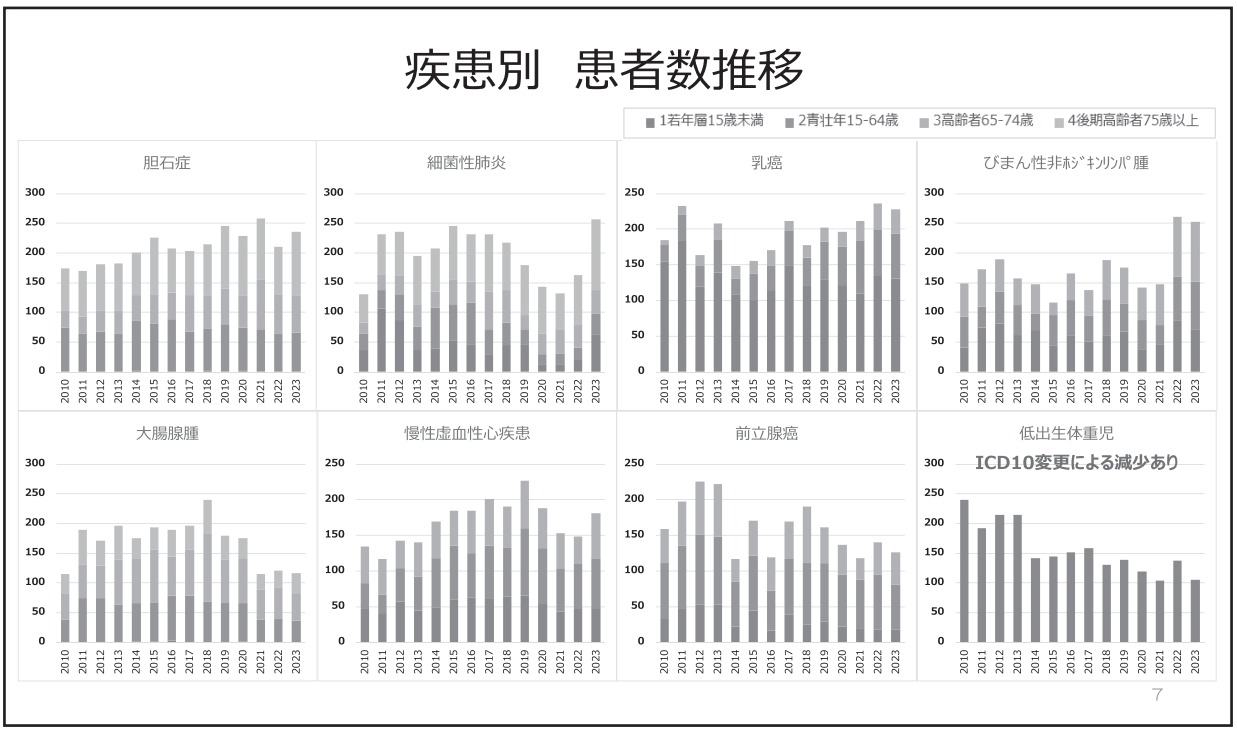


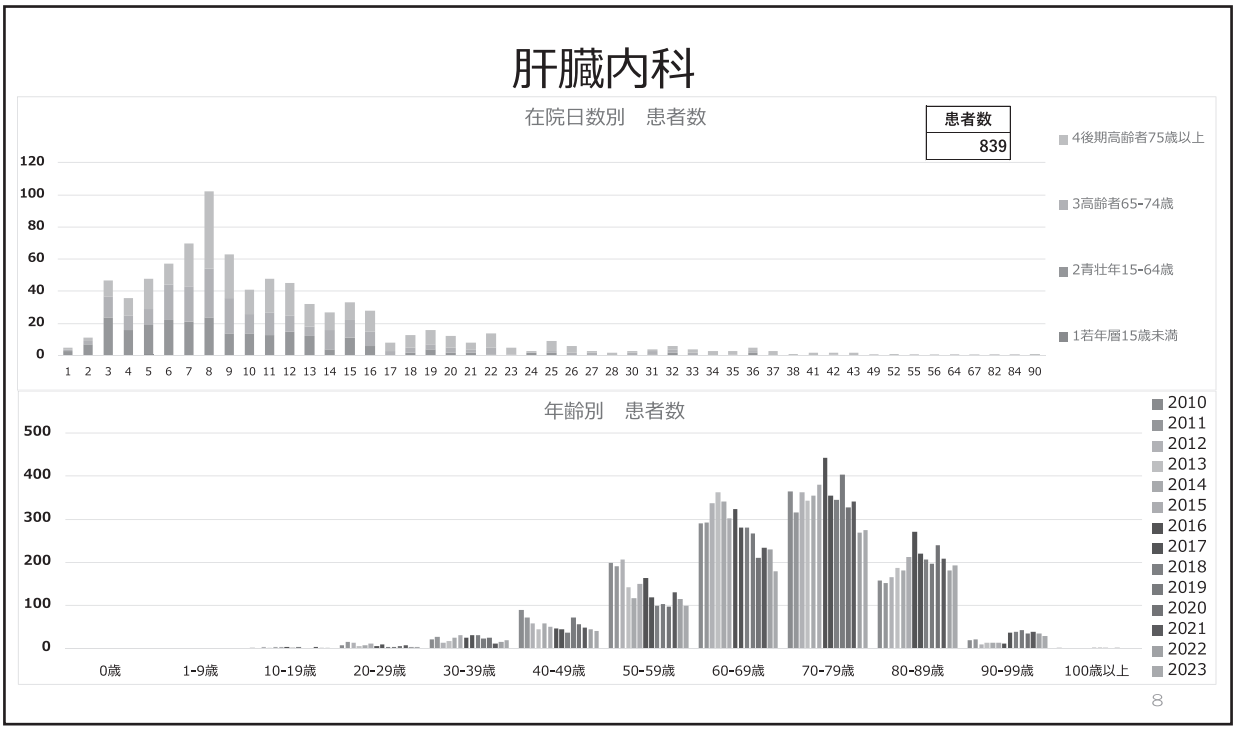

診療科別　退院患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
産婦人科
外科・乳腺外科
消化管内科
肝臓内科
小児科
総合診療科
呼吸器内科
循環器内科
3


診療科別　退院患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
整形外科
脳神経外科
泌尿器科
眼科
外来手術増による減少あり
血液内科
形成外科
耳鼻咽喉科
精神科
4

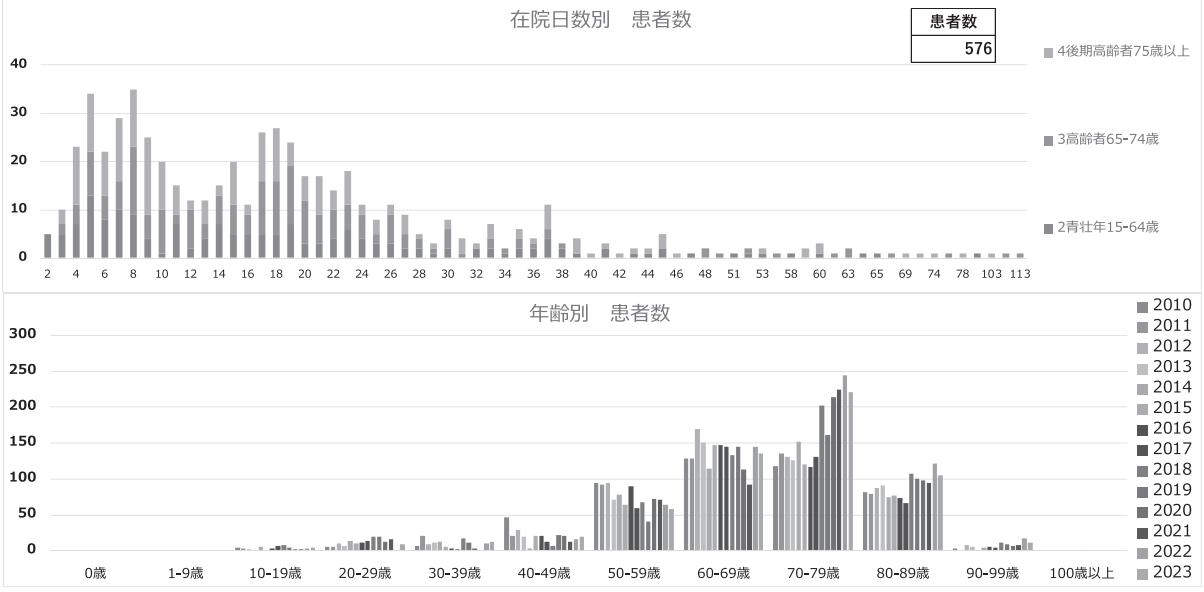

診療科別　退院患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
脳神経内科
腎臓内科
皮膚科
心臓血管外科
呼吸器外科
内分泌・代謝内科
救急科
5


疾患別　患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
肺癌
てんかん
老人性白内障
外来手術増による減少あり
肝細胞癌
胃癌
結腸癌
狭心症
脳梗塞
6


疾患別　患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
胆石症
細菌性肺炎
乳癌
びまん性非ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫
大腸腺腫
慢性虚血性心疾患
前立腺癌
低出生体重児
ICD10変更による減少あり
7

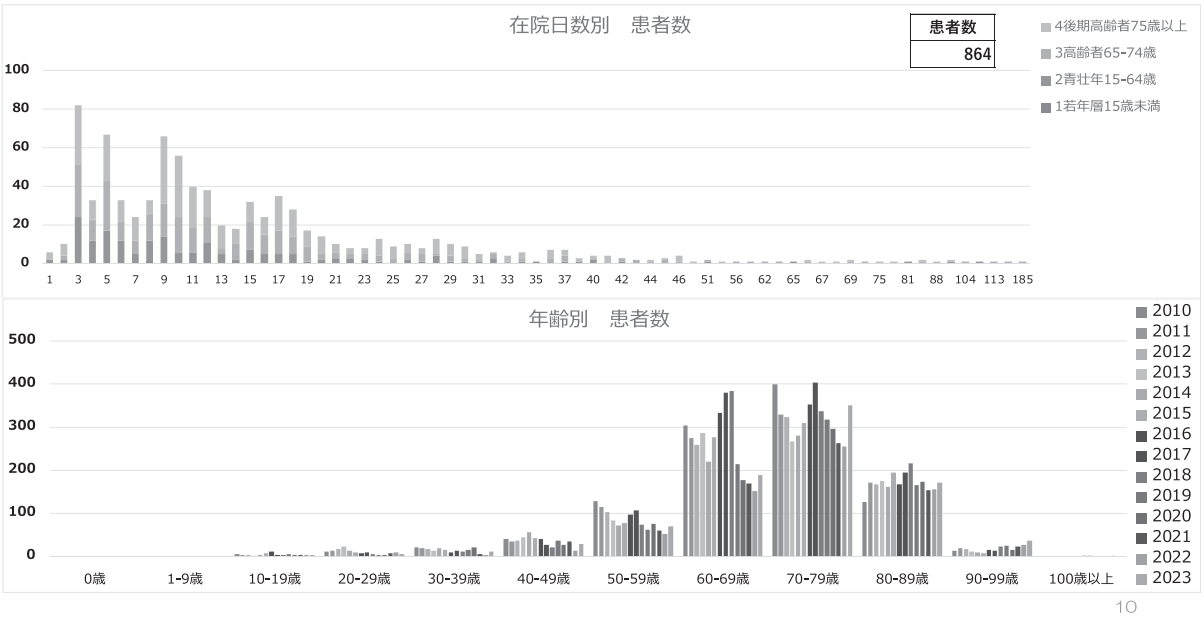

肝臓内科
在院日数別　患者数
患者数
839
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
8

# 血液内科

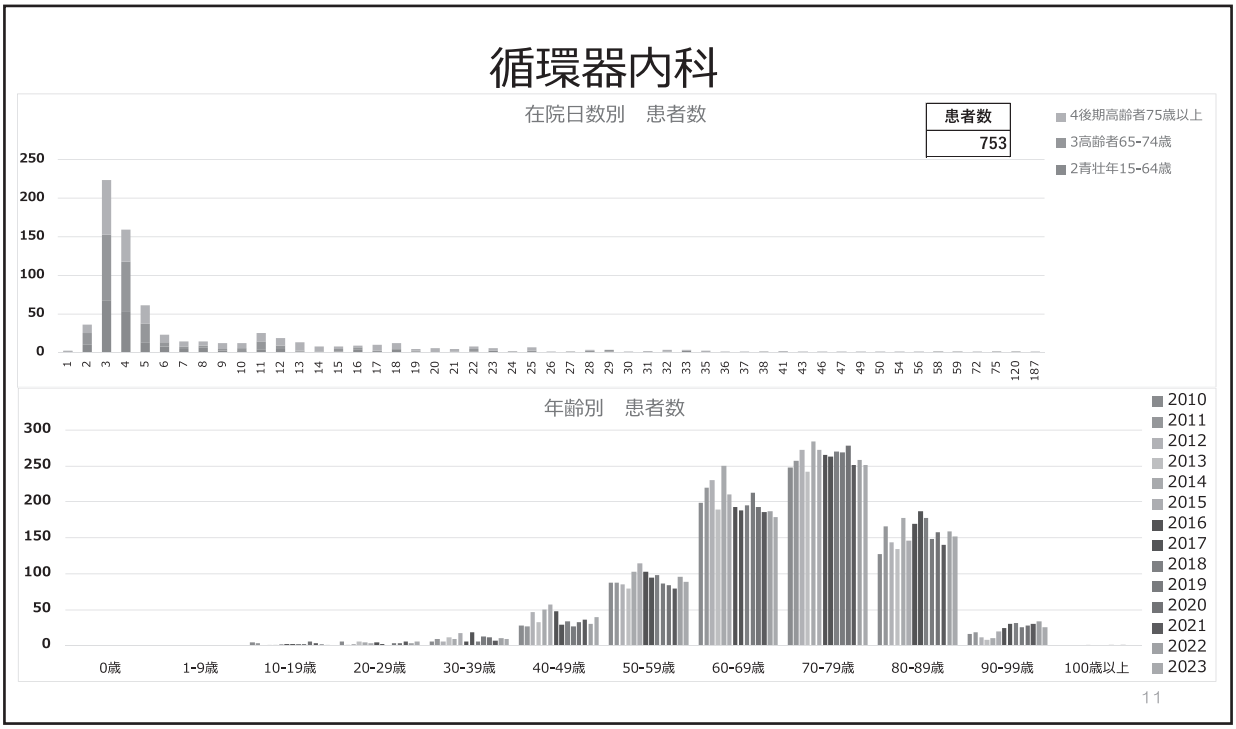


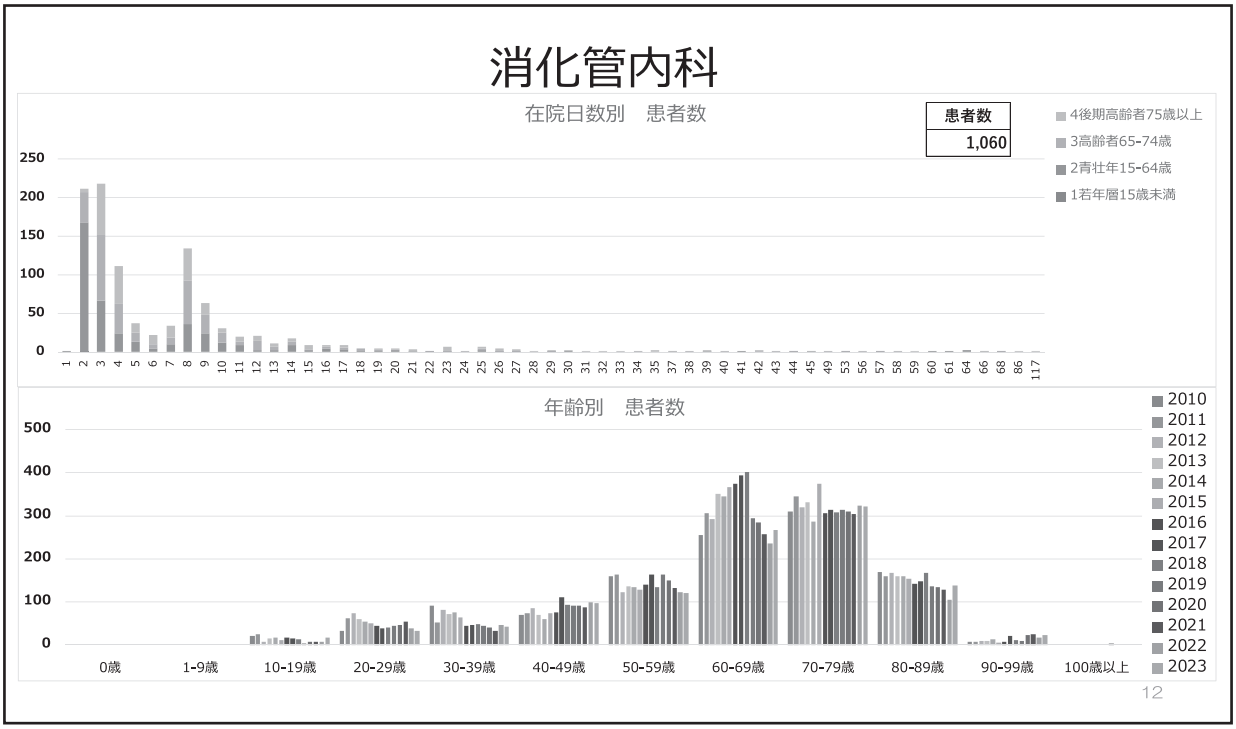

9

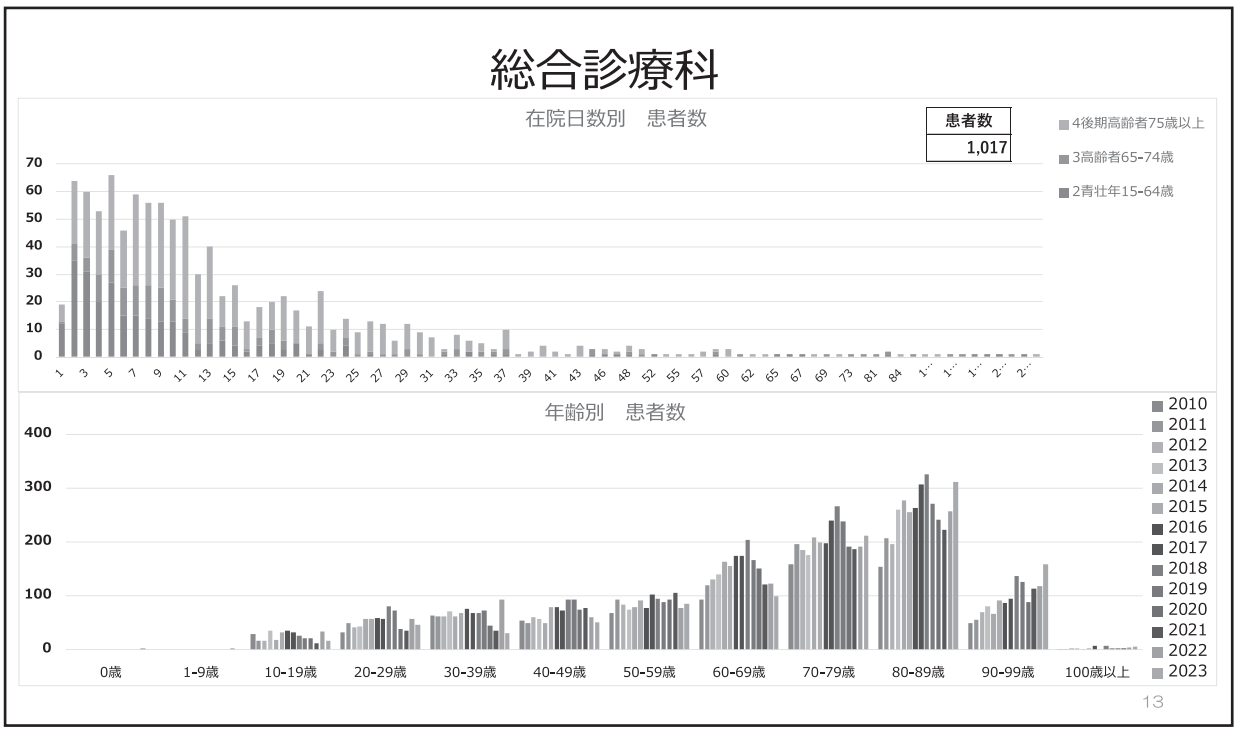
# 呼吸器内科

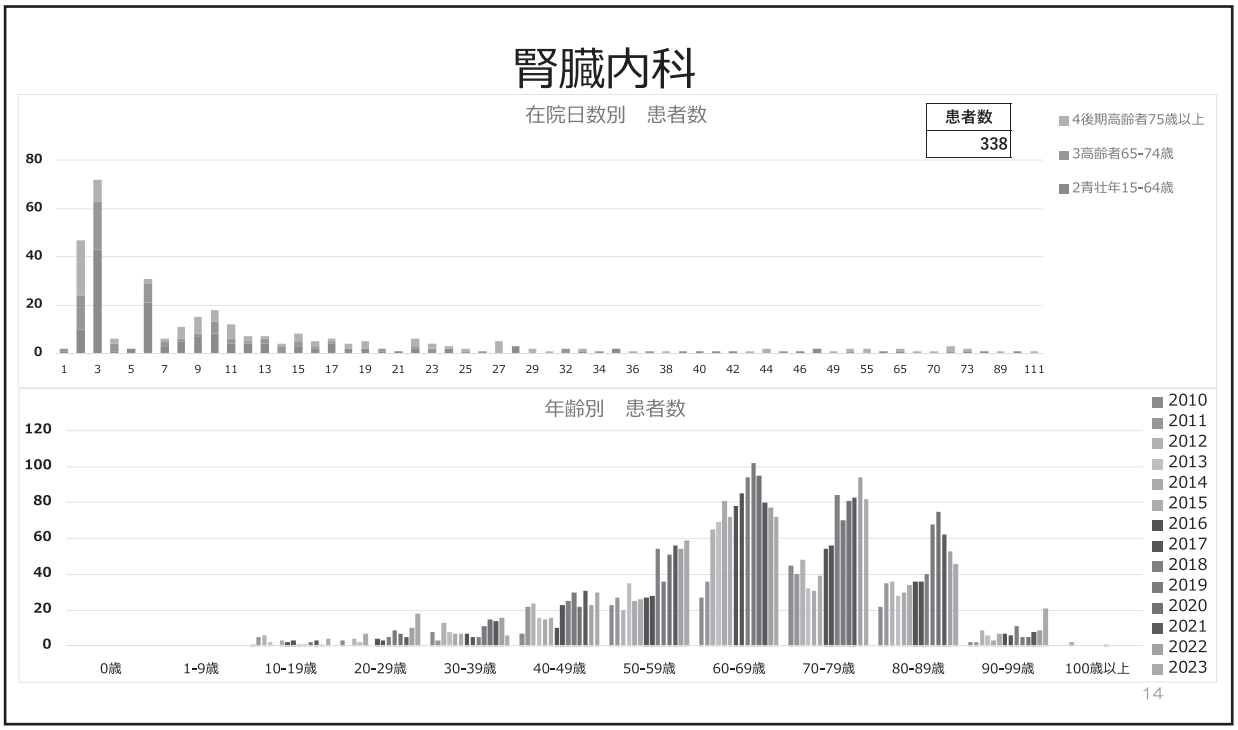


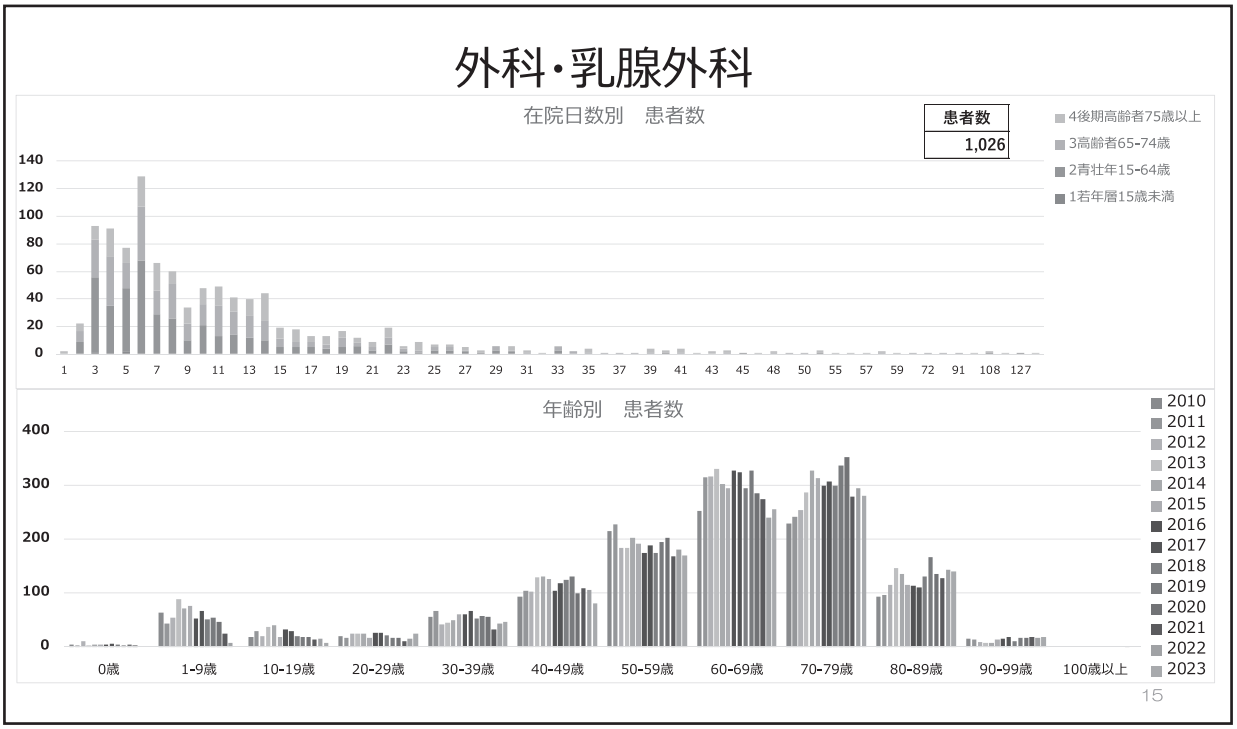

10

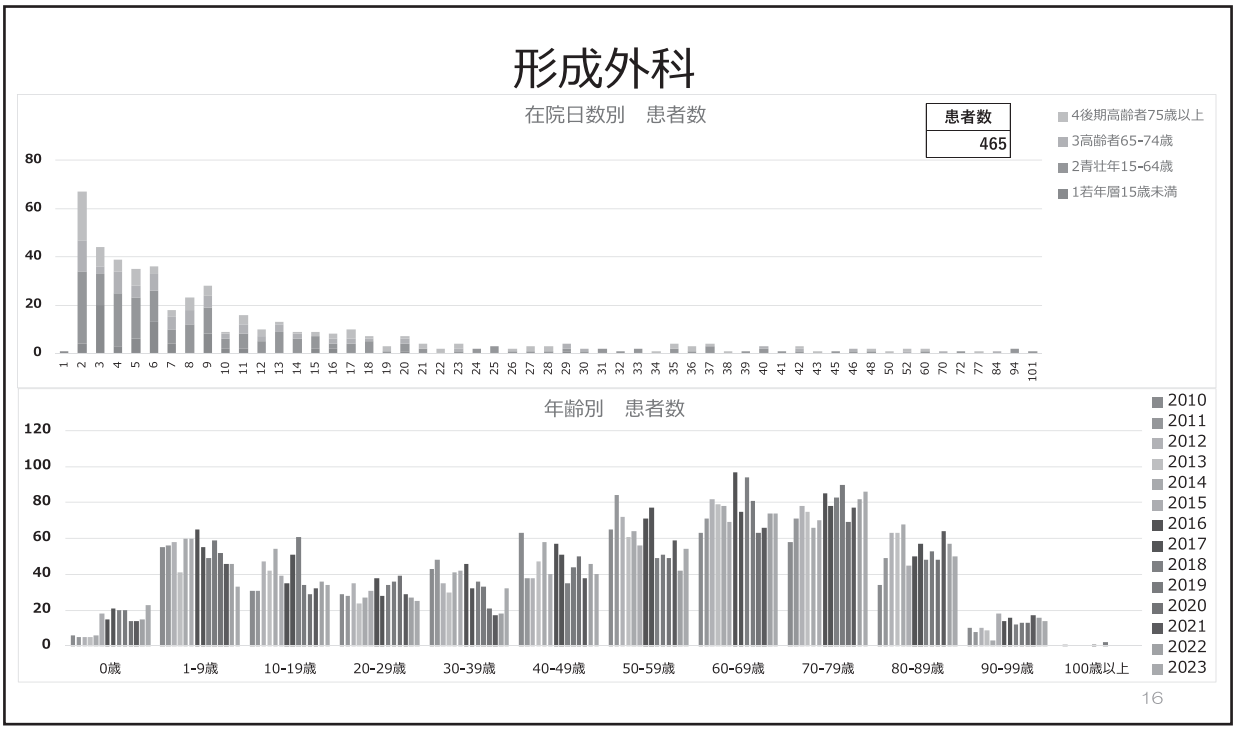

循環器内科
在院日数別　患者数
患者数
753
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
11

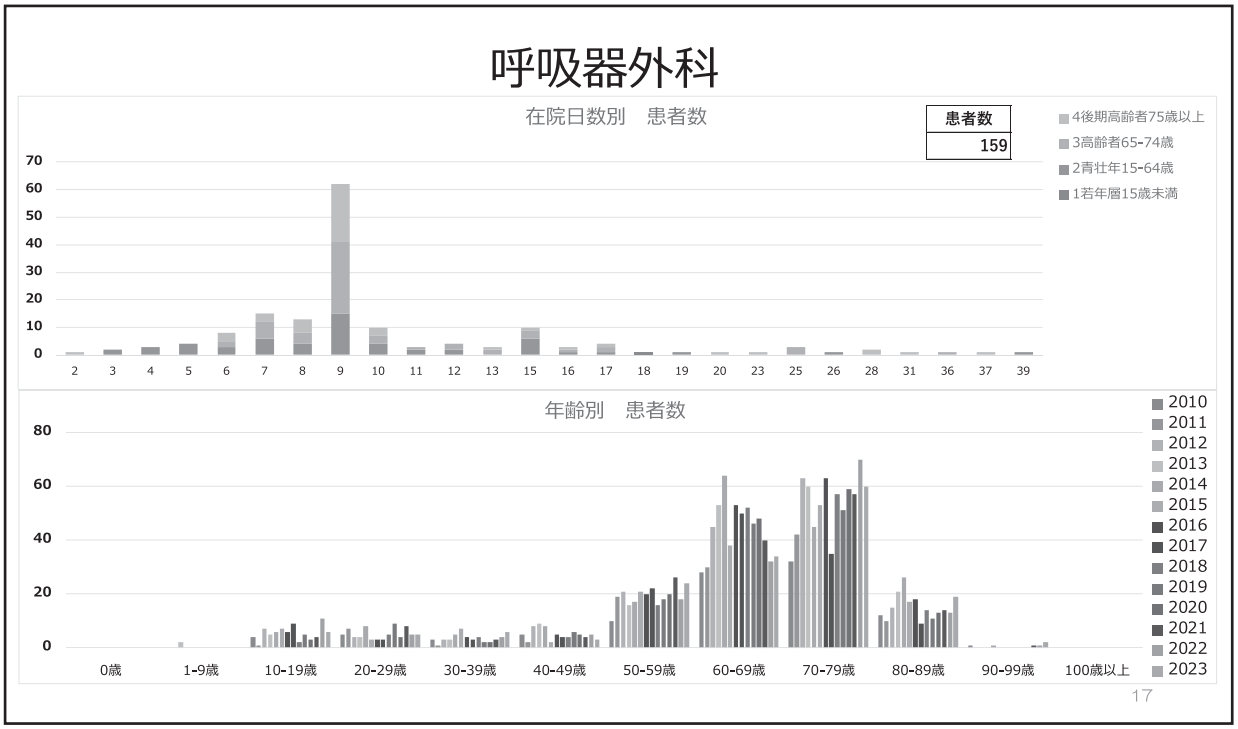

消化管内科
在院日数別　患者数
患者数
1,060
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
12

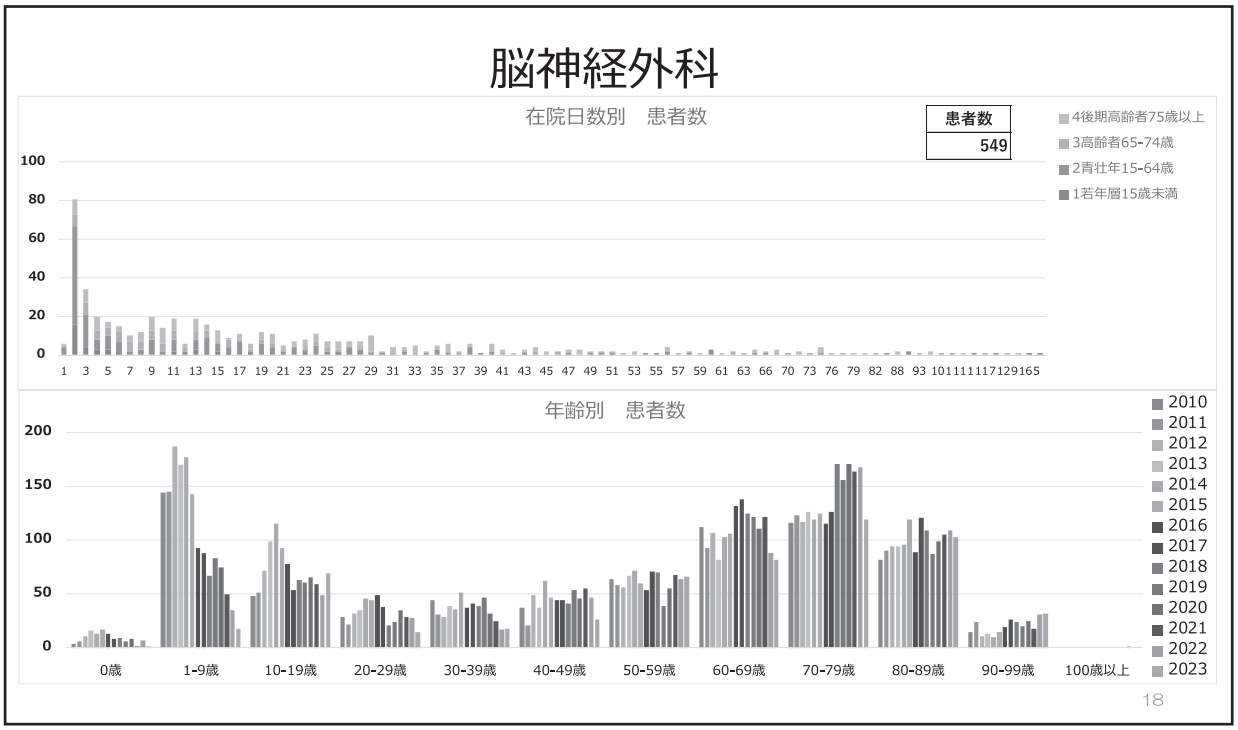

総合診療科
在院日数別　患者数
患者数
1,017
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
13

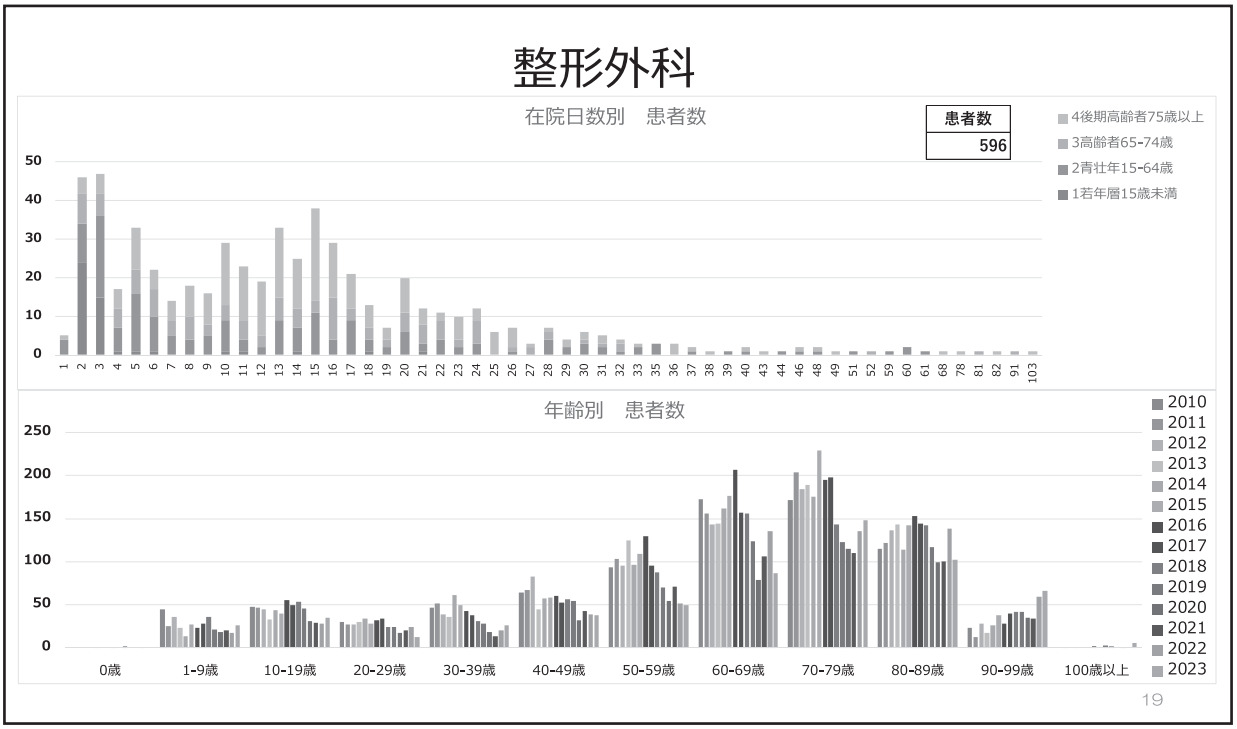

腎臓内科
在院日数別　患者数
患者数
338
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
14

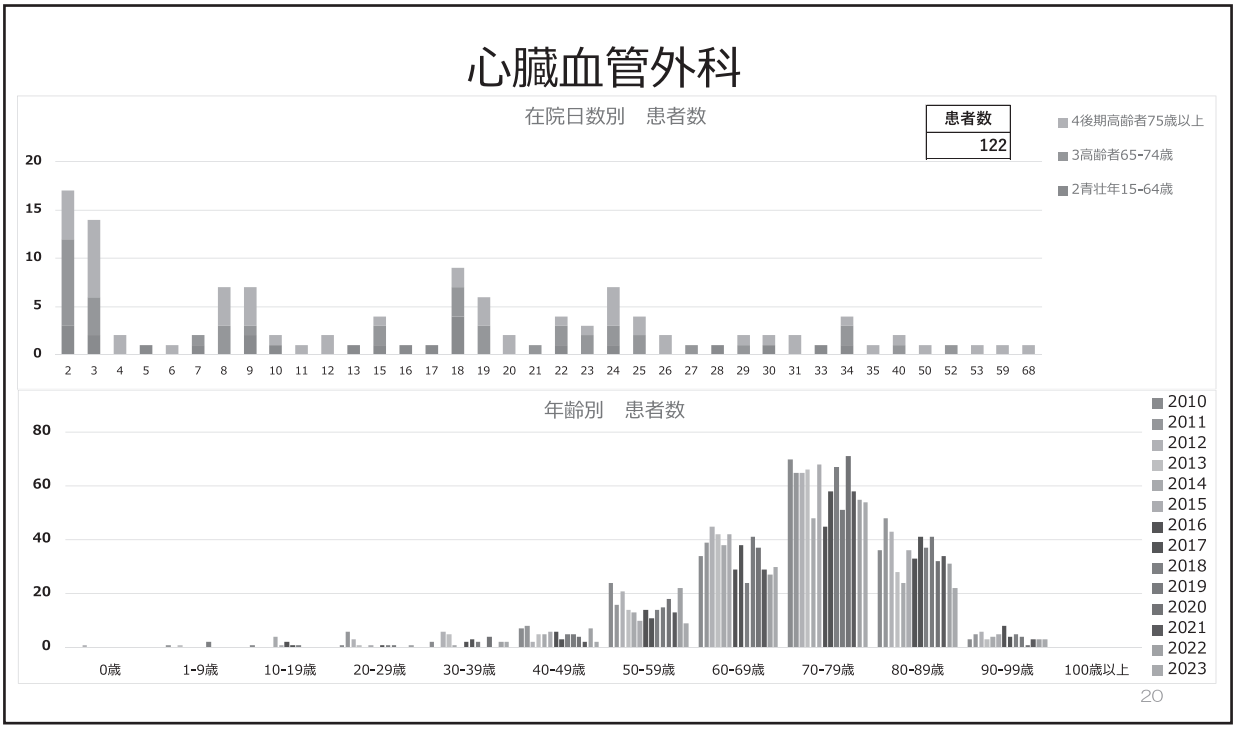

外科・乳腺外科
在院日数別　患者数
患者数
1,026
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
15


形成外科
在院日数別　患者数
患者数
465
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
16

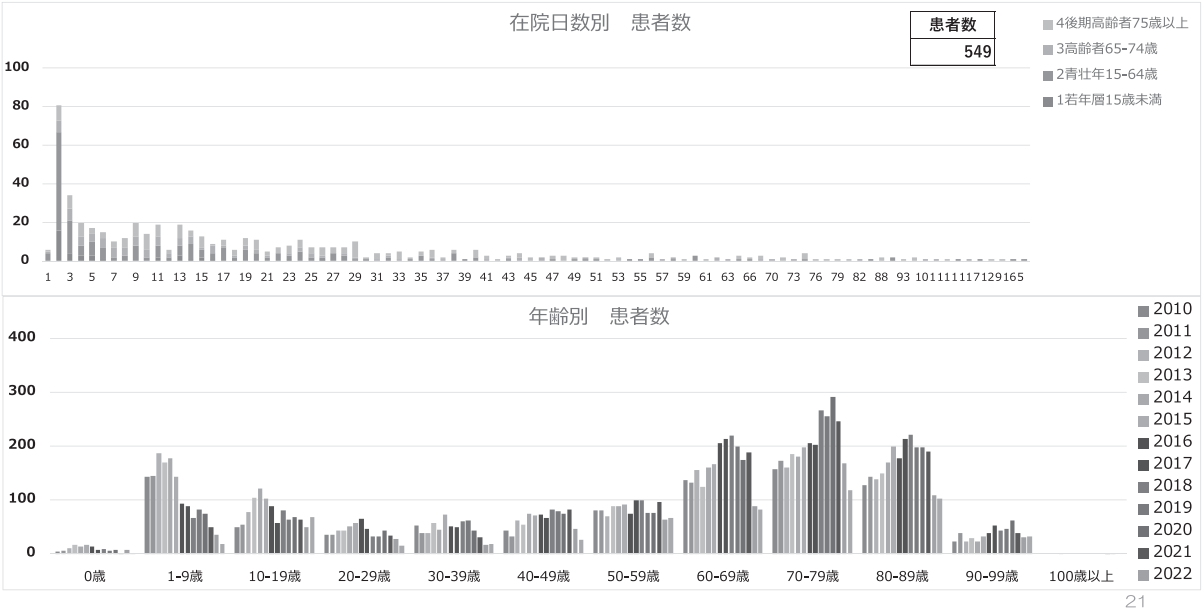

呼吸器外科
在院日数別　患者数
患者数
159
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
17


脳神経外科
在院日数別　患者数
患者数
549
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
18


整形外科
在院日数別　患者数
患者数
596
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
19


心臓血管外科
在院日数別　患者数
患者数
122
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
20

# 脳神経内科



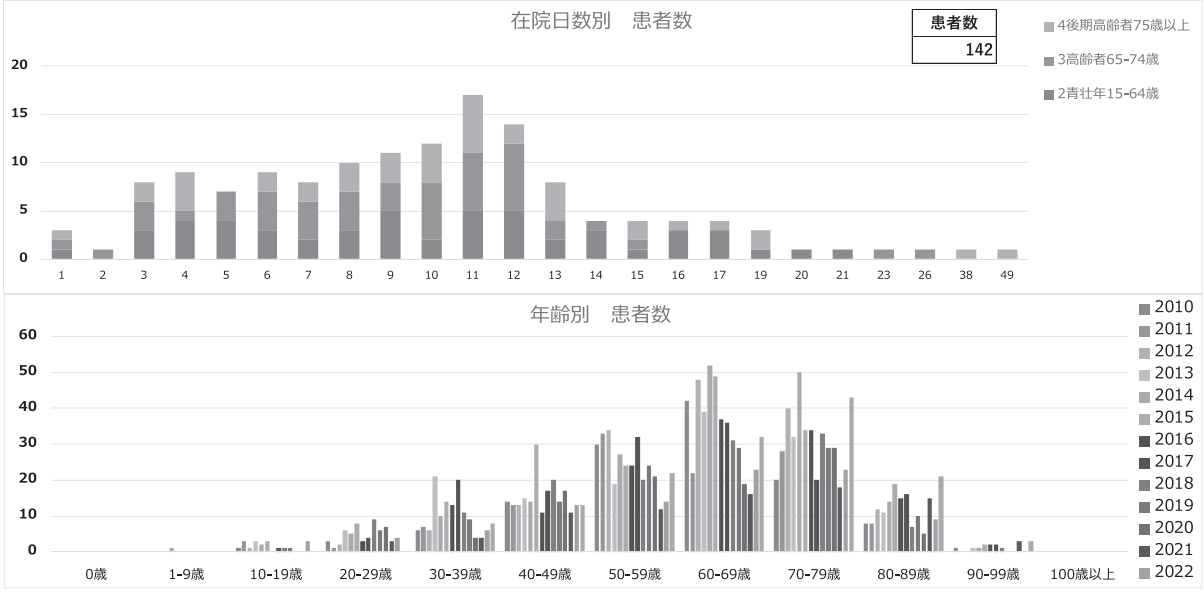

21

# 精神科



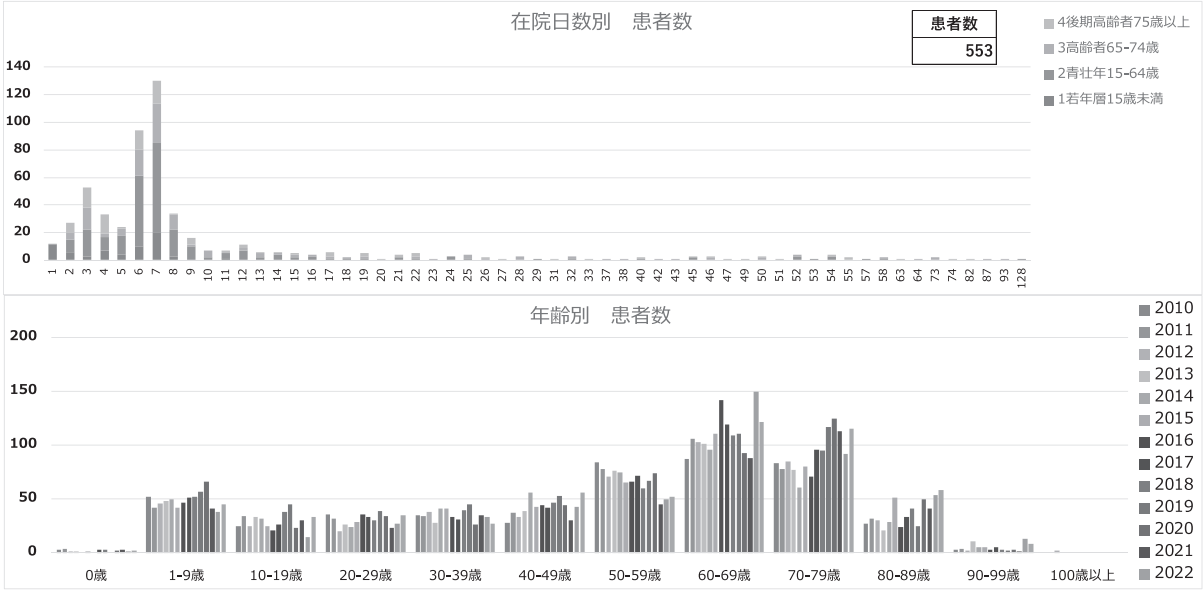

22

# 内分泌･代謝内科

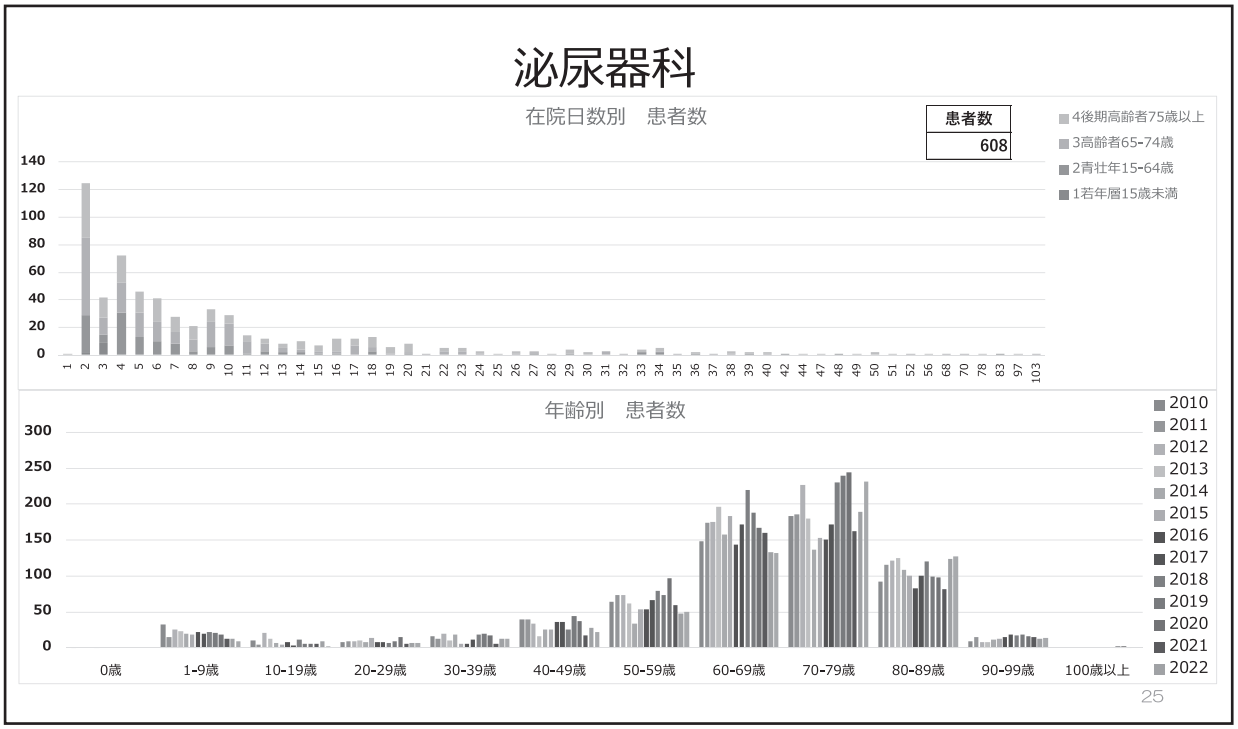


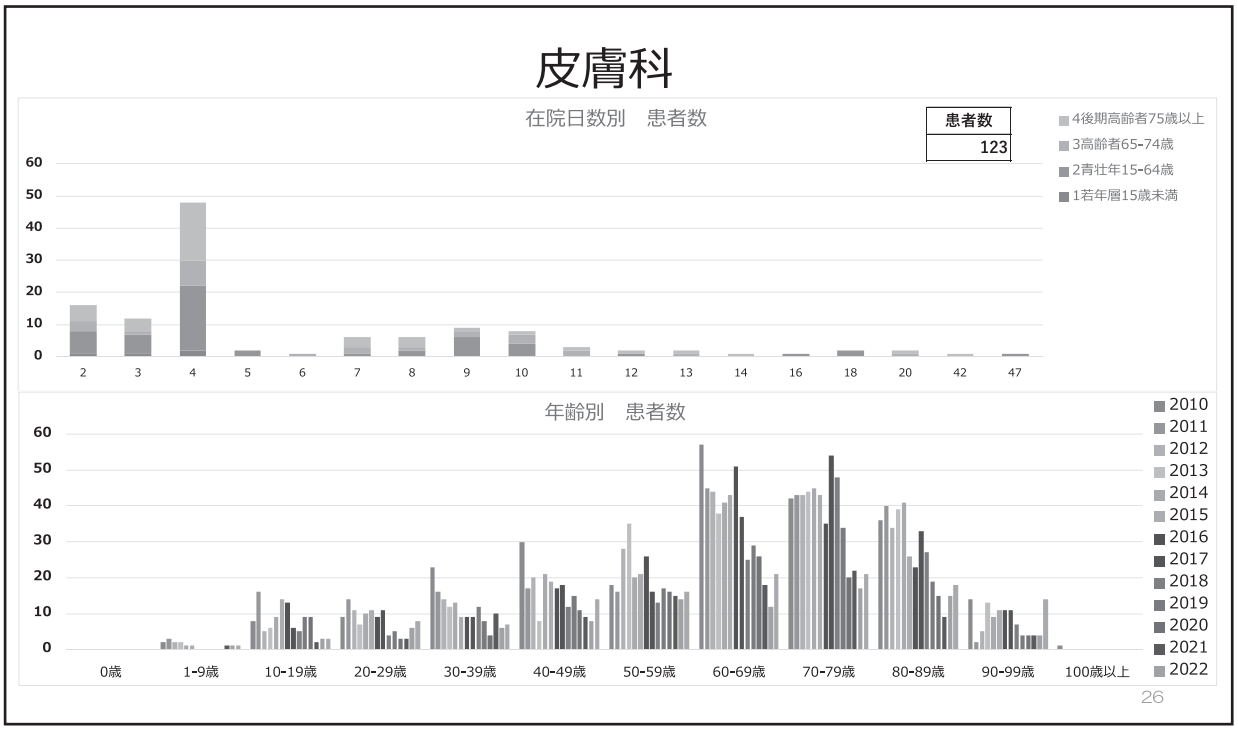

23

# 耳鼻咽喉科

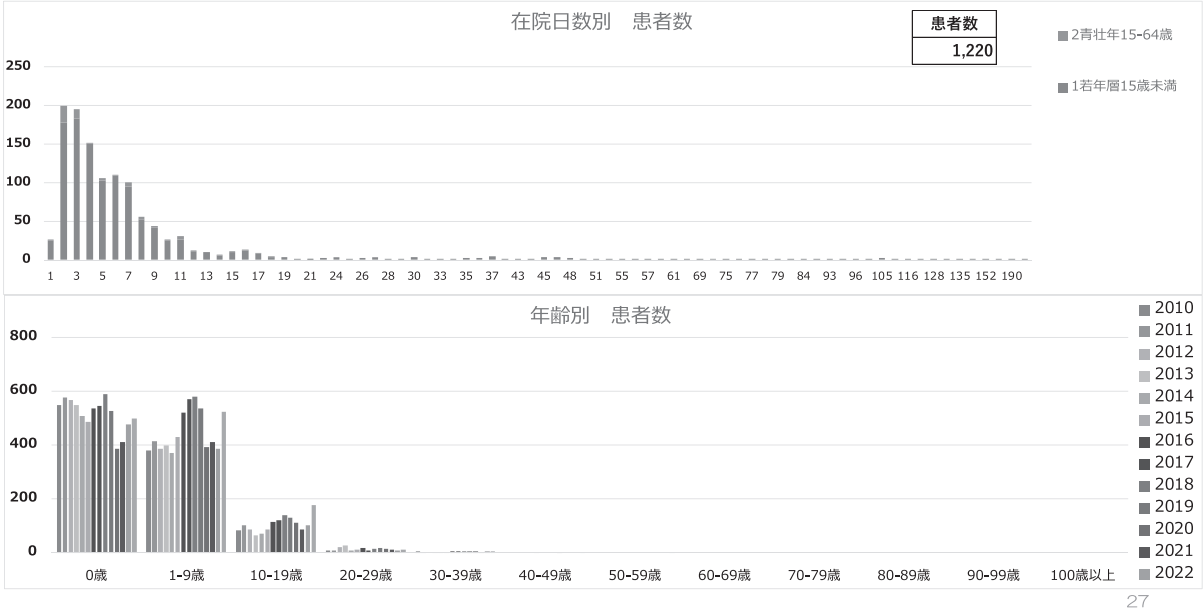



24


泌尿器科
在院日数別　患者数
患者数
608
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
25

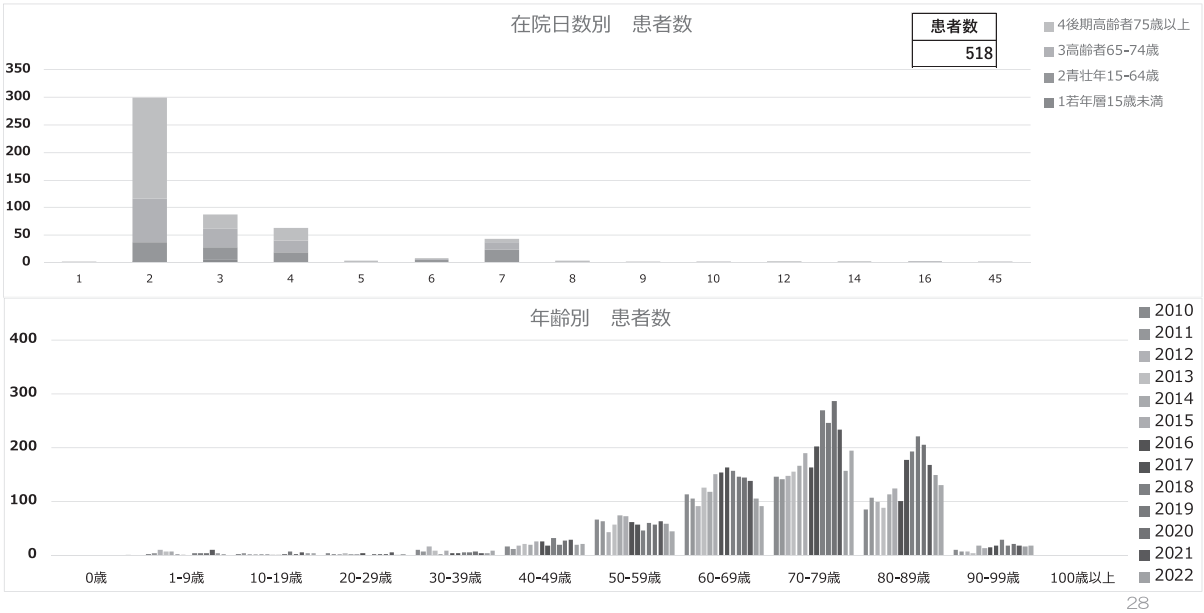

皮膚科
在院日数別　患者数
患者数
123
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
年齢別　患者数
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
26

# 小児科


在院日数別　患者数
患者数
1,220
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
250
200
150
100
50
0
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 24 26 28 30 33 35 37 43 45 48 51 55 57 61 69 75 77 79 84 93 96 105 116 128 135 152 190
年齢別　患者数
800
600
400
200
0
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022

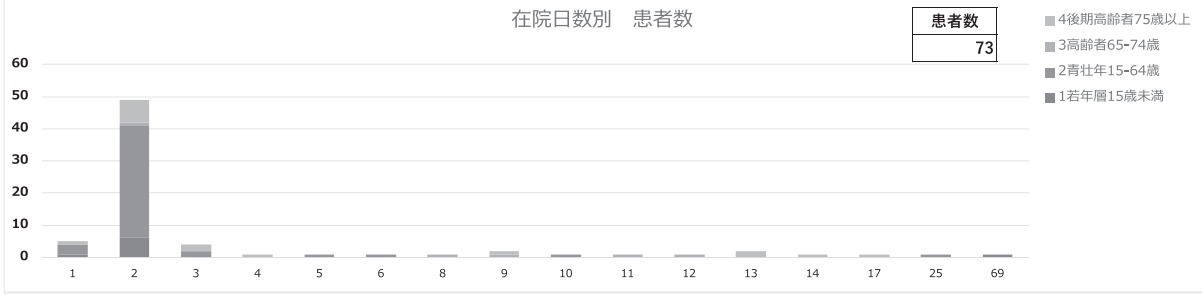
27

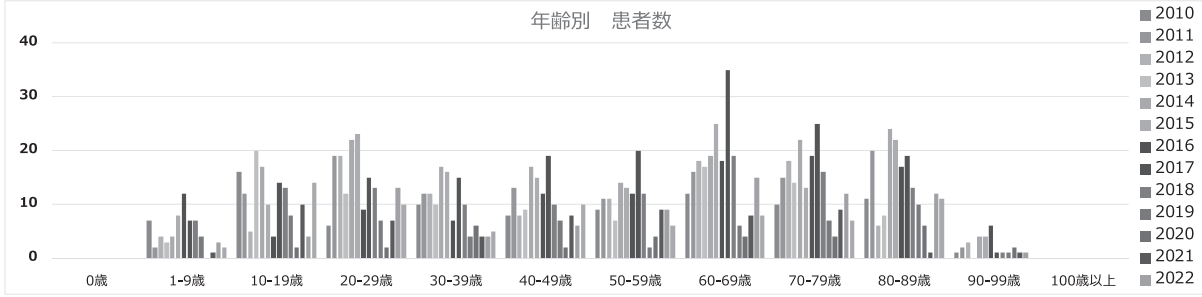
# 眼科


在院日数別　患者数
患者数
518
4後期高齢者75歳以上
3高齢者65-74歳
2青壮年15-64歳
1若年層15歳未満
350
300
250
200
150
100
50
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 12 14 16 45
年齢別　患者数
400
300
200
100
0
0歳
1-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90-99歳
100歳以上
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022

28

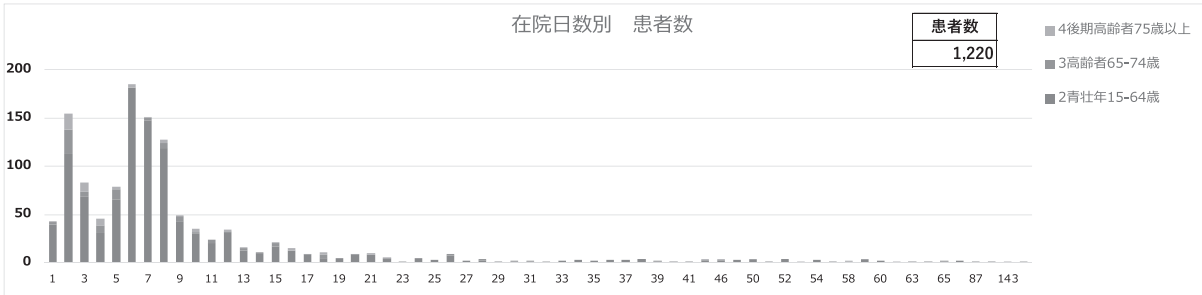
# 救急科

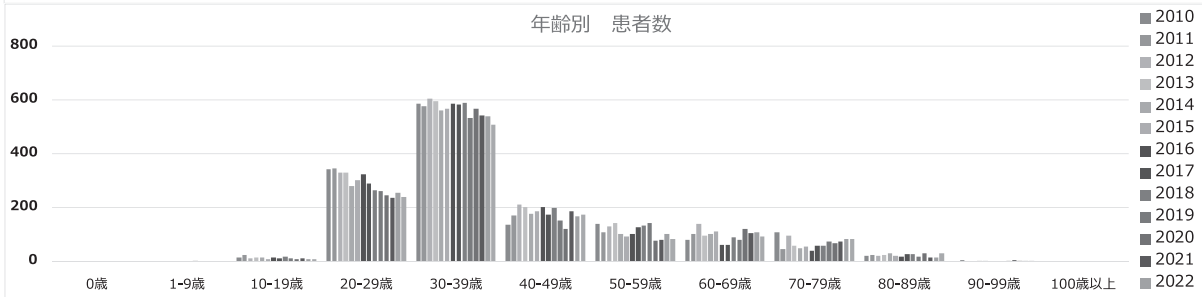



29

# 産婦人科

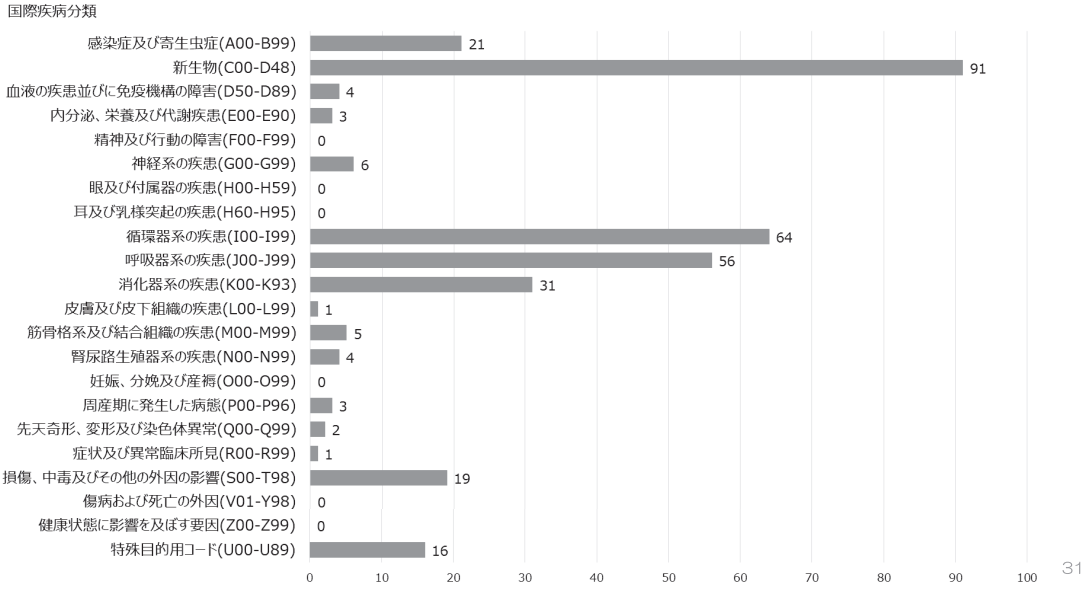


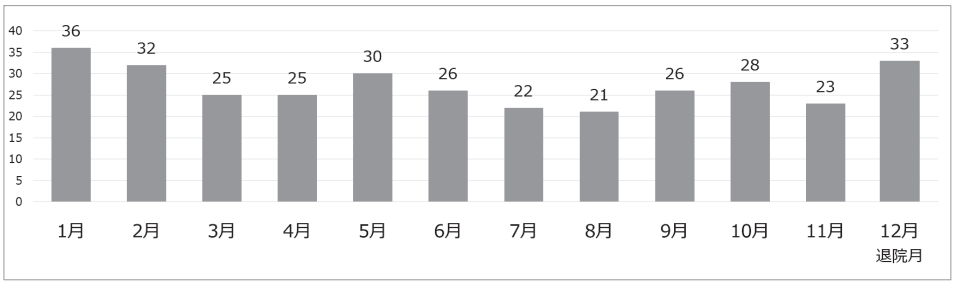

30

# ICD10分類別　死亡退院数

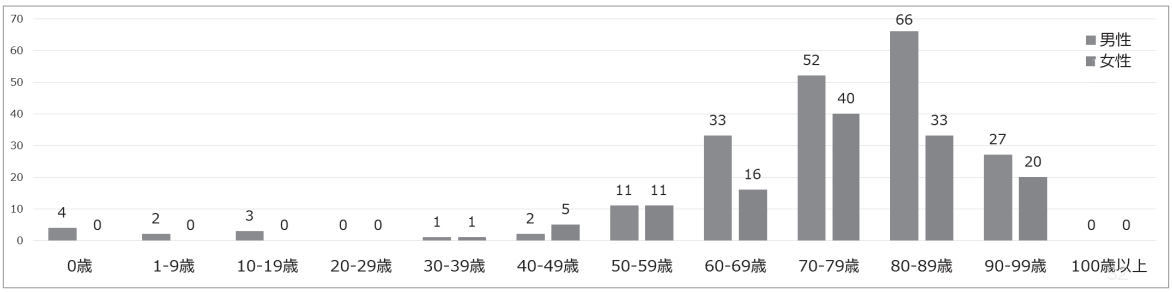
総計 327件

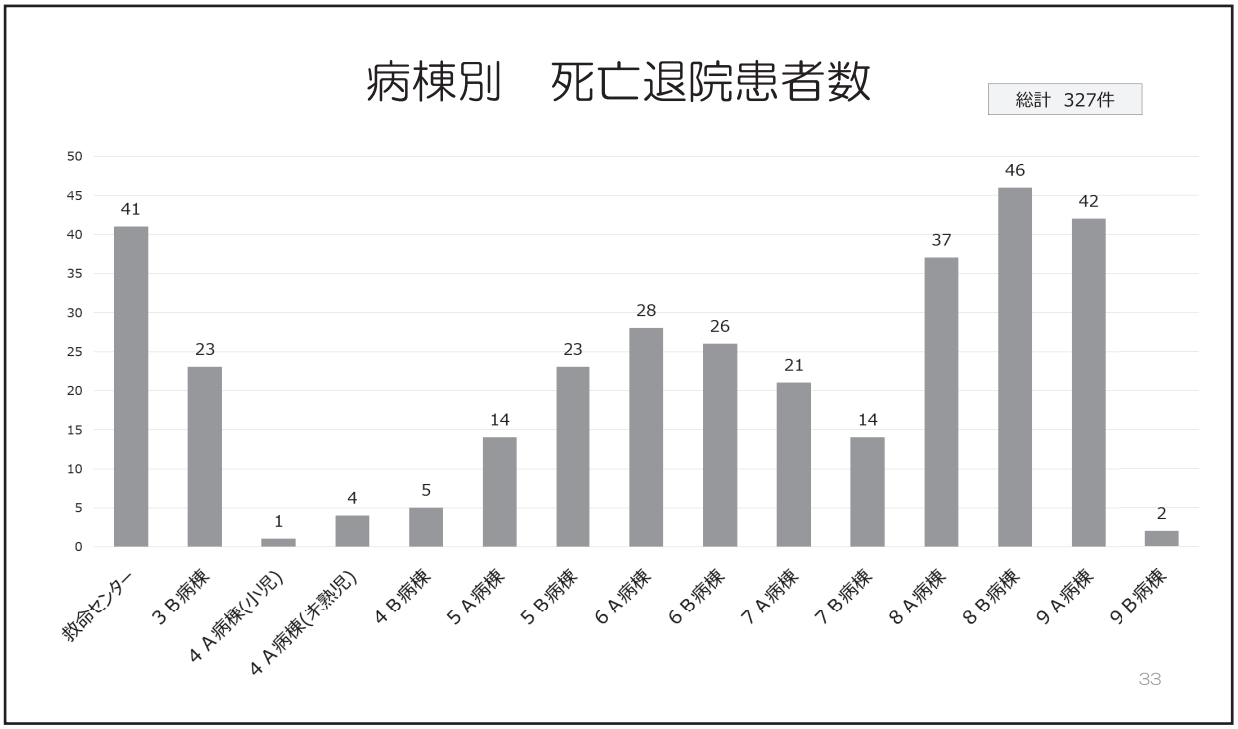


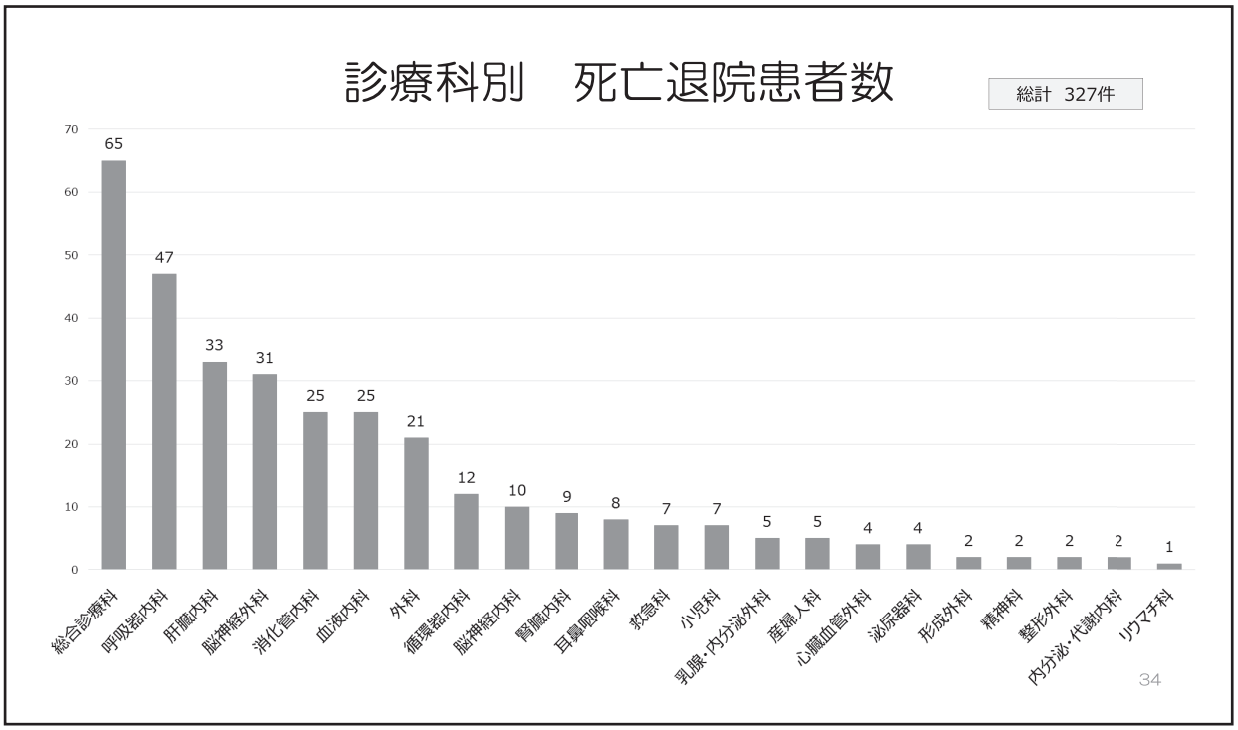

# 月別／性別・年齢階層別　死亡退院患者数




総計 327件
（男性201 女性126）



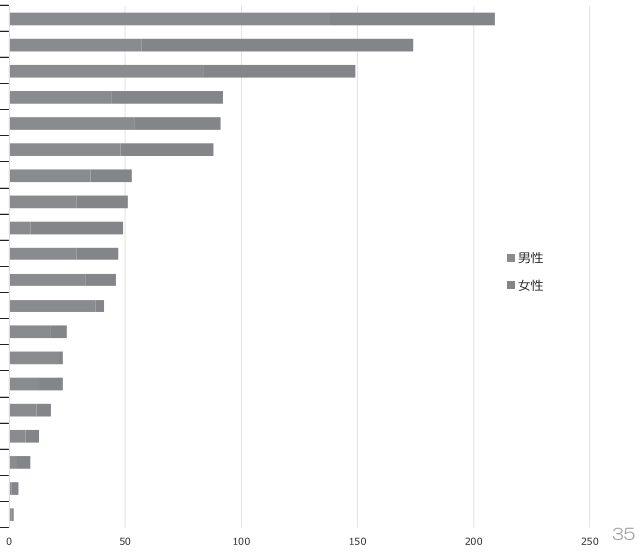

病棟別　死亡退院患者数
総計 327件
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
41
23
1
4
5
14
23
28
26
21
14
37
46
42
2
救命センター
３Ｂ病棟
４Ａ病棟(小児)
４Ａ病棟(未熟児)
４Ｂ病棟
５Ａ病棟
５Ｂ病棟
６Ａ病棟
６Ｂ病棟
７Ａ病棟
７Ｂ病棟
８Ａ病棟
８Ｂ病棟
９Ａ病棟
９Ｂ病棟
33


診療科別　死亡退院患者数
総計 327件
70
60
50
40
30
20
10
0
65
47
33
31
25
25
21
12
10
9
8
7
7
5
5
4
4
2
2
2
2
1
総合診療科
呼吸器内科
肝臓内科
脳神経外科
消化管内科
血液内科
外科
循環器内科
脳神経内科
腎臓内科
耳鼻咽喉科
救急科
小児科
乳腺・内分泌外科
産婦人科
心臓血管外科
泌尿器科
形成外科
精神科
整形外科
内分泌・代謝内科
リウマチ科
34

# 外傷：ICD10分類疾病別件数

総計　1207件
（男性673　女性534）

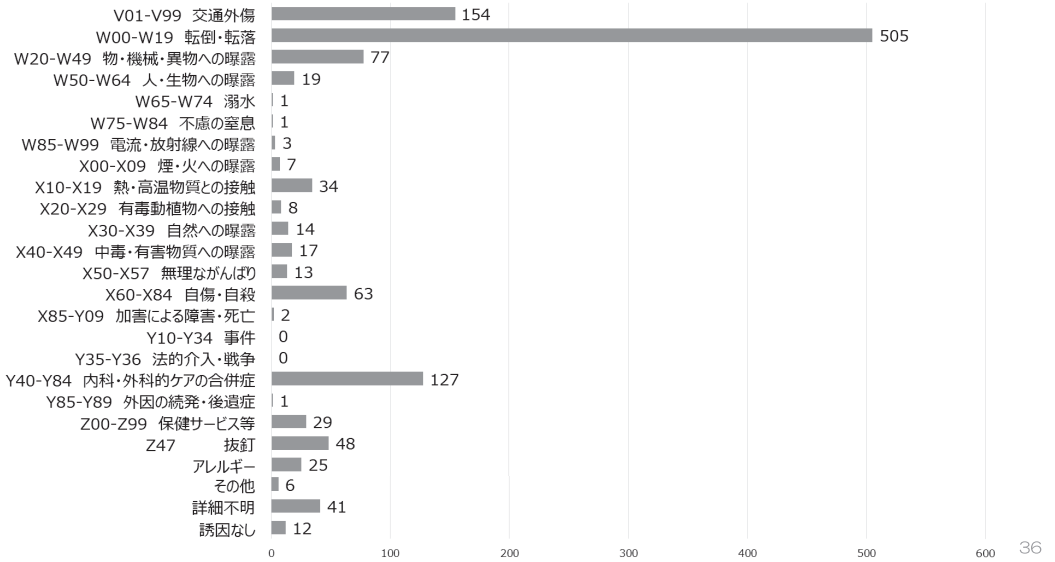
| 男性 | 女性 | 総計 | |
|---|---|---|---|
| 138 | 71 | 209 | 頭部損傷 |
| 57 | 117 | 174 | 股関節部および大腿の損傷 |
| 84 | 65 | 149 | 外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの |
| 44 | 48 | 92 | 肘および前腕の損傷 |
| 54 | 37 | 91 | 膝および下腿の損傷 |
| 48 | 40 | 88 | 腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷 |
| 35 | 18 | 53 | 胸部＜郭＞損傷 |
| 29 | 22 | 51 | 外因のその他および詳細不明の作用 |
| 9 | 40 | 49 | 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒 |
| 29 | 18 | 47 | 肩および上腕の損傷 |
| 33 | 13 | 46 | 熱傷および腐食 |
| 37 | 4 | 41 | 手首および手の損傷 |
| 18 | 7 | 25 | 薬用を主としない物質の毒作用 |
| 13 | 10 | 23 | 頚部損傷 |
| 21 | 2 | 23 | 足首および足の損傷 |
| 12 | 6 | 18 | 多部位の損傷 |
| 7 | 6 | 13 | 自然開口部からの異物侵入の作用 |
| 3 | 6 | 9 | 部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷または部位不明の損傷 |
| 1 | 3 | 4 | 損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症 |
| 1 | 1 | 2 | 外傷の早期合併症 |
| 673 | 534 | 1207 | |




35

# 外傷：受傷機転別件数

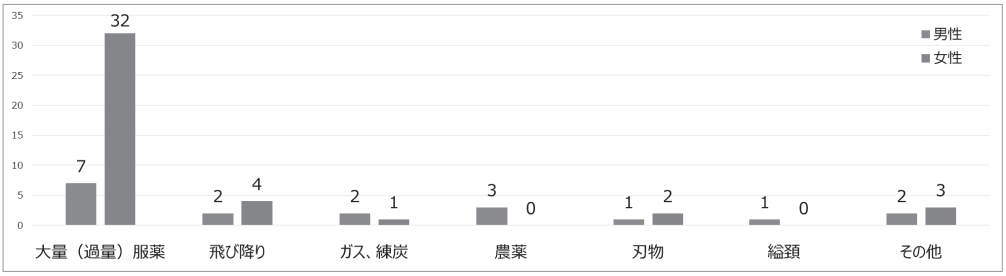
総計　1207件

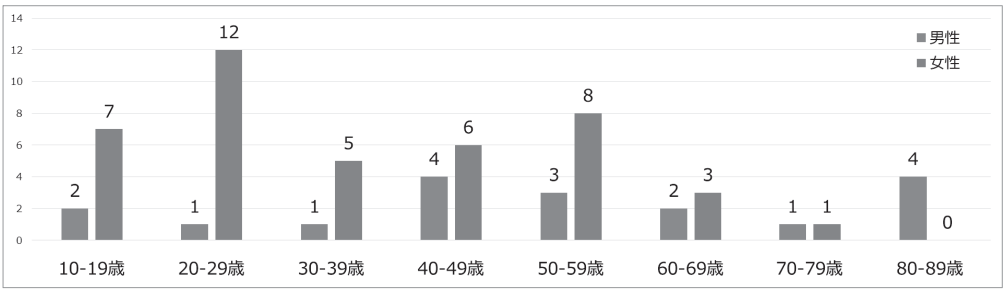



36

## 自殺・自殺企図　手段別件数／年代別件数

総計　60件
（男性18　女性42）

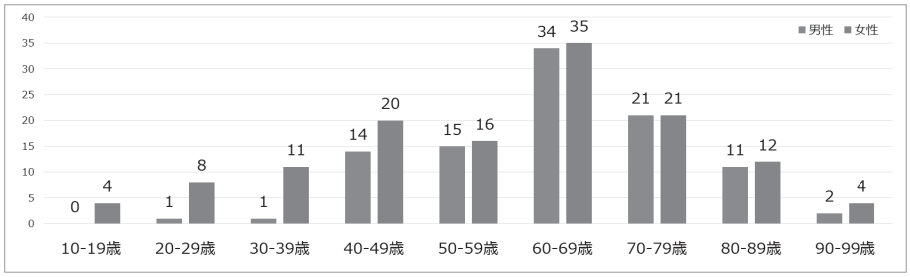


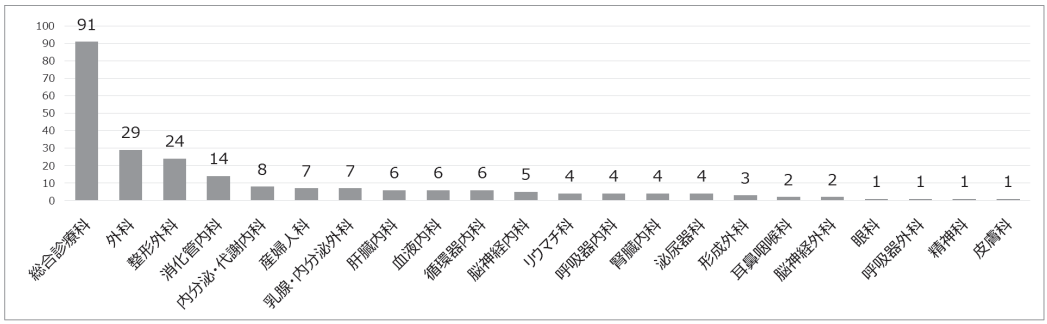




37

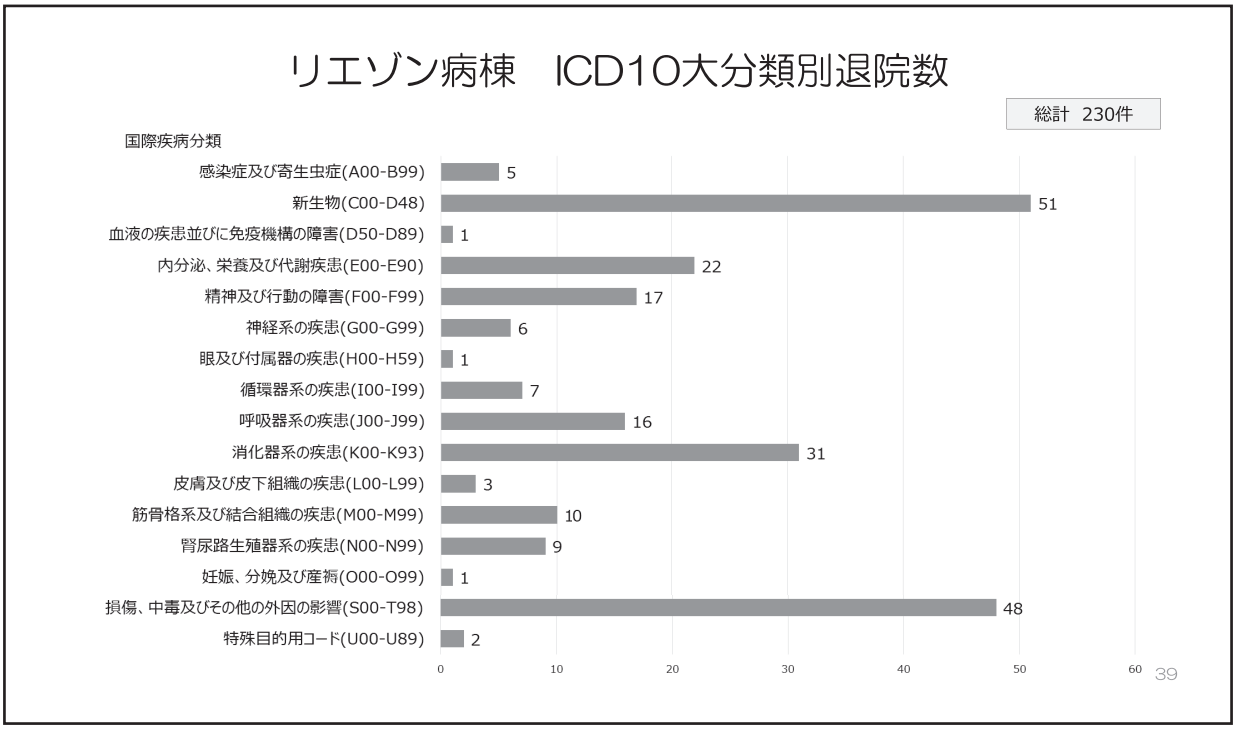
## リエゾン病棟　年齢階層・性別件数／診療科別

総計　230件
男性　99件
女性　131件




38


リエゾン病棟　ICD10大分類別退院数
総計 230件
国際疾病分類
感染症及び寄生虫症(A00-B99) 5
新生物(C00-D48) 51
血液の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89) 1
内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90) 22
精神及び行動の障害(F00-F99) 17
神経系の疾患(G00-G99) 6
眼及び付属器の疾患(H00-H59) 1
循環器系の疾患(I00-I99) 7
呼吸器系の疾患(J00-J99) 16
消化器系の疾患(K00-K93) 31
皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99) 3
筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99) 10
腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99) 9
妊娠、分娩及び産褥(O00-O99) 1
損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98) 48
特殊目的用コード(U00-U89) 2
0
10
20
30
40
50
60
39

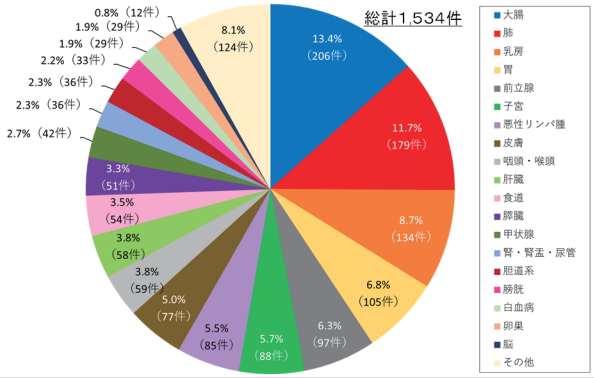
# 2022 年

# 長崎医療センター

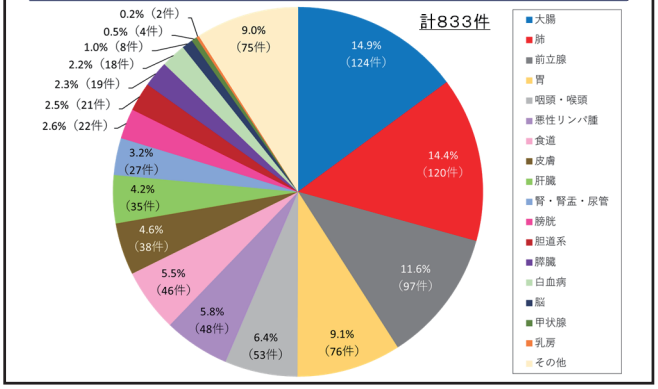
# 腫瘍集計報告

2022年 1 月～ 2022年12月

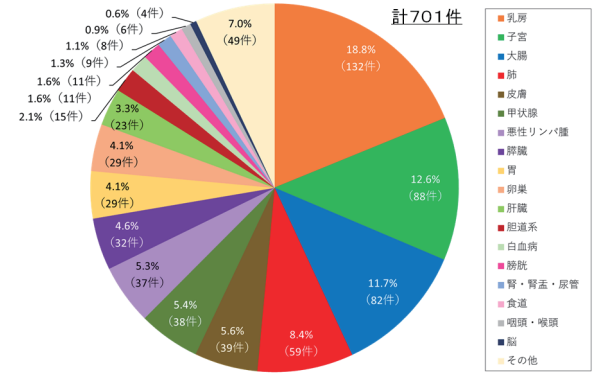
## 全がん　部位別登録件数



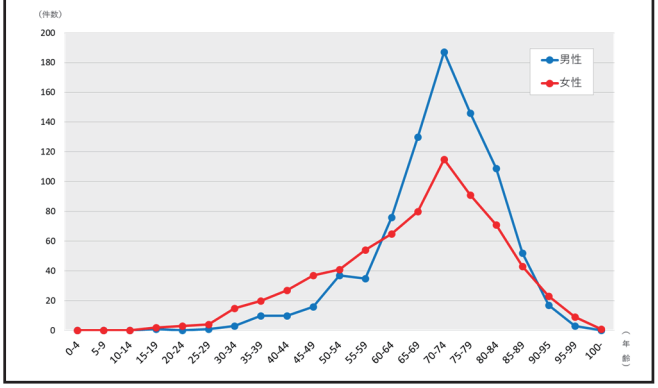

## 全がん　部位別登録件数〔男性〕



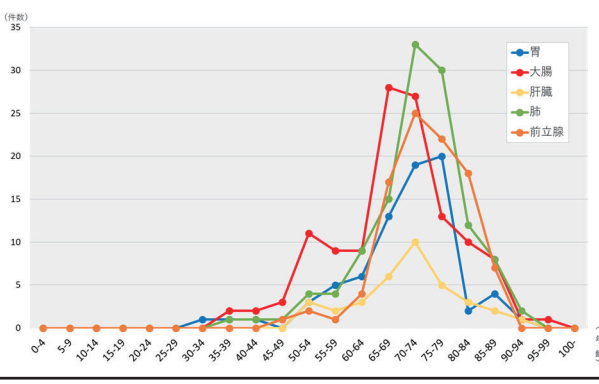

## 全がん　部位別登録件数〔女性〕



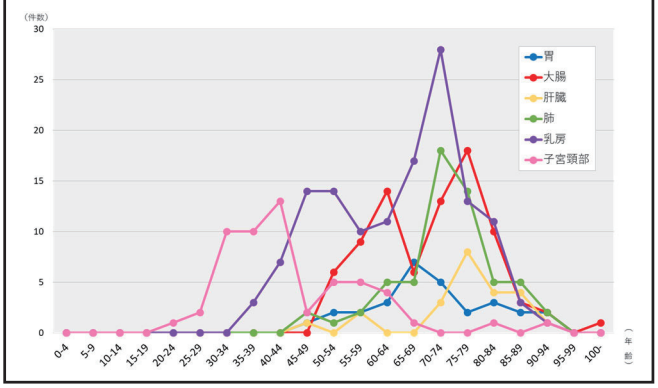

## 全がん　年齢別登録件数

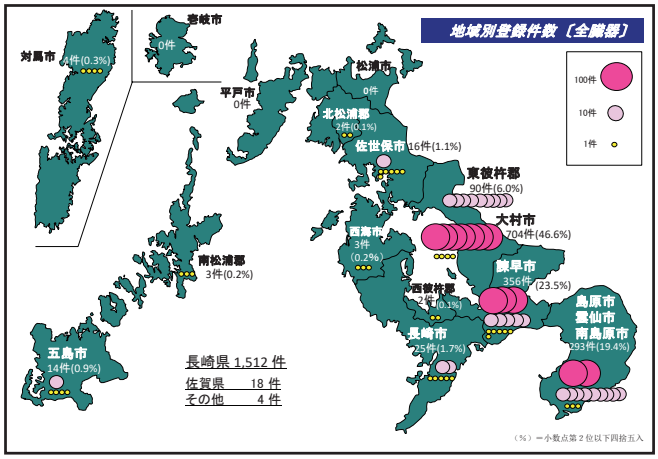


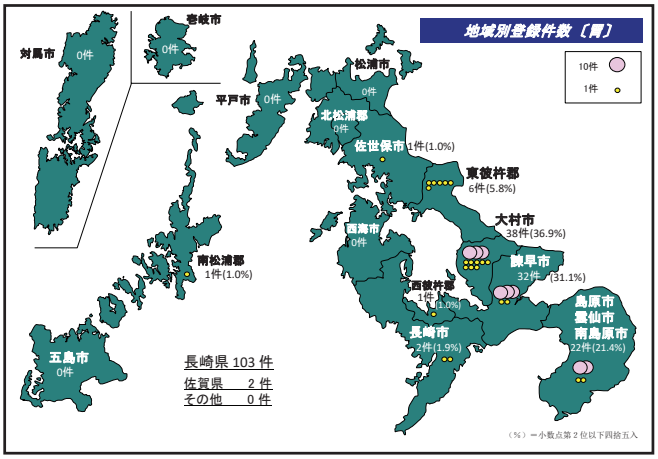

## 年齢別登録件数　〔男性〕

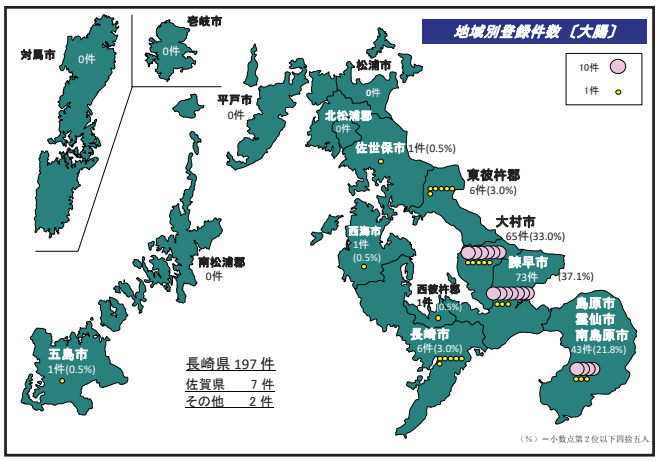


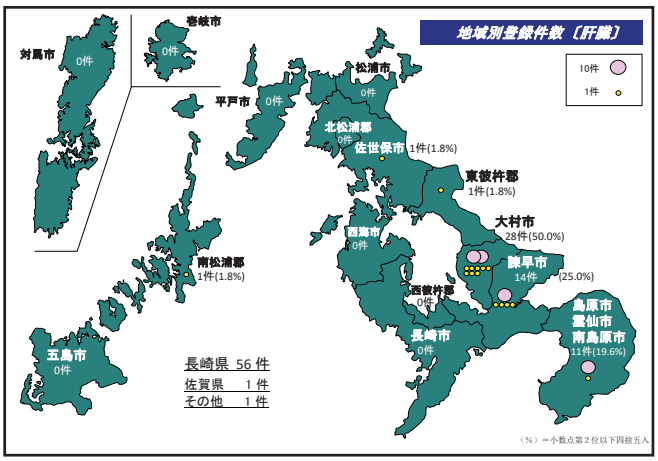

## 年齢別登録件数　〔女性〕

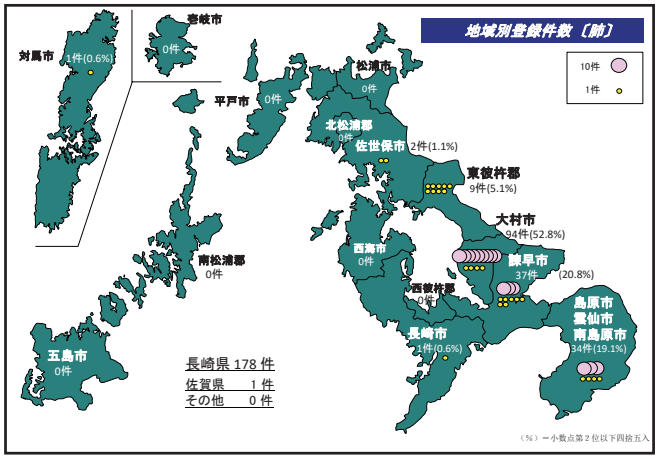


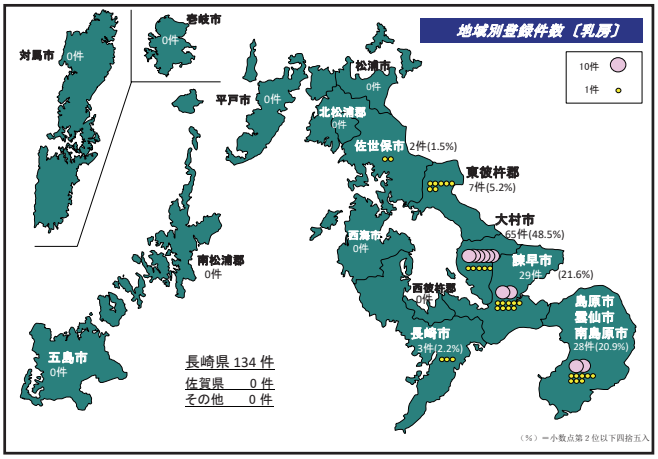

地域別登録件数〔全臓器〕
壱岐市 0件
対馬市 4件(0.3%)
平戸市 0件
松浦市 0件
北松浦郡 2件(0.1%)
佐世保市 16件(1.1%)
東彼杵郡 90件(6.0%)
大村市 704件(46.6%)
西海市 3件(0.2%)
諫早市 356件(23.5%)
南松浦郡 3件(0.2%)
西彼杵郡 2件(0.1%)
島原市 雲仙市 南島原市 293件(19.4%)
長崎市 25件(1.7%)
五島市 14件(0.9%)
100件
10件
1件
長崎県 1,512 件
佐賀県 18 件
その他 4 件
（%）－小数点第２位以下四捨五入


地域別登録件数〔胃〕
壱岐市 0件
対馬市 0件
平戸市 0件
松浦市 0件
北松浦郡 0件
佐世保市 11件(1.0%)
東彼杵郡 6件(5.8%)
大村市 38件(36.9%)
西海市 0件
諫早市 32件(31.1%)
南松浦郡 1件(1.0%)
西彼杵郡 1件(1.0%)
島原市 雲仙市 南島原市 22件(21.4%)
長崎市 2件(1.9%)
五島市 0件
10件
1件
長崎県 103 件
佐賀県 2 件
その他 0 件
（%）－小数点第２位以下四捨五入

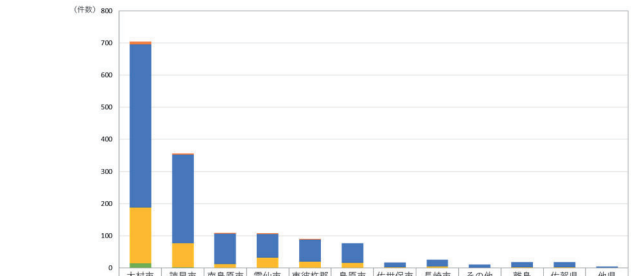

地域別登録件数〔大腸〕
壱岐市 0件
対馬市 0件
平戸市 0件
松浦市 0件
北松浦郡 0件
佐世保市 1件(0.5%)
東彼杵郡 6件(3.0%)
大村市 65件(33.0%)
西海市 1件(0.5%)
諫早市 73件(37.1%)
南松浦郡 0件
西彼杵郡 1件(0.5%)
島原市 雲仙市 南島原市 43件(21.8%)
長崎市 6件(3.0%)
五島市 1件(0.5%)
10件
1件
長崎県 197 件
佐賀県 7 件
その他 2 件
（%）－小数点第２位以下四捨五入


地域別登録件数〔肝臓〕
壱岐市 0件
対馬市 0件
平戸市 0件
松浦市 0件
北松浦郡 0件
佐世保市 1件(1.8%)
東彼杵郡 1件(1.8%)
大村市 28件(50.0%)
西海市 0件
諫早市 14件(25.0%)
南松浦郡 1件(1.8%)
西彼杵郡 0件
島原市 雲仙市 南島原市 11件(19.6%)
長崎市 0件
五島市 0件
10件
1件
長崎県 56 件
佐賀県 1 件
その他 1 件
（%）－小数点第２位以下四捨五入


地域別登録件数〔肺〕
壱岐市 0件
対馬市 1件(0.6%)
平戸市 0件
松浦市 0件
北松浦郡 0件
佐世保市 2件(1.1%)
東彼杵郡 9件(5.1%)
大村市 94件(52.8%)
西海市 0件
諫早市 37件(20.8%)
南松浦郡 0件
西彼杵郡 0件
島原市 雲仙市 南島原市 34件(19.1%)
長崎市 1件(0.6%)
五島市 0件
10件
1件
長崎県 178 件
佐賀県 1 件
その他 0 件
（%）－小数点第２位以下四捨五入

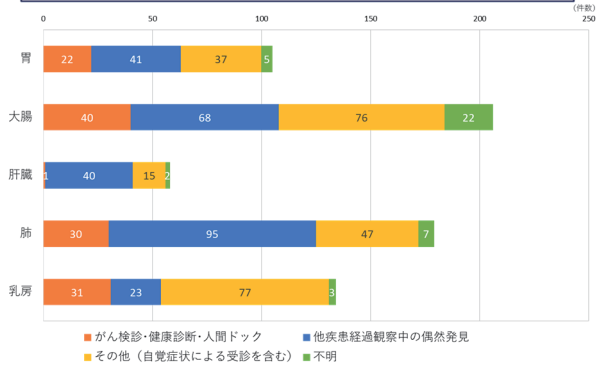

地域別登録件数〔乳房〕
壱岐市 0件
対馬市 0件
平戸市 0件
松浦市 0件
北松浦郡 0件
佐世保市 2件(1.5%)
東彼杵郡 7件(5.2%)
大村市 65件(48.5%)
西海市 0件
諫早市 29件(21.6%)
南松浦郡 0件
西彼杵郡 0件
島原市 雲仙市 南島原市 28件(20.9%)
長崎市 3件(2.2%)
五島市 0件
10件
1件
長崎県 134 件
佐賀県 0 件
その他 0 件
（%）－小数点第２位以下四捨五入

## 来院経路（地域別）

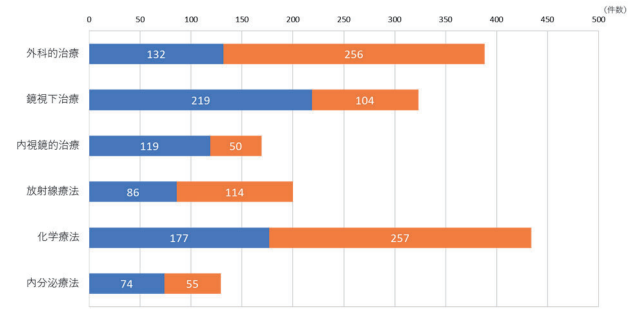


| | 大村市 | 諫早市 | 南島原市 | 雲仙市 | 東彼杵郡 | 島原市 | 佐世保市 | 長崎市 | その他 | 離島 | 佐賀県 | 他県 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自主 | 8 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 紹介（他院より） | 508 | 276 | 95 | 73 | 69 | 60 | 14 | 20 | 9 | 16 | 16 | 3 |
| 他疾患経過観察（当院） | 173 | 74 | 12 | 33 | 20 | 16 | 2 | 4 | 1 | 2 | 2 | 1 |
| その他 | 15 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

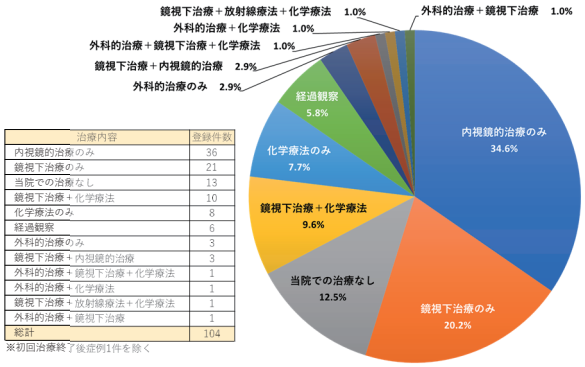
## 発見経緯（5大がん）




## 初回治療方法



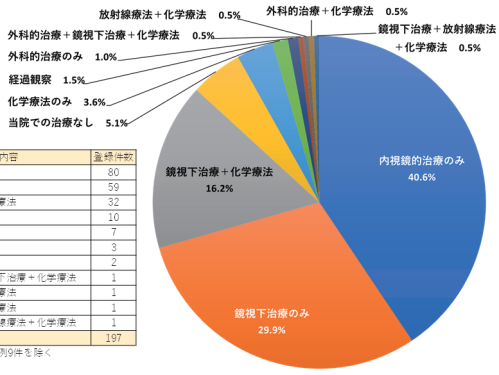

## 胃がん　初回治療内容［2022年診断症例］




| 治療内容 | 登録件数 |
|---|---|
| 内視鏡的治療のみ | 36 |
| 鏡視下治療のみ | 21 |
| 当院での治療なし | 13 |
| 鏡視下治療＋化学療法 | 10 |
| 化学療法のみ | 8 |
| 経過観察 | 6 |
| 外科的治療のみ | 3 |
| 鏡視下治療＋内視鏡的治療 | 3 |
| 外科的治療＋鏡視下治療＋化学療法 | 1 |
| 外科的治療＋化学療法 | 1 |
| 鏡視下治療＋放射線療法＋化学療法 | 1 |
| 外科的治療＋鏡視下治療 | 1 |
| 総計 | 104 |

※初回治療終了後症例1件を除く

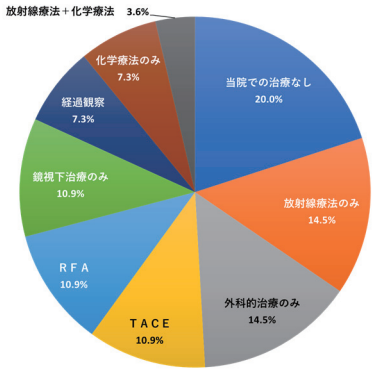
## 大腸がん　初回治療内容［2022年診断症例］




| 治療内容 | 登録件数 |
|---|---|
| 内視鏡的治療のみ | 80 |
| 鏡視下治療のみ | 59 |
| 鏡視下治療＋化学療法 | 32 |
| 当院での治療なし | 10 |
| 化学療法のみ | 7 |
| 経過観察 | 3 |
| 外科的治療のみ | 2 |
| 外科的治療＋鏡視下治療＋化学療法 | 1 |
| 放射線療法＋化学療法 | 1 |
| 外科的治療＋化学療法 | 1 |
| 鏡視下治療＋放射線療法＋化学療法 | 1 |
| 総計 | 197 |

※初回治療終了後症例9件を除く

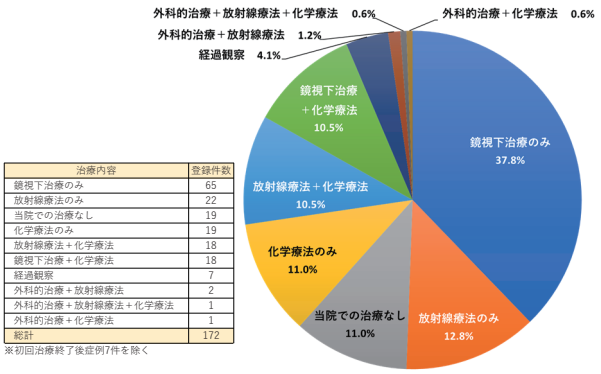
## 肝がん　初回治療内容［2022年診断症例］




| 治療内容 | 登録件数 |
|---|---|
| 当院での治療なし | 11 |
| 放射線療法のみ | 8 |
| 外科的治療のみ | 8 |
| ＴＡＣＥ | 6 |
| ＲＦＡ | 6 |
| 鏡視下治療のみ | 6 |
| 経過観察 | 4 |
| 化学療法のみ | 4 |
| 放射線療法＋化学療法 | 2 |
| 総計 | 55 |

※初回治療終了後症例3件を除く

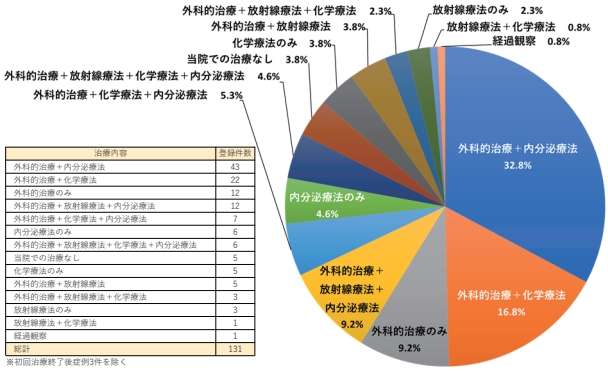
## 肺がん　初回治療内容［2022年診断症例］




| 治療内容 | 登録件数 |
|---|---|
| 鏡視下治療のみ | 65 |
| 放射線療法のみ | 22 |
| 当院での治療なし | 19 |
| 化学療法のみ | 19 |
| 放射線療法＋化学療法 | 18 |
| 鏡視下治療＋化学療法 | 18 |
| 経過観察 | 7 |
| 外科的治療＋放射線療法 | 2 |
| 外科的治療＋放射線療法＋化学療法 | 1 |
| 外科的治療＋化学療法 | 1 |
| 総計 | 172 |

※初回治療終了後症例7件を除く

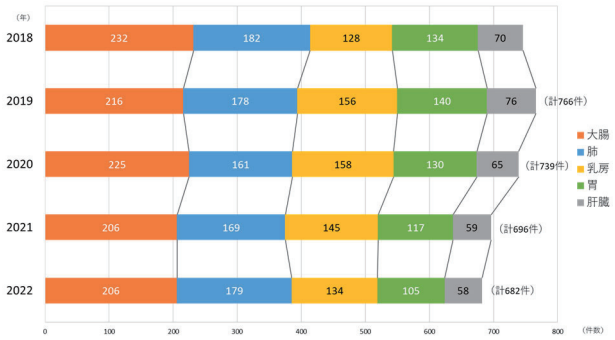
## 乳がん　初回治療内容［2022年診断症例］



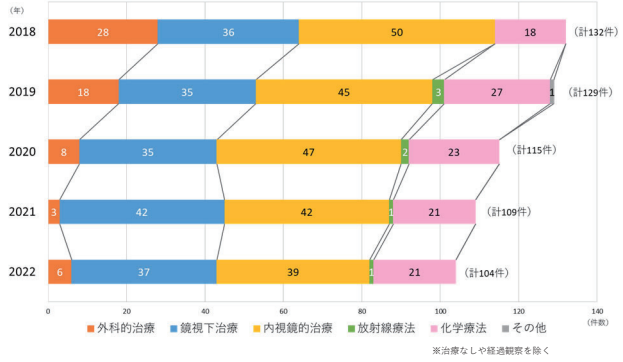

| 治療内容 | 登録件数 |
|---|---|
| 外科的治療＋内分泌療法 | 43 |
| 外科的治療＋化学療法 | 22 |
| 外科的治療のみ | 12 |
| 外科的治療＋放射線療法＋内分泌療法 | 12 |
| 外科的治療＋化学療法＋内分泌療法 | 7 |
| 内分泌療法のみ | 6 |
| 外科的治療＋放射線療法＋化学療法＋内分泌療法 | 6 |
| 当院での治療なし | 5 |
| 化学療法のみ | 5 |
| 外科的治療＋放射線療法 | 5 |
| 外科的治療＋放射線療法＋化学療法 | 3 |
| 放射線療法のみ | 3 |
| 放射線療法＋化学療法 | 1 |
| 経過観察 | 1 |
| 総計 | 131 |

※初回治療終了後症例3件を除く

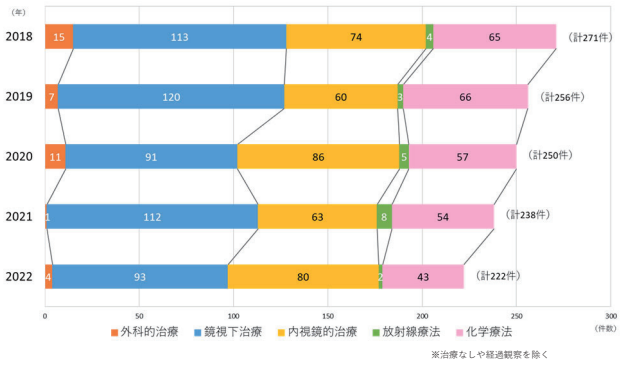
## 登録件数（5大がん）の推移



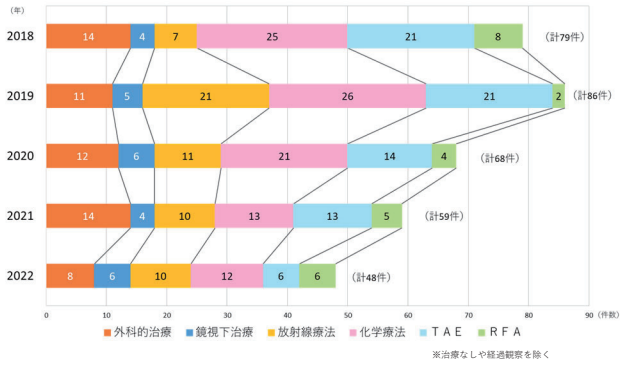

## 初回治療方法（胃）の推移

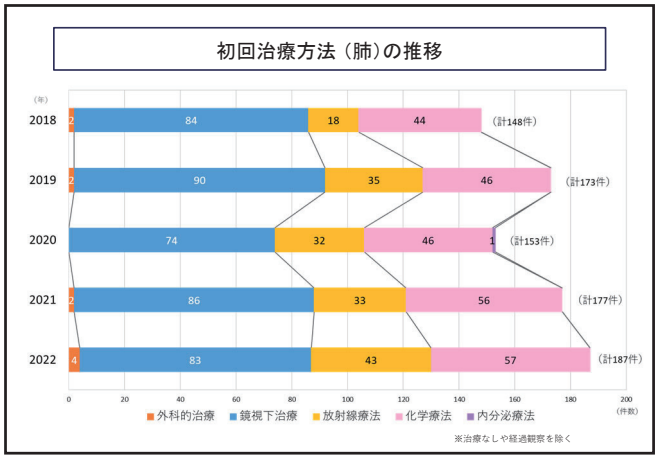


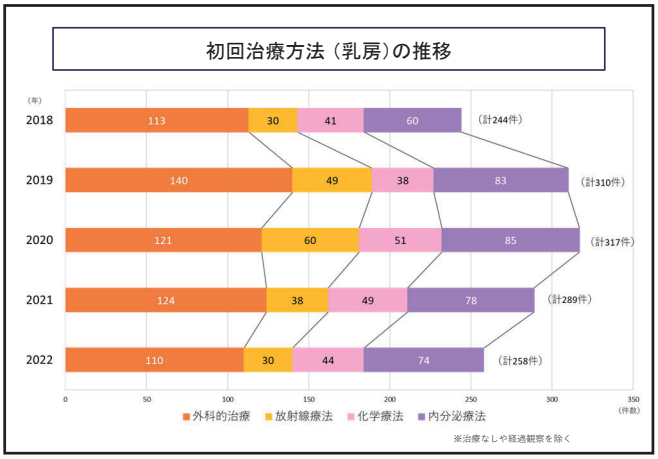

## 初回治療方法（大腸）の推移

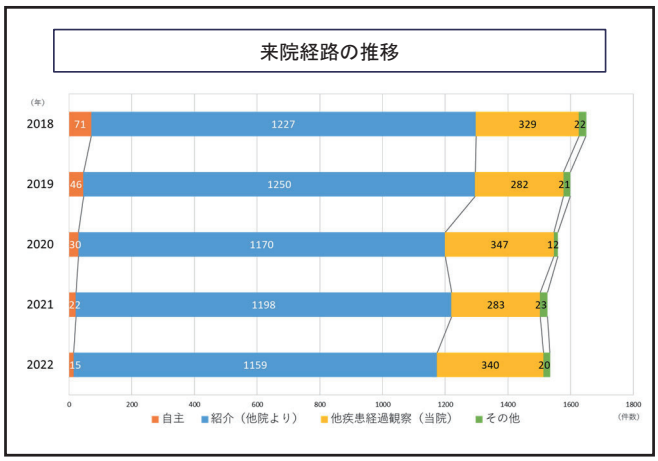


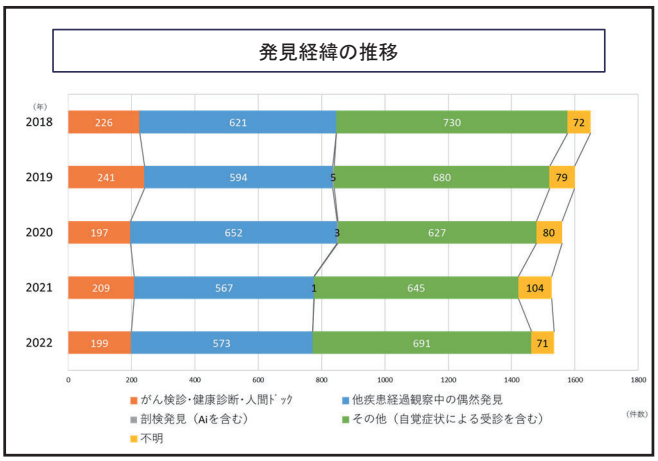

## 初回治療方法（肝臓）の推移




初回治療方法（肺）の推移
（年）
2018
2019
2020
2021
2022
2
84
18
44
（計148件）
2
90
35
46
（計173件）
74
32
46
1
（計153件）
2
86
33
56
（計177件）
4
83
43
57
（計187件）
0
20
40
60
80
100
120
140
160
180
200
（件数）
外科的治療
鏡視下治療
放射線療法
化学療法
内分泌療法
※治療なしや経過観察を除く


初回治療方法（乳房）の推移
（年）
2018
2019
2020
2021
2022
113
30
41
60
（計244件）
140
49
38
83
（計310件）
121
60
51
85
（計317件）
124
38
49
78
（計289件）
110
30
44
74
（計258件）
0
50
100
150
200
250
300
350
（件数）
外科的治療
放射線療法
化学療法
内分泌療法
※治療なしや経過観察を除く


来院経路の推移
（年）
2018
2019
2020
2021
2022
71
1227
329
22
46
1250
282
21
30
1170
347
12
22
1198
283
23
15
1159
340
20
0
200
400
600
800
1000
1200
1400
1600
1800
（件数）
自主
紹介（他院より）
他疾患経過観察（当院）
その他


発見経緯の推移
（年）
2018
2019
2020
2021
2022
226
621
730
72
241
594
5
680
79
197
652
3
627
80
209
567
1
645
104
199
573
691
71
0
200
400
600
800
1000
1200
1400
1600
1800
（件数）
がん検診・健康診断・人間ﾄﾞｯｸ
他疾患経過観察中の偶然発見
剖検発見（Aiを含む）
その他（自覚症状による受診を含む）
不明

# 編　集　後　記

令和５年度で病院の歴史をつくっていただいた病院長の八橋弘先生、事務部長の大門勇作様、色々な部門のレジェンドの方々が勇退されました。

病院長の八橋弘先生は36年間勤務されました。まさに病院の歴史そのものです。事務部長の大門勇作様は28才、48才、58才のときに赴任され、病院を支えていただきました。

濱脇正好先生は診療報酬管理部長、診療情報管理者長として診療報酬とリンクさせた電子カルテの運用について、さまざまな整備を行われました。そのご尽力で病院機能評価、特定共同指導を乗り越えることができました。文書に関してはカルテ開示を念頭に置いた同意書、サイン運用を整備されました。医療者には時に厳しい運用ですが、患者さんの安全を守るため、そして私たち職員を守るために重要なことです。この病院年報に関しては１冊のボリュームは増えましたが、各部門に患者統計を取り入れ、各部門の診療業績を他施設にもわかりやすく、公開できるようにされました。長期にわたり情熱的なご指導をいただき、ありがとうございました。

令和６年度からは病院長に髙山隼人先生が就任されました。長崎医療センターの新たな歴史がはじまります。今年度は診療報酬の大規模改訂への対応、医業収益の改善、そして働き方改革とそれに伴うタスクシフトなど課題はありますが、必ず乗り越えていかなければいけません。新たな力で乗り越えていけると信じています。診療看護師、看護師特定行為など新たな力も着実に育ちつつあります。新たな時代を作るのは新しい力と思います。未来につながる年報づくりをしていきたいと思います。

令和６年４月

診療情報管理室長

本　村　秀　樹

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター

# 年　　報

（2023年）

発　行　日　　令和６年３月

編集・発行　　独立行政法人
国立病院機構 長崎医療センター
〒856-8562　長崎県大村市久原２丁目1001-1
TEL（0957）52-3121　FAX（0957）54-0292

印刷・製本　　株式会社 陽文社
〒812-0893　福岡県福岡市博多区那珂５丁目７番37号
TEL（092）412-7331　FAX（092）412-7332

独立行政法人 国立病院機構